

茨城県教育財団文化財調査報告 XV

竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 7

—— 廻り地 A 遺跡 (上) ——

昭和 57 年 3 月

財団法人 茨城県教育財団

序

龍ヶ崎市北部地域における竜ヶ崎ニュータウンの建設は、住宅・都市整備公団によって進められており、建設地域内の埋蔵文化財包蔵地等の発掘調査は、昭和52年度より茨城県教育財団によって実施され、現在に至っております。

これまでに刊行された竜ヶ崎ニュータウン建設地内の発掘調査報告書は、この地域の貴重な資料を多く提示しております。

本書は、昭和54年度から昭和55年度にかけて発掘調査が実施された廻り地A遺跡の調査成果を集録したものであります。縄文時代の集落遺跡である廻り地A遺跡から発見された多くの資料は、茨城県の原始時代を究明するにあたって資するものが多いと考えます。その意味からも、本書がより多くの方々に御活用いただけるよう希望いたします。

発掘調査および整理期間中には茨城県教育委員会、龍ヶ崎市教育委員会、住宅・都市整備公団をはじめ関係各機関の御協力と御指導をいただき、ここに厚くお礼申し上げます。

昭和57年 3 月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 大 金 新 一

例 言

1. 本書は、住宅・都市整備公団（昭和56年10月1日 宅地開発公団と日本住宅公団との統合により改組）と茨城県教育財団との委託契約に基づいて、昭和54年度から昭和55年度にわたって実施された龍ヶ崎市馴馬町所在廻り地A遺跡の発掘調査報告書である。

2. 廻り地A遺跡の調査にかかわる茨城県教育財団の組織は次のとおりである。

理事長	竹内 藤男（茨城県知事 昭和52年4月～昭和56年11月） 大金 新一（昭和56年12月～ ）
副理事長	古橋 靖（茨城県教育長 昭和54年7月～ ）
常務理事	川野辺四郎（昭和52年4月～ ）
事務局長	大内 秀夫（昭和52年4月～昭和55年3月） 小林 義久（昭和55年4月～ ）
調査課長	川俣吉之助（昭和52年4月～昭和55年3月） 大塚 博（昭和55年4月～昭和56年3月） 寺内 寛（昭和56年4月～ ，昭和53・54年度調査第2班々長）
企画管理班	坪 秀雄（昭和53年4月～ ，班長） 鈴木 三郎（昭和52年4月～ ） 海野 孝志（昭和53年4月～昭和56年3月） 綿引 良人（昭和56年4月～ ）
調査第2班	青木 義夫（昭和55年度班長，昭和56年度整理班々長） 佐野 正（昭和54・55年度廻り地A・成沢遺跡調査） 中沢 時宗（昭和55年度廻り地A・成沢遺跡調査） 瓦吹 堅（昭和54・55年度廻り地A遺跡調査 昭和56年度整理・執筆） 桜井 二郎（昭和55年度廻り地A遺跡調査 昭和56年度整理・執筆） 高村 勇（昭和56年度整理・執筆） 豊田 重徳（昭和54年度調査補助員）

3. 本書は、瓦吹堅・桜井二郎・高村勇が分担して執筆し、瓦吹が総括した。また、貝類遺体・魚類遺体・獣類遺体等の同定にあたっては、東京大学総合研究資料館赤澤威助教授、貝類遺体の放射性炭素年代測定は学習院大学年代測定室木越邦彦教授、種子類遺体の同定は名古屋大学

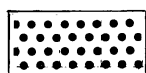
考古学研究室渡辺誠助教授，岩石等の鑑定は茨城県立教育研修センター蜂須紀夫氏よりそれぞれ御指導を得た。

4. 遺構の規模などの計測値はすべて遺構検出面からの計測値であり，基準標高についてはそれぞれ図中に表示した。また，主軸方向については座標北を中心に測定した。

5. 出土遺物の解説表中において，出土地のⅠ・Ⅱ……は層位をあらわし，備考中などの1×・2×は1区・2区覆土の略号であらわした。

6. 土層解説の色調については，『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修）を用い，実測図中に記号で表示し，別に解説を記載した。

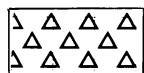
7. 遺構実測図中においては，炉跡・焼土・貝層など下記のスクリーントーンで表示した。



炉跡



焼土



貝層

8. 廻り地A遺跡の発掘調査および整理・執筆に際して御協力・御指導を賜った関係諸機関や多くの研究者各位に深く感謝の意を表したい。

目 次

序

例 言

目 次

第1章 はじめに	1	第4章 ま と め	509
遺跡の環境.....	1	1 遺 構.....	509
調査法と調査経過.....	3	2 遺 物.....	516
第2章 遺 構	7	3 廻り地 A 遺跡の変遷.....	520
1 住 居 跡.....	7	4 廻り地 A 遺跡のテリトリー.....	523
2 土 壙.....	94	写真図版.....	527
3 貝 塚.....	259	住 居 跡.....	531
4 埋設土器.....	277	土 壙.....	602
5 方形周溝墓.....	282	遺 物.....	647
第3章 遺 物	287		
第1節 人工遺物.....	287		
土 器.....	287		
1 住 居 跡.....	287		
2 土壙・貝塚.....	295		
3 埋設土器.....	307		
4 方形周溝墓.....	309		
土 製 品.....	456		
石 製 品.....	463		
骨角器 貝製品.....	468		
第2節 自然遺物.....	488		
1 貝類遺体.....	488		
2 魚類遺体.....	504		
3 その他の遺存体について.....	508		

第1章 はじめに

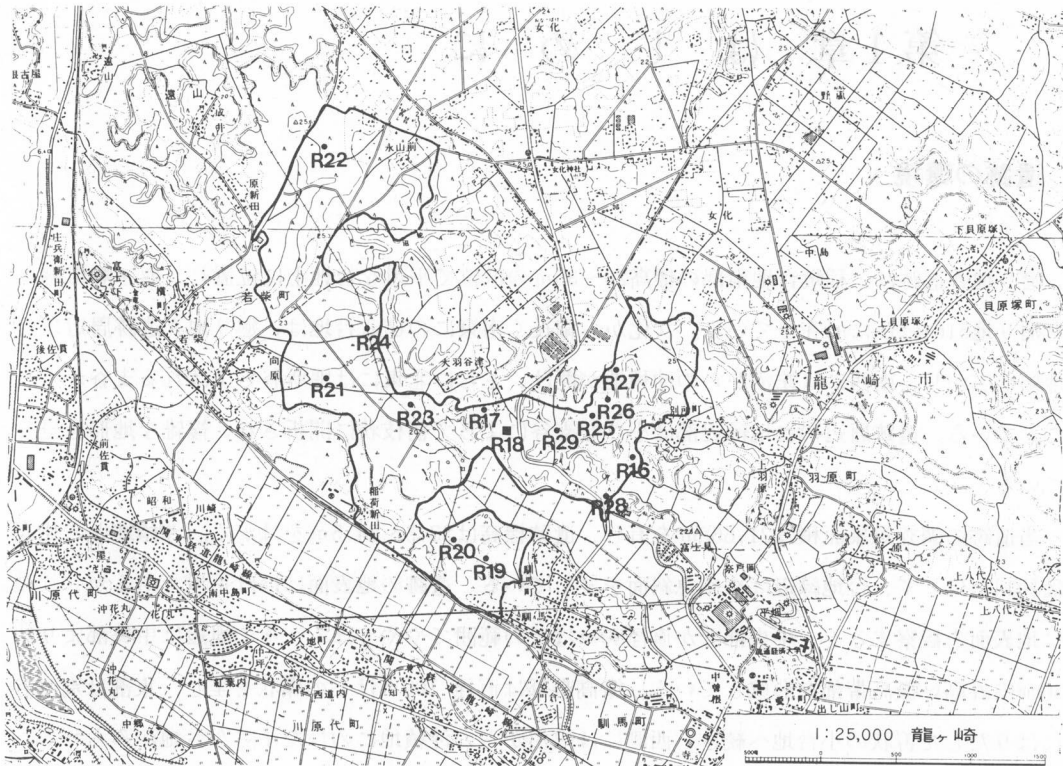
遺跡の環境

廻り地A遺跡は、稲敷台地南部の標高20～30mの低位で平坦な台地上に位置し、龍ヶ崎市馴馬町廻り地5164ほかに所在している。女化から細長く南東にのびる台地は、廻り地A遺跡周辺で台地幅が広がり、南西には蛇沼からの沖積地が開け、さらに北東には別所谷とよばれる支谷が入りこんでいる。遺跡周辺の台地縁辺部は小さな支谷によって樹枝状に開析され、複雑な地形を呈している。

当遺跡の調査対象面積は21,668㎡を有し、遺跡標高は23.5～24.5mをはかる。沖積地との比高は約14mほどで、台地縁辺はやや急斜面を呈している。遺跡の地表面はほぼ平坦であるが、詳細に地表面を観察すると、中央部分が直径80mほどの範囲でややくぼみ、その周辺は中央部より約50cm内外高い微高帯部を形成している。微高帯部は直径100mほどの環状を呈し、東部は別所谷にはりだした舌状の小台地へ続き、西側には蛇沼からの沖積地にのびた小さな台地がみられる。調査前の遺跡の現況は山林であり、戦時中に一部が開墾されたといわれ、立木伐開時に地表面から土器片が多く採集された。その分布は環状の微高帯部に多くみられ、中央のくぼみ部分にはほとんど検出されていない。

別所谷周辺の遺跡群について、学史的にみると、明治20年代に霞ヶ浦周辺の貝塚群踏査の際、中央の多くの学者が立ち寄り、遺跡・遺物などについて紹介している⁽¹⁾。この遺跡群の中で廻り地A遺跡は、地元の研究者間で大羽谷津遺跡と呼称されていた遺跡であり、戦時中にはすでに貝塚の存在が知られていた。縄文時代の遺跡を中心にみれば、当遺跡の南東には昭和56年に発掘調査が実施された仲根台遺跡が位置し、さらに別所谷をはさんだ台地上には、昭和43年11月に西村正衛氏によって発掘調査された中～後期の向地貝塚群（A～D）が点在している⁽⁴⁾。蛇沼からの沖積地をはさんだ若柴側の台地上には中期に編年される赤松遺跡があり、ほぼ環状に分布する住居跡群と袋状土壇群が検出されている⁽⁵⁾。そのほかの時代の遺跡は、廻り地A遺跡の北に隣接して古墳時代前期の大羽谷津遺跡があり、赤松遺跡の南東には先土器時代・古墳時代前期の沖餅遺跡が位置している⁽⁶⁾⁽⁷⁾。

龍ヶ崎市北部台地上には、このように多くの遺跡が分布し、廻り地A遺跡周辺の縄文遺跡からみても地域的に遺跡の時代的変遷を追うことができる。さらに、この地域においても縄文時代中～後期前半の集落規模の拡大が看取され、遺跡分布の濃厚な地域というばかりでなく、地域研究の場としてもっとも適した地域のひとつといえる（第1図）。



第1図 遺跡分布図

番号	遺跡名	所在地	種類	時代	発掘調査	備考
R16	行部内遺跡	別所町行部内	集落跡・貝塚	縄文	現状保存	
R17	大羽谷津遺跡	若柴町大羽谷津	集落跡	古墳	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R18	廻り地A遺跡	駒馬町廻り地	集落跡	縄文・古墳	昭和54・55年度調査	昭和56年度整理・報告書刊行
R19	平台遺跡	駒馬町平台	集落跡	縄文・古墳	昭和56年度調査	
R20	成沢遺跡	駒馬町成沢	集落跡	縄文・古墳	昭和55年度調査	昭和56年度整理・報告書刊行
R21	松葉遺跡	若柴町松葉	集落跡・塚群	古墳・中世以降	昭和52年度調査	昭和53年度整理・報告書刊行
R22	庚申塚遺跡	若梨町庚申塚	集落跡	縄文・古墳	消滅	
R23	沖餅遺跡	若柴町沖餅	集落跡	先・縄文・古墳	昭和53年度調査	昭和54年度整理・報告書刊行
R24	赤松遺跡	若柴町赤松	集落跡	縄文・古墳・近世	昭和53・54年度調査	昭和54年度整理・報告書刊行
R25	打越A遺跡	別所町打越	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R26	打越C遺跡	別所町打越	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R27	ウツブタ遺跡	別所町ウツブタ	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R28	仲根台塚群	駒馬町仲根台	塚(1.2.3号)群	縄文・中世以降	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
	仲根台B塚群	"	塚(4.5.6号)群		昭和56年度調査	
	仲根台B遺跡	"	集落跡	縄文	昭和56年度調査	
R29	廻り地B遺跡	駒馬町廻り地	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行

調査法と調査経過

廻り地A遺跡の地形的な特徴については前述したが、調査対象面積は21,668㎡ほどで、東西約270m・南北最大幅約100mほどの山林が遺跡である(第2図)。調査法は、区域内の立木伐開後、座標北方向に40m四方の大調査区を設定し、さらに4m四方の小調査区に分割した。

大調査区名称は、北から南へ「A」・「B」・「C」……、西から東へ「1」・「2」・「3」……とした。小調査区名称は北から南へ「a」・「b」・「c」……「i」・「j」、西から東へ「1」・「2」・「3」……「9」・「0」とし、各小調査区名称は大調査区と小調査区を合わせた4桁で「A1a1」・「B1a0」のように表示した。

当遺跡の調査区の発掘は、第I段階として25%の割合で対象地域内全体を調査し、遺物・遺構の検出状況に応じて拡張する計画で進め、調査区および遺構の調査は分層発掘を原則とした。住居跡の調査は四分法で実施し、記録の行程は土層断面写真撮影→土層断面図作成→平面写真撮影→断面図作成→平面図作成を基本とし、遺構の特徴などによって出土遺物については原位置論的調査法を採用した。土壌の調査は長軸で二分割する二分法を用い、そのほかは住居跡の調査法に準じた。貝塚の調査は、基本的に調査区分割の基準線をもとに50cm四方の貝採取用区割をし、水平基準から5cmごとに分層して収納した。また、小さな貝ブロックについては二分法を適用した。

第I段階の調査の結果、遺跡の西側地区に遺構・遺物が集中して検出され、東側地区にはほとんど検出されず、西側地区の表土全面を除去して遺構を検出し、検出順に遺構番号をつけて調査を進めた。基本的には大調査区ごとに番号化する方法をとったが、遺構の複合が激しく、調査中に新旧関係を明確にしえないものも含まれた。

廻り地A遺跡の発掘調査は、昭和54年9月下旬から諸準備を開始し、10月1日から実施した。はじめに遺跡全体の調査区分割をし、さらに地表面に散在している土器片を小調査区ごとに採集して収納した。その結果からみると、前述のように東側地区にはほとんどみられず、西側地区のB2・C3・C4・B4区を中心に分布が認められ、中央部の環状微高帯部に多く分布していることが判明した。

西側地区の第I段階の調査結果は、表面採集段階で遺物が多く採集された部分と同じ地区から多くの遺物・遺構が確認され、B2・B4区においては貝ブロックが数か所検出された。西側地区全域にわたって遺構・遺物が確認されたことによって、全域の表土除去を計画したが、排土置場などの関係からB4区を集中して調査し、排土置場として利用すべく計画を変更した。集中して調査したB4区からは、予想のとおり多くの遺構・遺物が検出され、B4区以外の調査区から確認される



第2図 廻り地A遺跡地形図

であろう遺構との関係を見るために排土置場として利用することは中止した。B4区の遺構調査は昭和54年度後半のほとんどを費した。

B4区では北西から南東方向の幅40mほどの範囲に遺物が集中して出土し、表土下10cmほどで20～30cmの遺物包含層となり、表土除去作業は遺構調査と並行して行われ、西側のやや低くなる部分では遺構・遺物ともやや少なることが判明した。

昭和54年度に調査されたB4区において検出された遺構数は、住居跡約20軒・土壇約150基で、貝塚も10地点ほど発見された。また、単独で埋置された埋設土器も5か所以上確認され、地区全体の遺物量も豊富であった。

昭和55年度は4月初旬から調査を再開し、B4区の補足調査とC4区の表土除去作業と並行して実施した。C4a0を中心にやや規模の大きい第1貝塚（SM1）が確認され、遺構・遺物の濃厚に分布する部分は北東から南西方向にみられ、B4区とは異なる方向を示していることが判明した。D4・D5区は南部に位置する調査区であるが、第1段階の調査の結果、遺構・遺物が極めて少ないので、排土置場として利用することとし、排土置場の確保によって周辺部の排土がほとんど処理できた。

C4区においても遺構の複合が多くみられ、とくにB4区との境界区域に顕著であり、SM1などの貝塚調査には時間を要した。貝層下には住居跡・土壙等が確認され、これらの遺構もかなり複合していた。

C4・C5区の調査後、D3・C3・C2区と順に表土除去し、表土除去と並行して遺構の調査を進めた。C3区周辺では北西から南東方向に遺構が多く検出され、既調査地区の遺構分布と連結して円形状に遺構分布が認められた。環状に分布する遺構群は、微高帯部とほぼ一致し、貝塚の分布もこのフラットな微高帯部に認められ、B2区においても遺構・遺物が多く検出されることが予想された。

C3区周辺の表土除去作業終了後、B3区の表土除去作業を進め、遺構調査も並行して実施した。遺構・遺物の分布はB4区と同様に調査対象区域外にのび、南部はそれほど遺物の出土量は多くなく、地表面もやや低い。このB3区で調査された遺構は土壙が多く、縄文時代に編年される土壙は少なく、広場的なものと考えられる。

表土除去作業はB3区からB2区へ移り、さらにA2・A3区と進めた。当遺跡中もっとも高いB2区とC2区の接点部で方形周溝墓4基が確認され、昭和54年度に調査された大羽谷津遺跡との関連が示唆された。縄文時代の遺構は方形周溝墓によって一部攪乱をうけ、B2区には小貝塚が多く点在し、B2区のほぼ中央部に第2貝塚（SM2）が発見された。A2・A3区においても遺構が多く、調査対象区域外にのびていることが予想された。

遺跡全体の遺物出土が多い部分を概略的にみれば、前述のようにB4・C4・C3・C2・B2・A2区を結ぶ幅40mほどの環状部分で、遺構の分布や貝塚の分布と合致し、中央部のB3区周辺はその地区からくらべると遺構・遺物の確認される数もはるかに少ない。また、この中央部には住居跡がまったく確認されず、中央広場として利用していたものと考えられる。

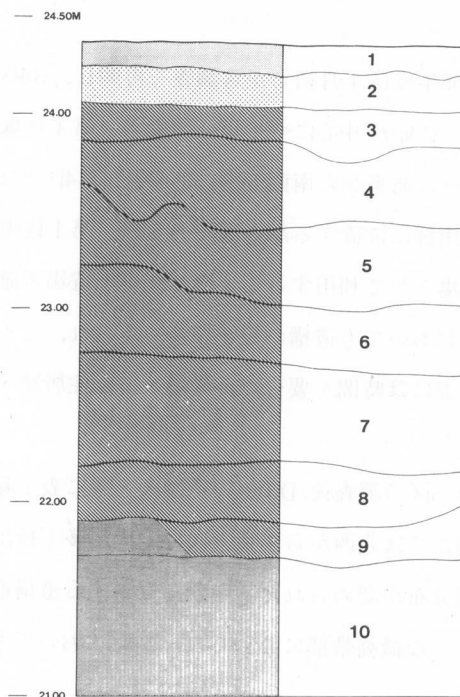
東側地区のB5・B6・C5・C6区は、西側地区との関連を考慮して表土除去し、遺構の検出を進めた。しかし、遺構の分布は希薄であり、遺物の出土量もきわめて少ないものであった。

遺構調査は全体的に大調査区の表土除去後に実施し、B3区の方形周溝墓の調査は縄文時代の遺構に先行して実施した。しかし、方形周溝墓の主体部は確認することはできなかった。

SM2の調査は、前述したように50cm四方の区分割で実施し、そのほかの小貝塚の調査とあわせて約6か月の日数を費した。

昭和54年10月から昭和56年3月まで18か月にわたる廻り地A遺跡の調査は、多くの貴重な埋蔵文化財を発見し、茨城県の縄文時代集落研究に重要な資料を提示した。

廻り地A遺跡の基本的層序についてみれば、1は表土層で15cmほどの厚さを有している。2は15~20cmほどの暗褐色土層で、B3区周辺部においては2層がみられない部分もある。3~9までの間はローム層で厚さは2.3mほど有している。ローム層は色調や含有物の相違および粘性などによって細分したが、9は粘土粒子の混入が多くみられ、ローム層から粘土層への漸移層と考えられる。最下層は粘土層で、上層には鉄分を含み、この粘土層下は礫層と考えられる(第3図)。



土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 Hue 7.5YR5/2 褐色 表土層 | 8 Hue 10YR5/2 黄褐色 粘性を有する。 |
| 2 Hue 7.5YR3/2 暗褐色 | 9 Hue 10YR5/2 灰黄褐色 ローム小ブロック、カーボン状のもの(少)灰や粘土粒子(少)を含む。 |
| 3 Hue 10YR5/2 黄褐色 ローム、部分的に礫粒が入る。地は固い。 | 10 Hue 10YR5/2 褐色 粘土層上面に鉄分を含み、褐色土が混入する。 |
| 4 Hue 10YR5/2 褐色 ローム(ハード)ローム暗褐色土の混入あり。 | |
| 5 Hue 10YR5/2 黄褐色 ローム。 | |
| 6 Hue 10YR5/2 褐色 ローム。 | |
| 7 Hue 10YR5/2 黄褐色 ローム、小ブロック状の粒子を含む。 | |

第3図 廻り地A遺跡土層柱状図

引用文献

- (1) 川角寅吉「常陸竜ヶ崎近傍の石世遺跡」『東京人類学会雑誌』9-92 明治26年
八木英三郎「常陸別所小形磨石斧」『東京人類学会雑誌』13-139 明治30年
- (2) 茨城県教育委員会『茨城県における開発区域遺跡分布調査報告(1)-石岡市・竜ヶ崎市・北相馬郡守谷町-』昭和46年
- (3) 仲根台遺跡の調査は、昭和56年度、当教育財団によって実施され、住居跡・土壇のほか小貝塚も調査されている。時期は縄文時代後期を主体としたものである。
- (4) 西村正衛「向地貝塚」『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県 昭和54年
- (5) 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書4-赤松遺跡-』茨城県教育財団 昭和55年
- (6) 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書5-前清水遺跡・大羽谷津遺跡・打越A遺跡・打越C遺跡・中根台塚群・廻り地B遺跡-』茨城県教育財団 昭和56年
- (7) 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書3-沖餅遺跡-』茨城県教育財団 昭和55年

第2章 遺構

本遺跡から検出された遺構は、住居跡 126軒・土壇1877基（貝類の投棄がみられるものも含む）・貝塚87か所・埋設土器25基・方形周溝墓4基である。各遺構については、それぞれの種類別ごとに説明を加え、また、それらの遺構から出土している遺物については第3章において記述する。また、住居跡・土壇（埋設土器を含む）・貝塚は、SI・SK・SMで表現した。

本遺跡の調査による土層観察は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局）を使用し、その後、整理の段階で土層を次のように番号化し、報告図版中に番号を記載した。

1 褐色土	Hue7.5YR $\frac{4}{3}$ ・ $\frac{4}{4}$ ・ $\frac{4}{6}$		a	ローム粒子を少量混入
2 暗褐色土	Hue7.5YR $\frac{3}{3}$ ・ $\frac{3}{4}$		a'	ローム粒子を中量混入
3 黒褐色土	Hue7.5YR $\frac{3}{1}$ ・ $\frac{3}{2}$ ・ $\frac{3}{2}$		a''	ローム粒子を多量混入
4 黒色土	Hue7.5YR $\frac{2}{1}$ ・ $\frac{1}{1}$		b	ローム小ブロックを少量混入
5 極暗褐色土	Hue7.5YR $\frac{2}{3}$		b'	ローム小ブロックを中量混入
6 明褐色土	Hue7.5YR $\frac{5}{6}$ ・ $\frac{5}{6}$		b''	ローム小ブロックを多量混入
7 黄褐色土	Hue7.5 Y $\frac{5}{3}$ ・ $\frac{5}{4}$ ・ $\frac{5}{6}$		c	ロームブロックを少量混入
8 明黄褐色土	Hue 10YR $\frac{6}{6}$ ・ $\frac{6}{6}$		c'	ロームブロックを中量混入
9 灰褐色土	Hue7.5YR $\frac{5}{2}$ ・ $\frac{5}{2}$ ・ $\frac{4}{2}$		c''	ロームブロックを多量混入
10 にぶい褐色土	Hue7.5YR $\frac{6}{3}$ ・ $\frac{5}{3}$ ・ $\frac{5}{4}$		d	ローム粒子・小ブロック(ブロック)を少量混入
11 赤褐色土	Hue 5YR $\frac{4}{6}$ ・ $\frac{4}{6}$		d'	ローム粒子・小ブロック(ブロック)を中量混入
	Hue2.5YR $\frac{3}{3}$ ・ $\frac{3}{4}$		d''	ローム粒子・小ブロック(ブロック)を多量混入
12 暗赤褐色土	Hue 5YR $\frac{5}{2}$ ・ $\frac{3}{3}$ ・ $\frac{3}{4}$ ・ $\frac{3}{6}$		e	ローム粒子・焼土・炭化粒子を微量混入
13 赤色土	Hue 10 R $\frac{4}{6}$ ・ $\frac{4}{8}$ ・ $\frac{5}{6}$		e'	ローム粒子・焼土・炭化粒子を少量混入
14 暗赤褐色土	Hue 10 R $\frac{5}{2}$ ・ $\frac{3}{3}$		e''	ローム粒子・焼土・炭化粒子を中量混入
15 極暗褐色土	Hue 5YR $\frac{5}{2}$ ・ $\frac{2}{3}$ ・ $\frac{2}{4}$	f	焼土・炭化粒子を少量混入	
		f'	焼土・炭化粒子を中量混入	
		f''	焼土・炭化粒子を多量混入	
		g	ローム	
		h	灰	
		i	粘土	
		j	砂	
		k	攪乱	
		s	貝少量混入	
		s'	貝中量混入	
		s''	貝多量混入（純貝層）	

1. 住居跡

本遺跡から検出された住居跡は 126軒であり、各住居跡の説明文中では、a 位置・b 規模・c 各部の状況・d 覆土および遺物出土状況の順で記述した。

第1号住居跡（第4図） 遺物（第195図）

- a 調査区の北東部（A5i2・b2）に位置し、他の住居跡と比較して外辺部にみられる。
- b $(2.65) \times 4.36\text{m}$ 東半部分は区域外にのび、平面形は楕円形状と考えられる。
- c 壁高は16～27cmで外反ぎみに立ちあがり、床はほぼ平坦であるが部分的に攪乱がみられる。炉跡はほぼ中央に位置すると考えられ、円形状で20cmほど皿状に掘られ、内部には焼土が充満している。柱穴は壁沿いに11か所と炉跡の南に1か所確認されている。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は少量であるが住居跡の北より中央部にかけての覆土中より出土している。

第2号住居跡（第4図） 遺物（第195・196図）

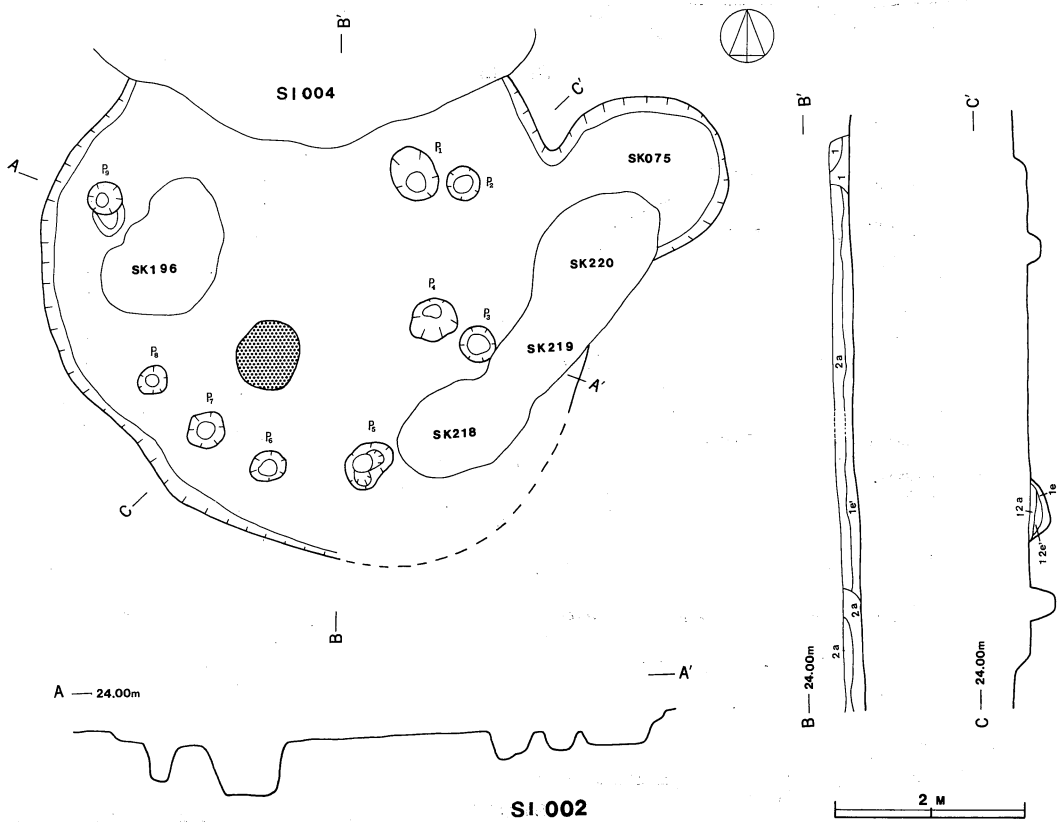
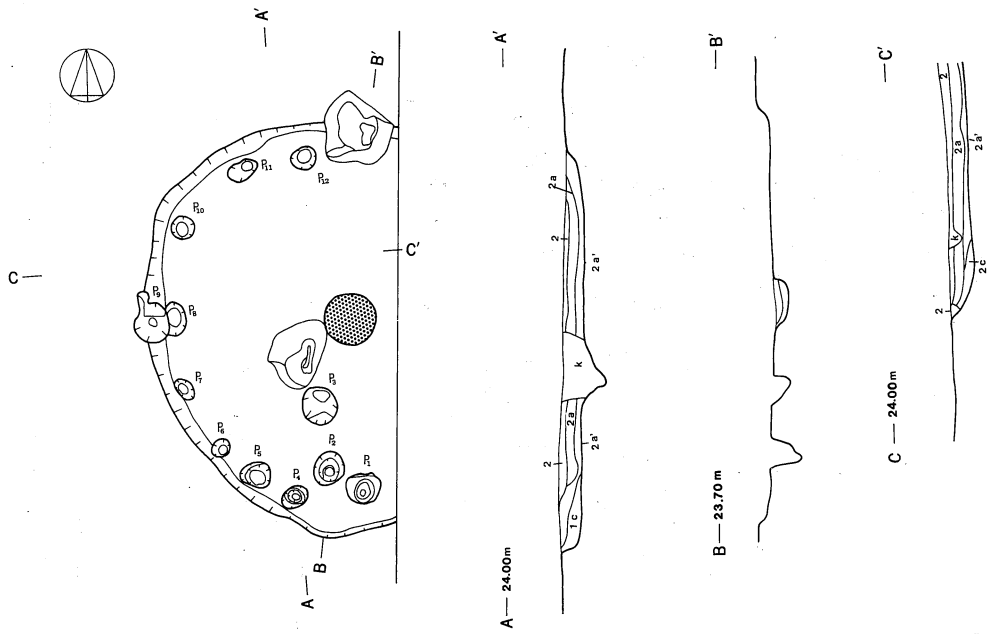
- a 調査区の北東部（B4d8・d9）に位置し、SI004・020などと重複している。
- b $5.98 \times 5.6\text{m}$ 平面形は楕円形状を呈し、長軸方向は $N-32^{\circ}-W$ をさす。
- c 壁高は10～16cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、東側はSK075などの土壌と複合している。炉跡は床の南東にみられ、楕円形を呈し、皿状に焼土が充満している。柱穴は9か所にみられ、北側はSI004によって切られている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北部の覆土中に多く出土している。

第3号住居跡（第5図） 遺物（第197図）

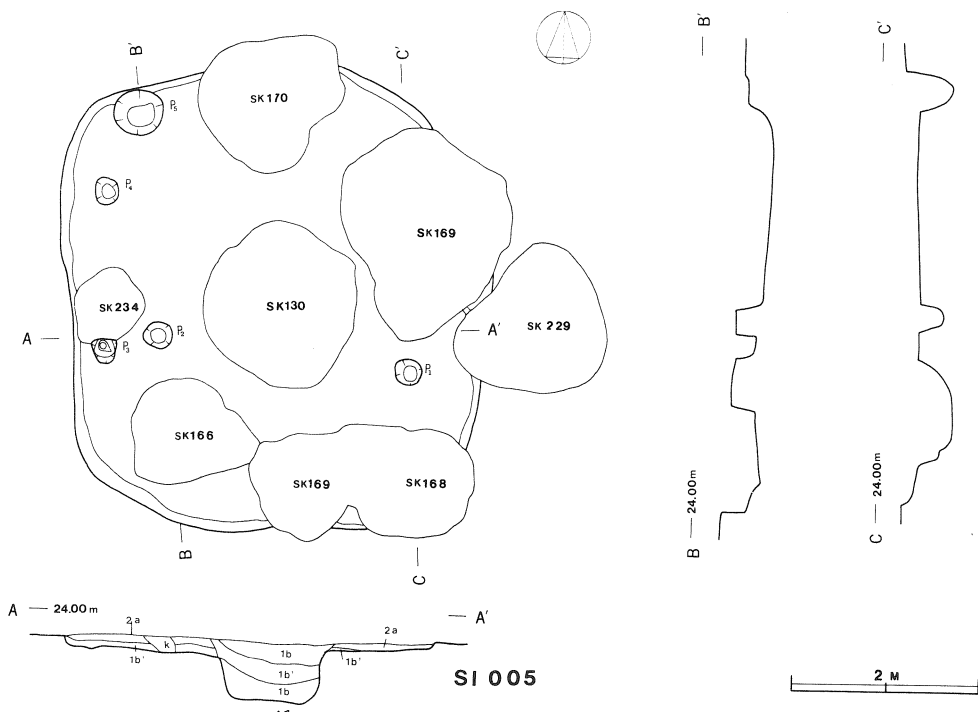
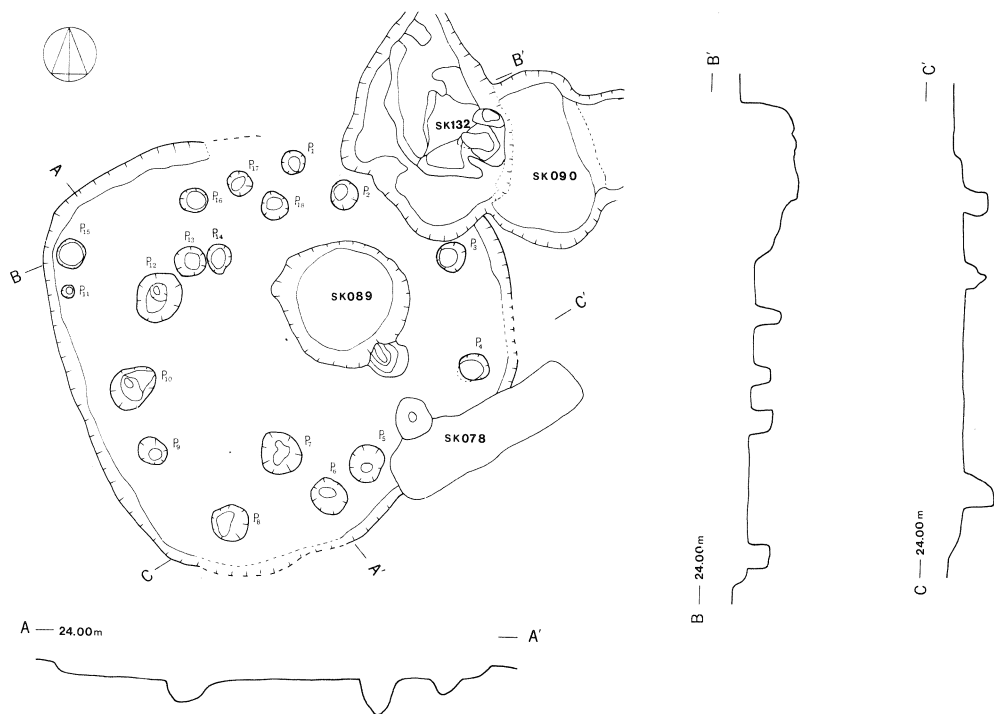
- a 調査区の北東部（B4e8・e9）に位置し、北側にSI002が隣接している。
- b $4.79 \times 4.54\text{m}$ 平面形は隅丸方形形状を呈し、長軸方向は $N-68^{\circ}-E$ をさす。
- c 壁高は10～15cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央部にSK089が複合し、炉跡は確認されていない。柱穴は壁の周辺に17か所ほど確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は床の北側および南西側の覆土中に出土している。

第4A号住居跡（第6図）

- a 調査区の北東部（B4b8・b9）に位置し、南半部分にSI004Bが重複している。
- b $5.52 \times 5.07\text{m}$ 平面形は楕円形状を呈している。
- c 壁高は11～22cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦であり、中央東よりに楕円形状の炉跡がみられる。柱穴は13か所に確認され、 $P_7 \cdot P_8$ は入口部の施設と考えられる。北側は攪乱を受けている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどがSI004Bに投棄されたものである。



第4图 第1·2号住居迹实测图



第5图 第3·5号住居跡実測图

第4B号住居跡（第6図） 遺物（第197～199・205図）

- a 調査区の北東部（B4b8・c9）に位置し、SI 004A・002を切って構築されている。
- b $6.2 \times 6.17\text{m}$ 平面形は楕円形状を呈し、主軸方向は $N-23^{\circ}-E$ をさす。
- c 壁高は16～26cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、炉跡は中央のやや南西にみられ、入口部付近に位置する。柱穴は壁沿いに23か所みられ、柱間は北側と南側では多少異なる。また、南西の $P_1 \sim P_2 \cdot P_{23} \sim P_{25}$ は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、覆土中から多量の土器片が出土している。遺物は住居跡の全面に広がって検出され、人為的に投棄されたものと考えられる。

第5号住居跡（第5図） 遺物（第200図）

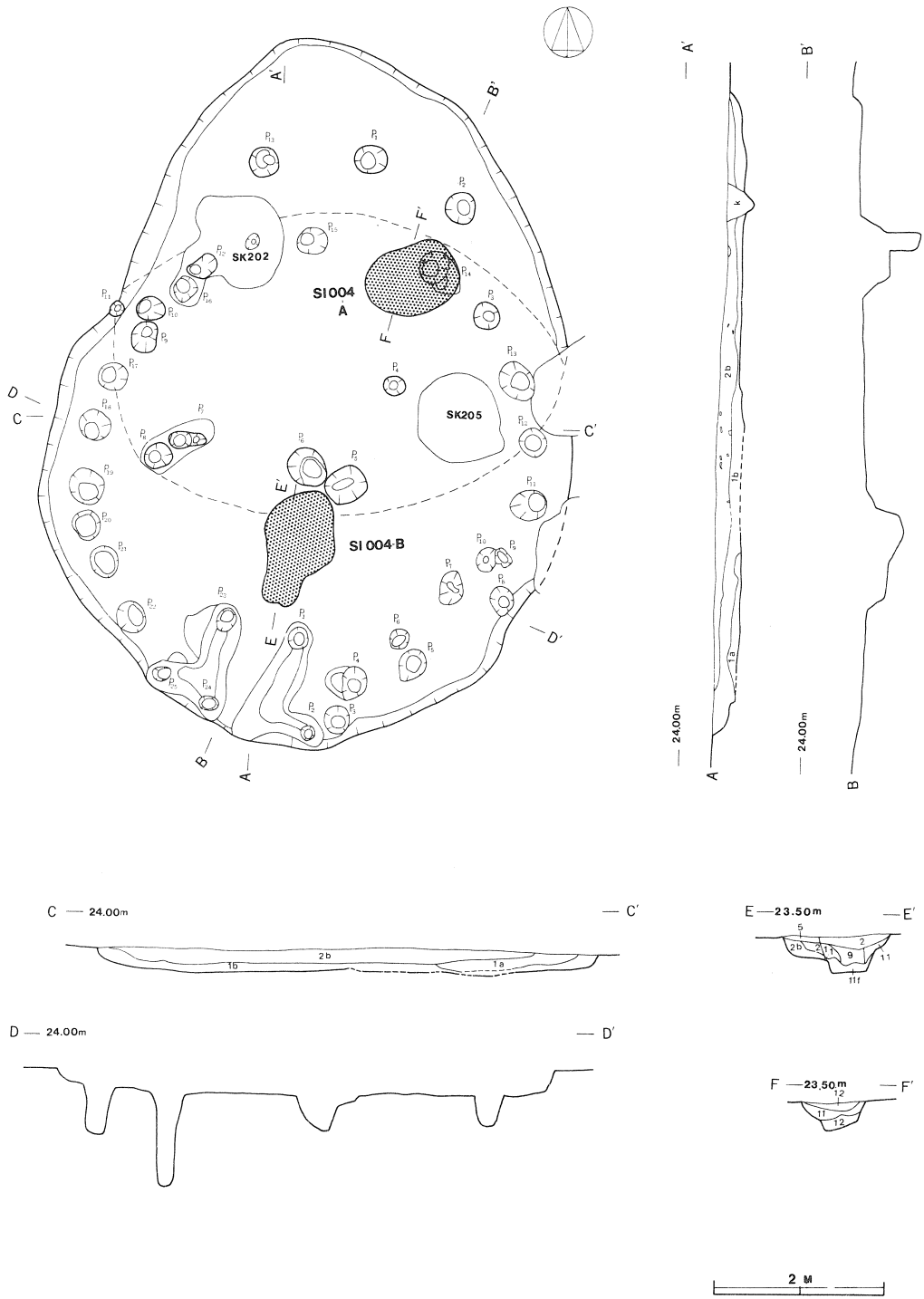
- a 調査区の北東部（B4d7・e7）に位置し、SI025と重複している。
- b $(4.9) \times (4.5)\text{m}$ 平面形は長方形形状を呈し、SI025を切っている。
- c 壁高は5～16cmでほぼ垂直に立ちあがる。床は平坦であるがほとんど土壌が複合し、炉跡は検出されていない。また、柱穴も5か所ほどしか確認されず、大部分は土壌で破壊されたと考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北および南側の覆土中から少量出土している。

第6号住居跡（第7図） 遺物（第200図）

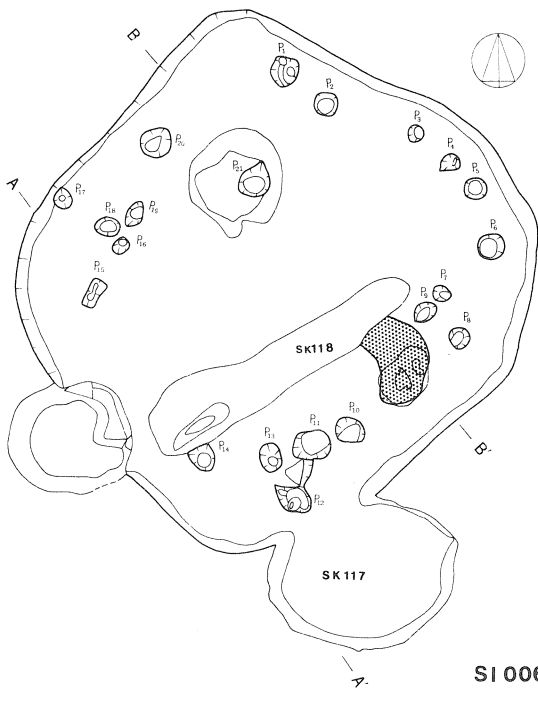
- a 調査区の東部（B4h6・h7）に位置し、南東にSI011が一部重複している。
- b $5.14 \times 4.77\text{m}$ 平面形は隅丸方形形状を呈し、長軸方向は $N-49^{\circ}-W$ をさす。
- c 壁高は14～24cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦であるが中央部がやや低くなり、南東にTピット状のSK118が複合している。炉跡は中央より南東に位置し、SK118によって一部が切られている。柱穴は壁沿いに21か所ほど検出されている。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量の土器片が出土している。

第7号住居跡（第8図）

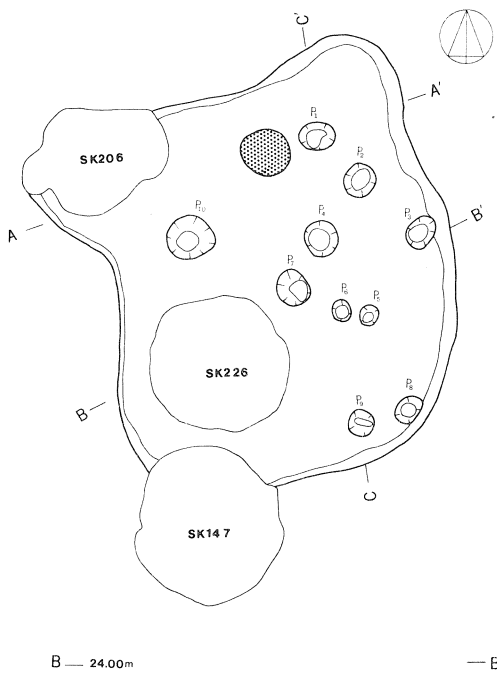
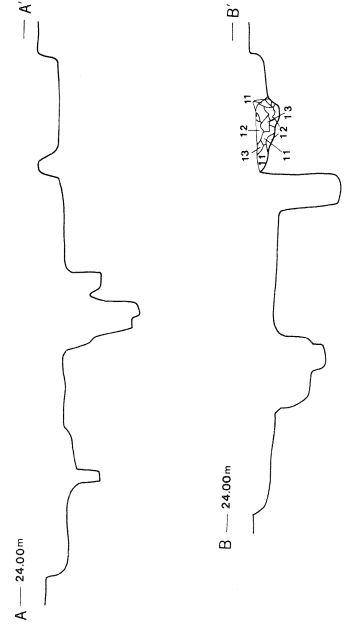
- a 調査区の北東部（B5d2）に位置し、東側は調査区域外にのびている。
- b SK010と北の地割溝によってほとんどが破壊され、平面形は不明である。
- c 壁高は10cm内外であるが、北壁以外は確認されず、床もやや軟弱である。炉跡は検出されていないが、柱穴は3か所ほど確認されている。住居跡としては疑問が残る。
- d 覆土はやや軟弱で自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどみられない。



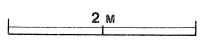
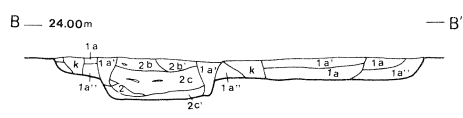
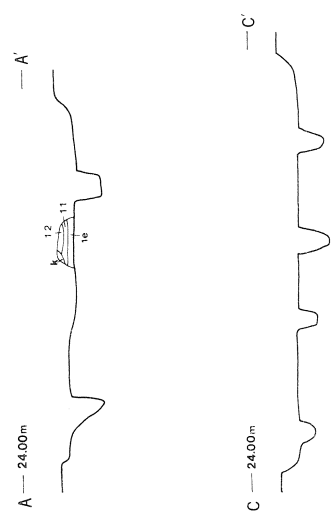
第6图 第4号住居跡実测图



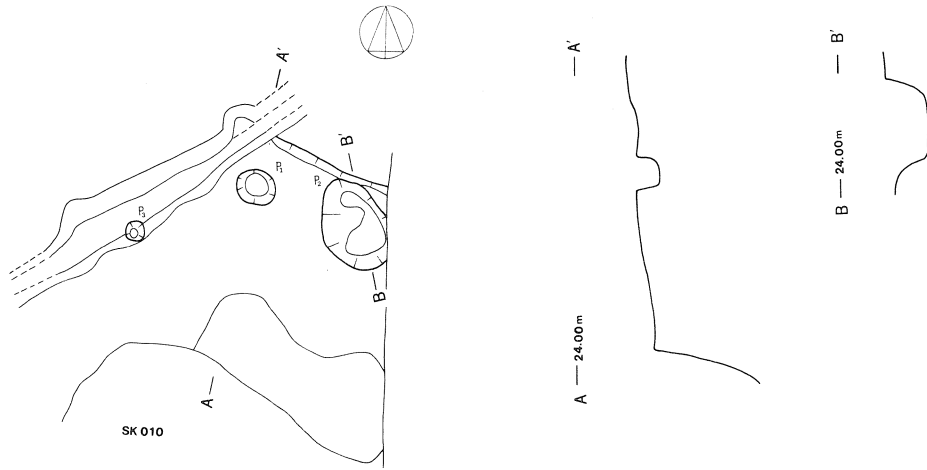
SI 006



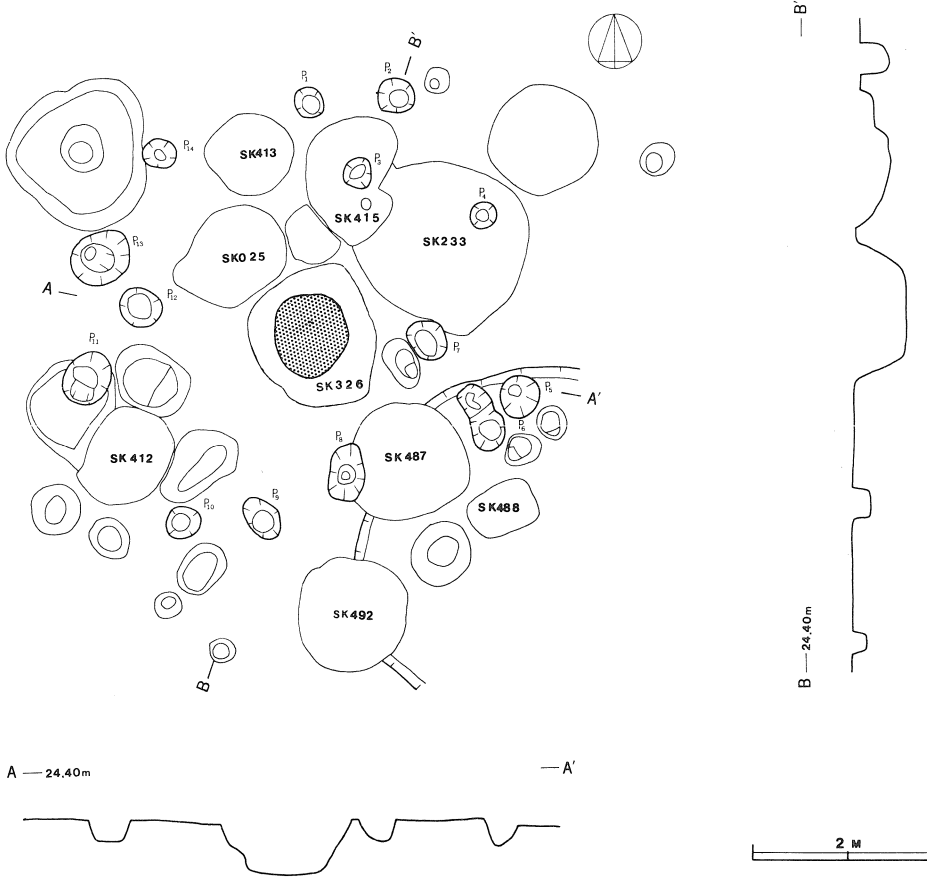
SI 009



第7图 第6·9号住居跡実測图



SI 007



SI 008

第8图 第7·8号住居跡実測図

第8号住居跡（第8図） 遺物（第205図）

- a 調査区の東部（B4i0・j0）に位置し、東側にSI075が重複している。
- b 推定5.3×5.2m 平面形は柱穴の配列から楕円形を呈するものと考えられる。
- c 掘り込みが浅く壁の立ちあがりほとんどみられない。床はほぼ平坦であるが、土壌等の重複によって複雑である。ほぼ中央部のSK326の覆土中に土器組み炉跡(第205図)がみられ、本遺跡中でもっとも遺存度の良好な例である。炉跡内には焼土・灰等が充満している。
- d 覆土はみられず、遺物も炉跡に使用された土器以外は出土していない。

第9号住居跡（第7図） 遺物（第201図）

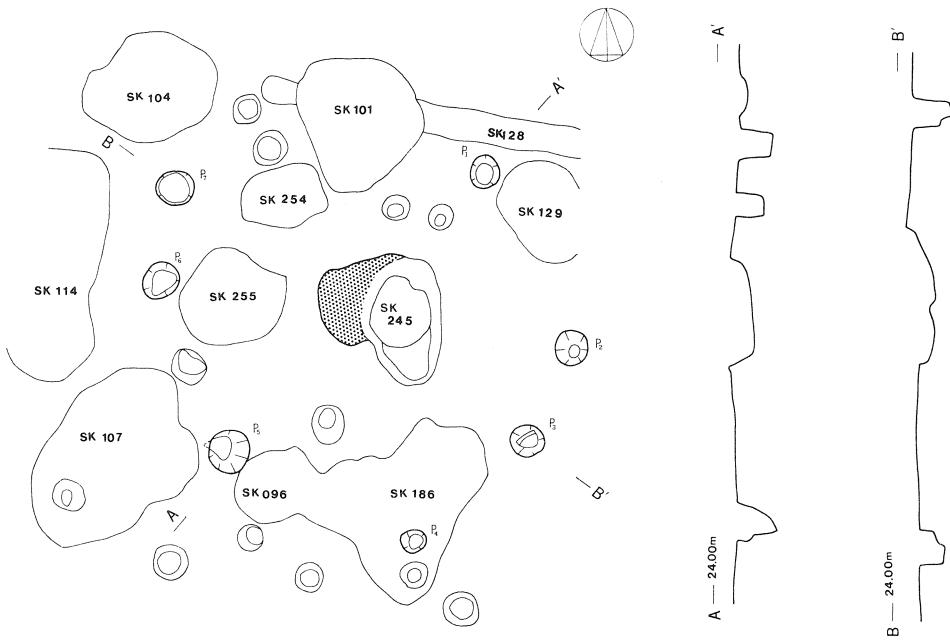
- a 調査区の北東部（B4e6・f6）に位置している。
- b 4.13×3.55m 平面形は長方形を呈し、長軸方向はN-11.5°-Wをさす。
- c 壁高は10-20cmで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央より北側に炉跡がみられるが、焼土はそれほど多いものではない。柱穴にはそれほど規格性がみられないが10か所ほど検出されている。西側はSK206が複合し、壁・床とも不明瞭である。
- d 覆土は自然堆積の状況を呈し、部分的に攪乱がみられる。遺物はきわめて少なく、覆土上層に少量みられる。

第10号住居跡（第9図）

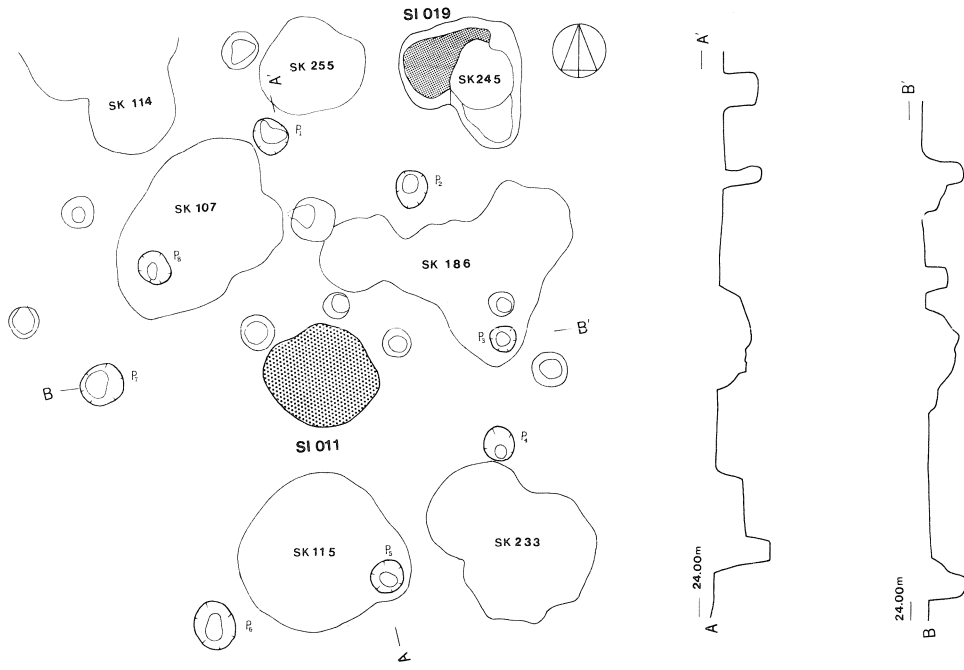
- a 調査区の東部（B4h8・h9）に位置し、SI011・023と重複している。
- b 推定5.3×5.0m 平面形は柱穴の配列から楕円形を呈していたものと考えられる。
- c ローム層への掘り込みがほとんどみられず、壁の立ちあがりは確認できない。床はほぼ平坦で、中央付近に炉跡がみられるが、その南側をSK245が切っている。柱穴はSI011やSK101・254などと重複しているため不明な点もあるが、7か所ほど確認されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていないが、床のほぼ中央部に貝が投棄されている。

第11号住居跡（第9図）

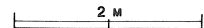
- a 調査区の東部（B4i7・i8）に位置し、SI010・006・023が重複している。
- b 推定6.2×6.0m 平面形は柱穴の配列より楕円形状を呈すると考えられる。
- c 掘り込みがローム層まで達していないため、炉跡と柱穴しか確認されていない。床はほぼ平坦であるが、土壌などによってかなり破壊されている。炉跡は中央やや南より位置し、1m内外の不定楕円形を呈し、35cmほど掘り込み、内部には焼土・灰が充満している。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。



SI 010



SI 011



第9図 第10・11号住居跡実測図

第12号住居跡（第10図）

- a 調査区の北東部（B4c5・c6）に位置し、SI014・019 が重複し、北西部は区域外にのびる。
- b 推定5.6×(3.4)m 楕円形状の平面形が考えられる。
- c 掘り込みがローム層まで達していないため壁は確認できない。床はほぼ平坦であるが、大部分が土壙およびSI014・019 などによって破壊されている。炉跡はSK257によって一部が切られている。柱穴は8～9か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第13号住居跡（第10図） 遺物（第201図）

- a 調査区の北東部（B4d4・e4）に位置し、SI015・021 と重複している。
- b 推定6.0×5.0m 平面形は柱穴の配列から楕円形状と考えられる。
- c ローム層への掘り込みがほとんどみられないため壁は確認されていない。床はほぼ平坦であるが土壙の重複が多くみられ、プランの検出は困難であった。炉跡は中央よりやや西側にみられ、床を皿状に20cmほど掘り込んで地床炉としている。柱穴は5か所ほど確認されている。
- d 覆土はほとんどみられず、遺物はきわめて少量が出土している。

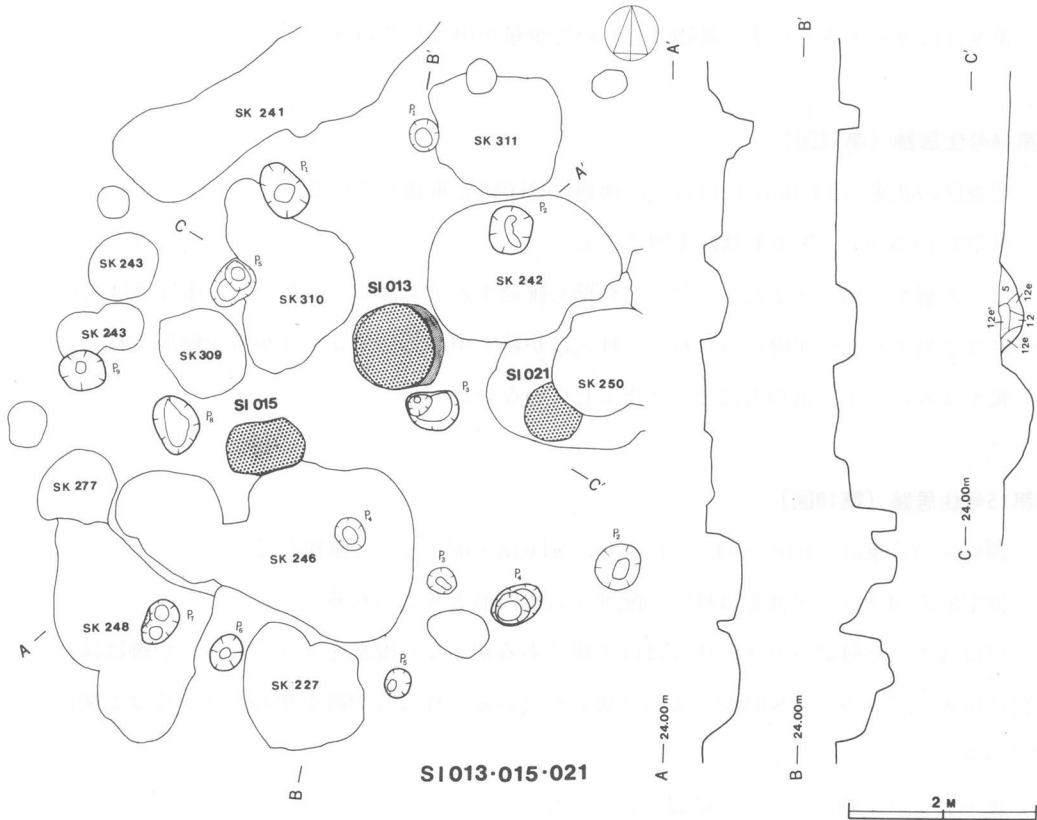
第14号住居跡（第12図）

- a 調査区の北東部（B4b6）に位置し、南西にSI019と重複している。
- b 推定3.2×3.0m 平面形状は不明である。
- c ローム層まで掘り込まれていないため壁を確認することはできなかった。床はほぼ平坦で、炉跡は中央よりやや北側にみられる。柱穴は炉跡を中心として5～6か所が検出されている。
- d 覆土はみられず、遺物もほとんど出土していない。

第15号住居跡（第10図）

- a 調査区の北東部（B4e3・e4）に位置し、SI013・021 などと重複している。
- b 推定5.5×4.8m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 壁はほとんど確認されず、床はほぼ平坦であるがかなり攪乱をうけている。炉跡はほぼ中央部に位置しているが、SK246によって切られている。柱穴は炉跡を中心に9か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第16号住居跡（第11図） 遺物（第201図）



第10図 第12・13・15・21号住居跡実測図

- a 調査区の北東部 (B4d5・d6) に位置し、SI017・024 と重複している。
- b 5.2 × 4.33m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-57°Eをさす。
- c 壁高は6～10cmほどで、ほぼ垂直に立ちあがる。床はほぼ平坦であるが、他の遺構との重複が激しく、柱穴などは複雑である。炉跡は中央部付近に位置し、一部をSK264などによって切られている。柱穴は13か所ほど確認され、P₄・P₅は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第17号住居跡

- a 調査区の北東部 (B4d5) に位置し、SI016・021 と重複している。
- b 外形不明。
- c 掘り込みがローム層まで達していないためほとんどが不明で、とくに本跡は炉跡と考えられる焼土がわずかに確認されただけで、壁・柱穴等もほとんど検出することができなかった。
- d 覆土はほとんどみられず、炉跡の周辺に少量の土器片が出土している。

第18号住居跡 (第11図)

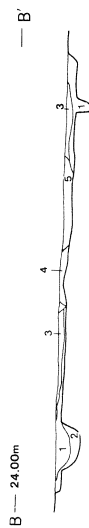
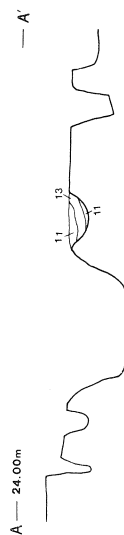
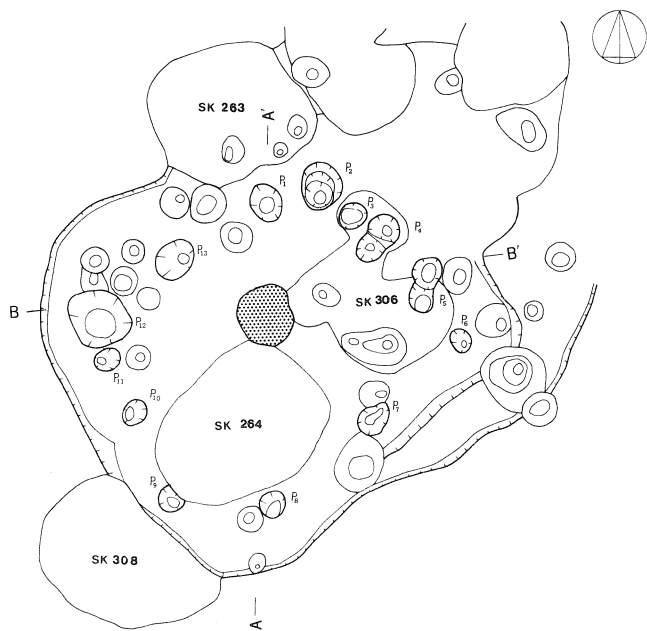
- a 調査区の北東部 (B4b6・c6) に位置し、SI014・019・024などと重複している。
- b 推定5.6×5.1m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 壁はほとんど確認されず、床はほぼ平坦であるが、柱穴状のピットが床中央部に多くみられ、他の住居跡との重複が考えられる。炉跡は中央付近に位置しているが、SK261などに切られている。柱穴は炉跡を中心に8～13か所ほどが考えられる。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第19号住居跡 (第12図)

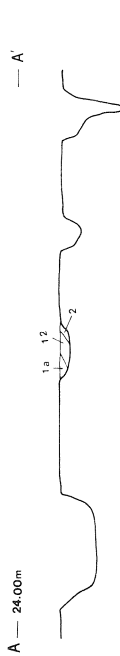
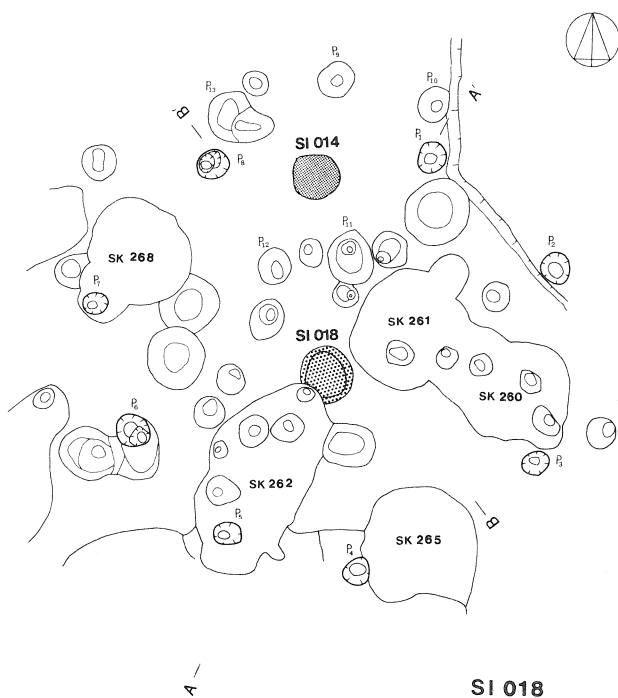
- a 調査区の北東部 (B4d6・c6) に位置し、SI012・014・018と重複している。
- b 推定4.5×4.3m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 掘り込みがローム層まで達していないことと他の住居跡との重複が激しいため、壁および床の状態を明確に把握することはできなかった。床中央部の炉跡下より、SI012あるいはSI018の柱穴が検出されている。柱穴は7～9か所考えられる。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第20号住居跡 (第12図) 遺物 (第202図)

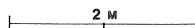
- a 調査区の北東部 (B4c7・d8) に位置し、SI002によって東側が切られている。



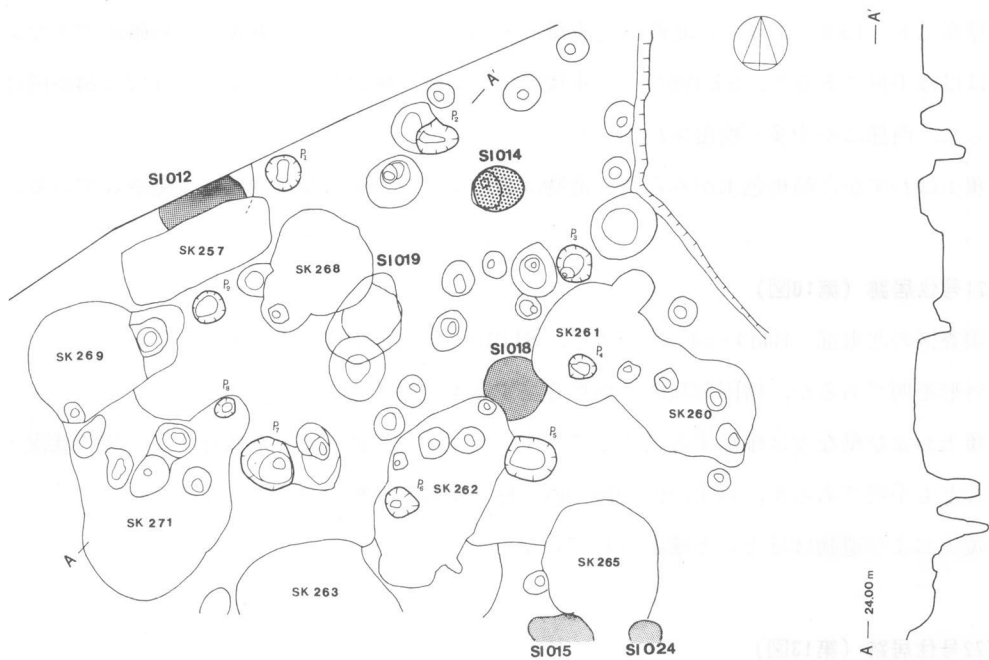
SI 016



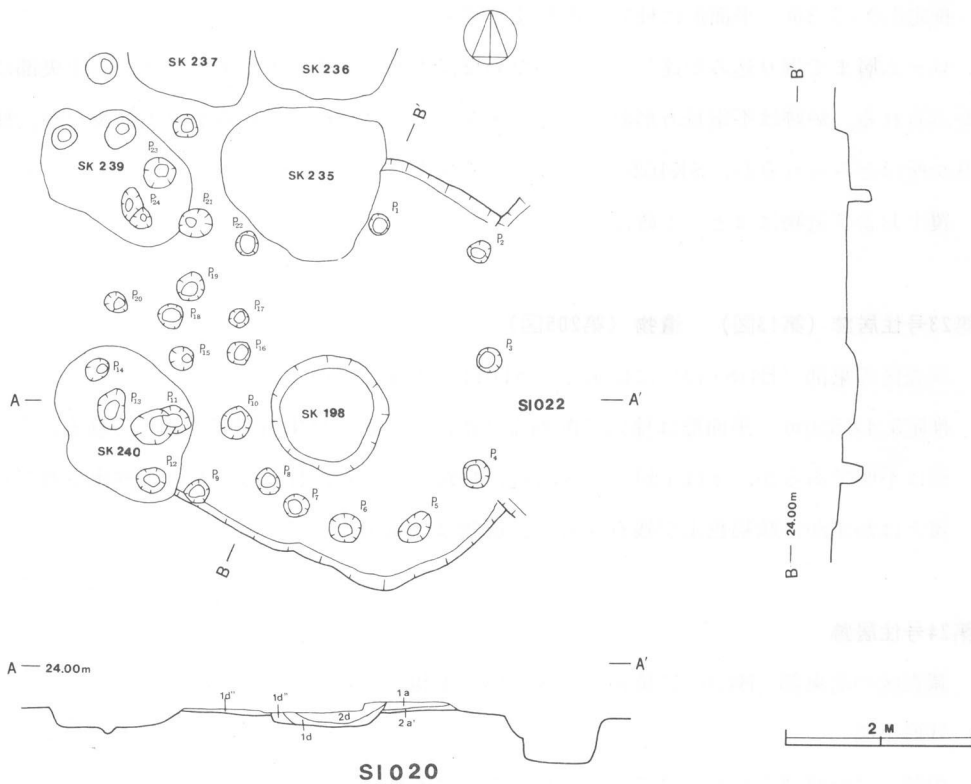
SI 018



第11图 第16・18号住居跡実測图



SI 014·019



SI 020

第12図 第14・19・20号住居跡実測図

- b 4.8 × 4.25m 平面形は北西壁が確認されていないが長方形を呈すると考えられる。
- c 壁高は8～15cmであるが、北西・北東壁はSI002・025 などとの重複のため確認できない。床はほぼ平坦であるが、SK198などの重複により炉跡は確認されていない。柱穴は24か所ほどみられ、西部にやや多く検出されている。
- d 覆土はわずかに暗褐色土がみられ、遺物は少なく、中央部に少量の貝が投棄されている。

第21号住居跡（第10図）

- a 調査区の北東部（B4d4・e4）に位置し、SI013・015 と重複している。
- b 外形不明であるが、楕円形状の平面形を呈するものと考えられる。
- c 覆土および壁などは確認することができず、わずかに炉跡の焼土が残存する。床の状況・柱穴なども不明であるが、わずかに炉跡の西に柱穴が数か所検出されたにすぎない。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第22号住居跡（第13図）

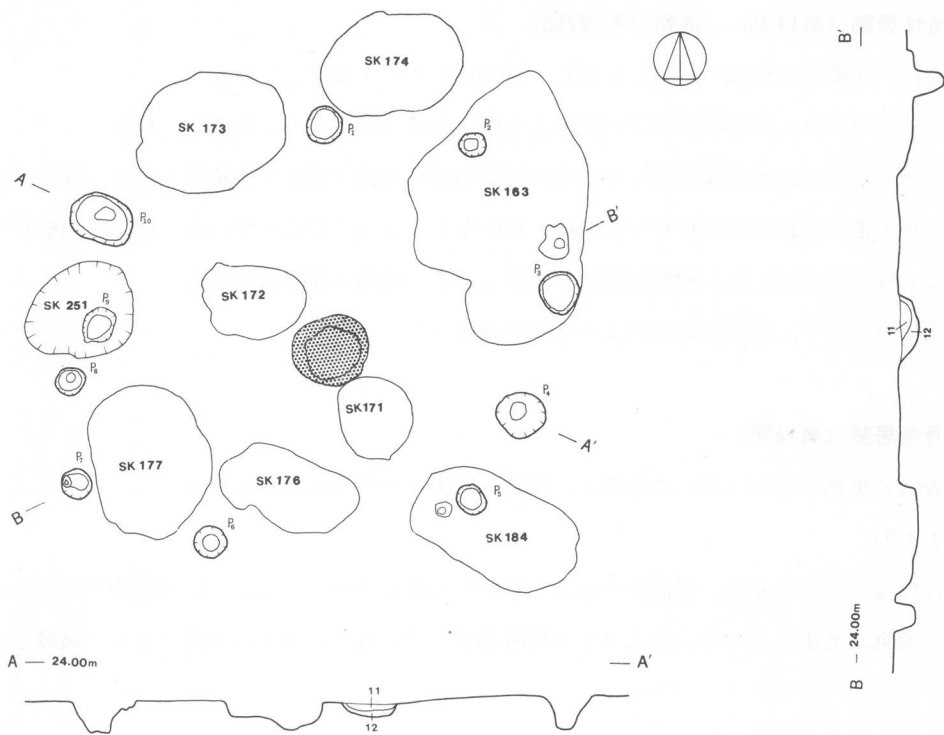
- a 調査区の東部（B4g3・g4）に位置し、環状微高帯部の内側にみられる。
- b 推定6.0×5.3m 平面形は柱穴の配列より隅丸長方形と考えられる。
- c ローム層まで掘り込みが達していないため壁は不明である。床は平坦で硬く、中央部に炉跡がみられる。炉跡は不定長方形を呈し、床をかなり掘り込んでいるが焼土は少ない。柱穴は9か所ほどみられるが、SK162などによって破壊されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第23号住居跡（第13図） 遺物（第205図）

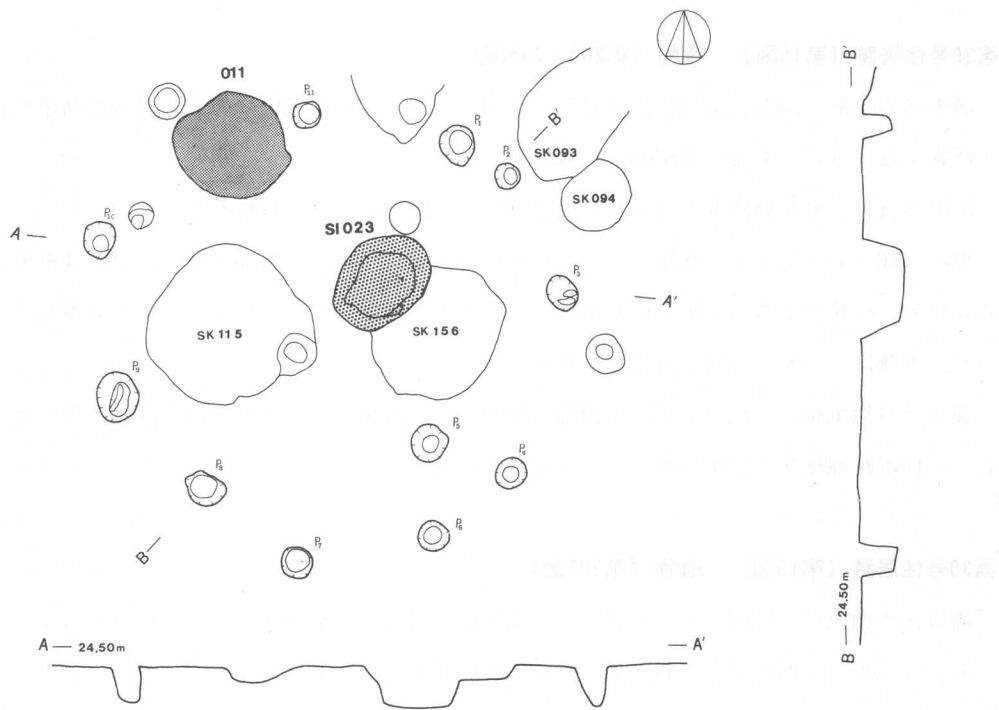
- a 調査区の東部（B4i8・i9）に位置し、SI011と重複している。
- b 推定5.4×5.0m 平面形は柱穴の配列より西にやや張りだす楕円形と考えられる。
- c 壁は不明であるが、床は平坦で中央付近に炉跡がみられ、柱穴は11か所が検出されている。
- d 覆土はわずかに暗褐色土が残存するが、遺物は少量出土している。

第24号住居跡

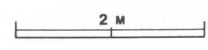
- a 調査区の北東部（B4c6）に位置し、SI018と重複している。
- b 外形不明。
- c 炉跡だけが確認されただけで、壁・柱穴などは不明である。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。



SI 022



SI 023



第13图 第22・23号住居跡実測図

第25号住居跡（第14図） 遺物（第202図）

- a 調査区の北東部（B4d7・e7）に位置し、SI005・020と重複している。
- b 推定4.8×4.6m 平面形は柱穴の配列より楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 掘り込みがローム層中まで達していないため明確に規模・壁などを確認することはできなかった。中央部に炉跡がみられるがSK169・170などによって切られている。柱穴は円形状に8か所ほど検出されている。重複関係はSI005より古い時期の住居跡である。
- d 覆土はみられず、遺物は炉跡内より1点のみ出土している。

第26号住居跡（第14図）

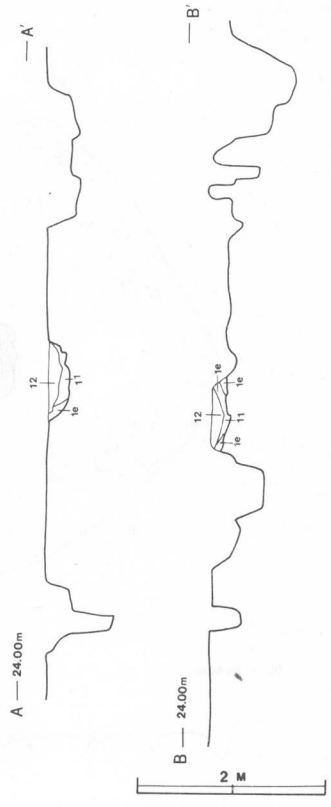
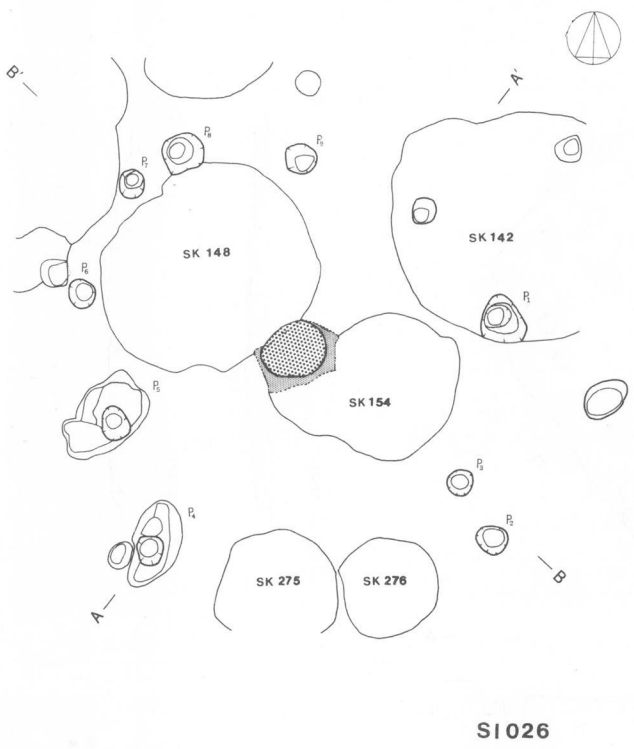
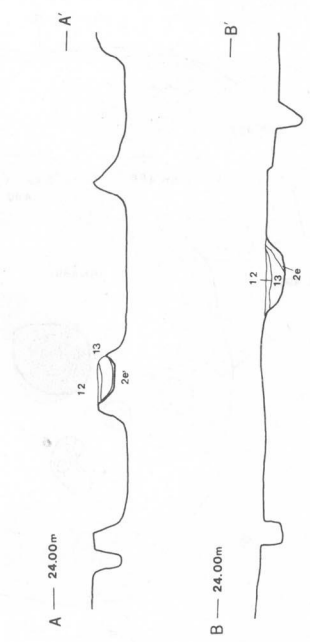
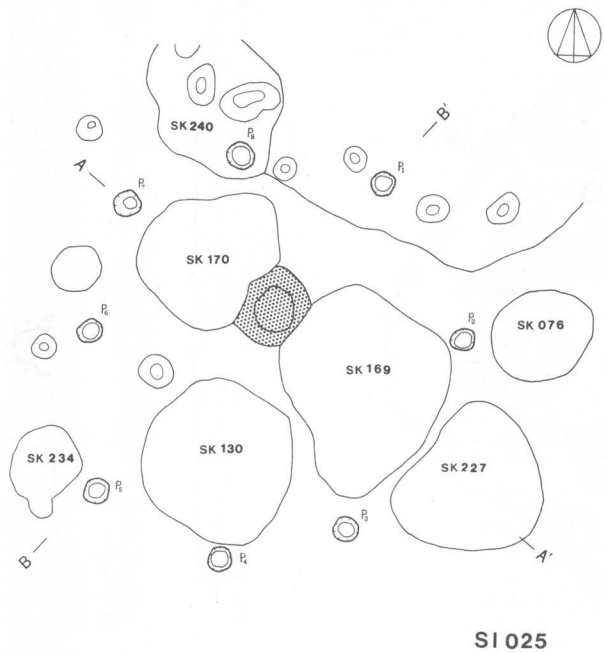
- a 調査区の東部（B4i4・i5）に位置し、環状微高帯のやや内側にみられる。
- b 外形不明。
- c 床はほぼ平坦であるが、壁は掘り込みが浅いため確認されていない。炉跡は中央にみられ、焼土が南東に流出している。柱穴は9か所確認されているが、南方は土壌によって破壊されている。
- d 覆土および遺物は確認されていない。

第29号住居跡（第15図） 遺物（第202～205図）

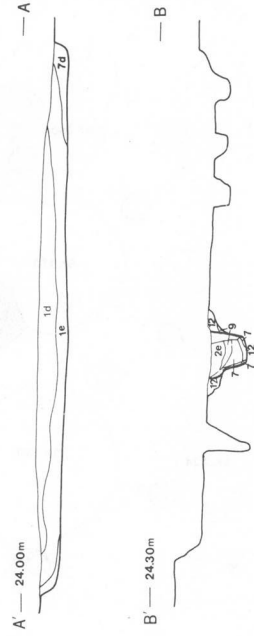
- a 調査区の東部（B4j0, B5j1）に位置し、SI075・042と重複関係にあり、環状微高帯の外側に所在する。さらに上面にはSM1の貝塚がみられる。
- b 5.6×5.1m 平面形は重複により不明瞭であるが楕円形と考えられる。
- c 壁高は16～30cmほどで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で中央部が硬く、炉跡は中央部にみられる。炉跡は土器組み炉（第205図－3）であるが南半分はみられない。柱穴は多くみられるが、本跡に伴うものは14か所ほどである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、南西部にSM1の貝が投棄されている。遺物は覆土中に多くみられ、住居跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

第30号住居跡（第15図） 遺物（第206図）

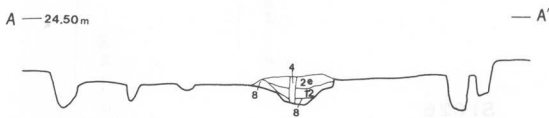
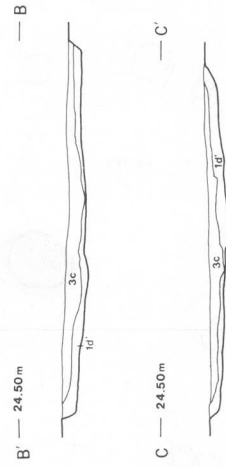
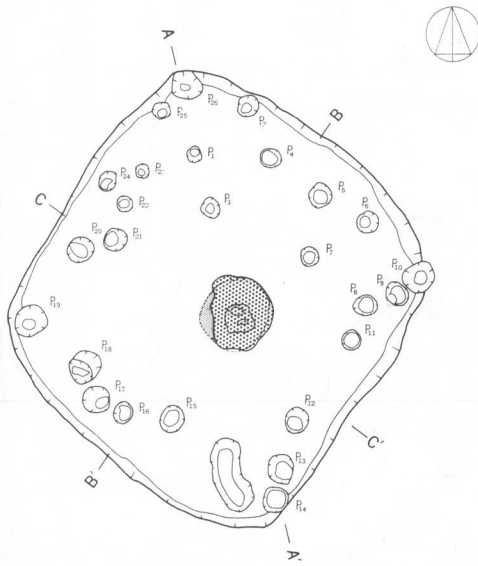
- a 調査区の南東部（C5f1・f2）に位置し、環状微高帯よりやや外側にはなれてみられる。
- b 4.0×3.7m 平面形は方形を呈し、長軸方向はN－31°－Eをさす。
- c 壁高は16～22cmで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央付近に炉跡がみられる。柱穴は壁よりに多くみられ、四隅にやや大きい柱穴が位置する。南コーナーに溝状の柱穴がみられ、入口部の施設とも考えられる。



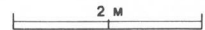
第14图 第25・26号住居跡実測图



SI 029



SI 030



第15図 第29・30号住居跡実測図

d 覆土は自然堆積の状況を示し、ほとんどの遺物は覆土中に検出され、それほど多くはない。

第31号住居跡（第16図） 遺物（第206図）

- a 調査区の南東部（C4c4・c5）に位置し、南西部にSI039が重複している。
- b 4.5×3.89m 平面形は長方形状を呈し、長軸方向はN-50°-Eをさす。
- c 壁高は8～12cmで、ほぼ垂直に立ちあがる。床は平坦で硬く、炉跡は中央より南方に位置し、焼土の一部は床の北方へ流れている。柱穴は20か所ほどみられるが、浅いものもみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど覆土中から出土している。

第32A号住居跡（第17図） 遺物（第207図）

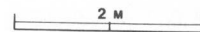
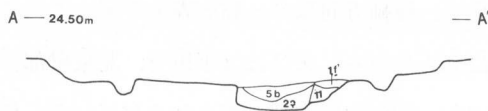
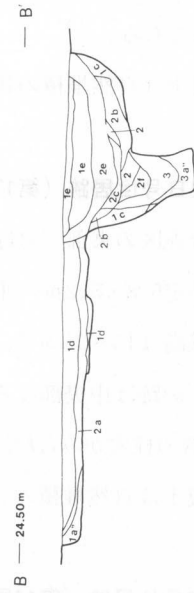
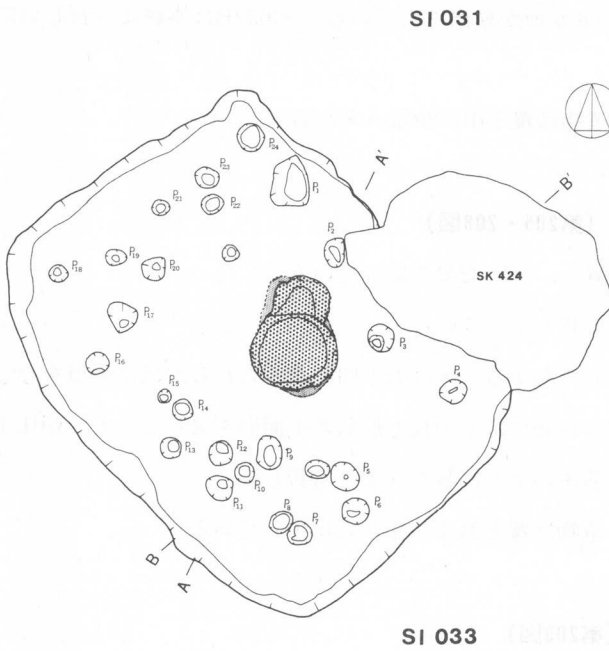
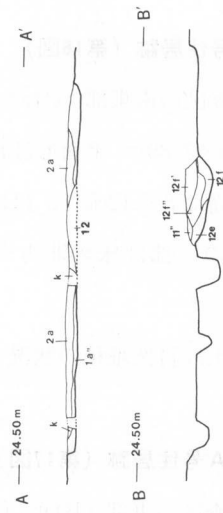
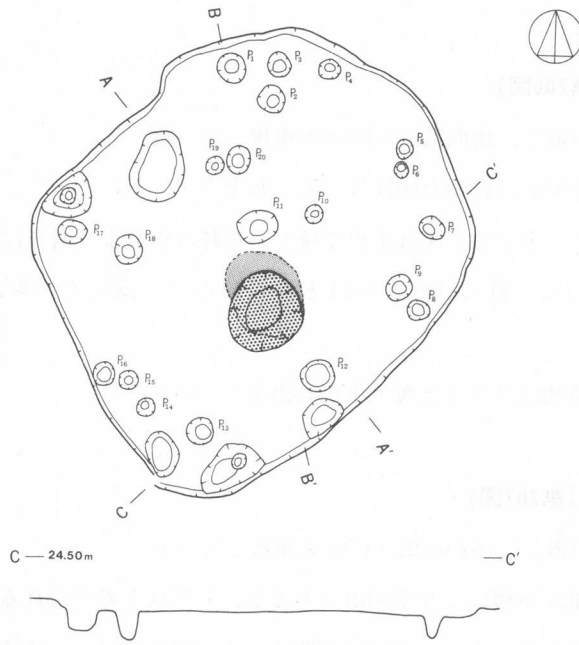
- a 調査区の東部（B4j6, C4a6）に位置し、SI032B・053と重複している。
- b 推定6.0×6.0m 平面形は北東部が重複により不明瞭であるが、方形状と考えられる。
- c 壁高は10～14cmで、垂直ぎみに立ちあがるが、北壁は不明である。床は平坦で、やや南東に炉跡がみられる。柱穴はP₁₅～P₂₃の8か所が検出されている。SI032Bは本跡より新しい時期のものである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量みられる。

第32B号住居跡（第17図） 遺物（第205・208図）

- a 調査区の東部（B4j6・j7）に位置し、SI032Aを切っている。
- b 推定5.8×5.2m 平面形は長方形状を呈している。
- c 壁高は15～25cmで、垂直ぎみに立ちあがる。床は若干凹凸がみられるがほぼ平坦をなしている。炉跡は中央部にみられ、1.25×1.05mほどの長方形状の平面形を呈している。炉床下にSI032Aの柱穴がみられ、新旧関係は前述のようにBがAよりも新しい。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土および床から出土している。

第33号住居跡（第16図） 遺物（第209図）

- a 調査区の南東部（C4d9・e9）に位置し、環状微高帯の外側にみられる。
- b 5.12×3.86m 平面形は長方形を呈し、長軸方向はN-43°-Wをさす。
- c 壁高は20～26cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、北東壁部にはSK424が複合している。炉跡は中央部にみられるが、SK491に南部が掘り込まれている。柱穴は24か所ほどみられるがあまり規則性がみられない。



第16图 第31・33号住居跡実測図

d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は東側の覆土中に少量出土した。

第34号住居跡（第18図） 遺物（第210図）

- a 調査区の東部（C4b8・c8）に位置し、南にSI048が重複している。
- b 6.8×6.0m 平面形は北東に張りだす不定楕円形を示し、長軸方向はN-35°Eをさす。
- c 壁高は10～26cmであるが、北壁の一部は不鮮明である。床は平坦であるが、中央部付近がややくぼみ、炉跡は南側にみられる。柱穴は37か所ほどみられるが、本跡以外のものも含まれ、P₁₈・P₁₉は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北側の覆土中に少量みられ、炉跡の南には、魚骨が多く検出された小貝塚を伴うSK446と埋設土器SK443がみられる。

第35号住居跡（第18図） 遺物（第210・226図）

- a 調査区の南東部（C4d2・d3）に位置し、東にSI 040が重複している。
- b 5.0×5.04m 平面形は隅丸方形状を呈し、北壁の一部にSK481が重複している。
- c 壁高は5cm内外で、床は平坦で硬い。炉跡は中央部付近に位置し、柱穴は24か所ほど壁沿いに検出されている。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は少量でP₁周辺に大形の土器片が出土している。

第36号住居跡（第19図） 遺物（第210図）

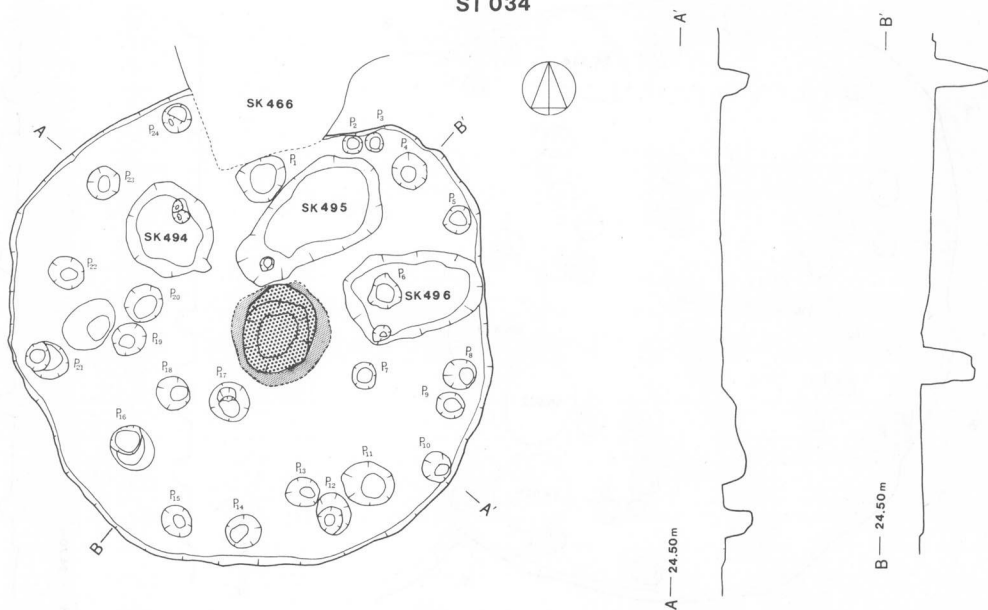
- a 調査区の南東部（C4d4・e4）に位置し、南にSI 038が重複している。
- b 推定5.5×5.4m 平面形は隅丸長方形状を呈すると考えられる。
- c 壁高はわずか5cmほどで、西壁はほとんど確認されない。床はほぼ平坦で、中央部付近に不定形の炉跡がみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土上層から少量出土している。

第37号住居跡（第19図） 遺物（211図）

- a 調査区の南東部（C4e2・f3）に位置し、SI036・067が重複している。
- b 推定6.6×6.45m 平面形は楕円形状を呈している。
- c 壁高は8～16cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがるが、東壁は不鮮明である。床は平坦であるが攪乱が多く、炉跡は検出されていない。柱穴は壁沿いに認められ、それ以外は不明である。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に小片が少量みられたただけである。



SI 034



SI 035

2 M

第18图 第34・35号住居跡実測图



第19图 第36·37号住居迹实测图

第38号住居跡（第20図） 遺物（第211～214図）

- a 調査区の南々東部（C4f4・f5）に位置し、SI038A・Bの複合が考えられる。
- b 5.5×5.2m 平面形は長方形を呈し、炉跡が2か所に認められる。
- c 壁高は20cm内外で、北西壁は確認できない。床はほぼ平坦で、炉跡は南西部（SI038A）と北東部（SI038B）の2か所があり、柱穴はそれぞれP₁～P₉とP₁₀～P₁₇が伴う。切り合い関係は不明であるため遺物は単一遺構として取りあげた。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に多く出土しているが時期差はみられない。

第39号住居跡（第20図）

- a 調査区の南東部（C4c4・d4）に位置し、SI031・040が重複している。
- b 推定5.4×5.1m 平面形は柱穴の配列より隅丸形状を呈すると考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁は確認されない。床は平坦で、炉跡はほぼ中央に位置している。柱穴は多くみられるが、本跡の柱穴は配列より7か所が想定され、SI031より時期は新しい。
- d 覆土はほとんどみられず、遺物もほとんど出土していない。

第40号住居跡（第21図）

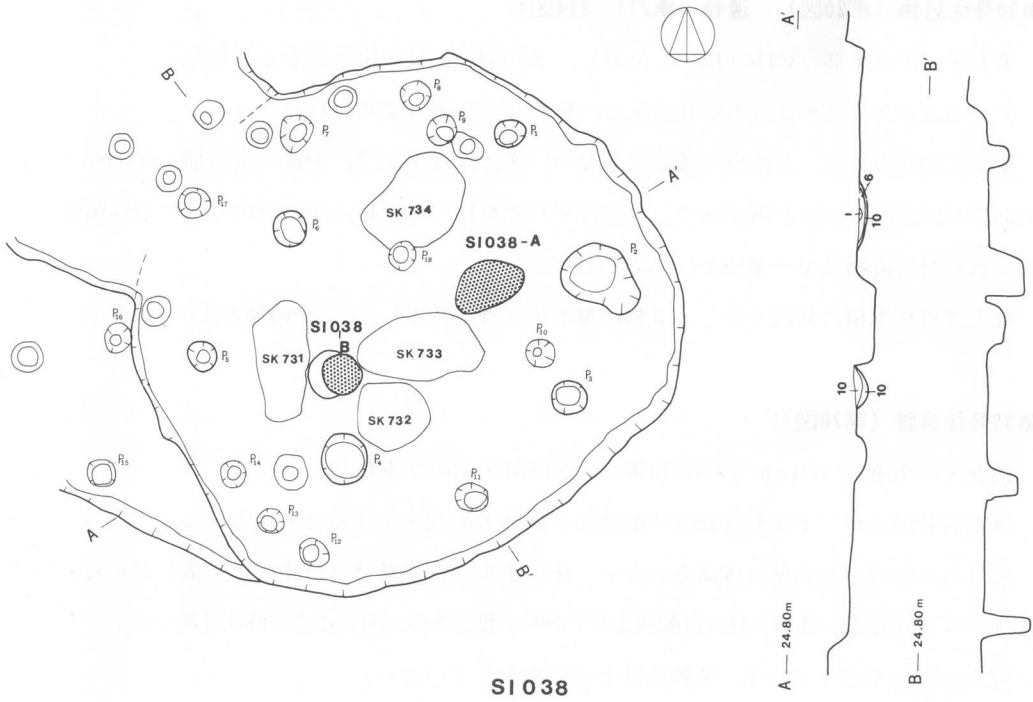
- a 調査区の南東部（C4d3・d4）に位置し、SI035・036が重複している。
- b 推定5.4×5.0m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 壁はSI039と同様に重複のため確認できないが、床はほぼ平坦で、炉跡は中央部にみられる。柱穴は10か所ほど検出されたが重複が多い。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第41号住居跡（第21図）

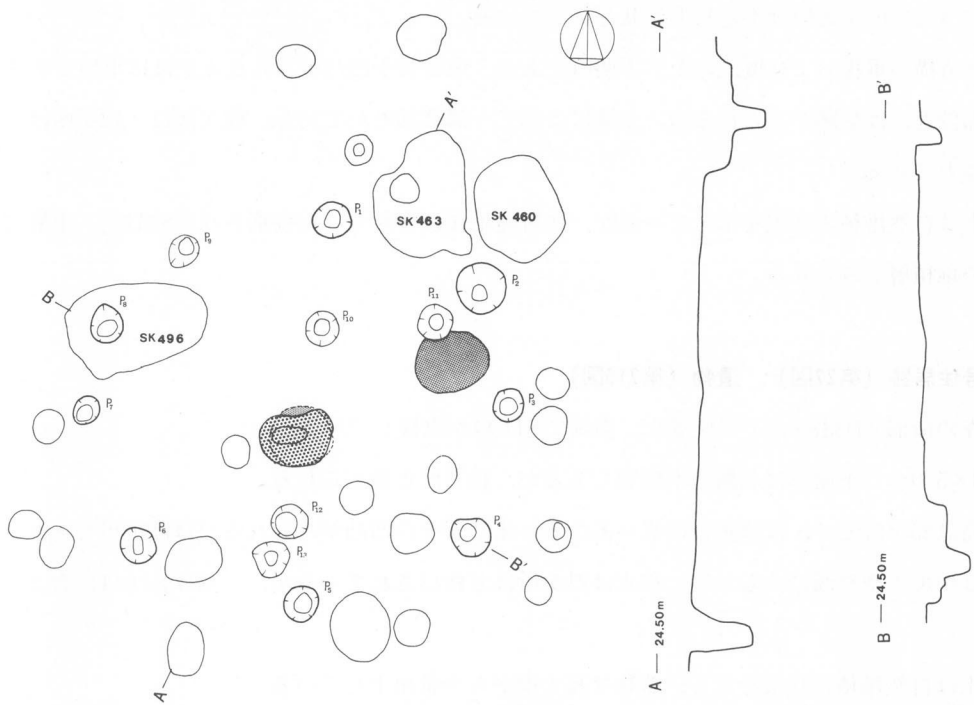
- a 調査区の中央部（C3c8・d9）に位置し、環状微高帯部の内側にみられる。
- b 5.73×5.6m 平面形は北西部がやや張りだす長方形を呈する。
- c 壁はわずかに確認されたが南西部はほとんど認められない。床は平坦で部分的に攪乱が認められ、炉跡は確認されていない。柱穴は14か所みられるが、ほかは土壌などによって破壊されている。
- d 覆土は薄く認められ、遺物はきわめて少量出土している。

第42号住居跡（第22図）

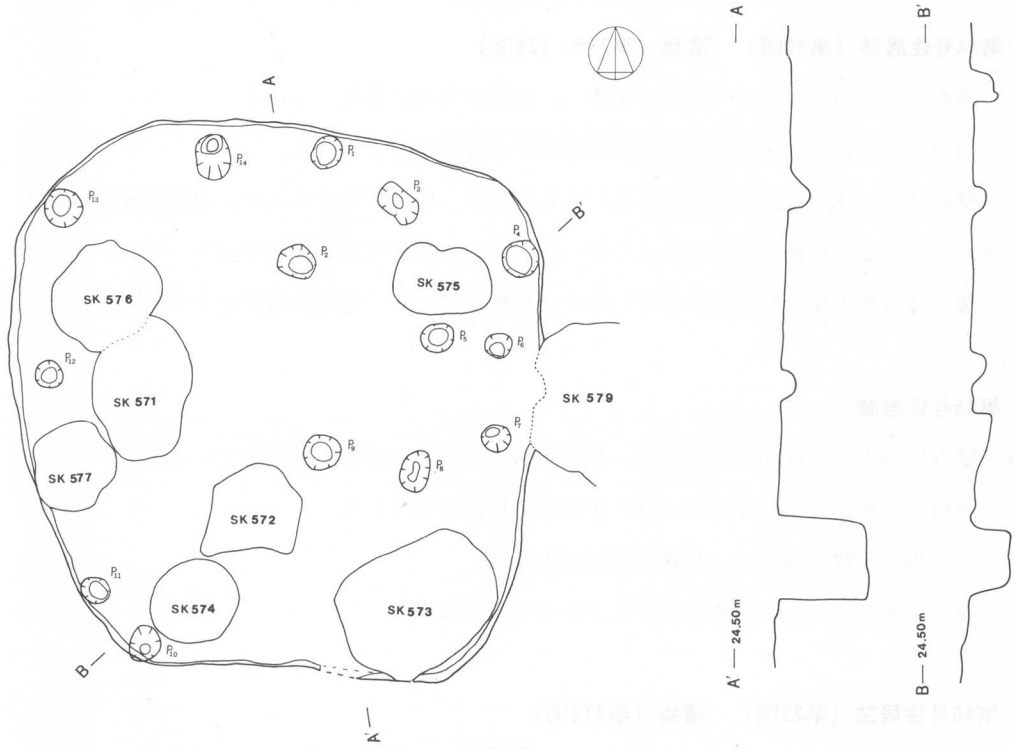
- a 調査区の東部（C4a0, C5a1）に位置し、SI029・050・051が重複している。



第20图 第38・39号住居跡実測図



SI 040



SI 041

第21图 第40・41号住居跡実測图

- b 4.5×4.15m 平面形は不定長方形状を呈している。
- c 壁は遺構の重複および攪乱のため不明瞭である。床は若干凹凸がみられるがほぼ平坦である。中央部付近には炉跡がみられるが、土壌によって一部破壊されている。柱穴は11～12か所ほど確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、住居廃絶後に多量の貝が投棄され（SM1）、上層に貝類の堆積層がみられる。

第43号住居跡（第22図） 遺物（第215図）

- a 調査の南部（D3d8・c8）に位置し、南側にSI044が重複している。
- b 5.3×5.0m 平面形は北側が不鮮明であるが、長方形と考えられる。
- c 壁高は25cmほどで、ほぼ垂直に立ちあがる。床は若干の凹凸がみられるがほぼ平坦であり、炉跡は中央のやや西にみられる。柱穴は21か所ほど検出されているが、一部はSI044に含まれる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第44号住居跡（第23図） 遺物（第215・226図）

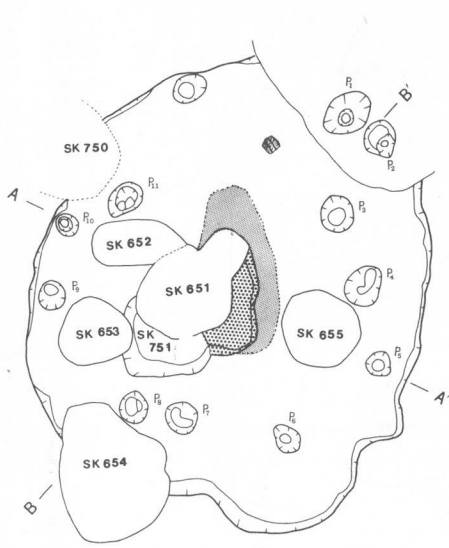
- a 調査区の最南端（D3c9・d9）に位置し、SI043の南に重複している。
- b (4.4)×4.15m 平面形は長方形状を呈するものと考えられる。
- c 壁高は14～18cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦であるが、北西はSI044によって切られている。炉跡は確認されていないが、柱穴は11か所ほど検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているがやや軟質である。遺物は覆土中に少量出土している。

第45号住居跡

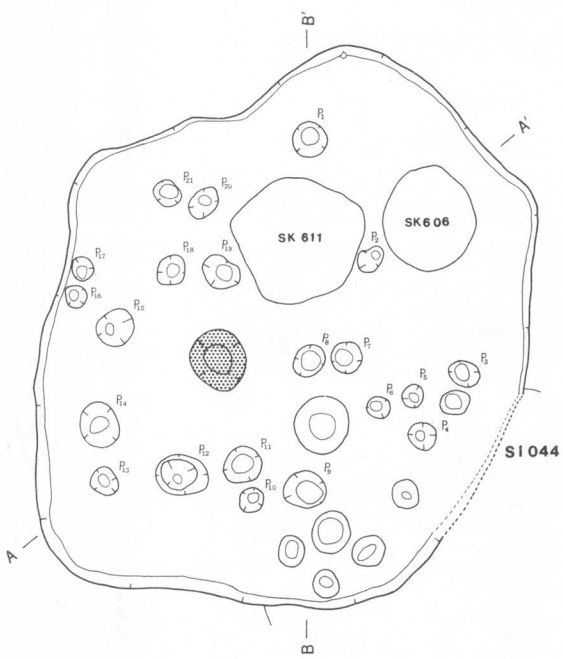
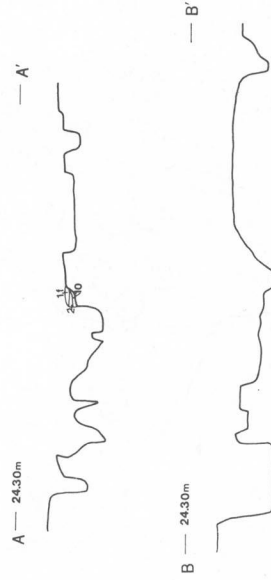
- a 調査区の南部（D3d6）に位置し、SI046および多くの土壌と重複している。
- b 重複のため平面形は不明であり、炉跡のみ検出されている。
- c 土壌等の重複が激しく、炉跡のみ確認された。
- d 覆土は確認されず、遺物もほとんど出土していない。

第46号住居跡（第23図） 遺物（第216図）

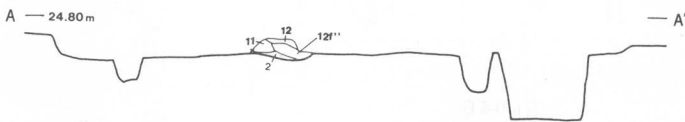
- a 調査区の南部（D3a5・b5）に位置し、南西部は区域外にのび、SI045と重複している。
- b 4.8×4.45m 平面形は方形状を呈している。
- c 壁高は16～20cmで、垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦であり、南西部には長方形のSK637が



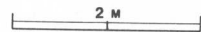
SI 042



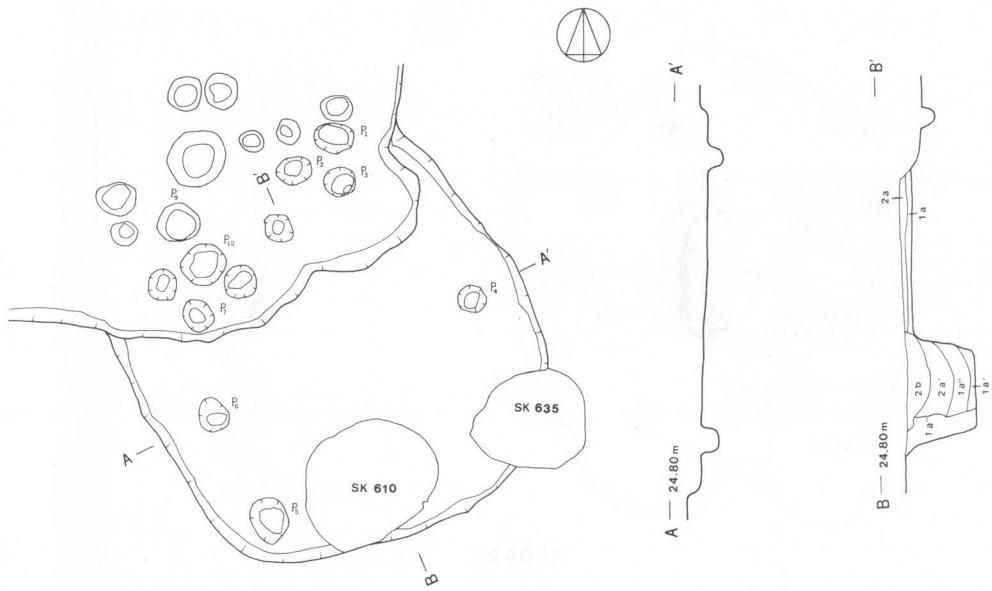
SI 044



SI 043



第22图 第42・43号住居跡実測图



SI 044



SI 046

第23图 第44・46号住居跡実測图

重複している。柱穴は16か所確認されている。

- d 覆土は自然堆積の状況を示し、部分的に攪乱がみられる。遺物はほとんど覆土中から出土し、それほど多い量ではない。

第47号住居跡（第24図） 遺物（第214・216図）

- a 調査の南部（D3a8・b8）に位置し、北西にSI056が重複している。
- b 4.8×4.2m 平面形状は隅丸長方形を呈している。
- c 壁高は20～28cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央部に炉跡がみられ、遺存度は比較的良好であるが、炉床はやや凹凸を呈する。柱穴は7か所ほど検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南側の覆土中に少量出土している。

第48号住居跡（第24図）

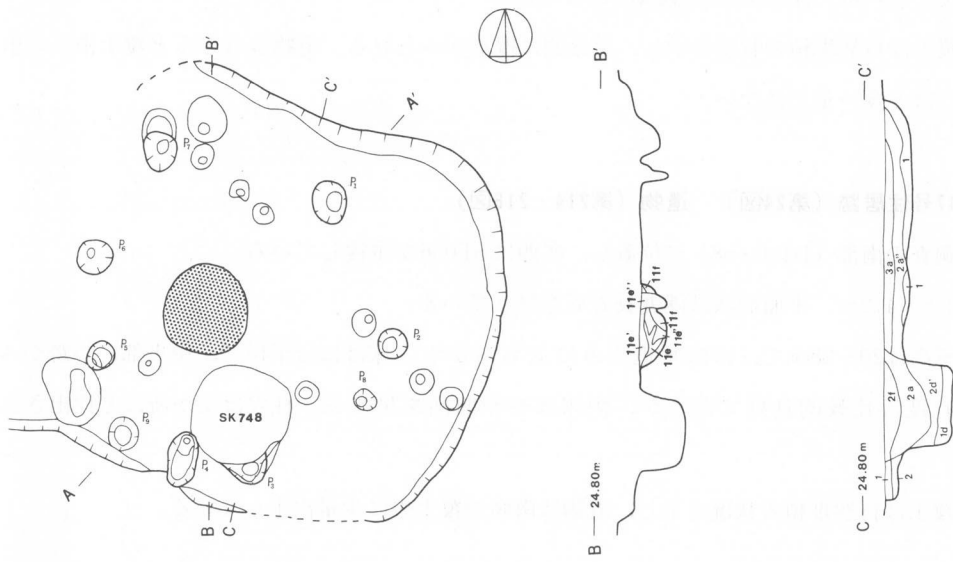
- a 調査区の南東部（C4d7・d8）に位置し、SI034・057と重複している。
- b 推定5.4×4.5m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 掘り込みがローム層まで達していないため壁は不明である。床は平坦であり、中央部に炉跡がみられ、床を皿状に26cmほど掘り込んでいる。炉内部には焼土・灰等が多量検出されている。柱穴は19か所ほどみられ、北東部のP₁・P₂はSI034の入口部の施設と考えられる。
- d 覆土はほとんどみられず、遺物もほとんど出土していない。

第49号住居跡（第25図） 遺物（第214・217・218図）

- a 調査の中央部やや南（C3f9・g9）に位置し、SI064・068と重複している。
- b 6.5×5.27m 平面形は楕円形を呈し、長軸方向はN-46°-Eをさす。
- c 壁高は10～14cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、2か所に炉跡がみられる。柱穴は14か所みられるが、SI064・068の重複によって複雑である。炉跡は東西の2か所で、焼土が20cmほど堆積し、西の炉跡内には深鉢形土器の底部（第 図-2）がみられた。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部の覆土中に多くみられた。

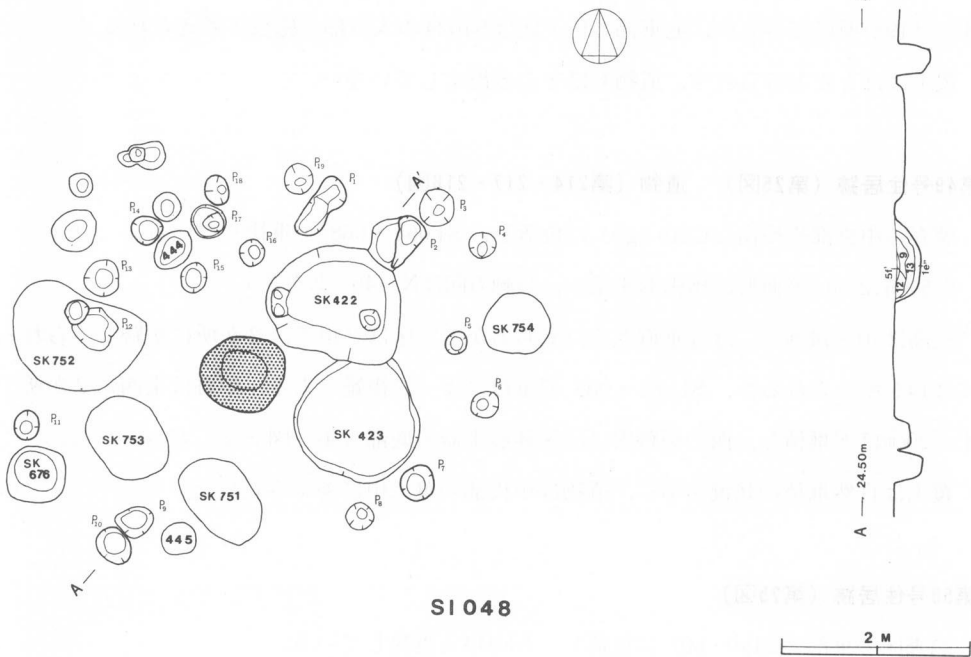
第50号住居跡（第25図）

- a 調査区の東部（C4a0・b0）に位置し、SI042と重複している。
- b 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁は不明である。床は平坦であり、北東部はSI042によって切られてい



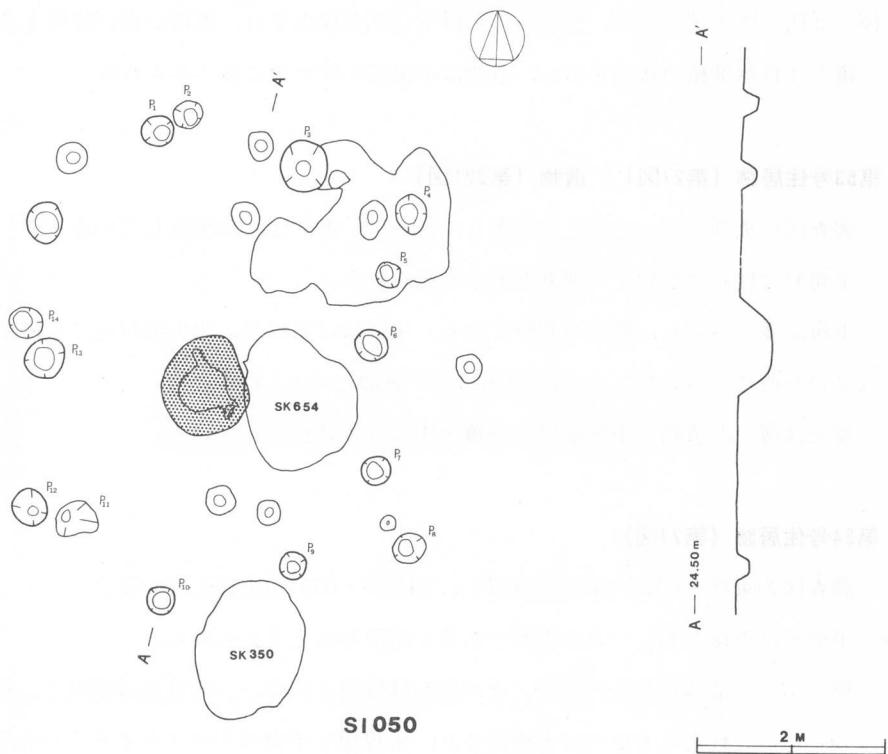
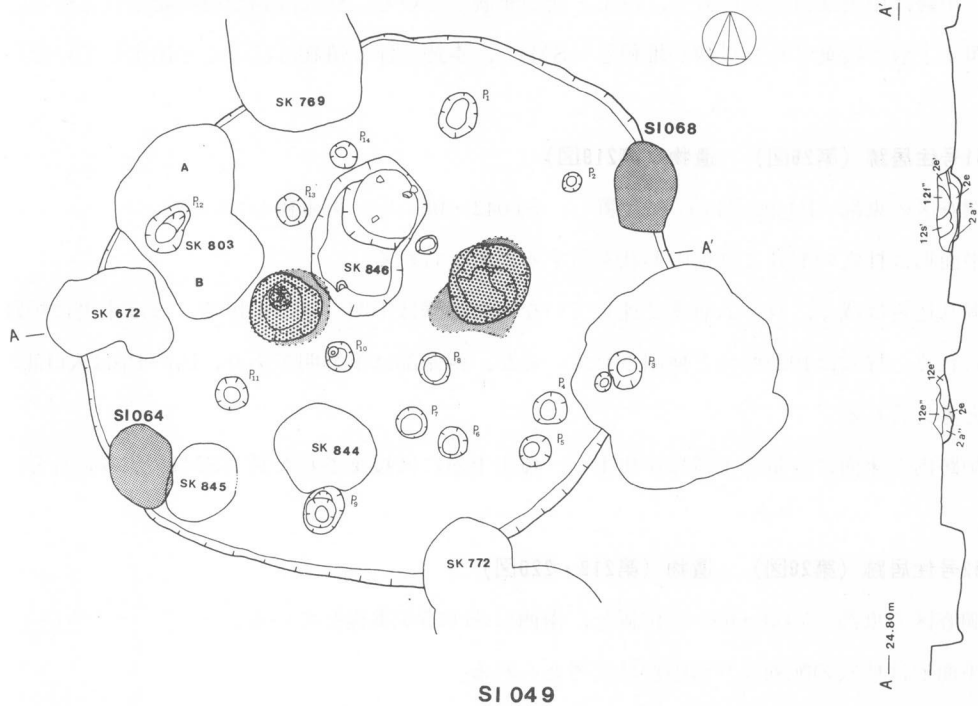
A — 25.00m — A'

SI 047



SI 048

第24图 第47·48号住居迹实测图



第25図 第49・50号住居跡実測図

る。炉跡は中央部付近に位置し、焼土・灰が充満している。柱穴は14か所確認されている。

d 覆土上層は投棄された貝類が堆積し（SM1）、本跡に伴う遺物はほとんど出土していない。

第51号住居跡（第26図） 遺物（第219図）

a 調査区の東部（B4j9, C4a9）に位置し、SI042・050 と一部重複している。

b 平面形は柱穴の配列より楕円形状を呈すると考えられる。

c 掘り込みは浅く、ローム層まで達していないため壁は不明。床は平坦で、ほぼ中央に炉跡がみられる。柱穴は19か所ほど検出されているが、西側部は不鮮明であり、P₁₁～P₁₅は入口部の施設と考えられる。

d 炉跡内と床面に少量の土器片が出土し、覆土上層には投棄された貝（SM1）がみられる。

第52号住居跡（第26図） 遺物（第219・220図）

a 調査区の東部（C4a8・b8）に位置し、南西にSI055が重複している。

b 平面形は柱穴の配列より楕円形状と考えられる。

c 掘り込みが浅いため壁は不明であるが、床はほぼ平坦をなし、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴はP₁～P₁₁が考えられ、SI055の炉跡下にP₆が検出され、本跡が古い時期と考えられる。

d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部の覆土中に多くみられる。

第53号住居跡（第27図） 遺物（第221図）

a 調査区の東部（C4a7・a8）に位置し、SI054・055などが重複している。

b 平面形は柱穴の配列より隅丸方形と考えられる。

c 重複が多くみられ、壁は不明瞭である。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は15か所ほどみられ、P₆～P₁₁は入口部の施設と考えられる。

d 覆土は薄く、遺物は中央部付近の覆土中より少量出土している。

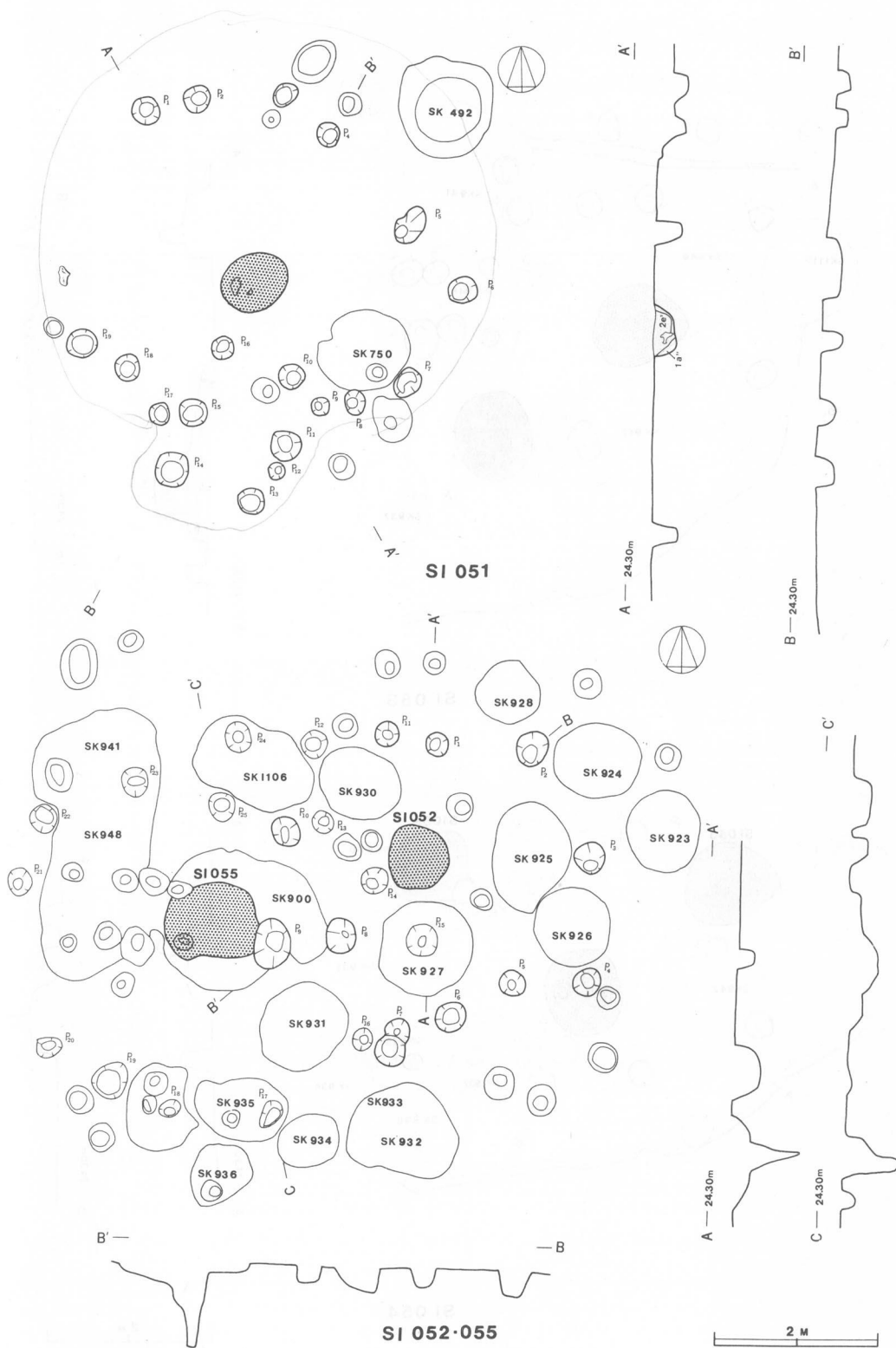
第54号住居跡（第27図）

a 調査区の東部（C4a7・b7）に位置し、SI053・055が重複している。

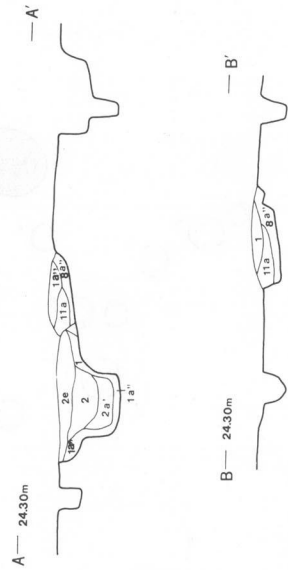
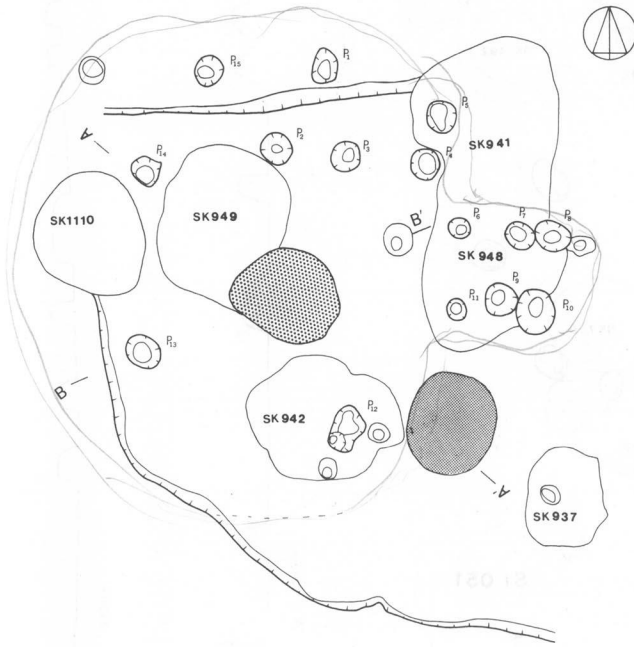
b 平面形は重複が激しいため不明であるが楕円形状と考えられる。

c 壁は南が一部みられるだけで、そのほかは確認されない。床はほぼ平坦で、炉跡は中央付近にみられる。柱穴は8か所ほど検出され、小規模な平面形を有すると考えられる。

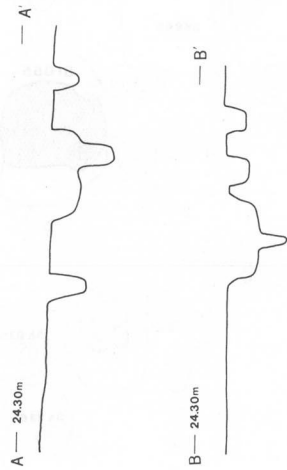
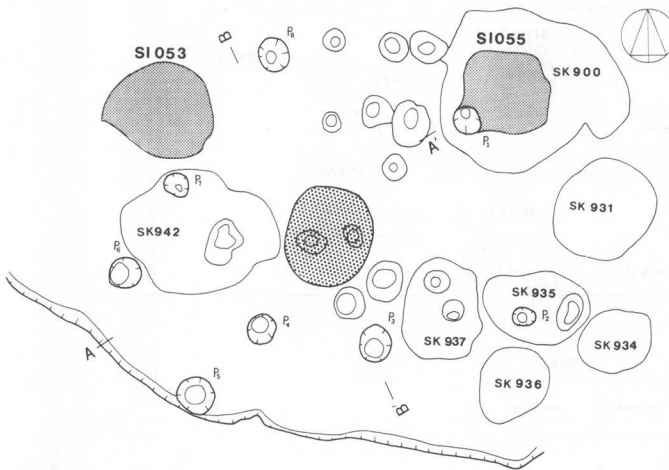
d 覆土は薄く、遺物は中央部付近の覆土中に少量出土している。



第26図 第 51・52・55号住居跡実測図



SI 053



SI 054



第27图 第53・54号住居跡実測図

第55号住居跡（第26図） 遺物（第221・226図）

- a 調査区の東部（C4a7・b7）に位置し、SI053・054が重複している。
- b 平面形は重複のため不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。
- c 壁はほとんど確認できない。床はほぼ平坦をなし、中央部付近に方形状の炉跡がみられ、焼土・灰が充満した土器組み炉跡が検出された。本跡に伴う柱穴はP₁₂～P₂₄が考えられる。
- d 覆土は薄く、遺物は土器組み炉跡（第226図－3）のほか少量出土している。

第56号住居跡（第28図） 遺物（第222図）

- a 調査区の南部（D3a7・a8）に位置し、南東にSI047が重複している。
- b 推定4.95×4.6m 平面形は隅丸方形状を呈している。
- c 壁高は12～20cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがるが南東は不明である。床は平坦で、炉跡は中央のSK770内に焼土が少量残存している。本跡全体からみると、SI047を切っているもので、柱穴は23か所ほどみられ、P₁₃～P₁₅は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。

第57号住居跡（第29図）

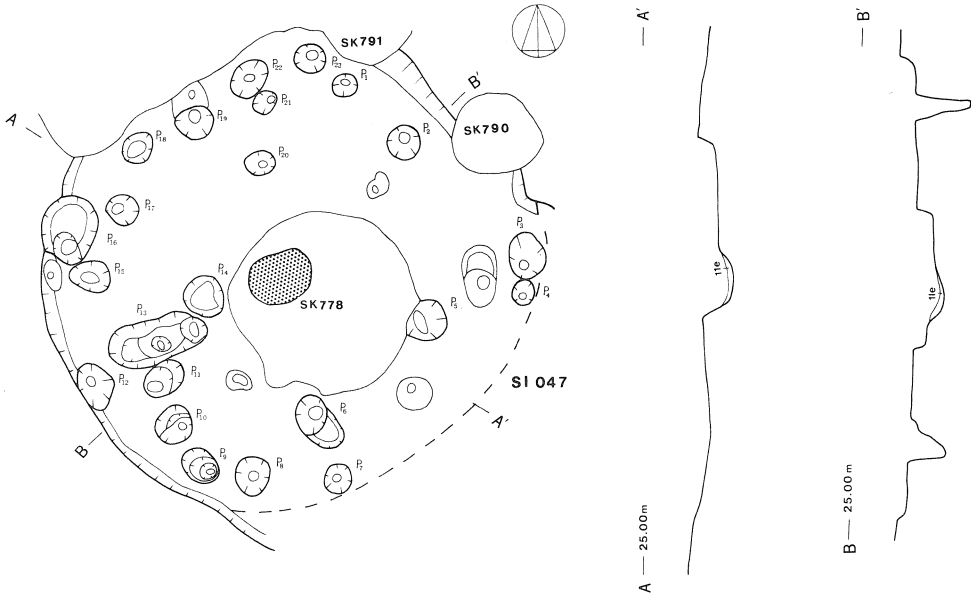
- a 調査区の南東部（C4e7・e8）に位置し、北西にSI059が重複している。
- b 推定4.6×4.5m 平面形は隅丸方形状を呈している。
- c 壁高は10～12cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近にみられる。柱穴は北西部付近を除いてP₁₃～P₂₁が考えられ、SI059より古い時期のものである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。

第58号住居跡（第28図） 遺物（第214・222～225図）

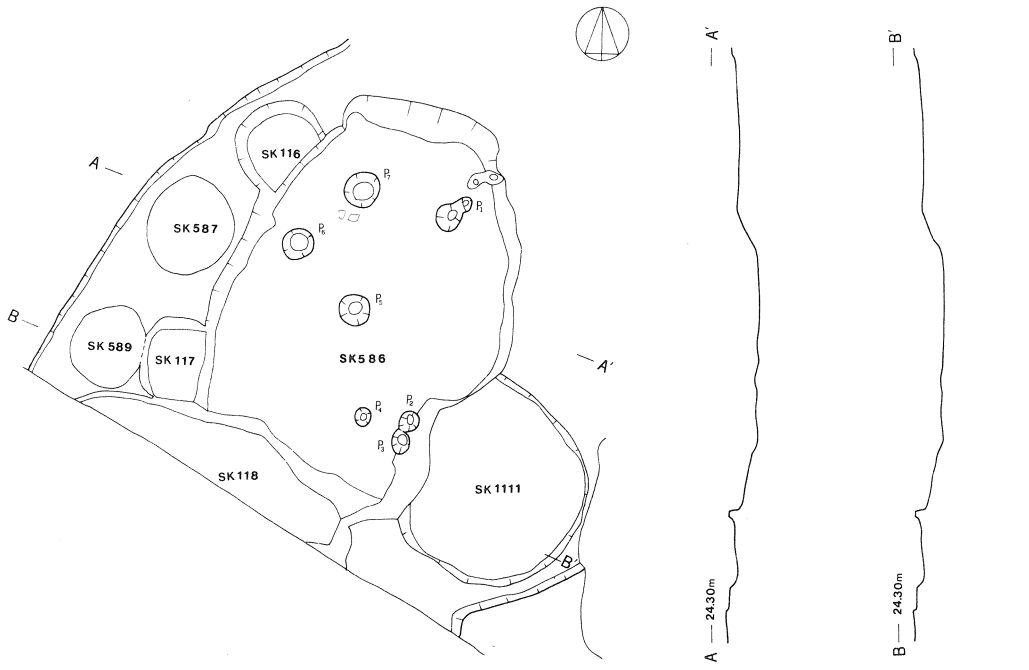
- a 調査区の南東部（C4d5・e5）に位置し、貝塚を伴うSK586と重複している。
- b 平面形は土壌の重複が激しいため不明である。
- c 壁は不明であり、床のほとんどは土壌によって切られている。炉跡は破壊され、柱穴はわずかに7か所だけ確認された。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は多く出土している。

第59号住居跡（第29図） 遺物（第227図）

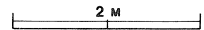
- a 調査区の南東部（C4d7・e7）に位置し、SI057・SK950などと重複している。
- b 推定5.3×4.6m 平面形は重複により不明であるが柱穴の配列より隅丸長方形と考えられる。



SI 056



SI 058



第28图 第56・58号住居跡実測図

- c 壁はほとんど確認できないが、床は平坦で硬い。炉跡はほぼ中央部に位置し、2か所みられる。SK950によって南側を切られているが、焼土・灰が多量にみられた。柱穴はP₁～P₁₂が考えられるが、南西部はSK447・1113などによって破壊されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は多く、SI057より新しい時期のものである。また、廃絶後にSK950が構築されて貝が投棄された。

第60A号住居跡（第30図） 遺物（第228図）

- a 調査区の南部（C3i8・i9）に位置し、SI060Bと重複している。
- b 5.35×（4.6）m SI060Bを切り込み、北壁は不鮮明であるが、柱穴の配列から平面形は楕円形と考えられる。
- c 壁高は15～28cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部にみられる。柱穴はP₁～P₁₁が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は炉跡周辺に少量出土している。また、本跡はSI060Bより新しく構築された住居である。

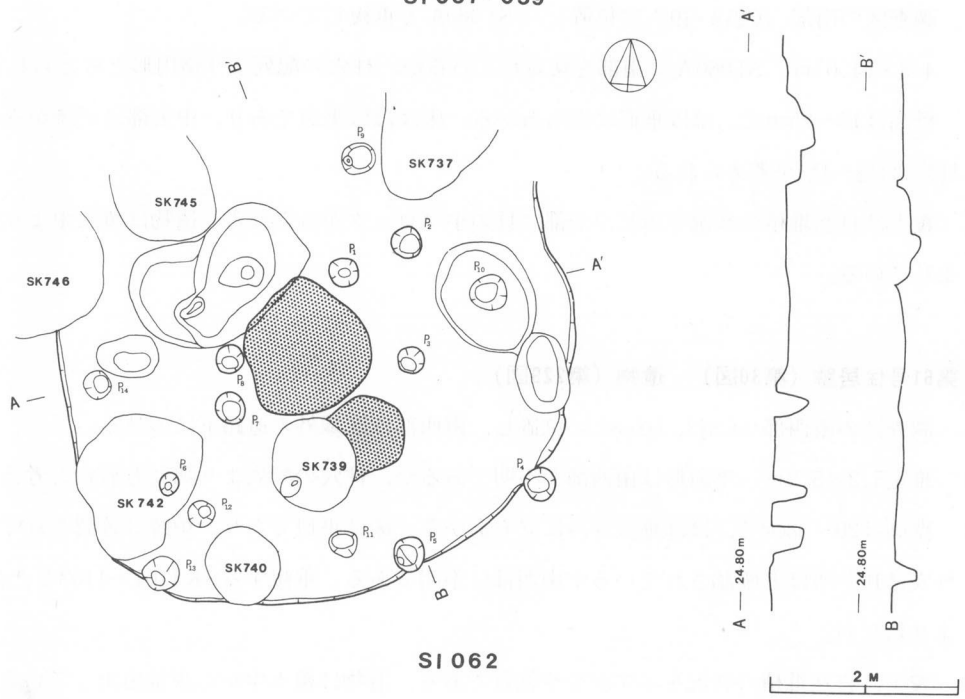
第60B号住居跡（第30図） 遺物（第228図）

- a 調査区の南部（C3i8・i9）に位置し、SI060Aと重複している。
- b 4.3×（4.0）m SI060Aに南部を切られているが、柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 壁高は15～25cmで、ほぼ垂直に立ちあがる。床はほぼ平坦であり、中央部に炉跡がみられ、柱穴はP₁₂～P₁₉が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、一部に貝の小ブロックがみられる。遺物は覆土中より少量出土している。

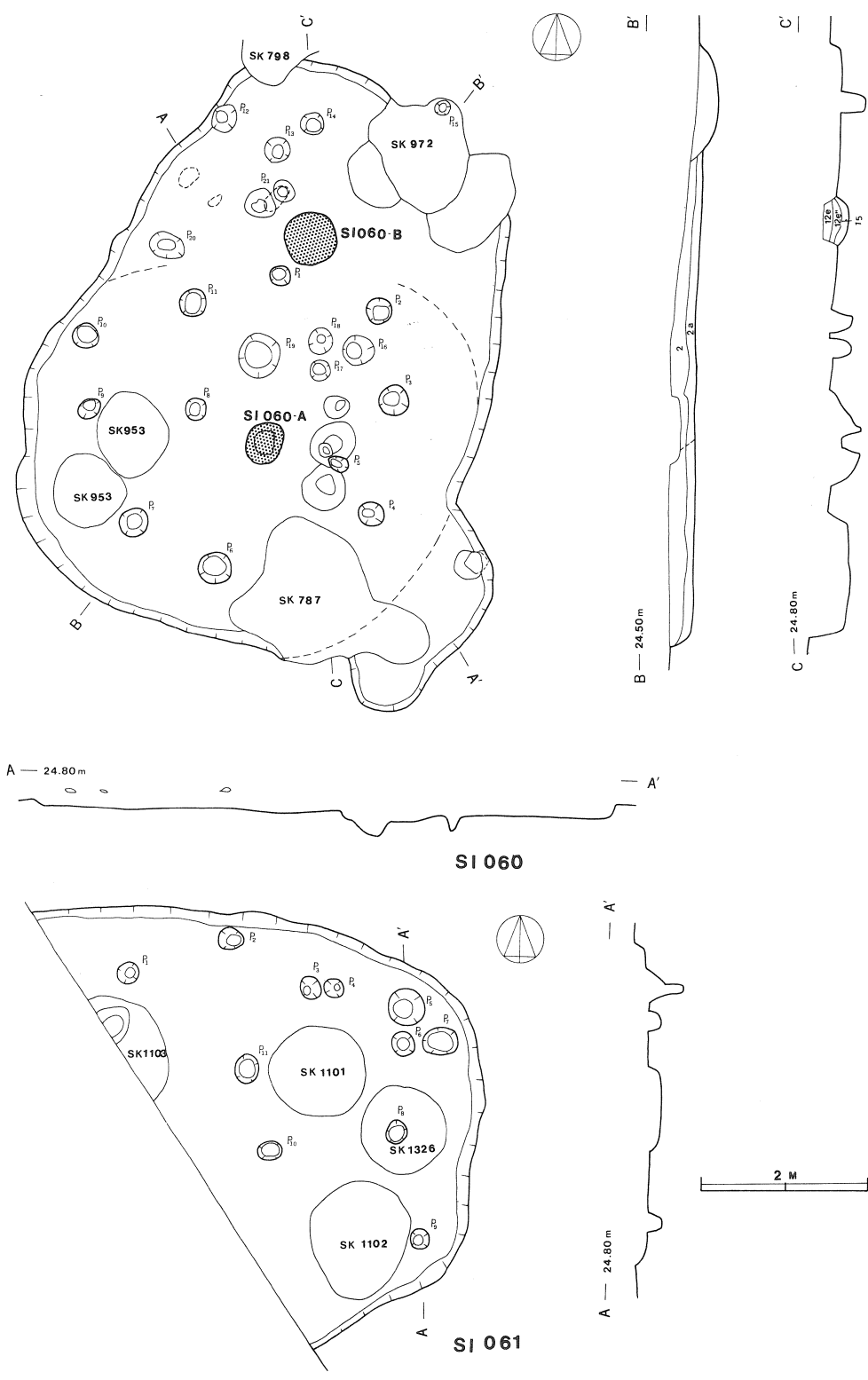
第61号住居跡（第30図） 遺物（第229図）

- a 調査区の南西部（C3j3, D3a3）に位置し、南西部は区域外の道路下にのびる。
- b 推定5.2×5.2m 平面形は南西部が不明であるが、柱穴の配列より隅丸形状と考えられる。
- c 壁高は20～33cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦であり、炉跡は確認されていない。柱穴は10か所ほど確認されているが南西部は不明である。重複するSK1101～1103などは本跡より新しい。
- d 覆土は自然堆積の状況を示すがやや軟質である。遺物は覆土中から少量出土している。

第62号住居跡（第29図）



第29图 第 57 · 59 · 62 号住居跡実測图



第30图 第60・61号住居跡実測図

62 図

- a 調査区の南部 (C4i1・i2) に位置し、北側に SI073 が重複している。
- b 推定 5.4×4.8m 炉跡が 2 か所にみられ、平面形は楕円形状を呈する。
- c 壁はわずかに確認されるが明瞭ではない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡が 2 か所接している。はじめ複合したものと考えたが、整理の段階で単一の住居跡とした。柱穴は 14 か所ほど確認されているが不規則である。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はわずかに覆土中から出土している。

第63号住居跡 (第31図) 遺物 (第229図)

- a 調査区の南部 (C3g8・h9) に位置し、SI064 などと重複している。
- b 推定 5.3×5.0m 平面形は楕円形状を呈していると考えられる。
- c 壁高は 24cm ほどで、北西壁は SK673・680 などに切られて不明である。床はほぼ平坦であるが、土壌による重複が激しい。炉跡は SK799 によって切られている。柱穴は 15 か所ほどみられるが、本跡の柱穴は 10 か所ほどと考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は東側の覆土中から少量出土している。

第64号住居跡 (第31図) 遺物 (第230図)

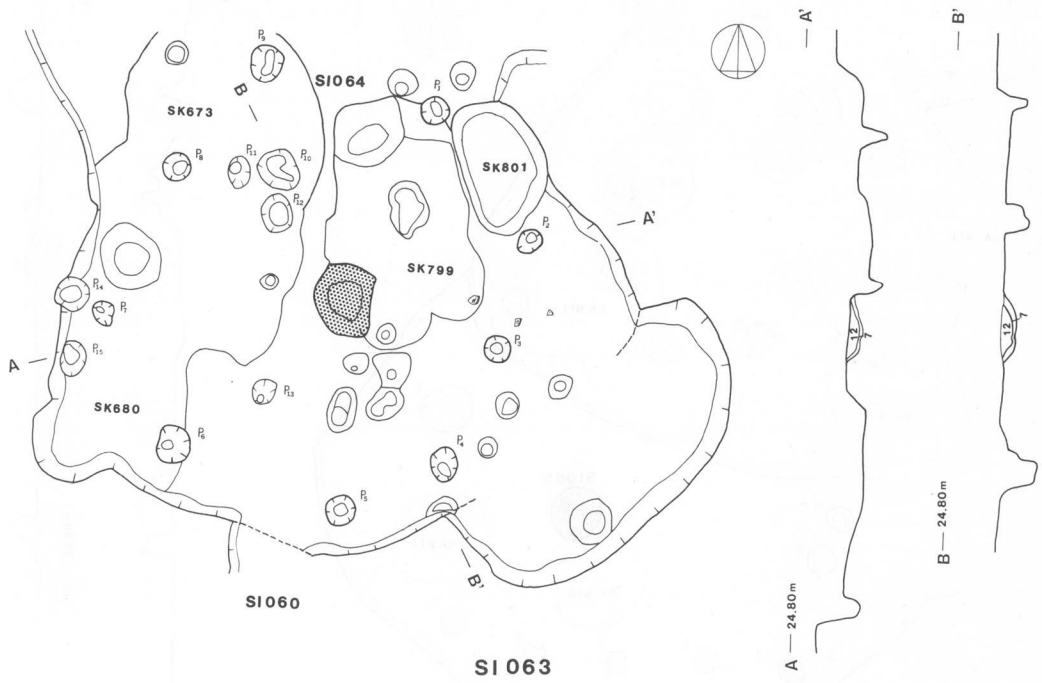
- a 調査区の中央部の南 (C3f8・g9) に位置し、SI049・063 と重複する。
- b 5.9×5.8m 平面形は楕円形状を呈していると考えられる。
- c 壁高は東壁が 24cm であるが、ほかは重複により不明である。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は 13 か所ほど確認されているが、北東部のものは SI049 に伴うものである。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は炉跡内と覆土中に少量出土している。

第65号住居跡 (第32図) 遺物 (第230図)

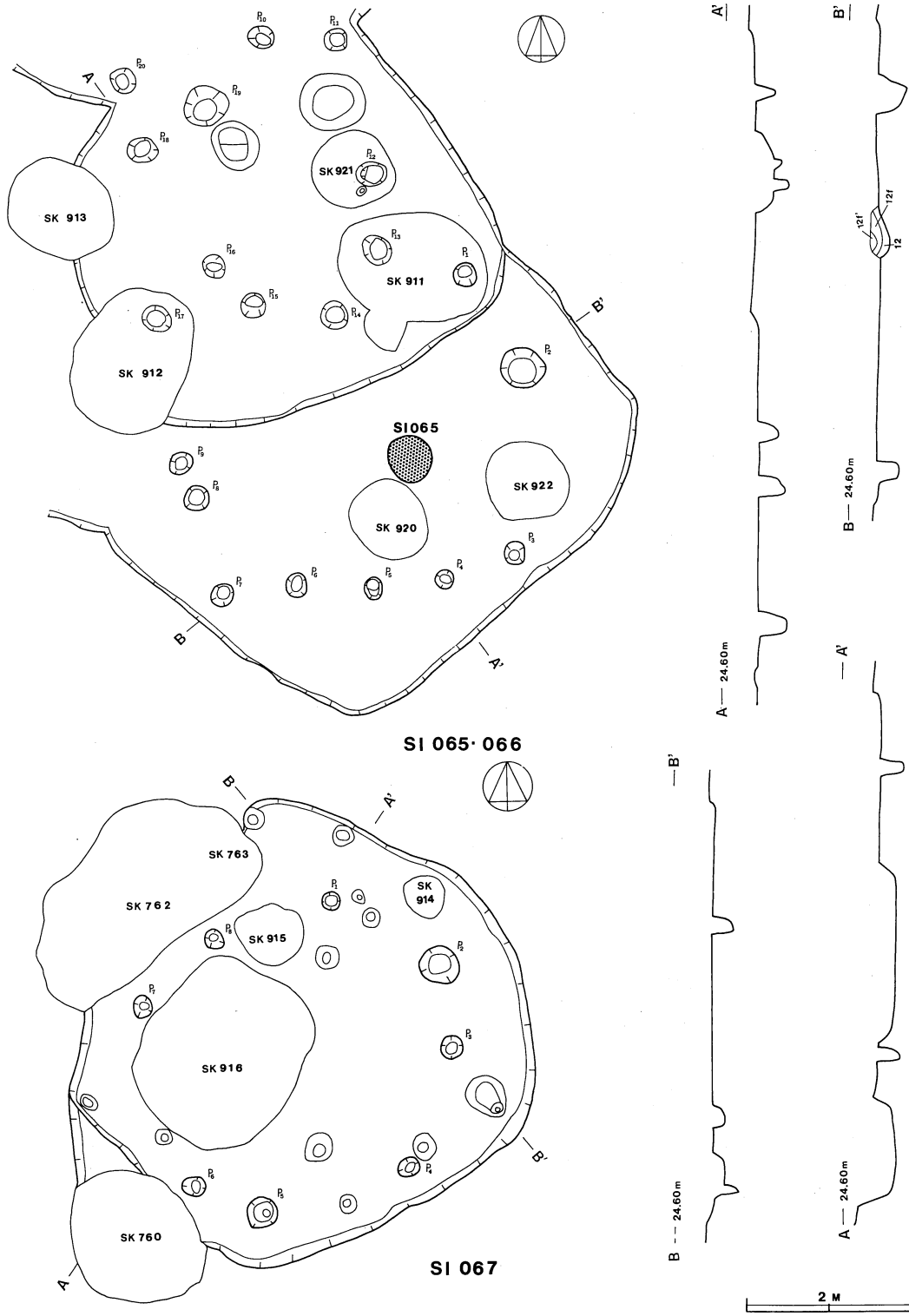
- a 調査区の南東部 (C4g5・h5) に位置し、北西部は SI066 に切られている。
- b 5.75×(4.5) m 平面形は隅丸方形形状と考えられる。
- c 壁高はわずか 5cm ほどで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近に位置し、焼土はそれほど多くないが、皿状に 25cm ほど堆積している。柱穴は P₁~P₉・P₁₄ が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量出土している。

第66号住居跡 (第32図) 遺物 (第230図)

- a 調査区の南東部 (C4g4・g5) に位置し、SI065・038 と重複している。



第31图 第63・64号住居跡実測图



第32图 第65·66·67号住居跡実測图

- b 4.73×4.3m 平面形は隅丸方形を呈する。
- c 壁高は10～15cmで、垂直ぎみに立ちあがり、北壁はSI038と重複しているため不明である。床は平坦であるが攪乱をうけている。炉跡は攪乱のため検出されていない。柱穴はP₁₀～P₂₀が考えられるが、P₁₃～P₁₅はSI065の柱穴の可能性が考えられる。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第67号住居跡（第32図） 遺物（第231図）

- a 調査区の南東部（C4g2・g3）に位置し、北側にSI037が重複している。
- b 5.2×4.5m 平面形は楕円形を呈している。
- c 壁高は10～16cmで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦であるが、北壁および中央部付近にSK916などが重複し、炉跡は確認されていない。柱穴は8～10か所ほどみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどみられない。

第68A号住居跡（第33図） 遺物（第231図）

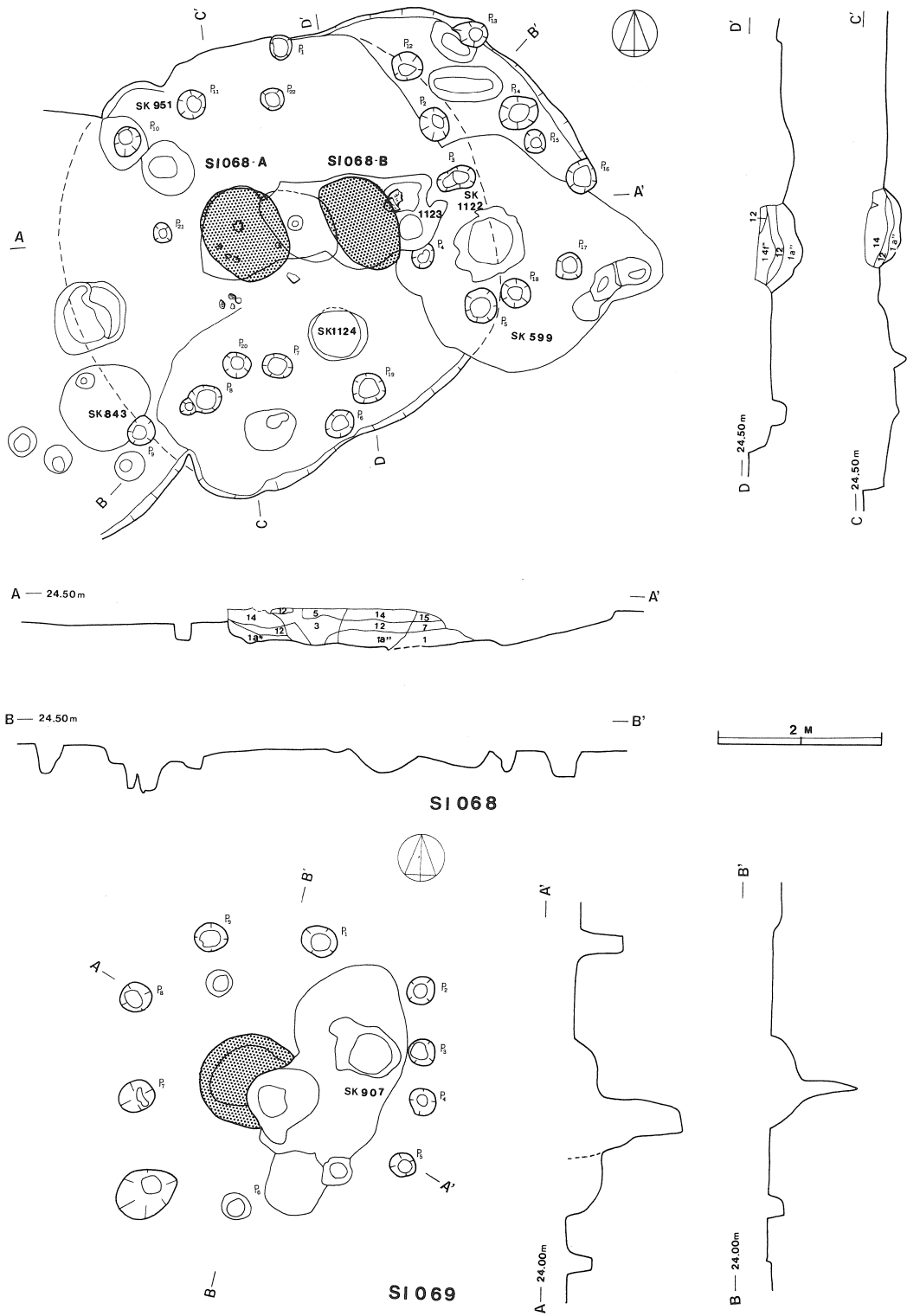
- a 調査区の中央部南（C3f0）に位置し、SI068Bと重複している。
- b 重複のため詳細は不明であるが、柱穴の配列などから推定5.2×5.2mほどの円形状と考えられ、東のSI068Bによってほとんどが切られている。
- c 壁はほとんど現存せず、床はほぼ平坦であるが、土壌などによって攪乱をうけている。炉跡はほぼ中央部に位置している。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は炉跡周辺から少量出土している。

第68B号住居跡（第33図） 遺物（第231・232図）

- a 調査区の中央部南（C3f0, C4f1）に位置し、SI068Aを切って構築されている。
- b 重複のため詳細は不明であるが、柱穴の配列などから推定5.1×4.7mほどの楕円形と考えられる。
- c 壁高は現存部で20～30cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はSK599などによって攪乱をうけているが平坦をなし、中央部に炉跡がみられる。
- d 覆土はやや攪乱をうけているが、遺物は炉跡周辺に少量出土している。

第69号住居跡（第33図）

- a 調査区の東部（C4b7・c7）に位置し、北側にSI054が重複している。
- b 推定5.0×4.6m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。



第33图 第68·69号住居迹实测图

- c 掘り込みが浅いため壁・覆土は不明である。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、円筒状の深いSK906・907によって切られている。柱穴は10か所内外が確認されているが、南側は不明である。
- d 覆土および遺物はほとんど認められない。

第70号住居跡（第34図） 遺物（第232図）

- a 調査区の南西部（C3d2）に位置し、西にSI071が重複し、環状微高帯の内側にみられる。
- b 推定4.5×4.3m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 炉跡はSK1007に切られ、床は硬く、柱穴は10か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第71号住居跡（第35図）

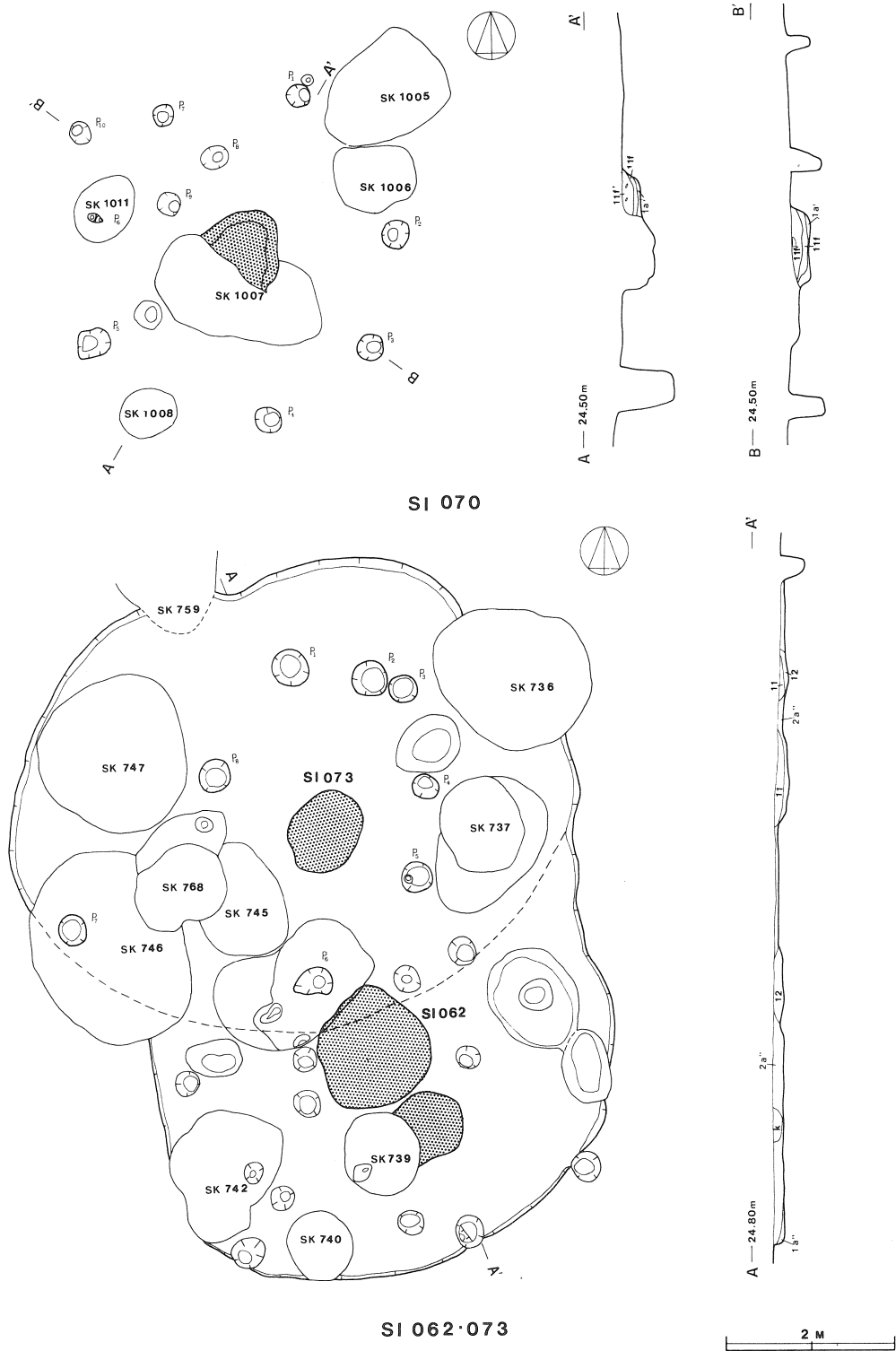
- a 調査区の南西部（C3d1・d2）に位置し、環状微高帯部の内側にみられる。
- b 推定5.5×5.0m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁・床とも不明であり、炉跡と柱穴がわずかに確認された。炉跡は中央部付近に位置し、25cmほど皿状に掘り込まれている。柱穴は15か所ほど検出されているが、P₅・P₈はSI070の柱穴と考えられる。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第72号住居跡（第35図） 遺物（第226・232図）

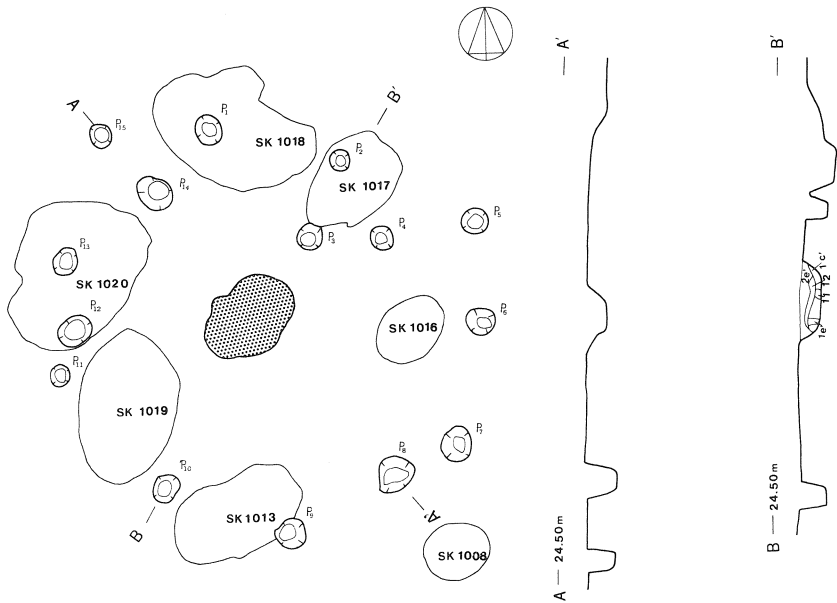
- a 調査区の南部（C3h6・h7）に位置し、北側にはSI074が重複している。
- b 5.7×5.65m 南西部は攪乱を受けているが、平面形は隅丸形状を呈している。
- c 壁高は20cmほどで、外反して立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられ、床を15cmほど皿状に掘り込み、内部には焼土を混入する暗褐色土が堆積している。柱穴は19か所ほどみられるが、あまり規格性を有したものではない。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南東の床面に埋設された深鉢形土器（第226図-5）のほかほとんど出土していない。

第73号住居跡（第34図） 遺物（第233図）

- a 調査区の南部（C4h1・i1）に位置し、SI062と重複している。
- b 6.6×5.1m 平面形は西部がやや張りだす楕円形状を呈している。
- c 壁高は10cm内外で、外反ぎみに立ちあがるが、SK736・747などの重複で不鮮明である。床



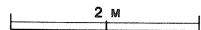
第34图 第62・70・73号住居跡実测图



SI 071



SI 072



第35图 第71・72号住居跡実測图

は平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は8か所ほど確認されているが、壁沿いにはみられず、中央部周辺に位置している。平面形はやや小規模となる可能性が考えられる。

d 覆土は自然堆積の状況を示しているがやや軟質である。遺物は覆土中に少量出土している。

第74号住居跡（第36図）

- a 調査区の中央部南（C3f6・g7）に位置し、環状微高帯南部の内側にみられる。
- b 土壌などの複合が激しいため平面形は不明であるが、柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 壁は確認できず、中央部付近にわずかに炉跡が残存している。柱穴は土壌などの重複によって確認できないものが多く、わずか9か所が検出された。
- d 覆土はほとんど認められず、遺物もほとんど出土していない。

第75号住居跡（第36図） 遺物（第232図）

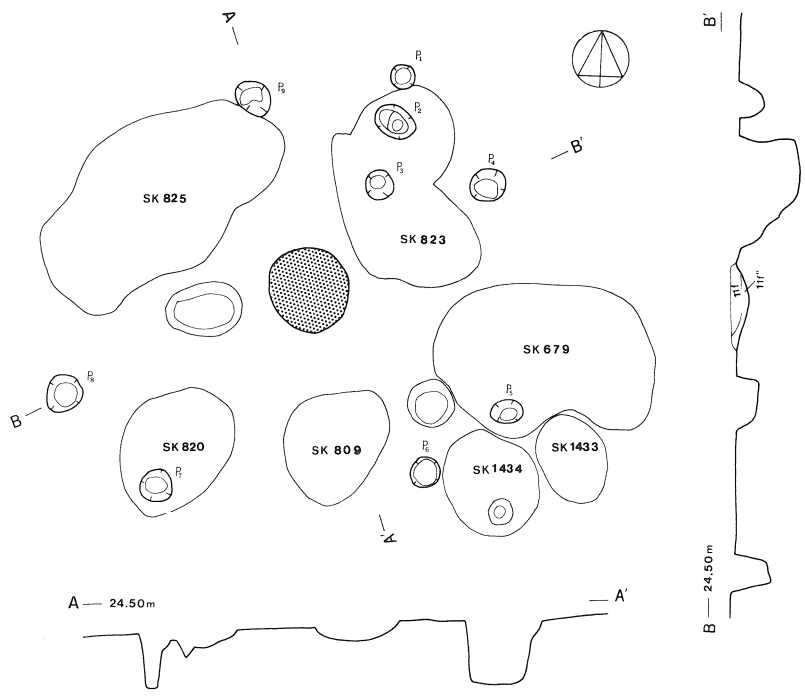
- a 調査区の東部（B4i0・j0）に位置し、SI008・029と重複している。
- b 外形不明。重複が激しいため平面形は不明であるが、柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁は不明である。炉跡はほぼ中央に位置し、柱穴は不明瞭であるが10か所ほど検出されている。
- d 覆土は確認されず、遺物は炉跡内より少量出土している。

第76号住居跡（第37図） 遺物（第233図）

- a 調査区の西部（C2b9・c9）に位置し、西側住居跡群のやや東にみられる。
- b 5.5×4.53m 平面形は隅丸長形状を呈し、長軸方向はN-50°-Wをさす。
- c 壁高は30cmほどで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦であり、炉跡は確認されていない。柱穴は20か所ほど検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、部分的に攪乱をうけている。遺物は北西の覆土中に少量出土している。

第77号住居跡（第37図） 遺物（第226・234図）

- a 調査区の南部（C3g0, C4g1）に位置し、北側にSI068が重複している。
- b 推定6.2×5.2m 平面形は柱穴の配列より隅丸長形状を呈している。
- c 壁高は10～16cmで、垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部のやや西寄りに位置している。柱穴は12か所ほど確認され、P₂・P₄・P₁₂は主柱穴的なものと考えられる。炉跡は床を12cmほど皿状に掘り、焼土は上層にみられるがそれほど多いものではない。



SI 074

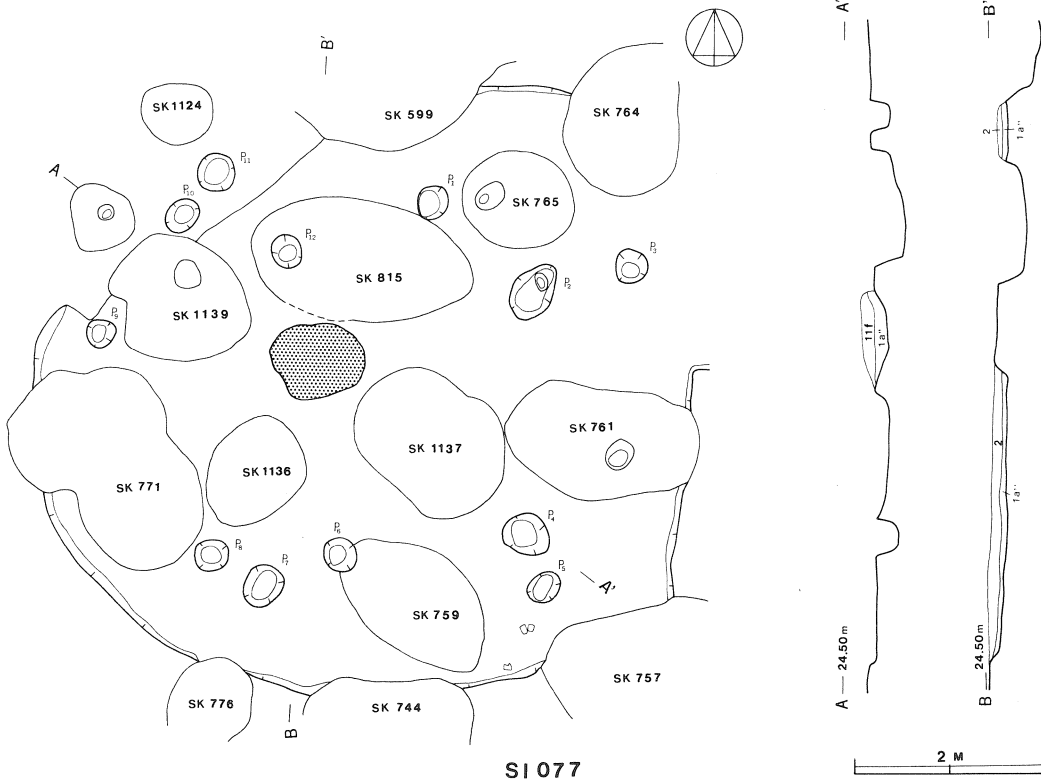


SI 075

第36图 第74・75号住居跡実測図



SI 076



SI 077

第37图 第76・77号住居跡実測图

d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南東の覆土中に少量出土している。

第78号住居跡（第38図） 遺物（第235図）

- a 調査区の南西部（C3i4・j5）に位置し、北西にSI079が重複している。
- b 推定5.8×5.3m 外形は楕円形を呈しているが、柱穴の配列では柄鏡形を呈している。
- c 壁は重複により不明瞭であるが、床はほぼ平坦である。床中央部の東に炉跡がみられ、床を20cmほど掘り込み、焼土はレンズ状に堆積している。柱穴は15～17か所確認され、P₁₁～P₁₄は入口部の施設と考えられる。また、炉跡の北側を切る柱穴は、SI079のものと考えられ、本跡が古い時期のものと考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南側の覆土中に出土している。

第79号住居跡（第38図） 遺物（第234図）

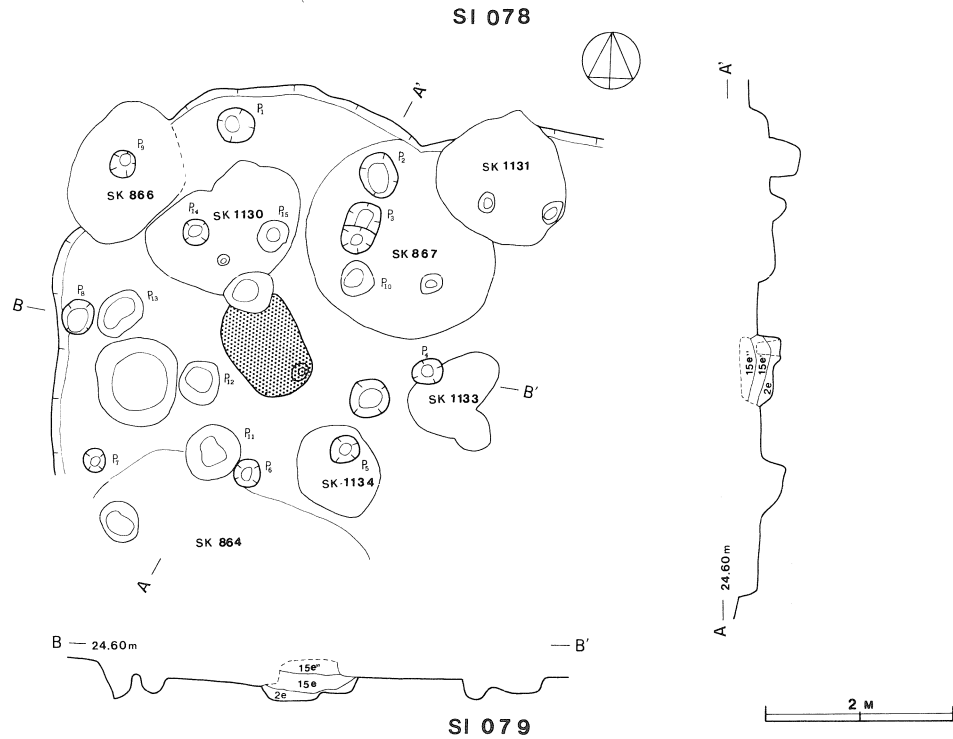
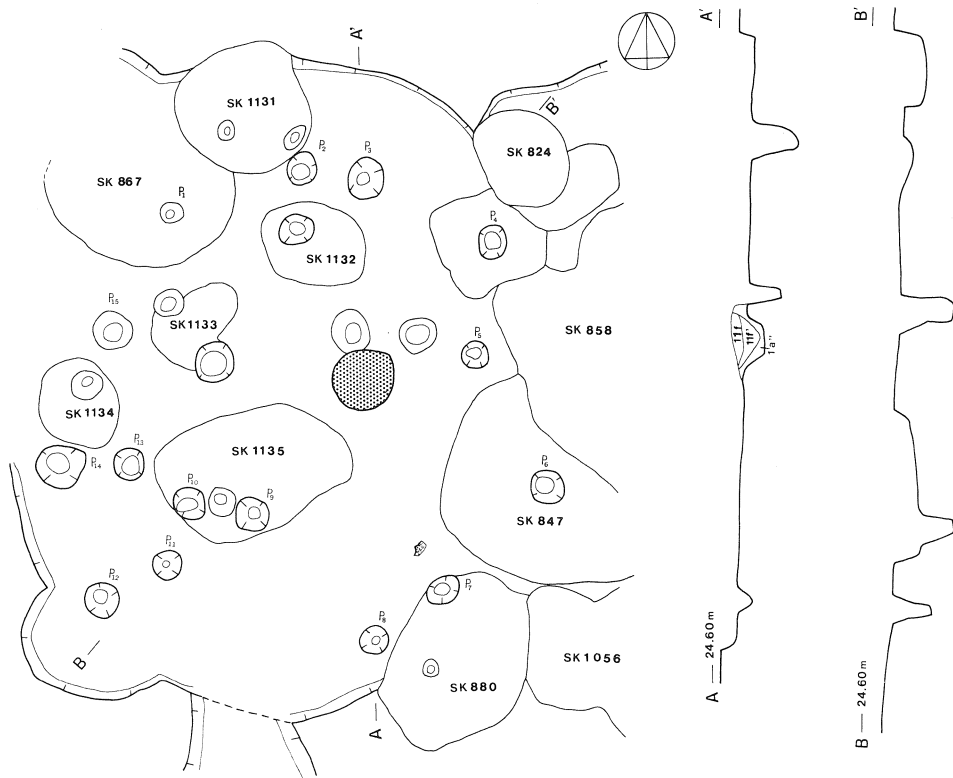
- a 調査区の南西部（C3i3・i4）に位置し、SI078と重複している。
- b 推定5.2×4.4m 平面形は楕円形と考えられる。
- c 壁は不明瞭であるが、20cmほどの高さを有して外反ぎみに立ちあがる。床は平坦であるが、かなり攪乱をうけている。炉跡は床中央部に位置し、平面形は長方形を呈しているが焼土の量は少ない。柱穴は10か所ほど確認され、主柱穴としては中央の4か所が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第80号住居跡（第39図） 遺物（第236図）

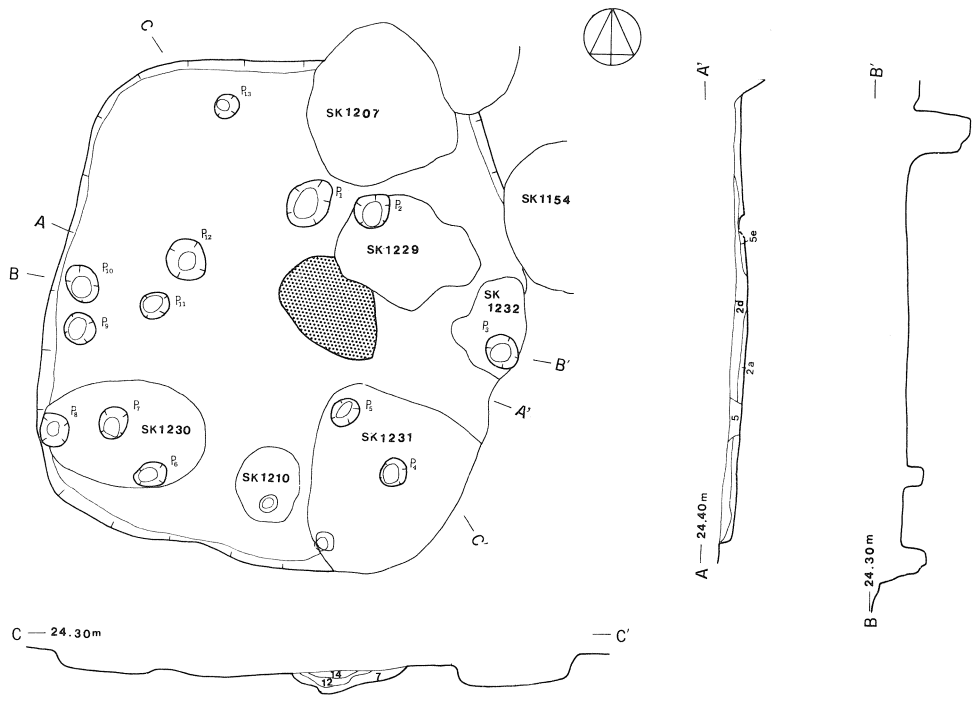
- a 調査区の北西部（B2e6・f6）に位置し、SI118と重複し、南方には住居跡はみられない。
- b 5.2×4.96m 平面形は隅丸方形を呈し、長軸方向はN-3°-Eをさす。
- c 壁高は14～28cmで、西壁が高く、東壁が低い。床はほぼ平坦で、中央部のやや東寄りに炉跡がみられる。柱穴は13か所ほどみられ、北西コーナーと南側は攪乱をうけている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部付近の床面および覆土中に多く出土している。

第81号住居跡（第39図） 遺物（第237図）

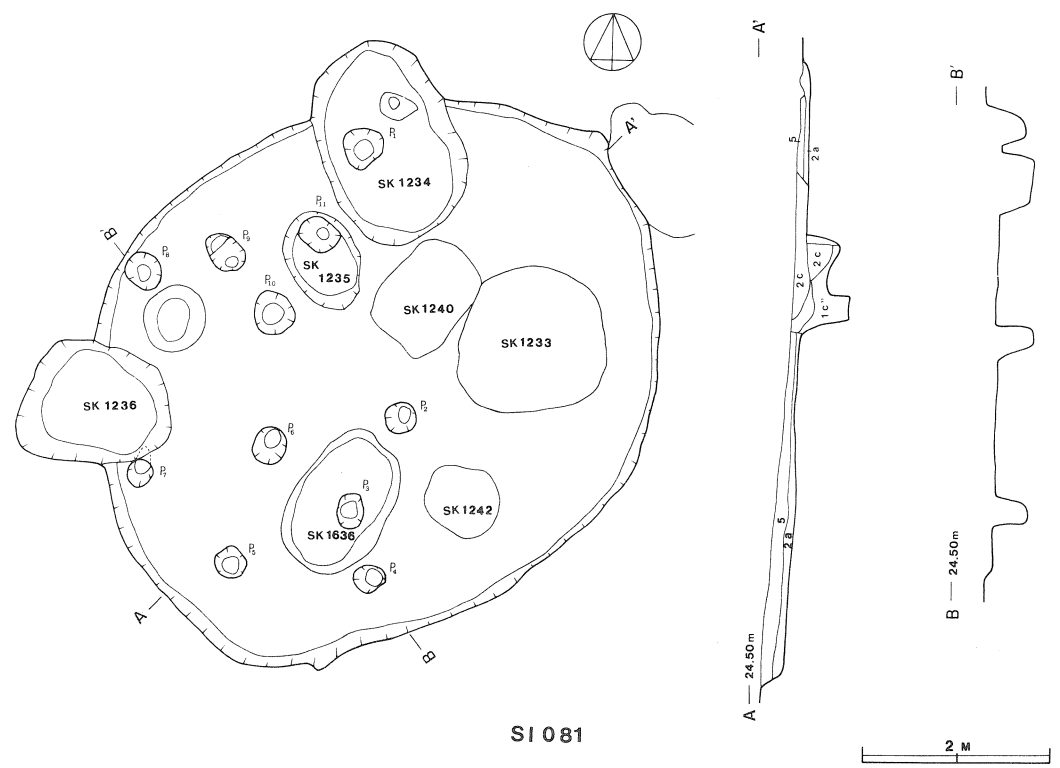
- a 調査区の北西部（B2d5・d6）に位置し、SI118と重複し、西にSM1がみられる。
- b 6.47×5.42m 平面形は楕円形を呈し、長軸方向はN-53°-Eをさす。
- c 壁高は12～24cmで、南西部がやや高い。床は平坦で、北東にやや張りだしているが炉跡は確認されていない。柱穴は11か所ほど検出され、東床部にはSK1233が重複し、円筒状に2.2mほど掘り込まれている。



第38图 第78・79号住居跡実測图



SI 080



SI 081

第39图 第80·81号住居迹实测图

d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北西側の覆土中に少量出土している。

第82号住居跡（第40図） 遺物（第238図）

- a 調査区の北西部（B2a5・b5）に位置し、SI100・101と重複している。
- b 推定5.3×4.7m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いことと住居等の重複によって壁は確認できない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられるがSK1622・1623によって東西の各一部が切られている。柱穴は12か所ほど確認され、P₁₁～P₁₅はSI100・101の柱穴と考えられる。
- d 覆土はわずかに認められ、遺物は覆土中に少量出土している。

第83号住居跡（第40図） 遺物（第238図）

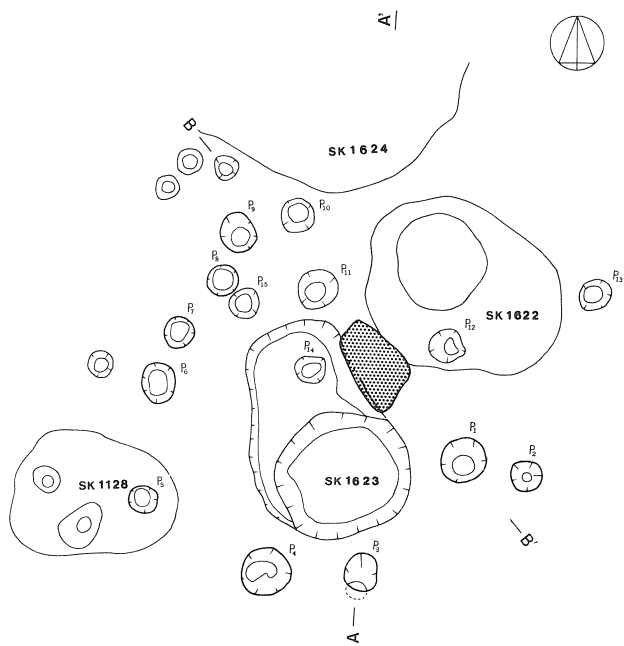
- a 調査区の北西部（B2b7・c7）に位置し、住居跡群の内側にみられる。
- b 5.6×5.5m 平面形は隅丸方形を呈し、長軸方向はN-28°-Eをさす。
- c 壁高は17～20cmで、外反ぎみに立ちあがり、南西壁は高く、北壁は低い。床は若干起伏がみられ、中央部に炉跡がみられる。柱穴は17か所確認され、P₁～P₁₇は壁沿いに位置し、P₄・P₁₀・P₁₂・P₁₄は炉跡を四角に囲んだ主柱穴と考えられる。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量出土している。

第84号住居跡（第41図） 遺物（第239図）

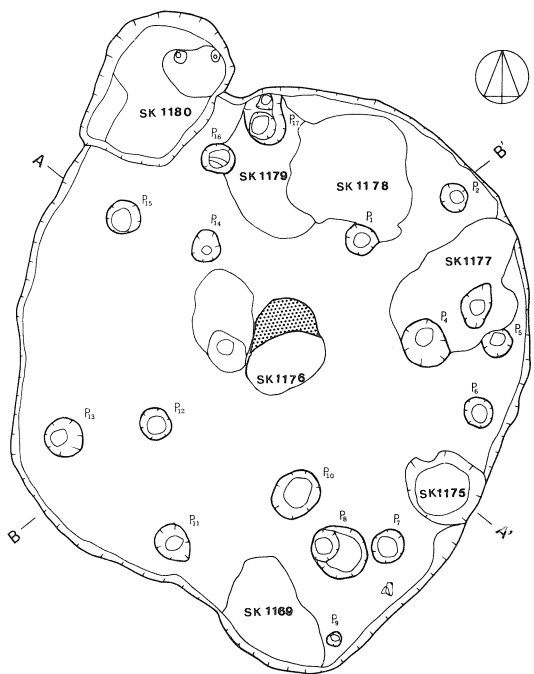
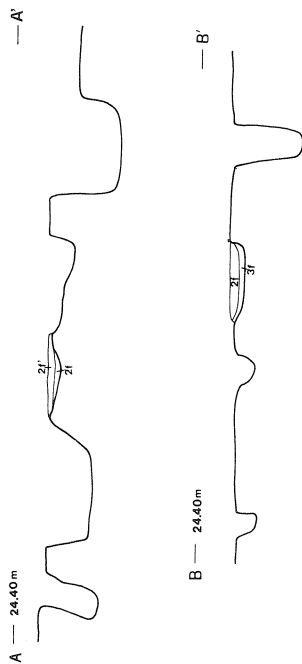
- a 調査区の北々西部（A3i3・j3）に位置し、北東は区域外に接する。
- b 5.65×4.9m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-66°-Eをさす。
- c 壁高は12～18cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に長方形の炉跡がみられ、規模は1.45×1.2mで、床は18cmほど掘り込まれている。主柱穴はP₁～P₅・P₇・P₉が考えられ、そのほかは補助的な柱穴であると考えられる。重複した土壌群はほとんど本跡より新しいものである。
- d 覆土はやや軟質であるが自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第86号住居跡（第41図） 遺物（第239図）

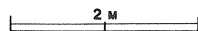
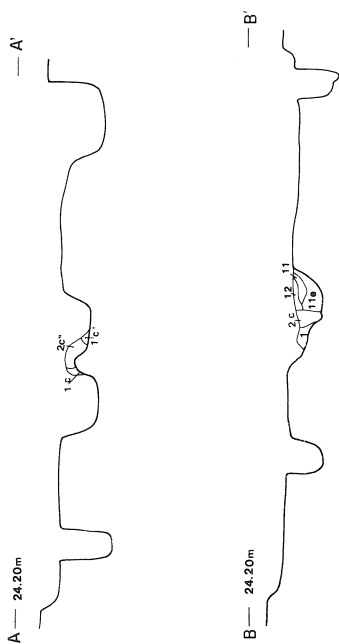
- a 調査区の南西部（C2f0・g0）に位置し、南・西の住居跡群の中間にみられる。
- b 5.56×5.5m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-36°-Eをさす。
- c 壁高は14～22cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられ、床を15cmほど掘り込み、焼土はそれほど多いものではない。柱穴は12か所ほどみられ、P₂とP₈



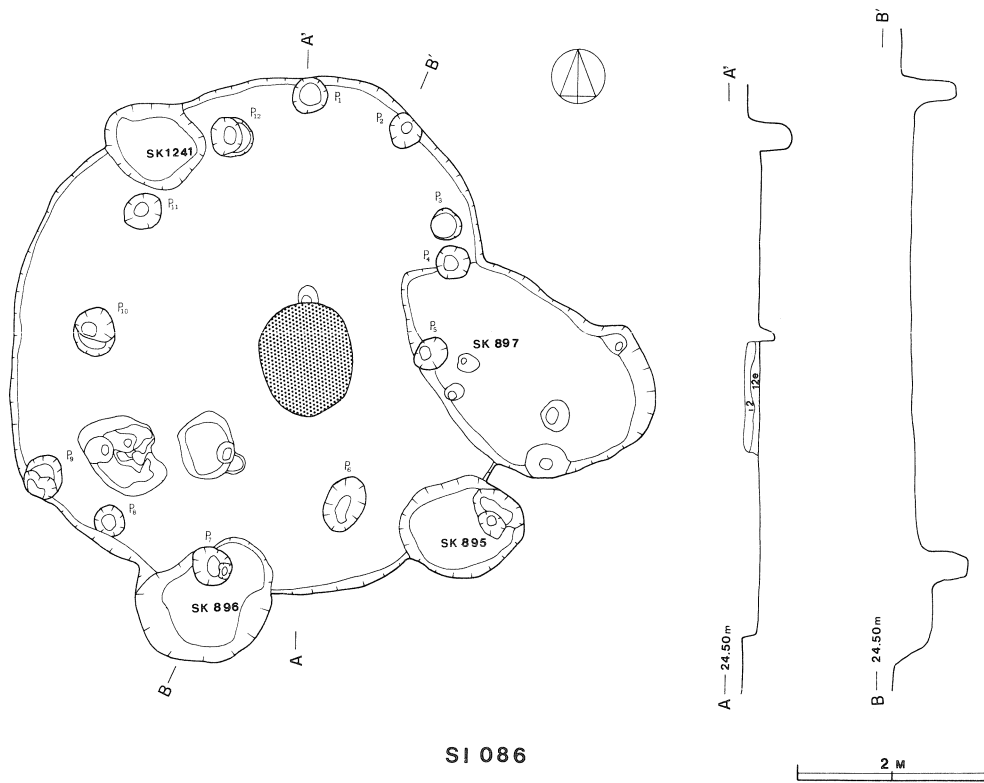
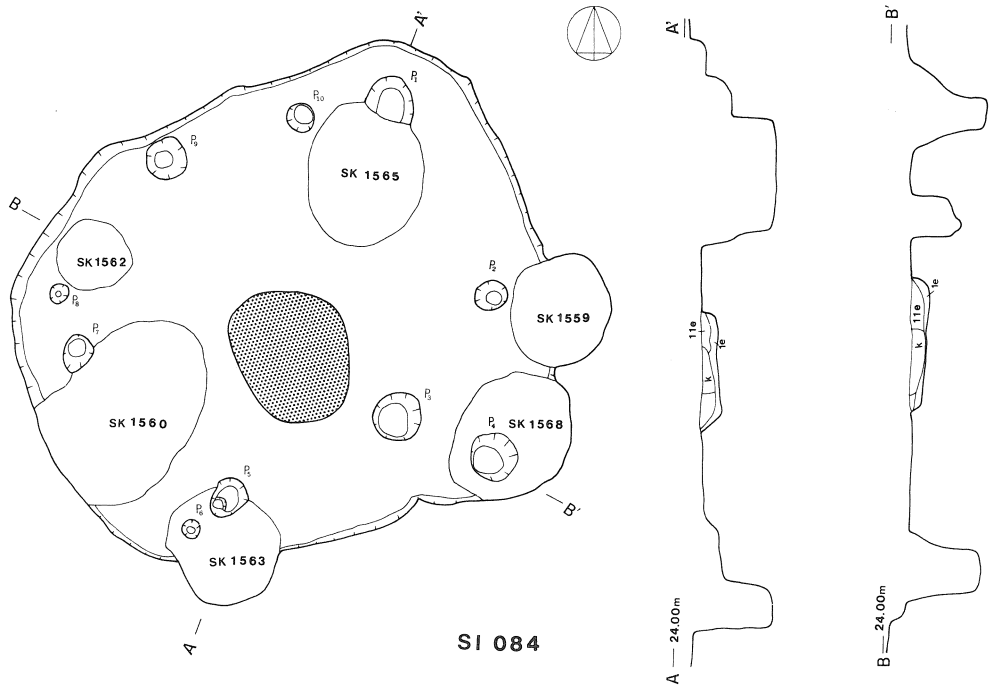
SI 082



SI 083



第40图 第82·83号住居迹实测图



第41图 第84·86号住居迹实测图

を結ぶ直線に対して左右対象である。

d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はきわめて少量である。

第87号住居跡（第42図） 遺物（第226・240図）

- a 調査区の北部（B3a5・a6）に位置し、SI088と重複し、北東部は区域外にのびる。
- b SI088と同様に北東部は区域外にのび、平面形は不明である。
- c 壁は不明瞭で、ゆるやかに立ちあがり、床は平坦であるがやや軟質である。炉跡は確認されず、柱穴はP₁～P₄が確認されているにすぎない。
- d 覆土は篠根などの攪乱をかなりうけているため不鮮明である。遺物は床面から少量出土している。

第88号住居跡（第42図）

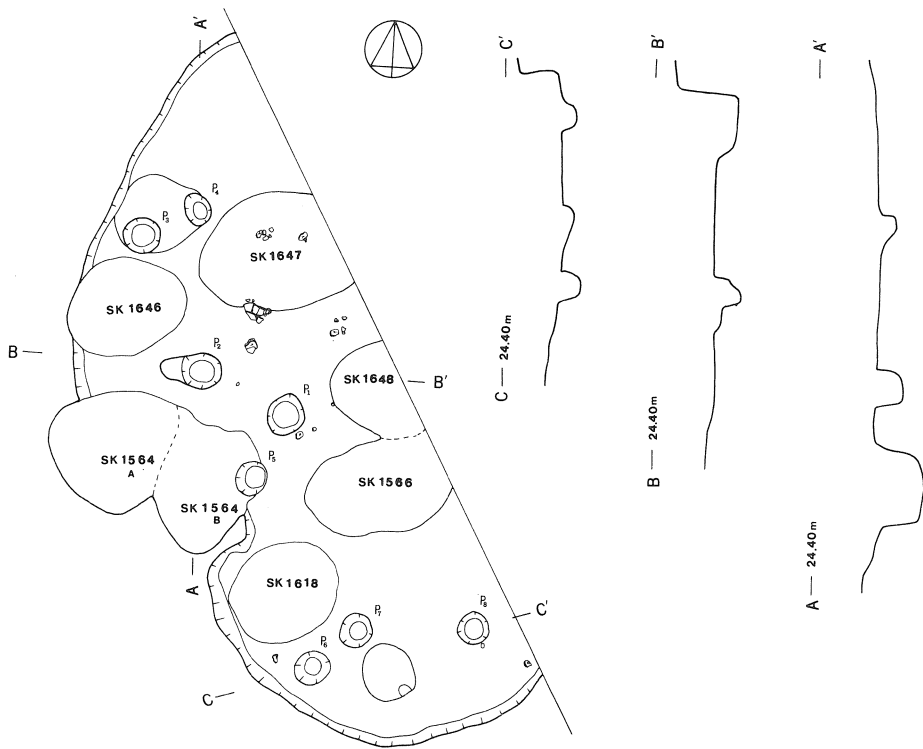
- a 調査区の北部（B3a5・b6）に位置し、北東部は区域外のため未調査であり、SI087と重複している。
- b 平面形は楕円形状を呈すると考えられる。
- c 壁高は低くゆるやかに立ちあがる。床はほぼ平坦であり、炉跡は確認されていない。柱穴はP₁・P₅～P₈がみられる。
- d 覆土は薄く、遺物はほとんどみられない。

第89号住居跡（第42図）

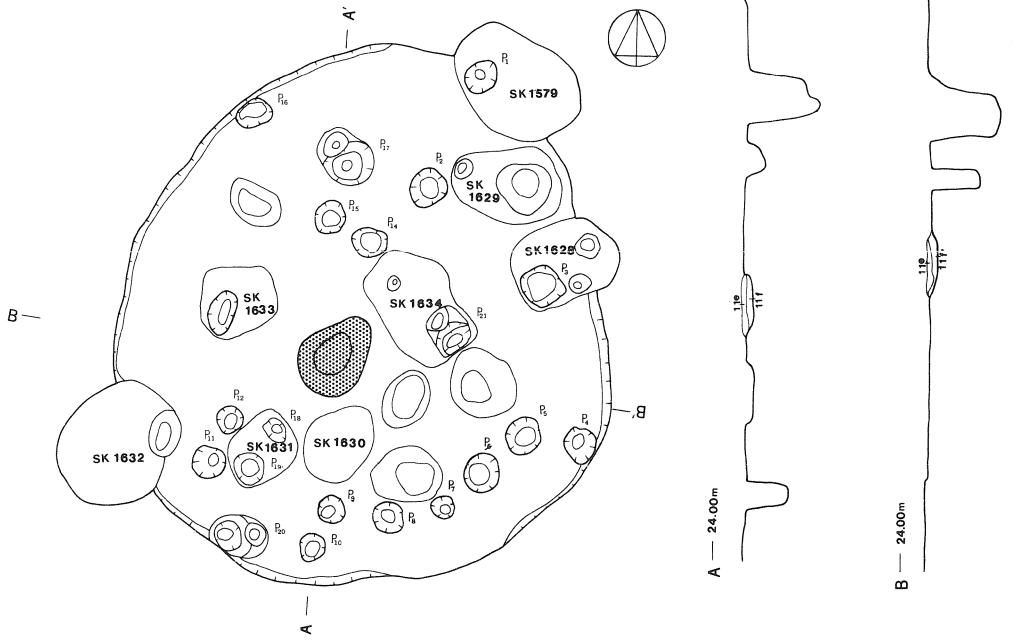
- a 調査区の北西部（A3i1・j1）に位置し、ほかの住居跡群より環状微高帯の内側にみられる。
- b 5.5×5.4m 平面形は北側がやや張りだす楕円形を呈し、長軸方向はN-41°-Eをさす。
- c 壁はほとんど認められず、床はほぼ平坦であるが攪乱を多くうけている。炉跡は床中央部付近に位置し、床をわずかに掘り込んでいる。柱穴は17か所が確認され、P₉～P₁₂は入口部と考えられる。
- d 覆土はわずか5cmほどで、遺物はほとんど出土していない。

第90号住居跡（第43図） 遺物（第240・241図）

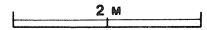
- a 調査区の北々西部（A3h3）に位置し、北西のSI091に切られている。
- b 北東部は区域外にのびるため外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁は南部が16cmほどであるが、そのほかは重複のため不明である。床は平坦であるがSK1591などに切られている。炉跡はほぼ中央部に位置し、柱穴は8～10か所が確認されている。



SI 087-088



SI 089



第42图 第87・88・89号住居跡実測图

- d 覆土は薄く、かなり攪乱をうけている。遺物は覆土および床から出土している。

第91号住居跡（第43図） 遺物（第226・242図）

- a 調査区の北々西部（A3g2・g3）に位置し、南にSI090が重複している。
- b 5.82×(5.2)m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-37°-Wをさす。
- c 壁高は15cmで、外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、炉跡は中央部に位置している。柱穴は23か所が確認され、P₇・P₁₀・P₁₂~P₂₁はやや壁沿いにみられ、P₁~P₆・P₈~P₁₁・P₁₉は炉跡を「コ」の字状に囲み、P₂・P₅はその中に位置している。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中より出土している。

第92号住居跡（第44図） 遺物（第243図）

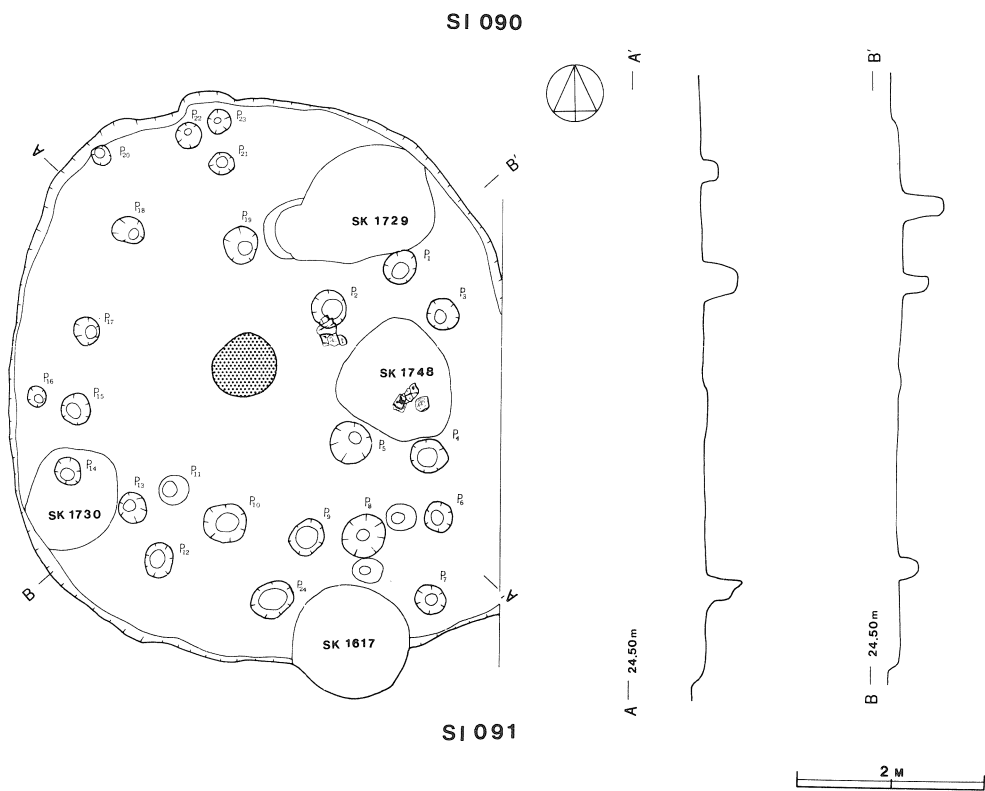
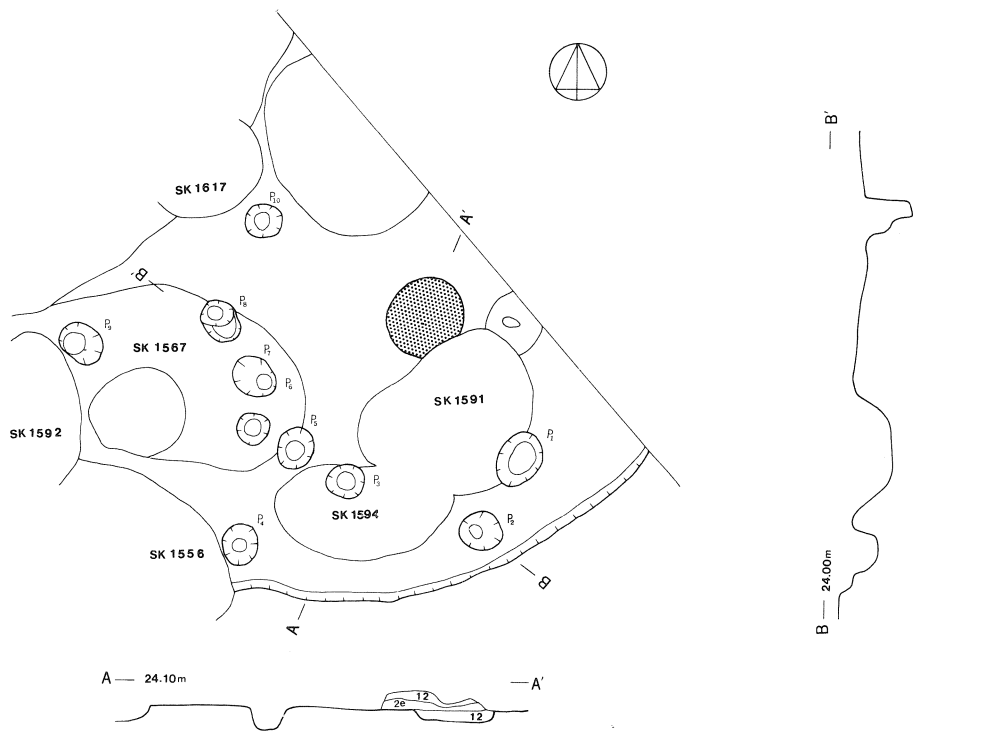
- a 調査区の北々西部（A3e1・f1）に位置し、SI094と重複している。
- b 5.2×4.8m 平面形は台形状を呈している。
- c 壁高は28cmほどで、西壁は重複のため不明である。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、SK1584によって切られている。柱穴は13か所ほど確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北側の覆土中に少量出土している。

第93号住居跡（第44図） 遺物（第226図）

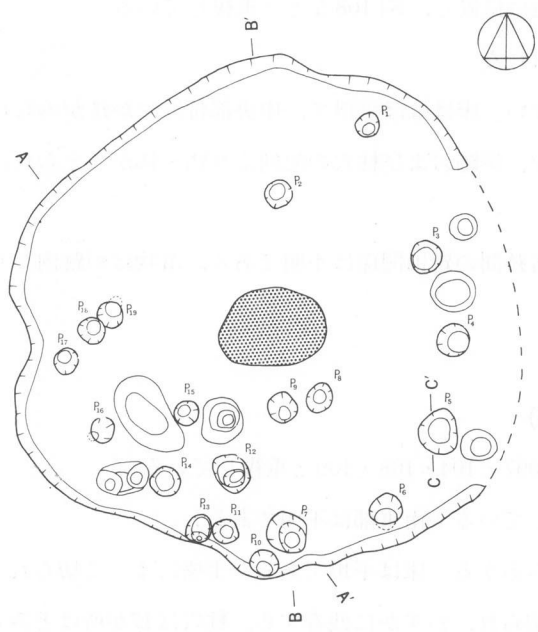
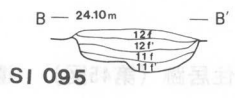
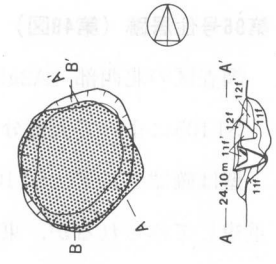
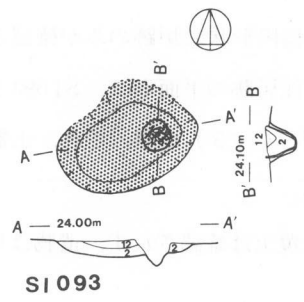
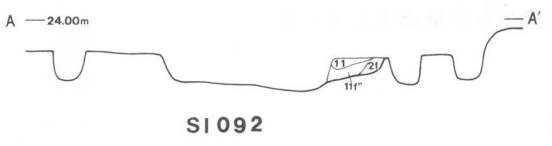
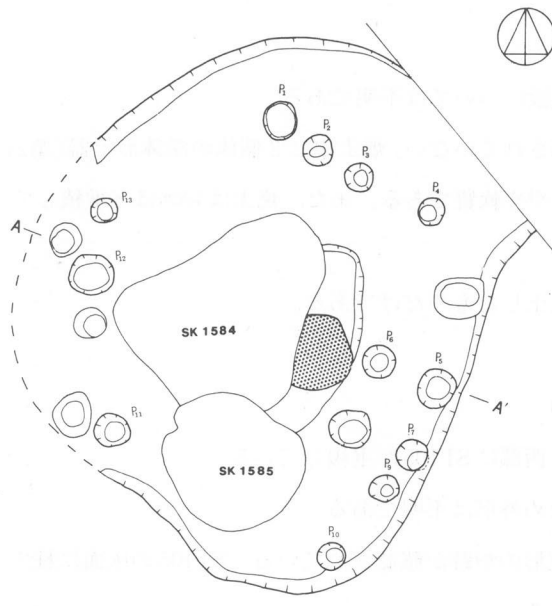
- a 調査区の北々西部（A2d9）に炉跡が検出されている。
- b 長方形の炉跡のみ確認され、他の施設については不明である。
- c 住居の平面形は確認されず、炉跡と埋設された深鉢形土器（第226図-11）が出土している。
- d 覆土は確認されず、住居跡ではない可能性も考えられるが、炉跡の存在から住居跡とした。

第94号住居跡（第44図） 遺物（第244・245図）

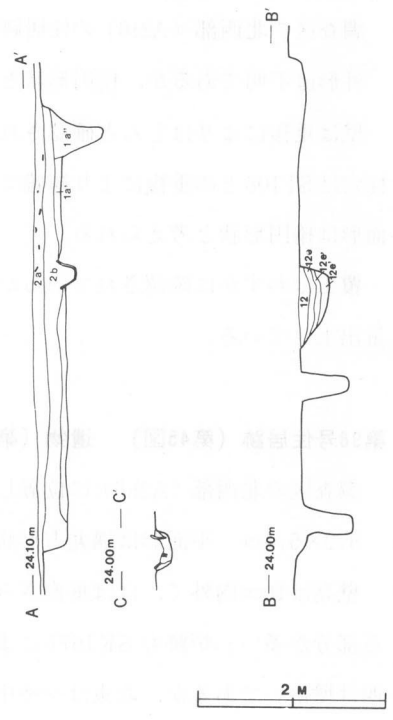
- a 調査区の北々西部（A2f0・e0）に位置し、SI092と重複している。
- b 5.2×5.0m 平面形は隅丸方形を呈している。
- c 壁高は18~24cmで、ほぼ垂直に立ちあがるが、北~西壁の一部は攪乱をうけて不明である。床は平坦であるが中央部がややくぼみ、炉跡はほぼ中央部に位置している。炉跡は床を30cmほど掘り込み、焼土はかなり堆積している。柱穴は19か所確認されたが北西部は不明である。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、南西部床に埋設土器（第245図-3）のほか、遺物は覆土中に多くみられる。



第43图 第90・91号住居跡実測图



SI 094



第44图 第92·93·94·95号住居跡実測図

第95号住居跡（第44図） 遺物（第244図）

- a 調査区の北西部（A2f8）に位置している。
- b 楕円形状の炉跡のみが確認され、他の施設については不明である。
- c 住居跡の平面形は、SI 093と同様に確認されていない。焼土中に2個体の深鉢形土器（第244図—4・5）が埋設され、土器内の埋土はやや軟質である。また、焼土は40cmほど堆積している。
- d 覆土は確認されず、遺物は炉跡内から出土したものだけである。

第96号住居跡（第49図） 遺物（第245図）

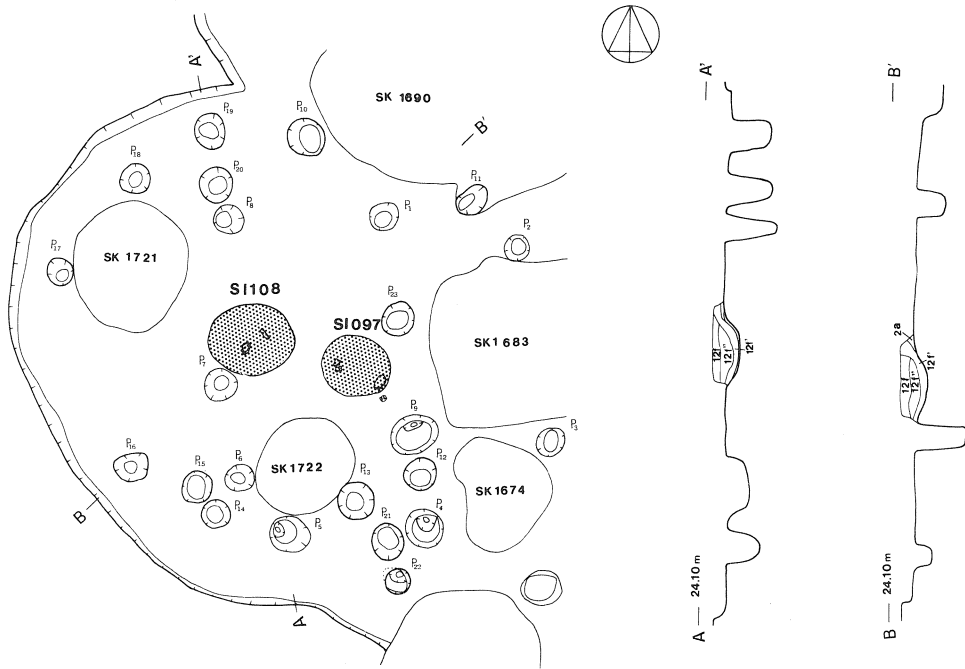
- a 調査区の北西部（A2g9・h9）に位置し、西部にSI 105が重複している。
- b SI 105によって大部分が切られているため外形は不明である。
- c 壁は確認されず、SI 105の東壁部に不定形の炉跡が確認されている。SI 105の床面に柱穴が重複してみられるが、東側部は不鮮明である。
- d 覆土はほとんど認められず、遺物は炉跡内から少量出土している。

第97号住居跡（第45図） 遺物（第247図）

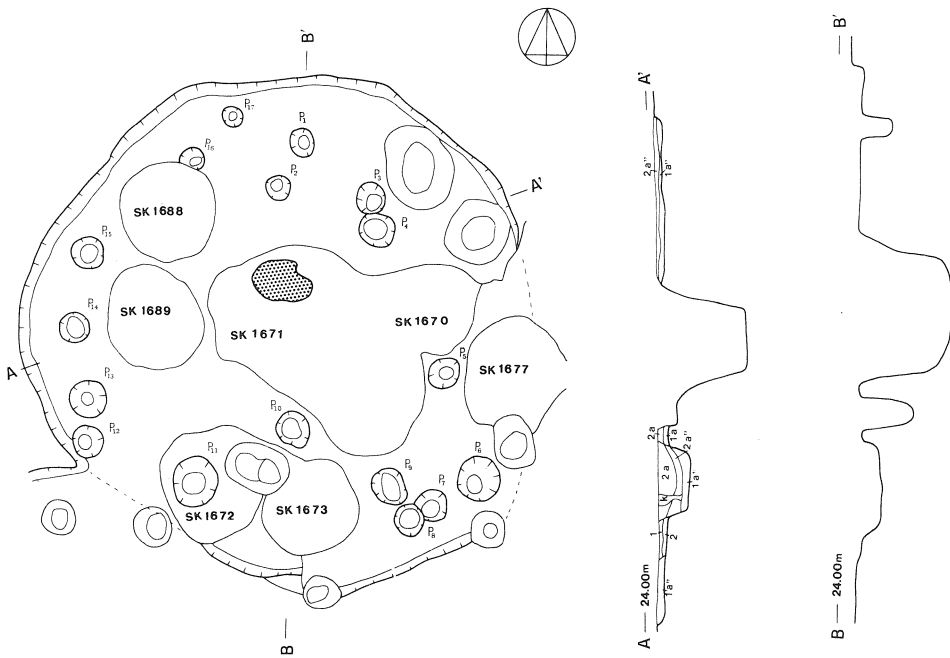
- a 調査区の北西部（A2i6）の住居跡密集地に位置し、SI 108などと重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形状と考えられる。
- c 壁は重複によりほとんど確認されていない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴はSI 108との重複により複雑であるが、炉跡および柱穴の配列よりP₁～P₉が考えられ、平面形は楕円形状と考えられる。
- d 覆土はわずかに確認されているが、住居跡間の新旧関係は不明である。遺物は炉跡内より少量出土している。

第98号住居跡（第45図） 遺物（第246図）

- a 調査区の北西部（A2h6）に位置し、SI 097・104・108・109と重複している。
- b 5.2×5.0m 平面形は隅丸方形状を呈しているが南東部は不明である。
- c 壁高は10cm内外で、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦であるが土壌によって切られている部分が多い。炉跡もSK 1671によって切られ、わずかに残存する。柱穴は17か所ほどみられ、西は壁沿いであるが、北東はやや中央寄りにあり、南東はやや外にはりだしている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどみられない。



SI 097·108



SI 098

2 M

第45图 第97·108·98号住居跡実測图

第99号住居跡

- a 調査区の北西部 (A2j7) に位置している。
- b 外形は不明である。
- c 土壌の重複が激しい地区で、わずかに炉跡の焼土が検出された。そのほかほとんど不明である。

第100号住居跡 (第46図)

- a 調査区の北西部 (B2b5・b6) に位置し、SI082・101 と重複している。
- b 推定6.0×5.5m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 壁は南壁の一部が残存しているが明確でない。床は平坦で、中央部付近に円形の炉跡が位置し、南西1.7mにSI082の炉跡がみられる。柱穴は8～11か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第101号住居跡 (第46図) 遺物 (第246・247図)

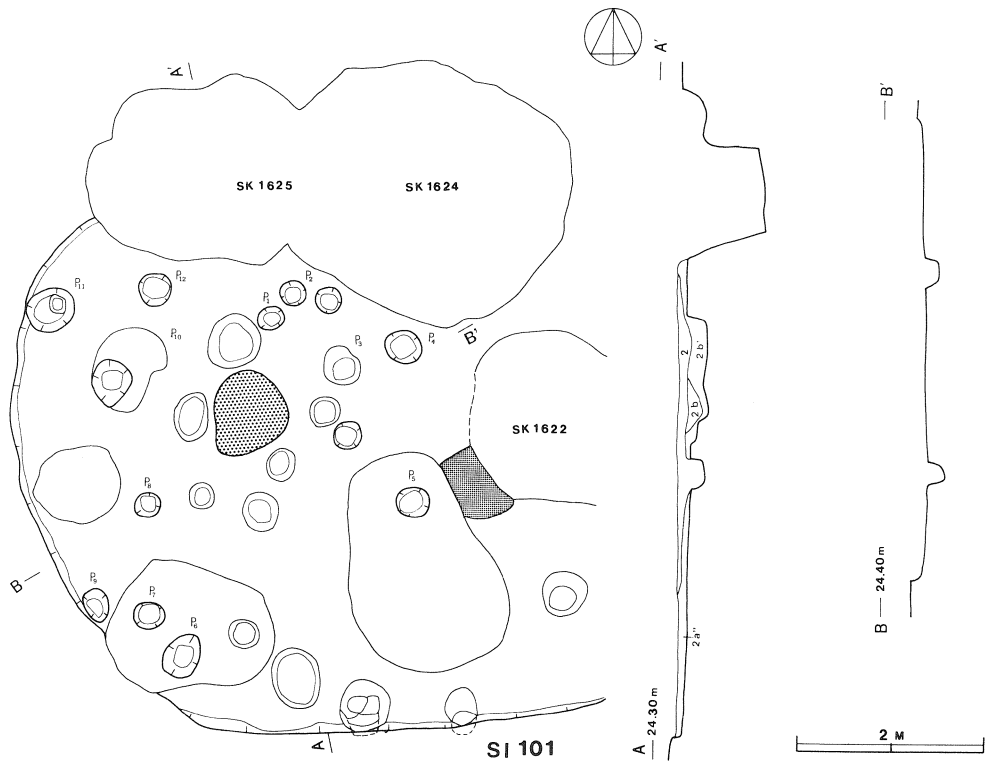
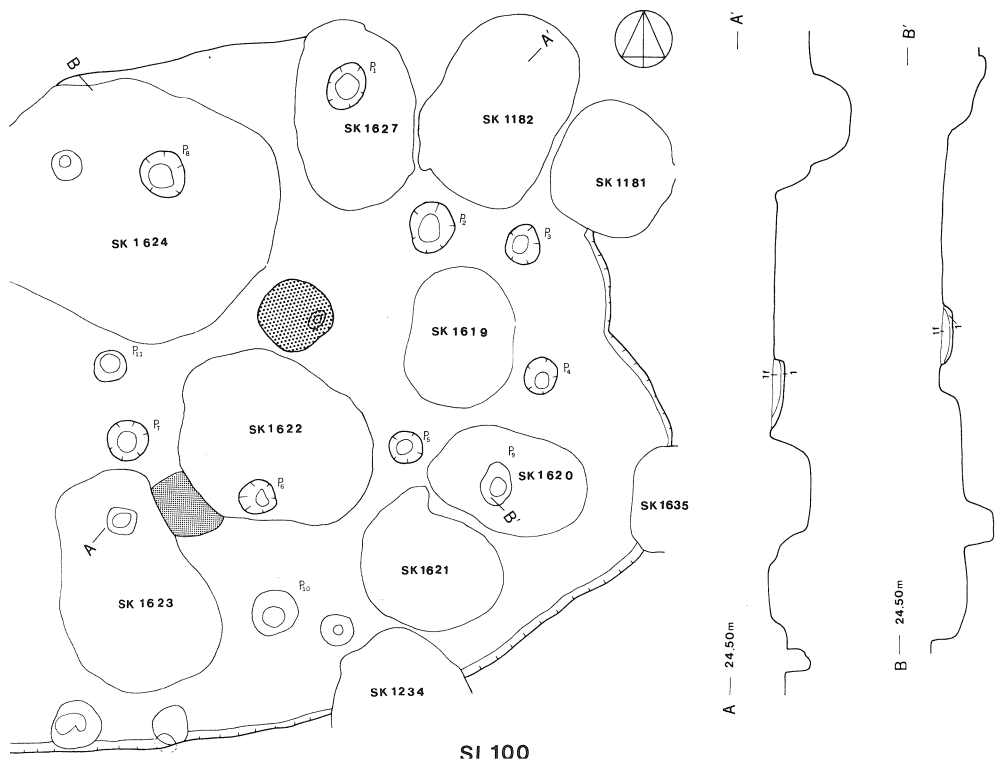
- a 調査区の北西部 (B2b4・c5) に位置し、SI082・100 と重複している。
- b 推定5.9×5.1m 平面形は楕円形状を呈している。
- c 壁高は10cm内外で、ほぼ垂直ぎみに立ちあがるが、東壁部は重複のため確認できない。床は平坦で、中央部に炉跡が位置し、その周囲にSI082の柱穴がみられる。炉跡は攪乱をうけていないが、SI082より古い時期のものと考えられる。柱穴は10～13か所検出されている。
- d 覆土は暗褐色土が一層認められ、遺物は覆土中から少量出土している。

第102号住居跡 (第47図) 遺物 (第248・249図)

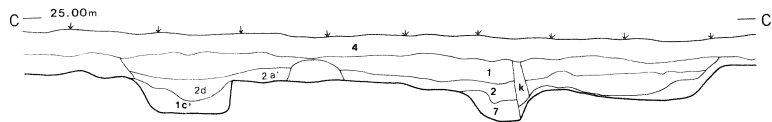
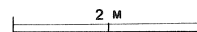
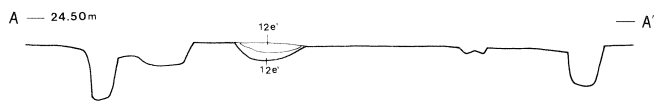
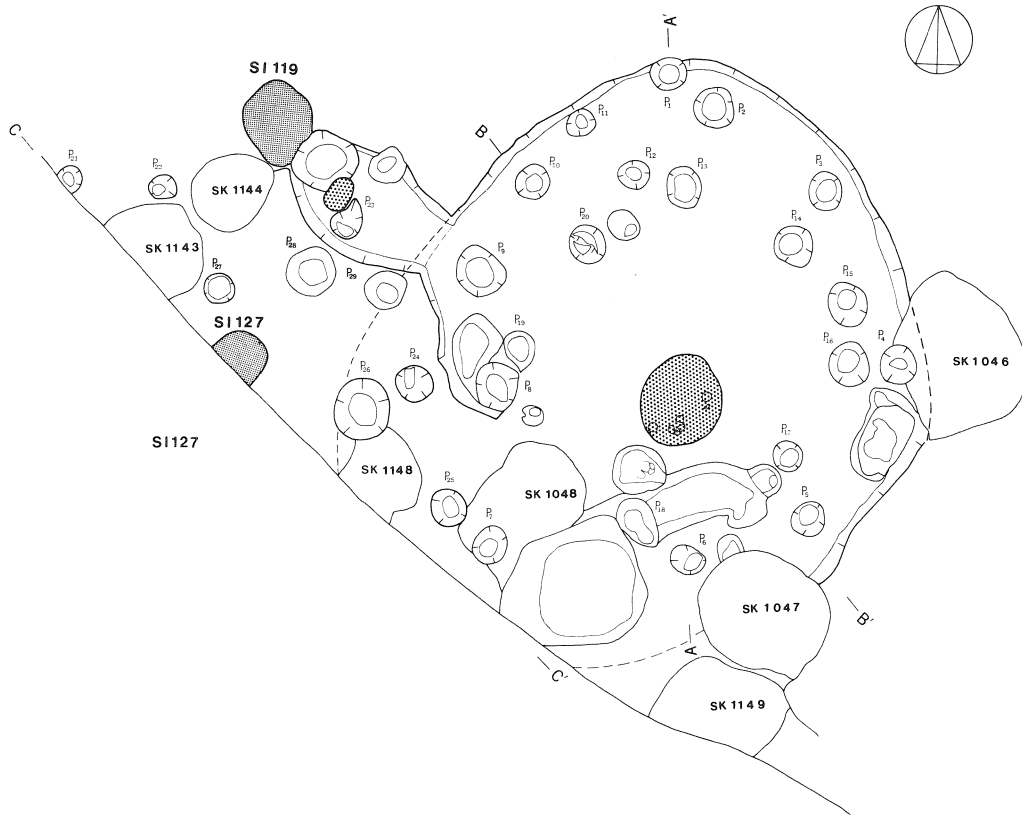
- a 調査区の西部 (C2c7・e7) に位置し、SI119・127 と重複している。
- b 5.4×4.8m 平面形は隅丸方形を呈し、長軸方向はN-49°-Wをさす。
- c 壁は第2層を12～18cm掘り込んで構築されている。床は平坦で、中央やや南寄りに炉跡が位置している。柱穴は20か所ほど確認され、P₁～P₁₁は壁沿いに廻り、P₁₂～P₂₀は炉跡を囲むようにその内側にみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど覆土中より出土している。

第103号住居跡 (第48図) 遺物 (第250図)

- a 調査区の北西部 (B2a7・a8) に位置している。
- b 4.93×4.6m 平面形は円形を呈している。



第46图 第100・101号住居跡実測図



SI 102·127

第47图 第102·127号住居跡実測图

- c 壁高は22cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、SK1183によって一部が切られている。柱穴はP₁～P₁₀が壁沿いに廻り、P₁₁～P₁₅は炉跡を囲むように検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は少量出土している。

第104号住居跡（第48図） 遺物（第250図）

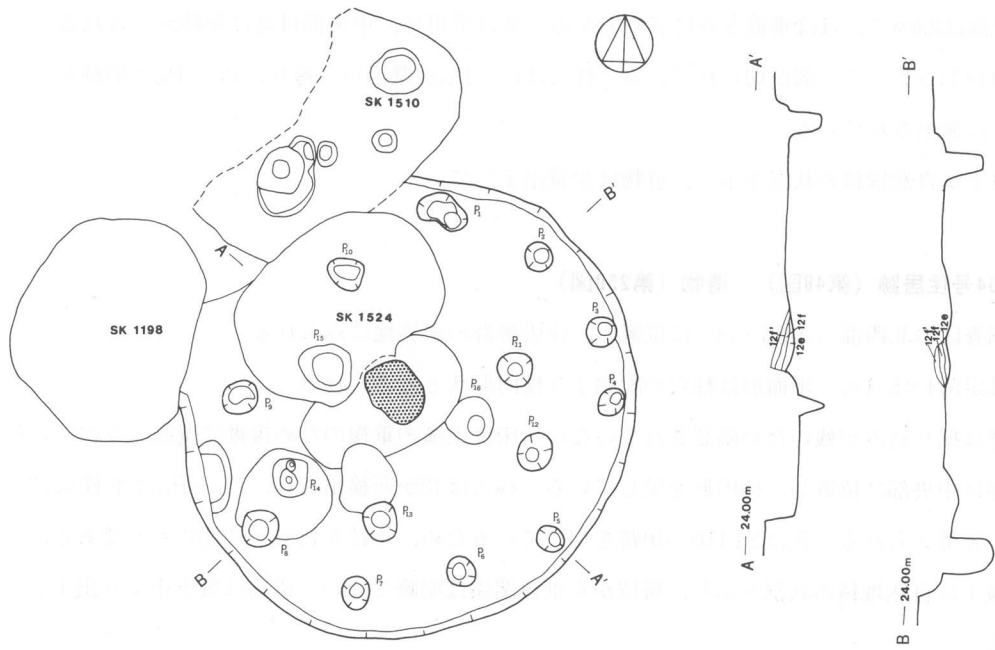
- a 調査区の北西部（A2h7・i8）に位置し、住居跡群の密集地にみられる。
- b 推定5.1×5.1m 平面形は柱穴の配列より楕円形状と考えられる。
- c 壁は掘り込みが残いため確認されていない。床は土壌の重複のため複雑に攪乱をうけている。炉跡は中央部に位置し、楕円形を呈している。柱穴は13か所検出され、P₁₀～P₁₃は支柱穴的なものと考えられる。P₃はSI110の炉跡を切っているため、本跡が新しい時期のものである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、層位から重複関係は明瞭でない。遺物は覆土中より出土している。

第105号住居跡（第49図） 遺物（第251図）

- a 調査区の北西部（A2g8・h9）に位置し、SI096・110と重複している。
- b 5.2×4.7m 平面形は楕円形を呈し、柱穴の配列は柄鏡状を呈している。
- c 壁高は16～24cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦をなし、中央部付近に円形の炉跡がみられる。柱穴は重複のため多くみられ、P₁～P₃・P₁₇～P₁₉は入口部の施設と考えられ、P₃～P₁₆は壁沿いに検出されている。東部のP₂₁～P₂₇はSI096の柱穴と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南東の覆土および床面から出土している。

第106号住居跡（第50図） 遺物（第252～255図）

- a 調査区の北西部（A2j5, B2a5）に位置し、南にSI107が重複している。
- b 5.5×4.6m 平面形は円形を呈するが、柱穴などの配列から柄鏡状と考えられる。
- c 壁高は37～41cmで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央のやや南東に位置し、北側に2か所の深い柱穴がみられる。柱穴は壁沿いに30か所ほど円形に廻り、南西のものは中心に向かってゆるい傾斜を示している。SI107の一部を入口部の施設とすれば長軸は8.2mほどである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部の覆土中に集中して出土している。また、北側のP₁₃とP₁₄の間には土器（第255図）が埋設され、その上にも土器（第252～254図）が出土している。

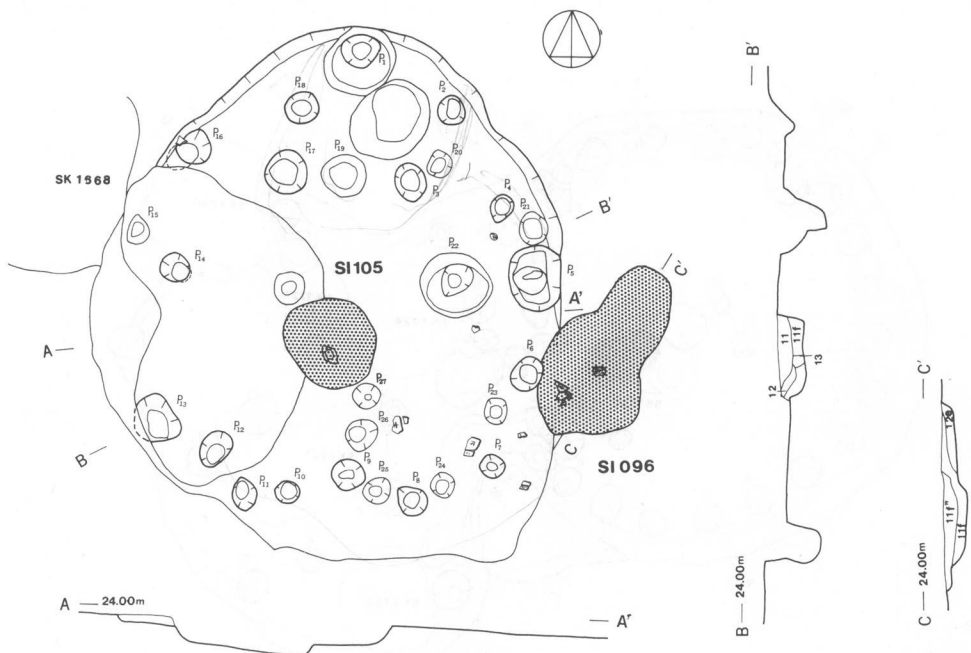


SI 103

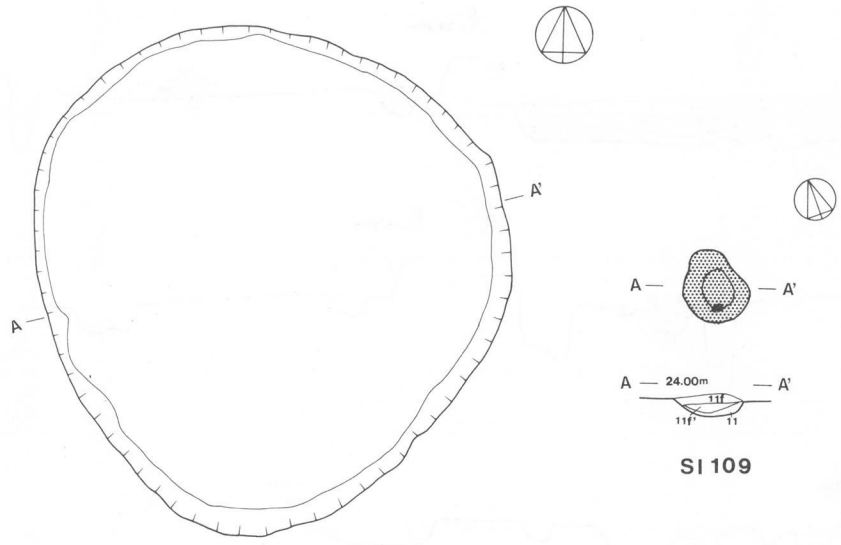


SI 104

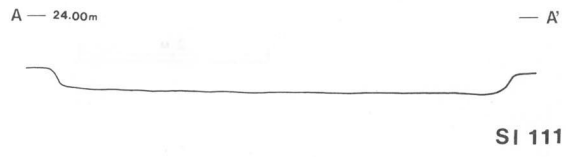
第48図 第103・104号住居跡実測図



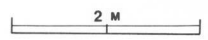
SI 096-105



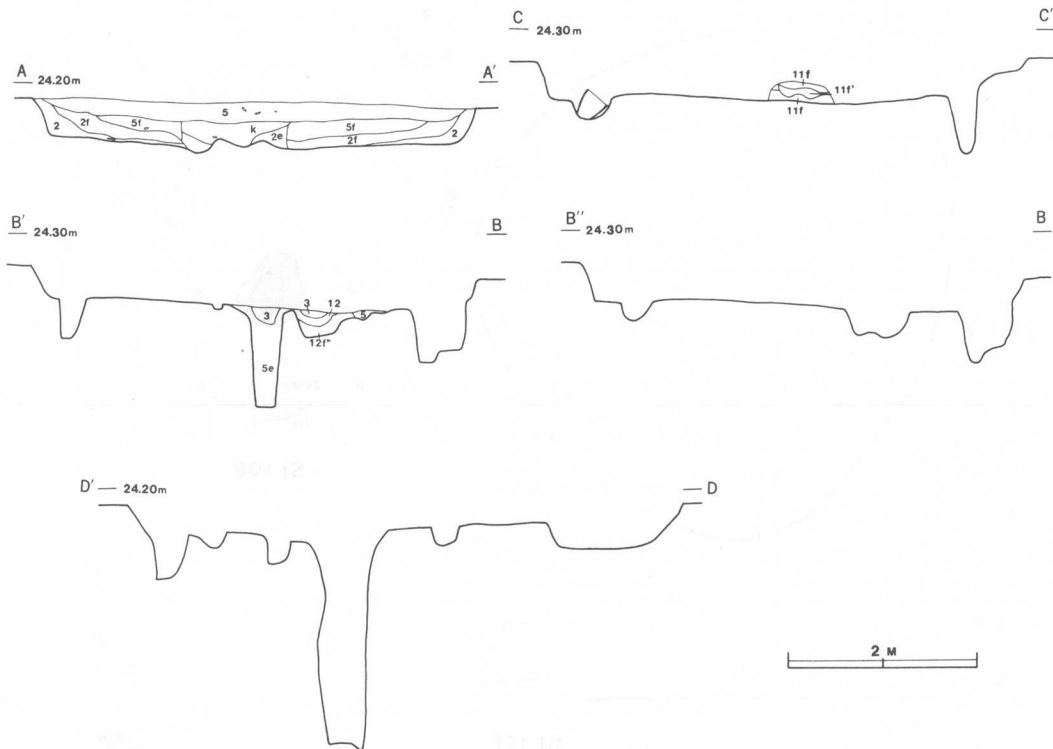
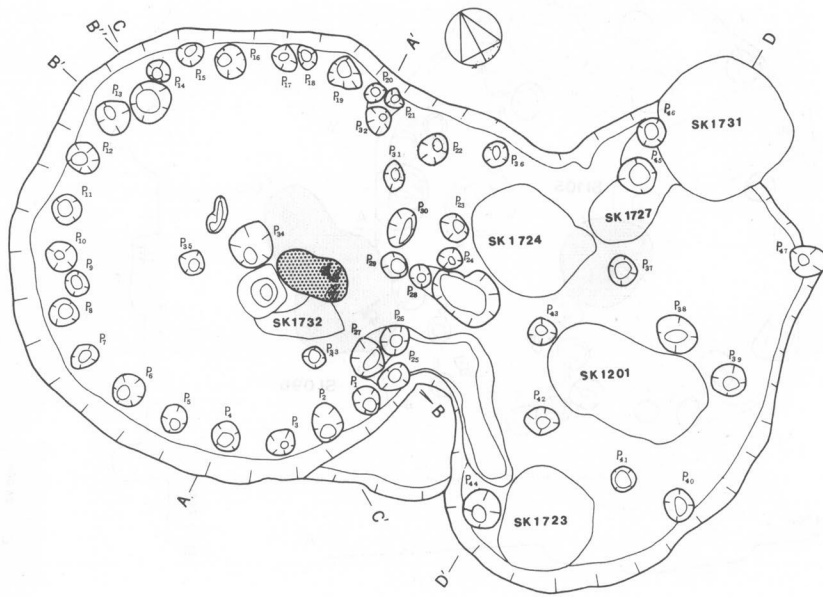
SI 109



SI 111



第49图 第 96 · 105 · 109 · 111 号住居跡実測図



第 106 · 107 号住居跡実測図

第107号住居跡（第50図） 遺物（第255・256図）

- a 調査区の北西部（B2a5・a6）に位置し、SI106の南に重複している。
- b 5.2×3.3m 平面形は隅丸長形状を呈し、中央部に深さ2.4mほどのSK1201がみられる。
- c 壁高は30cm内外で、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、北にSI106から続く溝状の掘り込みが壁沿いに1.7mほどみられる。柱穴は11か所ほどみられ、P₃₇～P₄₃は入口部の施設かと考えられ、SI106の入口部に続く様相を呈し、SI106に付属する施設とも考えられる。
- d 覆土はSI106とほぼ同一のものであり、遺物は覆土中から出土している。

第108号住居跡（第45図） 遺物（第257図）

- a 調査区の北西部（A2i6）に位置し、SI097・098と重複している。
- b 推定5.6×5.2m 平面形は楕円形と考えられる。
- c 壁高は10～14cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡が位置し、その北西に少量の貝が投棄されたSK1721がみられる。柱穴はP₁₀～P₂₀が円形状に確認されている。P₂₄はSI097の炉跡下にみられることから、SI097より古い時期のものと考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は炉跡内から少量出土している。

第109号住居跡

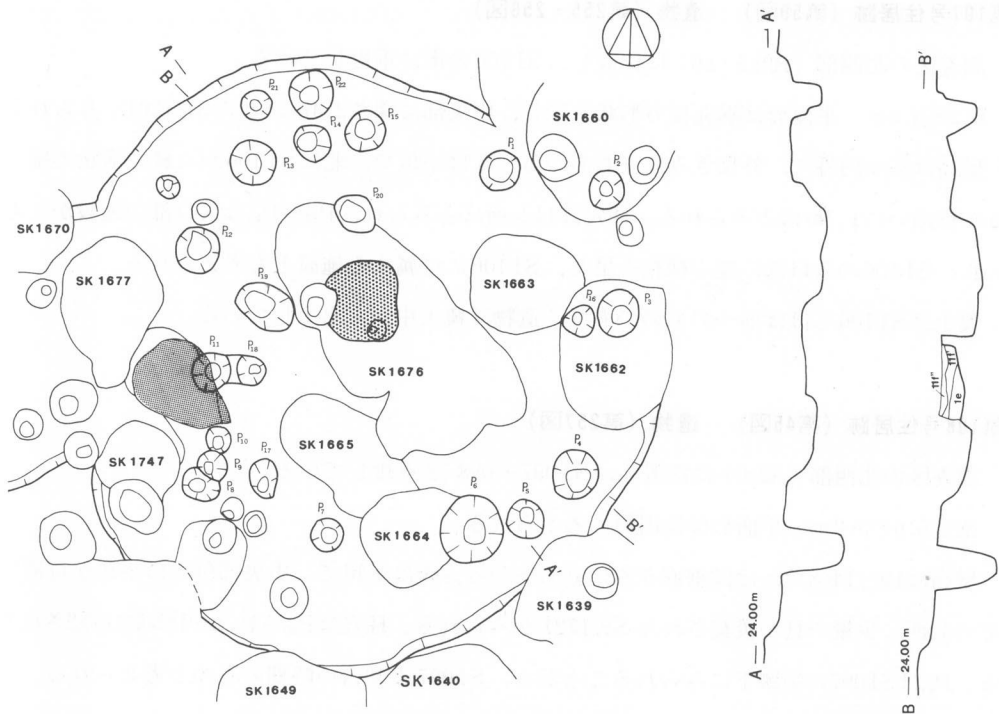
- a 調査区の北西部（A2i7）に位置し、SI104と重複している。
- b SI104の南西部に炉跡がみられるだけで平面形は不明であるが、時期はSI104より古い。
- c 住居跡と土壇の重複によって大部分が破壊され、炉跡以外は確認されていない。

第110号住居跡（第51図）

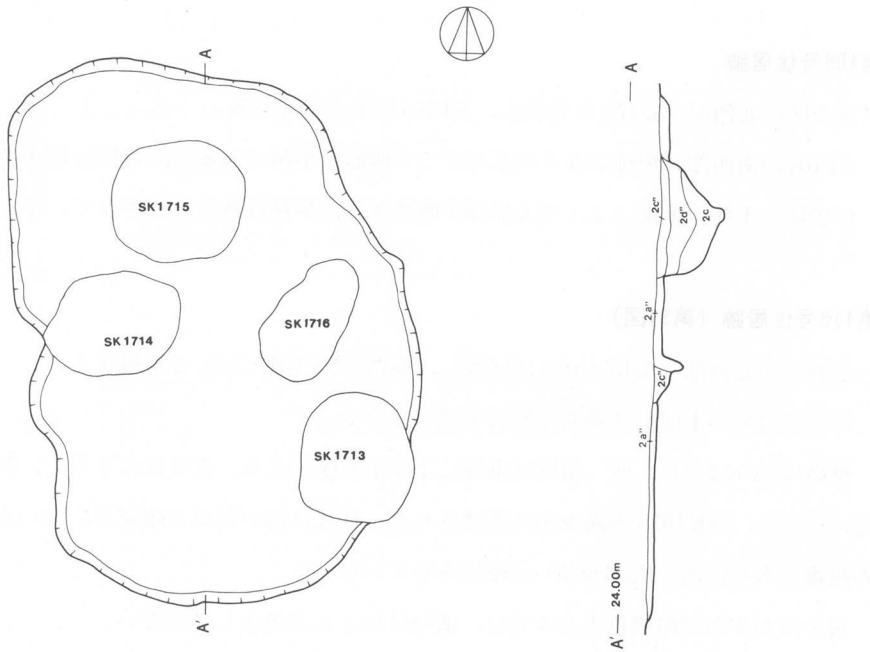
- a 調査区の北西部（A2h7・h8）に位置し、南西にSI104・109と重複する。
- b 6.1×5.4m 平面形は隅丸長形状を呈している。
- c 壁高は15cmほどで、西・南壁は重複により不明確である。床はほぼ平坦で、炉跡は中央部付近に位置し、SK1676の調査中に確認された。柱穴は22か所ほど確認されているが、重複のため複雑である。P₁～P₁₅は壁沿いに確認されている。
- d 覆土はわずかに暗褐色土がみられ、遺物はほとんど出土していない。

第111～116号住居跡（第49・51・52図）

- a これらの遺構は、環状微高帯部東のB5区にやや離れて位置している。SI111（B5a7・b7）、SI112・113（B5e9・f9）、SI114（B5e7）、SI115（B5h7・i7）、SI116（B5h9）のうちSI



SI 110



SI 114

第51图 第110・114号住居跡実測图

111・114・115 はほぼ南北線上にみられ、SI113・116 も同様でありSI112・113 は重複している。

- b 平面形は不定楕円形あるいは不定長方形を呈し、いずれも5～6m内外の大きさを有している。
- c 壁はいずれも外反ぎみに立ちあがり、床は平坦であるが軟弱である。炉跡・柱穴はいずれからも確認されていない。
- d 覆土はそれぞれ自然堆積の状況を示しているが、ロームブロックを多く含む軟質の土層である。遺物はほとんど検出されず、また、周辺部から遺物の出土はほとんどみられない。これらは住居跡として調査を進めたが、調査結果から住居遺構ではなく、比較的新しいものと考えられる。縄文時代の住居跡は、県道東部地区まではのびていない。

第117号住居跡 遺物（第257図）

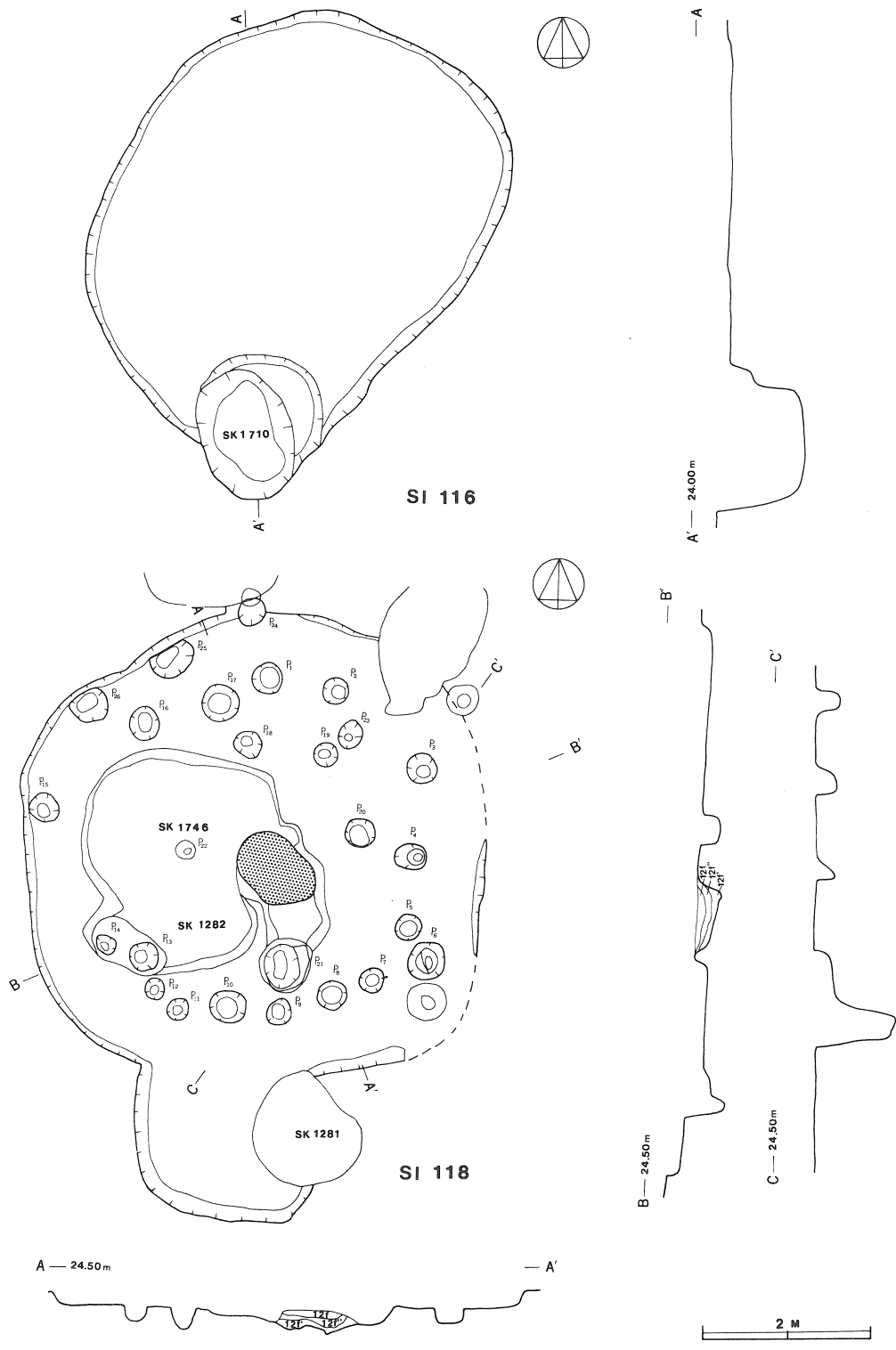
- a 調査区の北西部（A2i8）に炉跡が検出されている。
- b 平面形は不明であり、炉跡のほか攪乱のため破壊されているものと考えられる。
- c 壁・柱穴などの施設については攪乱のため不明である。
- d 覆土はほとんど確認されず、遺物は少量出土している。

第118号住居跡（第52図）

- a 調査区の北西部（B2e5・e6）に位置し、SI080・081 と重複している。
- b 5.4×5.34m 平面形は隅丸方形を呈している。
- c 壁高は14～24cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部に位置し、SK1283と重複している。柱穴は26か所ほど確認され、P₁～P₁₇は炉跡を中心にほぼ四角形に配され、さらにP₁₈～P₂₂も炉跡を囲むように検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。西部には小貝塚が散在している。

第119号住居跡（第53図）

- a 調査区の西部（C2c6）に位置し、SI102・120・127と重複している。
- b 推定4.8×4.5m 平面形は重複が激しいが楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁はほとんど確認することができない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、攪乱をうけている。柱穴は21か所ほど確認され、P₈～P₁₂は入口部と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、遺物はほとんど出土していない。



第52図 第116・118号住居跡実測図

第120号住居跡（第53図） 遺物（第255・258図）

- a 調査区の西部（C2b6・c6）に位置し、南にSI119が重複している。
- b 重複により外形は不明であるが、柱穴の配列より隅丸長形状を呈している。
- c 壁高は10cm内外で、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は14か所ほど確認されているが、南西部は土壌によって切られている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、SI119との切り合い関係は不明である。遺物は北西コーナーおよび炉跡周辺に少量出土している。

第121号住居跡（第54図）

- a 調査区の西部（C2a5・a6）に位置し、SI122・123と重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁は不明瞭で東壁部は第2号方形周溝墓によって切られている。床は平坦で、炉跡は中央部に位置していると考えられる。確認されている柱穴は11か所ほどである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。

第122号住居跡（第54図）

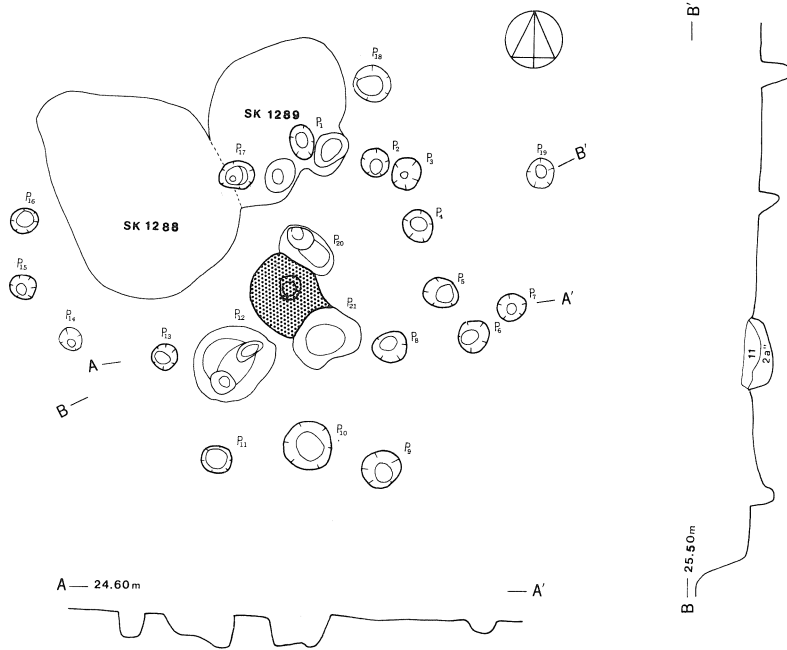
- a 調査区の西部（B2j5・j6）に位置し、SI121・第4号方形周溝墓などと重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁はほとんど確認されず、床は平坦であるが北側部は検出されていない。炉跡は方形を呈し、内部から土器が出土している。柱穴はP₁₂～P₁₆が確認されている。
- d 覆土は薄い暗褐色土の堆積がみられ、遺物は炉跡周辺から少量出土している。

第123号住居跡（第54図） 遺物（第255・259図）

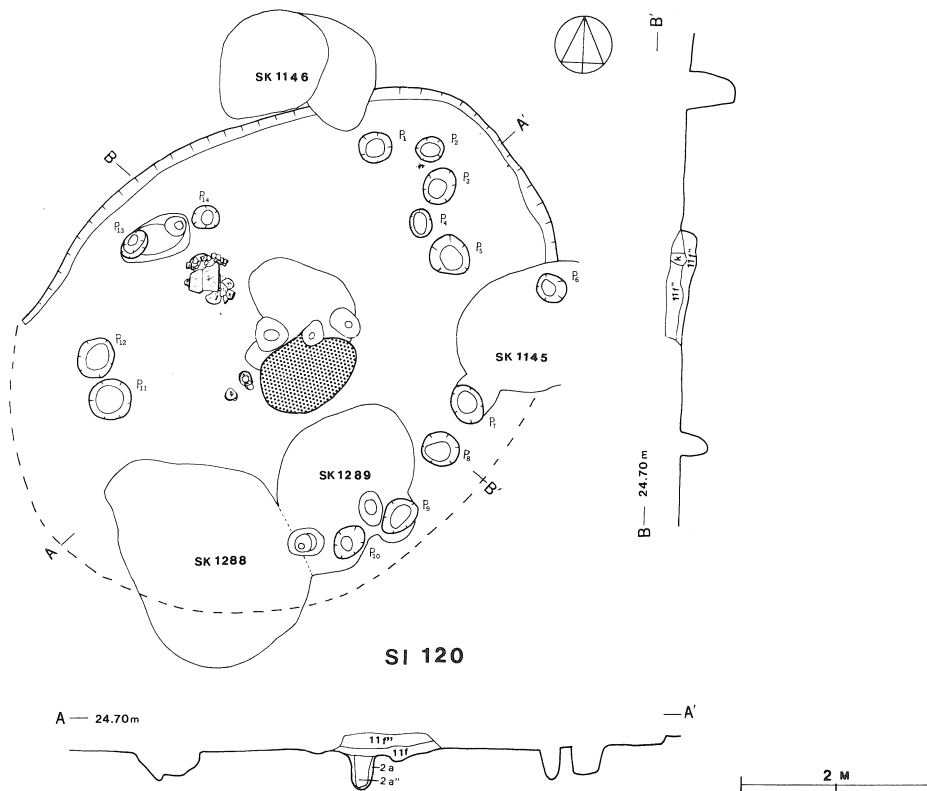
- a 調査区の西部（C2a5）に位置し、SI121・122と重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形を呈するものと考えられる。
- c 壁はほとんど不明であるが、床は平坦で、炉跡の焼土が少量検出されている。柱穴は重複が激しいため不明である。
- d 覆土は少量の貝を混入する黒褐色土がわずかにみられ、遺物は覆土中から出土している。これらは貝とともに投棄されたものであろう。

第125号住居跡（第55図） 遺物（第260図）

- a 調査区の北西部（B2a3・b3）に位置している。

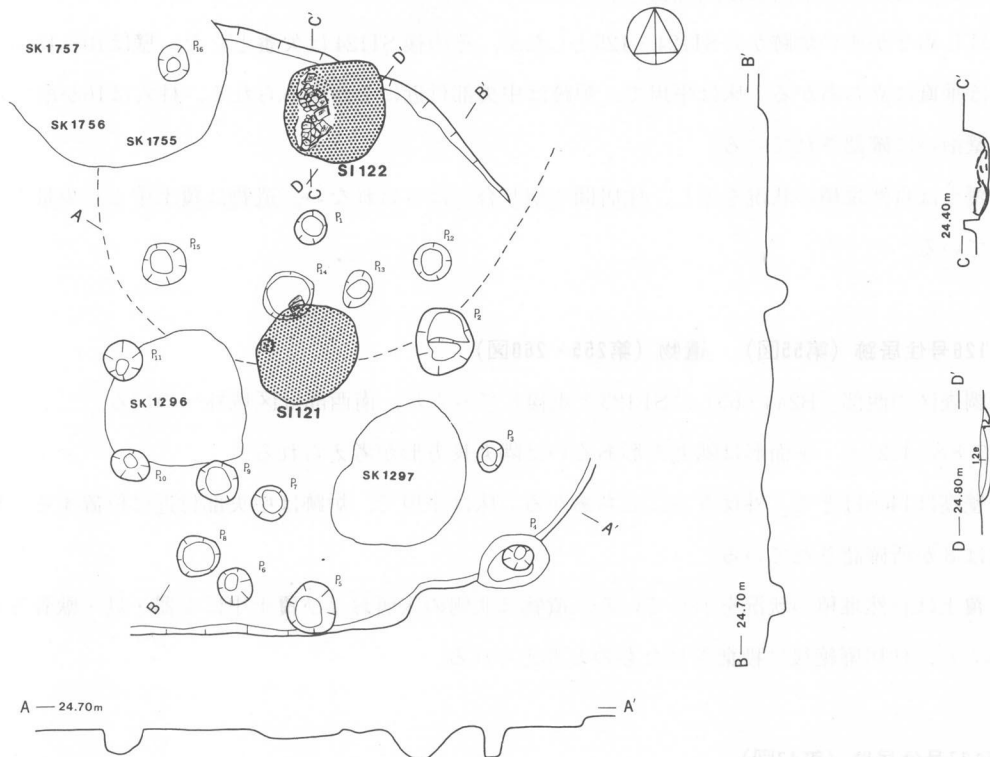


SI 119

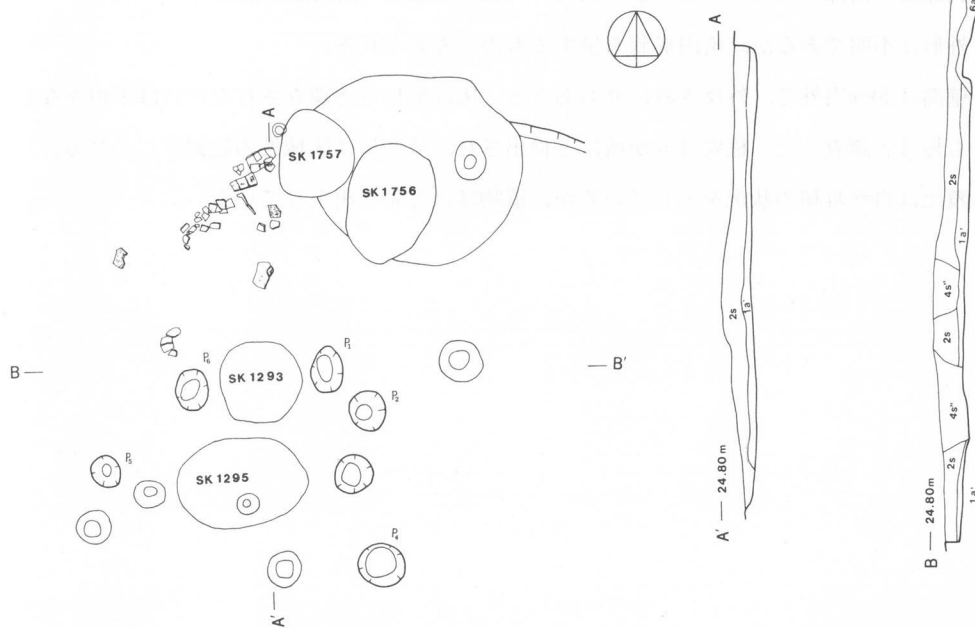


SI 120

第53图 第119・120号住居跡実測図



SI 121-122



SI 123

第54図 第121・122・123号住居跡実測図

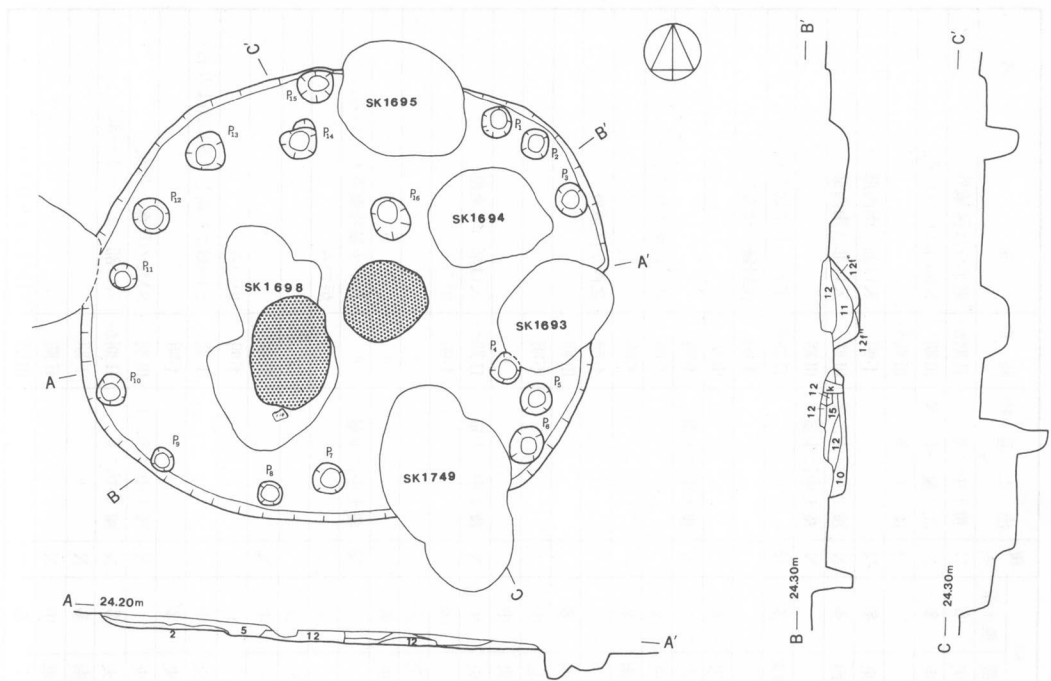
- b 5.35×4.76m 平面形は隅丸長方形を呈している。
- c はじめ2か所の炉跡からSI124・125としたが、その後SI124は欠番とした。壁は10～13cmで、ほぼ垂直に立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近に2か所みられる。柱穴は16か所でほぼ壁沿いに確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、住居間の切り合いはみられない。遺物は覆土中より少量出土している。

第126号住居跡（第55図） 遺物（第255・260図）

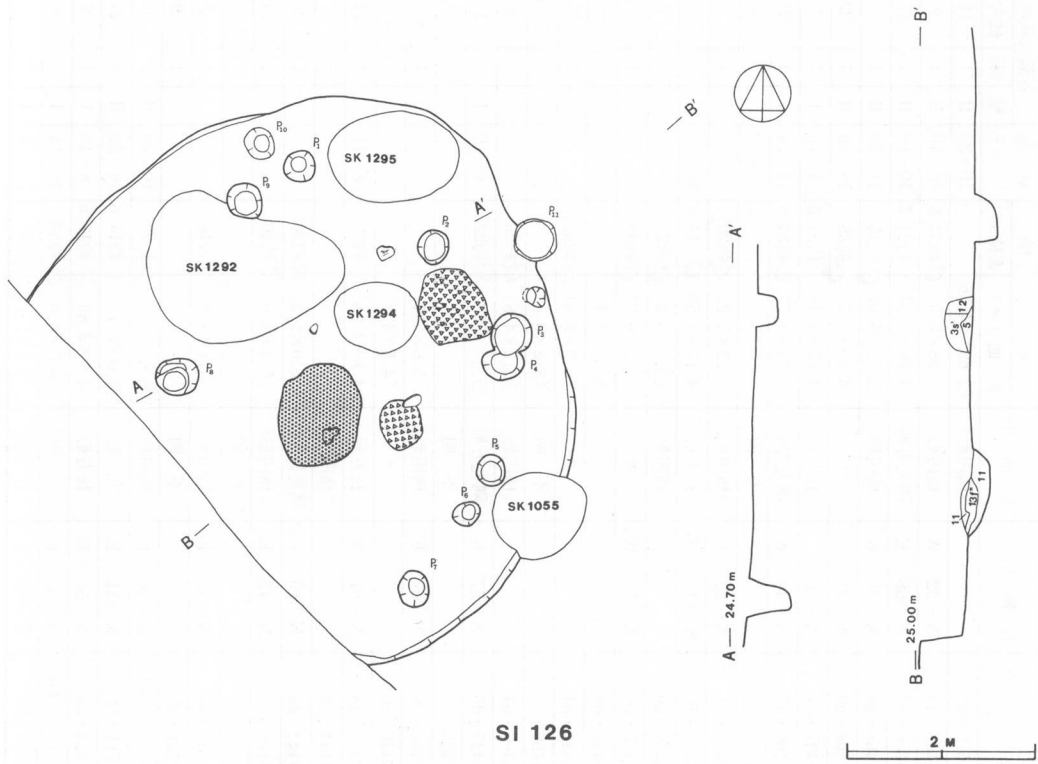
- a 調査区の西部（B2a4・b5）にSI123と重複してみられ、南西部は区域外へのびる。
- b 5.8×(4.2)m 平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形が考えられる。
- c 壁高は14cmほどで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近に位置する。柱穴は8か所確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示している。遺物は北側の床面および覆土中に土器・貝・獣骨等がみられ、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

第127号住居跡（第47図）

- a 調査区の西部（C2d6）に位置し、SI119・102と重複して南西部は区域外へのびる。
- b 外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁高は20cm内外で、外反ぎみに立ちあがる。床は約 $\frac{1}{2}$ ほど調査されたがほぼ平坦をなし、炉跡も $\frac{1}{2}$ ほど調査した。柱穴は6か所ほど検出され、残り $\frac{1}{2}$ は区域外の道路下へのびる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、遺物はほとんど出土していない。



SI 125



SI 126

第55图 第125·126号住居跡実測图

住居跡一覽表

住居番号	地	区	長軸方向	平面形状	規模		壁高 (cm)	各部の状況		炉位置	出土遺物	時期	備考
					平面 (m)	面積 (㎡)		床	柱穴数				
001	A512・h2			(楕円形)	(2.65)×4.36		16~27	II 1 12	中央	N	Ⅱ期か	東半分は区域外 SI004に切られる。	
002	B438・d9		N-32°-W	楕円形	5.98×5.6	約33.5	10~16	II 1 9	南東	N	Ⅲ期		
003	B4e8・e9		N-68°-E	隅丸方形	4.79×4.54	約21.4	10~15	II 1 17	中央東	N	Ⅲ期か		
004A	B4b8・b9		(N-9°-W)	楕円形	5.52×5.07	約25	11~22	II 1 13	中央西	N	不明	入口部 (南西部)	
004B	B4b8・c9		N-23°-E	"	6.2×6.17	約35	16~26	II 1 23	中央西	N	Ⅲ期	入口部 (南西部)	
005	B4d7・e7		N-0°	長方形	4.87×4.48	約21.4	5~16	I 1 5	中央南東	N	Ⅲ期		
006	B4h6・h7		N-49°-W	隅丸方形	5.14×4.77	約24.5	14~24	I 1 21	中央南東	N	Ⅱ期か	Tピットに切られる。	
007	B5d2			不明			10				不明	住居跡ではないか。	
008	B410・j0		(N-52°-E)	(楕円形)	(5.3×5.2)	(約20)		I 1	中央	多	Ⅲ期		
009	B4e6・f6		N-11.5°-W	長方形	4.13×3.55	約14.6	10~20	II 1 10	中央北	少	不明		
010	B4h8・h9			(楕円形)	(5.3×5.0)	(約25)		I 1 7	中央	多	不明	貝が投棄されている。	
011	B417・i8		(N-12°-W)	(")	(6.2×6.0)	(約35)		I 1	中央南	多	不明		
012	B4c5・c6			(")	5.6×(3.4)			I (8~9)			不明	北西が区域外。	
013	B4d4・e4			(")	(6.0×5.0)	(約22)		I 1 5	中央西	多	Ⅲ期		
014	B4b6			不明	(3.2×3.0)			I 1 5~6	中央北	少	不明		
015	B4e3・e4			(楕円形)	(5.5×4.8)	(約25)		I 1 9	中央	中	"		
016	B4d5・d6		N-57°-E	隅丸方形	5.2×4.33	約22.5	6~10	I 1 13	中央	少	Ⅱ期か	入口部 (北東部)	
017	B4d5			不明				I 1	中央	少	不明	炉のみ	
018	B4b6・c6		(N-67°-E)	(楕円形)	(5.6×5.1)			I 1 8~13	中央	少	"		
019	B4d6・c6			(")	(4.5×4.3)			I 1 7~9	中央	多	"		
020	B4c7・d8		(N-61°-W)	長方形	4.8×4.25	約20	8~15	I 1 24	中央	(N)	Ⅲ期	貝が少量投棄されている。	
021	B4d4・e4			(楕円形)				I 1	中央	少	"	炉のみ	
022	B4g3・g4		(N-80°-E)	(隅丸長方形)	(6.0×5.3)	(約30)		I 1 9	中央	少	"		
023	B418・i9		(N-42°-E)	(楕円形)	(5.4×5.0)	(約26)		I 1 11	中央	(N)	Ⅲ期		
024	B4c6			不明				I 1	中央		不明	炉のみ	
025	B4d7・e7		(N-42°-E)	(楕円形)	(4.8×4.6)	(約18)		I 1 8	中央	中	Ⅰ期	SI005より新しくSI020より古い。	
026	B414・i5			不明				I 1 9	中央	多	不明		
029	B4j0・B5j1		(N-28°-E)	(楕円形)	5.6×5.1	約27	16~30	II 1 14	中央	N	Ⅲ期	SM1の貝塚が投棄。	
030	C5f1・f2		N-31°-E	方形	4.0×3.7	約14.8	16~22	II 1 27	中央	N	Ⅱ期か	入口部 (南コーナー一部)	
031	C4c4・c5		N-50°-E	長方形	4.5×3.89	約17.5	8~12	I 1 20	中央南	N	Ⅰ期		
032A	B4j6・C4a6		N-90°-E	(方形)	(6.0×6.0)	(約36)	10~14	I 1 8	南東	中	Ⅱ期		
032B	B4j6・j7		N-90°-E	長方形	(5.8×5.2)	(約30)	15~25	I (1) 13	中央	多	Ⅲ期	SI032Aより新しい。	

住居番号	地	区	長軸方向	平面形状	規模		壁高 (cm)	各部の状況		炉		出土遺物	時期	備	考
					平面 (m)	面積 (㎡)		壁	床	柱穴数	位置				
033	C4d9・e9		N-43°-W	長方形	5.12×3.86	約19.7	20~26	I 1	24	中央	中	N	I期		
034	C4b8・c8		N-35°-E	不定楕円形	(6.8×6.0)	約36	10~26	II 1	37	南	多	N	II期か	入口部 (南西部)	
035	C4d2・d3		N-12°-W	隅丸方形	5.0×5.04	約25	5	II 1	24	中央	中	N	III期		
036	C4d4・e4		N-18°-E	(隅丸長方形)	(5.5×5.4)	約29	5	1	12	"	多	N	不明		
037	C4e2・f3		N-9°-W	(楕円形)	(6.6×6.45)	約40	8~16	I 1	(35)		少	N	II期		
038A	C4f4・f5		N-70°-E	(")	(4.8×4.5)		20	II 1	(7)	中央東	少	N	不明		
038B	"		N-59°-E	(")	(5.0×4.8)		20	II 1	12	中央	少	N	II期		
039	C4e4・d4			(隅丸方形)	(5.4×5.1)	約25		II 1	7	中央	少	N	不明		
040	C4d3・d4			(楕円形)	(5.4×5.0)	"		1	(10)	中央	少		"		
041	C3e8・d9		N-2°-W	長方形	5.73×5.6	約32		1	14				"		
042	C4a0・C5a1		(N-34°-E)	不定長方形	4.5×4.15	約18		(1)	11~12	中央	少	N	"	SM1がみられる。	
043	D3d8・c8		N-12°-E	(長方形)	5.3×5.0	約25	25	I (1)	21	中央西	少	N	III期か		
044	D3e9・d9		N-25°-W	長方形	(4.4)×4.15	△	14~18	I 1	11			N	II期か		
045	D3b6		不明	不明									不明	炉のみ	
046	D3a5・b5		N-47°-W	方形	4.8×4.45	約21	16~20	I 1	16	中央南	中	N	II期か	南西部区域外	
047	D3a8・b8		N-68°-W	隅丸長方形	4.8×4.2	約19	20~28	I 1	7	中央	多	N	II期か		
048	C4d7・d8		(N-55°-E)	(楕円形)	(5.4×4.5)	約20		1	19	中央	多		不明		
049	C3f9・g9		N-46°-E	楕円形	6.5×5.27	約30	10~14	I 1	14	中央	多	N	III期	炉2か所、西炉に土器埋設	
050	C4a0・b0		(N-9°-E)	(楕円形)	(6.0×4.6)	約25		1	14	中央	多		不明	SI042より古い。	
051	B4j9・C4a9		N-26°-E	楕円形	(5.5×5.0)	約19		1	19	中央	多		II期	(柄鏡形) 入口部 (南西)	
052	C4a8・b8		(N-10°-E)	"	(5.0×4.5)	約19		1	10~11	中央	中		II期	(柄鏡形) 入口部 (東部)	
053	C4a7・a8		N-81°-W	隅丸方形	(5.0×4.8)	約24		1	15	中央	中		III期		
054	C4a7・b7		(N-84°-W)	(楕円形)	5.0×4.5	約19		1	8	中央	多		不明	炉の西に埋設土器	
055	C4a7・b7			(")				1	12	中央	多		不明	入口部 (西部)	
056	D3a7・a8		N-41°-W	(隅丸方形)	4.9×4.8	約23	12~20	I 1	23	中央	少	N	(III期)		
057	C4e7・e8		(N-9°-W)	(")	(5.0×4.6)	約22	10~12	I 1	8	中央	少	N	不明		
058	C4d5・e5			不明					7			N	III期		
059	C4d7・e7		(N-22°-E)	(隅丸長方形)	(5.3×4.6)	約24		1	12	中央	多	N	II期	覆土中に少量	
060A	C3i8・i9		N-29°-E	楕円形	(4.5×4.0)		15~28	I 1	11~14	中央	中	N	I期	"	
060B	"		N-70°-W	"	5.2×(4.6)	約23	"	I 1	9~11			N	II期	"	
061	C3j3・D3a3			(隅丸方形)	(5.2×5.2)	約25	20~33	I 1	10			N	II期か	南西部は区域外	
062	C4i1・i2		(N-26°-W)	(楕円形)	(5.4×4.8)	約24		1	14	中央	少		不明		

住居番号	地	区	長軸方向	平面形状	規模		壁高 (cm)	各部の状況		出土遺物	時期	備考		
					平面 (m)	面積(m ²)		壁床	柱穴数					
063	C3g8・h9		N-64°-W	(楕円形)	(5.3×5.0)	(約26)	24	II	1	10	覆土中に少量	III期か		
064	C3g9・f8		(N-24°-E)	(楕円形)	5.9×5.8	約33	24				多	不明		
065	C4g5・h5		(N-41°-W)	隅丸方形	5.74×(4.5)		5	I	1	10	中	不明	北西部はS1066に切られている。	
066	C4g4・g5		N-60°-E	隅丸方形	4.73×4.3	約20	10~15	I	1	10		II期か		
067	C4g2・g3		N-47°-E	楕円形	5.2×4.5	約23	10~16	II	1			不明		
068A	C4f1・C3f0		N-55°-E	(円形)	5.2×5.2	(約25)		II	1		多	II期		
068B	C4f1・C3f0		N-63°-E	(楕円形)	5.1×4.7	(約23)		II	1		多	III期		
069	C4b7・c7			(")	(5.0×4.6)	(約20)			1	10	中	III期		
070	C3d2			(")	(4.5×4.3)	(約18)			1	10	中央	I期		
071	C3d1・d2		(N-40°-W)	(")	(5.5×5.0)	(約28)			1	15	中央	不明		
072	C3b6・h7		(N-10°-W)	隅丸方形	5.7×5.65	約32	20	II	1	19	中央			
073	C4h1・i1		(N-64°-E)	楕円形	6.6×5.1	約30	10	II	1	8	中央	覆土中に少量	II期か	
074	C3f6・g7			(楕円形)						9	中央	多	不明	
075	B4i0・B5i0			(")						10	中央	多	II期	
076	C2b9・c9		N-50°-W	隅丸長方形	5.5×4.53	約24	30	II	1	20		覆土中に少量	III期か	
077	C3g0・C4g1		N-80°-W	"	(6.2×5.2)	(約30)	10~16	I	1	12	中央西	中	II期	
078	C3i4・j5		(N-10°-W)	(楕円形)	(5.8×5.3)	(約22)			1	15~17	中央東	多	II期	入口部(南西部)
079	C3i3・i4		(N-26°-W)	(楕円形)	(5.2×4.4)	(約18)	20	II	1	15	中央	少	II期か	
080	B2e6・f6		N-3°-E	隅丸方形	5.2×4.96	約25	14~28	II	1	13	中央東	少	III期	
081	B2d5・d6		N-53°-E	楕円形	6.47×5.42	(約27)	12~24	II	1	11			II期か	
082	B2a5・b5		(N-53°-E)	(楕円形)	(5.3×4.7)	(約24)			1	12	中央	少	III期か	
083	B2b7・c7		N-28°-E	隅丸方形	5.6×5.5	約30	17~20	II	3	17	中央	多	I期	
084	A3i3・j3		N-66°-E	隅丸長方形	5.65×4.9	約27	12~18	I	1	10	中央	少	II期	
086	C2f0・g0		N-36°-E	"	5.56×5.5	約30	14~22	I	1	12	中央	中	III期か	
087	B3a5・a6			不明				III	1	4			II期か	東部は区域外
088	"			楕円形				III	1	4~5			不明	"
089	A3i1・j1		N-41°-E	"	5.5×5.4	約22	5		1	17	中央	少	II期	入口部(南西部)
090	A3h3			(楕円形)	(4.2)×5		16		1	8~10	中央	少	III期か	北東部は区域外
091	A3g2・g3		N-37°-W	隅丸長方形	5.82×(5.2)	(約30)	15	II	1	23	中央	少	II期	
092	A3e1・f1			台形	5.2×4.8	(約23)	28		1	13	中央	少	II期か	北側の覆土中に少量
093	A2d9			不明									(III期)	(炉内に埋設土器)
094	A2f0・e0			隅丸方形	5.2×5.0	約26	18~24	I	1	19	中央	多	I期か	覆土中に多量埋設土器 ² 炉のみ


住居番号	地	区	長軸方向	平面形状	規模		壁高 (cm)	各部の状況		覆土	出土遺物	時期	備考
					平面 (m)	模 面積(m ²)		壁	床				
095	A2f8			不明								不明	炉のみ
096	A2g9・h9			"								Ⅲ期	炉のみ
097	A2i6			(楕円形)				9				Ⅲ期	
098	A2h6			隅丸方形	5.2×5.0	約25	10	I	1	N		不明	
099	A2j7			不明								"	炉のみ
100	B2b5・b6			(楕円形)	(6.0×5.5)	(約30)			1			"	
101	B2b4・c5		(N-15°-W)	隅丸方形	5.9×5.1	約29	10		1	N	覆土中に少量	Ⅲ期か	
102	C2c7・e7		N-49°-W	"	5.4×4.8	約25	12~18		1	N		不明	
103	B2a7・a8			円形	4.93×4.6	約17	22	I	1	N		"	
104	A2h7・i8		(N-41°-W)	(楕円形)	(5.1×5.1)	(約25)		(1)	13	N		Ⅲ期か	S110より新しい。
105	A2g8・h9		N-6°-E	楕円形	5.02×4.7	(約21)	16~24	I	1	N	南東の床・覆土中	Ⅲ期	(柄鏡形) 入口部(北東)
106	A2i5・B2a5		N-39°-W	円形	5.5×4.6	(約19)	37~41	II	1	N	中央覆土中多 埋没土器(北)	Ⅲ期	入口部(南東部)
107	B2a5・a6		(N-56°-E)	隅丸長方形	5.2×3.3	約15	30	II	1	N		Ⅲ期	入口部(南東部)
108	A2i6		(N-75°-W)	(楕円形)	5.6×5.2	(約21)	10~14	I	1			不明	
109	A2i7			不明								不明	炉のみ
110	A2h7・h8		(N-6°-E)	隅丸方形	6.1×5.4	約32	15	II	1			不明	
111	B5a7・b7		N-32°-W	"	5.16×4.9	約24	30	I	1	N		"	
112	B5e9		N-15°-W	隅丸長方形	4.6×3.6	約16	6~10	II	1	N		"	
113	B5e9・f9		N-6°-E	"	6.53×5.6	約35	11	II	1	N		"	
114	B5e7		N-0°	不定長方形	5.5×4.0	約22	7	II	1	N		"	
115	B5h7・i7		N-30°-E	隅丸長方形	5.08×4.12	約21	10	I	1			"	
116	B5h9		N-42°-E	"	5.35×4.2	約22	12~15	I	1			不明	
117	A2i8			不明								"	炉のみ
118	B2e5・e6		N-86°-E	隅丸方形	5.4×5.34	約28	14~24	I	1	N		"	
119	C2c6			(楕円形)	(4.8×4.5)	(約21)			21	N		"	
120	C2b6・c6			(隅丸長方形)			10	I	1	N	床面に少量	Ⅱ期か	
121	C2a5・a6		N-64°-E	(楕円形)					1	N		不明	
122	B2j5・j6		(")	(")					1			"	炉のみ
123	C2a4・a5		(")	(")					1			Ⅲ期	上面に貝が投棄
125	B2a3・b3		N-82°-E	隅丸長方形	5.35×4.76	約24	10~13	I	1	N		Ⅲ期か	
126	B2a4・b5			隅丸方形	5.8×(4.2)	(約24)	14	II	1	N	覆土中に少量	Ⅲ期か	南西は区域外
127	C2d6			(楕円形)			20	II	1	N		不明	南西は区域外

2. 土 壙

当遺跡の発掘調査によって検出された土壙は、調査区域のほぼ全面にわたって確認され、その数は1760基にのぼるが、すべてが縄文期にあたるものではない。なお、調査中に2基存在すると思われた土壙が1基に統合されたもの、あるいは消滅したもの、重複により本来の形状をかなり失っているもの等が多くみられる。その後整理の段階に、消滅したものは欠番とし、重複するものを個々に分け、埋設土器・地点貝塚等を含めた数は1877基となる。

以上のようにかなりの数にのぼる土壙群はまた様々な形態をもって存在し、これらを逐一詳細にわたって検討を加えることは困難であり、従って、次の様な観点に立って一覧表記述・実測図作成にあたった。なお、観点は住居跡一覧表も同じである。

- 位置の表示はグリット名をもって示した。
- 主軸方向は、長軸方向をもって示し、円形あるいは円形に近い楕円形は記述しない。
- 規模は、前の数字を長径、後を短径としmで、壁高はそれぞれcmで記した。
- 各部の状況は、壁はローマ数字でI～Vと記号化し、床もアラビア数字で表した。

壁	{	I 壁は床より垂直（垂直ぎみ）に立ちあがる。	}	床	1 床は平坦である。
		II 壁は床より外反（外反ぎみ）に立ちあがる。			2 床は皿状（播鉢）である。
		III 壁は床よりゆるやか（なだらか）に立ちあがる。			3 床は凹凸状である。
		IV 壁は床から袋状に立ちあがる。			3' 床は凹凸が激しい。
		V 壁は床よりV字状（U字状）に立ちあがる。（床の状況が硬い(+) 軟弱(-)を記す）			
- 覆土は、自然堆積(natural accumulation)－N 人為堆積(artificial accumulation)－Aと記した。
- 形態分類 平面形などで分け、規模で細分した。
 - A 平面形が楕円形、円形で、壁は外反あるいはゆるやかに立ちあがるもの。
 - B 平面形が楕円形・円形で、壁は垂直に立ちあがるもの。
 - C 平面形が円形+長形状、断面がであり、新旧がわかるものは別に分類する。
 - D 平面形が（隅丸）長方形・方形である。
 - E 平面形が不定形であるもの。
 - F 平面形が楕円形・円形で深いピット状のもの。
 - G 平面形が長楕円形、断面がV字状をなすもの。
 - H 平面形が楕円形・円形、断面が袋状をなすもの。
 - I 貝塚
 - J 埋設土器

Z 形態不明。

さらに平面規模でⅠ～Ⅲに分け、壁高でa・bに分ける。

- | | | | | | |
|---|---|------------------|---|---|---------------|
| { | Ⅰ | 平面規模が1～2 m以内のもの。 | { | a | 壁高が50cm以下のもの。 |
| | Ⅱ | 平面規模が1 m以内のもの。 | | b | 壁高が50cm上のもの。 |
| | Ⅲ | 平面規模が2 m以上のもの。 | | | |

(例えばAIa・平面形が楕円形で規模が1.5×1.2m、壁高は39cmなどの場合)

- 平面形で重複により形状が不明なものについては推定で記し()を付加する。規模・覆土等についても同様である。
- 重複し新旧関係が明確に把握されるものはA・B・Cに分け、BがAより新しい。
- 貝塚・埋設土器については別欄をもうけて掲載した。
- 時期が判定できる遺物を伴出する土壌について時期を記したが、遺物が少量、少片で時期を決定するに至らないものについては時期欄に△をもって記すことにした。
- 実測図については、形態ごとに分類して掲載した。
- 遺物については、第3章の遺物で、貝塚については、第4章の自然遺物のところで後述する。

形態一覧表

	A			B			C			D			E			F	G	H	J	Z	計
	遺構数	貝塚	小計	遺構数	貝塚	小計	遺構数	貝塚	小計	遺構数	貝塚	小計	遺構数	貝塚	小計						
I a	348	3	351	30	1	31	8		8	302	11	313	236	9	245						
I b	36	1	37	84	6	90	27	1	28	80	8	88	28		28	2					
小計	384	4	388	114	7	121	35	1	36	382	19	401	264	9	273	2		13	25		1259
Ⅱ a	169	1	170	18		18				47	6	53	23	15	38						
Ⅱ b	4		4	19	3	22				7		7	3		3						
小計	173	1	174	37	3	40				54	6	60	26	15	41						315
Ⅲ a	28		28	2	1	3	2		2	66	2	68	89	6	95						
Ⅲ b	1		1	5		5	1	1	2	22	1	23	18		18		8				
小計	29		29	7	1	8	3	1	4	88	3	91	107	6	113		8			50	303
合計	586	5	591	158	11	169	38	2	40	524	28	552	397	30	427	2	8	13	25	50	1877

土 壌 一 覧

遺構番号	地 区	主 軸	形 態	平 面 形	規 模		各部の状況			覆 土	時 期	備 考	関連図版
					平 面 (m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 001	B5a1		H I b	円 形	1.4×1.3	65~66	Ⅳ	1		N	南東壁きわに土器が少量みられる。	Fig175 PL223	
S K 002	B5b1		A II a	円 形	0.16×0.65	15~17	Ⅲ	3	1	A		Fig76 PL224	
S K 003	B5b1, b2		D I a	円 形	1.35×1.21	4~6	Ⅱ	-1	1	N			
S K 004	B5b2	N -51° W	A I b	楕 円 形	1.01×0.75	36	Ⅱ	1	1	N			
S K 005	B5b2, c2	N -52° E	A I a	長 楕 円 形	1.57×0.82	17~28	Ⅱ	1		N		Fig56	
S K 008	B5e2		J	円 形	0.45×0.4	32	Ⅰ	2		N	△ SK010内にみられる。	Fig189	
S K 009	B5c2	N -3° W	A I a	楕 円 形	1.33×0.85	32	Ⅲ	3	1	N	ピットは本跡より新しい。	Fig56 PL225	
S K 010A	B5d2, e2		E III a	不 定 形	(1.6)×(2.0)	26	Ⅱ	1		N	Ⅲ期	Fig169 PL226	
B	"		E III b	楕 円 形	3.8×3.6	166	Ⅱ	2		N	Ⅲ期	Fig169 PL226	
S K 011	B5e2	N -85° E	A I a	"	(1.2)×1.35	18	Ⅰ	1		N		PL227	
S K 012	B5e2, d2	N -82° E	A I a	長 方 形 状	(1.0)×1.2	26	Ⅱ	1		A	比較的新しい時期のものか。		
S K 013	A4i0		E I b	楕 円 形	1.68×(0.85)	56~74	Ⅱ	3		A	"		
S K 014A	A5j1, B5a1	N -52° E	E III a	不 定 形	2.6×2.2	15	Ⅰ	1		B		Fig147	
B	"	N -64° E	D I a	不 定 長 方 形	1.52×1.02	30	Ⅱ	3	2	A		Fig147	
S K 015	A5i1, j1	N -14° E	D III a	長 楕 円 形	3.3×1.7	18	Ⅰ	-1	1	N	Ⅲ期	PL228	
S K 016	A5h1, i1	N -75° E	A I a	楕 円 形	1.5×1.05	18	Ⅱ	1		N	南にSK017が隣接する。	Fig56	
S K 017	A5h1, i1	N -88° W	E II a	不 定 形	0.83×0.68	13	Ⅲ	1		N	西にSK017が隣接する。		
S K 018	A5h1, h2		(E III a)	楕 円 形	3.3×1.3	24~32	Ⅰ	1	3			Fig176 PL229	
S K 019	B5f2		B I b	"	1.58×1.3	52	Ⅰ	1	2	N	北にSK026が隣接する。	Fig89	
S K 020	B5f2, g2	N -71° W	A I a	"	1.27×1.11	20~23	Ⅱ	3	-2	N		Fig56 PL230	
S K 021	B5g2	N -5° W	E II a	"	0.92×0.86	20	Ⅱ	1		N		Fig139	
S K 022	B5g2	N -88° E	C I b	"	(1.7)×1.4	16~50	Ⅰ	1	2	N		Fig95 PL231	
S K 023	B5h1	N -80° E	A I a	"	1.33×1.18	16~18	Ⅱ	1	1	N		Fig56 PL232	
S K 024	B5i1, i2	N -33° W	"	"	1.53×1.17	15	Ⅱ	1	3	N		Fig56 PL233	
S K 025	B4i0	N -47° E	D I a	長 方 形 状	1.31×0.9	32	Ⅰ	1		N	Ⅰ期	Fig100 PL234	
S K 026A	B5f2		A II a	円 形	0.96×0.94	24	Ⅲ	2		N	△ 南にSK019が隣接する。	Fig147	
B	"	N -62° W	E I a	不 定 形	1.3×(0.82)	20	Ⅲ	2		N	△	Fig147	
S K 027	A4j0	N -1° E	B I b	円 形	1.53×1.46	98~100	Ⅰ	+1		N	円筒状を早している。	Fig89 PL235	
S K 028	A4i0	N -70° E	A I a	"	1.2×0.98	15	Ⅱ	-1		N	SK029と重複し本跡が新しい。	Fig159	
S K 029	A4i9, i0	N -54° E	(D III a)	長 方 形	3.8×(1.8)	20	Ⅰ	1	4	N	住居跡の可能性がみられる。	Fig159	
S K 030	B4c9	N -52° W	C I b	楕 円 形	1.8×1.2	33~82	Ⅰ	1		N	△ 西側がV字状の溝となる。	Fig95 PL236	
S K 031	A4j0	N -18° W	A I a	"	1.1×0.9	15	Ⅱ	3	1	A	攪乱か抜根跡。		
S K 032	A4j0, a0	N -14° W	A I a	長 楕 円 形	1.74×1.0	15	Ⅱ	-1		N	覆土中に少量のカーボンを含む。	Fig56	
S K 033	"	N -48° E	D II a	長 方 形 状	0.9×0.7	28	Ⅱ	3		A		Fig120	
S K 034	A4j8, j9	N -37° E	E I a	台 形 状	1.98×1.7	31~63	Ⅱ	1		N	Ⅰ期	Fig128	
S K 035	B4a9	N -70° E	A II a	楕 円 形	0.67×0.52	14	Ⅲ	2		N	攪乱か抜根跡。		
S K 036	B4b0, c0	N -25° E	C I a	"	1.42×1.17	23	Ⅱ	1		N		Fig94 PL237-238	
S K 037	B4b0	N -80° W	D I a	長 方 形	1.24×1.04	17	Ⅱ	1		N		Fig100	
S K 038	B5e1, B4e0	N -6° E	A I b	楕 円 形	1.31×1.08	48~55	Ⅰ	+1		N		Fig74	
S K 039	B4f0	N -40° W	A II a	"	1.0×0.88	25~30	Ⅱ	2		N		Fig76 PL239	
S K 040A	B4f0, B5f1	N -63° E	A I a	"	1.1×1.0	24	Ⅱ	1		N		Fig95	
B	"	N -10° E	B I b	"	1.1×1.06	57	Ⅰ	1		N		Fig95	
S K 041	B5f1	N -38° W	A II a	"	0.63×0.6	35	Ⅱ	1		N		Fig76	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 042	B4f0, B4g0	N-33°-W	A I a	楕円形	1.17×1.0	24~36	II	1		N		Fig56	
S K 043	B5f1, f2	N-40°-W	D I a	長方形	1.28×1.21	37	II	-	1	1		Fig100	
S K 044A	B5f1, g1	N-46°-E	(E I a)	楕円形	(1.0)×1.05	20	III	2		N	形態的にはC I bか。	Fig147	
B	"		(B I b)	円形	1.2×1.04	60	I	1				Fig147	
S K 045	B5g1	N-47°-E	A II a	楕円形	0.9×0.63	16	II	1		N		Fig147	
S K 046	B5g1, B4g0	N-30°-W	C I b	長楕円形	1.52×1.0	64	I	1		N	円筒状を呈している。		
S K 047	B5h1	N-17°-E	C I b	楕円形	1.36×1.25	38~78	I	1		N	"	Fig95	
S K 048	B5i1	N-35°-W	A I a	円形	1.07×0.98	30~32	I	1		N		Fig56 PL240	
S K 049	B4f0	N-88°-E	C I b	楕円形	1.12×0.94	60	I	1		N	I期	Fig95 PL241	
S K 050	B4f0		A II a	円形	0.55×0.54	10	III	1	3	A		攪乱か抜根跡	PL242
S K 051	B4f0	N-8°-E	A I a	楕円形	1.1×0.72	13	III	3		N		Fig57 PL243	
S K 052A	B4f0	N-14°-W	E I a	不定形	(0.8)×0.8	30	III	2		N	△	西壁外辺は張り出す(C I b)	Fig95 PL244
B	"	N-22°-W	B I b	楕円形	1.07×0.96	56	I	1		N		"	
S K 053	B4g0	N-75°-E	A II a		0.74×0.66	10	II	2		N		攪乱	Fig76
S K 054	"	N-79°-E	A I a	楕円形	1.22×0.75	10	II	1		N		SK053が隣接する。	Fig56 PL245
S K 055	"	N-45°-W	"	長楕円形	1.85×1.18	25~35	I	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig56 PL246
S K 056	A4j9, B4a9	N-68°-W	E I a	不定形	1.8×1.3	25	II	3		N		Fig128	
S K 057A	B4a9	N-67°-W	A I a	長楕円形	1.98×1.25	5	I	1		N		Fig56 PL247	
B	"	N-15°-W	"	楕円形	1.12×0.94	36	III	2	1	N		Fig56 PL248	
S K 058	B4a8	N-47°-W	A I a	"	1.1×1.01	10~12	II	1		A		SI004Aの北に位置している。	
S K 059	B4a8	N-40°-W	"	"	1.26×1.16	15~23	I	1	6	N	△	Fig56 PL249	
S K 060	B4a7, a8	N-67°-E	"	"	1.74×1.39	7~10	I	1	3	N		Fig57	
S K 061	B4a7, a8	N-61°-W	D III a	台形状	2.09×1.5	10	I	1		N	II期	PL253	
S K 062	B4b7	N-44°-E	A III a		2.1×1.56	14~16	I	1		N	II期	Fig83 PL254	
S K 063	B4b7	N-87°-E	A II a	楕円形	0.94×0.92	10~12	I	1	2	N		Fig76 PL251	
S K 064A	"	N-24°-E	E I a	不定形	(1.8)×1.2	11	II	1		N		Fig148 PL252	
B	"	(N-33°-E)	B I b	楕円形	1.01×0.84	57	II	1		N		Fig148	
S K 065	B5c1, d1	N-85°-E	A II a	"	0.85×0.82	10~18	III	-	3			Fig76	
S K 066	B4g0		D I a	長方形	1.46×1.16	20	I	1	1	N		Fig100 PL255	
S K 067	"	N-18°-E	E II a	(楕円形)	0.77×0.7	14	III	1	2			Fig139 PL256・257	
S K 068	B4g9, g0		A I a	楕円形	1.2×1.04	27	II	1	1	N		Fig57 PL257・258	
S K 069	B4g9	N-9°-E	D I a	長方形	1.71×1.25	27	I	1	2	N		Fig100	
S K 070	B4g9, h9	N-18°-W	D I a	"	1.67×1.2	30	II	1	1	N		Fig100	
S K 072A	B4f9, f0	N-80°-E	B I b	楕円形	(1.2)×1.17	61	II	1		N		Fig148 PL259	
B	"	N-60°-W	A I b	"	1.1×0.88	55	I	2		N		Fig148	
S K 073A	"		Z	不明	(1.5)×	44	II	1	2	N		PL260	
A'	"	N-78°-W	(D I a)	長方形	1.75×1.3	43	I	1		N		"	
B	"	N-77°-W	(D I a)	"	1.61×1.2	42	II	1		N		"	
S K 074	B4c0, d0	N-5°-E	A I a	楕円形	1.7×1.6	40~44	II	+	1	N		Fig57	
S K 075	B4c9, d9		Z										
S K 076	B4d8	N-65°-E	A I a	楕円形	1.08×0.88	14~16	I	1		N			
S K 078	B4e9	N-59°-E	D III b	長方形	2.2×0.53	57	I	1		A		Fig126	
S K 079	B4f8	N-44°-E	A I a	楕円形	1.26×1.14	10~20	II	1	3	N		Fig57	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁床	ピット数	土				
S K 080	B4f8		A I a	円形	1.26×1.23	7~12	I	1		N	△		
S K 081	B4b0		"	楕円形	1.1×1.06	8~11	I	1	2	N			
S K 082	B5b1	N-12°-E	A I a	"	1.06×0.82	13~23	II	1		N		南側の床が一段低く凹状をなす。	
S K 083	B4b0, c0	N-47°-W	"	"	1.53×1.26	10~16	I	-1		N			Fig57
S K 084	B5c1	N-18°-W	"	"	1.12×1.02	15~23	I	-1		N			
S K 085	B4c0	N-35°-W	E I a	不定形	1.85×1.01	12	I	1	1	N			
S K 086	"	N-4°-W	A I a	楕円形	1.8×1.27	8~12	I	1		N	△	ピットは根	Fig57 PL261
S K 087	B4d0		"	円形	1.45×1.34	12~16	I	1		N	△		Fig57 PL262
S K 088A	B4d9, e9	N-16°-W	"		1.75×(1.3)	35	I	1		N	△		Fig57
B	"		"		(1.07)×	36	I	1		N	△		Fig57
S K 091	B4i9, i0	N-33°-W	J		0.54×0.48	24					III期	埋設土器 口縁部欠損	PL265
S K 092	"	N-28°-W	Z		1.39×1.26	22					I期		
S K 093	B4h9, i9	N-47°-E	E I a	楕円形	1.4×0.94	12~18	II	1		N	I期		Fig128
S K 094	B4i9		A II a	円形	0.72×0.68	9~11	II	1		N	△		Fig76
S K 095	B4j9		J	"	0.46×0.44	30	I	2		N	II期	SI023の南壁に位置し、底部欠損	Fig189 PL266
S K 096	B4h8	N-53°-E	D II a	長方形	0.86×0.71	17	I	1	2	N	III期		Fig120 PL267
S K 097	B4i8		J	円形	0.49×0.47	27	II	2		N	II期	SI023の中央に位置し、底部欠損	Fig189 PL268
S K 098	B4i6	N-32°-W	E II a	不定形	1.01×0.84	25	II	3		N			Fig139
S K 099	B4i9		J	円形	0.44×0.44	23	I	1			△	2重埋設され、底部、口縁部欠損	
S K 100	B4h7, h6	N-18°-W	A I a	楕円形	1.45×1.3	14~24	I	1		N	△	SI006が北西に位置する。	Fig58
S K 103	B4h0	N-3°-W	D III a	長方形	2.4×1.58	31	I	1	5	N	△		Fig140 PL270
S K 104	B4g8	N-80°-E	C I b	楕円形	1.4×1.04	67	I	1		N	△		PL271
S K 105	B4g7, g8	N-24°-W	E III a	長楕円形	2.0×1.33	21	II	1	3	N	△	南にSK106が隣接する。	Fig140 PL272
S K 106	"	N-54°-W	D I a	楕円形	1.5×0.93	48	I	3		N	I期		Fig100 PL273
S K 107A	B4h8	N-35°-E	A III a	長楕円形	2.07×1.23	10	II	1	1	N			Fig148 PL274
B	"	N-45°-W	B I a	長方形	1.0×0.78	40	I	1		N			Fig148
S K 108	B4g8	N-62°-W	E I a	台形	1.73×1.61	12	II	1		N			Fig128
S K 109A	B4f7, f8	N-30°-W	D I b	長楕円形	1.98×1.6	82	I	1		N			Fig169 PL275
B	"		A III a	楕円形	2.16×(1.2)	15	II	1		N			Fig169
S K 110A	B4e7, f7	N-7°-E	D III a	不定長方形	2.5×1.86	17	II	1		N	III期		Fig169 PL276
B	"	N-85°-W	D I b	長方形	1.47×0.9	92	I	1		A			Fig169
C	"	N-65°-W	A II a	楕円形	0.72×0.62	20	III	2		N	III期		Fig169
S K 112	B4h7	N-3°-E	E III a	長楕円形	2.3×1.28	48	I	3	3	N	△		Fig140
S K 113	B4i6	N-88°-W	D I a	長方形	1.34×1.11	20~30	II	3'		N		SI006の南西に位置する。	
S K 114A	B4h7, h8	N-62°-E	E III b	"	2.04×1.75	66	I	1	1	N	△	新田は明瞭でないが、比較的Bが新しい。	Fig147 PL277
B	"	N-74°-E	A II b	楕円形	0.95×0.82	50	I	2		N	△		
S K 115	B4i8	N-63°-W	E I a	不定楕円形	1.7×1.53	35	II	1	1	N	△	東南壁にピットがみられる。	Fig128
S K 116	B4f6, g6	N-56°-E	D III b	長方形	2.73×0.6	67	I	1		A	△	新しい農耕用の貯蔵穴か。	PL278
S K 117	B4i7	N-86°-E	A I a	楕円形	1.94×1.52	22~25	I	1	2	N	III期		Fig58 PL279
S K 118	B4h7	N-55°-E	G III b	長楕円形	3.13×0.5	106	I	2		N	III期	SI006の南側の床を切るTピット状のもの。	Fig173
S K 119	"		J	円形	0.41×0.4	27	II	2		N	II期	SK157と重複する。	Fig191
S K 120	"											SI006の中央やや南にありSK118と重複する。	
S K 121	"										III期	SK118の覆土上面にみられる。	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況				覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピツ数					
S K 123	B4h7		Z									II期	SI006のほぼ中央覆土出土	
S K 124	B4g7	N-60°-E	A I a	長楕円形	1.38×1.07	23~25	II	1	1	N		III期	SI006の北側に位置する。	Fig58 PL280・281
S K 125	B4h8		J	円形	0.38×0.38	21	I	2		N		III期	埋設土器 口縁部欠損	Fig189 PL282
S K 126A	B4g9	N-41°-E	C III b	楕円形	1.75×1.75	72	II	1		N	}	III期		Fig185 PL283
B	"		Z				I	1		N				"
S K 127	"											III期		
S K 129	B4h9	N-30°-W	B I b	楕円形	1.1×0.77	56~72	I	1		A		III期		Fig89
S K 131	B4h9, h0	N-4°-E	D I a	方形	1.18×1.11	17	I	1	3	N				Fig100 PL284
S K 136	B4f9	N-76°-E	A I a	楕円形	1.1×0.85	6~8	II	1		N				PL285
S K 137	"		"	"	1.13×1.04	16~24	II	1	1	N	△			Fig58 PL286
S K 138	B4e9	N-13°-W	E III b	不定形	2.6×1.74	64	III	3		N	△			PL287
S K 139	B4f8	N-85°-W	A I a	楕円形	1.16×1.07	18~22	II	1		N	△			Fig58
S K 140	B4g9	N-86°-W	A I a	"	1.26×1.06	5~27	I	1		N	△			PL288
S K 142	B4h5, i5	N-7°-W	D III a	方形	2.4×2.34	32	I	3'	3	N				Fig122 PL289
S K 143	B4h5	N-65°-W	E III a	楕円形	2.47×1.49	21	II	3'	6	N	△			
S K 144	B4g5, h5	N-66°-E	"	"	(2.6)× ^{1.22} _{2.03}	20	I	3	2	N			南のSK149に切られている。	Fig140 PL290
S K 145	B4h4	N-46°-E	A I a	"	1.65×1.34	30~33	II	3'		A	△			PL291
S K 146	B4g5, g6	N-74°-E	E I a	不定台形	2.03×(1.25)	40	II	3	1	N	△		南東壁をSK151により切られる。	Fig147 PL292
S K 147	B4f5, f6	N-7°-W	B I b	不定楕円形	1.74×1.52	33~69	I	1		N	II期		床中央が凹状をなす。	Fig89 PL293
S K 148	B4i4	N-51°-E'	D III a	長方形	2.3×2.05	25	I	3'	4	A	△			PL294
S K 149	B4h5		(Z)	不定形	^{1.66×1.6} _{1.5×1.4}	⁴⁵⁻⁸⁸ ₈₀₋₁₁₀	I	3		A	△		電柱の埋設施設と思われる。	Fig148
S K 150	B4f5	N-65°-W	E I a	円形	1.6×1.5	25	I	1	2	N	△		床面に小型摩製石器が出土	Fig128 PL295
S K 151	B4g6	N-26°-E	A I a	楕円形	1.06×0.98	34	II	1		N	△		注口土器片が出土	PL292
S K 152	B4f4, g4		E I a	不定形	1.6×1.2	30	II	1	2	N				Fig128 PL296
S K 153	B4f5, g5	N-36°-W	D I a	長方形	1.83×1.36	23~55	II	1	3	N	△			Fig100 PL297
S K 154A	B4i5		(Z)	不定形	2.0×	55	III	3'		N				PL298
B	"	N-21°-W	C I b	楕円形	1.53×1.35	18	I	1	1	N			円筒状を呈している。	
S K 155	B5b2		(E I a)	(")	1.6×	26~36	II	3		A			東は区域外となるか新しい(攪乱)	
S K 156	B4i9	N-33°-E	E I a	不定形	1.42×1.05	38	III	1		N	△			Fig128
S K 157	B4h7	N-3°-W	E I a	不定楕円形	1.76×1.15	25	II	-1		N	}	△	北側をSK100によって切られている。	Fig148
B	"		E I b	方形	1.0×0.9	60	II	1		N				
S K 159	B4g4	N-5°-W	A I a	楕円形	1.46×1.43	18~24	I	3'	4	N				PL296・299
S K 161	B4h3, h4	N-75°-E	E III a	不定形	2.4×1.86	22	II	1		N			床面に小型石棒が出土	Fig140 PL301・302
S K 162	B4g4, h4	N-14°-W	"	不定楕円形	2.0×1.4	30	I	1	3	N	II期			Fig140
S K 163	B4g4	N-2°-E	"	不定形	2.86×1.9	18	I	3	7 (N)				遺物は中央、南向き横位で出土(埋葬か)	Fig141 PL303・304
S K 164A	B4g7	N-23°-E	E I b	"	(2.1)×1.52	52	III	1		N	}	II期	遺物は床面に少量出土	Fig159 PL305
B	"		B I b	楕円形	1.26×1.15	75	I	1		N				
S K 165	B4g6, h6	N-75°-E	B III b	"	2.6×2.0	122	I	1		N				Fig93
S K 166	B4e7	N-88°-W	D I a	"	1.38×1.13	38	II	1	1	N	△			Fig100
S K 167	B4e7	N-4°-E	A I a	"	1.1×1.07	28	I	1		N	△		SK168と重複する。	
S K 168	B4e7, d7	N-80°-W	E I a	不定形	(1.4)×1.1	38	I	1		N			SK167と重複し、本跡の方が新しい。	
S K 169	"	N-42°-W	D I a	長方形	1.92×1.53	35	I	1		N				Fig100
S K 170	B4d7	N-66°-E	E I a	不定形	1.53×1.23	35	I	3	3	N	△			Fig128

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 171	B4g3, g4		A II a	円形	0.82×0.76	18~22	I	1		N	△		Fig76
S K 172	B4g3	N-84°-W	E I a	楕円形	1.06×0.75	25	II	1	2	N	△		PL306
S K 173	"	N-57°-E	E I a	不定楕円形	1.52×1.26	50	II	1		N	II期		Fig129 Fig137
S K 174 A	B4f4		A II a	楕円形	0.82×0.73	34	III	1		N			Fig148
B	B4f3		B II b	"	1.01×(0.7)	63	I	1		N			Fig148
S K 175	"	N-47°-E	A I a	"	1.24×0.86	22	I	1	1	A			Fig58
S K 176	B4h3	N-65°-W	E I a	不定楕円形	1.37×0.7	13	II	3	1	N			
S K 177	B4g3, h3	N-43°-W	B I a	長楕円形	1.57×1.2	22~24	II	3'	2	N		SI022の南面に位置する。	Fig87 PL308
S K 178	B4h2, h3	N-43°-W	A I a	楕円形	1.53×1.0	9~16	I	3'		N			
S K 179	"	N-47°-E	"	"	1.88×1.51	12~16	I	3'	2	N		ピットは攪乱によるもの。	PL309
S K 180	B4i3		E I a	不定形	1.71×1.4	17~27	II	3'		A	II期		Fig129
S K 182	B4f3	N-24°-E	D I b	長方形	1.57×1.14	75	I	1		N	△	農業用の新しい貯蔵穴	Fig116 PL311
S K 183 A	B4h4, i4		Z	不明	0.93×0.58	20	II	3		N	} △		Fig148
B	"		B I b	楕円形	×1.54	71	I	1		N			Fig148
S K 184	B4h4	N-58°-W	D I a	長方形	1.73×0.96	48	II	1	4	N			Fig100
S K 185 A	B4f4	N-53°-W	Z	不定形	2.0×1.6	20	II	1		N	} △		Fig169
B	"		"			20		3		N			Fig169
C	"	N-41°-E	"	不定形	(1.01)×1.04	35	I	2		N			Fig169
D	"	N-34°-E	E I b	"	1.4×1.0	82	I	1		N			Fig169
E	"	N-45°-W	D I b	方形	0.9×0.78	46	I	2		N			Fig169
S K 186	B4h8, h9		J	不定形	1.9×1.0	35	II	1			II期	埋設土器で底部欠損	Fig191 PL312
S K 187	B4i2	N-28°-W	B I b	円形	1.65×1.55	60~65	I	1		N			Fig89
S K 188	"	N-16°-E	D I b	台形	1.39×1.2	52	I	1		N	△		Fig116
S K 189	B4h2	N-5°-E	B II a	円形	0.9×0.88	36~38	I	1		N			Fig92
S K 190	B4h2	N-39°-E	A II a	円形	0.86×0.78	6~8	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig76
S K 191	"	N-27°-W	B I a	楕円形	1.03×1.0	27~36	I	1		N	△		Fig87
S K 192 A	B4i1, i2	N-16°-W	E I a	(楕円形)	1.11×0.75	26~28	II	1		N	△		
B	"	N-44°-E	D I a	長方形	0.85×1.0	42~48	I	2		A	△	攪乱。抜根痕か。	
S K 193	B4i1	N-11°-W	A I a	楕円形	1.23×1.03	22~28	II	1		N	△		Fig58
S K 194	B4h1		A II a	"	0.86×0.82	30~35	I	1	1	A			Fig76
S K 195	B4h1	N-2°-E	"	"	0.88×0.84	12	II	1		N		床中央は攪乱をうけ凹状をなす。	Fig77
S K 196	B4c8, d8	N-30°-E	E I b	長楕円形	1.52×0.96	55	I	1		N			Fig139
S K 197	B4g2	N-20°-E	A I a	楕円形	1.85×1.65	12~16	I	1		N			Fig58
S K 201	B4e5	N-24°-E	A I a	長方形状	1.6×1.08	20~23	I	3	2	N	△		Fig58
S K 202	B4e4, e5	N-68°-E	E I a	不定形	1.67×1.35	15~22	I	3		N	△		
S K 205	B4b9	N-1°-E	D I a	長方形	1.06×0.94	33	II	1	1	N			Fig100
S K 206 A	B4e5, f5		"	長方形状	1.65×1.34	12	III	1		N	△		Fig116
B	"	N-40°-E	D I b	長方形	1.04×0.86	55	I	1	1	N	△		Fig116
S K 207	B4e5	N-72°-W	A I a	長楕円形	1.45×1.2	16~20	III	2		N	III期		Fig58
S K 208	B4e6	N-4°-E	E I a	不定長方形	1.51×1.1	37	I	1		N	} △	SK216と重複する。	PL313
S K 209	B4db, e6	N-57°-E	D I b	長方形	1.54×0.6	90	I	1		A			覆土中からの遺物である。
S 212	B4e6		E I a	楕円形	1.5×0.9	20~35	II	-1		N	△	東をSK217によって切られている。	
S K 213	B4g6	N-25°-W	D II a	(")	(0.9)×(0.8)	22		1	1	N	III期		Fig120

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 214	B4f7, g7	N-45°-W	D III a	(楕円形)	2.1×1.35	35	II	1		N		SK229と重複する。	Fig147
S K 216	B4e6	N-18°-W	A I a	長楕円形	1.96×1.1	25	I	1		N	△	SK208と重複する。	PL313
S K 217	B4e6, e7		B I b	円形	2.2×2.0	140	I	1	1	N	△	SK212を切り、SK116に南を切られる。	Fig159
S K 218	B4d9	N-52°-E	A I a	楕円形	1.22×0.9	9~11	II	1		N		S K 219と重複し本跡の方が古い。	Fig58
S K 219	"	N-38°-E	"	"	1.58×0.75	14~16	II	1		N			Fig59
S K 220	"	N-37°-E	"	"	1.7×1.15	17~26	II	1		N		SK219と重複する。	Fig59
S K 222	"	N-84°-W	"	"	1.25×1.05	48~50	I	1	1	N	△	SI004の東壁を切る。	Fig59
S K 225A	B4f7, e7		E I a	(")	1.5×0.64	18	II	1		N	△		Fig149
B	"		D I b	長方形	1.48×1.24	54	I	1		N	△		Fig149
S K 226	B4f5, f6		A I a	楕円形	1.55×1.42	34~42	II	3		N	III期	SI009の南西を切る。	Fig59
S K 227	B4e7, e8	N-8°-E	E I a	不定形	1.6×1.3	20~28	II	1		N		SI005の東壁に位置する。	Fig129 PL314
S K 228	B4g6	N-43°-W	A I b	楕円形	1.9×1.6	48~52	II	1		N	△		Fig74 PL315
S K 229	B4f7		D I a	長方形	1.25×1.1	27	I	1		N	III期か	SK214と重複する。	Fig147
S K 230	B4i5, i6	N-79°-W	D III a	長方形	2.4×1.4	26	II	1		N	△	北にSK231が隣接する。	Fig122 PL316
S K 231	"	N-88°-W	B I a	"	1.95×1.17	28~32	I	1		N	△		Fig87
S K 232	B4b8		A I a	楕円形	1.2×0.91	28~32	I	1	1	N		ピットはSI004の柱穴と思われる。	
S K 233	B4i0, B5i1	N-60°-W	D III b	長方形	2.12×1.55	51	II	1	1	N			Fig126
S K 234	B4e6, e7		A II a	楕円形	1.0×0.7	17~42	I	1	1	N		SI005の西側に位置する。	Fig76
S K 235	B4c7, c8	N-65°-W	D I a	不定長方形	1.85×1.45	32	III	1		N	△		Fig101
S K 236	"	N-42°-E	D I a	"	1.85×1.15	24	II	1	2	N			
S K 237	B4c7	N-55°-W	D I a	長方形	1.43×1.1	26	II	1		N	△		Fig101
S K 238	B5e1, f1	N-14°-E	D III b	"	2.63×1.63	88	I	1		N		2基の重複の可能性がみられる。	Fig126
S K 239	B4c7	N-49°-W	D I a	"	1.8×1.1	24	I	1	5	N	△	壁ぎわにピットがめぐる。	Fig101
S K 240	B4d7	N-30°-W	"	不定長方形	1.77×1.28	25	II	1	4	(N)	△	ピットはSI020の柱穴の可能性がみられる。	Fig102
S K 241	B4d3, d4	N-59°-E	D III b	長方形	3.8×1.02	30~106	I	1		A	△	遺物は流れ込みと思われる。	Fig126
S K 242	B4d4	N-88°-E	D III a	"	2.06×1.48	21	I	1		N	△		Fig122 PL317
S K 243	B4d3		A II a	楕円形	0.78×0.67	25~35	II	3		A		攪乱によるものか。	Fig76 PL318
S K 246A	B4e3, e4	N-68°-W	D I a	長方形	1.88×1.6	26	II	3	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	
B	B4e3	N-57°-W	A I a	楕円形	1.2×0.9	40	II	2		N	△		
C	B4e4	N-88°-W	A II a	"	0.87×0.68	40	I	1		N	△		
S K 247	B4e3, e4	N-37°-W	E I a	不定長方形	1.43×1.1	27	II	3	2	N	△	ピットはSI015, 027の柱穴か。	PL321
S K 248	B4e3	N-20°-W	E III a	不定形	2.58×1.28	37	III	3		N	△		PL322
S K 249A	B4e3, f3	N-86°-E	D I a	不定長方形	1.87×1.08	17	I	1		N	△	西側は攪乱を受けている。	Fig102 PL323
B	"		B II b	円形	0.8×0.73	58	I	1		N	△		Fig102 PL323
S K 250	B4d4, d5	N-66°-E	D I b	不定形	1.81×1.6	63	II	1	6	A	III期	SI021, SK242より新しい。	Fig127 PL324
S K 251	B4g3		D I a	不定方形	1.27×1.04	18	II	3	1	A		ピットは同時期のものと思われる。	
S K 252	B4h3, h4		D I a	長方形	1.6×1.26	20	III	3		N		SK161より本跡の方が古い。	
S K 253	B4f3		E I a	不定形	1.23×	31	III	3		N	△	SK182より古くSK287より新しい。	Fig129
S K 254	B4h8, g8	N-78°-E	D II a	長方形	0.94×0.65	27	I	1		N	II期		Fig120
S K 255	B4h8		D I b	長方形	1.2×1.0	65	II	1		N	△	SI010より本跡が新しい。	
S K 256	B4d3, e3	N-34°-W	D I a	"	1.51×1.2	23	III	3	2	N	II期		Fig102
S K 257	B4b5	N-65°-E	D I b	"	1.65×0.65	91	I	1		A	△	農業用の貯蔵穴か、遺物は流れ込み。	
S K 258	B4c4, c5	N-59°-E	D III b	"	3.05×0.7	90	I	1		A	△	"	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 259	B4c4, c5	N-58°-E	D I b	長方形	1.48×0.74	97	I	1		A	△	覆土は軟質で、ブロックまじりである。	
S K 260	B4c7, c6	N-5°-E	D I a	"	1.4×0.95	34	I	3		N	△	SK261より本跡は新しい。	Fig101
S K 261	B4b6, c6	N-35°-E	"	"	1.55×1.1	48	II	3		N	II期	SK260より本跡は古い。	Fig101
S K 262	B4c6	N-35°-E	E I a	不定形	2.1×1.15	34	II	3'	6	N	△	北西壁にぞってピットがみられる。	Fig159
S K 263	B4c6		"	長方形	1.7×1.35	32	II	1	4	N	△	SK262と重複するが新旧は不明	Fig159
S K 264	B4d5, d6	N-52°-E	A I b	楕円形	1.85×1.43	62	I	1		N			Fig74 PL325
S K 265	B4c6		A I a	円形	1.2×1.2	34	II	3		N			
S K 267A	B4d5	N-59°-W	E I a	楕円形	(0.53)×0.68	16	I	1		N	△	SK311より本跡の方が古い。	Fig149
B	"		B II b	円形	0.89×0.7	86	I	2		A	△		Fig149
S K 268	B4b5, b6		A I a	楕円形	1.35×1.1	18~24	III	1	1	N	△	ピットはSI014かSI018の柱穴か。	PL326
S K 269	B4c5, b5		B I b	不定形	1.73×1.13	85	I	+1	2	N	△	ピットはSI012の柱穴か。	Fig188
S K 270	"	N-57°-W	D I b	円形	2.1×1.95	58	I	+1	6	N	△	覆土上層、西壁よりに焼土多量検出する。	Fig116 PL327
S K 271	B4c5		A I a	"	1.2×1.1	33	I	1		N	△	SK272より新しく床面に少量のハマグリ出土。	PL549
S K 272	"		Z	不定形	1.9×0.85	47	I	3	6	N	△	S I 012の南西コーナーに位置する。	Fig188
S K 273	B4c7		A II a	円形	0.76×0.65	12~15	I	3					Fig76
S K 274	B4e2, e3	N-50°-E	D I b	長方形	1.35×0.9	75	I	1		N			Fig116 PL328
S K 275	B4j4, j5		B I a	楕円形	1.37×1.25	38~46	I	1		A	△	床中央にピットが3つ並ぶ。	Fig87
S K 276	B4j5		D I b	円形	1.1×0.97	50	I	1		N	△		Fig116
S K 277	B4e3		B II b	円形	0.82×0.8	76	I	1		N			PL329
S K 279	B4d3		A I a	楕円形	1.74×1.43	18~20	I	1		N	△		Fig59
S K 280	B4d2, d3	N-86°-W	C I a	"	1.7×1.25	22~42	I	1	1	N	△		Fig94
S K 281	B4d2	N-59°-E	D I a	長方形	1.05×0.8	40	I	2		N	△		PL330
S K 282	"	N-8°-W	"	不定形	1.03×0.9	35	II	3	2	A		ピットは根か。	
S K 283	B4e2, d2	N-33°-W	A II a	楕円形	0.89×0.67	8~12	III	3	1	A			Fig76
S K 284	B4d2, e2	N-28°-E	A II a	楕円形	0.9×0.7	20~30	III	3	2	N		柱穴状のものがみられるが性格は不明	Fig76 PL331
S K 285	B4e2		"	円形	0.95×0.8	20~22	III	3'		N			
S K 286A	B4d1, e1	N-85°-E	E I a	楕円形状	(1.2)×1.13	"	I	-1	4	N	△		
B	"	N-36°-W	D II a	方形	0.81×0.81	40	I	1		A		覆土は軟質で多量のロームブロック含む。	
S K 287	B4f3	N-36°-E	Z	不明	1.47×1.0	19	III	3	2	N		SK253より本跡の方が古い。	
S K 288	B4e2	N-60°-E	A I b	(楕円形)	1.13×0.85	65~71	I	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig74 PL332
S K 289A	"		Z	不明		6	I	1	2	N	△		
B	"	N-7°-W	D II a		0.7×0.68	40				A	△		
S K 290	"		E II a	不定形	0.92×0.57	27	III	3	1	A	△	攪乱か抜根痕	
S K 291	"	N-43°-E	D II a	"	0.73×0.58	17	II	3'		N			
S K 292	B4e1, f1	N-60°-E	"	楕円形	0.97×0.6	35	I	1		N			Fig120
S K 293	B4g1, f1	N-71°-E	A II a	"	0.55×0.43	8~13	I	1		N			Fig77
S K 294A	B4f2	N-70°-W	D II b	方形	0.85×0.85	72	I	1		N			
B	"		E II a	不定形	0.74×0.7	30	II	2	1	N			
S K 295	"		A II a	楕円形	0.89×0.69	16~25	II	2		N			Fig76
S K 296	B4f1	N-9°-E	B I b	"	1.04×0.9	76	I	1		N	△	SK297より本跡の方が新しい。	Fig89 PL333
S K 297	"	N-66°-E	A I a	"	1.04×0.9	19	II	3		N			Fig89
S K 298	B4g2, f2		D I a	長方形	1.1×0.88	23	II	3	3	N		東側に新しい掘り込みがみられる。	Fig101 PL334
S K 299	"	N-53°-W	"	長方形	1.7×1.24	45	II	3	1	N			

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 300	B4g3		E I a	不定形	1.25×0.8	13	II	3	1	N		S K301より本跡の方が古い。	PL335
S K 301	B4g2	N-35°-E	C I b	楕円形	1.4×1.12	40	I	1	1	N	△	SK300より本跡の方が新しい。	Fig95
S K 302	"	N-82°-W	D I a	長方形	1.4×1.05	19	III	1	1	N			Fig101
S K 303	"	N-28°-E	"	長方形	1.23×0.92	23	II	1		N			Fig101
S K 304	B4g1	N-60°-E	"	"	1.34×1.1	27	III	3	3	N		床中央は攪乱をうけている。	
S K 305	"	N-40°-W	B I a	楕円形	1.27×1.1	37~40	II	2		A			Fig87
S K 306	B4d6	N-65°-W	E I a	不定形	1.8×1.0	18	III	3	3	N	△	SI016の入口部にあり住居より新しい。	Fig129 PL336
S K 307	B4d5	N-22°-E	A I a	楕円形	1.37×1.09	20	III	2	5	N	△	SI017の炉に接し、3本の柱穴が並ぶ。	Fig59 PL337
S K 308	B4d5, e5	N-41°-W	"	"	1.93×1.2	18~20	I	3	5	N	△		Fig59 PL338
S K 309	B4d3	N-41°-W	D I a	長方形	1.04×0.8	17	II	3		N			Fig101
S K 310	B4d3, d4		E I a	不定形	1.5×1.1	25	I	2		N	III期		Fig129
S K 311	B4d4	N-45°-W	D I a	長方形	1.63×1.39	47	II	2	2	N	△	ピットはSI017の柱穴か。	Fig102 PL339
S K 321	C5a2, B5j2	N-30°-E	B I a	不定楕円形	1.3×1.08	24~33	I	1		N	△		Fig87
S K 322	C5a2, a1	N-87°-W	A I a	楕円形	1.55×1.06	18~28	I	1		N	△		Fig59 PL340
S K 323	C5a1	N-42°-E	A II a	"	1.0×0.85	14~18	II	1		N			Fig76
S K 324	C5a1, a2	N-54°-W	A I a	長楕円形	1.41×0.55	20~24	III	1		N			
S K 325	C5b1, b2	N-6°-W	D I a	長方形	1.54×1.22	20	I	1		N			Fig101
S K 326	B4i0	N-40°-W	A I b	楕円形	1.48×1.34	54	I	1		N	II期	土器組炉跡(焼土, 灰が充填)	Fig74
S K 327	C5b2	N-35°-E	D I a	長方形	1.67×1.4	38~42	II	1		N	△		Fig102
S K 328	C5e2	N-7°-W	D I a	"	1.28×0.88	16~26	I	1		N		床は北側へ傾斜を示している。	
S K 329	C5e2, d2	N-47°-E	"	"	1.54×1.1	28	I	1		N	△		Fig101 PL341
S K 330	C5d2, e2	N-38°-W	"	不定長方形	1.55×1.14	45	II	1		N	I期		Fig102 PL342
S K 331 A	"		A I a	長楕円形	1.8×1.1	23	II	1		N			Fig149
B	"		D II b	方形	0.65×0.6	84	I	1		N			
S K 332	C5e2	N-33°-E	A I b	楕円形	1.06×0.89	52~62	I	1		N			Fig74
S K 333	C5e1, e2		B II a	円形	1.02×0.94	18	I	1		N			Fig92 PL343
S K 334	"		A II a	"	1.09×0.98	12~20	I	1		N	△		Fig76
S K 335	C5e2, f2		D II a	長方形	0.97×0.88	14	I	1		N			Fig126
S K 336	C5d1		A II a	円形	0.69×0.65	20~23	II	2		N	△		Fig76
S K 337	C5f3		A I a	楕円形	1.28×1.03	16	I	1		N			Fig59
S K 338	C5g3	N-50°-W	A I a	"	1.53×1.1	12~22	I	1		N			Fig60
S K 339	C5h3		D I a	長方形	1.14×1.0	19	I	2	2	(N)		ピットは根によるもの。	Fig101
S K 340 A	C5h3, i3	N-68°-E	D III a	"	2.2×1.8	20	III	1		N			Fig97
B	"		D I b	"	1.7×1.52	52	I	1		N			Fig97
S K 341	C5h2	N-82°-E	E III a	不定長方形	2.17×1.02	48	III	2		A			
S K 342	C5h2, i2	N-52°-E	D I a	"	1.48×0.59	46	II	3		A		性格は不明だが覆土は軟質である。	Fig101
S K 343	C5i2		A I b	楕円形	1.55×1.35	57	II	1		N			Fig74 PL344
S K 344	C5h1, h2	N-32°-W (A I a)	長楕円形	1.25×1.05	18~20	II	3			N		SK352と重複し本跡の方が古い。	
S K 345	C5g1	N-87°-E	A I a	楕円形	1.5×1.05	14~18	III	2	2	N		ピットは本跡より新しい攪乱。	
S K 346	C5i1		A II a	円形	0.89×0.84	13~17	I	1		N		覆土上層にカーボンを少量含む。	Fig76
S K 347	C5i1, j1	N-8.5°-E	A I a	楕円形	1.15×1.02	32~36	I	1	1	(N)	I期	覆土上層に焼土を含み遺物は投棄されたもの。	Fig59 PL345
S K 348	C5i3		"	"	1.72×1.3	20~24	III	1		N			Fig59
S K 349	C5b1	N-62°-W	E I a	"	1.83×1.07	20	III	1		N	△	東西に走る溝によって切られている。	Fig129

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 350	C4b0	N-21°-E	A I a	楕円形	1.43×1.12	18~21	II	1		N	III期		Fig60 PL346
S K 351	C5e1	N-71°-E	"	"	1.2×0.84	10~12	II	1	2	N		東西にみられるピットは比較的新しい。	Fig60 PL347
S K 352	C5h1, h2		B I b	"	1.56×1.14	57	I	1		N		SK344と重複し本跡の方が新しい。	Fig116
S K 353A	C4d0	N-5°-E	D III a	長方形	2.1×1.5	29	I	1		N	} Δ	遺物は流れ込みのものと思われる。	Fig149
B	"	N-5°-E	A II b	楕円形	0.9×0.85	56	I	3	3	N			Fig149
S K 354	C4e0, f0		D I a	長方形	1.48×1.23	19	I	1		N			Fig102
S K 355	C5e1, f1	N-48°-E	"	(長楕円形)	1.86×1.0	18	I	1	1	N	Δ		Fig102 PL379
S K 356	C4f0		A I a	楕円形	1.45×1.05	33	I	1	1	N	Δ	ピットは本跡より新しい。	Fig60
S K 357	C4f0	N-72°-E	"	"	1.13×0.8	12~15	II	1	2	N			Fig60
S K 358	C4g0	N-27°-W	A III a	"	2.3×1.62	20~40	I	3	6	N	Δ		Fig83 PL348
S K 359	"	N-41°-W	A II a	"	0.85×0.6	12~40	I	2		N			Fig77
S K 360	"	N-27°-W	A I a	"	1.25×0.78	10~12	III	3	1	A	Δ		Fig60
S K 361	C4h0, g0		A I a	"	1.67×1.32	73	II	2	1	N	Δ		Fig59
S K 362	C4h0, g0		D I a	長方形	1.7×1.65	20	III	3'	6	N	Δ	撈乱か抜根痕。	Fig102
S K 363	C4h0	N-82°-W	A II a	楕円形	0.9×0.68	20~24	I	1		N			Fig77
S K 364	C4h0, i0	N-3°-W	A III a	"	2.0×1.65	30~33	I	3		N	Δ		Fig83 PL349-350
S K 365	C4h9		A II a	"	0.7×0.7	12~14	I	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig77
S K 366A	C4i0, g0	N-45°-E	E I a	不定形	1.32×0.8	9	III	1		N	} Δ	部分的に撈乱をうけている。	Fig149 PL351
B	"		B I b	円形	1.12×1.12	54	I	1		N			Fig149
S K 367	C4i9		A I a	"		45~50	I	1		N		土壌サンプリングを実施	Fig60 PL352
S K 368A	C4g0	N-65°-E	E I a	不定形	1.04×0.67	12	II	1		N	} I期	形態は(CIb)とも思われる。	Fig95 PL353-354
B	"		B I a	円形	1.4×1.21	47	I	1		N			覆土中に分銅型石斧が出土。
S K 369	B4j4		A II a	楕円形	0.95×0.85	8~15	I	3		N			Fig77
S K 370	"	N-8°-E	E I a	不定形	1.2×0.85	31	III	3'		N		東壁に方形の掘り込みがみられる。	
S K 371	B4i3, i4	N-10°-E	E I a	不定形	1.87×1.05	46	II	1	1	N		覆土層に撈乱がみられる。	Fig129
S K 372	B4i3, g3		E I b	"	1.06×0.88	15~75	I	3		N		不定形の掘り込みがみられる。	Fig139
S K 373	C4a4, B4j4		A I a	楕円形	1.64×1.24	35~40	II	3	5	(N)			Fig60
S K 374	C4a4	N-2°-W	D I a	長方形	1.52×1.37	32	II	3		N			Fig103
S K 375	C4a4	N-8°-W	"	"	1.68×0.86	31	II	1	2	N	Δ		Fig103
S K 376A	C4a3, a4	N-24°-W	D I a	"	1.5×1.1	19	I	1	4	N	Δ	ピットは本跡より新しい。	Fig149
B	"		D I b	"	1.12×0.76	50	I	1	1	N	Δ		Fig149
S K 377	B4j4		D I b	"	1.77×1.47	65	I	3	2	N	Δ	壁は凹凸状をなしている。	Fig116
S K 378	C4a3, b3	N-50°-E	D I a	"	1.75×1.7	46	II	3		N	Δ	床は凹状となる。	Fig103
S K 379	B4j3		B I b	(円形)	1.2×1.1	105	I	1		N		平面形あるいは方形か。	PL355
S K 380	"	N-30°-E	E I a	不定形	1.24×0.77	23	III	3'		N	Δ	SK391と重複し本跡の方が古い。	
S K 381	B4j2	N-56°-W	E III a	"	2.56×1.24	29	II	3'		N			
S K 382	B4j2, i2		B I a	円形	1.2×1.2	40	II	1		N			Fig149
S K 383	"		C I b	"	1.55×1.09	42	I	1		N	Δ		Fig149 PL356
S K 384	B4i2	N-56°-W	D I a	長方形	1.18×0.82	34	II	1		(N)			
S K 385	B4i1	N-47°-W	"	"	1.61×0.82	27	II	1	2	(N)	Δ		
S K 386	"	N-58°-W	A II a	楕円形	0.75×0.59	12~15	I	3	1	N			Fig77
S K 387	"		A I a	"	1.12×0.95	20~24	I	1		N	Δ		Fig60 PL357
S K 388	B4j1, j2	N-36°-W	E I b	不定形	1.78×1.15	65	III	3'		(N)	Δ		Fig138

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ビット数				
S K 389	C4a2		B I b	円形	1.33×0.95	106~109	I	+1		N		覆土上層に攪乱が入る。	Fig89
S K 390	C4a3	N-4°-E	B I a	"	1.09×0.99	21	I	3	2	N			
S K 391	B4j3	N-69°-W	(A I a)	楕円形	1.05×1.05	35	I	1		N	△	SK380より本跡は新しくSK401より古い。	
S K 392	C4a1, B4j1	N-72°-E	E I a	不定形	1.70×1.28	41	II	2		A		覆土中に多くのルームブロックを含む。	
S K 393	C4a1, a2	N-78°-E	D I a	長方形	1.22×0.8	20	I	1		N			Fig103
S K 394	C4a2, b2	N-37°-W	A II a	楕円形	0.8×0.56	12~14	II	3	2	N			Fig77
S K 395	C4b2	N-90°-E	D I a	長方形	1.51×0.69	35	I	3					Fig103
S K 396	C4b1		B I a	円形	1.33×1.06	43~46	I	1		A			Fig87
S K 397	"		A II a	"	1.08×0.89	10~12	II	2		N		床中央の凹は攪乱による	Fig77
S K 398	C4b2, c2	N-38°-E	A I a	楕円形	1.31×0.94	5~8	I	1		N			Fig60
S K 399	C4a2	N-30°-W	(B I b)	"	1.37×1.35	67	I	1		N		SK404と重複し本跡の方が新しい。	
S K 400	C4a2, B4j2	N-45°-W	(B I a)	"	(0.7)×1.0	43	I	1		N	} △		Fig174
B	"	N-67°-W	D III b	長方形	4.17×1.86	105	I	1	(A)				西にSK404が接している。
S K 401A	C3j3		(B I b)	(楕円形)	1.27×1.15	62	I	1		N	} 1期		Fig89 PL.358
B	"	N-87°-W	B I b	楕円形	1.56×1.46	75	I	1	(N)				覆土下層は(N), 上層は変則的の堆積
S K 402	C5i2, j2	N-31°-E	A I a	"	1.97×1.8	46~48	II	+1	1	(A)	I期	遺物は覆土中からのものが多く鳥獣把手が出土	Fig60 PL.362~364
S K 403A	C5j1, j2		Z	不定形	1.46×(0.5)	23	II	3	1	N	} △		Fig151
B	"	N-16°-W	B I b	隅丸形状	1.52×1.38	62	I	1		N			浅いビットがみられる。 円筒状をなしている。
S K 404	C4a2, a3	N-22°-W	G III b	長楕円形	3.22×0.8	113	I	1	3	N		Tビット状で開口幅60cm, 底部幅26cm	Fig174 PL.359-404
S K 405A	B4j1		E I b	不定形	1.66×1.32	43~62	II	2			△		
B	"	N-37°-E	A I a	(楕円形)	1.03×0.95	47	II	1				SK392と重複する。	
S K 406	B4i6	N-73°-E	D I a	長方形	1.72×1.06	19	II	2	1	N			Fig103
S K 407	B4j8		B I a	円形	1.56×1.4	38	I	1	2	N	△	SI023の南西にあり壁にビットがみられる。	Fig87 PL.361
S K 408	B4j8	N-78°-W	A II a	楕円形	0.93×0.84	18~20	I	1		(N)	III期		Fig77
S K 409	B3j8	N-67°-W	D I a	長方形	1.6×1.13	27	III	1		N	△		Fig103
S K 410	B3j7, j8		"	"	1.45×1.0	20	III	1		N	△	SI032と重複し本跡が新しい。	Fig103
S K 411	B3j9	N-58°-E	"	隅丸長方形	1.88×1.52	32	II	1		N	△	部分的に攪乱がみられる。	Fig103 PL.360
S K 412A	B4i0, j0		"	長方形	1.11×0.85	20	I	1	1	N		北壁に他の掘り込みがみられる。	Fig103
B	"	N-41°-W	"	"	1.09×0.98	32	II	2	1	N		床中央はやや凹状をなす。	Fig103
S K 413	B4i0		A II a	円形	0.94×0.85	13	I	1		N			Fig77
S K 414	"		"	"	0.63×0.46	24~27	I	1		N		SK415と重複し本跡の方が古い。	Fig77
S K 415	"	N-12°-E	E I a	(楕円形)	1.38×0.86	46	I	3	2	N		ビットはSK415より新しい。	
S K 416	C4c0	N-20°-E	G III b	長楕円形	3.14×1.3	75	I-II	1		N		Tビット状で開口幅1.5~1.4m	Fig173 PL.365
S K 417	C4d0, c0	N-53°-E	D I a	隅方長方形	1.9×1.35	25	III	1		N			Fig104
S K 418	C4f9		"	長方形	1.12×1.08	29	II	1		N			Fig103
S K 419	C4e0		A I a	円形	1.1×1.02	21~23	I-II	1		N		床中央付近は攪乱をうけている。	Fig60
S K 420	C4c8		"	楕円形	1.4×1.11	18~22	II	2		N			Fig61
S K 421	C4b9, c9		"	"	1.7×1.45	20~23	I	1		N	△		Fig61
S K 422	C4d8		D I a	長方形	1.51×1.1	23	II	1	2	N		覆土は軟質で新しい時期の所産	Fig103 PL.376
S K 423	C4d8		A I a	楕円形	1.36×1.28	8	I	1		N			Fig61
S K 424	C4d0, c0	N-68°-W	E III b	不定形	2.83×1.79	75	I-II	2		(N)	△	SI033と重複し本跡が新しい。	Fig160
S K 425	C4c8	N-7°-E	E II a	"	0.89×0.78	(20)	II	2	3	N		ビットはSI034との関係がみられる。	
S K 426	C4a6		D I a	隅丸形状	1.62×1.49	39	II	1	1	N	△		Fig104

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 427	B4j6, j7	N-2°-E	D I b	長方形	1.94×1.38	57	I	1	1	N	III期	西壁に不定形の溝がみられる。	Fig117
S K 428	C4f8	N-25°-E	A I a	楕円形	1.13×0.74	15~18	II	1		N			
S K 429	C4f8, f9	N-70°-E	D I a	"	1.32×0.95	27	III	1		N			Fig104
S K 430	C4f7	N-88°-E	A II a	"	0.89×0.74	18~20	II	2		N			Fig77
S K 432	C4g8, f8	N-38°-E	D I a	長方形	1.57×1.28	27	II	1		N	△		Fig104
S K 433 A	C4g8	N-49°-W	D I a	"	1.88×1.2	26	II	2		N			
B	"		D II b	方形状	0.95×0.7	86	I	1		N			
S K 434	C4g9	N-30°-W	A II b	円形	1.1×1.0	12~15	I	1		N			Fig77
S K 435	C4g8, g9		D I a	長方形	1.59×1.54	95	1	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig104
S K 436	C4g8		A I a	楕円形	1.17×0.93	16~20	II	2		(N)	△	覆土はやや軟質である。	Fig61
S K 437	C4g8, h8		A I a	"	1.27×1.15	22~25	II	2		(N)			Fig60
S K 438	C4h8	N-27°-E	A II a	不定楕円形	0.84×0.6	22~32	II	2		N		攪乱によるものか。	Fig77
S K 439	"		D I a	隅丸長方形	1.1×1.02	"	III	1		N			
S K 440	"	N-48°-E	A I a	楕円形	1.15×0.9	10~15	II	2		N		攪乱が部分的にみられる。	
S K 441	C4i9	N-50°-E	D II a	長方形	0.95×0.75	13	III	2	1	(A)		方形のピットは本跡より新しい。	Fig120
S K 442	C4j8, j9		A I a	楕円形	1.11×0.88	8~12	II	1		N		ピットは本跡より新しい。	
S K 443	C4c8, d8		J	円形	0.47×0.46	25	I	1		(A)	II期	SI034の南側に位置する。	Fig99 PL368
S K 444	C4d7		J	"	0.44×0.36	28	I	1			"		Fig189 PL369
S K 445	"		J	"	0.38×0.36	23	I	1			"	SI057の北東コーナーに位置する。	Fig189 PL370
S K 447	C4a7	N-48°-W	A II a	楕円形	0.8×0.7	10	II	2	1	N		SI032より新しい。	Fig77
S K 448	"		E II a	不定形	1.03×0.7	14~30	III	2	2	N	△	"	Fig139
S K 449	C4a6		A II a	長方形	0.84×0.68	22~26	III	3			△		Fig77
S K 450	C4a5, b5		E III a	不定形	2.52×2.05	45	II	1	1	(N)	III期	覆土上層に一括して出土している。	Fig142
S K 451	"		"	"	2.13×1.49	27	II	3		N	△	部分的に攪乱がみられる。	Fig143 PL366-367
S K 452	C4b5		D I a	"	1.09×1.04	35	II	1	1	N	△	床面に小型皿状のものか出土。	Fig104 PL367
S K 453 A	"	N-86°-W	E III a	不定長方形	2.06×1.5	20~30	II	3		A	△	A、Bの新旧関係は不明である。	PL367
B	"		D I b	長方形	1.0×0.8	85	I	1			△		PL367
S K 454	C4b5, C5	N-14°-E	E I a	不定形	1.69×0.9	21	II	3	2	(A)	△	方形のピットはしっかりしているか性格不明	Fig129 PL367
S K 455	C4b4, b5		A I a	不定楕円形	1.2×1.0	13	III	3	3	N			Fig61 PL367
S K 456	C4c5	N-58°-W	D I a	長方形	1.38×0.77	20	II	1	1	N			Fig104 PL373
S K 457	C4c4, c5	N-89°-E	D III a	"	2.66×1.0	13	I	1	7	N	△	西側の大きなピットは新しい。	PL374
S K 458	C4c5, c6	N-40°-E	E I b	不定長方形	1.8×1.53	50	I	1	1	N	△	北西壁の楕円形のピットは性格不明。	Fig138
S K 459	C4c5, d5	N-35°-E	E I a	不定形	1.56×1.14	16	I	1	2	N	△	東西に楕円形状の掘り込みがみられる。	Fig130 PL375
S K 460	C4c4, d4	N-23°-W	A I a	楕円形	1.17×0.84	20~26	I	1		N		SI031の中央やや南東よりに位置する。	Fig61
S K 461	C4a4, b4	N-3°-E	E III a	不定形	3.1×1.3	21	II	3	4	N	△	大小のピットは本跡より新しい。	
S K 463	C4c4	N-17°-E	E I a	"	1.35×0.99	18~26	I	3	1	N		ピットはSI031ないし039の柱穴と思われる。	Fig130 PL378
S K 464	"		A II a	楕円形	0.82×0.74	15~18	II	3		N	△		Fig77
S K 465	"	N-38°-W	"	"	1.13×0.69	23~25	II	2		N			Fig61
S K 466	C4c3		E III b	不定形	3.04×1.99	150	III	2		(N)	△	SK481と重複し、本跡の方が新しい。	Fig169
S K 467	C4b3		D I a	隅丸長方形	1.0×0.89	28	I	1		N			Fig103 PL379
S K 468	C4b3, c3		A I a	円形	1.17×1.15	20~27	I	1		(N)	△	南壁がややオーバーハングきみとなる。	Fig61
S K 469	C4b3	N-0°-E	E II a	不定形	1.0×0.62	28	I	1	3	N		南側が攪乱をうけ、ピットは本跡より新しい。	Fig139
S K 470	C4b2	N-52°-E	D II a	長方形	0.94×0.74	6~43	I	1	1	(N)			

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
SK 471	C4c5, c6	N-70°-E	D I a	長方形	1.42×1.1	46	II	3	2	N	△	北側をSK472によって切られている。	Fig104
SK 472	C4c6, b6		"	"	1.53×1.0	20	II	1	2	N	△		PL380
SK 473	C4b5, b6		"	"	1.7×1.27	25	I	3	2	N	△		Fig104
SK 474	C4f7	N-13°-W	B I b	楕円形	1.67×0.87	50~56	I	1	1	(N)	△	長方形の土壇が南に掘り込んでいる。	Fig89
SK 475A	C4g7	N-69°-W	A I a	"	(0.75)×0.88	14~20	II	1		N	} △		
B	"		B II b	"	0.92×0.6	65~68	I	3		N			
SK 476	"	N-11°-E	D III a	長方形	2.78×1.57	20	I	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig160
SK 477	"		D I a	長方形	1.38×1.22	25	I	1		N			Fig104 PL381
SK 478	C4g6, g7		"	隅丸長方形	1.43×1.04	30	I	1	2	N		南東壁に2ヵ所のピットがみられる。	Fig105
SK 479	C4c2		B I a	円形	0.92×0.83	35	I	1		N		SK480と重複し、北東壁を本跡が切っている。	Fig150
SK 480	"	N-46°-E	D I a	隅丸長方形	1.69×1.39	14	I	1	1	N	△	本跡はSK479より古く、西壁に掘り込みがある。	Fig150 PL382
SK 481	C4c2, c3		E III a	不定形	3.05×(1.4)	32	III	2	4	(N)	△		Fig169
SK 482	C4c2	N-80°-E	D I a	長方形	1.13×0.68	17	I	1	2	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig105
SK 483	C4c1, d1	N-34°-W	A I a	楕円形	1.5×0.64	20	II	2	2	N			
SK 484	"	N-53°-W	E I a	不定形	1.13×0.74	17	III	2	1	N			
SK 485	C4c1		H I b	円形	1.16×1.02	53	IV	1		(N)	△	壁はわずかにオーバーハングきみとなる。	PL383
SK 486	"	N-38°-E	E I a	不定形	1.35×0.78	21	III	3	3	N		楕円形と方形の重複が考えられる。	
SK 487	B4i0, j0		B I b	楕円形	1.41×1.23	70~85	I	1	1	A	△	SI029より新しくピットはSI075のものか。	Fig90
SK 488	B5j1	N-67°-E	D II a	長方形	0.8×0.48	11	III	1		N			Fig120
SK 489	"	N-8°-E	A II a	卵形	0.84×0.57	10~12	II	1		N			Fig78
SK 490	"	N-86°-E	D I a	長方形	1.36×0.66	21	II	1	4	N		ピットは本跡より新しくSI029の可能性あり。	Fig105 PL384
SK 491	C4e9		B II a	円形	0.92×0.9	24~28	I	1		N	III期か	SI033の炉を切り、北壁に浅鉢が出土。	Fig92
SK 492	B4j0		A I b	"	1.24×1.2	53	I	1		N		床より垂直に立ち、中段より外反きみとなる。	Fig74 PL385
SK 493	C4d4, e4		J	"	0.73×0.68	23	I	1		(N)	II期	SI040の南の位置している。	Fig189 PL386
SK 494	C4c2, d2		A II a	円形	0.98×0.92	14~22	II	1	2	(N)		床は西に傾斜している。	Fig77
SK 495	C4c3, d3	N-51°-E	E I a	長楕円形	1.79×0.68	22	II	3	1	(N)	△		Fig130
SK 496	C4d3	N-82°-E	D I a	長方形	1.47×0.83	12~32	II	1	2	N	△	ピットは本跡より新しく、SI035か040のものか。	Fig105 PL387
SK 497	C4a1		E III b	不定形	2.1×1.55	25	III	3'	2	(A)			
SK 498	C3a0, b0	N-22°-W	A I a	楕円形	1.07×0.62	13~18	II	1	3	N		長軸線に沿って3つのピットが並ぶ。	
SK 499	"	N-39°-W	E I b	不定形	1.62×1.16	71	II	2		N			Fig138
SK 500	C3a0, a9		D I a	長方形	1.05×0.95	38	II	3'		(A)		覆土は軟質である。	
SK 501	"		A II a	楕円形	0.92×0.73	8~12	II	3'	2	(A)		攪乱によるものか。	
SK 502	C3a0	N-79°-E	D I a	長方形	1.08×0.81	51	II	1		N			Fig105
SK 503	C3a9		D I b	"	1.2×1.1	63	II	3		(N)		覆土は軟質である。	Fig117
SK 504	C3a9, b9		D I a	"	1.4×1.1	34	II	3		A		"	Fig105
SK 505	C3a9	N-39°-E	D III b	"	2.86×2.17	68~108	III	1		N	△	北壁はゆるい傾斜を示している。	Fig160 PL388
SK 506	C3a8		E III a	不定形	2.44×1.0	32	I	2		N			Fig160 PL388
SK 507A	"	N-16°-E	D II a	方形	0.9×0.86	36	I	1		N			Fig105
B	"		D I a	"	1.24×1.02	15	II	3		A			Fig105
SK 508	"	N-12°-W	A I a	楕円形	1.2×0.75	25	III	3'		(A)		大部分攪乱をうけている。	
SK 509	"		D I a	長方形	1.47×1.2	15	I	3	1	N		ピットは本跡より新しい。	
SK 510	C3a7, a8	N-73°-W	A II a	長方形	0.9×0.7	18~32	I-III	3'		N		部分的に攪乱がみられる。	Fig78
SK 511	"	N-80°-W	A II a	楕円形	0.6×0.39	12~18	II	3		A			Fig79

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 512	C3a8, b8	N-69°-W	E I a	不定形	0.6×0.39	21	II	2		A		覆土は軟質でやや新しいものか。	Fig130
S K 513	"	N-5°-E	"	"	1.52×0.52	14	III	3'		A		"	PL389
S K 514 A	C3a7		"	"	(1.6)×1.45	25	II	3		N	} Δ		
B	"		A I a	円形	1.06×1.04	35	II	2		N			
S K 515	C3a6	N-9°-W	Z		1.03×0.8	40	II	1		N		西側にSK516が隣接している。	Fig150 PL390
S K 516	"		E III a	不定形	2.3×1.52	43	II	3		N	Δ	壁、床とも凹凸がみられる。	Fig150 PL390
S K 517	C3a7	N-68°-E	A I a	楕円形	1.02×0.73	5~8	III	3'				攪乱によるものか。	
S K 518	C3a7, b7	N-63°-E	D I a	長方形	1.1×0.7	15	II	2	2	N			Fig105 PL391
S K 510	"		B II a	楕円形	0.52×0.4	45	I	1		(N)		覆土は軟質である。	
S K 520	C3a7	N-75°-E	E I a	不定形	1.3×0.8	10~42	II	3		A		北東壁に焼土がみられる。	Fig130
S K 521	C3b0	N-80°-E	D III b	長方形	2.1×1.5	60	I	1		N	Δ	床面に石斧、石鏃が各1点出土	Fig127 PL392
S K 522	C3b0		D I a	"	1.1×1.08	45	II	3	1	N			
S K 523	C3e0		E I a	不定楕円形	1.05×0.88	20~32	II	3	2	N		ピットは攪乱によるもの。	
S K 524	"	N-57°-W	D' I b	長方形	1.45×1.0	59	II	2		(N)	Δ	覆土はやや軟質である。	
S K 525	"	N-14°-W	"	長方形	1.6×1.1	65	I	1		N	Δ	SK524と重複する新田は不明瞭	Fig117 PL395
S K 526	C3c8	N-45°-E	G III b	長楕円形	3.45×1.65	93	I-II	2		N	Δ	開口部は3.38×0.48m、床中央にゆるい傾斜。	PL393
S K 527	"		B I b	楕円形	1.05×1.0	43~53	I	1		N	Δ	覆土中に少量の焼土粒子を含む。	Fig90 PL394
S K 528	"	N-64°-W	A II a	"	0.7×0.52	15~20	I	1		(N)		覆土、床とも軟弱である。	Fig77
S K 529	C3b9, c9	N-35°-W	A I b	"	1.62×1.6	45~52	II	3		N		覆土は軟質である。	Fig74
S K 530	"		A II a	"	1.0×0.85	20~25	II	3	2	N		"	Fig78
S K 531	C4f3		D II a	隅丸方形	0.96×0.82	28	II	1		N			Fig120 PL396
S K 532	"		B II a	楕円形	0.97×0.85	29	II	1		N			Fig92
S K 533	C4e3, f3	N-31°-W	D I a	長方形	1.47×0.95	21	I	1		N			Fig105 PL397
S K 534	C4e3	N-34°-E	A I a	長方形	1.1×0.69	23	I	1	1	N		ピットは抜根痕。	PL399
S K 535	C3b8	N-54°-W	A III a	長楕円形	2.08×1.2	33~40	I	3		N		北側が段状をなす。	Fig83
S K 536	"	N-49°-E	D I a	方形	1.12×0.95	45	I	3		(N)		覆土は軟質である。	Fig105
S K 537	"	N-15°-W	D III a	長方形	2.3×1.53	20	II	3'		N	Δ		Fig122
S K 538	C3b7		D I a	"	1.95×1.4	45	I-II	2		N	Δ		Fig106
S K 539	"		A II a	楕円形	0.95×0.9	15~20	II-III	3		N		床面に攪乱がみられる。	Fig78
S K 540	C3b6, b7		A I a	"	1.1×1.06	15	II	1	2	N		ピットは本跡より新しい。	Fig61
S K 541	C3c6		"	"	1.6×1.44	46	II	3		N		SK542と重複し、本跡の方が新しい。	Fig150
S K 542	C3c6, d6	N-63°-W	"	"	1.0×0.65	13	II	1		N			Fig150
S K 543 A	C3c7	N-55°-E	D I a	長方形	1.17×1.03	37	I	1		N	} Δ		Fig106
B	"		Z	(")	0.87×0.7	42	II	3		(N)			
S K 544	"	N-2°-W	A I a	楕円形	1.3×0.91	31	III	2		(N)		床中央に攪乱がみられる。	
S K 545	C3d7, d8	N-85°-W	D III b	長方形	2.14×1.65	82	I	1		N	Δ		Fig127 PL398
S K 546	C3d7		A I a	楕円形	1.3×1.2	33	I	3		N			Fig61
S K 547	C3d6		A II a	"	0.84×0.82	18	I	1		(N)			
S K 548	"	N-24°-W	D I a	長方形	1.05×0.87	41	I-II	2		N			Fig105 PL400
S K 549	C3d6, d7	N-59°-E	"	"	1.85×0.95	13	I	-1		N	Δ		
S K 550	C3e6	N-6°-E	D III b	"	2.01×1.37	77	I	1		N			Fig127
S K 551	C3d0, e0		A II a	楕円形	0.92×0.89	12~15	I	1	1	N	Δ		Fig78
S K 552	C3d9, d0		D I a	長方形	1.22×1.07	15	I	1		N			Fig105

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 553 A	C3d0	N-11°-E	E I a	不定形	1.76×1.22	30	II	1		N		Fig99 PL407	
B	"		D II b	方形	0.9×0.74	71	I	1		N		Fig99 PL407	
S K 554	C3d9, d0	N-63°-E	E I a	不定形	1.37×0.9	10	II	1		N		Fig130	
S K 555	C3d0	N-42°-E	A II a	楕円形	0.87×0.73	20~22	II	1	1	N	ピットは遺構と同時期である。	Fig78	
S K 556	C3d0, e0	N-73°-W	A I a	"	1.26×0.98	18~28	I	3		A		Fig61 PL408	
S K 557	C4d1		"	"	1.2×0.98	4~8	I	1		N		Fig61	
S K 558	C4d1, e1		A II a	"	0.95×0.86	16~18	I	1		N		Fig78	
S K 559	C3e0, d0	N-21°-E	D I a	長方形	1.13×0.86	33	I	1		N		Fig105	
S K 560	C3e0, C4e1	N-76°-E	E I a	長方形	1.22×0.5	11	I	1	1	N	△	ピットは同時期のものか。	Fig130
S K 562	C3c6		A II a	円形	0.97×0.9	15~21	II	3		N	覆土はやや軟質である。	Fig78	
S K 563	C3d0, e0		A I a	楕円形	1.03×0.91	12~16	I	1		N	SK1014と重複し本跡の方が新しい。	Fig61	
S K 564	C3e0		"	"	1.29×1.14	28~30	II	2		N	△	Fig61	
S K 565	"		B I b	円形	1.22×1.09	42~52	I	1		N	△	Fig90	
S K 566	C3e9, e0	N-27°-E	D I a	長方形	1.39×0.9	16	I-II	1		N	△		
S K 567	C3e9		A II a	楕円形	0.84×0.75	7~10	II	1		N		Fig78	
S K 568	"		D II a	長方形	0.78×0.65	13	I	1	1	N		Fig120	
S K 569	C3e8	N-50°-E	"	"	0.98×0.71	9	I	1		N		Fig120	
S K 570	C3e7, e8	N-44°-W	A II a	楕円形	0.99×0.92	34~38	II	1		N		Fig78	
S K 571	C3d8, c8	N-1°-W	E I b	不定長方形	1.58×1.02	58	II	2		N	SK576と重複し本跡の方が古い。	Fig138 PL401	
S K 572	C3d8, d9		E I a	"	1.18×0.84	6	III	3	0	N	SI041より本跡の方が古い。	Fig130	
S K 573	C3d9	N-59°-E	D I b	長方形	1.78×1.22	92	I	1		A	△	Fig117 PL402	
S K 574	C3d8		A II a	楕円形	0.95×0.82	43~47	I	1		N		Fig78	
S K 575	C3e9	N-86°-W	A I a	"	1.07×0.68	18~33	II	2		N	東側にみられる掘り込みは新しい。	Fig61	
S K 576	C3e8	N-47°-E	B I b	"	1.19×0.98	45~50	I	1		N	SK571と重複し本跡の方が新しい。	Fig90	
S K 577	C3d8		D II a	長方形	1.0×0.82	38	III	3		N	床は南に傾斜を示している。	Fig120 PL403	
S K 578	C3e0	N-18°-E	D I a	"	1.29×0.81	23	III	1	1	N		Fig105	
S K 579 A	C3d9, d0	N-24°-E	E I a	不定形	(0.94)×1.3	26~46	II	3		N	新旧関係はそれほど明確ではない。	Fig160 PL404	
B	C3d9	N-24°-E	B II b	楕円形	0.92×0.72	84	I	1		N		Fig160	
S K 580	C3d0	N-25°-E	D I a	長方形	1.87×1.03	10~20	II	-1		N	SK591と重複し本跡の方が古い。	Fig160	
S K 589	C4d5		D II a	楕円形	0.92×0.78	12	II	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	
S K 591	C3d9, d0		D I b	長方形	1.4×0.88	60	II	1	1	A		PL405	
S K 592	C3e8, d8	N-36°-E	D II a	方形	0.86×0.77	24	I	1	2	N	△		
S K 593	"	N-37°-E	E I a	不定形	1.58×0.74	22~26	III	3	5	N	△		
S K 594	C4f5		J	円形	0.78×0.72	30	I	1			II期	Fig189 PL409	
S K 595	"		Z	不明	1.07×0.73						△	つづけた状態で遺物のみ出土。 PL410	
S K 596 A	C3d9, e9		E I a	不定形	1.27×1.1	28	II	1		N	形態はC1bの可能性がみられる。	Fig96	
B	"		D II b	方形	0.68×0.65	74	I	1		N			
S K 597	C3d8		E II a	不定形	0.72×0.57		II	2	1	N		攪乱によるものか。	
S K 598	C3e9		C I a	楕円形	1.3×0.78	42	I	1		N		重複しているがほぼ同時期か。	
S K 599	C4f1		E III b	不定形	3.3×2.28	30	II	1	5-6	N	△	本跡は住居より新しいがピットはSK068か。	Fig161 PL406
S K 600	"		D I a	長方形	1.95×1.44	34	I	1		N	△	Fig106	
S K 601 A	C3c0, d0	N-49°-E	E III a	不定形	2.5×1.8	18~30	II	1		N	} △	Fig150 PL411	
B	"		A I a	楕円形	1.14×0.98	33	II	2		N		Fig150 PL411	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版	
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数					
S K 602	D3d0	N-70°-W	E I a	不定形	2.08×1.34	45	II	1	1	N	△	床中央に焼土がみられその東西に攪乱が入る。	PL412	
S K 603	D3d9, d0	N-80°-E	A I a	楕円形	1.55×1.48	29~31	III	1		N			Fig62	
S K 604	D3d8, d9	N-13°-W	D I a	長方形	1.83×1.36	31	III	1		N	△		Fig106	
S K 605	D3c9, c0	N-5°-E	D I a	長方形	1.27×1.04	20	II	2		N			Fig105	
S K 606	D3b8, b9		H I b	円形	1.07×0.96	70	IV	1		N		床付近で僅かに袋状を示している。	Fig175 PL413	
S K 607	D3d8	N-67°-E	D III a	長方形	2.31×1.47	30	II	-1	4	N		ピットは攪乱によるものか。	Fig122	
S K 608	D3d7, d8	N-43°-E	"	長方形	2.45×1.75	35	II	1		N	△		Fig123	
S K 609	D3d7	N-76°-W	E III a	不定形	2.45×1.22	15	II	1	2	N	△	ピットは攪乱によるものか。	Fig141	
S K 610	D3d9	N-56°-E	D I b	長方形	1.46×1.17	63	II	1		N		覆土上層に砂質粘板岩の凹石が出土。	Fig117	
S K 611	D3b8	N-53°-W	D I a	"	1.4×1.32	35	I	1		N			Fig106	
S K 612	D3c7	N-28°-W	"	"	1.56×1.06	25	II	1		N	△		Fig106	
S K 613	D3c6	N-90°-E	"	長方形	1.67×1.07	41	II	1		N	△			
S K 614	D3b6, c7		A I a	楕円形	1.3×1.14	25~35	I	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig61	
S K 615	D3c6	N-0°-E	D II a	長方形	1.0×0.89	30	II	1		(A)	II期	床中央付近に一括出土。	Fig120 PL414	
S K 616	D3c7, b7	N-38°-W	D III a	不定長方形	2.27×1.39	20	II	1	2	N	△	ピットは本跡より新しい攪乱		
S K 617A	D3c9	N-84°-W	D II a	長方形	1.8×1.37	20	I	1		N	} △		Fig161	
B	D3b9		A I b	楕円形	1.37×0.87	74	I	1		N			B, Cの新旧は明瞭ではない。	Fig161
C	"		B I b	"	1.8×1.42	56~68	I	1		N				Fig161
S K 618A	D3c0	N-35°-E	E III a	三角形	4.1×3.35	28	II	1	2	N	} △		Fig170	
B	"		B I b	円形	1.2×1.2	56	I	1		N				Fig170
S K 619	D3c6		Z (D I a)		1.55×0.9	44	II	-1		N	△			
S K 620	C4f3, f4		A I a	楕円形	1.37×1.16	30~35	III	2		N			Fig62	
S K 621	C4d4, e4	N-62°-W	"	長楕円形	1.32×0.77	15~17	II	1		N			Fig62	
S K 622	C4e3, e4		E III a	不定形	2.38×1.23	40	II	1		(A)	△		Fig143 PL415	
S K 623	D3b0		A I a	円形	1.06×1.05	14~16	II	1		N	△	覆土上層は軟質である。	Fig62	
S K 624	"		A II a	"	0.89×0.83	24~26	II	1		N	△		Fig78	
S K 625	D3b9, b0	N-84°-E	D I a	長方形	1.23×0.9	28	II	1		N	△		Fig107	
S K 626	D3b9, b0	N-84°-E	D I a	長方形	1.38×0.84	30	II	1		N	△		Fig107	
S K 627	D3b9, a9	N-18°-W	D I a	隅丸長方形	1.57×1.08	42	II	1		N	△		Fig107	
S K 628	D3a9		A I a	楕円形	1.42×1.61	75	II	1	2	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig62 PL416	
S K 629	D3a0		A I a	楕円形	1.07×0.96	23~26	II	1		N	△	覆土はやや軟質である。	Fig62	
S K 630	D3a9, a0		A I a	"	1.13×0.97	15~20	I	1		N	△		Fig62	
S K 631	D3a9		A II a	"	0.75×0.7	18~20	II	1	3	N	△	ピットは本跡より新しい	Fig78	
S K 632	D3a9	N-6°-E	A I a	"	1.37×1.14	38~40	II	1		N	△	表裏痕土器あり。	Fig62	
S K 633	D3a9		A II a	円形	0.81×0.77	20~22	I	1	1			ピットは本跡より新しい。	Fig78	
S K 634A	C3j8, D3a9	N-42°-W	D III a	不定長方形	2.2×1.74	30	II	1		N	} △		Fig150	
B	"		D I b	"	1.6×1.2	52	II	1		N				Fig150
S K 635	D3d9, c9		B I b	楕円形	1.2×1.02	64	I	1		N		形態的には(C1b)とも思われる。		
S K 636	D3a0	N-0°-E	A II a	不定楕円形	0.97×0.66	28~30	II	2		(B)	△			
S K 637A	D3b4	N-37°-W	D III b	長方形	2.38×(1.3)	66	I	1		N	} III期		Fig161	
B	"		(A I b)	(楕円形)	1.27×0.81	78	I	1		N				Fig161
S K 638	D3b5, c6	N-2°-E	(B III b)	"	2.5×1.53	120	I	1		N	I期		Fig93 PL417	
S K 639	A3b5		B II a	円形	1.07×0.93	31	II	1		N	△		Fig161	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ビット数				
S K 640	D3b5		(B I b)	楕円形	1.07×(0.68)	92	I	1	1	N	△		Fig161
S K 641	D3b4, b5		Z	不明	1.07×0.75	40		1		N		SK637-640と重複し本跡の方が古い。	Fig161
S K 643	D3b5		D II a	不定方形	0.98×0.85	30	II	1		N	△		Fig120
S K 644	D3b6, b7	N-61°-E	E I a	不定形	1.83×0.88	16	II	1		N	△	床南西部に一括して出土。	Fig130 PL418
S K 645	"	N-74°-E	"	"	1.9×0.98	40	II	1		N	△	SK645と重複し本跡の方が古い。	Fig131
S K 646	D3c6, c7	N-81°-E	A I a	楕円形	1.62×1.19	18~25	II	1		N		覆土はやや軟質である。	
S K 648	D3b7, b8	N-31°-E	D I a	隅丸長方形	1.62×1.53	15	II	1		(N)	III期	SI043の壁に接し本跡の方が新しい。	Fig107
S K 649	D3b8		"	"	1.46×1.2	46	II	1	1	N	△	"	Fig106 PL419
S K 650	D3a8, b8	N-30°-W	A I a	隅丸長方形	1.73×1.35	13~23	II	2	2	N	II期	S K 649に切られ、ビットは攪乱によるもの。	Fig62
S K 651	C4a0	N-38°-E	D I a	長方形	1.35×0.8	10~25	I	2	2	N	△		Fig107
S K 652A	"	N-88°-E	E II a	不定形	0.5×0.46	16	I	1	1	N	} △	ビットはSI042の柱穴か。	
B	"		B II a	楕円形	0.48×0.43	37	I	2	1	N		"	
S K 653	"		A II a	円形	0.77×0.73	14~18	II	1		N		覆土中に焼土を混入する。	Fig78
S K 654A	C4a0, b0	N-25°-W	A I a	楕円形	1.26×(0.6)	42	II	1		N	} △	SI042と重複し本跡の方が新しい。	Fig62
B	"		B II a	円形	0.82×0.82	48	I	1		N			
S K 655	C4a0, C5a1		A II a	"	0.93×0.85	10~15	II	1		N			Fig78
S K 656A	D3a6, a7		E I a	不定楕円形	1.7×(1.5)	18	II	1		N	} III期	北方より投棄された状況で出土。	Fig151
B	"	N-50°-E	B I b	双円形	1.48×1.0	56	I	1		(N)		2基の土壌の重複も考えられる。	Fig151
S K 657	D3b6, c6	N-10°-W	Z (A I a)		1.4×1.15	17	II	1		(N)	△	北は攪乱をうけプランは不明である。	
S K 658	D3b6		Z (A I a)		1.48×1.38	14	II	3		(N)	△	南はSK657と同じ攪乱をうけている。	
S K 659	"	N-12°-W	A II a	楕円形	0.72×0.62	15~20	II	1			△		Fig78
S K 660	"	N-19°-W	A II a	楕円形	0.82×0.66	12~23	II	2	1	N			Fig78
S K 661	"	N-86°-E	A I a	"	1.39×0.77	22	I	1	1	N			Fig62
S K 662A	C3e7		E III a	不定形	2.78×2.4	10	II	1		N			Fig98
B	C3e7		B I b	楕円形	(1.3)×1.3	60	I	1		N		南壁がややオーバーハングきみとなる。	Fig98
C	"		B I b	円形	1.36×1.3	82	I	1		N		形態的には(C III b)の可能性あり。	Fig98
S K 663	D3b6		J	"	0.43×	14					III期	床は南西に傾斜を示している。	Fig190
S K 664	D3a5, b5		A I a	円形	1.0×0.9	26~44	II	1		N	△		Fig62
S K 665	C3e7, f7	N-42°-W	D I a	長方形	1.44×0.62	14	II	1		N			Fig107
S K 666A	C3f6, f7	N-13°-W	D I a	"	1.34×1.22	12~20	II	1		N	} △		
B	"		A I a	楕円形	0.93×0.9	18~28	II	3	3	N		ビットは攪乱によるものか。	Fig62
S K 667A	C3f7, f8		E I a	不定形	1.3×1.2	11	II	1		N	} △		Fig131
B	"		E I a	"	1.41×1.09	35	II	2		N			Fig131
S K 668	C3f8	N-20°-W	D I b	長方形	1.95×1.7	87	I	1		(N)	△	覆土は密で硬い。	Fig117
S K 669	C3g8, f8	N-0°-E	A I a	楕円形	1.08×0.9	24~30	I-II	2		N		床は南に傾斜を示している。	Fig62
S K 670A	D3a6		E I a	不定方形	1.38×1.32	32	II	1		N			Fig151
B	D3b6		F	円形	0.56×0.43	117	I	2		N			Fig151
C	D3a6		B II b	楕円形	0.85×0.64	91	I	2		N	III期	遺物は覆土上層に多く出土。	Fig151
S K 671	C3e0, f0		J	円形	0.45×0.4	18	I	1		(N)		口縁部を下にして埋設されている。	Fig190
S K 672	C3f8, f9	N-87°-E	E I a	不定形	1.35×0.8	18	II	3	5 (A)		△		
S K 673	C3g8, g9		A III a	楕円形	2.6×2.18	7	II	1		N	△	ビットはSI049の可能性がみられる。	PL420
S K 674	D3a5, a6	N-30°-W	E I a	不定長方形	1.7×1.1	30	II	1	1	N		北西の凹は新しい攪乱。	Fig130
S K 675	D3a5	N-27°-W	"	三角形	1.6×1.3	18	II	1	2	N	△		Fig131

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 676	C4d7		J	円形	0.94×0.9	30	I	1		N	II期	南方に傾き埋設され、底部欠損、覆土は硬い。	Fig189 PL421
S K 677	D3a4	N-38°-E	C III b	不定楕円形	2.75×1.95	22~72	I	1	2	N	II期	円筒状で覆土上層に多く出土 肩部にピット	PL422 Fig106
S K 678	C3f8	N-49°-W	D I a	長方形	1.57×1.35	25	II	3	2	A	△		Fig78
S K 679	C3g8		A II a	楕円形	0.97×0.83	20~23	I-II	1		N	△		Fig141
S K 680	C3h8		E III a	不定形	2.6×1.53	15	II	3		(A)	II~III期	SI063の南西部にあり多量の 土器が出土。	Fig107
S K 681	C4i8, h8	N-6°-W	D I a	隅丸長方形	1.28×1.02	24	II	3		N			Fig79 PL423
S K 682	C4i8		A II a	楕円形	0.95×0.75	12~14	I	1	1	N			Fig161
S K 683	C4i8	N-20°-W	E III a	不定形	2.82×1.93	18	II	1	2	N		ピットは本跡より新しい。	
S K 684	C4i8, j8	N-52°-W	E I a	"	1.37×0.85	41	II	1	3	N		覆土はやや軟質である。	
S K 685	C4j7, j8		A I a	円形	1.13×1.0	15~18	I	1		N			Fig62
S K 686	C4i7, i8		"	楕円形	1.5×1.34	15~18	II	3'		N			
S K 687	C4i8		A II a	円形	0.64×0.6	"	I	1		N		ピットは本跡より新しい。	Fig79
S K 688	C4i8	N-38°-E	E I a	不定形	1.19×0.7	21	II	3		N			Fig130
S K 689	C4h8		A II a	楕円形	0.8×0.65	25~28	II	3		N		床中央の凹は攪乱による。	Fig79
S K 690	C4i7		"	"	0.81×0.78	18~28	I	3		(N)		"	Fig79
S K 691	C4h7		"	円形	1.0×0.9	15~17	I	3		N			Fig79
S K 692	C4j7		"	楕円形	0.95×0.92	32~36	I	1		N			Fig79
S K 693	C4h7	N-56°-E	A I a	"	1.2×0.95	13~19	I	1		N			Fig62
S K 694	C4h7, i7		"	"	1.17×1.07	15~18	I	1		A			Fig62
S K 695	C4i6	N-62°-E	E I a	不定形	1.7×1.1	34	I	3		A	△	SK700と重複し本跡の方が新しい。	
S K 696	"	N-5°-W	A II a	楕円形	0.85×0.77	20~27	III	2	2	(A)		覆土も軟質でピットは攪乱によるものか。	Fig79
S K 697	"	N-15°-E	A I a	"	1.16×1.02	35~45	I	3	2	(A)	△	"	Fig62
S K 698	C4j5, i6	N-44°-W	D II a	方形	0.95×0.85	22	I	1		N		床、壁、覆土とも軟弱である。	Fig120
S K 699	C4j6	N-50°-W	D I a	長方形	0.98×0.82	25	I	3	3	N			Fig107
S K 700	C4i6	N-62°-E	E I a	不定形	1.6×1.4	28	II	3	2	N			
S K 701	C4i6	N-15°-W	E III a	"	2.08×1.23	9	II	1	1	N	△	北側の凹は本跡より新しい。	
S K 702	C4j7, D4a8	N-8°-W	A III a	楕円形	2.43×2.08	22~26	II	3'		(N)	△		Fig83
S K 703	C4j6, D4a6		B I b	円形	1.82×1.5	111~118	I	1		N	△	円筒状を呈している。	Fig90
S K 704	C4j5	N-5°-W	(E I a)	不定形	1.65×1.23	32	III	3	3	N	△	SK728と重複し本跡の方が古い。	
S K 705	"	N-30°-W	A II a	楕円形	0.93×0.87	25~27	I	1		N			Fig79
S K 706	C4i5		"	円形	0.92×0.8	34~36	III	2	1	(A)		ピットはやや新しい。	Fig79
S K 707	"	N-44°-W	D I a	長方形	1.58×1.2	13	III	1		N			Fig107
S K 708	C4j4, j5	N-90°-W	"	"	1.8×1.2	30	II	1	5	(N)	△	ピットは新しく攪乱によるものか。	Fig106
S K 709	C4i4, j4	N-24°-E	B I b	楕円形	1.5×1.22	64	II	2		(A)	△	楕円形、すり鉢状の掘り込みがみられる。	Fig152 PL424
S K 710	C4i4	N-24°-E	D I a	長方形	1.07×0.88	17	I	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig152 PL424
S K 711	C4i3, i4	N-19°-W	A I a	楕円形	1.48×1.03	30~40	I	1		N	△		Fig63
S K 712	"	N-58°-E	E I a	不定形	1.48×0.94	33	II	1		N	△		Fig130
S K 713	C4j3, j4	N-38°-E	C I b	楕円形	1.82×1.37	22~92	I	1		N	△	円筒状の土壌へ平場の床は傾斜を示す。	Fig96 PL425
S K 714	C4i3, j3	N-60°-E	D I a	長方形	2.1×1.61	32	III	3'	5	(A)	△		
S K 715	C4i3	N-67°-E	A I a	楕円形	1.5×1.15	24~34	II	2	1	N		覆土上層に焼土を混入する。	Fig63
S K 716	C4h3, i3	N-20°-W	B I b	"	1.32×1.0	108	I	1		N	△		Fig90
S K 717	C4h3		A I b	"	1.1×0.94	46~56	I'	2		(N)	△	覆土はやや軟質である。	Fig75
S K 718	C4g2, h3	N-90°-W	E III a	不定形	2.74×1.66	29	II	1		N	II期		Fig141 PL426

遺構番号	地 区	主 軸	形 態	平 面 形	規 模		各部の状況			覆 土	時 期	備 考	関連図版
					平 面 (m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 719	C4i3	N-52°-W	D I a	方 形	1.05×0.9	59	II	3	1	(A)	△		Fig79
S K 720	C4j3	N-63°-E	A II a	楕 円 形	1.5×0.75	10~14	II	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig79
S K 721	C4j3		A II a	円 形	0.87×0.8	20~26	II	1		N			Fig79
S K 722	"	N-86°-E	"	楕 円 形	0.75×0.6	14~16	II	1		N			Fig79
S K 723	C4i2, j2	N-18°-W	E II a	不 定 形	0.78×0.62	24	II	3	1	(N)		覆土はやや軟質である。	Fig139
S K 724	C4i2, i3	N-88°-W	D I a	長 方 形	1.22×1.0	26	II	1		N		"	Fig107
S K 725	C4i3	N-80°-E	A I a	楕 円 形	1.09×0.77	18~24	II	3	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig63
S K 726	C4i3, h3		"	楕 円 形	1.15×0.95	23~26	I	1		N			Fig63
S K 727	C4h2, h3	N-88°-E	D I a	長 方 形	1.75×0.71	30	II	1		N	△		Fig107
S K 728	C4j5	N-41°-E	D I b	"	1.18×0.86	52	III	1		(A)		SK704より新しく覆土は軟質である。	
S K 729	C4h2, h3	N-88°-E	A II a	楕 円 形	0.61×0.51	20~26	II	1		N			Fig79
S K 730	C4h3	N-70°-E	D II a	長 方 形	0.77×0.57	23	II	1		N			Fig121
S K 731	C4f4	N-5°-W	E I a	長 方 形 状	1.26×0.5	10	II	2		(N)	△		
S K 732	C4f4		B II a	円 形	0.83×0.77	38~40	I	1		N	△		Fig92
S K 733	C4f4, f5	N-85°-E	E I a	不 定 長 方 形	1.39×0.7	26	II	2	1	N	△	ピットは攪乱によるものか。	
S K 734	C4f4, e5	N-41°-E	D I a	長 方 形	1.11×0.76	28	II	1		N			Fig107 PL427
S K 735 A	C4i2, h2		E I a	不 定 形	1.68×1.55	34	III	1		N	} △	形態的にはC1bとも思われる。	Fig151
B	"		B II b	方 形	0.98×0.84	114	I	1		N			Fig151
S K 736	C4h2	N-57°-W	A I a	楕 円 形	1.85×1.6	24~28	II	1		N	△		Fig63
S K 737 A	C4i2	N-26°-E	E I a	不 定 形	1.7×1.28	18	I	1		N	} △		Fig151
B	"		B I b	楕 円 形	1.07×0.96	78	I	1		N			Fig151
S K 738	C4i2	N-37°-W	A I a	楕 円 形	1.34×0.94	16~20	II	1		N			
S K 739	C4j1, j2		A II a	円 形	0.99×0.9	15~17	II	1		(A)	△	SI062の炉を切っている。	Fig79
S K 740	C4j1		A II a	"	0.9×0.83	35~38	II	1		N	△		Fig79
S K 741	C4j1, j2	N-90°-E	D I a	長 方 形	1.55×1.04	17	I	1		N	△		Fig107
S K 742	C4j1		"	隅丸長方形	1.4×1.16	34	II	1		N	△		Fig107
S K 743	C4i1		(A I a)		1.04×0.83	33	II	1		N	△	SK767より本跡の方が古い。	
S K 744	C4h1		A I a	(円 形)	1.2×1.0	35	II	1		N	△	SK758と重複し本跡の方が新しい。	
S K 745	C4i2	N-32°-W	D I a	長 方 形 状	1.36×1.08	16	II	1		N		SK768と重複し本跡の方が新しい。	PL429
S K 746	C4i1, C3i0	N-18°-W	A III a	楕 円 形	2.32×1.83	22~26	I	1		N	△		Fig83
S K 747	C3i0, C4h1		A I a	"	1.95×1.8	22~26	II	1		N	△		Fig63
S K 751	C4d7, d8	N-39°-W	"	"	1.05×0.67	17	II	1		N			Fig63
S K 752	C4d7	N-68°-W	E I a	不 定 形	1.42×1.04	28	II	3	2	N		ピットは本跡より新しい。	Fig130
S K 753	"	N-10°-W	D II a	長 方 形	0.96×0.78	19	II	1		N	△		Fig121
S K 754	C4c8		A II a	円 形	0.73×0.73	17~20	II	1		N		床中央は攪乱を受けている。	Fig79
S K 755	C4j0		A I a	楕 円 形	1.20×1.15	22~26	I	1		N		本跡はSI029より新しい。	Fig63
S K 757	C4h1, h2	N-85°-W	B III b	"	2.42×1.57	32~36	I	1	1	N	△		Fig93
S K 758	C4h1		E III a	不 定 形	2.14×(1.62)	28	II	1		N	△		Fig141
S K 759	C4g1, h1	N-50°-W	A I a	長 楕 円 形	1.86×1.13	25	I	1		N	△		Fig63
S K 760	C4g2, h2	N-41°-W	D I a	長 方 形	1.82×1.59	34	I	1		N	△		
S K 761	C4g1, g2	N-85°-W	E III a	不 定 楕 円 形	2.05×1.22	44	II	1		N	△		
S K 762	C4f2, g2	N-50°-E	"	不 定 形	3.11×1.5	42	I	1		N	△	SK763と重複し本跡の方が古い。	
S K 763	C4f2	N-50°-E	E III b	"	2.17×0.77	65	II	2		A	△	SI037と重複し本跡の方が新しい。	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
SK 764	C4f1, f2	N-25°-E	E I a	不定楕円形	1.58×1.12	37	I	1	3	(N)	△	ピットは攪乱によるもの。	
SK 765	C4f1, g1		A I a	円形	1.25×1.1	26~30	I	1		N			Fig63
SK 766	C4g1, C3g0	N-79°-W	A III a	長楕円形	2.45×1.34	24~28	II	1		N	△		Fig84 PL430
SK 767	C4i1	N-35°-E	D I a	不定長方形	1.62×1.05	36	III	1		N	△	SK743と重複し本跡の方が新しい。	
SK 768	C4i1	N-0°-E	E I a	不定形	1.17×0.8	20~34	II	1		N	△		Fig130 PL429
SK 769A	C3e9, f9		(D I a)	(長方形)	1.04×(0.53)	35	I	1		N	△	S1049と重複し新旧は不明	Fig117
B	"	N-8°-W	D I b	長方形	1.78×1.33	85	I	1		N			Fig117
SK 770	D3a7, a8	N-49°-W	D III a	"	2.05×1.74	20	I	1		N	III期	遺物は覆土上層に多く、北西部には焼土がある。	Fig123
SK 771A	C3g0		B I b	楕円形	1.27×0.9	59	II	2		N	} III期		Fig152 PL431
B	"		Z			50	II	1		N			Fig152 "
C	"		B II b	不定形	1.64×1.0	87	I	3		N			西壁の肩部に埋設土器がみられる。
SK 772A	C3g9, g0		E I a	不定形	1.63×	30	II	1		N	△		Fig151
B	"	N-0°-E	D II a	方形	0.98×0.98	38	I	1		N			Fig151
C	"	N-49°-W	D I b	長方形	1.16×0.94	78	I	1		N			Fig151
SK 773	C3g0, h0	N-24°-W	D II a	楕円形	0.98×0.76	33	II	1		N			Fig108
SK 774	C3h0	N-32°-W	A I a	"	1.37×1.12	26	II	1		N			Fig63
SK 776	C3h0	N-28°-E	"	"	1.19×0.8	24~28	II	1		N	△		Fig64
SK 777	C3i0	N-18°-W	"	"	1.84×1.24	10~16	I	1		N			Fig64
SK 778	C3i0	N-90°-W	"	"	1.42×0.98	24~30	I	1	1	N	△	ピットは新しい攪乱によるもの。	
SK 779	C3i9	N-45°-E	E I a	不定楕円形	1.33×0.98	21	I	1		N		SK972と重複し本跡の方が古い。	Fig131
SK 781	D3a0, C3j0		D I a	隅丸長方形	1.32×1.09	32	II	1	1	N	△		Fig108
SK 782	D3d0	N-90°-W	D I a	長方形	1.39×0.97	42	II	1		N	△	覆土はやや軟質である。	Fig108
SK 783	D3j0	N-43°-W	D III a	長方形	2.08×1.47	40	I-II	1	3	N	△		Fig123
SK 784	D3j9, a9		D I a	"	1.07×0.93	19	III	2		A	△	覆土はやや軟質である。	Fig108
SK 785	C3j9	N-2°-W	A I a	楕円形	1.27×0.95	5~12	III	2		N	△		Fig64 PL432
SK 786	C3i9, j9	N-28°-E	A I a	"	1.48×1.14	30~50	I	3	4	A	△	床の東側は攪乱をうけている。	
SK 787A	C3j9, j8	N-61°-W	E III a	不定長方形	2.7×1.67	35	II	1		N	} △	南側の覆土中に多くの土器と小型石棒出土。	Fig151
B	"		"	不定形	1.31×1.0	33	II	1		N			Fig151
SK 788	C3j8, j9		A I a	円形	1.48×1.34	20~28	I	1		(N)	△		Fig64
SK 789	C3j8	N-73°-E	C I b	楕円形	1.64×1.17	29~133	I	1		N	△		Fig97
SK 790	C3j8		A I a	"	1.00×0.93	25~28	I	1	1	N			
SK 791	C3j7, j8	N-10°-E	B III b	"	2.12×1.26	57	I	1		N	△		Fig93
SK 792	C3j7	N-50°-E	D I a	長方形	1.98×(1.31)	20	I	1	4	N	△	ピットはS1056の柱穴か。	Fig162 PL433
SK 793	D3a7	N-81°-W	E I a	不定形	1.59×1.12	21	II	1	3	N	△	"	Fig131 PL434
SK 794	C3j7	N-40°-E	D I a	長方形	1.52×1.19	40	I	1		N	△		Fig108
SK 795A	C3j7, D3a7		E I a	不定形	1.26×(0.96)	85	I	1		N	} △	SK792の北壁を本跡が切っている。	Fig162 PL433
B	"	N-60°-E	D I b	方形	1.43×1.51	60	I	3		A			
SK 796	C3i9		J	円形	0.37×0.36	27	I	2		(N)	II期		Fig190
SK 797	C3h9, h0	N-44°-E	D III a	長方形	3.52×1.77	35	II	1	1	(N)	△	ピットは攪乱によるもの。	
SK 799	C3g9, h9	N-0°-E	(D I a)	(長方形)	(0.9)×1.13	43	II	3		N	△	南にS1063の炉、北はSK800に切られる。	Fig152 PL436
SK 800	C3g9	N-0°-E	D I a	長方形	1.6×1.05	48	III	2		N	△	部分的に攪乱がみられる。	Fig152 PL436
SK 801	C3g9	N-21°-W	A I a	楕円形	1.43×0.88	45	II	1		N	△		
SK 802	C3f0		E III a	不定形	2.43×2.18	25	II	2		N	III期	北西側に埋設土器がみられる。	Fig142 PL437

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 803	C3f9, f8		E I a	不定形	2.08×1.06	47	I	1	3	N	△	ピットはSI049の柱穴か。	
S K 804	C3j7	N-53°-W	E I a	"	1.57×0.96	40	III	2		(A)	△		Fig131
S K 805	C3i6	N-36°-W	D I a	長方形	1.32×1.11	30	II	1		N	△	土壌廃棄後に遺物が投棄されている。	Fig108
S K 806	C3i5	N-75°-E	D III a	楕円形	2.34×1.02	35	II	1		N	△		Fig123
S K 807	C3i5, i6	N-10°-W	D I a	長方形	1.55×0.89	30	II	1	3		△	ピットはSI072の柱穴か。	Fig108
S K 808	C3i6		D I a	長方形	1.3×1.4	34	II	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig108
S K 809A	C3g7		E I a	不定形	1.2×1.0	26	(II)	(2)		N	} △		
B	"		B II b	楕円形	0.96×0.76	72	I	1		N			
S K 810A	C3h7	N-57°-W	D I a	長方形	2.25×1.81	25	II	-1		(N)	} I期	床のほぼ中央に2ヶ所ピットがみられる。	Fig152
B	"		B II b	円形	1.0×0.91	121	II	1		N			
S K 811	C3h7, g7	N-38°-W	A I a	楕円形	1.70×1.32	20~28	I	1		N			Fig64
S K 812	"	N-43°-E	"	"	1.63×1.24	20~30	II	3		N	II期	床中央の覆土中に少量出土	Fig64
S K 813	C3h7		"	"	1.66×1.26	17~24	II	1	1	N	△		Fig64
S K 814	C3h6	N-13°-W	"	"	1.53×1.30	35~40	II	1	1	N		本跡はSI074より新しく、南床より出土。	Fig64
S K 815A	C3g8, h8		E I a	不定形	(1.09)×1.18	20	II	1		N	} III期		Fig131
B	"		"	"	1.61×(0.7)	28	II	3		N		床南方の凹に遺物は集中して出土。	Fig131
S K 816A	C3h6	N-59°-E	E III a	不定楕円形	2.42×(1.55)	20	I	1		N	} II期		Fig153
B	"	N-55°-W	E I b	"	1.45×1.0	43	III	3		N			
S K 817A	C3h7	N-88°-E	E I a	"	(1.5)×1.3	46	II	1	1	N	} I期	床のほぼ中央にピットがみられる。	Fig152
B	C3h8		B I b	円形	1.7×1.36	76	I	1		N		Fig152	
S K 818	C3h6, g6	N-89°-E	D III a	長方形	1.93×1.55	22	I	1		(N)	△	SK848と重複し本跡の方が新しい。	Fig153
S K 819	C3g6		E I a	三角形	1.75×1.4	33	I	1	1	N			Fig131
S K 820	"	N-35°-E	A I a	楕円形	1.45×1.1	14~18	II	-1		N		ピットはSI074の柱穴か。	Fig64
S K 821	C3g7, g8		Z	(楕円形状)	1.66×0.83	26	II	1		N	△	SK822と重複し、本跡の方が古い。	Fig153
S K 822	C3g7	N-90°-W	D I a	長方形	1.69×1.57	30	II	1	2	N	△	ピットは本跡より新しい攪乱。	Fig153
S K 823A	C3f7		E I a	不定形	1.66×1.08	25	II	1	2	N	} △		Fig153 PL438
B	C3g7		H I b	円形	1.2×1.0	70	IV	1		N		南東壁がわずかに袋状を示す。	Fig153
S K 824A	C3i5		D II a	長方形	1.12×0.68	16	I	1		N	} II期		Fig153
B	"	N-35°-W	B I a	楕円形	1.08×0.85	40	I	1		N		Fig153	
S K 825A	C3f6, g6		E I a	不定形	1.18×0.64	20	II	1		N			Fig153
B	"	N-56°-E	C I b	楕円形	2.3× $\frac{1}{1.6}$	92	I	1		N			Fig153
S K 826	C3f5, f6	N-54°-E	D I a	隅丸長方形	1.37×1.03	25	II	3		N	△		Fig109
S K 827	C3g5	N-37°-W	E I a	不定三角形	1.78×0.97	15~78	II		3	N	△	ピットは攪乱によるもの。	
S K 828	C3f6	N-52°-E	D I a	長方形	1.4×0.85	15	I	1	2	N	△	西壁に円形の新しい掘り込みがみられる。	
S K 829	C3f5	N-58°-W	D II a	"	0.84×0.68	17	I	1		N			Fig121
S K 830	C3f4, g4	N-29°-E	A II a	楕円形	1.0×0.73	17~22	II	1	1	A		覆土は軟質でやや新しい。	Fig79
S K 831	C3f4		A I a	円形	1.12×1.12	20~30	II	3		(N)		"	Fig64
S K 832	C3f5		A II a	楕円形	0.82×0.77	11~14	I	1		N		"	Fig80
S K 833	"		A I a	円形	1.15×1.14	26~35	II	1		(N)	△		Fig64
S K 834	"	N-31°-E	A II a	"	0.95 (1.1)×0.85	15~21	II-III	3	3	(A)		覆土は軟質で長軸上にピットが並ぶ。	Fig80
S K 835	C3e4, f4	N-17°-E	"	楕円形	0.98 (1.03)×0.93	5~15	(II)	3'		N			Fig79
S K 836	C3f3, f4	N-46°-W	"	"	0.9×0.82	18~22	II	3		N			Fig80
S K 837	C3e3, f3	N-52°-W	D III a	長方形	2.16×0.82	35	II	1		N		北西側の床は攪乱をうけている。	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
SK 838	C3e3, e4	N-61°-E	E I b	不定形	1.1×0.8	5~25	II	2	2	(N)		北壁にピットが2ヶ所みられる。	Fig139
SK 839	C3f3	N-47°-W	A I a	楕円形	1.42×0.95	10~32	II	1	3	N		床の南は攪乱により凹状をなす。	Fig64
SK 840A	C3j5	N-45°-W	D I b	長方形	1.36×1.0	62	II	1	1	N	} Δ	SK852, 880と重複する。	Fig131
B	"	N-24°-E	E I a	不定形	1.0×1.41	45	II	3	2	N		Fig131	
SK 841	D3a4		B I b	円形	1.40×1.33	102	I	1		N	Δ	SK854, 856と重複し本跡の方が古い。	Fig162
SK 842	C3h5, g5	N-52°-E	D I a	楕円形	1.56×1.20	25	II	1		N			Fig109
SK 843	C3f9, g9		A I a	円形	1.3×1.0	26	II	1	2	N		南東壁に接するピットはSI049の柱穴	Fig65 PL439
SK 844	C3g9, f9	N-46°-W	"	楕円形	1.39×1.00	30	II	1		N	Δ	"	Fig65 PL440
SK 845	C3g9	N-23°-E	A II a	楕円形	0.93×0.72	19~27	III	2		N		覆土中に少量の焼土がみられる。	Fig80
SK 846	C3f9	N-21°-E	E I a	不定楕円形	1.70×1.03	20~34	I	1		N	Δ	2基の土壌の重複が考えられる。	Fig132 PL441
SK 847A	C3i5, h5	N-42°-W	D III b	長方形	2.96×1.13	70	II	1		N	} Δ	SK806Bが重複し本跡が古い。	Fig170
B	"		E I b	不定楕円形	0.95×0.88	30	II	2		(N)		SK847A, SK1056を切っている。	Fig170
SK 848	C3h6, h5		E I a	不定形	1.37×1.04	37	II	3	3	N	Δ	SK818と重複し本跡の方が古い。	Fig153
SK 849	C3f3	N-5°-W	"	"	1.17×0.84	21~27	II	3		A		部分的に攪乱をうけている。	
SK 851A	C3j6, j5		A II a	円形	0.72×0.71	26	II	2		N	} Δ		Fig153
B	"	N-15°-E	D I a	長方形状	1.94×1.24	33	I	1		N		Fig153	
SK 852	D3a5, C3j5	N-45°-W	"	長方形	1.95×1.44	23~25	II	1		N		SK840と重複する。	Fig108
SK 853	D3a4, a5	N-32°-E	D III a	"	2.77×1.33	20	I	1	1	N	Δ	SK854と重複し本跡の方が古い。	Fig162
SK 854	D3a4, C3j4		E III a	不定形	2.56×1.37	13	II	1		N	Δ	SK841, 853と重複する。	Fig162
SK 855	D3a3, a4	N-57°-E	D I a	楕円形	1.93×1.55	12~14	III	1		N	Δ	SK677, 1104によって南を切られる。	Fig108
SK 856	D3a4, C3j4	N-17°-E	"	長方形	1.65×1.25	17	II	1		(N)			Fig162
SK 857	C3j4	N-71°-W	A I a	楕円形	1.52×1.3	5~9	II	1		N			Fig65
SK 858	C3i5	N-34°-W	E I a	不定形	1.45×1.2	27	II-III	3	3	A	Δ		
SK 859	C3h5, i5	N-0°-E	A I a	楕円形	1.32×0.93	4~10	II	1	1	N		ピットは攪乱によるもの。	Fig65
SK 860	C3h6, i5	N-48°-W	A I a	楕円形	1.11×1.0	8~10	I	1		N			Fig65
SK 861	C3j6	N-42°-E	D I a	長方形	1.42×1.04	28~40	II	3		A	Δ	SK875と重複し本跡の方が新しい。	Fig154
SK 862	C3h5		A I a	円形	1.2×1.05	6~11	I	1		N			Fig65
SK 863	C3i3, i4	N-28°-E	A I a	(台形)	1.0×1.02	18~20	I	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig143
SK 864A	C3i3	N-30°-E	E I a	不定形	1.75×1.22	28	I	1	1	N	} Δ		Fig143
B	"	N-12°-W	D II a	方形	0.86×0.84	30	II	1	1	N			
SK 865	C3i3	N-13°-W	A III a	長方形状	2.18×1.34	18~28	I-II	1	2	N	Δ	ピットはほぼ同時期である。	Fig84
SK 866	C3i3	N-40°-E	D I a	長方形	1.57×1.1	13~17	I	1		N	Δ		Fig109
SK 867	C3i4	N-79°-W	A III a	長楕円形	2.14×1.52	19~23	I	1	3	N		ピットはSI078か079の柱穴	Fig84
SK 868	C3h4	N-45°-W	E I a	不定形	1.53×1.0	18~23	II	1		N	Δ	覆土はやや軟質である。	
SK 869	C3h4	N-33°-E	D I a	長方形	1.61×1.35	14~19	II	1		N	Δ		Fig110
SK 870	C3h4	N-19°-W	E I a	不定楕円形	1.6×0.9	17~25	II	1		N	Δ	床の南側は凹状をなす。	Fig132
SK 871	C3i2, i3	N-53°-W	E I a	不定形	1.82×1.38	18~21	II	1		(N)	Δ	床の西側は攪乱をうけている。	
SK 872	C3h3	N-16°-W	A III a	長楕円形	2.08×1.32	14~18	I	1		N	Δ		Fig84
SK 873	C3h3, i3		D II a	(方形)	0.97×0.92	19	I	1		N	Δ		
SK 874	C3i3	N-41°-E	E I a	不定楕円形	1.2×0.85	15~22	II	1	3	N		SK873と重複し本跡の方が古い。	
SK 875	C3j6, j7	N-66°-E	D I b	長方形	1.90×0.93	17~50	I	1		(N)	Δ	大部分は攪乱をうけている。	Fig154
SK 876	C3h3	N-17°-E	E III a	不定形	2.6×0.9	4~12	I	1	1		Δ	ピットは本跡より新しい。	Fig141
SK 877	C3h4	N-80°-E	A I a	楕円形	1.18×0.81	5~10	I	1		N			Fig65

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 878	C3g4	N-68°-E	E III a	長橋円形	2.6×1.14	8~20	II	1		N	△	部分的に攪乱が入る。	
S K 879	C3g3	N-65°-E	D I a	長方形	1.83×1.48	13~19	I	3	4	N	△		
S K 880	C3j5	N-83°-E	D I a	"	1.4×0.85	20~40	II	1	1	N	△	SK851と重複する。	Fig117
S K 881	C3h3	N-48°-W	A II a	橋円形	0.98×0.76	14~16	II	1	1	N		床の北部は攪乱を受けている。	Fig80
S K 882	C3h2, h3	N-46°-W	A I a	"	1.44×0.8	12~30	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig65
S K 883	C3h2	N-22°-W	A I a	"	1.04×0.84	22~25	II	1		N	△		Fig65
S K 884	C3h2		A I a	"	(0.9)×0.95	18~20	I	1		N			Fig65
S K 885	C3h2		A I a	"	1.38×1.1	18~22	I	3		N	△	SK884と重複し本跡の方が新しい。	Fig65
S K 886	C3h2, i2	N-19°-W	E III a	不定橋円形	2.04×1.05	7~13	III	1		N	△	床の北部はかなり攪乱をうけている。	
S K 887	C3h1		A I a	円形	1.22×1.14	10~12	II	1		N	△		Fig65 PL442
S K 888	C3g3		A I b	橋円形	1.2×1.09	40~56	II	1		Ⓝ	△		Fig75
S K 889 A	C3g2	N-89°-E	A III a	"	2.17×1.44	22	II	1	1	N	} III期	床の中央に長方形の掘り込みがある。	Fig154 PL443
B	"	N-46°-W	D I a	長方形	0.98×0.73	25	II	1	3	N			Fig154 PL443
S K 890	C3h3	N-9°-W	E I a	不定形	1.22×0.94	8~28	III	3		A		抜根痕か。	
S K 891	C3g2	N-51°-E	"	不定長方形	1.12×0.92	15~34	III	1		N		ピットは本跡より新しい。	
S K 892 A	C3g1, g2	N-30°-W	E III a	不定形	2.25×1.24	30~36	II	1	3	N	II期	床中央の南に完形の土器が横位に出土。	Fig154
B	C3g1		E I a	"	(1.1)×1.2	33	I	1	1	N			Fig154
B'	C3g2	N-43°-E	A I a	橋円形	1.18×0.8	48	II	2		N			Fig154
S K 893	C3g1	N-17°-E	E I a	"	1.5×1.0	32	II	2		N		南方部は攪乱をうけている。	
S K 894	C3h3	N-25°-E	A I a	"	1.51×1.21	25~30	I	3		Ⓝ	△	床中央に深いピットがみられる。	PL444
S K 895	C3g1	N-61°-E	"	"	1.37×1.05	25~26	I	1	3	N		北東部の凹は攪乱によるもの。	Fig65
S K 896	C3g1		"	円形	1.47×1.39	35~44	II	1		N		覆土はやや軟質である。	Fig65
S K 897	C3f1, g1	N-45°-W	E III a	不定形	3.06×1.6	27	II	3		N	△		Fig142 PL445
S K 898	C3g2, f2	N-41°-W	D I a	長方形	1.73×0.95	20	II	1		N		床中央の凹は攪乱によるもの。	Fig109
S K 899	C3f2	N-22°-E	A I a	橋円形	1.18×1.02	12~16	II	3		(A)		ピットは攪乱によるものか。	Fig65
S K 901	C4b6	N-32°-W	D I a	"	1.6×1.4	30~36	II	3		Ⓝ			Fig108
S K 902	C4b6	N-38°-W	A I b	"	1.53×1.1	40~60	II	1		A		覆土はやや軟質である。	Fig75
S K 903	C4c6		A I a	"	1.22×0.87	20~32	II	3		N			Fig66
S K 904	C4c6	N-79°-W	D I a	長方形	1.58×1.52	27	II	1		N	△		Fig109
S K 905	C4c6, c7	N-54°-W	D II a	方形	0.96×0.96	20	I-II	1		N			Fig121
S K 906	C4c6		A II a	円形	0.82×0.81	20~32	II	1		N			Fig80
S K 907 A	C4c7, b7		D I a	長方形	1.38×0.78	28	I	1		N	} △	床のほぼ中央の覆土中に多く遺物出土。	Fig167
B	"		(F) B II b	円形	(0.7)×0.58	168	I	1		N			Fig167
S K 908 A	C4c7, c6		E I a	不定形	(1.25)×1.21	44	I	1		N	} △	SK907と重複し新旧は不明。	Fig167
B	"		(F) B II b	橋円形	1.00×0.92	140	I	1		N			Fig167
S K 909	C4c7	N-45°-W	(Z)								II期		
S K 910	C4e5	N-15°-W	A II a	橋円形	0.80×0.71	26~28	I	1		Ⓝ	III期	SI058の南側に位置する。	Fig80
S K 911	C4f5	N-78°-W	A I a	"	1.94×1.35	25~31	II	1		N	△	SI038の東壁に位置し本跡が古い。	Fig66
S K 912	C4g4, h4	N-67°-E	D I a	長方形	1.84×1.35	28	II	1		N			Fig109
S K 913	C4g4	N-60°-W	D I a	"	1.37×1.12	30	II	1		Ⓝ		覆土はやや軟質である。	Fig109 PL446
S K 914	C4i3		A II a	円形	0.66×0.64	12~16	II	1		N		"	Fig80
S K 915	C4f2, g2		E II b	橋円形	0.98×0.82	25	II	2	1	A	△	"	PL447
S K 916	C4g2, f2	N-34°-E	D III a	長方形	2.33×1.98	32	II	1		N			

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況				覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数	土				
S K 917	C4g4	N-80°-E	A I a	楕円形	1.25×1.04	15~22	Ⅲ	2	3	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig66	
S K 918	C4g3, h3	N-56°-W	D I a	長方形	1.63×1.23	17	Ⅱ	1		N			Fig109 PL448	
S K 919	C4g3	N-40°-E	A I a	楕円形	1.25×1.00	14~17	Ⅱ	1		N			Fig66	
S K 920	C4h5		"	"	1.03×0.85	22	Ⅲ	2	2	N		ピットは攪乱によるもの。	Fig66	
S K 921	C4g5		D I a	方形	1.07×1.04	35	~Ⅲ	1		N			Fig121	
S K 922	C4h5, h6		A II a	円形	1.04×0.98	22~26	Ⅱ	1		N				
S K 923	C4a9	N-21°-W	"	"	1.00×0.94	16~20	Ⅲ	1		N			Fig80	
S K 924	C4a9	N-87.5°-W	A I a	楕円形	1.04×0.9	10~16	Ⅱ	1		N			Fig65	
S K 925	C4a8	N-13°-E	"	不定楕円形	1.35×0.96	15	Ⅲ	1		N			Fig66	
S K 926	C4a9, a8		A II a	円形	0.97×0.94	28	Ⅱ	1		N			Fig80	
S K 927	C4a8, b8		A I a	"	1.18×1.18	25	Ⅲ	2	1	N	△	ピットは本跡よりやや新しい。	Fig67	
S K 928	C4a8		B II a	"	0.77×0.75	17~18	Ⅰ	1		N			Fig92	
S K 929	C4a9		B I b	"	1.55×1.14	50~58	Ⅱ	1		N	△		Fig90	
S K 930	C4a8	N-60°-W	A II a	楕円形	1.02×0.90	18~20	Ⅲ	2		N			Fig80	
S K 932	C4b8		E I a	不定楕円形	1.33×0.94	20	Ⅱ	1		N		北西の覆土中に少量の貝を含む。	Fig198	
S K 934	C4b8		A II a	円形	0.72×0.66	13~23	Ⅱ	1		N			Fig80	
S K 935	C4b8, b7	N-75°-E	E I a	不定楕円形	1.2 × 0.78	27	Ⅱ	1	2	N	Ⅲ期	ピットは本跡より新しい。	Fig132	
S K 936	C4b7	N-35°-E	E II a	"	0.80×0.65	26	Ⅰ	1	1	N			Fig139	
S K 937	C4b7	N-2°-E	D I a	長方形	1.08×0.72	30	Ⅰ	1	3	N	△	ピットはほぼ同時期である。	Fig109	
S K 938	B4j9		A I a	円形	1.23×1.08	20~30	Ⅰ	1		N	△		Fig66	
S K 939	B4j9, j0	N-23°-W	E I a	不定形	1.3 × 0.98	27	Ⅲ	3	1	N	△	ピットは本跡より新しい。		
S K 941	C4a7	N-76°-E	"	"	1.57×1.34	30	Ⅱ	1	1	N				
S K 942	C4b6, b7	N-86°-W	"	不定長方形	1.69×1.28	27	Ⅰ	1	3	N	△		Fig132	
S K 943	C3d7	N-35°-E	A I a	楕円形	1.28×0.96	12~30	Ⅱ	3		(A)	△	覆土はやや軟質である。	Fig66	
S K 944	C4c7	N-21°-W	J	楕円形	1.13×1.0	53	Ⅱ	1		(A)	Ⅱ期	口縁部は南向、横位に埋設されている。	Fig191 PL449	
S K 945	"	N-35°-W	A I a	長楕円形	1.52×1.1	20~23	Ⅱ	2	2	N			Fig66	
S K 947	C4e6		E III a	不定形	2.4 × 2.1	20	Ⅲ	1		(N)	Ⅲ期	覆土中に多量の土器片が出土。	Fig142	
S K 948	C4a7		E I a	"	1.65×1.5	26	Ⅱ	1	8	N	△	ピットはSI053の入口部施設か。		
S K 949	C4a6	N-25°-E	C I b	楕円形	1.6 × 1.18	21~94	I~Ⅱ	1		N	△	SI053の炉を切っている。	Fig96	
S K 950A	C4e7		E I a	不定形	1.9 × (1.0)	18	Ⅱ	1	5	N	Ⅲ期	ピットはSI057-059の柱穴か(新)。		
B	C4e6, e7		(I) E I b	"	1.68×1.28	50	Ⅲ	3		(N)	Ⅲ期	(古)		
S K 951	C3e0, f0	N-37°-W	A I a	楕円形	1.4 × 1.2	14~25	Ⅱ	1	3	N	△	南西のピットは本跡より新しい。	Fig66 PL450	
S K 954	C3i8, j8		A II a	円形	0.85×0.75	20	Ⅱ	3		A		覆土は軟質であり新しいものか。		
S K 955	C3i7, i8		E I a	不定楕円形	1.7 × 1.45	30	Ⅱ	3		N	△		Fig132	
S K 956	C3i7		A I a	円形	1.1 × 1.05	30	Ⅱ	1		N	△		Fig66	
S K 957	C3e5, e6	N-79°-W	D III a	長方形	2.5 × 1.47	12	Ⅰ	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig123	
S K 958	C3e5, d5	N-62°-W	D I a	"	1.7 × 1.12	22	Ⅰ	1		N	△		Fig109	
S K 959A	C3e5		E I a	不定形	1.1 × (0.8)	30	Ⅱ	1		N	Ⅱ期	SK959Bに切られている。	Fig138 PL451・452	
B	"	N-31°-E	(G I b)	長楕円形	1.6 × 1.06	96	Ⅰ	(2)		N		北西壁はやや内わんきみとなる。	Fig138 PL451・452	
S K 960	C3d5	N-51°-W	A I a	楕円形	1.77×1.46	9~16	Ⅱ	1		N			Fig66	
S K 961	"	N-56°-W	A I a	"	1.33×1.0	7~9	Ⅱ	1		N		床中央に攪乱がみられる。	Fig66	
S K 962	C3c5	N-20°-E	"	"	1.02×0.65	21~24	Ⅱ	2		A		覆土は軟質である。	Fig66	
S K 963	"	N-56°-W	A II a	"	0.93×0.7	16~20	Ⅱ	2	1	N		"	Fig80	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 964	C3c5, c6	N-82°-E	D I a	長方形	1.1 × 0.95	44~46	I	1		N	△		Fig109
S K 965	C3c5	N-42°-W	A I a	長楕円形	1.45 × 0.98	22~24	II	-1		N			Fig66
S K 966	"	N-20°-W	"	楕円形	1.13 × 1.07	24~26	II	2	1	N	△	覆土は軟質である。	Fig66
S K 967	C3c4	N-65°-W	"	"	1.0 × 0.7	20~22	II	2		(N)		"	
S K 968	C3c5	N-35°-W	"	長楕円形	1.68 × 0.97	6~16	II	1	3	A		"	Fig67
S K 969	C3b6, c6	N-47°-E	A II a	楕円形	0.9 × 0.65	18~23	II	2	2	(N)		"	
S K 970	C3b6	N-7°-E	A I a	"	1.12 × 0.95	16~20	II	2	1	N	△		Fig67
S K 971	C3d6	N-15°-W	A I a	"	1.2 × 0.85	8~13	III	1		A		床中央は攪乱により凹状をなす。	
S K 972 A	C3h9, i9		Z	不明	(0.41) × 0.74	15	II	2		N	II期		Fig110
B	"	N-27°-W	D I a	長方形	1.3 × 1.04	48	I	1		N		SK779を切り、本跡が新しい。	Fig110
S K 973 A	C3b5	N-45°-W	E I a	不定形	(1.4) × 1.15	12	II	1		N		覆土は軟質である。	PL455
B	"		A II a	円形	0.8 × 0.78	44	II	2		(N)		"	
S K 974	"	N-15°-E	D I a	長方形	1.95 × 1.4	48	I	1	1	N	△	南側に他の掘り込みがみられる。	
S K 975	C3a5, b5	N-80°-W	"	"	1.65 × 0.95	42	I~II	1		A	△	覆土は軟質である。	
S K 976	C3a5		E I a	不定楕円形	1.15 × 0.95	13	II	3		A		"	
S K 977	C3b4, b5		A II a	円形	0.96 × 0.92	23~28	II	1		N		覆土は軟質でロームブロックを多く含む	Fig80
S K 978	C3b4, c4	N-6°-E	D III b	長方形	3.2 × 2.45	67	I	1		N	△	"	Fig163
S K 979	C3c4	N-50°-E	E I a	不定方形	1.95 × 1.7	38	II	3	1	N	△	"	Fig163
S K 980	C3c4, d4	N-90°-E	A II a	楕円形	0.98 × 0.63	10~13	III	3		(A)		攪乱か抜根痕	Fig80
S K 981	C3d4		"	円形	0.87 × 0.82	20~25	II	1		N			Fig80
S K 982	C3d5	N-60°-W	D I a	長方形	1.5 × 1.2	12	II	1		N		東側に方形の段がみられる。	PL453
S K 983	C3d4	N-39°-E	A II a	楕円形	0.91 × 0.65	10~12	III	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig81
S K 984	C3d4, e4	N-75°-E	D I a	隅丸長方形	1.57 × 1.2	40	II	1	1	N	△	"	Fig110
S K 985	C3a4	N-57°-W	E I a	不定形	×	27	II	3	1	N			Fig132
S K 986	C3d3, e3	N-88°-E	C I b	楕円形	1.35 × 1.03	15~86	I~II	1	1	N		東側は段差を有する。	
S K 987	C3d3	N-20°-E	E I a	不定楕円形	2.0 × 1.38	17	II	1	2	N		南北コーナーに攪乱がみられる。	Fig132 PL454
S K 988	C3d3, e3	N-63°-W	D I a	隅丸長方形	1.52 × 0.94	12	II	1		N			
S K 989 A	C3d3		E I a	不定形	1.5 × 1.2	6~10	III	2	2	N			Fig132
B	"		E I a	"	1.1 × 0.88	26	I	1	4	A			Fig132
S K 990	C3c3, d3	N-52°-E	A II a	楕円形	0.98 × 0.81	20~35	II	3		A		覆土は軟質でやや新しいものか。	Fig80
S K 991	C3c3	N-25°-W	A I a	"	1.1 × 0.85	22~25	II	1	4	(A)		ピットは北西~南東に並び覆土は軟質。	Fig67
S K 992	C3c4	N-45°-E	A II a	"	0.87 × 0.76	7~15	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig81
S K 993	C3c3	N-90°-N	C I a	不定長方形	1.67 × 1.3	20~40	I~II	1	1	N	△		Fig94
S K 994	C3b3, c4	N-44°-W	A I a	楕円形	1.09 × 0.77	14~18	II	3		N			
S K 995	C3b3	N-83°-E	D I a	方形	1.9 × 1.86	46	I	1		(N)		覆土は軟質でロームブロックを含む	Fig170
S K 996	C3a3, b3	N-18°-W	D III a	方形	3.06 × 2.78	33	I	1		(N)	△	"	Fig170 PL456
S K 997	C3a2, a3	N-88°-W	D I a	"	1.7 × 1.52	42	I	1		(N)		西側に段差がみられる。	Fig109 PL457
S K 998 A	C3a3, a4	N-21°-W	D III a	長方形	2.02 × 0.9	18	II	1		(N)	} △	覆土は軟質でロームブロックが多い。	Fig172
B	"	N-22°-W	D III a	"	2.74 × 2.2	25	II	1		(N)		"	Fig172
S K 999	C3a4	N-76°-E	"	"	3.5 × 2.55	35	I	1		(N)		SK998と重複し本跡が新しい。	Fig172
S K 1000	C3a3	N-64°-E	E I a	不定形	1.46 × 0.8	11	II	2		N	△	床の南西は凹状をなす。	Fig132
S K 1001	C3b2	N-5°-W	D III b	長方形	2.83 × 1.15	46	II	1		N	△	東壁に土壌の重複がみられる。	
S K 1002 A	C3a2, b2	N-12°-W	D I b	(")	1.63 × 1.0	46	I	1		N		覆土はやや軟質である。	Fig162

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1002 B1	C3b2	N-74°-E	E I b	不定形	1.54×0.83	80	II	2		N		覆土は軟質でロームブロックを含む。	Fig162
S K 1003	C3b2, b3	N-20°-W	D I a	長方形	1.8 ×1.35	34~36	II	1		N	△		Fig110
S K 1004	C3b4	N-62°-E	E II b	不定形	1.3 ×0.85	60	II	1		N		SK978と重複する。	Fig163
S K 1005	C3c3, d2	N-54°-E	D I a	長方形	1.48×1.1	27	II	1		N		南西壁がゆるい傾斜をもつ。	
S K 1006	C3d2, d3	N-78°-E	B II b	楕円形	1.02×0.73	72	I	1		N		西壁の肩部に段差を有する。	Fig86
S K 1007	C3d2	N-71°-W	E III a	長方形	2.05×0.98	40	II	1		A	△	S1070の炬を切り形態はD III a。	Fig143
S K 1008	C3d2, e2		B II b	円形	0.66×0.61	68	I	1		N			
S K 1009	C3e1	N-14°-E	E I a	不定形	1.64×1.06	15~48	II	3		A	△		Fig133
S K 1010	"		A II a	円形	0.96×0.9	18~20	II	1		(N)			Fig80
S K 1011 A	C3a2, b1	N-52°-E	D I b	長方形	1.6 ×1.41	77	I	1		N		SK1011Bより古く、SK1002 Aより新しい。	Fig162
B	C3b1		E I b	不定形	(1.46)×1.2	73	II	2		N			
S K 1012	C3e2	N-60°-W	A II a	楕円形	0.95×0.78	10~12	II	3		A		覆土は軟質で新しいもの。	
S K 1013	C3d1	N-65°-E	A I a	長楕円形	1.43×0.77	14~20	III	1	4	N	△	S1071の南壁にありピットはその柱穴	
S K 1014	C3e0		B I b	円形	1.4 ×1.36	54~60	I	1		N	△		Fig90
S K 1015	"	N-73°-E	"	楕円形	1.43×1.17	50~54	I	1		N			Fig90
S K 1016	C3d2	N-44°-E	A II a	"	0.8 ×0.6	36	II	1	1	N			
S K 1017	C3e1, d2	N-40°-E	E I a	"	1.18×0.8	27	I	1	1	N		北西に段差がみられる。	Fig133 PL457
S K 1018	C3e1, d1	N-61°-W	"	不定形	1.85×0.93	42	III	3		N		床中央に攪乱が入る。	Fig133
S K 1019	C3d1, e1	N- 7°-E	B I a	楕円形	1.62×1.02	40~43	I	1		N	△		Fig87
S K 1020	C3d1	N-37°-E	E I a	不定形	1.64×1.21	11	II	1	3	N		ピットは本跡より新しい。	
S K 1021	C3c2	N-34°-W	D I a	長方形	1.77×1.41	40	I	1	1	N		西壁に楕円形の掘り込みあり。	Fig110
S K 1022	C3c1	N-85°-E	A I a	楕円形	1.54×0.95	12~15	II	1	2	N		ピットは本跡より新しい。	Fig67
S K 1023	C3b2	N-48°-W	D I a	長方形	1.60×1.06	33	II	2	1	N			Fig110 PL458
S K 1024 A	C2e9, e0		D I b	"	1.13×(0.87)	40	II	2		N	III期		Fig154
B	C2e9, e0	N-47°-E	D I a	長方形	1.74×1.36	63	II	1		N		本跡はSK1024A1034より新しい。	Fig154
S K 1025	C2b0, C3b1	N-72°-E	E I a	不定形	1.60×0.95	35	II	1		N	△		Fig133
S K 1026 A	C3a1, b1	N-47°-E	(E I a)	"	(0.9)×0.87	7	III	3	1	(N)		覆土はやや軟質である。	
B	"	N-39°-W	B I b	楕円形	1.53×1.31	30	I	1	1	(N)		"	
S K 1027	C3a1		D I a	長方形	1.62×1.30	30	I~II	1	1	(N)		ピットは本跡よりやや新しい。	Fig111
S K 1028	C3b1		E III a	不定形	2.08×0.92	32	II~III	3	1	A	△	2基の土壌の重複が考えられる。	
S K 1029	C2b0, C3b1	N-57°-E	E I a	"	1.69×1.1	30	I~II	1	1	N			Fig133
S K 1030	C2e9, f9	N-32°-W	D I a	長方形	2.95×1.7	61	I	1		N		SK1024と重複する。	Fig154
S K 1031	C3a1, b1		"	長方形	1.15×0.90	30	II	3	2	A		ピットは攪乱によるもの。	Fig112
S K 1032	C2a0, C3a1	N-60°-W	A I a	楕円形	1.1 ×1.05	25~30	II	1	1	(N)		ピットは本跡より新しい。	Fig67
S K 1033	C2b0	N-23°-W	E I a	不定形	1.07×0.65	16	II	3		A			
S K 1034	C2b0, c0	N-58°-W	A I a	楕円形	1.15×0.78	32~40	II	3	3	(N)			Fig67
S K 1035	C2c0, b0	N-27°-W	A II a	"	0.92×0.80	20~25	II	1	1	(A)			Fig80
S K 1036	C2c0		A II a	円形	0.70×0.66	16~20	II	1		N			Fig81
S K 1037	"		D I a	長方形	1.57×1.27	33	I	1	4	(N)		ピットは攪乱によるもの。	Fig110
S K 1038	C2c0, d0	N- 3°-E	D I b	"	1.68×1.15	53	III~IV	1		N	△	南東壁はやや内わんする。	Fig118
S K 1039	C2d0	N-56°-W	"	"	1.53×1.25	60	I	1		N	△		Fig118
S K 1040	C2a0		"	方形	1.30×1.1	60	I	1		N			Fig1040
S K 1041	C2b0	N- 7°-W	C I a	不定形	1.72×1.25	43	I	1	1	N	△	南西部の肩部に段を有する。	Fig94

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1042	C3a3, a4	N-4°-W	A I a	楕円形	1.07×0.82	(47)	II	1		N	III期	SK996・998と重複し本跡の方が古い。	Fig67
S K 1043A	C2d9, c9	N-245°-W	E I a	長楕円形	3.41×0.6	105	V	2		N	} Δ		Fig173 PL459
B	"	N-32°-E	G III b	不定楕円形	2.86×1.4	20	I	1	1	(A)		SK1043Aを切っている。	Fig173
S K 1044	C2d9		A I a	不定形	1.08×1.05	25~30	II	1	1	N			Fig67
S K 1045	C2d8, c8	N-10°-W	"	楕円形	1.58×1.2	18~26	II	1	1	N	Δ	ピットは本跡より新しい。	Fig67
S K 1046	C2d8		E I a	不定形	1.55×1.05	22	I	1	4	N	Δ	西壁のピットはSH02の柱穴か。	Fig133
S K 1047	C2d7, e7		D I b	長方形	1.48×0.94	70	I	1		A	Δ		Fig118
S K 1048	C2d7, d6	N-60°-E	A I a	楕円形	1.57×0.94	45	II	1		N	Δ		Fig67
S K 1049	C2b9, a9	N-24°-W	D I a	隅丸長方形	1.40×1.10	27	II	1	5	N	Δ	覆土はやや軟質である。	Fig112
S K 1050	C2a9		D I a	円形	1.08×1.04	22	II	1		N	Δ		Fig110
S K 1051	C2c8	N-16°-E	A I a	楕円形	1.6 ×1.12	22~26	II	1	1	N		南側は攪乱を受けている。	Fig67
S K 1052	C2b8, c8	N-70°-E	D III a	隅丸長方形	2.05×1.3	28~35	II	3	9	(N)	Δ	ピットは攪乱によるものか。	Fig110
S K 1053	C2b5	N-82°-W	A I a	楕円形	1.58×1.37	25~28	I	1		N			Fig67
S K 1054	C2b5	N-81°-W	C I b	"	1.68×1.47	38~74	I-II	1		N	II期	西壁の肩部に段を有する。	Fig96
S K 1055	C2b5	N-77°-E	A II a	"	1.01×0.78	22~25	II	1		N			Fig81
S K 1056A	C3f5		E III a	不定形	2.4×1.9	44	II	1	2	N	} Δ	SK847と重複するか新田は不明。	Fig170
B	"		B I b	楕円形	1.02×0.9	96	II	2		N			Fig170
S K 1057	C2a8		E I a	不定形	1.62×1.13	21	II	3		A		覆土は軟質である。	
S K 1058	C2b7		D II a	方形	1.14×0.9	22	II	1		N	Δ	"	Fig121
S K 1059	B2j7, C2a7		B I b	円形	1.52×1.37	55~64	I	1		N	Δ	"	Fig91
S K 1060A	B2j8		B I b	"	1.34×1.3	70	IV	1	1	N	} Δ	"	Fig90
B	"		"	"	1.3 ×1.2	67	I	1		N		"	Fig90
S K 1061	B2j8, j7		D I a	長方形	1.87×1.55	30~34	II	1	1	N	Δ		Fig111
S K 1063	B2i0, j0	N-0°-E	D I a	"	1.67×0.82	20	II	1		(N)		北側に攪乱がみられる。	
S K 1064	B2i9, i0	N-18°-W	D II a	長方形	0.98×0.92	12	II	3		N			
S K 1065	B2i9	N-53°-W	E I a	不定形	1.39×0.88	35	II	3		N		部分的に攪乱がみられる。	Fig133
S K 1066	B2h9, i9		B I b	円形	1.15×1.08	35	I	1		N		SK1096と重複し本跡が新しい。	Fig155
S K 1067	B2i9	N-11°-W	E II a	長方形	0.95×0.68	13~25	III	3		N		部分的に攪乱がみられる。	
S K 1068	B2i0	N-32°-E	E I a	不定形	1.23×1.02	25~46	III	1	1	N		ピットは本跡よりやや新しい。	Fig133
S K 1069	B2h9	N-9°-W	D I a	長方形	1.10×0.79	17	II	1	1	N		床中央に段差がみられる。	Fig112
S K 1070	B2i0	N-15°-E	E I a	不定形	1.02×0.87	11	II	3	1	N			
S K 1071	B2h8	N-58°-E	C I b	楕円形	1.73×1.00	41~60	I	1		N	Δ	SX003と重複し本跡が新しい。	Fig94
S K 1072	B2i9, i8		A II a	"	0.66×0.53	10~12	II	1		N			
S K 1073	B2i8		"	円形	0.66×0.58	11~14	II	1		N		SK1096と重複し本跡が新しい。	Fig155
S K 1074	B2h8		"	"	0.80×0.65	40~43	II	1	1	N		"	Fig155
S K 1075	B2h9, g9		E II a	長方形	0.92×0.64	17	I	1	2	N		覆土はやや軟質である。	Fig139
S K 1076	B2g9	N-51°-W	A II a	楕円形	0.97×0.88	12~19	II	1		(A)			Fig81
S K 1077	B2g9, f9	N-26°-W	E I b	不定形	2.00×1.30	45	II	3		N	Δ	SK1085と重複する。	
S K 1078	B2g7	N-59°-E	D I a	長方形	1.57×1.04	32	I-II	1		N	Δ	覆土はやや軟質である。	Fig110
S K 1079	B2h0		A II a	円形	0.94×0.83	12~14	II	1		A			Fig81
S K 1080	B2g9	N-35°-W	D I a	(長方形)	0.98×0.52	11~15	II	1		N		SK1091と重複し本跡が新しいか。	Fig154
S K 1081	B2h9		E III a	不定形	(4.0)×1.76	20	II	1		(N)		SK1082と重複しプランは不明瞭。	
S K 1082	B2g9, h9		E III a	"	×0.8	24	II	1		(N)		SK1081, 1083と重複する。	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1083 A	B2g8	N-62°-E	D I a	長方形	2.9 × 1.83	12	II	1		N	△		
B	"		B II a	円形	0.8 × 0.9	28	I	1		N			
S K 1084	B2g8	N-64°-E	D III a	長方形	2.21 × 0.65	16	II	1		N			
S K 1085 A	B2f8		Z		(1.0) × (0.65)	20~25	III	3	1	N	△		
B	B2f9, g9		B I b	円形	1.43 × 1.34	54	II	1		N		SK1077と重複する。	
S K 1086 A	B2f9		A I a (楕円形)		(1.22) × 0.74	28	III	3		N		形態的にはC Ibか。	
B	"		B I b	円形	1.45 × 1.14	83	I	1		N			
S K 1087	B2h7, g7		B I a	"	1.36 × 1.23	32~36	I	1		N	△	南側の肩部に段差がみられる。	Fig87 PL460
S K 1088 A	B2i8	N-49°-E	A III a	楕円形	2.1 × 0.96	34	II	3		N	△	覆土はやや軟質である。	
B	B2i8	N-3°-E	D III b	長方形	2.16 × 1.94	63	I	1		(N)		覆土はやや軟質である。	"
B'	B2i7, i8		B I b	円形	1.46 × (1.23)	72	I	1		N		"	"
C	"		B II b	"	1.0 × 1.0	75	I	1		N		"	"
S K 1089 A	B2h7		B I b	"	1.38 × (1.3)	64	I	1	1	N	} △	"	Fig171
B	B2i7		"	"	1.4 × 1.52	72	I	1	(I)	N		"	"
S K 1090	B2h7, h8	N-28°-E	C I b	不定形	2.25 × 1.33	36	I-II	1		N	△	北西に他の土壌の重複がみられる。	Fig96
S K 1091	B2g9, g0	N-35°-W	B I b	円形	1.43 × 1.15	85~95	I	1		N		SK1080と重複し本跡が古い。	Fig154
S K 1092	B2g7	N-78°-E	D I a	長方形	1.90 × 1.32	26	I	1		N			Fig111
S K 1093	B2g6	N-38°-W	C I b	楕円形	1.54 × 1.28	133	I-II	1		N	△	円筒状を呈している。	Fig97 PL461
S K 1094	B2g6, h6	N-53°-W	A I a	"	1.32 × 1.04	38~42	II	1		(N)	III期	遺物は床中央の覆土上層に多くみられる。	Fig68 PL462
S K 1095	B2h7		B I b	"	1.6 × 1.55	80	I	1		N	△	南西の肩部に段を有する。	Fig171
S K 1096	B2h8	N-53°-E	"	"	1.65 × 1.44	68	II	1		N	△	SK1066-1073-1074と重複する。	Fig155
S K 1097	B2f8, f9	N-51°-E	A I a	"	1.26 × 0.98	12~15	II	1		N		SK1158と重複する。	
S K 1098 A	B2f8		A II a (楕円形)		0.64 × (0.45)	4~6	III	3		N			
B	B2f8		D II a	方形	1.00 × 0.9	43	II	1	2	N			
S K 1099 A	B2e8, c9		A II a	楕円形	0.9 × (0.56)	12	II	1		N		SK1158と重複する。	Fig155
B	"		B II a	"	0.91 × 0.8	42	I	1		N		覆土はやや軟質である。	"
S K 1101	C3j3	N-7°-W	A I a	円形	1.13 × 1.1	40~43	I-II	1		N	△		Fig68
S K 1102	B3a3, a4		"	楕円形	1.4 × 1.12	25~28	i-II	1		N	△		
S K 1103	C3j3		Z		1.42 × 0.55	22~30	III	2		N			
S K 1104	D3a3		(B I b)		1.08 × 0.48	94	I	1		(N)			
S K 1105 A	B4j9	N-45°-W	E II a	不定形	(0.48) × 0.8	10	II	2		N	} △	形態的にはC Ibか。	Fig96 PL463
B	"		D I a	長方形	1.15 × 0.96	40	II	1		N		Fig96	
S K 1106	C4a7, a8	N-63°-W	D I a	隅丸長方形	1.5 × 0.86	20	I	1		N			
S K 1107 A	C4c6, c7		"	不定形	1.53 × 1.0	30	II	3	1	N	} II期		Fig133 PL464
B	"		"	"	1.52 × (0.94)	22	II	1	2	N		Fig133	
S K 1108	C4c7		D I b	方形	1.12 × 1.1	51	I	1	1	N	△	ピットはSI069の柱穴か。	Fig118
S K 1109	C4c6		A I a	楕円形	(0.88) × 0.99	16	II	1	1	N		SI069と重複する。	Fig67
S K 1110	C4a6	N-38°-W	"	"	1.32 × 1.1	18~54	I-II	1		N	△	SI 059の西壁に位置する。	PL465
S K 1111	C4e6		(D III a)	隅丸長方形	1.95 × 1.9	5	III	1		N	△		Fig176
S K 1112	C4e5, e6	N-3°-W	E I a	不定長方形	1.57 × 0.75	21	II	1		N	△		Fig134
S K 1113	C4e6, d6		(D I a)	長方形状	(1.1) × 1.56	27	II	1		N			Fig81
S K 1114	C4d7		A II a	円形	0.66 × 0.64	12~14	I	3		N			Fig81
S K 1115	C4d7	(N33° W)	J		0.38 × 0.38		II	2		N			Fig190 PL466

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況				覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数	土				
SK1116	C4d5		(DIIa)	長方形	(0.73)×0.93	17	II	1			N		SI058と重複する。	Fig176
SK1117	C4d5		(DIIa)	"	0.85×0.7	16	II	1			N		"	
SK1118	C4d5,e5		(AIIa)	楕円形	1.35×0.75	17	II	1			N	△	SK1117と重複し本跡が古い。	
SK1120	C4e5	N-7°-W	AIIa	"	1.52×1.04	8~14	II	3			N			Fig68
SK1121A	C4f6		"	"	1.38×1.2	16	II	1	1		N		A:Bの新旧関係は明瞭ではない。	Fig68 PL467
B	"		BIIa	円形	0.62×0.5	49	I	1			N			Fig68 "
SK1122	C3f0		J	"	0.32×0.33									
SK1123	"		Z											
SK1124	"	N-86°-E	AIIa	楕円形	0.71×0.67	18~21	III	2		A	III期		遺物は床面中央に投棄された状態で出土	Fig81
SK1125	C2g0	N-83°-W	AIIIa	長楕円形	2.3×1.08	16~21	I-II	3			N		S1086の西壁に重複し本跡が新しい。	Fig84
SK1126	"	N-22°-W	BIIa	楕円形	1.28×0.95	25~35	I	3			N		覆土はやや軟質である。	Fig88
SK1127	C3f1	N-31°-W	DIIa	長方形	1.24×0.98	14	II	1			N		"	Fig112 PL468
SK1128	C3 2,h3	N-5°-W	"	"	1.87×1.22	15	II	1			N	△	SK882と重複する。	
SK1129A	C3 1,f1		DIIb	"	1.93×0.83	50	II	1			N			
B	"	N-76°-W	EIIa	長方形	(1.03)×0.77	20	I	3	3	A			ピットは攪乱によるものか。	
SK1130	C3i3,i4	N-41°-E	EIIa	不定形	1.72×0.98	20~34	II	3	2		N	△	SI079の北西に位置しピットは柱穴か。	Fig134
SK1131	C3i4	N-32°-W	DIIa	長方形	1.44×1.3	24~48	I	1	2	(A)	△			Fig112
SK1132	C3i4,i5	N-64°-W	AIIa	楕円形	1.18×0.86	27~34	I-II	1	1		N		ピットは本跡より新しい。	Fig68
SK1133	C3i4	N-28°-E	EIIa	不定形	1.09×0.55	20	II	2	2		N		ピットはSI079の柱穴か。	
SK1134	C3j4		AIIa	楕円形	0.91×0.87	28~30	II	1	1		N	△		Fig81
SK1135	"	N-73°-E	EIIIa	不定長方形	2.04×1.28	23	II	1	3		N	△	ピットはSI079の柱穴か。。	Fig144
SK1136	C3g0,C4g1	N-33°-E	CIIa	楕円形	1.25×0.9	36	II	1			N			
SK1137	C4g1	N-38°-E	DIIa	隅丸長方形	1.77×1.2	20	II	1			N			Fig111
SK1139	C3j0	N-38°-W	EIIa	不定長方形	1.5×1.04	32	II	3	1		N			Fig134
SK1141	C2c6		EIIa	不定形	(1.8)×1.1	15	I	1	3		N	III期	北西の覆土中に少量の焼土がみられる。	
SK1142	C2d6		BIIb	円形	0.53×0.48	53	I	(2)			N		ピット状でSI127の柱穴か。	
SK1143	C3c6,d6		Z		1.11×(0.75)	42	II	1			N	△	本跡はSI127より新しい。	
SK1144	C2c6	N-55°-E	AIIb	楕円形	0.9×0.75	51	II	1	2	(N)			覆土はやや軟質である。	
SK1145A	C2b6		AIIa	"	(1.2)×1.2	18	II	1	1		N		ピットはSI120の柱穴か。	Fig155
B	C2b7		BIIb	楕円形	1.57×1.58	76	I	1			N		遺物は西側の覆土中に多くみられる。	"
SK1146A	C2a6,b6		BIIb	円形	1.04×1.04	76	II	1			N	△	不定長方形の土嚢を取り込む。	
B	C2b6		BIIa	"	0.66×0.6	15~18	II	2			N			
SK1151	B2f7,e7	N-86°-W	DIIIa	長方形	2.5×2.0	35	II	1	3		N	△	北東部をSK1152によって切られる。	Fig125
SK1152	B2e7		DIIa	方形	1.44×1.3	35	I	1	1		N	△	SK1151と重複する。	Fig110
SK1154	"		"	隅丸方形	1.64×1.55	25	I	1			N	△	床の南は攪乱をうけている。	
SK1155	B2e7	N-8°-E	EIIa	不定形	(1.0)×1.05	18	I	1	1		N		SK1156Bに切れ、ピットは新しい。	
SK1156A	B2e8	N-86°-E	(DIIa)	長方形	(0.92)×1.13	14	II	1	1		N	△	SK1155と重複する。	
B	"	N-5°-W	DIIb	"	1.54×1.01	60	II	3		A				
SK1157	B2f7	N-47°-W	EIIa	不定形	1.6×1.25	46	II	1		(N)		△	SK1151と重複する。	PL471
SK1158	B2f9		BIIb	楕円形	1.09×1.04	44	I	1		(N)	III期			Fig156
SK1160	B2d8	N-70°-W	DIIa	長方形	1.1×1.0	20	II	3	3		N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig167 PL470
SK1161	B2d8		BIIa	円形	1.0×0.93	16	I	1			N	△	SK1160と重複する。	Fig167
SK1162	B2d8,d7	N-66°-W	DIIIb	長方形	2.3×1.62	106	II	1			N			Fig167 PL472

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1163	B2d7	N-13°-W	E III a	不定楕円形	2.22×0.93	13	II	3	2	N	△	ピットは攪乱によるもの。	
S K 1164	"		E I a	不定形	0.8 ×0.52	22	II	1	1	(N)	△	SK1159より新しく、覆土はやや軟質。	Fig198 PL473
S K 1165A	B2d7, c7	N-12°-E	"	"	(1.06)×1.4	22	II	1		N	△		
B	"		Z		(1.3)×1.04	48	II	3	10	(A)			
S K 1166	B2d8		H II b	円形	0.9 ×0.86	52~58	(IV)	1		N		覆土上層に土偶足部分出土。	Fig175 PL474
S K 1167	B2d8		D I a	方形	1.10×1.03	29	II	3		N			Fig112 PL475
S K 1168	B2d9	N-41°-E	E I a	不定長方形	1.11×0.82	9~26	II-III	3	2	(A)		ピットは攪乱によるものか。	Fig134 PL476
S K 1169	B2c7	N-30°-W	"	不定形	1.62×1.18	17	II	3		N	△		68
S K 1170	B2c0	N-78°-E	A I a	楕円形	1.47×1.38	18~20	II	1	1	N	III期		Fig68 PL477
S K 1171	B2c9		B I b	円形	1.68×1.6	66~68	I	1		(N)	I期		Fig91
S K 1172	B2c8, c9	N-14°-W	A I a	楕円形	1.68×1.17	14~16	II	1		N			Fig68
S K 1173	B2c8		"	"	1.15×0.92	20	III	2		N			"
S K 1174	B2c8	N-52°-W	"	"	1.3 ×1.0	28~34	II	2	1	N		覆土中に少量のカーボンがみられる。	"
S K 1175	B2c8, b8	N-50°-E	D I a	長方形	1.48×1.3	22	I-II	(3)	1	N	△	ピットはS1083の柱穴か。	Fig166
S K 1176	B2b7, b8	N-50°-W	E III a	不定形	2.8 ×1.23	22	II	3	6	(N)	△	S1083の炉を切りSK1175と重複。	"
S K 1177	B2b8	N-47°-E	E I a	"	1.9 ×1.07	25	III	3	5	N		ピットは攪乱によるもの。	Fig134
S K 1178	B2b7, b8	N- 7°-W	"	"	1.6 ×1.15	34	II	3	1	N	△	ピットはS1083の柱穴か。	" PL478
S K 1179	B2b7	N- 9°-E	"	"	1.58×0.81	15	III	2	1	N		SK1178と重複し本跡が新しい。	Fig134
S K 1180.	B2b7, a7	N-29°-W	D I a	長方形	1.76×1.3	25	II	3	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	
S K 1181	B2b6	N-27°-E	"	"	1.45×1.26	35	II	1		N	△		Fig112
S K 1182	B2b6, a6	N 29°-E	D III a	"	2.05×1.4	35	I-II	1		(N)	III期	床中央に方形の堀り込みがある。	PL479
S K 1183	B2a7, a8	N-48°-W	E III a	不定形	2.25×1.3 1.4	27	II	1	2	N	△	北西壁にS1103の焼土(炉)がみられる。	Fig143 PL480
S K 1184	B2a8, a9	N-42°-W	D I a	長方形	1.57×1.36	21	II	1		N			Fig111
S K 1185	B2b8	N-52°-E	"	方形	1.73×1.46	31	III	2	3	N	△		
S K 1186	B2b9, b8	N- 4°-E	E I b	不定形	1.5 ×1.45	80	II	1	1	(N)			Fig138
S K 1187	B2b9	N- 7°-E	E III b	"	1.83×1.5	54	II-III	1		N			PL481
S K 1188	"		A I a	楕円形	1.4 ×1.3	36	II	1		N			Fig68 PL482
S K 1189	B2b0	N-86°-W	"	"	1.16×0.82	12	II	-1		N			Fig68
S K 1190	B2c7		D II a	方形	0.96×0.87	10	II	3	1	N		部分的に攪乱がみられる。	
S K 1191	B2c7	N-39°-W	D I b	長方形	1.58×1.0	60	I	1	1	(N)		覆土は軟質でピットは新しい。	
S K 1192	B2b0	N-77°-W	D I a	"	1.1 ×0.9	14	II	1	1	N		ピットは深く69cmほどである。	Fig154 PL483
S K 1193	B2a0, b0	N-15°-E	E I a	不定形	(1.05)×1.1	12	II	1	2	N	△	SK1192と重複し本跡が古い。	PL483
S K 1194	B2a9, b9	N-75°-E	D I a	長方形	2.15×1.65	57	I-II	1	1	N	△		Fig119
S K 1195	B2a8, a9		D I a	"	1.08×0.8	24	II	1		N			
S K 1196	A2j0, B2a0	N-20°-W	E I a	長方形	1.2 ×1.06	13	II	3		N			
S K 1197	B2a7		A I a	円形	0.99×0.94	15	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig80
S K 1198	A2j7, B2a7	N-36°-E	A III a	楕円形	2.4 ×1.94	42	II	1	1	(A)	III期		Fig84
S K 1199	B2a7		E I a	不定形	1.22×1.2	36	II	1	1	N	△		
S K 1201A	B2a6	N-73°-W	D I b	長方形	(0.9)×0.98	53~63	II	1		N	III期		
B	"		F	円形	0.9 ×0.	213	I	2		N		底部は粘土層に達している。	
S K 1202	B2f8, f7	N-73°-W	E III a	不定形	2.82×1.26	26~32	II	1	4	N	△	SK1209によって切られている。	Fig167
S K 1203	B2f6, f7	N-18°-E	D I a	長方形	1.98×1.52	45	II	1	2		△	ピットはS1080の柱穴か。	Fig111
S K 1204	B2f6		E I a	不定形	(1.92)×1.8	25	II	1	1	N		SK1206と重複しプランは不明。	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1205	B2g0, g1	N-67°-W	D I a	長方形	1.4 × 1.4	65	II	1	2	N			
S K 1207	B2e6, e7		B I b	隅丸方形	1.7 × 1.68	92~94	I	1		(A)	II期	形はD1bに近く、下層に少量の貝出土。	
S K 1208	B3g1	N-52°-E	(E I b)	楕円形	1.86×1.03	68	II	2		N	△	SK1237を切り壁はややV字状をなす。	
S K 1209	B2f7, f8	N-65°-W	A I b	"	2.03×1.17	75~85	II	2		N		本跡はSK1202の南側を切っている。	Fig167
S K 1210	B2f6	N-13°-E	A II a	"	0.79×0.67	9~11	II	1	1				Fig81
S K 1211	B2f0, g0	N-67°-W	A II a	"	0.92×0.69	14~18	II	1	2	(N)		ピットは攪乱によるもの。	
S K 1212	B2f0, e0		H I b	円形	1.30×1.15	87	IV	1		N			Fig175 PL484
S K 1213	B2f9, f0	N-51°-E	A I a	長楕円形	1.98×0.99	24~31	II	1	4	N		平面形はやや長方形ともみられる。	
S K 1214	B2f0	N-7°-W	E I a	不定形	1.53×0.62	12	II	1		N	△	分銅型石斧が出土。	Fig134
S K 1215	B2e9	N-39°-W	B I a	楕円形	1.13×1.0	31~34	I	1		N			Fig88 PL485
S K 1216A	B2e9, e0	N-50°-W	D I b	方形	1.25×1.2	50	II	3		(N)		覆土はやや軟質である。	
B	"		D II a	(方形)	(0.6) × 0.8	37	II	3		(N)		"	
S K 1217A	B2d9	N-34°-E	E II a	不定形	(0.58) × 0.94	13	II	3	1	(N)		"	Fig94 PL486
B	"		D II a	方形	0.98 × 0.92	42	II	3	1	(N)		"	" "
S K 1218	B2d9	N-33°-W	A I a	楕円形	1.72×1.04	16~20	II	2		N			Fig68
S K 1219A	B2d0		E I a	不定形	1.1 × 0.9	21	I	1		N	△		Fig155
B	"	N-5°-E	D III a	長方形	2.0 × 1.64	28~36	II	1		N			"
S K 1220	B2c0, B3c1	N-58°-W	(H I a)	"	1.27 × 0.98	38~48	IV	1	2	(N)		南東壁は内わんし北西壁は外反する。	Fig175 PL487
S K 1221A	B2d0, c0	N-73°-E	E I a	不定楕円形	1.02×1.03	10	II	1		N			
B	B2d9, c0		B I b	楕円形	1.08×1.06	46~52	III	2		N		覆土はやや軟質で攪乱が入る。	
S K 1222	B2e9, d9	N-24°-E	D I a	長方形	1.63×1.25	20	I	1	2	N			Fig115
S K 1223	C2b8	N-56°-W	D III b	"	2.34×1.86	70~75	II	1		N	△	SX001・SI076と重複する。	Fig7 7
S K 1224A	C2b7		D I a	長方形	0.73×0.44	10	III	1		N			
B	"		B II a	円形	0.34×0.38	46	I	1		N			
S K 1225	C2c7, b7		E II a	不定形	0.88×0.75	20	III	1		N			Fig9 9
S K 1226	C2c7	N-16°-E	D I b	長方形	1.95×0.97	52	I	1	3	N	III期	ピットは本跡よりやや新しい。	Fig162 PL488
S K 1227	C2c7	N-82°-W	E II a	不定形	1.09×0.67	17	II	2		N		ピットはSI076の柱穴か。	Fig162
S K 1228	C2c7, b7		D I a	長方形	1.30×1.14	50	I	1		N	△		Fig112
S K 1229	B2ee7, e6	N-73°-W	D I b	長方形	1.54×1.07	32	I~II	1	4	N	△	ピットはSI080の柱穴か。	
S K 1230	B2f6, e6	N-85°-W	A I a	楕円形	1.75×1.06	20~48	II	1	3	N	△	ピットはSI080で、中央は攪乱による。	Fig68
S K 1231	B2dd7, e7	N-31°-W	E III a	不定形	2.4 × 1.24	12	II	1		(N)	△	床の北に方形の掘り込みがみられる。	Fig144
S K 1232	B2e7	N-20°-E	E II b	"	0.96 × 0.72	50	I	1	1	N			
S K 1233	B2d6	N-39°-W	B I b	楕円形	1.73×1.63	221	I	1		N	II期	底部は粘土層まで達している。	Fig91 PL489
S K 1234	B2c6, d6	N-29°-W	D I a	長方形	2.14×1.43	26~46	II	(1)	2	N	III期		Fig111
S K 1235	B2b6	N-38°-W	A I a	楕円形	1.07×1.73	20	II	1	1	N			Fig68
S K 1236	B2d1	N-78°-W	D I a	長方形	1.72×1.13	45	II	1		(N)		SK081と重複し本跡が新しい。	Fig111
S K 1237	B2g7		A I a	不定形	(0.84) × 1.26	48	II	(3)		N		SK1208によって切られている。	
S K 1238	C2c0, e1	N-84°-E	A II a	楕円形	0.88×0.75	10~18	II	3		N			Fig81
S K 1239	B2e6, e1		E III a	不定形	2.42×1.25	45	II	1					Fig144
S K 1240	B2d6		Z	円形	0.28×0.28		II	1			III期		
S K 1241	C2f0	N-56°-W	D I a	長方形	1.03×0.9	34	II	1		N			
S K 1242	B2d6	N-57°-W	A II a	楕円形	0.83×0.74	40	II	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig81
S K 1243	B2g5, g6	N-81°-E	A I a	"	1.32 × 1.0	35~38	II	1		N	△	方形周溝SK004の北東に重複する。	Fig69

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1244	B2g5		E I a	不定長方形	(1.8)×1.30	19~33	I	2		(N)	△	SX004と重複し細い溝が北東へ走る。	Fig134
S K 1245	B2g5	N-80°-E	A I a	楕円形	1.17×1.3	22~24	II	1		N	△		Fig69 PL490
S K 1247	B2j3, j3	N-4°-W	E I a	不定形	1.66×0.92	32	II	1		(N)	△	覆土の上層は軟質である。	Fig134
S K 1248	B2i3, h3		D III a	長方形	4.65×	40	I	1	2	N	△	SX004の溝と重複しプランは不明。	
S K 1249	B2i2, h2	N-28°-W	"	"	2.77×2.18	45	I	1		N			
S K 1251	B2i2	N-51°-W	D I a	"	1.55×1.15	41	II	1	2	N	△		Fig111
S K 1252	B2i2, h2	N-42°-E	B I a	楕円形	1.45×1.02	40	I	1		N	△		Fig88
S K 1253	B2h1, h2	N-13°-E	A I a	"	1.3 ×1.13	25~32	II	1	2	N	△	床は東へゆるい傾斜をもつ。	Fig69
S K 1254	B2h1, h2	N-89°-E	"	"	1.17×0.91	32~35	II	1	1	N	△	ピットは本跡よりやや新しい。	Fig69
S K 1255	B2h2	N-45°-E	"	"	1.2 ×1.0	30~38	II	1	1	N			Fig69
S K 1256	B2h2		C I a	長楕円形	2.1 ×1.34	38	II	1~2	3	N	III期	床の中央は凹状をなしている。	Fig156
S K 1257	B2h3, h2	N-60°-E	C I b	"	2.0 ×1.2	32~65	II	1	1	(N)	△	SX004によって北西壁を切られている。	
S K 1258	B2h3, g3		Z,	不定形	2.9 ×2.0	38~44	I	1	1	N	△	西側に新しい掘り込みがみられる。	
S K 1259	B2g2, g3		A I a	円形	1.24×1.15	34~38	II	1	1	N	△		Fig69
S K 1260	B2g2	N-37°-E	D III a	隅丸長方形	2.3 ×1.5	20	I	1		N	△		Fig124
S K 1261	B2g1		D II a	方形	1.06×0.94	28	I	1		N	△		Fig121
S K 1262	B2h1, g1		(A III a)	楕円形	4.78×2.2	30	II	1		N	△	大型土壌で南西は区域外に至る。	Fig176
S K 1263	B2g1		A I a	円形	1.18×1.08	28~40	I	1	1	(N)			Fig69
S K 1264	B2g1	N-39°-E	"	楕円形	1.15×0.94	20~22	II	1		N			Fig69
S K 1265	B2g0, g1	N-36°-E	B III a	"	2.26×1.22	22~26	I	1		N			Fig92
S K 1266	B2f1, g1	N-2°-W	A I a	"	1.63×1.1	24~27	II	1		N	△	SK 1267と重複し本跡が古い。	Fig69
S K 1267A	B2f1, f2	N-64°-E	D III b	長方形	3.9×(1.8)	60	II	1		N	III期	北西部に円形の土壌がみられる。	Fig173 PL491
B	"	N-64°-W	G III b	長楕円形	3.0 ×2.0	170	V	2	2	N		壁中央の肩部に対峙するピットがある。	Fig173
S K 1268	B2g2, g3	N-42°-W	D I a	長方形	1.22×1.0	40	I	3		N	△	覆土の上層はやや軟質である。	Fig112
S K 1271B	B2i4, i5		B I b	円形	1.4 ×0.9	101	I	1		N	△		Fig112
S K 1279	B2g5, g4	N-51°-W	B I a	楕円形	2.0 ×1.8	28~30	I	1		N	△		
S K 1280	B2f5	N-87°-W	B I a	"	1.55×1.27	25~38	I	1	3	N	△		Fig88
S K 1281A	B2f5, e5	N-48°-W	D III b	長方形	1.25×1.11	75	II	2	1	N	△	新田は明瞭でなくBが古い可能性がある。	
B	"	N-84°-W	D III a	"	(2.0)×2.14	31	I	1		N			
S K 1282	B2e5	N-87°-E	B I a	長楕円形	2.03×1.27	33~41	I	-1		N	△		Fig92
S K 1283	B2e5		E II b	不定形	1.6 ×0.83	30	II	3	1	N	△		Fig139
S K 1286	B2i5		A II a	円形	0.26×0.11	(20)	II	2		N	II期		Fig191
S K 1287	B2i5		A I a	"	0.36×0.15	(25)	II	2		N			"
S K 1288	C2c6	N-28°-W	C I b	不定楕円形	2.45×1.8	21	I	1	1	N	△	SK 1289と重複しその新田は不明。	Fig170
S K 1289	C2b6, c6	N-37°-E	E III a	"	(1.7)×1.2	15	II	1	4	N	△	ピットはSI119か120の柱穴。	"
S K 1292A	C2a4	N-82°-W	E II a	不定形	2.1 ×1.32	28	II	1		N	△		Fig144
B	"		E II a	不定形	0.83×0.64	46	II	1		N			"
S K 1293	C1j4, j5		A II a	円形	0.85×0.84	26~30	II	1		N			Fig81
S K 1294	C2a4	N-82°-W	"	楕円形	0.9 ×0.77	18~20	II	3		N		東側の覆土中に少量の貝がみられる。	"
S K 1295	C2a4, a5	N-87°-E	A I a	"	1.38×0.95	16~20	II	3		N			Fig69
S K 1296	C2a5		D I a	長方形	1.55×1.46	25	II~III	1		(A)			Fig112
S K 1297	C2a5, a6	N-25°-E	E I a	不定形	1.67×1.08	30	II	3		N		南側に攪乱がみられる。	"
S K 1300	C2b9, b0		A I a	不定楕円形	1.38×1.003	16~20	II	1	2	N			Fig69

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ビット数			
S K 1301	C2a9, a0	N-47°-E	A I a	楕円形	1.55×1.26	25~35	II	1	3	A △	ビットは攪乱によるものか。	
S K 1302	B2j0, j9	N-80°-W	E III b	"	2.58×1.78	80	II~III	3		A △	覆土は軟質で床は西に傾斜する。	
S K 1303	B2j9, C2a9	N-16°-W	E I a	不定楕円形	1.52×0.93	22	II	1		(A) △		Fig135
S K 1304 A	B2j0	N-26°-W	E I a	"	2.30×0.91	30	II	1	1	N		Fig155
B	"	N-64°-W	D I b	長方形	1.25×1.14	40	III	3	2	N		Fig155
S K 1305	B2j0		A II a	楕円形	0.82×0.7	10	III	3		(N) △	覆土は軟質である。	
S K 1306	B3j1, C3a1	N-20°-E	E I a	不定楕円形	1.44×1.13	36	II	1	2	A	覆土はロームブロックを多く含む。	Fig135
S K 1307	B1j0, j1	N-13°-E	"	不定形	1.79×0.72	20	II	1		A △		"
S K 1308	B2j0, i0	N-31°-E	A I a	楕円形	1.07×0.88	18~20	II	1		(N)		Fig69
S K 1309	B3i1, j1	N-6°-E	E I a	不定形	1.77×0.87	10~24	III	3		N		Fig135
S K 1310	B3j1		D I a	方形	1.06×1.06	33~48	II	3		N	覆土の上層は軟質である。	Fig112
S K 1311	B3j1, C3a1		E I a	不定形	1.87×1.01	10	III	3		N		
S K 1312	C3a2	N-80°-E	A II a	楕円形	0.84×0.83	16~20	II	1		N		Fig81
S K 1313	B3j2	N-78°-W	D I a	長方形	1.45×1.04	22	II	1	1	A		
S K 1314	B3j2, j3	N-90°-	E I a	不定形	1.57×0.89	25	II	1	2	N	覆土はやや軟質である。	
S K 1315 A	B3j3	N-25°-E	A I a	楕円形	(0.8)×1.11	24	I	1		N		
B	"	N-55°-W	"	"	1.32×0.56	44	I	2	3	A	ビットは攪乱によるもの。	
S K 1316	B3j4, j3		A II a	円形	0.95×0.84	42~46	II	1		N		Fig81
S K 1317 A	B3j4, j5	N-88°-E	D III a	長方形	2.2 ×1.7	16	II	1		N	} △ SK999と重複する。 A, Bの新旧はそれほど明瞭でない。	
B	"	N-21°-W	D I a	"	1.0 ×0.8	37	II	1		N		
S K 1318	B3i4, j4	N-45°-E	D I a	"	1.45×1.05	40	II	1		N		Fig112
S K 1319	B3j4	N-52°-E	A I a	楕円形	1.63×1.16	35	II	1		N △	平面形はやや長方形状である。	Fig69
S K 1320	B3j4, i4	N-86°-E	D I a	長方形	2.01×1.45	37	I~II	1		(N)	部分的に攪乱がみられる。	Fig113
S K 1321	B3i5		A II a	円形	0.82×0.79	10~12	II	3		N	覆土はやや軟質である。	Fig81 PL492
S K 1322	B3i4, i5	N-23°-W	H I b	楕円形	1.66×1.37	74	IV	1		N II期	覆土及び床面に多くの焼土がみられる。	Fig175 PL493
S K 1323	B3i4	N-3°-E	E I a	不定形	1.48×1.18	29	I~II	1	2	N	床の北側は凹状をなす。	Fig135
S K 1324	B3i4		A I a	円形	1.52×1.12	18~20	II	1	1	N		Fig69
S K 1325	B3h4		A I b	楕円形	1.43×1.34	61~63	II	1		(A)	覆土はやや軟質である。	Fig75
S K 1326	C3j3, j4		A I a	"	1.1 ×1.01	12~16	II	1	1	N		Fig69
S K 1327	B3h3, h4	N-44°-E	E III b	長楕円形	2.65×1.18	50~58	II	3	1	(A)	部分的に攪乱がみられる。	Fig168
S K 1328 A	B3h3		E I a	不定形	(0.8)×1.17	20	II	3		N	覆土は軟質でそれほど時期差はない。	
B	"		A I a	楕円形	1.28×0.94	45	II	2		A		
S K 1329	B3i3	N-72°-E	D III a	長方形	2.03×0.92	25	II~III	3	2	N		Fig124
S K 1330	B3i3	N-8°-E	E I a	不定楕円形	1.14×0.72	14	II	3	1	N	ビットは本跡より新しい。	
S K 1331	B3j2, j3	N-76°-W	E I a	"	1.63×1.03	35	II	3	1	(N)	床の南は攪乱をうけている。	Fig135
S K 1332	B3i2		E III a	不定形	2.44×1.42	21	II	1		N △	2基の重複の可能性がみられる。	Fig143
S K 1333 A	B3i2, j2		E I a	"	(1.98)×1.1	6	III	1		N	} III期	Fig156 PL494
B	"	N-18°-E	D I b	長方形	1.61×1.5	57	I	1		N		
S K 1334	B3i1, j1	N-10°-W	E I b	不定形	1.92×1.31	50	III	3	1	(A)	覆土はやや軟質である。	Fig156
S K 1335	B2j9	N-7°-W	E III b	"	1.99×0.96	55	II	1	1	(N) △	2~3基の重複が考えられる。	
S K 1336	B3i1	N-33°-W	D III a	長方形	2.18×1.17	25	III	3	2	(A)	覆土はやや軟質である。	
S K 1337	B2i0	N-23°-W	A I a	楕円形	1.12×0.87	12	II	3	1	N	ビットは本跡より新しい。	Fig69
S K 1338	B3h1	N-32°-W	D I b	長方形	1.62×1.35	80	II	1		(N)		Fig119

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ビット数				
S K 1339	B3h1	N-87°-E	(A I b)	長方形	1.44×1.05	35~51	II	3	1	A		覆土は軟質でロームブロックを含む。	Fig75 PL495
S K 1340	B3i2	N-44°-E	A I a	楕円形	1.12×0.84	14~20	II	3	1	(N)		ビットは本跡より新しい。	Fig70
S K 1341	B3h2, g2		C I b	不定楕円形	1.97×1.24	99	II-III	1~2		N	△	床中央に円筒状の掘り込みあり。	Fig96
S K 1342 A	B3h3	N-84°-E	A I a	"	1.7 × 1.34	35	II	1		N	} III期	形態的にはC I aか。	Fig94
B	"		A II a	円形	0.9 × 0.97	34	II	1		N			
S K 1343	B3g4		(D I b)	"	1.88×1.68	100	II	1	1	N		形はやや楕円形で覆土下層は軟質。	Fig119
S K 1344	B3g2, g3		D I a	長方形	1.65×1.08	20	II	3	3	N		ビットは攪乱によるもの。	
S K 1345	B3g2		"	長方形	1.10×0.70	31	II	1	2	N		"	
S K 1346	B3g1, g2		D I b	"	1.52×1.27	28~43	II-III	3	5	N			Fig118 PL497
S K 1347	B3h1		A I a	楕円形	1.08×0.98	30~36	II	3		N			Fig70
S K 1348	B3g1, h1	N-50°-W	H	"	1.45×1.09	33	IV	1		N		SK1494に東側を切られている。	
S K 1349	B3j1	N-83°-W	B II a	"	0.89×0.68	14~16	I	1		N			Fig92
S K 1350	C3a6	N-38°-W	D I b	方形	1.04×1.04	50	I	1		(N)	I期	覆土上層に一括して出土。	Fig118 PL496
S K 1351	B3j6	N-74°-E	D I a	長方形	1.76×1.46	42	II	1		A		SK1354Aと重複する。	Fig171
S K 1352	B3j5	N-12°-W	D III a	隅丸長方形	2.18×1.45	37	II	1		(N)		覆土はやや軟質である。	Fig171
S K 1353	B3i5, j5		D III a	長方形	(3.0)×2.44	42	II	1		(A)	△	SK1354Aと重複し本跡が新しいか。	Fig171 PL498
S K 1354 A	B3j6, i6		"	"	2.8 × 2.85	46	I	1		N		SK1351と重複する。	Fig171 PL498
B	B3j7, i7	N-78°-E	"	長方形	2.16×1.93	48	I	1		(A)		SK1356と重複する。	Fig171
C	B3i6, i7	N- 0°-E	D I a	"	1.32×1.12	27	II	1	1	N		SK1355A・1354と重複、本跡が新しい。	Fig171 "
S K 1355 A	B3i7, i8		(D III a)	(長方形)	(1.94)×2.1	42	II	1		(N)		SK1354Bに切られている。	Fig171 "
B	"		D III a	長方形	2.0 × 1.81	48	I	1		(N)		SK1351~55は同タイプで新しいものか。	Fig171 "
S K 1356	B3j7	N-27°-W	(C I b)	楕円形	1.70×1.23	78	II	1	1	N	△	SK1354Bに切られている。	Fig171
S K 1357	"		E I b	不定形	1.31×1.05	45	II-III	2		N		北東部はゆるい傾斜をもつ。	Fig139
S K 1358	B3j7, j8		A I a	楕円形	1.26×1.21	21	II	1		(N)	△		Fig70 PL499
S K 1359	B3j8	N-67°-W	D I a	長方形	1.74×1.05	47	I	1	3	N	△	ビットは本跡より新しい。	PL500
S K 1360	B3j8	N-45°-W	D I a	長方形	1.86×1.0	43	II	1		(N)	△	壁面は凹凸状をなしている。	Fig113 PL501
S K 1361	B3j8		A II a	円形	0.92×0.92	12~14	II	1	1	(N)		ビットは攪乱によるもの。	Fig81 PL502
S K 1362	B3j8		A I a	楕円形	1.11×0.95	12~16	II	1	1	N			Fig70
S K 1363	B3j9		(D I b)	"	1.16×1.0	50	I	1		(A)		平面形は楕円形ともみられる。	Fig118
S K 1364	B3j9, j8	N-51°-E	A I a	楕円形	1.05×0.96	18~20	II	1		N	II期		Fig70
S K 1365 A	B3j9, j0	N-77°-E	E I a	不定楕円形	1.31×1.06	10	III	3		N			Fig156
B	"	N-81°-W	D I b	長方形	1.37×1.22	50	II	1		(N)		覆土はやや軟質である。	"
S K 1367	B3i0, C3a0		E III b	不定形	4.70×4.06	110	II	1		N		中央に楕円の掘り込みがみられる。	Fig146 PL503
S K 1368	B3i0		H I b	円形	1.58×1.52	68	IV	1		(A)			Fig175
S K 1369	B3g6, g5	N-83°-W	D III b	長方形	2.78×2.33	70	I	1	4	(N)		長軸線にビットが並び粘土塊がある。	Fig163
S K 1370	B3i0	N-51°-E	D I a	"	1.91×1.21	15	II	3'		(A)			
S K 1371	B3i5	N-63°-E	A I a	楕円形	1.74×1.16	14~17	II	1	1	N		ビットは攪乱によるものか。	Fig70
S K 1372	B3h5, i5	N-28°-E	D I b	長方形	1.66×1.11	50~56	II-III	1	2	N		覆土は軟質で南東に溝がある。	Fig119
S K 1373	B3i6	N- 1°-W	E I a	不定楕円形	1.28×1.08	23	II	3	1	(N)		ビットは本跡より新しい。	Fig135
S K 1374	B3i6		B I a	円形	1.14×1.01	42~46	I	1		N	△	覆土中に少量の焼土・カーボンを含む。	Fig88 PL504
S K 1375	B3i6, h6	N- 5°-W	A I a	楕円形	1.02×0.92	34~36	III	2	1	(A)		覆土はやや軟質である。	Fig70
S K 1376	B3i7, i6	N-41°-W	C I a	"	1.38×1.06	22~39	II	1		N	△		Fig94
S K 1377	B3i7		D II a	長方形	0.95×0.95	12	II	3		N		床の東側は攪乱を受けている。	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1378	B3i8	N-35°-E	A II a	楕円形	0.96×0.82	42~45	II	2		N		覆土はやや軟質である。	Fig81
S K 1379	B3i9		"	"	0.85×0.75	26~28	II	2		N		"	Fig81
S K 1380	B3i0, h0	N-73°-W	A I a	"	1.58×0.87	12	III	3'		(N)			
S K 1381	A3i9	N-18°-W	D I a	長方形	1.4 ×1.04	40	II	1		N		南壁にピットがみられる。	Fig112
S K 1382	B3h9, i9	N-30°-W	A II a	楕円形	0.69×0.54	14~22	II	1		N			Fig82
S K 1383	B3i8, i9		D I a	長方形	1.13×0.93	24	II	2		N			Fig112
S K 1384 A	B3j9, C3a9	N- 3°-E	D I b	長方形	1.65×1.1	68	I	1		N	} II期		Fig156
B	"	N-46°-E	A I a	楕円形	1.55×1.45	23	I	1		N			"
S K 1385	B3h8, i8	N-34°-W	B I a	"	1.04×0.64	43~50	I	1		(N)		覆土はやや軟質である。	Fig88
S K 1386	B4h1		D I b	隅丸長方形	1.6 ×1.3	52	I	1		(N)	II期		Fig119
S K 1387	B3g0, h0		A I a	楕円形	1.45×0.9	7~15	II	3		(N)			
S K 1388	B3h0, g0		A II a	円形	0.94×0.94	36~44	II	2	1	(A)		覆土はやや軟質である。	Fig82
S K 1389 A	B3g0		Z		(0.9)×0.6	5	II	1		N			PL505
B	"		A II a	楕円形	0.96×0.8	30	II	2		N			
B'	"		B II a	円形	0.75×0.66	33	I	1		N			
S K 1390	B3f0		E I a	不定形	1.33×0.76	12	II-III	1~2		N		床の東側の凹は新しいもの。	Fig135
S K 1391	B3f9		A II a	円形	0.83×0.83	8~15	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig82
S K 1392	B3f0, g0	N-57°-W	E I a	不定形	1.21×1.09	23	II	1	2	N		ピットは攪乱によるもの。	Fig135
S K 1393	B3g9	N-52°-W	"	"	1.58×0.67	3~19	II	3		N		床の北東は凹状をなす。	
S K 1394	B3g9, f9		D I a	方形状	1.2 ×1.16	13	II	1		(A)			
S K 1395	B3g9	N-45°-W	E I a	不定形	1.6 ×1.28	25	II	3		(A)	△		Fig135
S K 1396 A	B3h9, g9	N-14°-E	A I a	(楕円形)	1.02×1.05	5	II	1		N			PL506
B	"	N-14°-E	A I b	不定楕円形	1.1 ×1.05	15	II	1	1	N		覆土は軟質でピットは新しいもの。	
S K 1397	B3h9	N-57°-E	E I a	楕円形	1.16×0.7	12	II-III	1		(A)		覆土はやや軟質である。	
S K 1398	B3g9		A II a	楕円形	0.76×0.47	12~20	III	3		A		覆土はやや軟質である。	
S K 1399	B3h9	N-28°-E	D II a	長方形状	0.98×0.92	15	II	3	2	A			Fig121
S K 1400	B3g8	N-28°-E	A I a	楕円形	1.28×0.86	8~10	II	1	1	N			Fig70
S K 1401	B3i4	N-28°-W	D II a	長方形	0.90×0.7	35	II	2		N			Fig121
S K 1402	B3f8	N-35°-W	A I a	楕円形	1.3 ×1.0	20	II	2	1	(A)			Fig70
S K 1403	B3g8		D I b	隅丸方形	1.34×1.32	50	II	1		A		平面形はやや楕円形ともみられる。	Fig113
S K 1404	B3g8	N-67°-E	A I a	不定形	1.12×0.73	15	II	3	4	A			
S K 1405	B3g7, g8		A II a	円形	0.86×0.82	30~40	II	2	1	(A)		覆土は軟質でピットは新しい。	Fig82
S K 1406	B3h8		A I a	"	1.19×1.17	28~38	II	2		A		覆土は軟質である。	Fig70 PL507
S K 1407	B3h7, h8	N-47°-E	D I a	長方形状	1.27×0.8	30	I	1	2	A			PL508
S K 1409	B3h7		A I a	楕円形	1.07×0.91	21	II	3	1	(N)		ピットは本跡より新しい。	Fig70
S K 1410	B3j1, i1	N-25°-W	D II a	長方形状	1.14×0.72	30	II	1	2	N			Fig156
S K 1411	B3i1	N-86°-W	E I a	不定形	0.88×0.63	16	III	3	2	(A)		覆土下層は軟質である。	"
S K 1412	B3g7		D I a	隅丸長方形	1.09×0.99	41	II	1		(A)			Fig112
S K 1413	B3g6, h6	N-15°-W	B I a	楕円形	1.03×0.86	38~42	I	1		N			Fig88
S K 1414	B3g7, g6	N-78.5°-W	D I b	長方形状	1.23×0.83	64	I-II	1	1	(A)	△	SK1415Aを切り覆土は軟質である。	Fig166 PL509
S K 1415 A	B3g6, g7		D I a	方形状	1.57×1.63	32	II	1		N		SK1418と重複し同タイプである。	Fig166 PL509
B	"	N-81°-W (D I b)		長方形状	1.17×0.7	66~72	I-II	1	1	(A)		SK1414と同タイプで墓壇とも考えられる。	Fig166
S K 1416	B3f7	N-55°-W	D I a	隅丸長方形	1.25×0.79	5~20	II	2	2	(N)			

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ビット数				
S K 1417	B3f6, f7	N-0°-E	E I a	不定形	1.23×1.06	23	II	3		N			
S K 1418	B3f6, g6	N-83°-W	D I a	方形状	1.48×1.34	28	II	1		N	床中央に方形状の掘り込みがみられる。	Fig166	
S K 1419	B3f6	N-71°-E	A I a	楕円形	1.13×0.76	24	II	1		N	△	Fig70 PL510	
S K 1420	B3f6	N-71°-E	E I a	不定形	1.24×1.07	30	II	1		N		SK 1419と重複し床中央に攪乱がみられる。	Fig70 PL510
S K 1421	B3f6	N-60°-W	A I a	楕円形	1.18×0.78	9~18	II	2	1	N		Fig71	
S K 1422	B3e6	N-76°-W	D I a	長方形	1.35×0.98	18~20	II	1		N		Fig112	
S K 1423 A	B3f6, f5		A I a	円形	1.06×1.07	15	II	1		N		Fig167	
B	"	N-36°-E	D I a	長方形	1.38×1.31	10	II	1	2	N		SK1424Aと重複し本跡が新しい。	"
S K 1424 A	B3f5		E I a	不定形	(0.75)×1.16	25	II	3	1	N			
B	"		E III a	"	2.6×1.84	33	II	1		N			
B'	"		D I b	長方形	0.85×1.1	54	II	1		N			
S K 1425	B3g5, f5	N-56°-W	A I a	楕円形	1.08×0.94	20	II	2		N		Fig71	
S K 1426 A	B3g6	N-12°-W	D II a	方形	0.95×0.95	46	I	1		N		Fig163	
B	"		(D I a)	(長方形)	1.3×(0.51)	24	I	1		(N)		SK1369と重複し本跡が新しいか。	"
S K 1427	B3g5, h5	N-62°-W	E I a	不定長方形	1.16×0.94	50	I	1		(N)		覆土中に焼土ブロックがみられ遺物を少量含。	Fig135 PL511-512
S K 1428	B3h5	N-6°-E	A II a	楕円形	0.74×0.62	10~12	II	1		N		覆土は軟質である。	Fig82
S K 1429	B3h5	N-60°-W	(A I a)	"	1.26×0.18	30~36	II	1		N		北西肩部に段を有する。	Fig70
S K 1430	B3h5, h6	N-50°-E	E I a	不定形	1.36×1.2	31	I	1		N		Fig136 PL514	
S K 1431	B3h6		B I b	円形	1.22×1.12	66~68	I	1		N		Fig91	
S K 1432	B3h1	N-10°-W	D I a	長方形	1.55×1.47	25~30	II	1		N		西にSK1494(Tビット)が重複する。	"
S K 1433	C3g7	N-21°-W	A I a	楕円形	1.02×0.64	30~38	II	1	1			Fig71	
S K 1434	C3g7	N-41°-W	A I a	"	1.17×1.0	18~22	II	1	1			Fig70	
S K 1435	B3g1	N-16°-E	E I a	不定長方形	1.26×1.15	28	II	1		N		覆土は軟質で床の南に段を有する。	Fig135
S K 1436	B3g6		A II a	楕円形	0.88×0.58	27	II	2		(A)		SK1369と重複し本跡が新しい。	Fig163
S K 1437 A	B3f4	N-45°-W	E I a	不定形	1.05×0.63	10	II	1		N		Fig136	
B	"		A I a	円形	1.1×0.92	38	II	1		N		覆土は軟質で新旧は明瞭でない。	"
S K 1439	B3f4		B I b	"	1.07×1.06	68~70	I	1		N		Fig91	
S K 1440	B3e4, f4		H I b	"	1.42×1.3	54	IV	1		N		Fig175	
S K 1441	B3e4	N-88°-W	E II a	不定方形	0.83×0.56	12	II	3		N			
S K 1442	B3f4	N-88°-W	D I a	隅丸長方形	1.04×0.76	15	II	3		N			
S K 1443	B3f4	N-8°-	E I a	不定形	1.65×1.13	24~36	II	3		N		床の南はやや凹状をなす。	Fig136
S K 1444	B3f3	N-20°-W	A I a	楕円形	1.05×0.8	20~38	II	1	1	A		覆土は軟質であり新しいものが。	Fig71
S K 1445	B3f3	N-42°-W	"	長楕円形	1.45×0.94	32~34	I	1	2	(N)		Fig71	
S K 1446 A	B3f3, e3	N-28°-W	E I a	不定形	1.29×1.27	34~48	II	2		N		Fig172	
B	B3e3	N-21°-W	D I b	長方形	1.6×0.8	68	II	2		N		SK1447と重複するか時期差はそれほどでない。	"
S K 1447 A	B3e3, f3		E I a	不定形	(1.4)×1.06	18	II	1		(N)		"	
B	"		E III b	"	2.06×1.4	53	II	3	2	(N)		覆土は軟質でビットは本跡より新しい。	"
S K 1448	B3f2	N-0°-N	A III a	楕円形	1.7×1.09	12~22	II	3		N			
S K 1449	B3f2	N-88°-E	A III b	"	2.25×1.4	54~72	II	2		N		SK1448と重複する。	
S K 1450	B3f3	N-15°-W	A II a	"	0.99×0.78	13~15	II	1	1	N		ビットは本跡より新しい。	Fig82
S K 1451	B3e2, f2	N-6°-W	A I b	"	1.53×1.37	80	II	1		(A)		平面はやや長方形で覆土は軟質。	Fig86
S K 1452	B3e2, f2	N-11°-E	E I b	不定形	1.92×1.42	108	II	1		(N)		覆土はやや軟質である。	Fig138
S K 1453	B3f2		A II a	楕円形	1.58×0.88	10~18	II	3		N		2基の重複も考えられる。	Fig155

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況				時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数	覆土			
S K 1454	B3f1		D I b	長方形	1.8 × 1.26	90	II	1		N		覆土は軟質である。	Fig119
S K 1455	B2f0, f1		B I b	円形	1.52 × 1.51	84	II	1		(N)		"	Fig168
S K 1456 A	B3f1, f0	N-14°-E	D III a	長方形	2.47 × 1.53	29	I	1		N		"	Fig168
B	"		E I b	不定形	1.14 × 1.05	52	II	1		(N)		"	Fig168
S K 1457	B3d3	N-64°-W	A I b	楕円形	1.74 × 1.46	50~55	II	1	3	(N)		"	Fig75
S K 1458	B3e3	N-22°-E	D III a	長方形	1.64 × 1.48	36	II	1		N		床中央が凹状をなしている。	
S K 1459	B3e3, e4	N-49°-E	E III a	不定形	2.20 × 1.38	20	II	3		N			
S K 1460	B3e4	N-11°-E	A I a	楕円形	1.18 × 1.02	26~30	II	3		N			Fig71
S K 1461	B3e5, d5	N-26°-W	E III a	"	2.52 × 1.54	25	II	1		N		南に新しい掘り込みがみられる。	Fig144
S K 1462	B3d5	N-48°-E	E I a	不定楕円形	1.98 × 1.22	20	II	3		(N)		SK1464と重複している。	Fig115 (Fig136)
S K 1463	B3d5	N-0°-E	A II a	楕円形	0.93 × 0.89	10	II	1		(A)		床面に一括投棄されし土器が出土。	Fig82
S K 1464	B3d4, d5	N-32°-E	D I a	長方形	1.6 × 1.78	20	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig115
S K 1465	B3d4	N-62°-E	D I a	"	1.77 × 1.22	17	I	3	3	N		床中央の凹は本跡より新しい。	Fig113
S K 1466	B3d4	N-71°-E	A III a	長楕円形	2.4 × 1.37	22~26	I~II	2		N			
S K 1467	B3c4, d4	N-58°-E	E I a	不定形	1.98 × 0.93	18	II	3		N		床南西の凹は本跡より新しい。	Fig136
S K 1468	C3c5, d5	N-31°-W	E I a	"	1.14 × 1.06	26	II	3		(N)			
S K 1469	B3c4, c3	N-83°-E	E III a	"	2.1 × 1.08	32	II	3		N		攪乱が多くみられる。	
S K 1470	B3d3	N-65°-E	D I a	長方形	1.64 × 1.08	36~38	II~III	1	1	N			Fig114
S K 1471	B3c3, d3	N-50°-E	E III a	不定長方形	5.1 × 2.13	16	I	3	2	N		大部分攪乱をうけている。	Fig144
S K 1472	B3e2		(A I b)	長方形	1.62 × 1.44	70~81	I	2	2	A		SK1451と重複し覆土は軟質である。	Fig86
S K 1473	B3c3	N-70°-W	E I a	不定方形	1.39 × 0.92	25	II~III	1		N		北西に円形の土壌の重複がみられる。	Fig136
S K 1474	B3c4	N-62°-W	A I a	長楕円形	1.85 × 1.35	36~45	II	2		N		覆土は軟質である。	Fig71
S K 1475	B3c4, b4	N-61°-E	E I a	不定形	1.88 × 1.34	18	II	3	2	N		ピットは攪乱によるもの。	
S K 1476	B3a3, a4	N-10°-W	E III a	不定楕円形	2.82 × 1.26	14	I	1	3	N			Fig145
S K 1477	B3d3	N-30°-W	D III a	長方形	2.06 × 1.32	20	II	3	3	N			
S K 1478	B3a3, b3		D III a	不定長方形	2.04 × 1.96	47	II~III	3		(A)		覆土は軟質である。	
S K 1479	B3c4, c5	N-31°-W	D I a	長方形	1.76 × 1.5	44	II	1		N			
S K 1480 A	B2j4	N-64°-W	A I a	楕円形	1.98 × 1.5	20	II	1	1	N			Fig157
B	"	N-85°-E	A I b	"	1.9 × 1.36	52	II	2	2	(N)		覆土は軟質である。	"
S K 1482	B3e1, e2	N-77°-E	D I a	隅丸長方形	1.51 × 1.13	38	II	2		A		"	Fig113
S K 1483	B2d0, B3d1	N-62°-E	"	長方形	1.49 × 1.04	30	II	2		A		"	"
S K 1484 B	B3a2, a3	N-72°-E	E III a	不定形	3.54 × 1.44	30~48	II	1		N			Fig168
A	B3a3, b3		E I b	"	1.03 × 0.52	58	II	1		N			"
S K 1485	B3a3	N-45°-E	E III b	"	3.54 × 1.44	30~52	II	3	3	N		床中央にL字状の溝、その西は段状。	"
S K 1486	B3e1	N-29°-W	A I a	不定楕円形	1.76 × 1.13	14~23	II	2		(A)		覆土はやや軟質である。	Fig71
S K 1487	B3e1	N-10°-W	A I a	楕円形	1.20 × 0.74	36~42	II	1		A		"	Fig70
S K 1488	B2e0, e1	N-83°-W	E I a	不定形	1.69 × 0.8	20	II	1		N		SK1239と重複し本跡が古い。	
S K 1489	B2d0		D I b	長方形	1.38 × 1.08	95	I	1		N		SK1239と重複し本跡が新しい。	Fig144
S K 1490	B3d1, e1	N-35°-W	E I a	不定長方形	1.75 × 0.88	15	II	3	3	N		ピットは攪乱によるもの。	Fig136 PL513
S K 1491	B3d1	N-41°-W	D I b	長方形	1.18 × 0.93	60	I~II	2	1	(A)		覆土は軟質である。	Fig118
S K 1492	B3a2, b2	N-36°-W	D I b	長方形	1.25 × 1.2	72	II	1		N		SK1484と重複し本跡が新しい。	Fig168
S K 1493	B3d1	N-59°-W	A I a	楕円形	1.5 × 0.82	16~20	II	2	1	(N)		ピットは本跡より新しい。	Fig72
S K 1494	B3h1, g1	N-10°-W	G III b	長楕円形	2.77 × 0.44	68	IV	2	(1)	N		SK1348・1432と重複し本跡が新しい。	Fig174 PL515・516

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1495	B3e5, e6	N-0°-E	D III a	長方形	2.58×0.89	32	II	1	3	(N)	△	ピットは本跡より新しい。	Fig124
S K 1497	B3c7	N-74°-W	A I a	楕円形	1.18×1.23	11~12	II	1			N	北壁に溝状のものかみられる。	Fig71
S K 1498 A	B3d7	N-21°-W	D I b	長方形	1.11×1.08	53	II	1	1	A		覆土は軟質でピットは攪乱による。	
B	B3e6, d7	N-5°-E	D I a	長方形	1.98×1.54	30	II	1	2	A		"	
S K 1499 A	B3d7, c7	N-90°-W	D I a	"	1.88×1.32	23	II	1		(N)			
B	"	N-2°-E	"	"	1.62×1.48	33	II	1	3	(N)		ピットは攪乱によるもの。	
S K 1500	B1e9, d9		"	"	1.8×1.38	30	II	1		N	△		Fig113
S K 1501	B1d9, e9	N-80°-W	"	"	1.99×1.35	30~32	II	1		(A)	△		"
S K 1502	B1e9		"	隅丸長方形	1.67×1.35	24	II	1		N	△		"
S K 1503 A	B1d0	N-27°-W	"	長方形		30	II	1		N	△		Fig157
B	B1d0, e0		B I b	楕円形		81	II	1		(A)			"
S K 1504	B1e0, e9	N-73°-E	E III a	不定長方形	3.31×0.85	29	I-II	1		(N)	△		
S K 1505	B1e9, e0	N-73°-W	D III a	長方形	2.53×1.58	40	II	1		(N)	△		Fig146
S K 1506	B1d0	N-21°-W	E I a	不定長方形	1.92×1.32	25	II	1		(N)			Fig124
S K 1507	B1e0	N-37°-W	D I a	隅丸長方形	1.26×1.14	38	II	1		N			Fig136
S K 1508	B1f9, f0	N-70°-E	"	隅丸方形	1.91×1.78	30~36	I-II	1	2	N		ピットは本跡より新しく攪乱による。	Fig114
S K 1509	B1e0, f0	N-85°-E	E I a	不定長方形	1.99×1.29	40	II	1		N		床は僅かに南に傾斜し、覆土は軟質。	Fig113
S K 1510	B1f0, g0	N-40°-E	D III b	長方形	2.38×1.68	55	I-II	1		N		南東は段差を有し2基の重複か。	Fig99
S K 1511	B1f0, B2f1	N-6°-W	A I a	不定楕円形	1.82×1.03	45	II	1		N			
S K 1512	B1e0, B2e1	N-3°-E	E I a	(楕円形)	(1.2)×(1.2)	20	II	1		N		SK 1513と重複あるいは同一プランか。	
S K 1513	B1e0, B2e1	N-3°-E	E III a	不定長方形	(2.0)×1.64	25	II	1		N			
S K 1514	B2d1, e1	N-90°-W	A I a	楕円形	11.4×1.0	36	II	1		N	△		Fig71
S K 1515	B2d1, e1	N-86°-E	E III a	不定形	2.22×1.53	32	I-II	1		(N)			Fig145
S K 1516	B1d0, e0	N-65°-E	A I a	長楕円形	1.75×0.95	21~26	II	1		N			Fig71
S K 1517	B2i5		A I a	楕円形	1.9×(2.0)	43	II	1		N		埋設土器が覆土上層にみられる。	" PL518
S K 1518	B2i5		Z			50~56	I	1		N		SX0041によって切られている。	
S K 1519	B2i5		Z		1.0×(1.0)	51	I	1		N		"	
S K 1520	B2h5		(A I a)	楕円形	1.3×(1.3)	26	I-II	1		N	△	"	
S K 1521	B2i4, h4		E III a	不定長方形	2.04×0.16	20	II	1		N	△	覆土上層に少量の貝を含む。	Fig145
S K 1522	A2h8		J		0.51×1.45						△	底部のみである。	
S K 1523	A2e9	N-11°-E	A I a	楕円形	1.49×1.3	30	II	1		N			Fig71
S K 1524	A2j7	N-49°-E	D III a	隅丸長方形	2.3×1.55	45	I-II	1	2	N			Fig124
S K 1550	B3d5	N-22°-W	E III a	不定長方形	2.47×0.1	25	II	1		N	△	床中央南に新しい攪乱がある。	Fig145
S K 1551	B3d6	N-82°-W	E I a	不定台形	1.71×1.91	20	II	1		N			
S K 1552 A	B3c6, d6	N-58°-W	E III a	不定長方形	2.4×1.9	34	II-III	1	1	N	△		Fig157
B	"		A I a	楕円形	1.16×1.04	43	I-II	1					"
S K 1553	B3b6, c6		(E III b)	隅丸長方形	2.18×1.36	50	II	2	4	N		ピットは攪乱によるものか。	Fig146
S K 1554	A3i2		D I a	長方形	1.9×1.37	26~30	II	1	1	N		ピットは本跡よりやや新しい。	Fig114
S K 1555	A3i3, i2	N-20°-W	"	長方形	1.82×1.17	35	II	2	1	(A)	△		
S K 1556	A3h2, h3	N-42°-W	D III a	長方形	2.27×1.26	30	II	1		N	△		Fig124
S K 1557	A3h3		"	隅丸長方形	2.7×(1.5)	18~23	II	1	2	N	△	ピットは本跡より新しい。	
S K 1558	A3h1, h2		A III a	不定楕円形	2.22×1.7	25~28	II	1		N	△	中央部が凹状をなしている。	
S K 1559	B3b2		J		0.54×0.31		II	2			△	北西向きに埋設され口縁部欠損。	

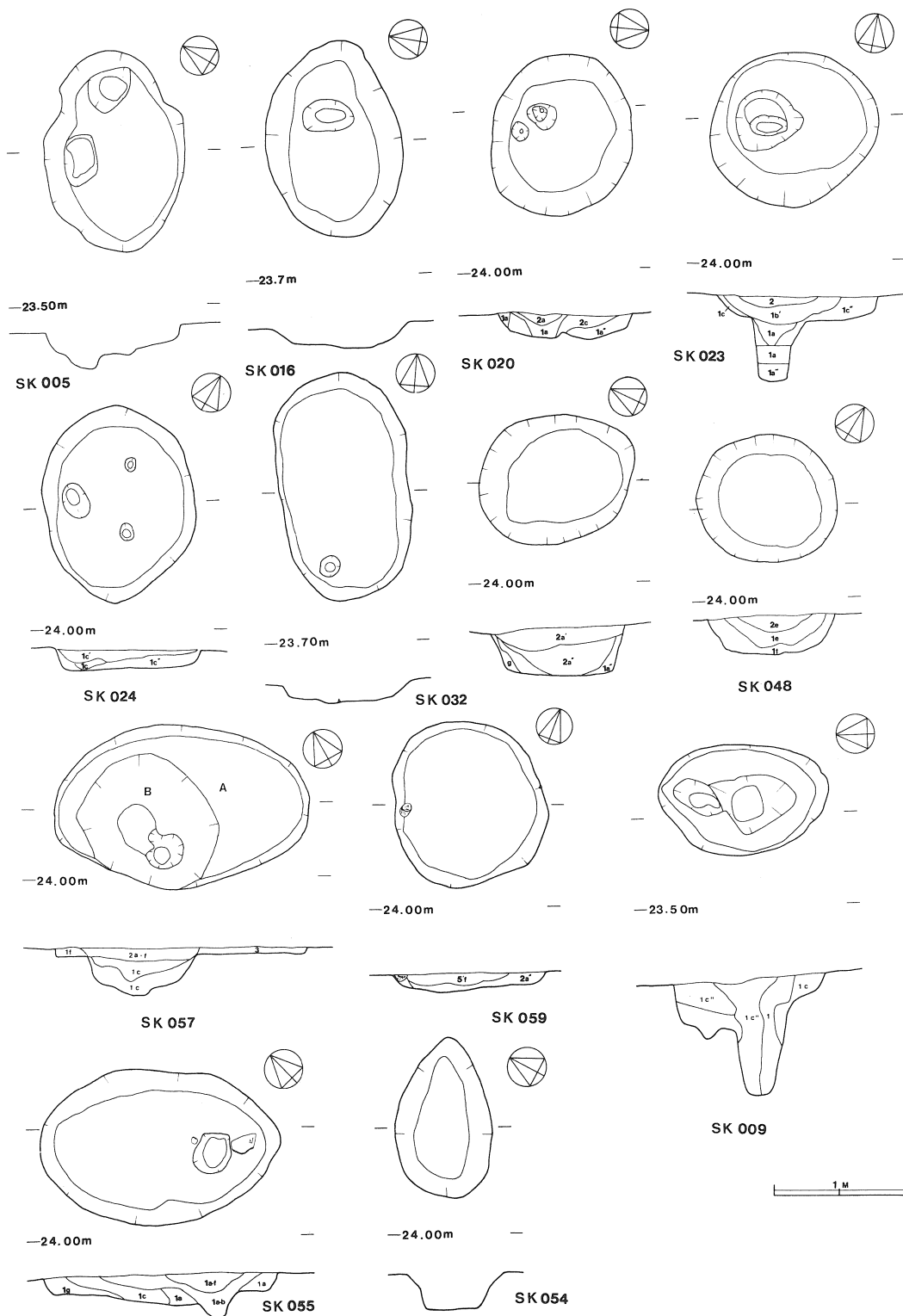
遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1560 A	A3j2		(D I b)	長方形状	(0.65)×1.4	60	II	2	N			Fig157 PL517	
B	A3j2, i2	(N-48°-E)	B I b	楕円形	1.25×1.2	100	I	1	N			"	
S K 1562	A3j2		B II b	円形	0.8 × 0.76	71	I~II	1	N			覆土はやや軟質である。	
S K 1563	A3j3	N-27°-W	D I a	隅丸長方形	1.22×1.08	30	I	1	1	N			
S K 1564 A	B3a5, d5 b	N-48°-W	D I b (H)	長方形	1.42×1.23	61	II	2	N			東壁は内わんし、南西肩に段を有する。	Fig158
B	" b	N-73°-W	A I b	楕円形	1.03×0.88	88	II	2	N			覆土はやや軟質である。	"
S K 1565	A3i3	N-15°-E	B I b	"	1.89×1.26	76~80	I	1	N	△		覆土中に土器と凹石が出土。	Fig91
S K 1566	B3a6, a5		E I a	不定楕円形	1.55×0.93	(35)	II~III	3	(A)			SI008に重複し、本跡が新しい。	Fig137
S K 1567	A3h3, h2		A II a	楕円形	0.8 × 0.7	(38)	II~III	3	N			SK1557と重複し本跡が新しいか。	
S K 1568	A3j3	N-30°-E	D I b	長方形状	1.4 × 1.17	64	II	1	N	△		SI084の南東壁と重複し本跡が新しい。	
S K 1569	A3i3		D I a	隅丸長方形	1.13×1.06	30	I	1	N			SI084の東壁に重複し本跡が新しい。	
S K 1570 A	B3b1, c1		E I a	楕円形	2.3 × 1.86	27	II	1	N			覆土はやや軟質である。	Fig99
B	B3b1		B I b	"	1.34×1.5	102	II	1	(A)			形態的にはC1bか。	"
S K 1571	B3a1, b1	N-31°-W	E III a	不定形	2.4 × 1.23	16	II~III	3	7	N		ピットは大部分攪乱によるもの。	
S K 1572	B3a1	N-12°-E	A III a	長楕円形	2.15×1.24	10	II	1	N				
S K 1573	"	N-44°-W	A I a	"	1.7 × 1.04	17	II	1	2	N		ピットは本跡より新しい。	Fig82
S K 1574	"	N-56°-E	"	楕円形	1.14×0.83	20	II	3	N				
S K 1575	A3j2, B3a2	N-82°-W	A III a	不定楕円形	2.05×1.27	23	II	1	N	△			
S K 1576	A3j1, B3a1	N-22°-E	E III a	不定形	2.08×0.83	12	II	1	1	N		床の中央は攪乱をうけている。	Fig145
S K 1577	A3i2	N-18°-W	D I a	不定方形	1.72×1.52	15~20	II	1	N				Fig114
S K 1578	A3i2	N-60°-W	A I a	楕円形	1.84×1.06	27~30	II	1	1	N			Fig71
S K 1579	A3i1	N-51°-W	"	"	1.45×1.0	20~22	II	1	2	N		ピットは本跡より新しい。	Fig71
S K 1580	A3h1	N-63°-W	B I a	"	1.7 × 1.1	28~30	II	1	N	△		やや南東向きに埋設されている。	Fig88 PL529
S K 1581	A3g3		J		0.5 × 0.44		II	1		II期			Fig190
S K 1582	A3g1, g2	N-47°-E	D I a	長方形	1.38×0.84	18~20	II	1	N			土器は本跡より新しい。	Fig114 PL530
S K 1583 A	A3h1	N-40°-W	D I b	"	1.4 × 1.23	44~68	II	1	N	△			Fig164
B	A2h0	N-78°-W	(A II a)	長方形状	0.86×0.64	26	II	1	1	N		SK1589と重複する。	"
S K 1584	A3f1, e1		E III a	不定三角形	2.25×2.1	36	II	1	(N)	III期			Fig165
S K 1585	A3f1		A I b	楕円形	1.58×1.32	56	II	2	N	△		SK1584と重複し本跡が古い。	Fig165
S K 1586	A3h3		J		0.40×0.36		II	2				南西を向き斜めに埋設、底部欠損。	Fig190
S K 1587	A2f9		J		0.34×0.34		I~II	2		III期		口縁部・底部は欠損する。	Fig190 PL531
S K 1589	A2h0		Z		1.38×(1.2)		II~III	1	2	N	△	平面はやや長方形状でピットは新しい。	Fig164
S K 1590 A	A3h2	N-56°-E	A I b	長方形状	1.45×1.11	64	II	1	2	N	△		
B	"	N-16°-W	D I a	長方形	1.6 × 1.3	41	II	2	N			覆土はやや軟質で床は段状をなす。	
S K 1591	B3a3, a2	N-70°-E	A I a	楕円形	1.56×0.78	20~30	II	2	N			東壁は垂直だが他は内れんきみ。	
S K 1592	A3h2	N-67°-E	C I b	楕円形 (長方形)	1.7 ₀ ×1.45 1.83 ₀ ×1.56	128	I IV	1	N	I期			
S K 1593	A3h2		(E I a)	不定形	1.79×0.95	32~46	II	1	N	△		SK1592と重複し本跡が古い。	
S K 1594	A3h3	N-67°-W	A I a	楕円形	1.65×0.91	25~29	II	3	4	N		ピットは本跡よりやや新しい。	Fig71
S K 1597	A3f1, g1		A II a	不定楕円形	0.93×0.8	18~22	I~II	3	(A)			覆土はやや軟質である。	13
S K 1599	A3h3, h4	N-37°-E	E I a	長方形状	1.94×1.53	40	II	3	N	△		SK1594と重複する。	Fig137
S K 1600			A I a	長楕円形	1.7 × 1.2	20~28	II~III	3	N				72
S K 1601	A2i0	N-60°-W	A I a	楕円形	1.78×1.24	18	II	1	1	N	△		Fig72
S K 1602	A2i0, i9	N-14°-W	D III a	隅丸長方形	2.2 × 1.86	21	II	3	4	N	△	中央部に攪乱がみられる。	Fig125

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ビット数				
S K 1603	A2g0, A3g1	N-27°-E	D I b	長方形	1.52×1.15	83~103	II	1		N	△	SK1589と重複し本跡の方が新しい。	Fig164 PL532
S K 1604	A2h0, g0	N-53°-E	A I a	楕円形	1.45×1.33	32	II	1	2	N		SK1589と重複しビットは新しい。	Fig164
S K 1605 A	A2h0	N-33°-E	D I a	長方形形状	(1.5)×1.1	28	II	1		N			"
B	"	N-10°-W	E I a	不定長方形	(1.0)×0.88	14~30	III	3	2	N		覆土中に多くの土器がみられる。	"
S K 1606	A2j8, j9	N-89°-E	D I b	隅丸長方形	1.48×0.97	54	II	1		N	△		Fig118
S K 1607	A2j9		A II a	円形	0.65×0.58	16~17	II	1		N		覆土は軟質である。	Fig82
S K 1608	A2j8	N-41°-E	E I a	楕円形	1.33×0.98	20	II	1		N		2基の土塊の重複と思われる。	Fig137
S K 1609 A	A2j8		A I a	"	(1.2)×1.15	15	II	1	1	N			Fig157
B	"		D I a	長方形形状	1.33×1.22	40	II	1		N			
S K 1610 A	A2j7, j8	N-34°-E	D III a	長方形	(1.27)×1.3	28	II	1	3	N	△		Fig172
B	A2j7		E I b	不定形	(1.95)×1.56	74	II	2		N		SK1641・1642・SI099と重複。	"
S K 1611	A2i9	N-28°-E	D I a	長方形	1.14×0.53	5	III	3	2	N		ビットは攪乱によるもの。	
S K 1612	A2i9	N-37°-E	E I a	不定長方形	1.63×1.04	17	II	2	3	(N)			Fig137
S K 1613 A	A2j9	N-7°-W	E I a	不定形	1.26×0.68	4	II	1		N			
B	"		D I a	長方形形状	1.8×1.38	25	II-III	1	4	N			
S K 1614	A2j9, j0	N-50°-E	E III a	不定形	2.8×1.2	21	II	1	6	N	△	ビットは本跡より新しい。	
S K 1615	B2c4		A II a	円形	0.97×0.9	23~24	II	1		N			Fig82
S K 1616	B2b4, c4	N-31°-E	A I a	楕円形	1.05×0.83	20~40	II	1	1	N	△		Fig72
S K 1618	B3b5		A I a	円形	1.14×1.02	14~18	II	1		N			"
S K 1619	B2b6	N-11°-E	C I b	隅丸長方形	1.48×1.06	22	I-II	1		N		床中央に楕円形の凹がある。	Fig96 PL533
S K 1620	B2c6	N-72°-W	D I a	長方形	1.72×1.02	30	II	1		N			Fig114
S K 1621	B2c6	N-15°-W	E I a	不定形	1.52×1.18	30	II	1		(A)	△		Fig137
S K 1622	B2b5, c6	N-66°-W	C I a	不定楕円形	2.18×1.62	45	II-III	1	3	N	I期	南は段状をなし3ヶ所のビットあり。	Fig94
S K 1623 A	B2c5	N-20°-W	D I a	長方形形状	(2.2)×1.5	25	II	1		N			Fig99 PL519-520
B	B2c5		B I a	円形	1.4×1.3	44	I-II	1		N		覆土中に多くの土器片と石棒1が出土。	Fig99 "
S K 1624 A	B2b5	N-71°-W	D III a	長方形形状	3.0×2.6	34	II	1	2	N	III期	覆土中に多くの土器片が出土。	Fig164 PL521
B	"		C I b	楕円形	(1.2)×1.28	74	I-II	1		N		SI108の北西に位置し、覆土中に遺物多。	Fig164 "
S K 1625	B2b4, b5		B I b	"	1.34×1.22	90	II	1		N	II期		Fig176
S K 1626	"		E III a	不定方形	2.08×0.87	21	II	1	1	N	△		
S K 1627	B2b6	N-0°-E	D I a	長方形形状	1.98×1.24	25~27	II	1	1	N	△		Fig114
S K 1628	A3i1	N-62°-E	D I a	長方形	1.14×0.86	13	II	1	3	N	△		Fig114
S K 1629	A3i1	N-86°-W	A I a	楕円形	1.22×0.66	10~20	II	1	2	N			Fig72
S K 1630	A3j1	N-44°-E	A II a	"	0.88×0.68	10~15	II	3		N	△	ビットは本跡より新しい。	Fig82
S K 1631	A2j0, A3j1	N-46°-E	D II a	長方形	0.85×0.66	32	II	3	2	N	△	"	Fig121
S K 1632	A2j0	N-44°-E	D I a	"	1.35×1.06	20	II	1	3	N			Fig114
S K 1633	A2i0	N-75°-E	D II b	"	0.9×0.72	56~75	I	1		N			
S K 1634	A3i1	N-37°-W	E I a	"	1.3×0.8	27	II	1	3	A		覆土は軟質でビットは本跡より新しい。	
S K 1635	B2c6	N-13°-E	A I a	"	1.13×0.83	20~24	II	2	2	(N)		"	Fig72
S K 1636	B2d6	N-30°-E	"	"	1.53×1.03	20~21	I-II	1	1	N		ビットは本跡よりやや新しい。	"
S K 1637	A2i9	N-78°-E	A III a	長楕円形	3.12×1.63	9~14	II	1	3	N	△	ビットは新しい攪乱によるものか。	
S K 1638	A2i8	N-70°-W	A I a	楕円形	1.22×0.9	10	II	1		N			Fig72
S K 1639	A2i8	N-35°-W	E I a	不定長方形	1.98×1.3	18~20	I	1	3	(N)	△		Fig137
S K 1640	A2i7, i8	N-2°-E	D III b	長方形	2.0×1.7	83	I-II	2		A		覆土は軟質でロームブロックを含む。	

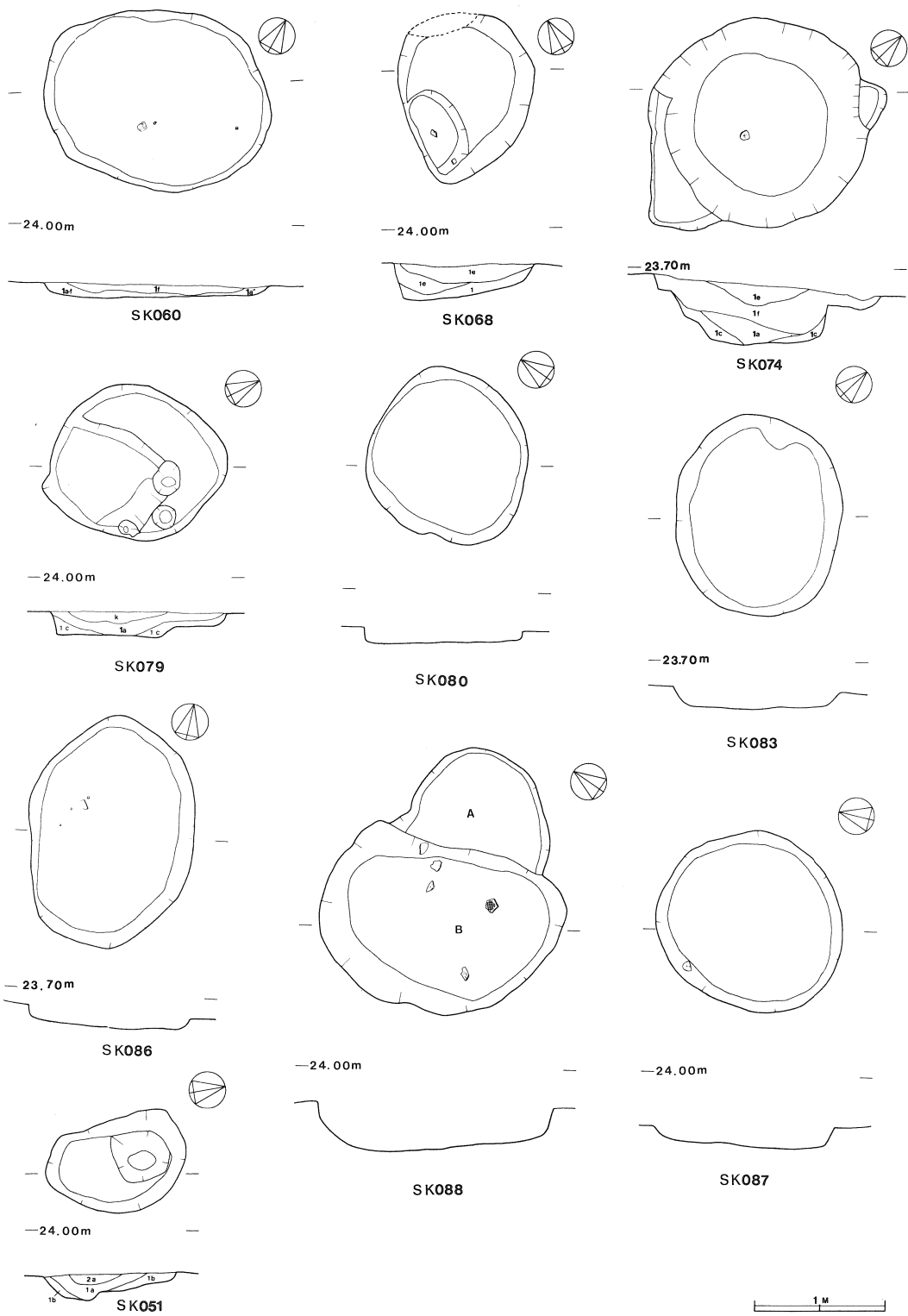
遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1641	A2j7	N-90°-E	A I b	楕円形	(1.5)×1.7	120	II	2		N	Ⅲ期	SK1610・1643と重複しS1099を破壊。	Fig172
S K 1642	A2j7	N-14°-E	E I a	不定形	(1.3)×1.22	20	II	1	1	N	Ⅲ期	S1099の炉跡が残存している。	"
S K 1643 A	A2j6	N-4°-E	E III a	"	2.65×1.98	37	III	1	N'	N	Ⅲ期	遺物は覆土中に多くみられる。	Fig158
B	"		C I b	"	1.6 × $\frac{1.08}{1.43}$	50	I	1.3	N	N		南側の肩部に多くみられる。	"
S K 1644	A2j6	N-23°-E	A II a	不定楕円形	1.05×0.87	13~18	II	1	N	N			Fig82
S K 1645	B3a5	N-73°-E	E I a	不定形	1.04×0.68	17	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	
S K 1646	B3a5		D I a	隅丸方形	1.3 × 0.9	12	I	2	1	N		ピットは本跡より新しい攪乱か。	Fig115
S K 1647	B3a5	N-78°-E	(A I a)	楕円形状	1.32×1.22	12	I~II	2	1	N		"	Fig176
S K 1648	B3a6		Z		(1.0)×(0.7)	(24)				N	N		
S K 1649	A2i7	N-36°-W	E I b	不定形	1.8 × 1.4	44	II	3	1	(A)			Fig138
S K 1650	A2g0		A I a	円形	1.75×1.66	28~45	II	1	N	N			Fig72
S K 1651	A2f9, g0	N-20°-W	D I a	隅丸長方形	1.73×1.4	45	II	1	8	N			Fig115
S K 1653	A2f9, g0	N-47°-W	E III a	不定長方形	2.14×1.3	18	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig145
S K 1654	A2e8, f8	N-30°-W	A I b	楕円形	1.14×1.0	40~64	II~III	(2)	(N)	(N)		覆土は軟質である。	Fig75
S K 1655	A2f8	N-31°-W	B I b	"	1.54×1.28	97	I	1	N	N		SK1656と重複し本跡が古い。	Fig158 PL522
S K 1656	A2f7, f8		B III b	円形	2.0 × 1.96	57	I~II	1	N	N		覆土はやや軟質である。	Fig158
S K 1657	A2f7	N-41°-W	A II b	楕円形	0.94×0.77	56~70	II	1	(A)	(A)		"	Fig86
S K 1658	A2g7, g6	N-58°-W	A I a	"	1.36×1.32	25~41	II	1	1	N			Fig72
S K 1659	A2g7		D I a	隅丸方形	1.48×1.45	30	II	1		N			Fig115
S K 1660	A2h8, g8	N-27°-E	A III a	長楕円形	3.02×1.66	32~37	II	1	4	N		東壁にSI105の炉が見られる。	
S K 1662	A2h8	N-8°-E	A I a	楕円形	1.58×1.14	23~25	II	1	2	N		SK1663と重複しピットはSI110か。	Fig72
S K 1663	A2h8	N-45°-W	A I a	"	1.12×1.05	22~26	II	1	1	N			"
S K 1664 A	A2i7, i8	N-72°-E	E III a	不定形	2.1 × 1.48	22	II	1		N		SK1665と重複し本跡の方が古い。	Fig158
B	A2i8	N-80°-E	B I b	楕円形	1.34×0.92	30	I	1		N			"
S K 1665	A2h7	N-38°-W	E I a	不定楕円形	1.2 × 0.83	38	II	1	3	N		SK1664と重複し本跡が新しい。	Fig158
S K 1666	A2h7		Z(E I a)	不定形	2.0 × 1.8	20	II	1	1	N		覆土中に分銅型石斧、ピットは新しい。	Fig166
S K 1667	A2h7		(D I a)	長方形形状	1.52×1.94	15	II	1	2	N		ピットはSI104・109の柱穴か。	"
S K 1669 A	A2g6, h6		A I a	楕円形	1.22×(1.04)	14	II	1		N			
B	A2g7, h7		B II b	"	0.82×0.63	44	I	1		N			
S K 1671 A	A2h6		Z		(1.2)×0.28	(20)	II	1		N			Fig97
B	"	N-50°-W	C I b	楕円形	1.18×0.54		I	1		N		北壁にSI098の炉がみられる。	Fig97
S K 1672	A2h6	N-60°-E	E I b	不定形	1.39×1.2	46	II	1	2	N		ピットは本跡よりやや新しい。	Fig139
S K 1673	A2h6	N-59°-E	D I a	長方形形状	1.35×0.99	22~39	I~II	1		N			
S K 1674	A2i6, j6	N-48°-W	A I b	不定楕円形	1.15×0.86	60~76	II	2	1	(N)		覆土の上層は軟質で南のピットはSI097。	Fig75
S K 1675	A2i8	N-31°-E	A I a	楕円形	1.13×0.81	28~30	II	3		N			Fig72 PL524
S K 1676	A2h9, h0	N-6°-	E III a	不定形	4.0 × 2.3	29	II	3	6	N		攪乱がみられる。	Fig164
S K 1677	A2h7, h8		(B I b)	(楕円形)	1.52×0.93	40~78	I	1	1	(A)		SK1666・1667と重複し本跡が新しい。	Fig166
S K 1678	A2g8	N-29°-E	D I a	長方形形状	1.62×0.99	38	II~III	1	1	N		SK1660と重複する。	"
S K 1679	A2j7	N-30°-E	A II a	楕円形	0.88×0.58	12~22	I	1	1	N			Fig82 PL525
S K 1680	A2j5	N-55°-W	A I a	長方形形状	1.2 × 0.61	20~22	II	1		N			Fig72
S K 1681	A2i6, i5	N-71°-W	E III a	不定長方形	2.55×1.57	21	II	1		A		覆土はやや軟質で新しい。	Fig146
S K 1682	A2i4, j4	N-28°-W	E I b	"	1.86×0.95	60	I~II	2	1	(N)	△		Fig138
S K 1683	A2i6, i7	N-84°-E	D III a	長方形	3.58×1.66	32	I	1	3	(A)	△	S K 1684と重複し本跡が新しい。	Fig165

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1684	A2i7		B I b	円形	1.4 × 1.4	70	I	1		(N)			Fig165
S K 1688	A2h6		A I a	円形	1.07 × 1.01	20~22	II	1		N	△		Fig72
S K 1689	A2h6	N-42°-W	"	楕円形	1.07 × 1.0	20~22	II	1		N			"
S K 1691	B2a4	N-51°-W	D I a	長方形	1.45 × 1.0	22~26	II	1		N			Fig115
S K 1692	B2b4		A II a	楕円形	0.8 × 0.76	15~28	III	(2)		A		覆土はやや軟質で新しい。	Fig82
S K 1693	B2b4	N-43°-E	D I a	長方形	1.37 × 1.0	42	I-II	3		A			PL526
S K 1694	B2a4, b4	N-72°-E	A I a	楕円形	1.25 × 0.97	18~20	II	1		(N)		覆土はやや軟質である。	Fig73
S K 1695	B2a3, a4		"	"	1.54 × 1.24	38~42	III	3		A		覆土はやや軟質で新しい。	"
S K 1696	A2j4, B2a4	N-46°-E	E I a	不定方形	1.58 × 1.17	18	I-II	2		N			Fig137
S K 1697	B2a3, A2j3	N-48°-E	A I b	楕円形	1.42 × 1.23	52~54	II	1		N	△		Fig75
S K 1698	B2c2	N-26°-W	E I a	不定形	1.4 × 1.01	20	II	1		N	△	南東部に焼土・カーボンがみられる。	
S K 1699	B2b3, c3	N-24°-W	A I a	楕円形	1.75 × 1.38	22~28	I-II	2		(N)		覆土はやや軟質である。	Fig73 PL527
S K 1700	B2a2	N-40°-E	E III a	不定形	2.14 × 1.25	35	II	1		(N)		大部分は攪乱をうけている。	PL528
S K 1701	B5c7, c8	N-85°-W	D III a	長方形	2.25 × 1.92	35	I	1		N	△		Fig125
S K 1702	B5c8	N-3°-W	"	隅丸長方形	3.6 × 2.47	36	II	1		(N)		北壁に段差を有し覆土は軟質。	
S K 1703	B5c9, d9	N-18°-W	E III a	不定形	4.28 × 2.5	28	I	1		N			
S K 1704	B5f8, f7	N-41°-W	"	"	2.65 × 2.3	12	II	1		(N)		覆土は軟質である。	
S K 1705	B5g8, g7	N-7°-W	A III a	不定楕円形	3.9 × 2.67	16~20	II	1		(N)	△	"	
S K 1706	B5g9, g8	N-31°-E	E III a	不定長方形	2.76 × 1.13	37	II	1		N		"	Fig146
S K 1707	C5a9	N-88°-W	D III b	長方形	2.92 × 2.55	42	II	1	3	N	△		
S K 1708	B5h8, g8	N-29°-E	E III a	不定楕円形	3.1 × 1.3	32	II	1		N		ピットは攪乱によるものか。	
S K 1709	B5f8	N-89°-E	A I b	長方形	1.88 × 1.1	50~70	II	2		A			Fig86
S K 1710	B5i9		B I b	不定楕円形	1.72 × 1.41	87	I	1		A		覆土は軟質でロームブロックを含む。	PL535
S K 1711 A	C5e9, c0		E III a	"	3.8 × 1.44	9	I	1		N			
B	C5e9	N-61°-W	B I b	楕円形	1.61 × 1.3	116	II	2		(A)		覆土は軟質である。	
S K 1712	C5b9, b8	N-15°-E	E III b	不定形	2.21 × 1.85	80	II	1		N	△	2基の土壌の重複が考えられる。	PL535
S K 1713	B5e7, e8	N-11°-E	a I a	長方形	1.44 × 1.2	20~28	II	1		N			Fig73
S K 1714	B5e7	N-73°-E	A I b	楕円形	1.46 × 1.1	55~60	II	2		(A)		覆土は軟質である。	Fig86
S K 1715	B5e7, d7	N-90°-E	A I b	"	1.45 × 1.23	63~65	II	2		(N)	△	"	
S K 1716	B5e7	N-31°-E	D I a	長方形	1.38 × 0.74	17	II	1	1	(N)		"	Fig115
S K 1717	B5h7, i7	N-25°-E	E I a	不定長方形	1.74 × 1.56		II	1		A		北西壁の肩部は凹凸状をなす。	
S K 1719	B5c9	N-0°-E	D I b	長方形	1.3 × 1.18	57	II	1		N		SK1703と重複し本跡が新しい。	
S K 1720	B5c0, c9	N-90°-E	B I b	楕円形	1.15 × 1.05	78	II	1		(N)		"	
S K 1722	A2i6	N-42°-E	A I a	"	1.07 × 1.0	20~22	II-III	3	3	N			Fig73
S K 1723	B2a5		"	円形	1.09 × 1.03	20~26	II	1		N			"
S K 1724	A2j6, B2a6	N-15°-W	D I a	長方形	12.8 × 1.0	30	II	1		N			Fig115
S K 1725	A2i7, j7	N-56°-E	A I a	楕円形	1.16 × 0.575	20	II	3		N			Fig73
S K 1727	B2a6		E I a	不定長方形	(1.12) × 0.6	30~40	I		2	N		S K 1731と重複し本跡が新しい。	
S K 1728	C2c7	N-72°-E	A I a	楕円形	1.1 × 0.8	30~32	II	1		N			Fig73
S K 1729	A3f2, g2	N-27°-E	E I a	不定形	1.64 × 1.21	40	II	1	2	N			Fig137
S K 1730	A3g2, h2	N-15°-E	A I a	楕円形	1.19 × 1.04	20~21	II	1	1	N		覆土はやや軟質である。	Fig73
S K 1731	A2j6, B2a6		B I a	"	1.3 × (1.38)	40~44	II	1		N		SK1727と重複し、床面に小型スプーン出土。	Fig88 PL536
S K 1733	B2h4		A I a	"	1.13 × 0.93	33~41	III	2		N			Fig73

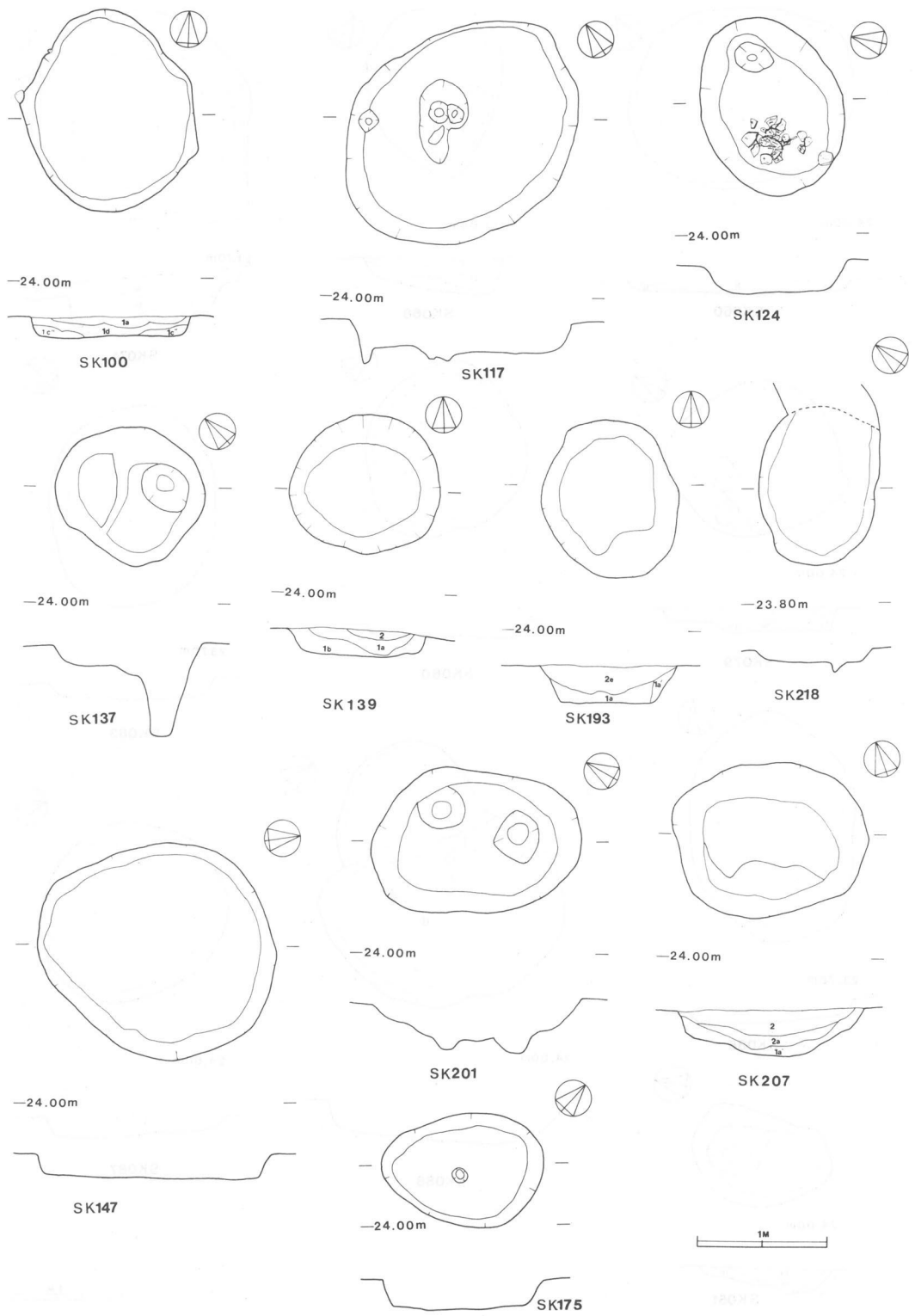
遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			覆土	時期	備考	関連図版
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床	ピット数				
S K 1734	B2h4	N-25°-W	A I a	楕円形	1.22×1.2	16~35	II	1	1	N		覆土上層に焼土灰が少量みられる。	Fig73
S K 1737	B2h4		A II a	円形	0.52×0.5	20~22	II	1		N			Fig82
S K 1738	B2h4, h3		Z		3.9×1.2	14~18	II	1	1	N		SX004と重複し、ピットは本跡より新。	
S K 1739 A	B2i3, i4	N-42°-E	A III a	楕円形	1.86×1.6		II	1		N		"	
B	"		Z		2.43×		II	1		N		"	
S K 1741	B2h2	N-65°-W	A I a	楕円形	1.02×0.91	24~26	II	1		N		覆土中に少量の貝がみられる。	Fig73
S K 1742	B2h4, h5		A II a	"	0.8×0.5	18~23	II	1		N			Fig82
S K 1743	B2h5		B I b	円形	1.7×1.15	84~86	I	1		N			Fig91
S K 1744			A I a	楕円形	1.56×1.0	10~22	II	1		N		床中央に円形の掘り込みがみられる。	
S K 1746	B2e5	N-90°-E	D III a	長方形	0.24×	15	II	1	1	N		SK1283・1282と重複する。	Fig125
S K 1747	A2h7, i7	N-85°-W	E I a	不定形	1.45×0.84	16~31	II	2	2	N		部分的に攪乱がみられる。	Fig137
S K 1748	A3g2, g3		D I a	長方形	1.32×1.12	22	I	2		N		遺物は床面に少量出土。	Fig115
S K 1749 A	B2b4		E I a	楕円形	(0.66)×0.95	32	II	1		N			Fig157
B	B2b3, b4	N-53°-E	D I b	長方形	1.33×(1.2)	55	II	1	2	N		ピットは本跡より新しい。	"
S K 1751	A2g8, g9		A II a	楕円形	0.9×0.74	25	II	1		N			
S K 1752	A2g9		A II a	"	0.78×0.67	45	III	1	1	N			
S K 1753	C2a5		J		0.41×0.32							西向きで、傾斜して埋設底部欠。	Fig190 PL537
S K 1755	C1j5	N-76°-W	E III a	不定形	2.56×1.97	16	II	1		N			Fig158
S K 1756	"		E I a	不定楕円形	1.2×0.97	45	II	1		N		SK1755と重複し本跡が新しい。	"
S K 1757	"		E II a	"	0.95×0.85	19	II	1		N		"	"
S K 1758	B2g4		A II a	円形	0.7×0.63	17~22	II	1		(A)			Fig82



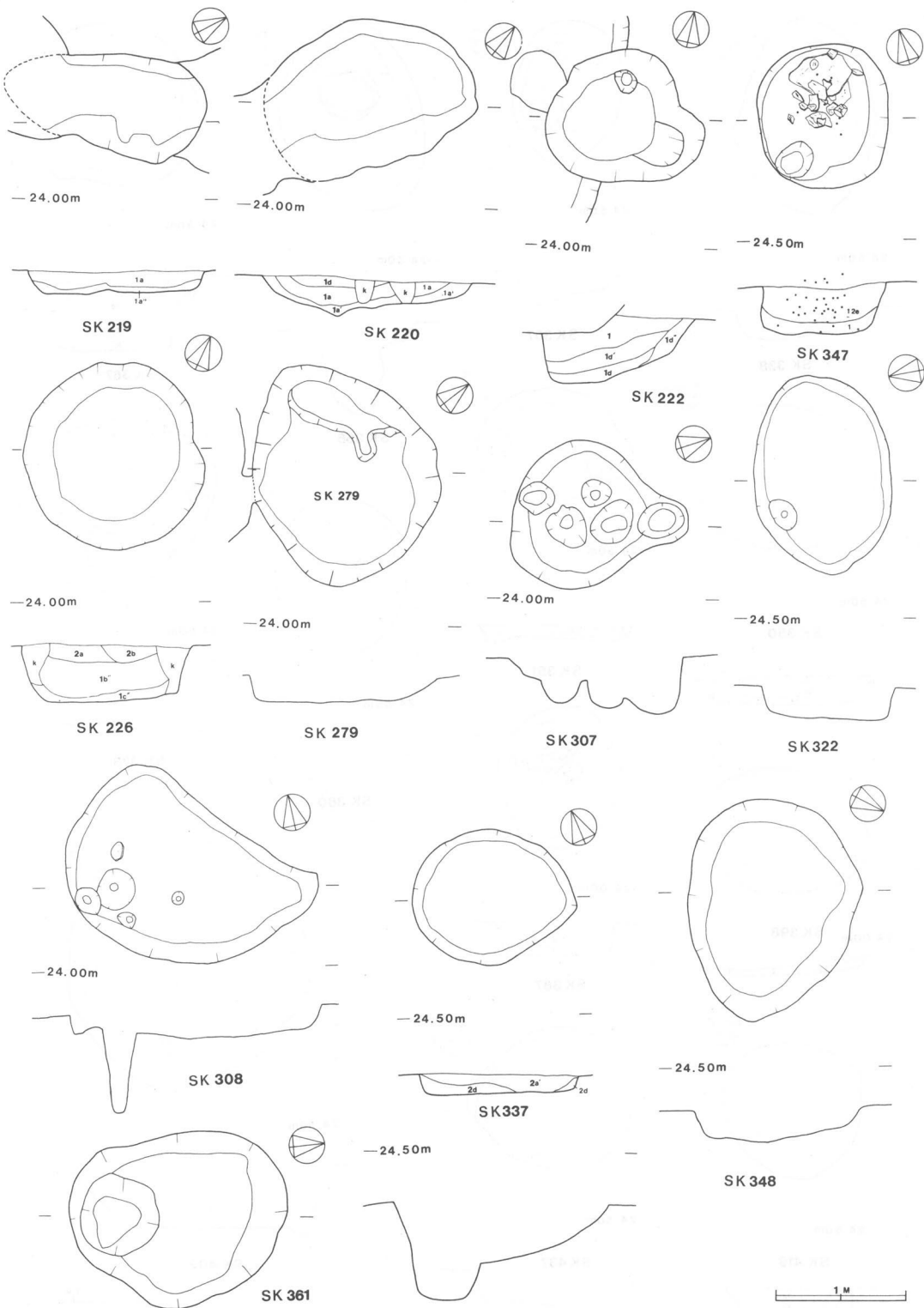
第56图 土壤实测图(1)



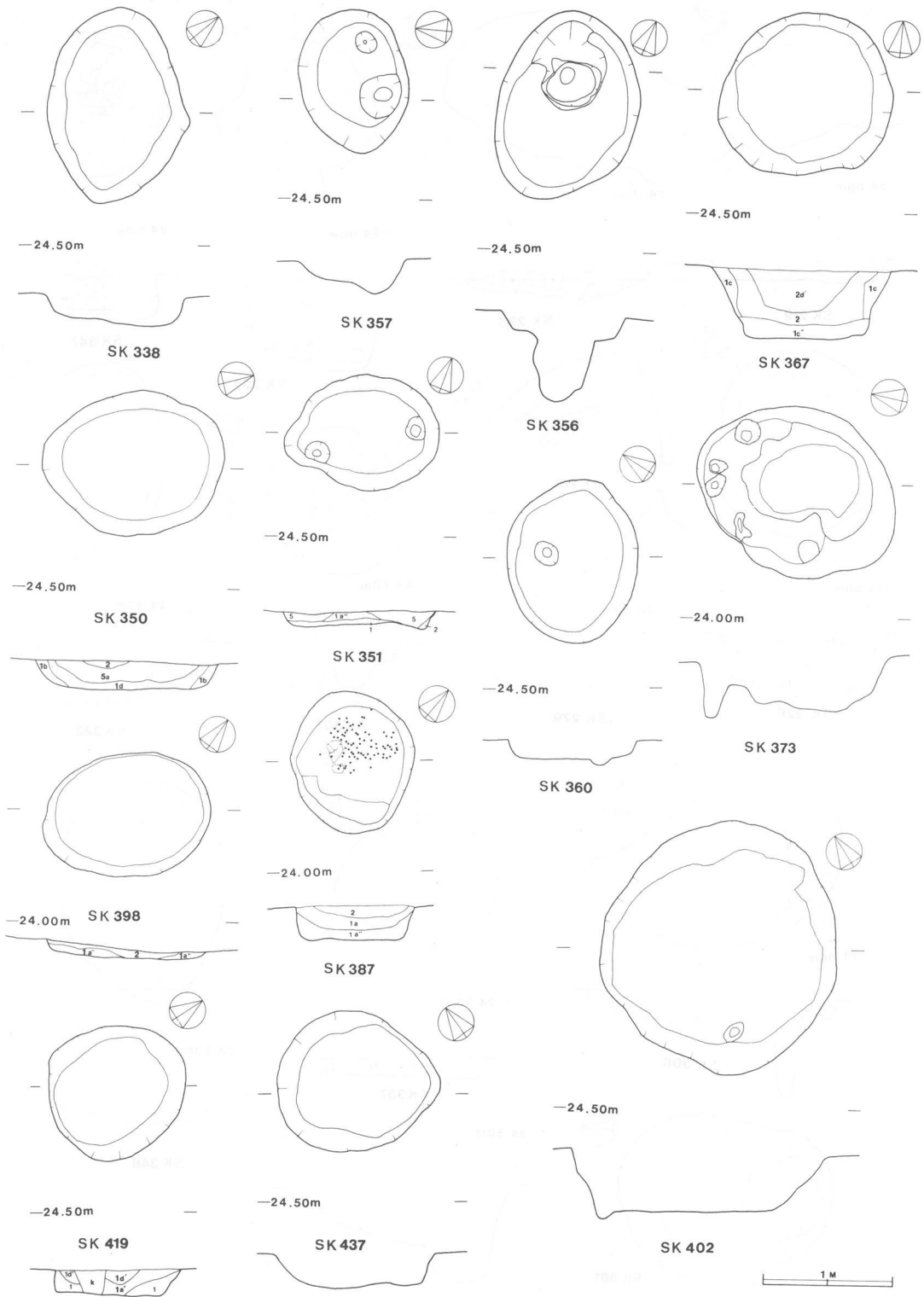
第57図 土 壙 実 測 図 (2)



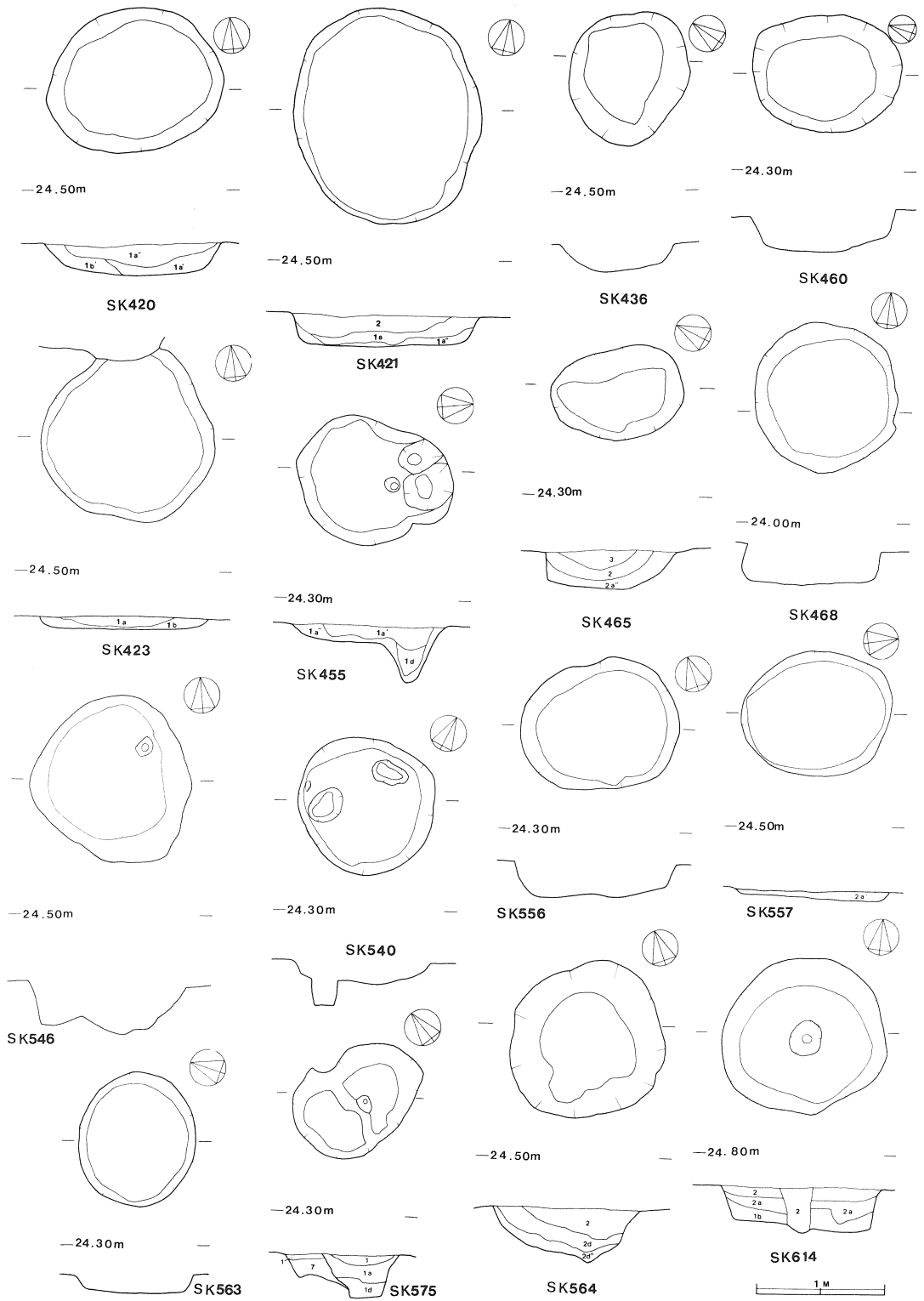
第58图 土壤実測図(3)



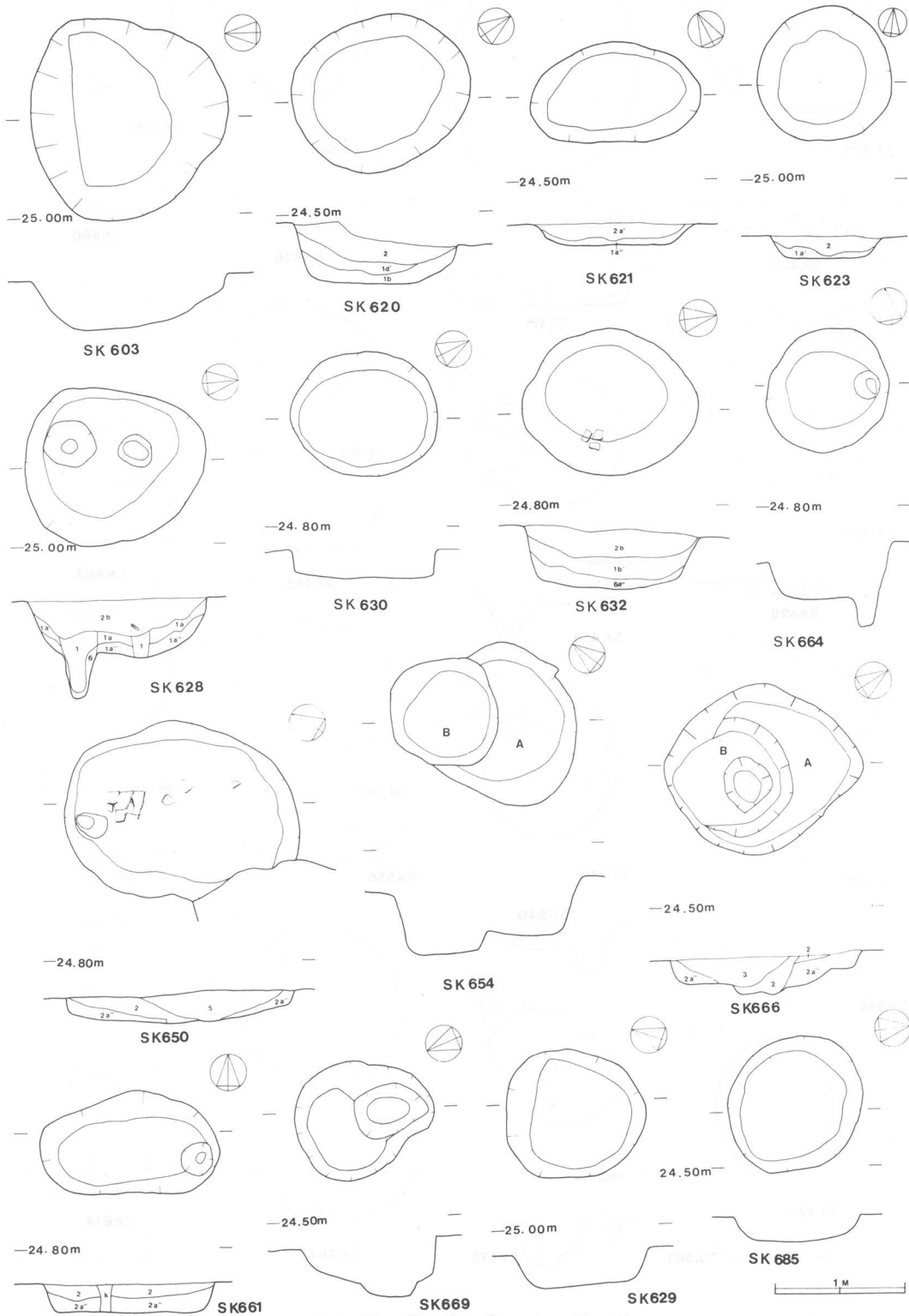
第59图 土壤实测图(4)



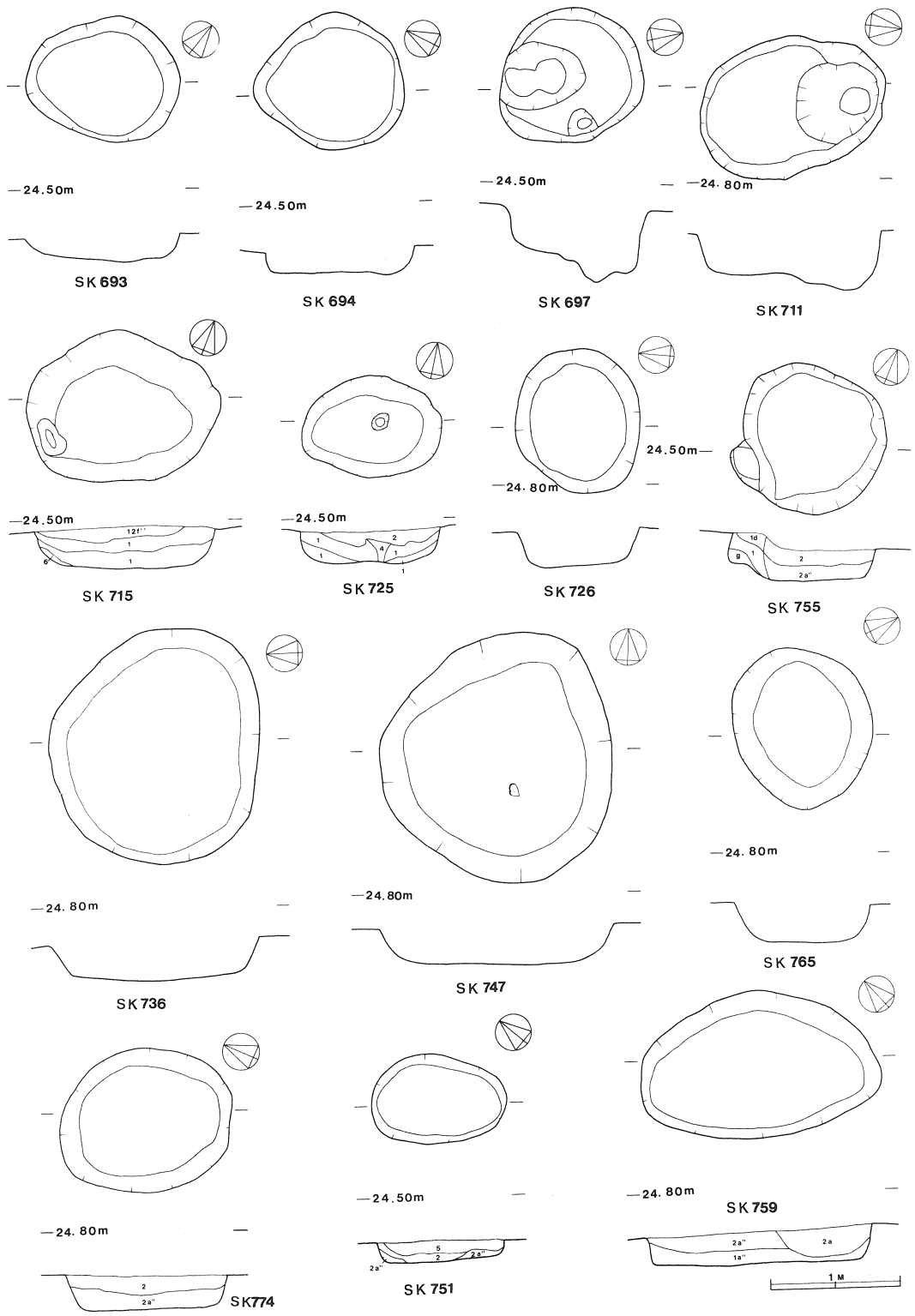
第60图 土 壙 実 測 図 (5)



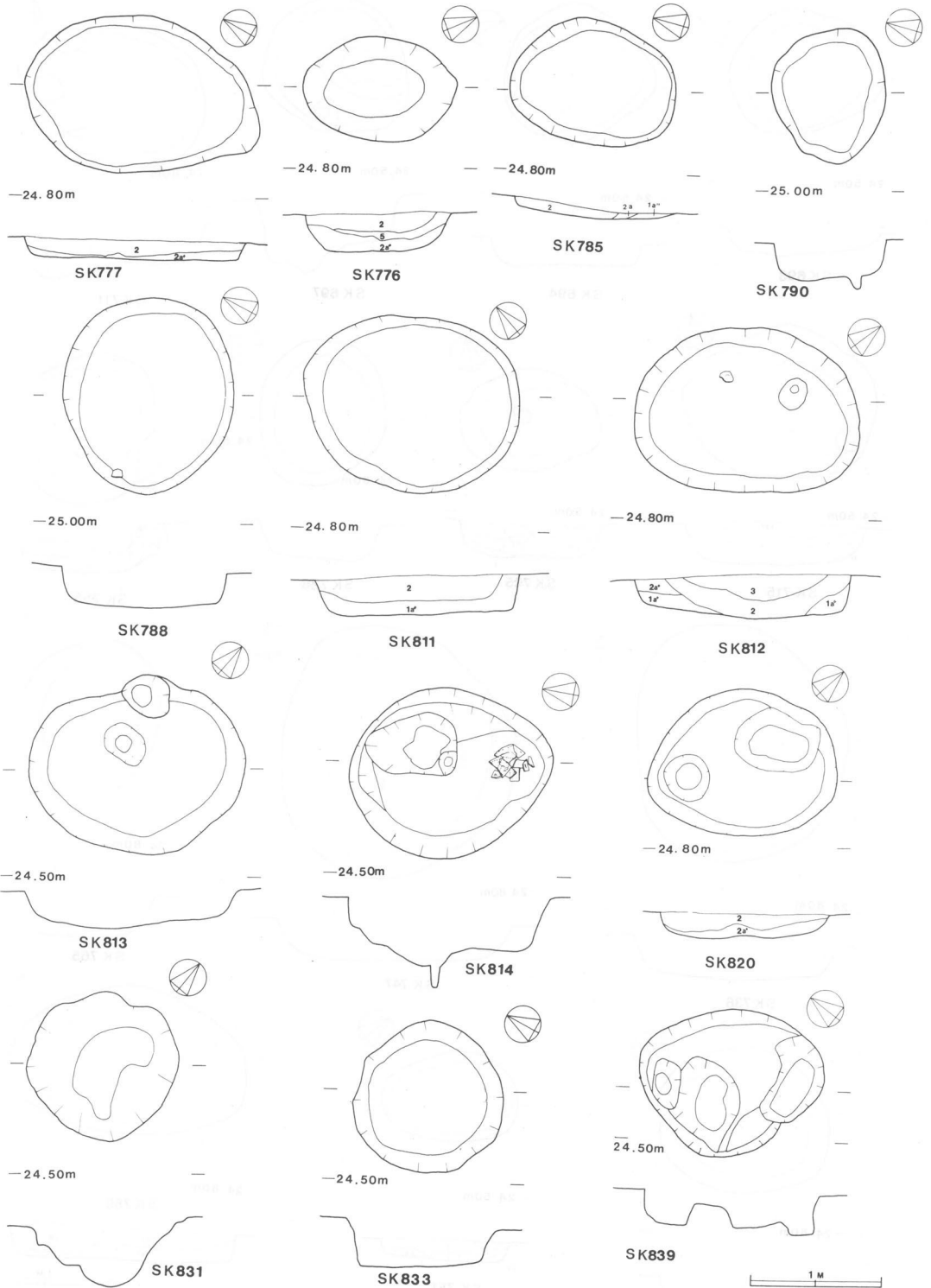
第61図 土 壤 実 測 図 (6)



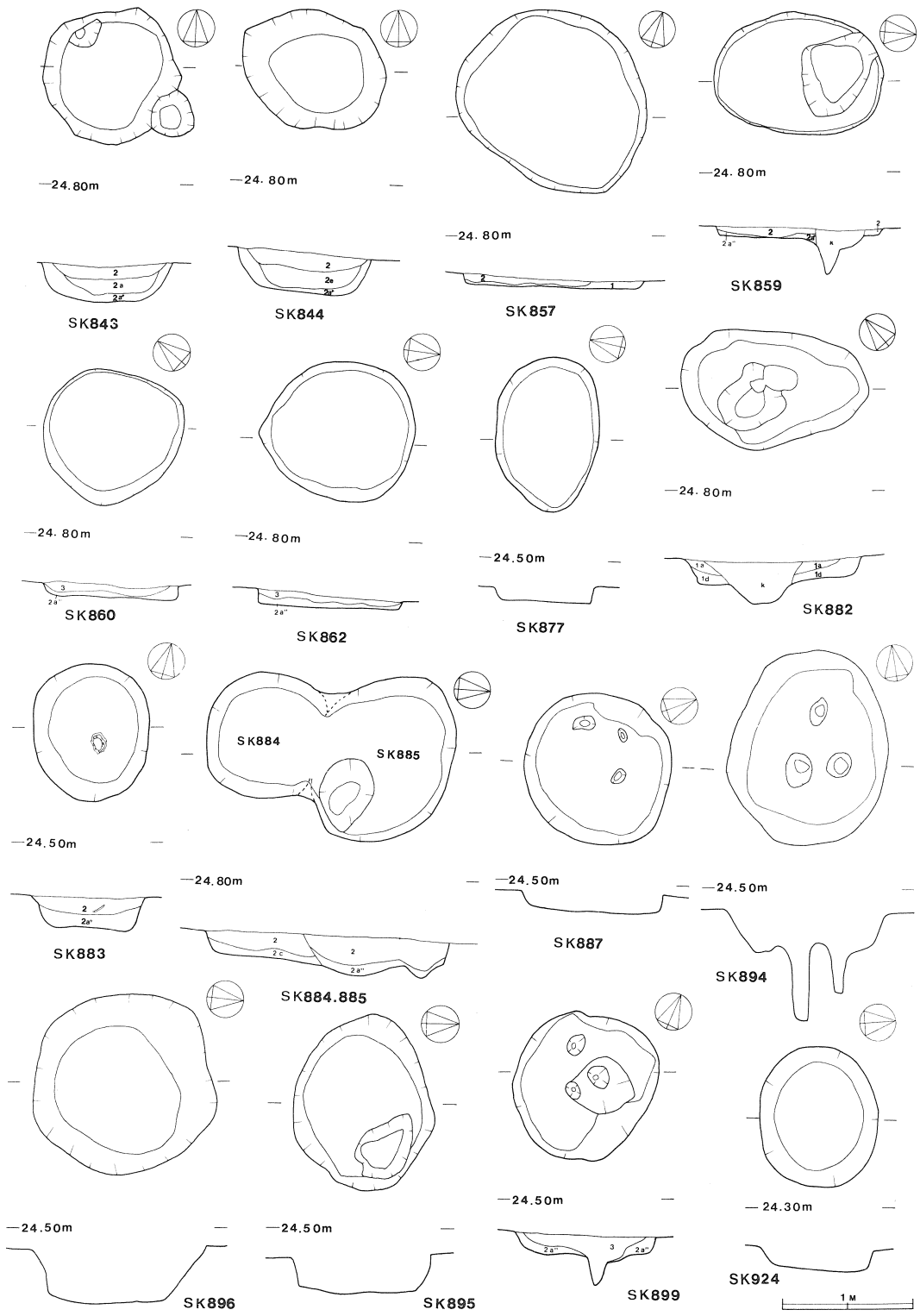
第62図 土壙実測図(7)



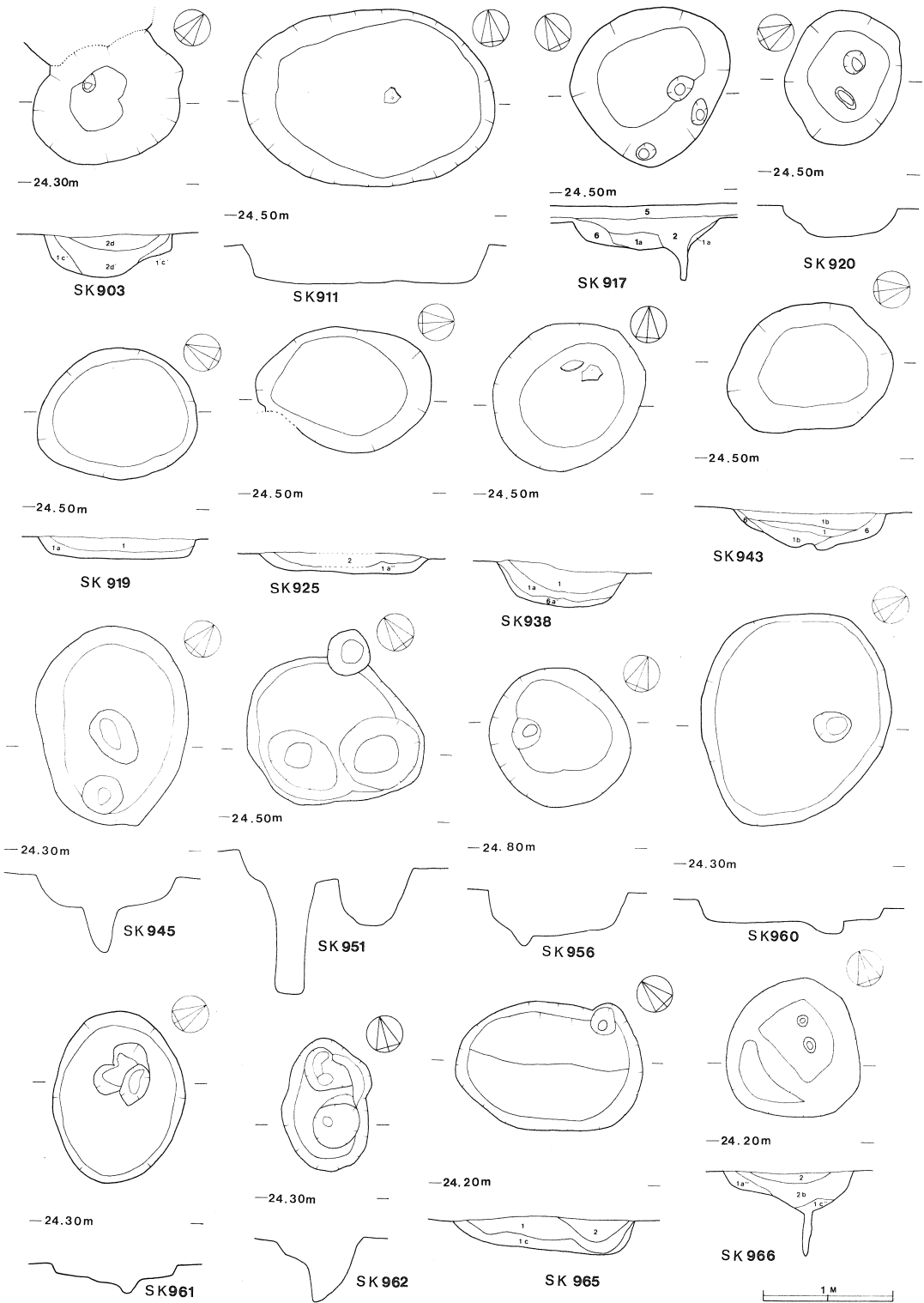
第63図 土壤実測図(8)



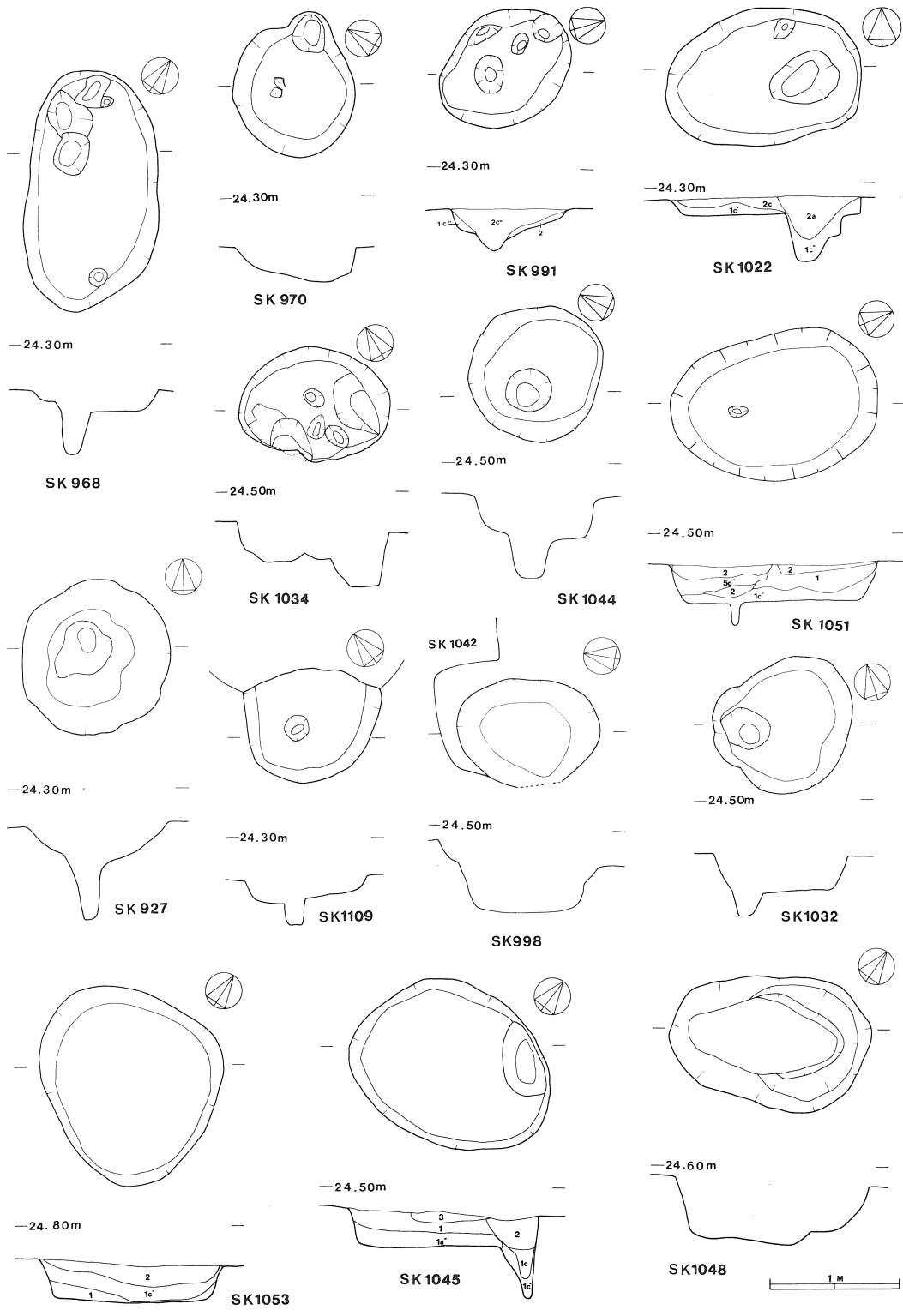
第64図 土 墳 実 測 図 (9)



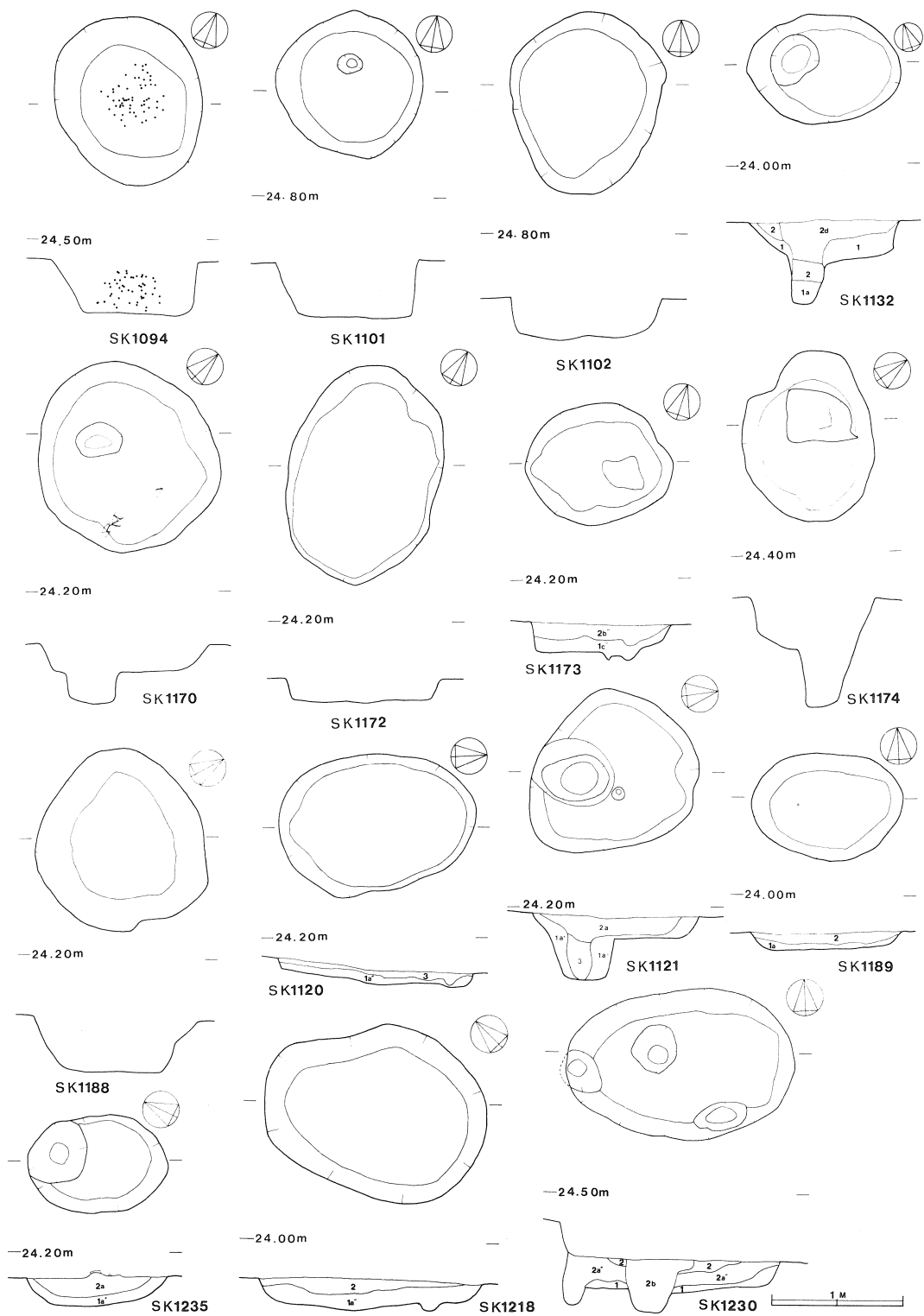
第65図 土 壤 実 測 図 (10)



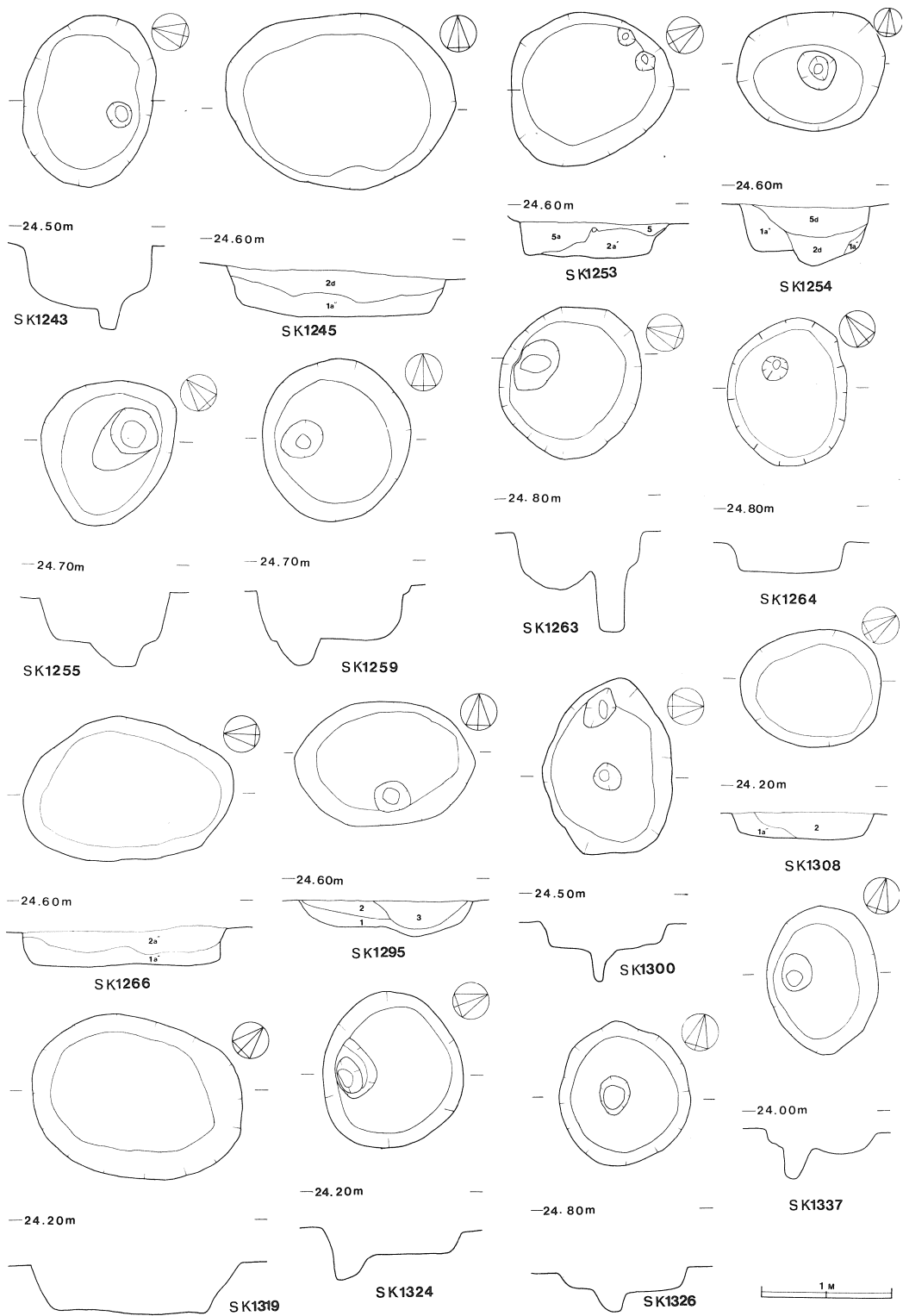
第66图 土壤实测图(11)



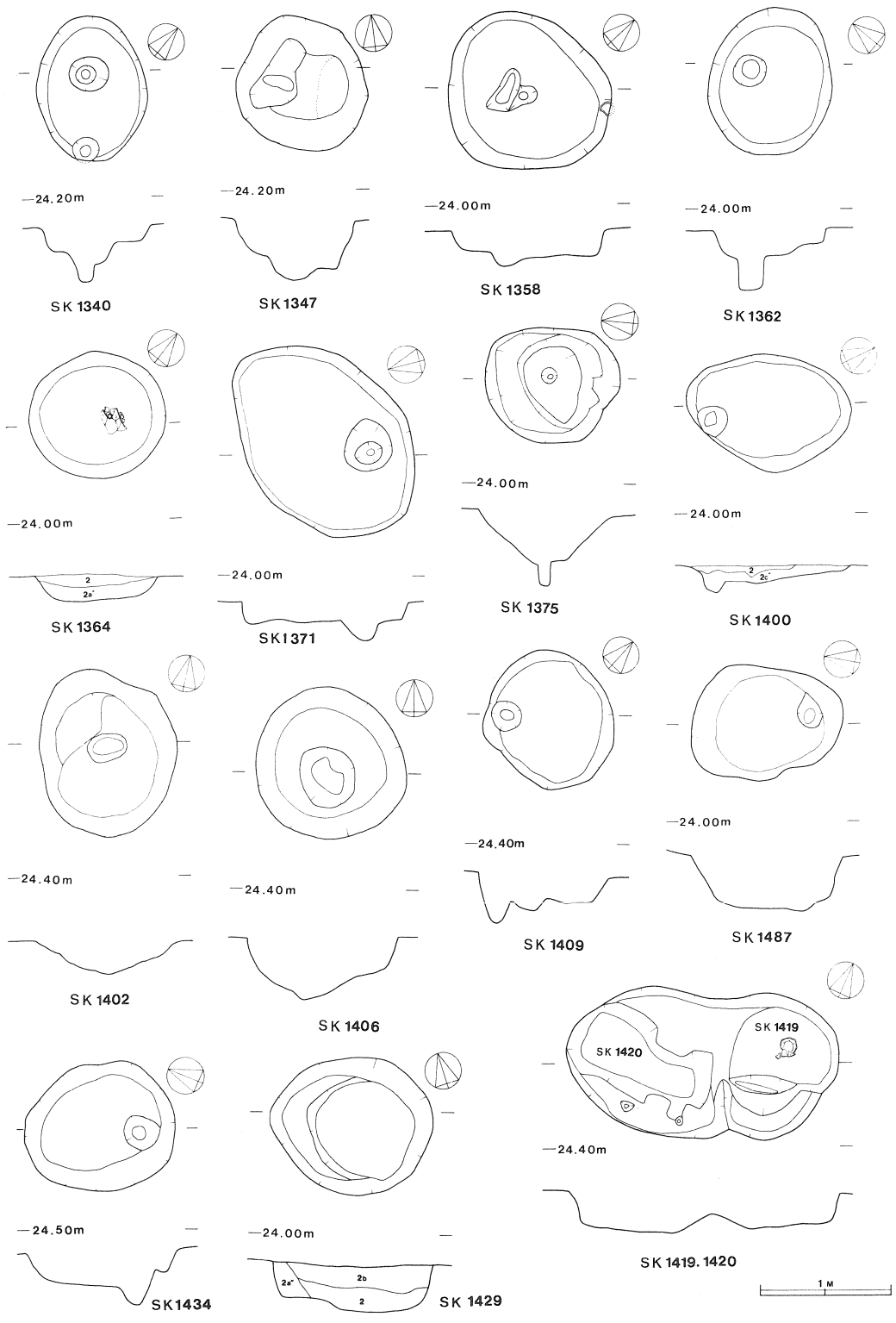
第67図 土 壤 実 測 図 (12)



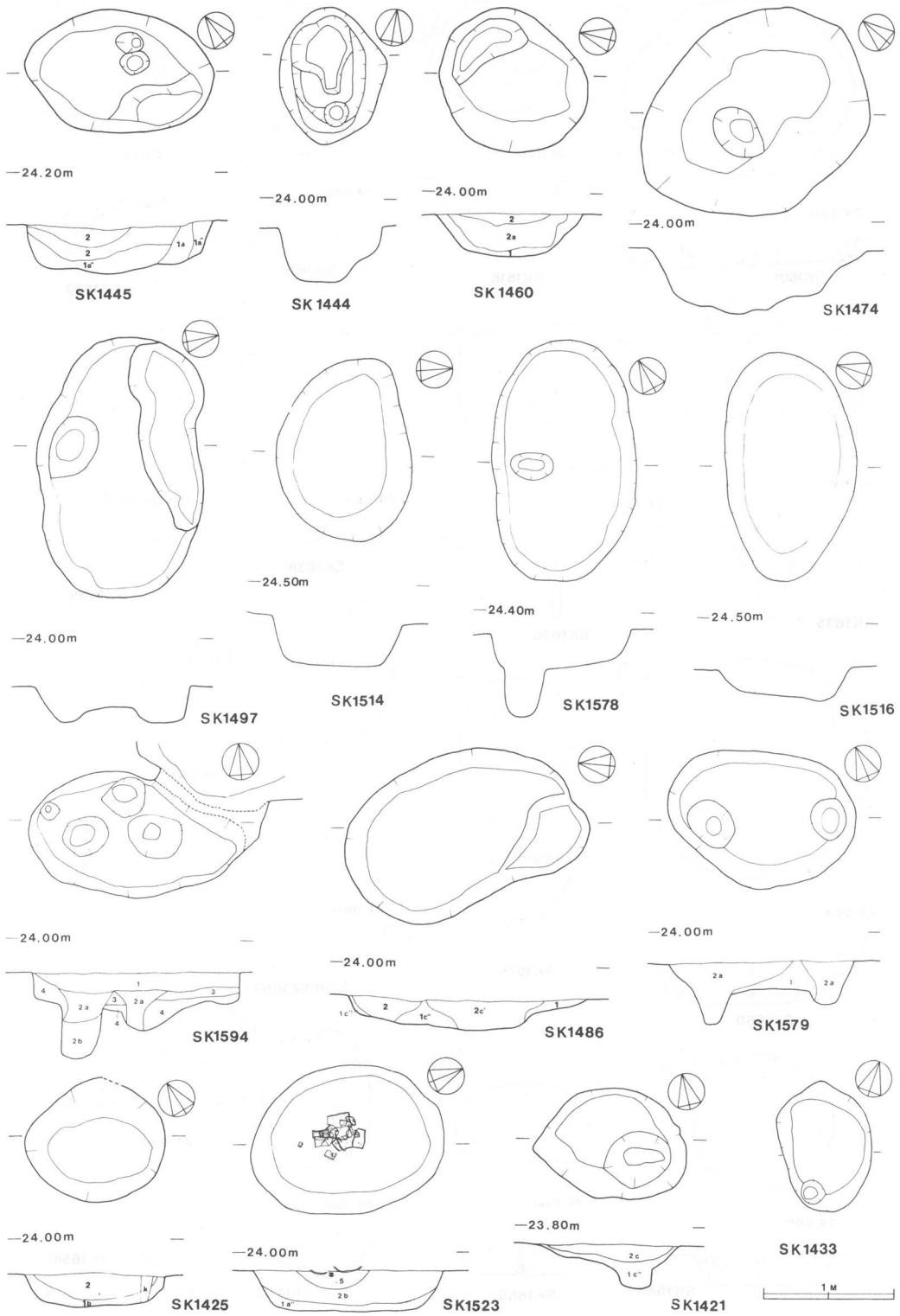
第68図 土 壤 実 測 図 (13)



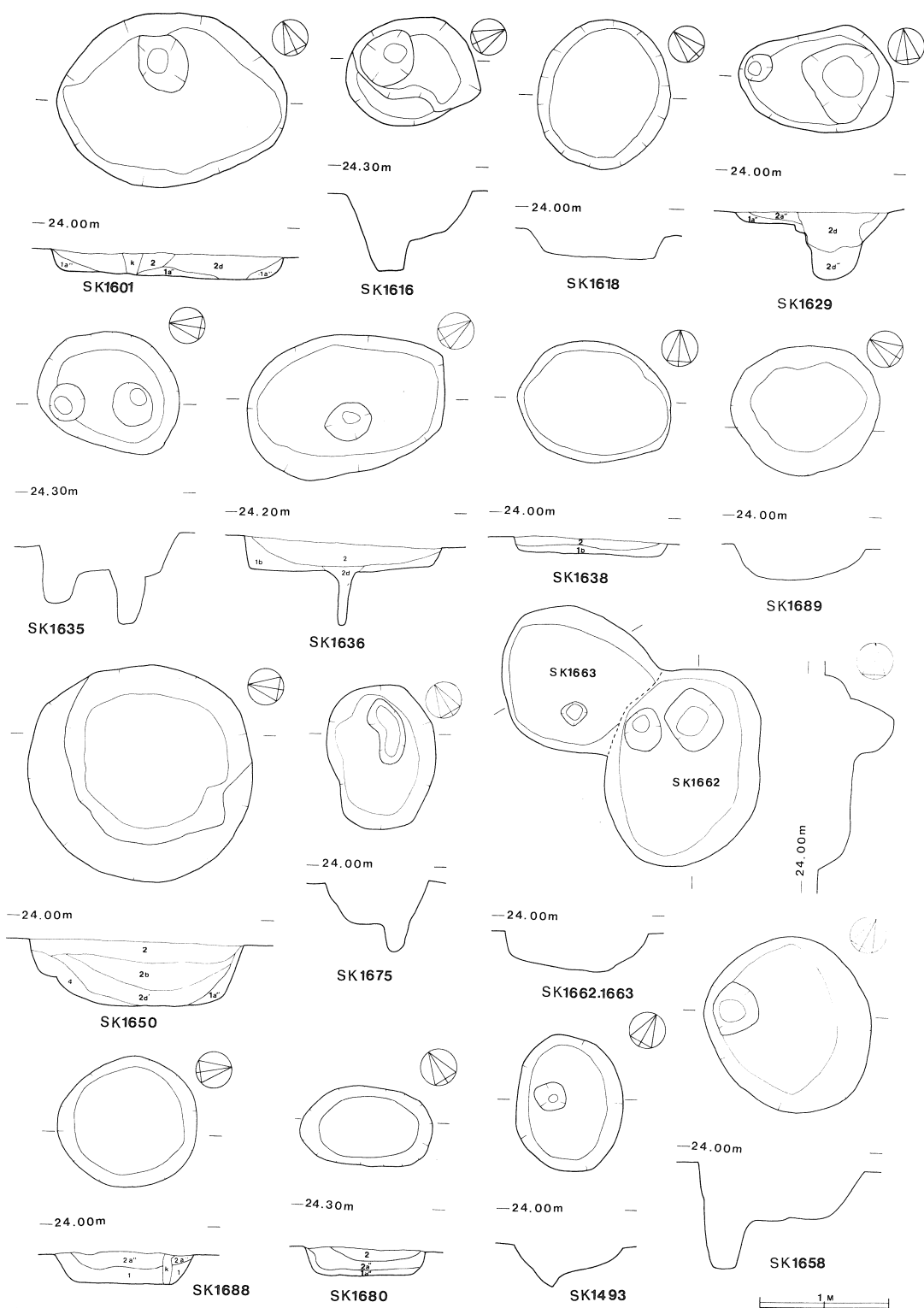
第69図 土 墳 実 測 図 (14)



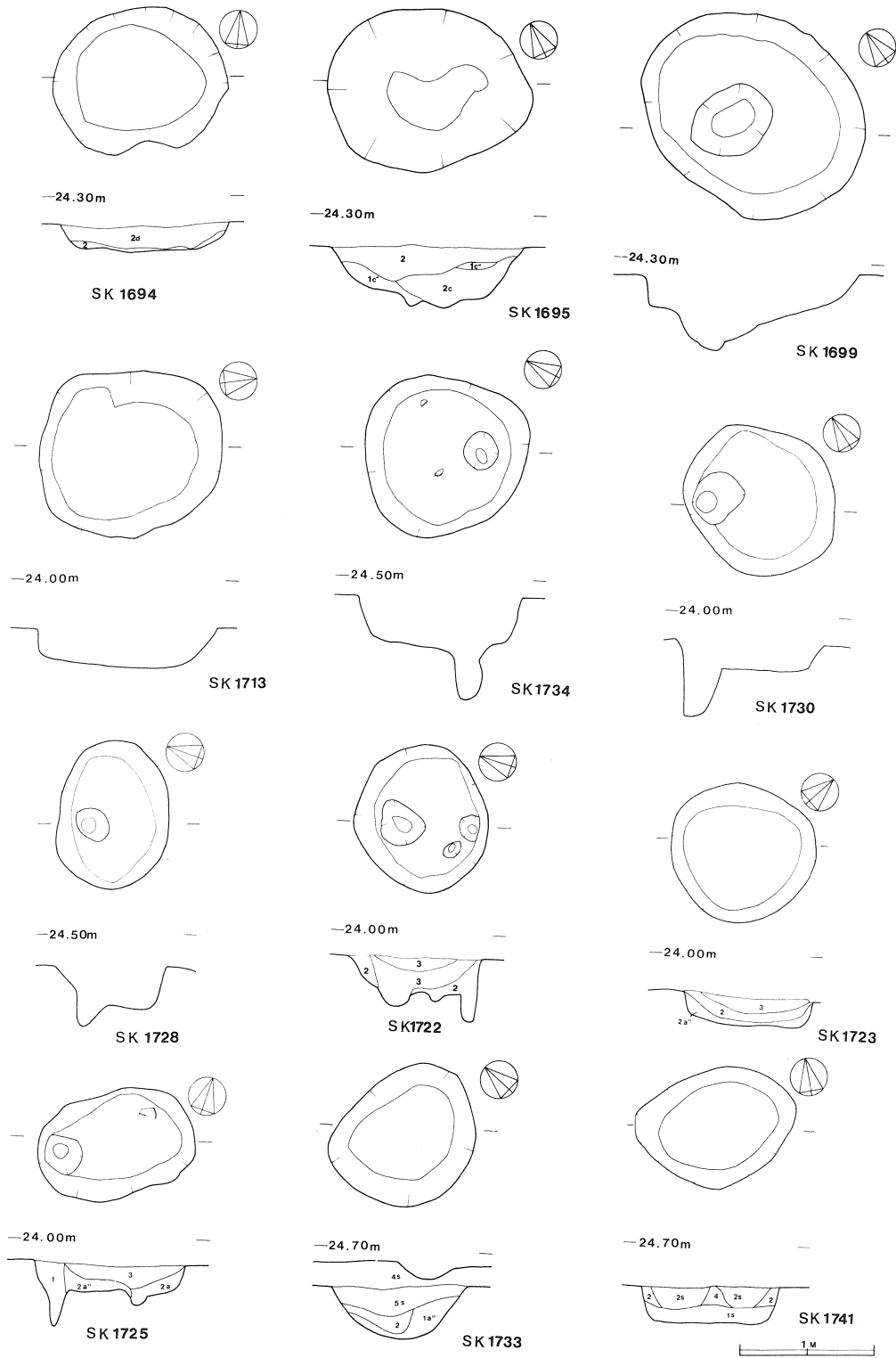
第70図 土壤実測図(15)



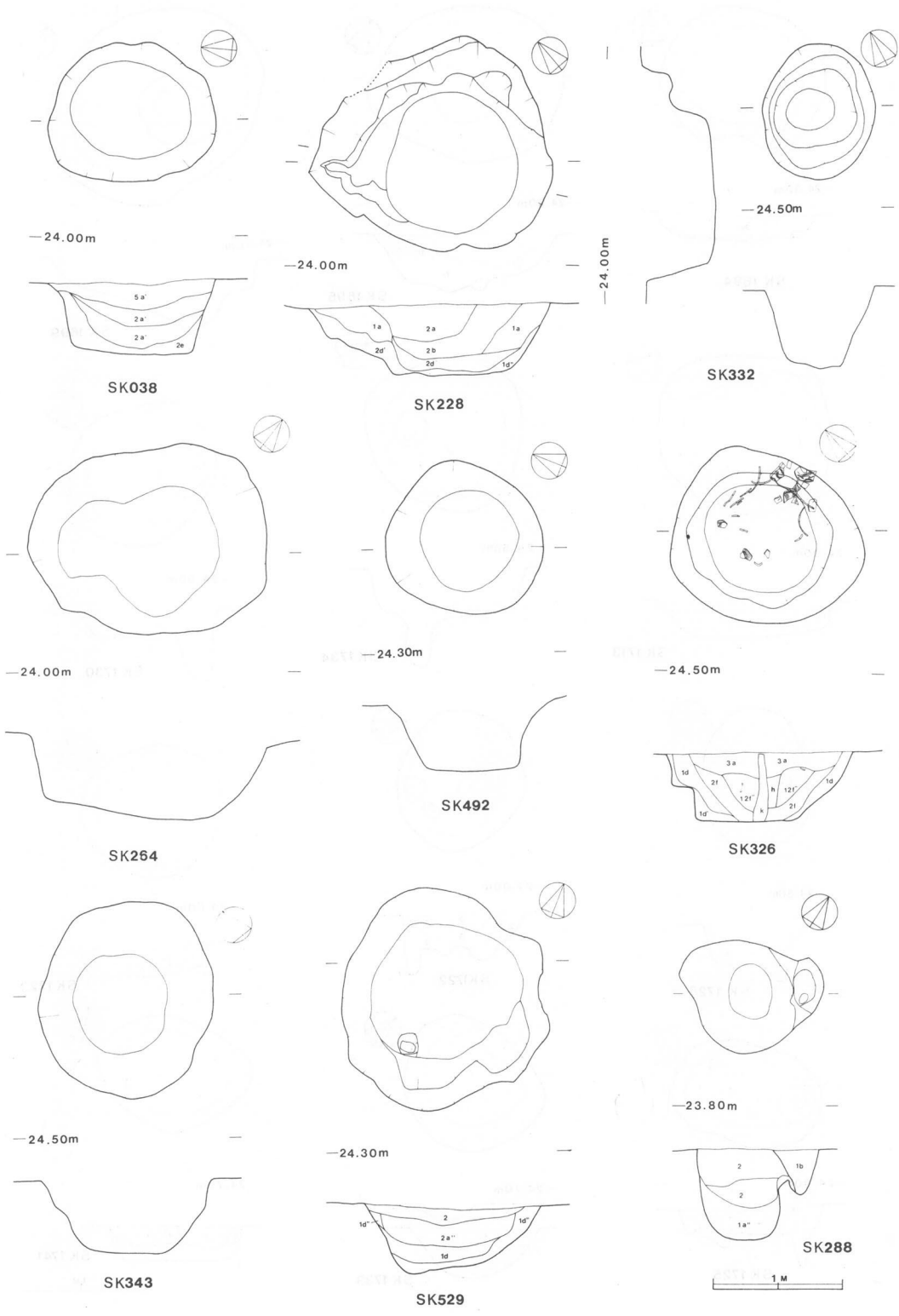
第71図 土壤実測図(16)



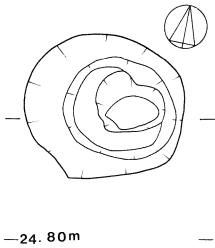
第72図 土 壤 実 測 図 (17)



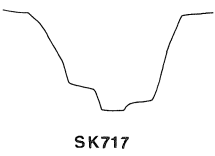
第73図 土 壤 実 測 図 (18)



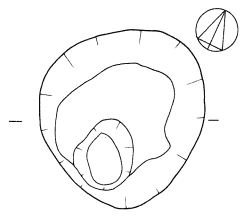
第74図 土壤実測図(19)



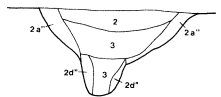
-24.80m



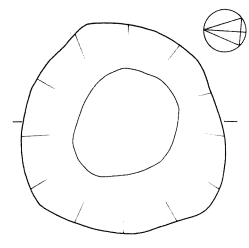
SK717



-25.00m



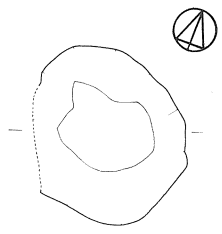
SK888



-24.20m



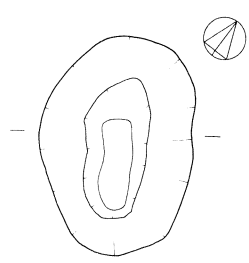
SK1325



-24.30m



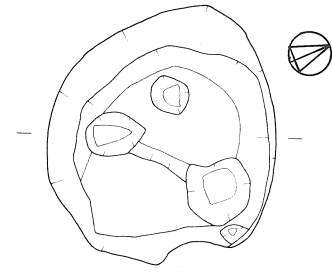
SK902



-24.00m



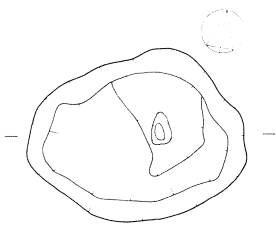
SK1654



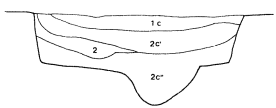
-24.00m



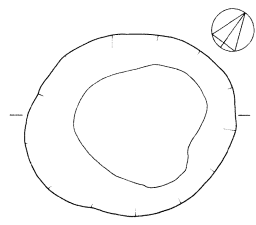
SK1457



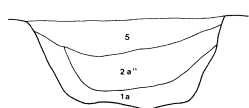
-24.20m



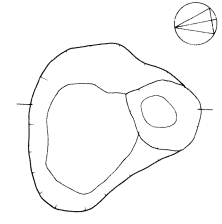
SK1339



-24.30m



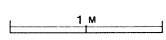
SK1697



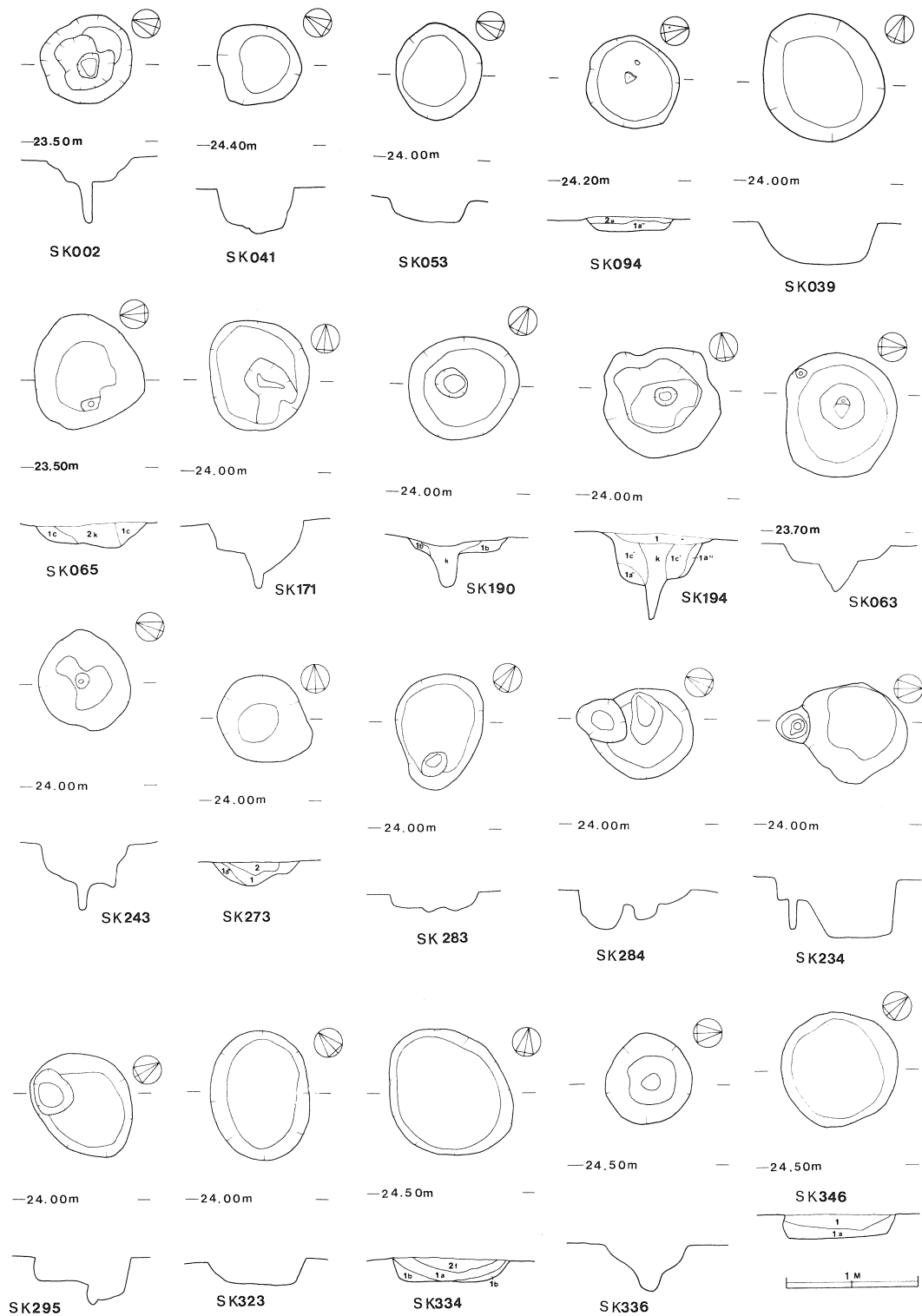
-24.00m



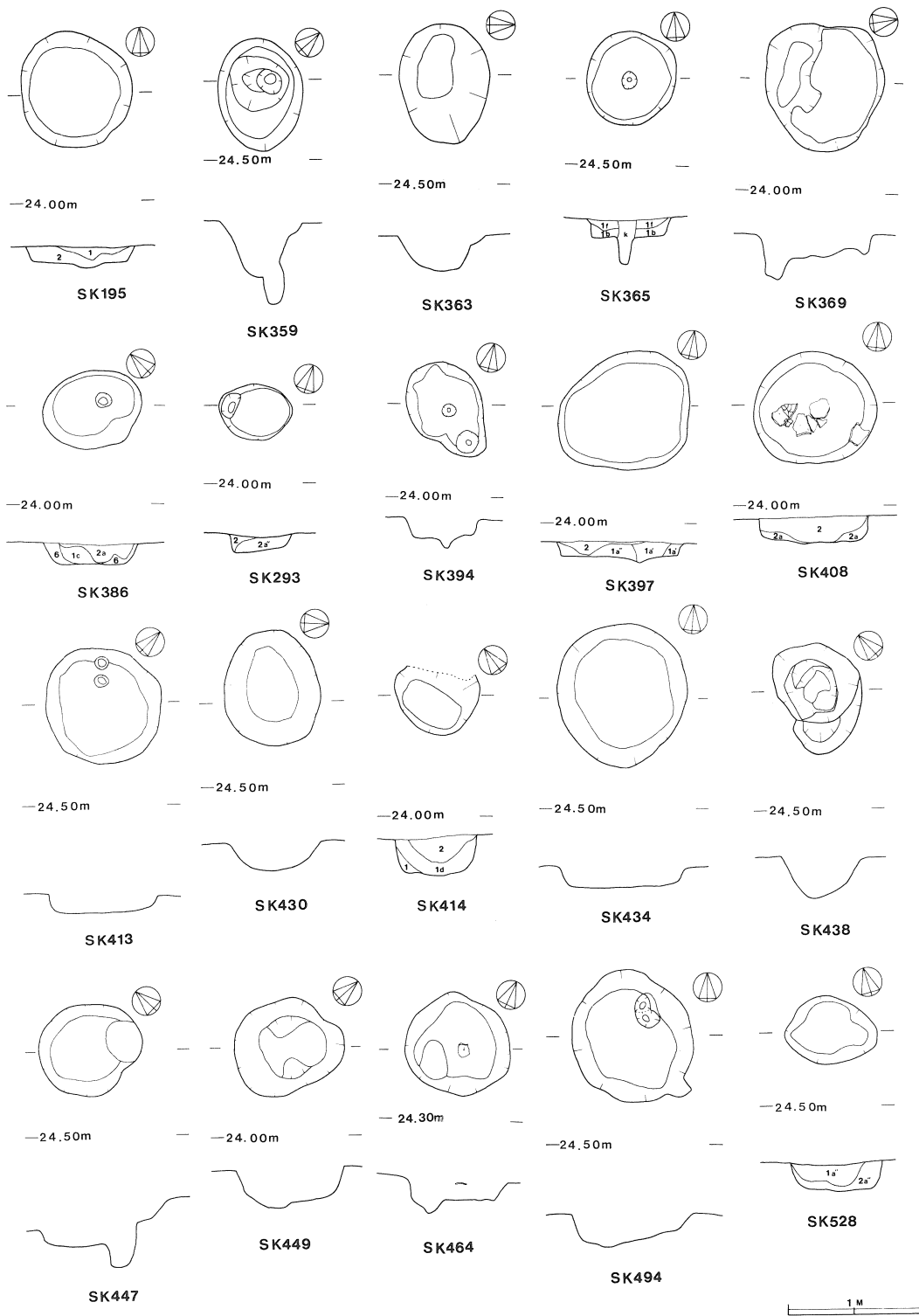
SK1674



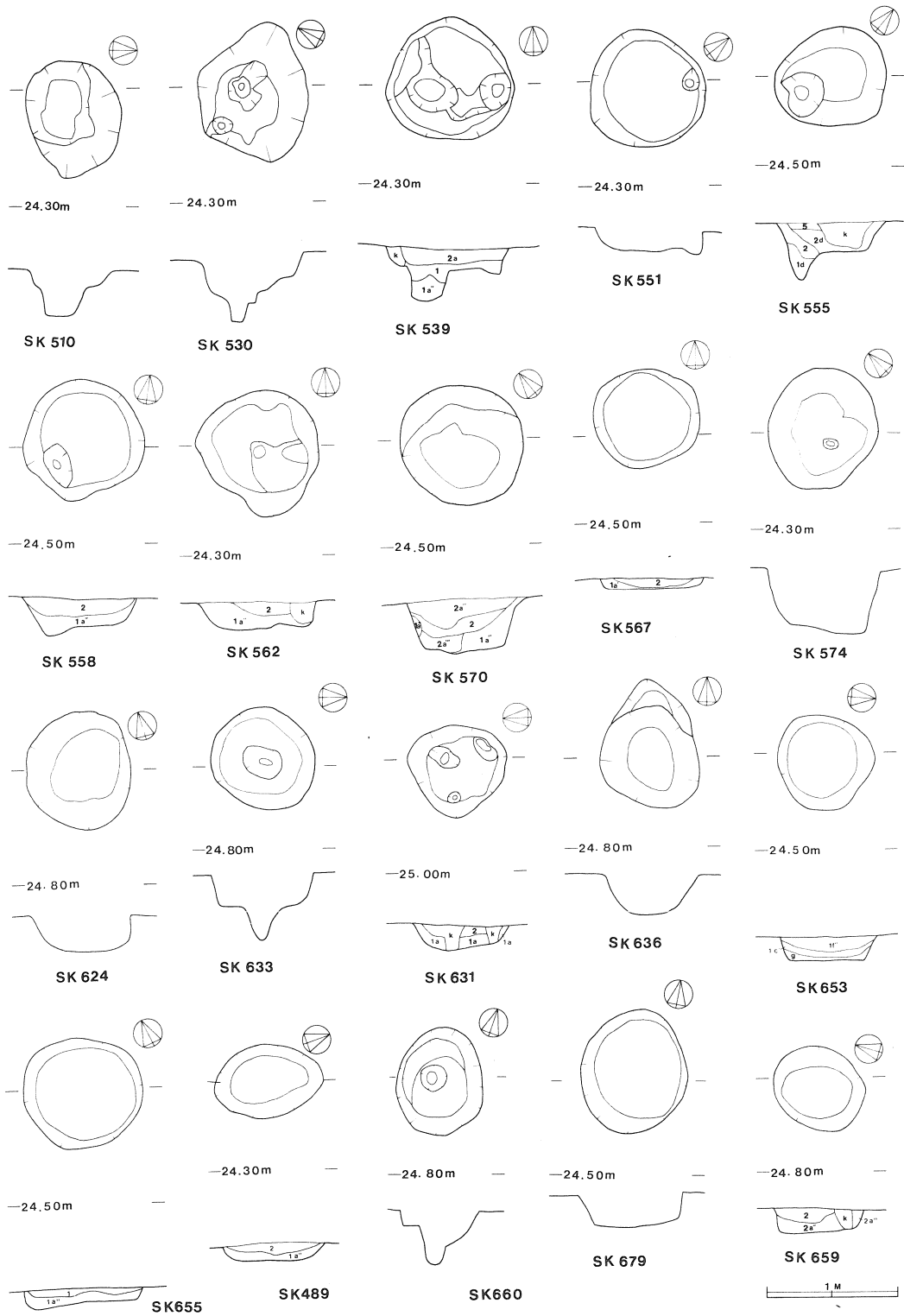
第75図 土 墳 実 測 図 (20)



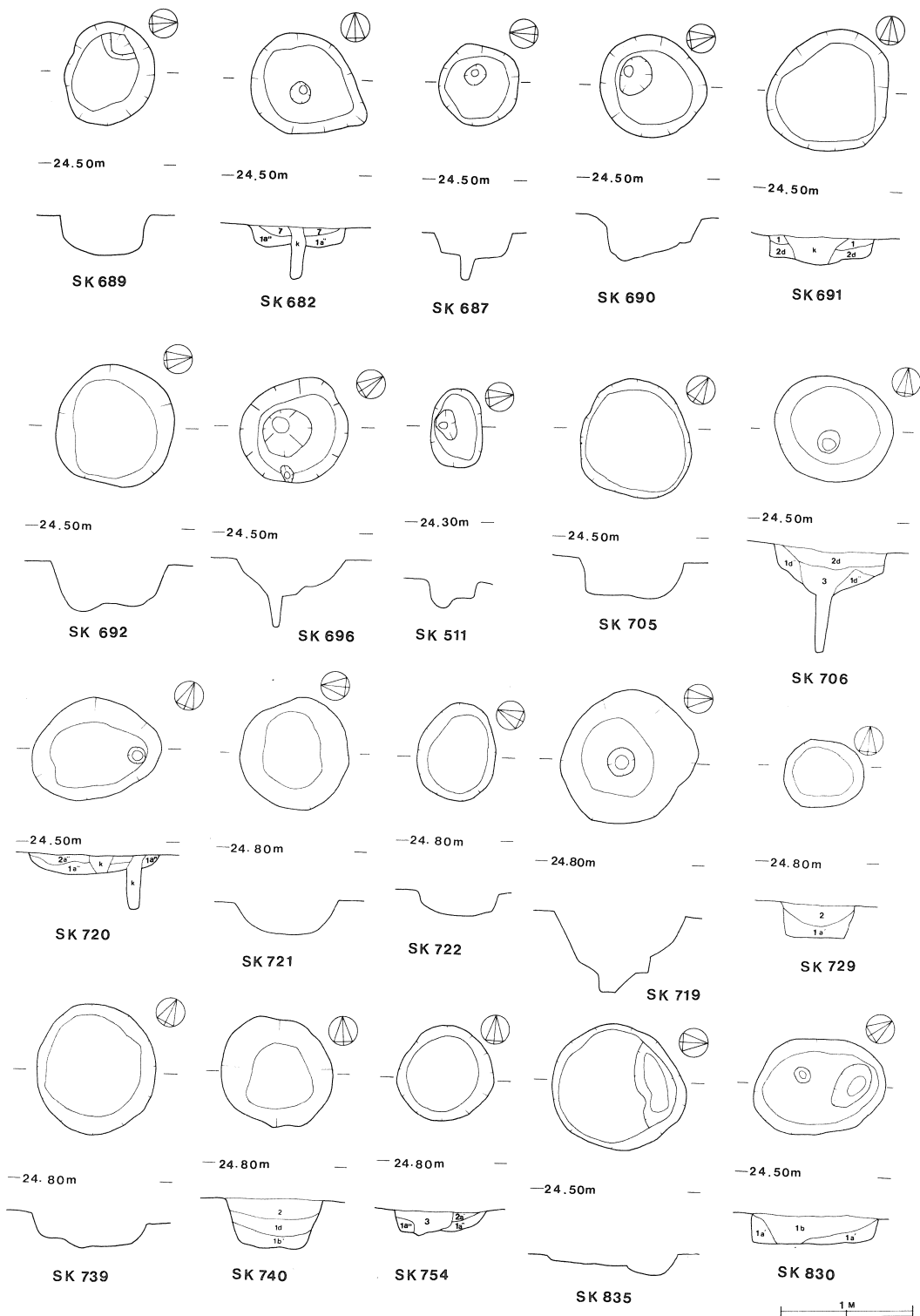
第76图 土壤实测图(21)



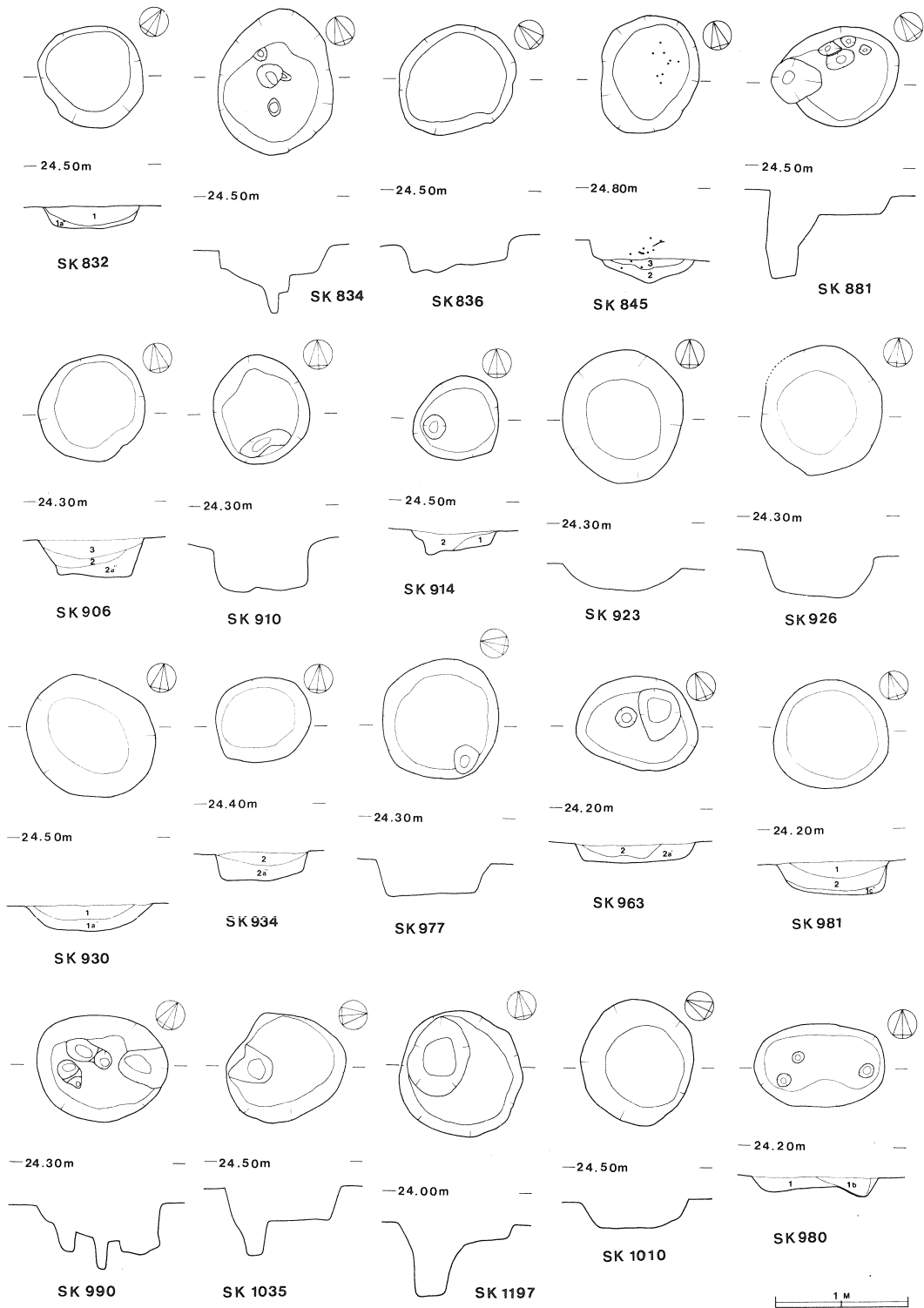
第17図 土 壤 実 測 図 (22)



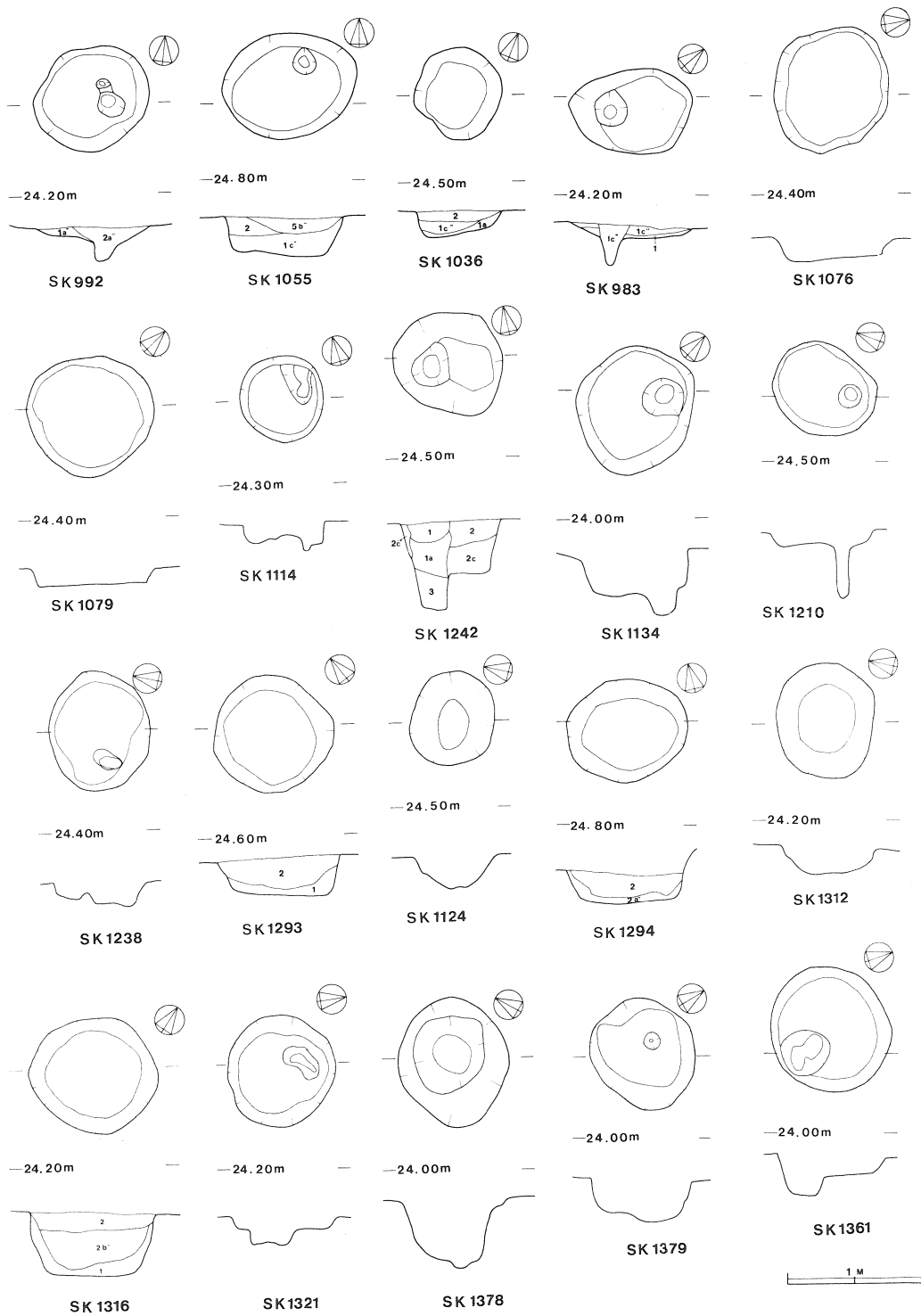
第78图 土壤実測図(23)



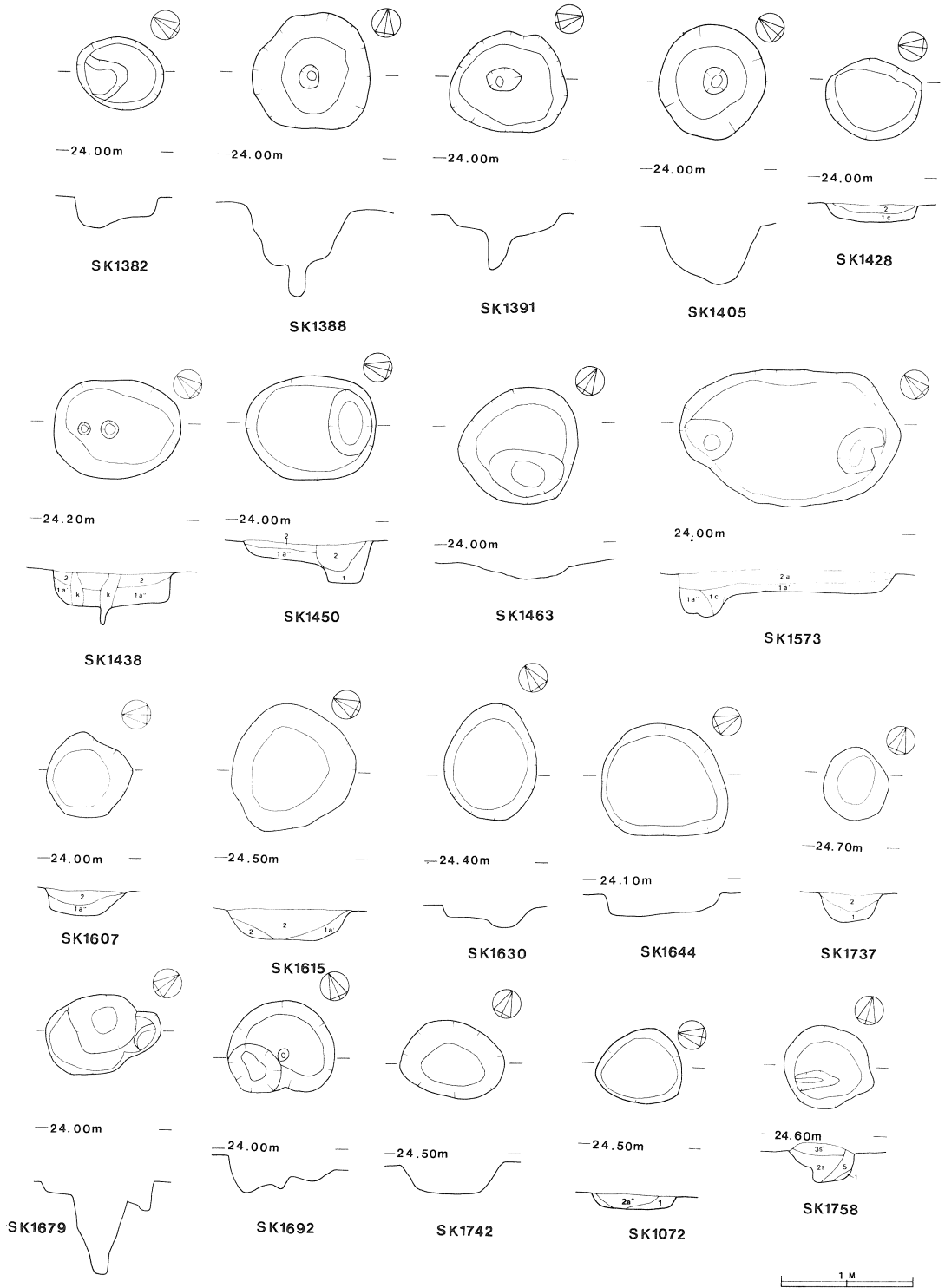
第79図 土 墳 実 測 図 (24)



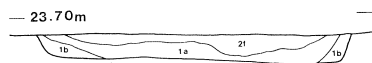
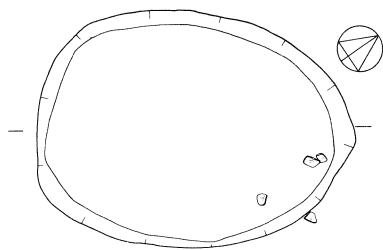
第80图 土壤实测图 (25)



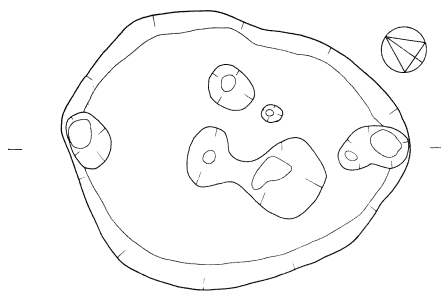
第81图 土壤実測図(26)



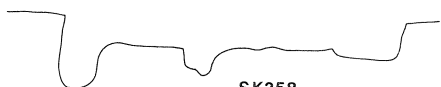
第82図 土 壤 実 測 図 (27)



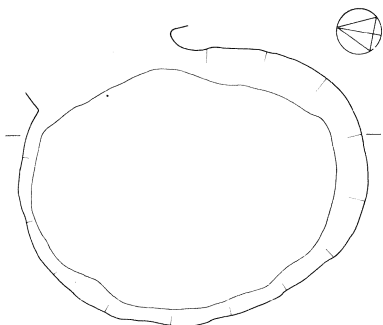
SK062



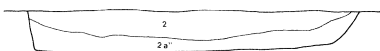
—24.50m



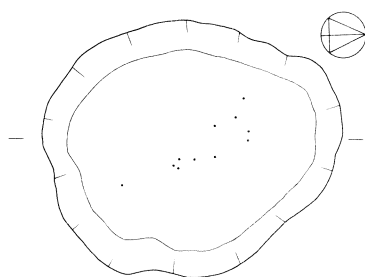
SK358



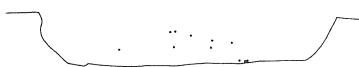
—24.80m



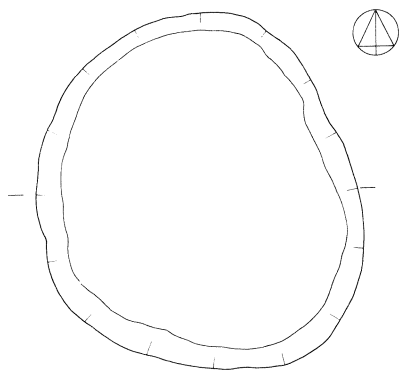
SK746



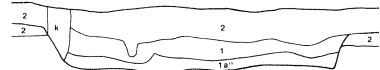
—24.50m



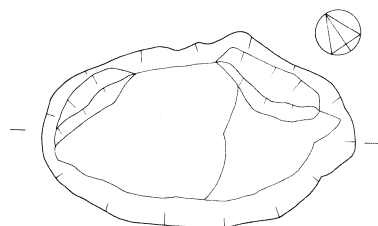
SK364



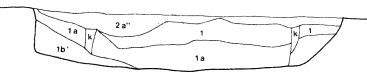
—24.50m



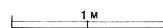
SK702



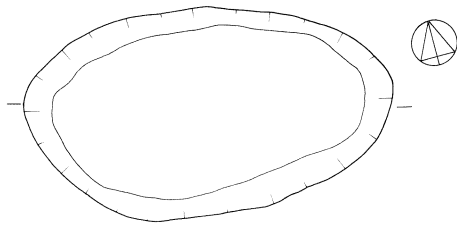
—24.30m



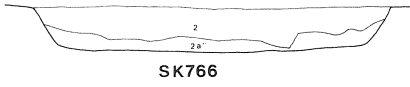
SK535



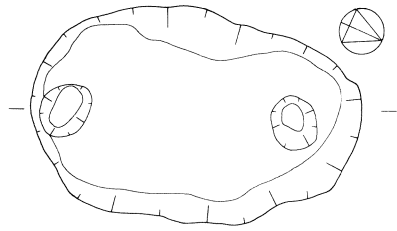
第83図 土 壤 実 測 図 (28)



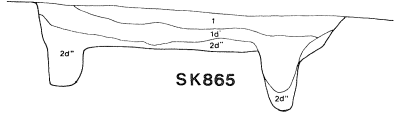
— 24.80m —



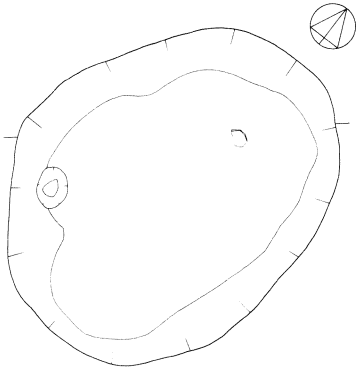
SK766



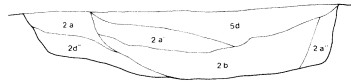
— 24.80m —



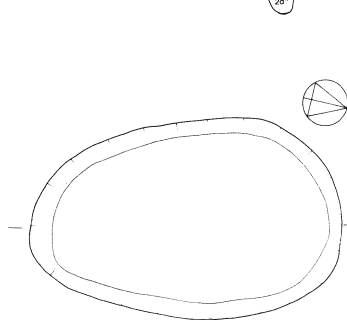
SK865



— 24.20m —



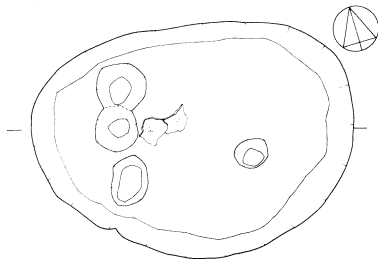
SK1198



— 24.80m —



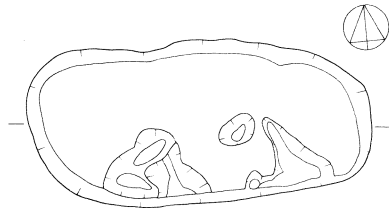
SK872



— 25.80m —



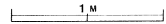
SK867



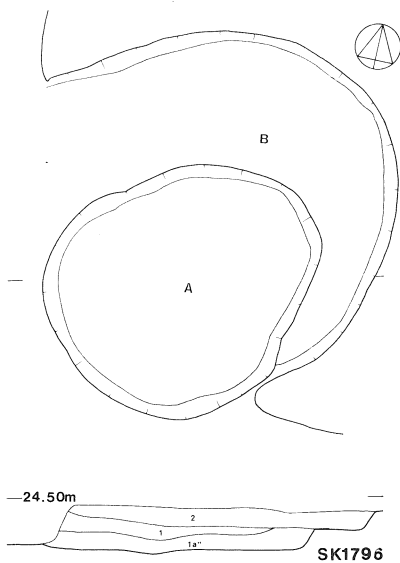
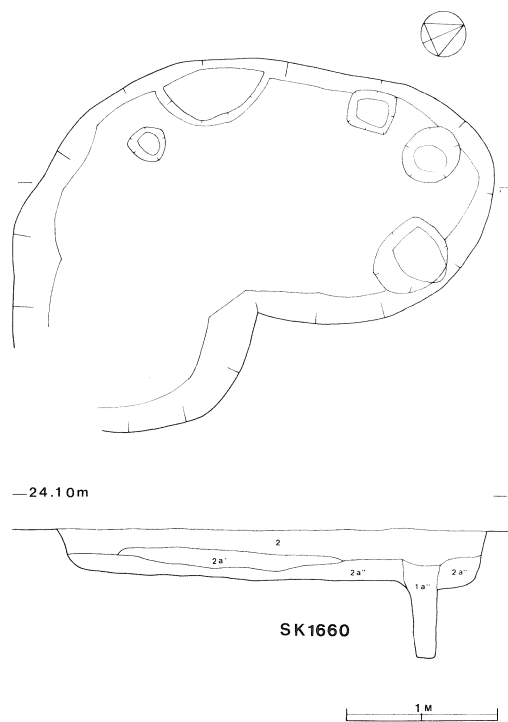
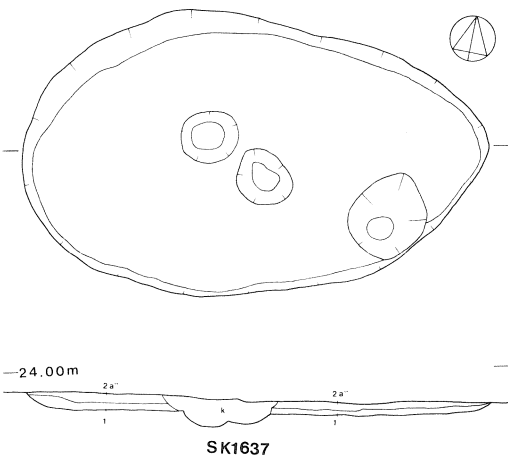
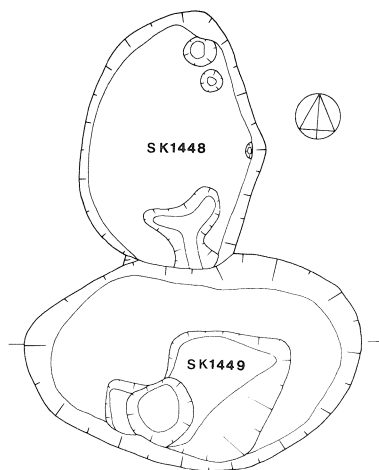
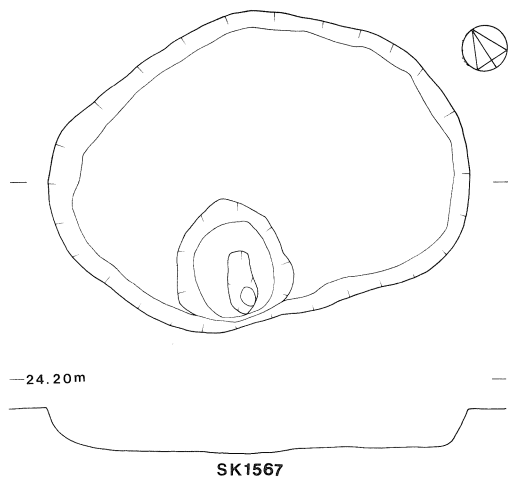
— 24.50m —



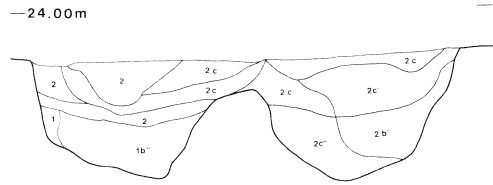
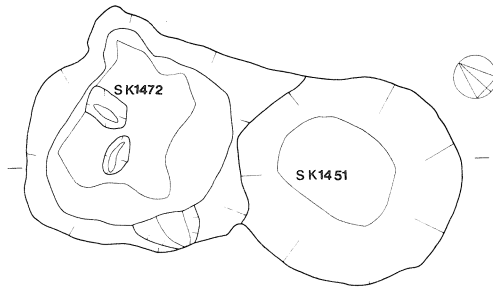
SK1125



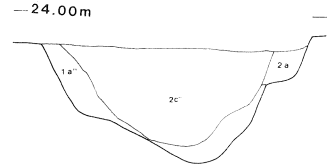
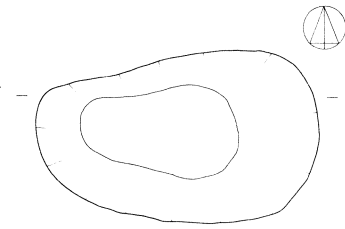
第84图 土壤实测图(29)



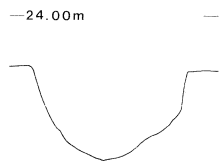
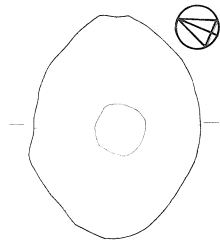
第85図 土 墳 実 測 図 (30)



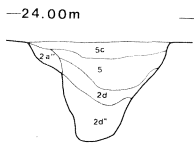
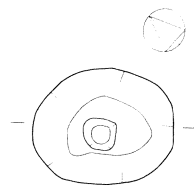
SK 1472. 1451



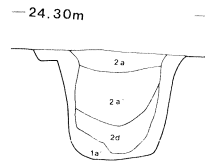
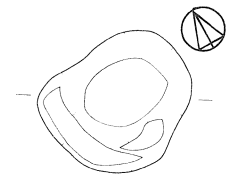
SK1709



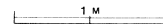
SK 1714



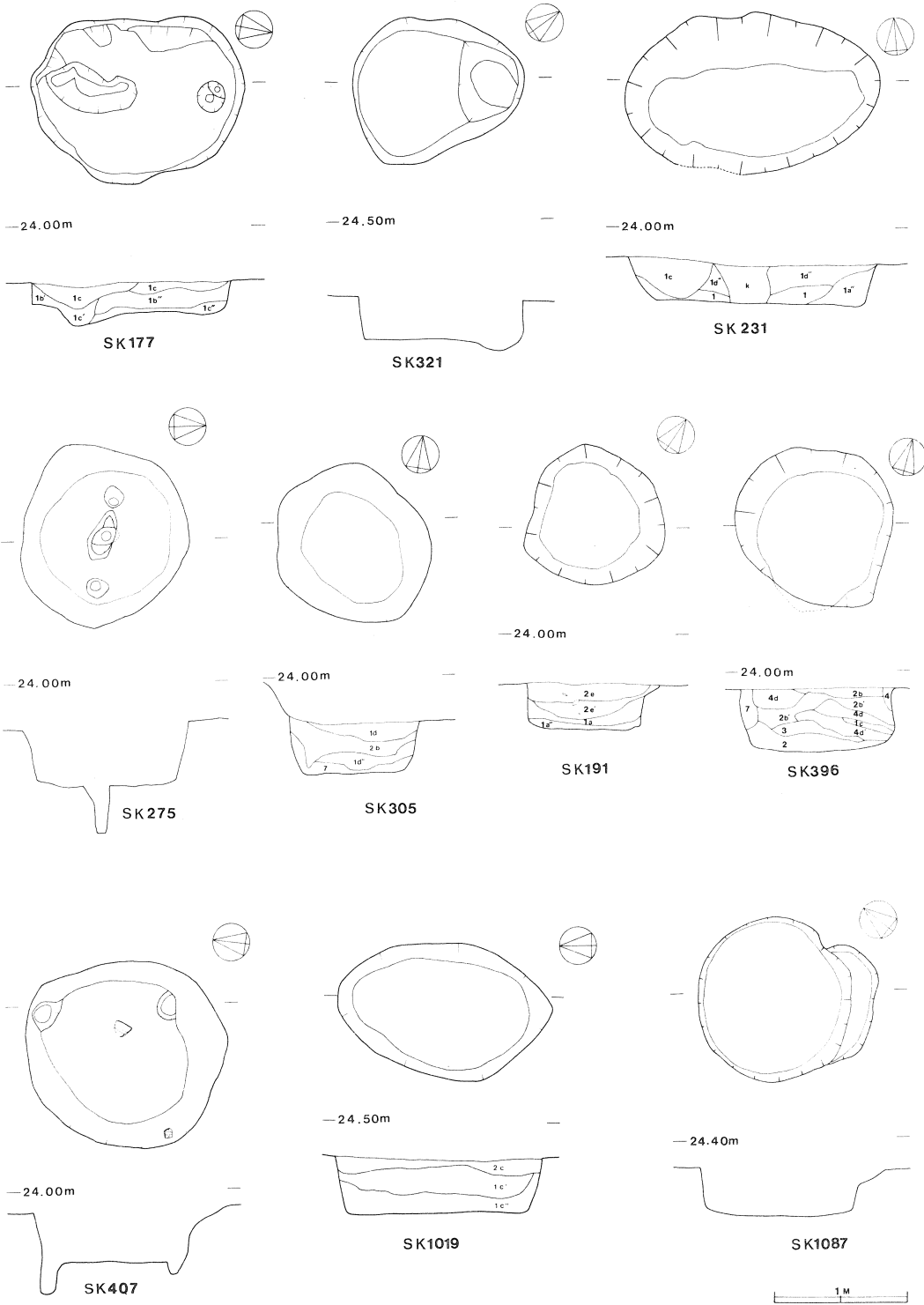
SK1657



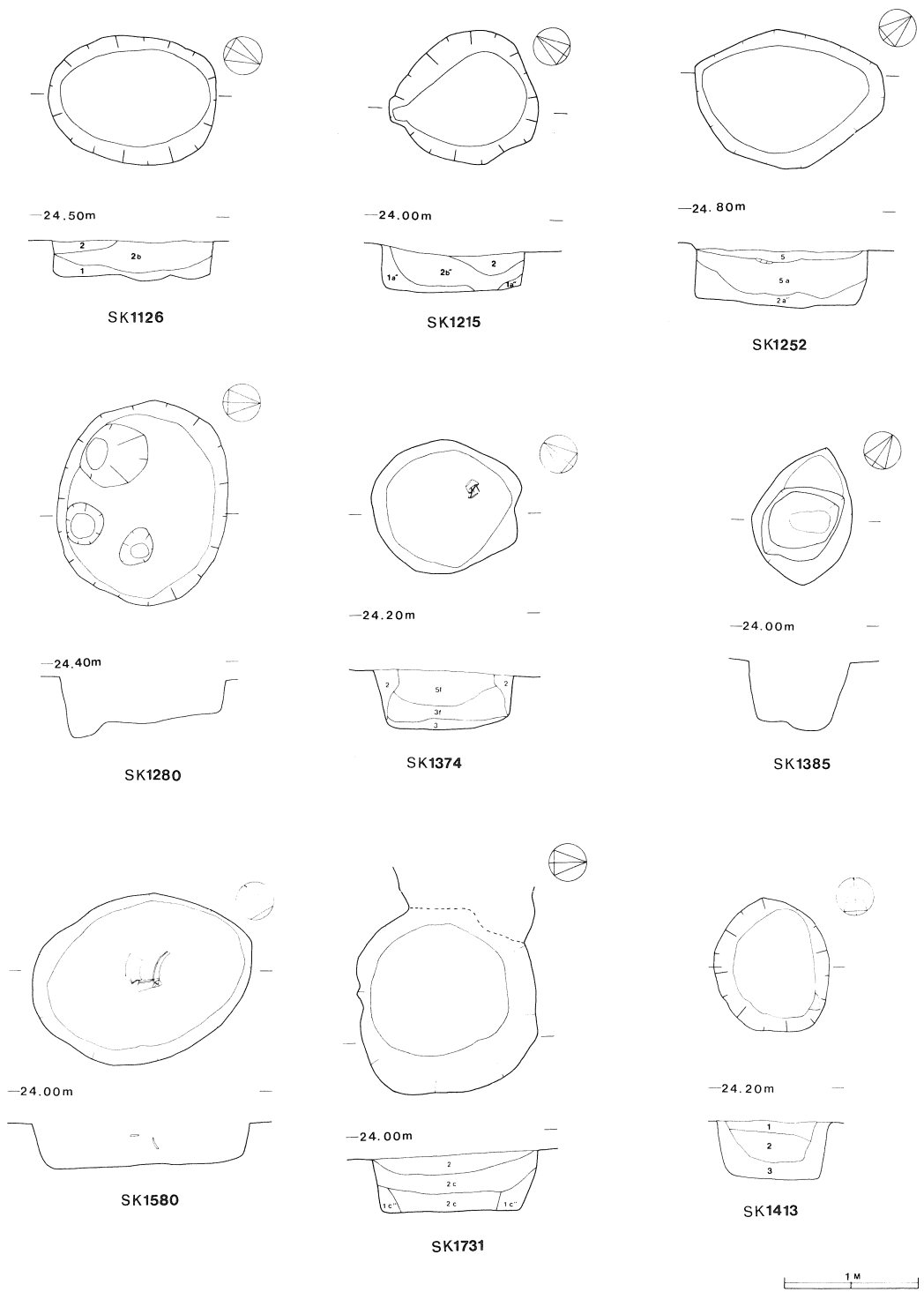
SK1006



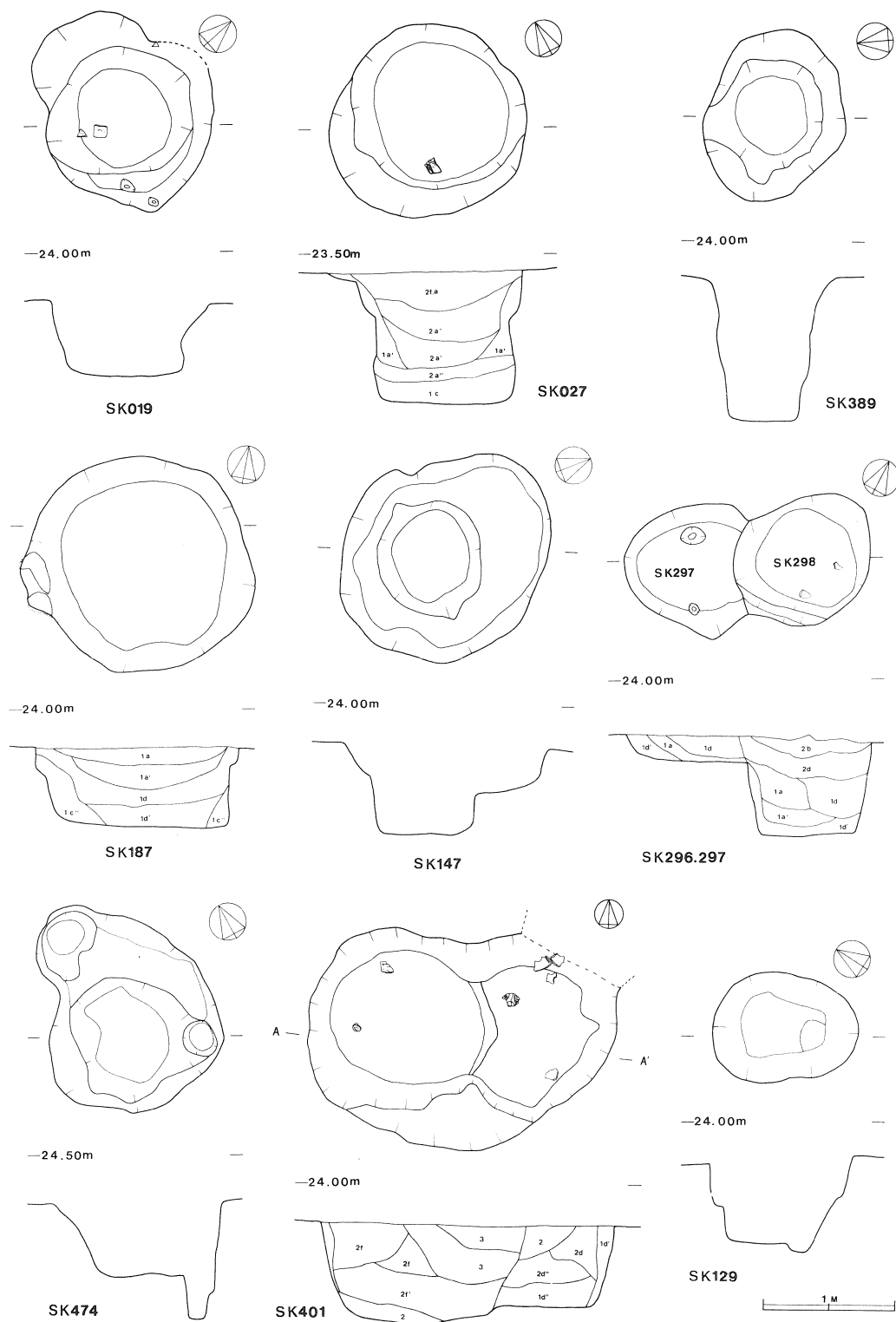
第86図 土 壤 実 測 図 (31)



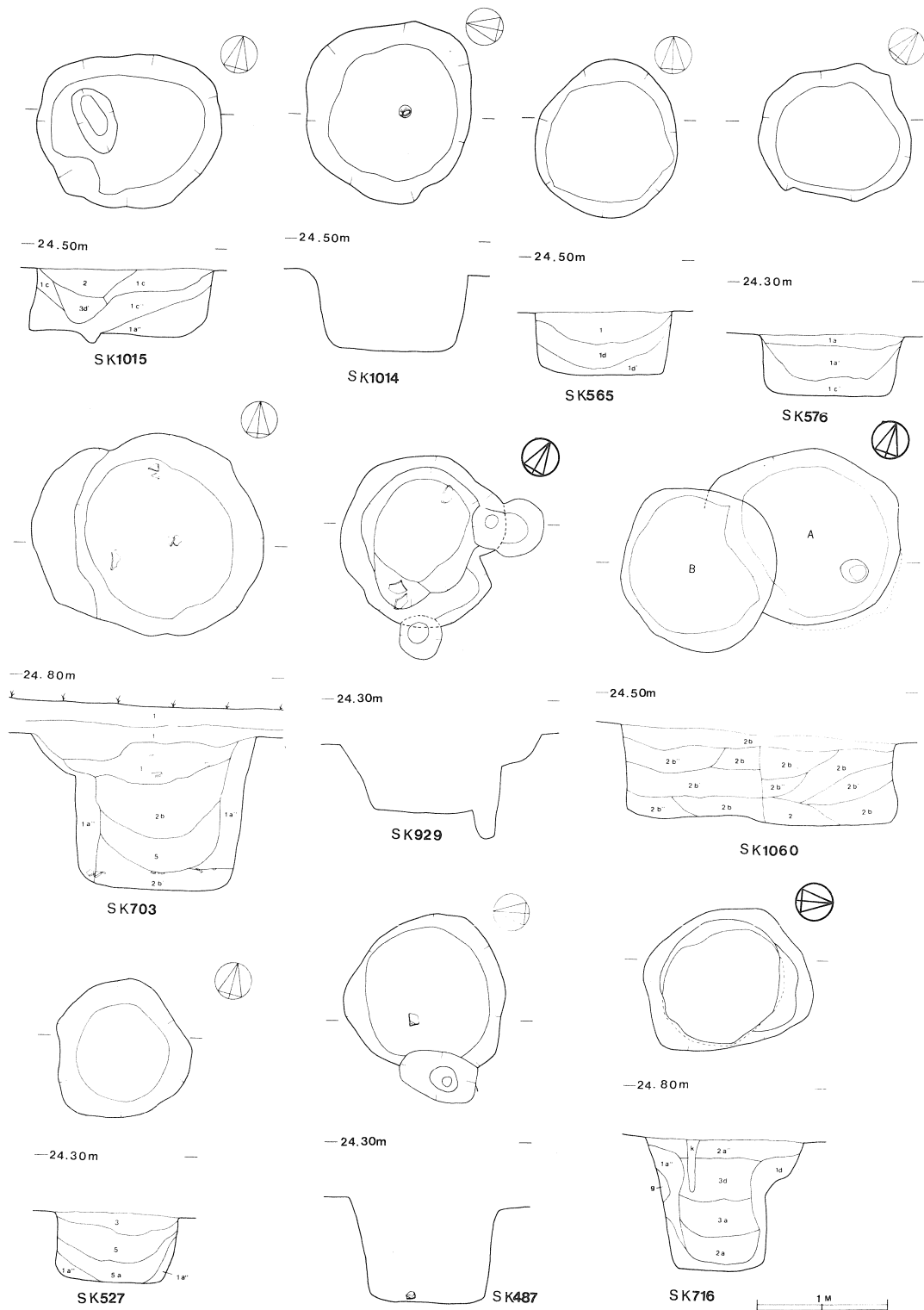
第87図 土壤実測図(32)



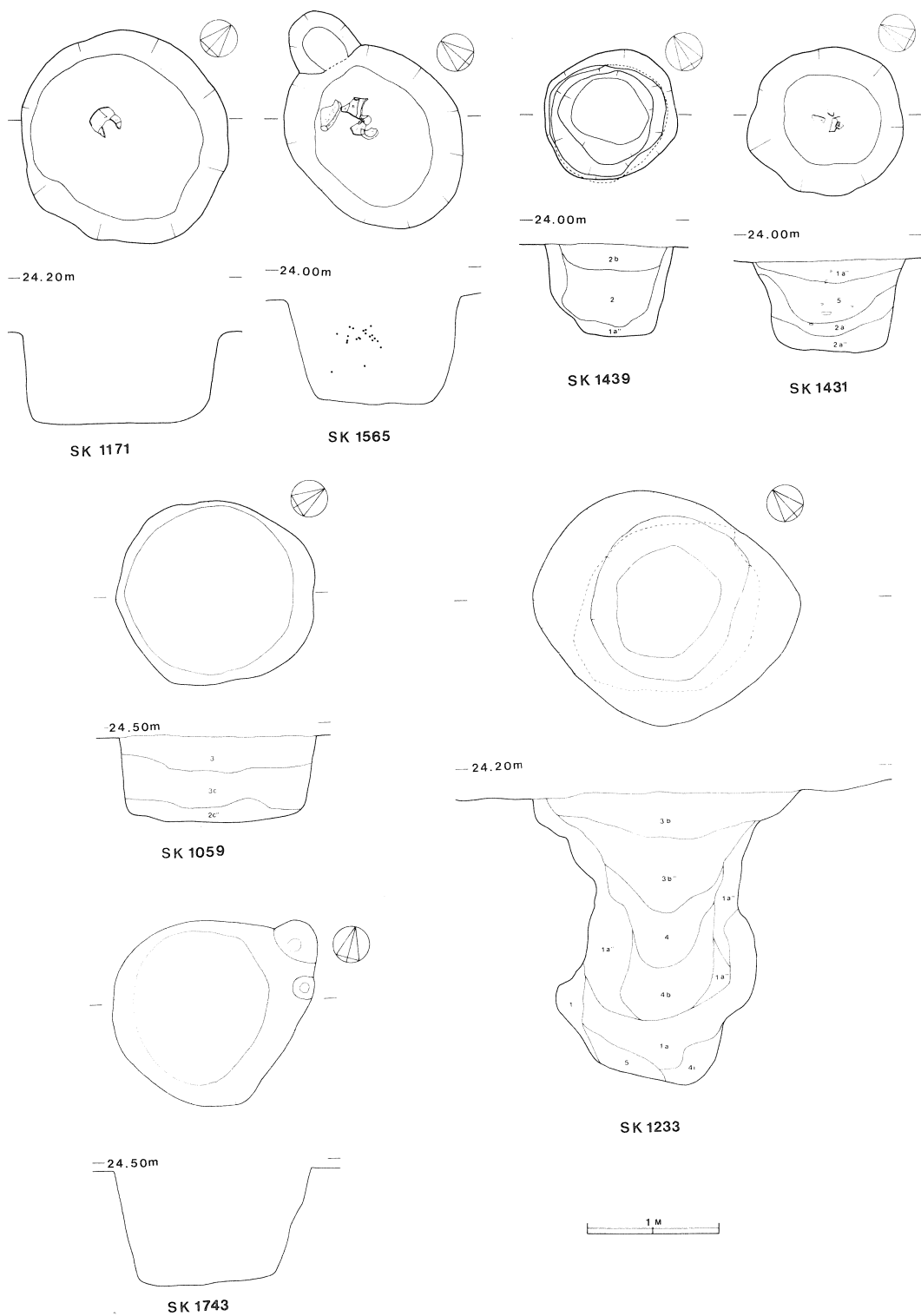
第88図 土 壙 実 測 図 (33)



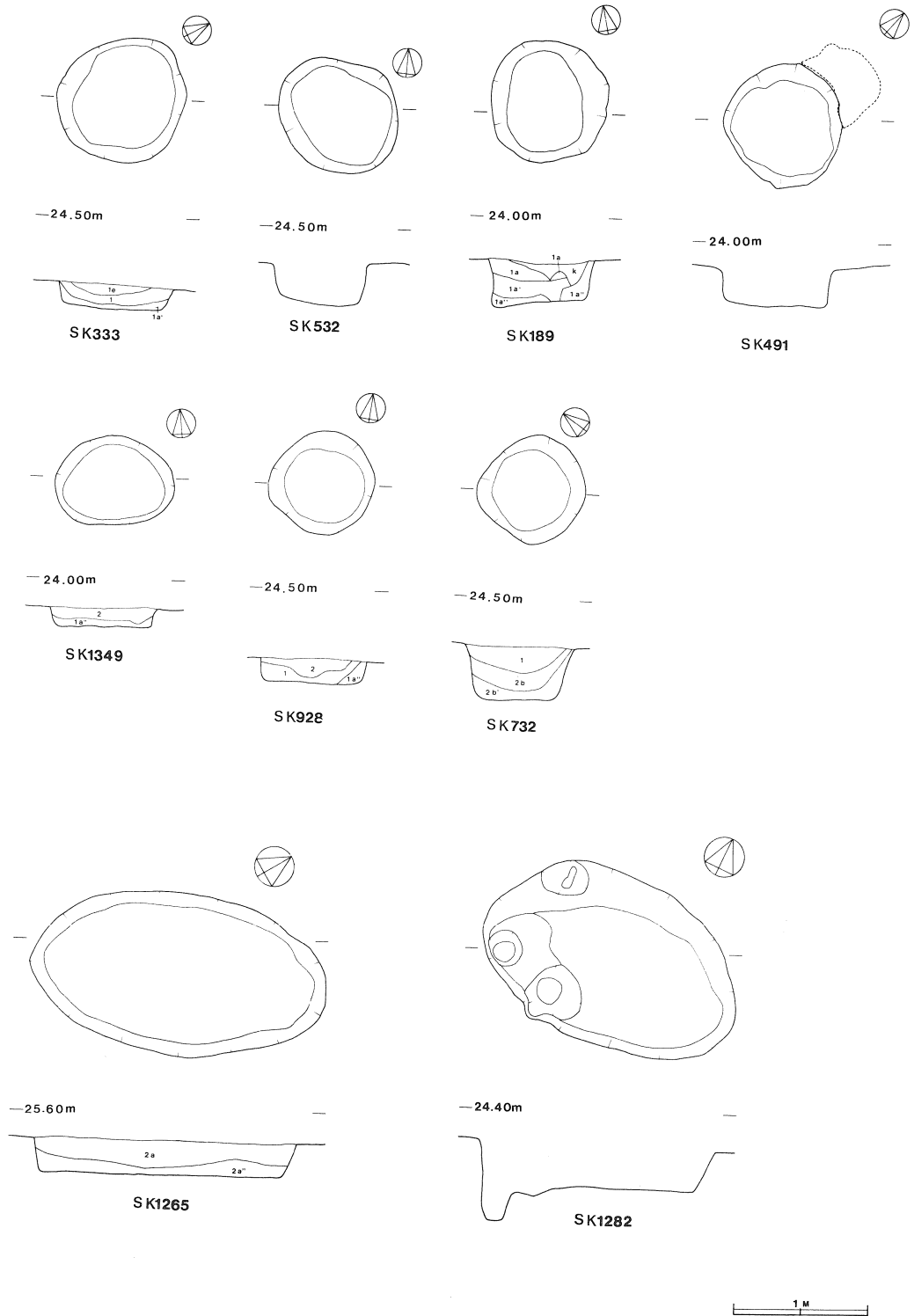
第89図 土 壤 実 測 図 (34)



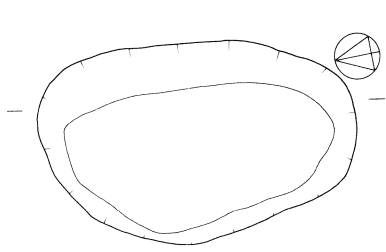
第90图 土壤实测图(35)



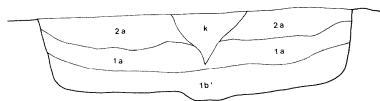
第91図 土 壤 実 測 図 (36)



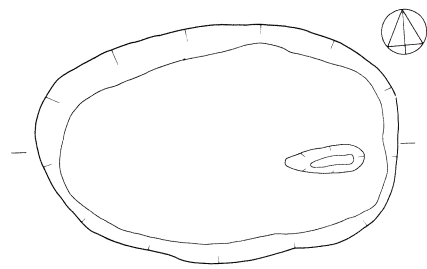
第92図 土 壤 実 測 図 (37)



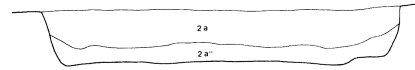
- 25.00m



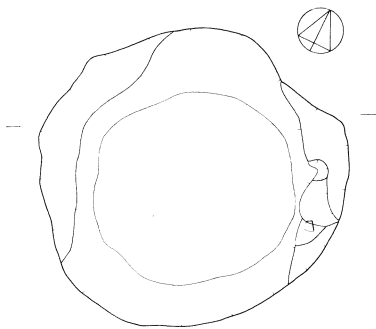
SK791



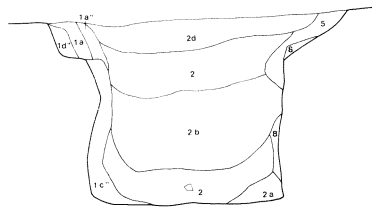
- 24.80m



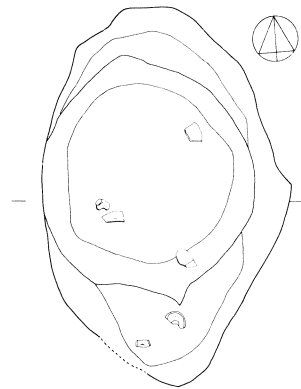
SK757



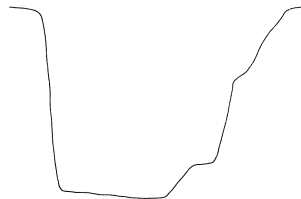
- 24.00m



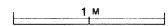
SK165



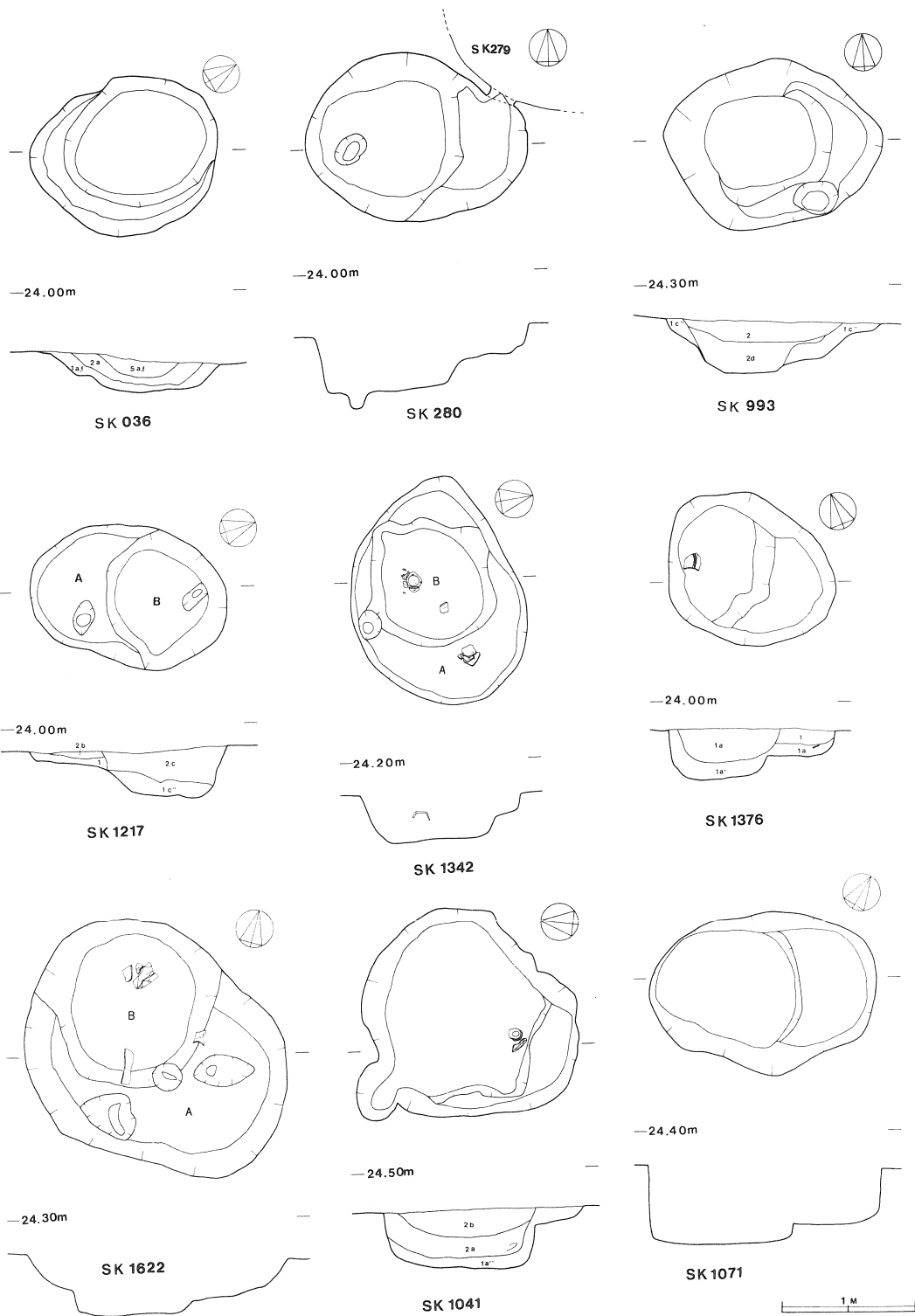
- 24.80m



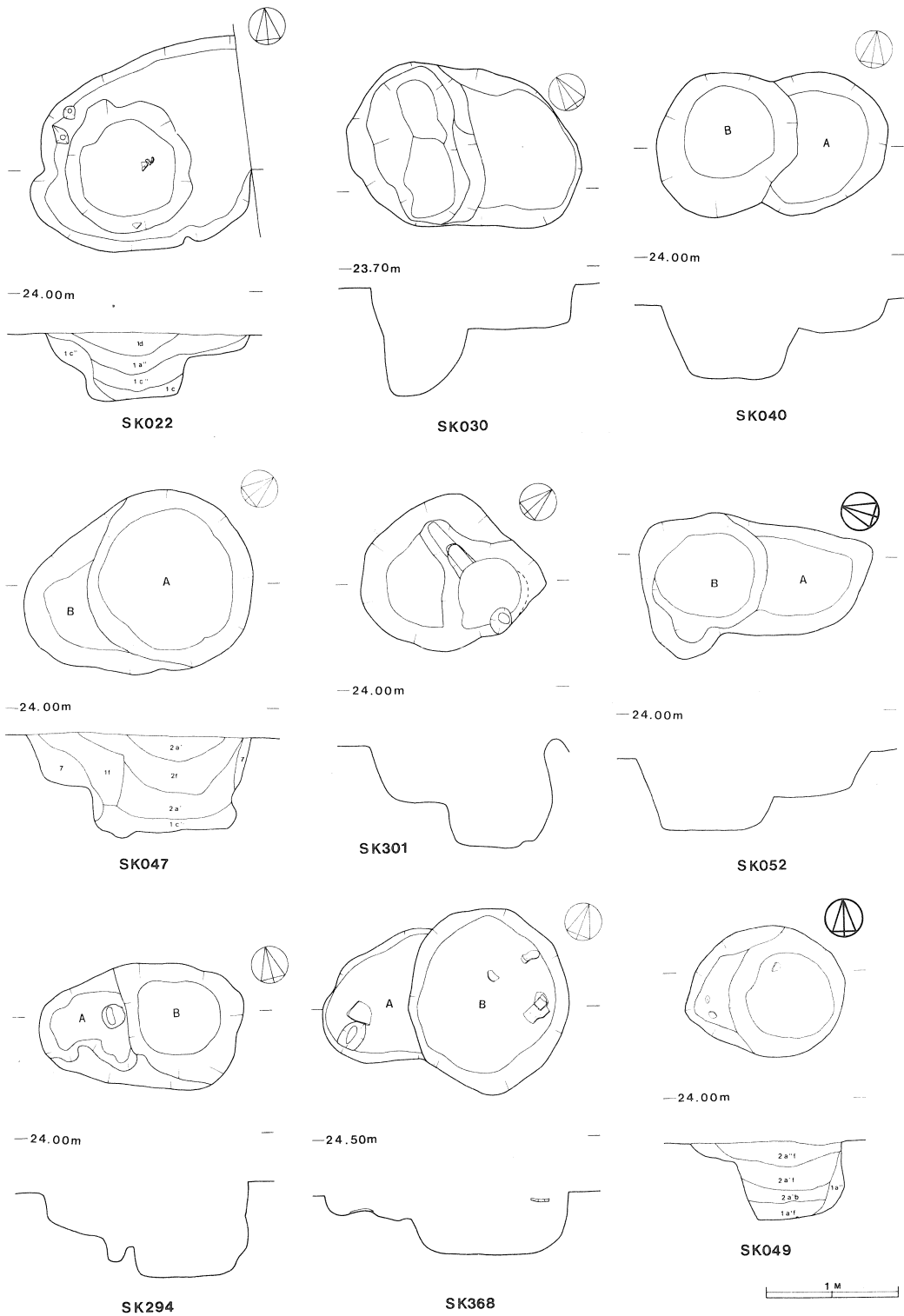
SK638



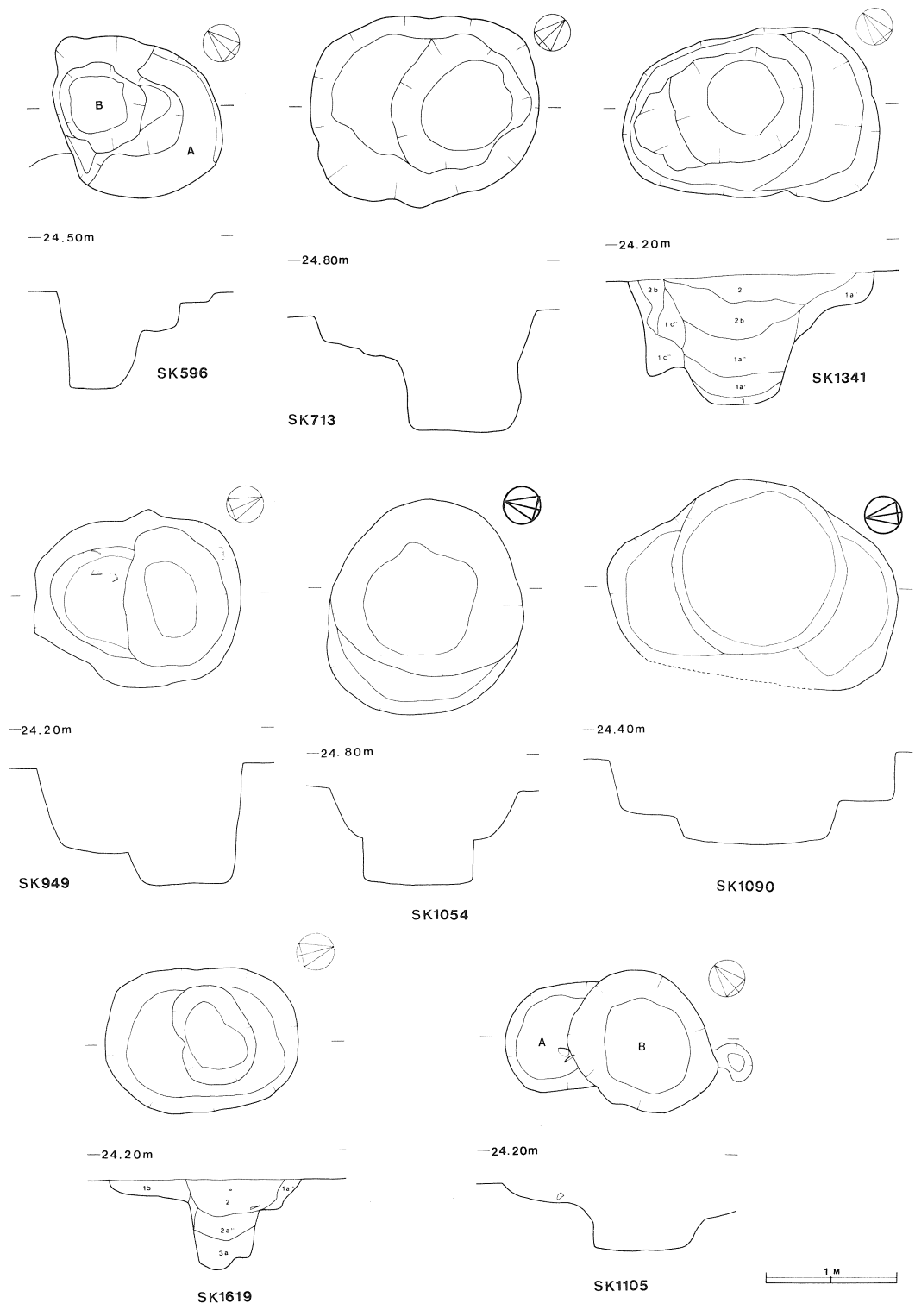
第93图 土壤実測図(38)



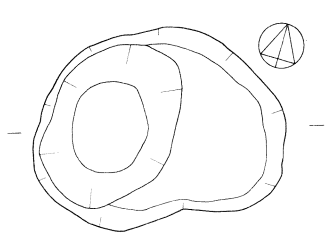
第94図 土 墳 実 測 図 (39)



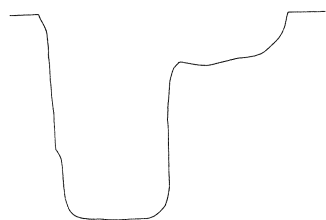
第95図 土壤実測図(40)



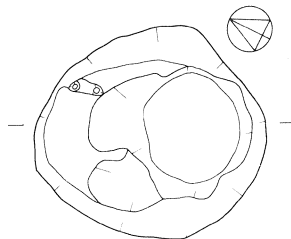
第96图 土壤实测图(41)



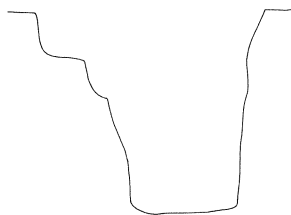
-25.00m



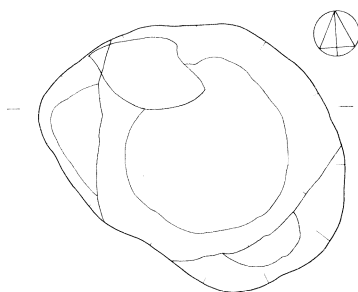
SK 789



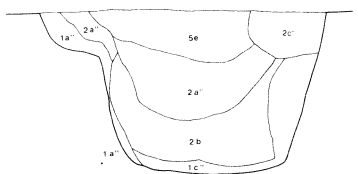
-24.50m



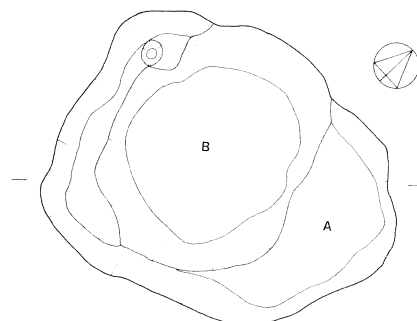
SK 1093



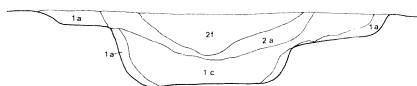
-24.00m



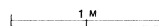
SK 1671



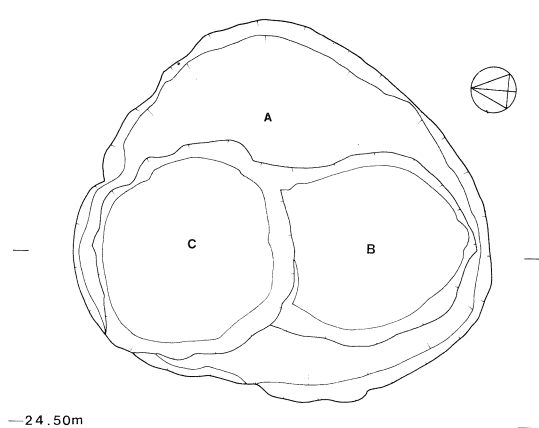
-24.50m



SK 340



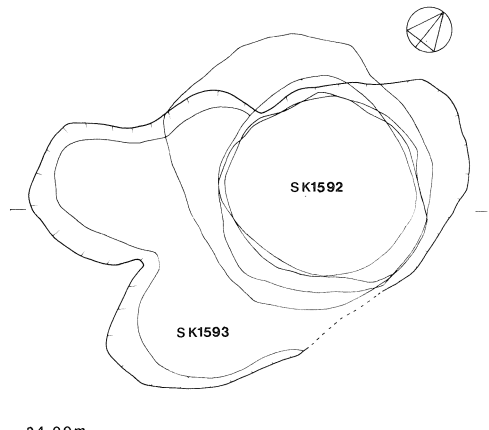
第97図 土 壙 実 測 図 (42)



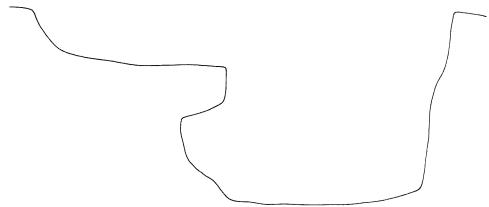
-24.50m



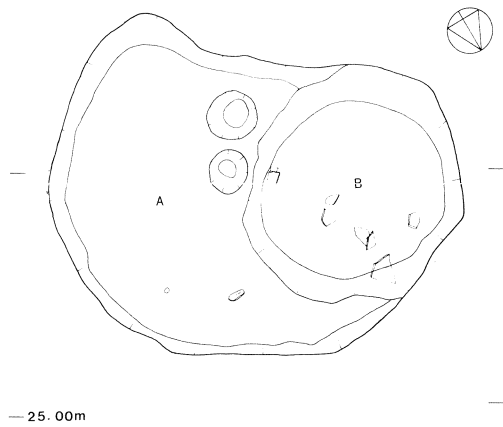
SK662



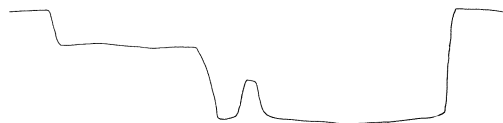
-24.00m



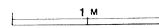
SK1592.1593



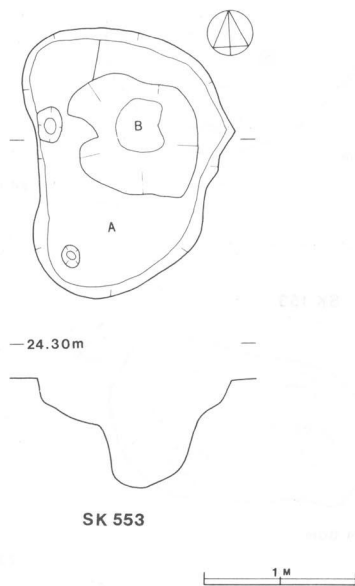
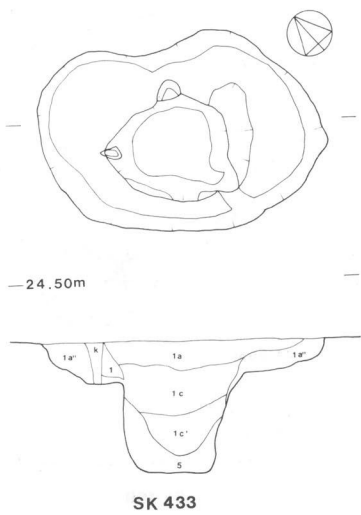
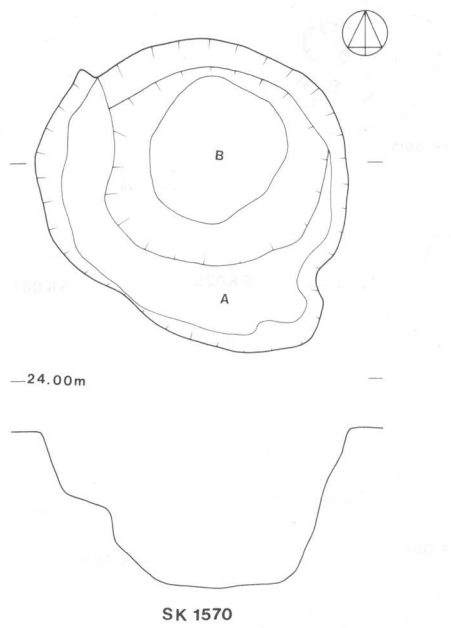
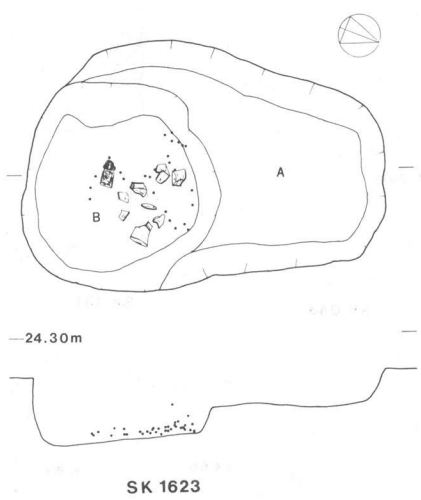
-25.00m



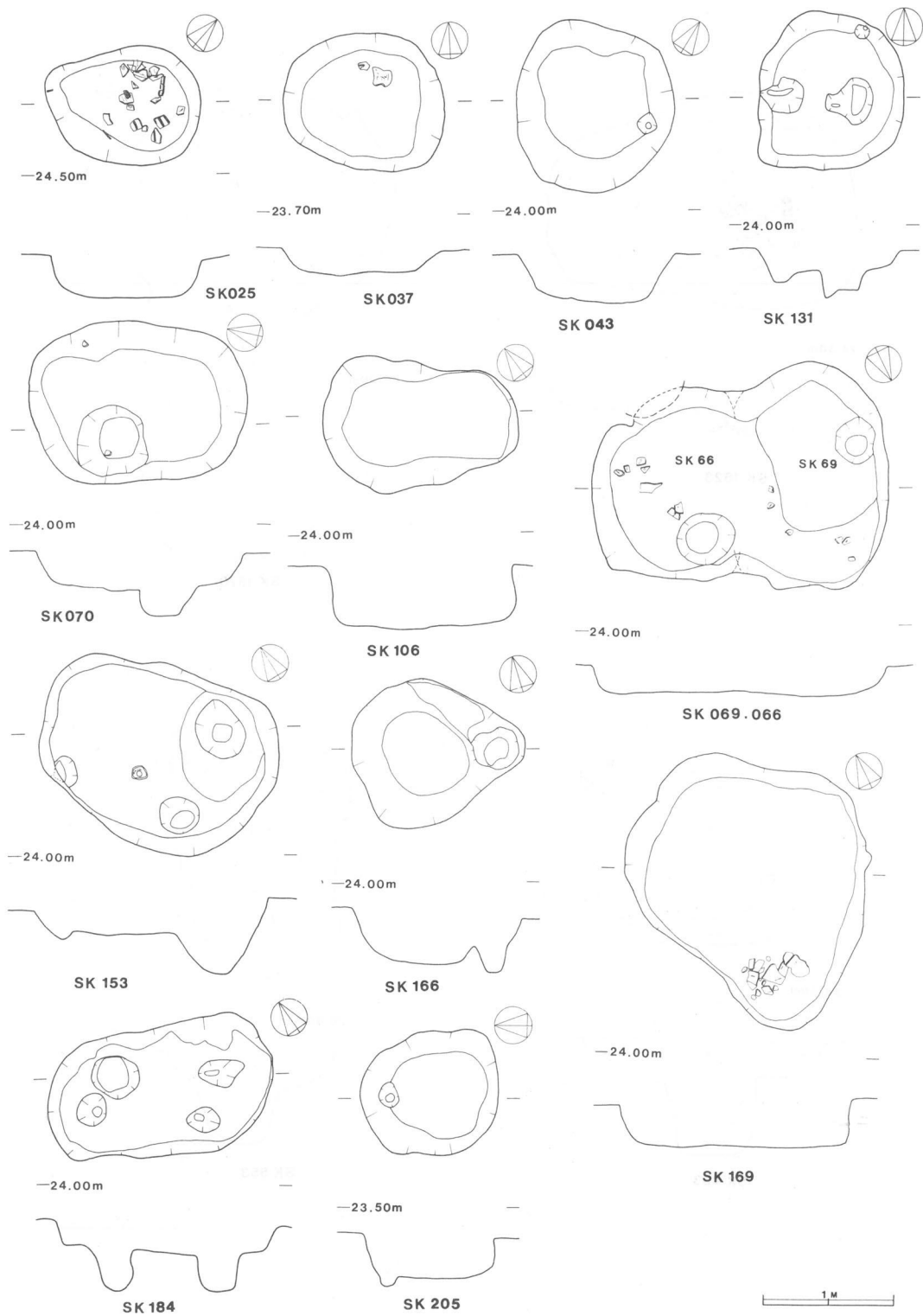
SK677



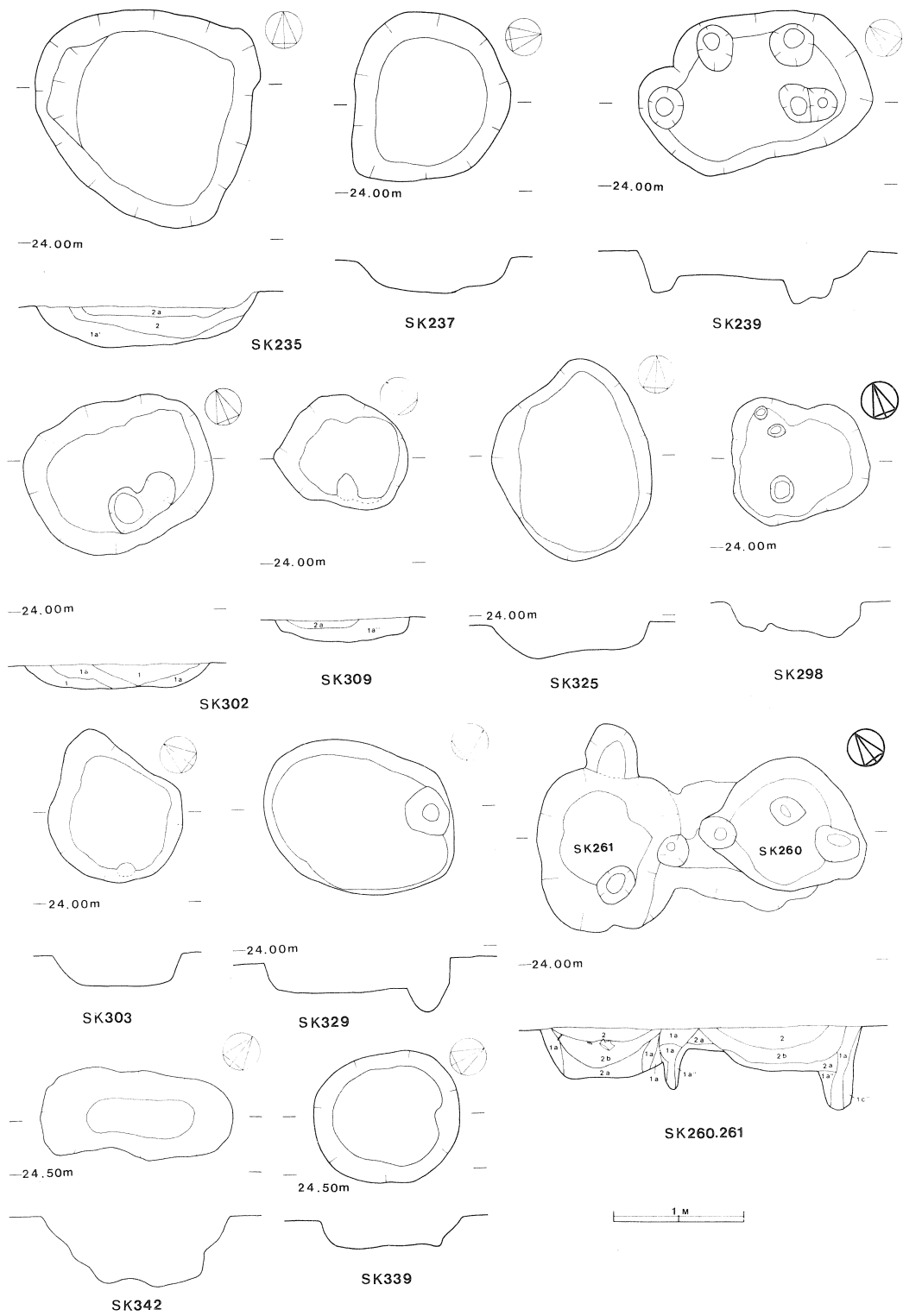
第98図 土 壤 実 測 図 (43)



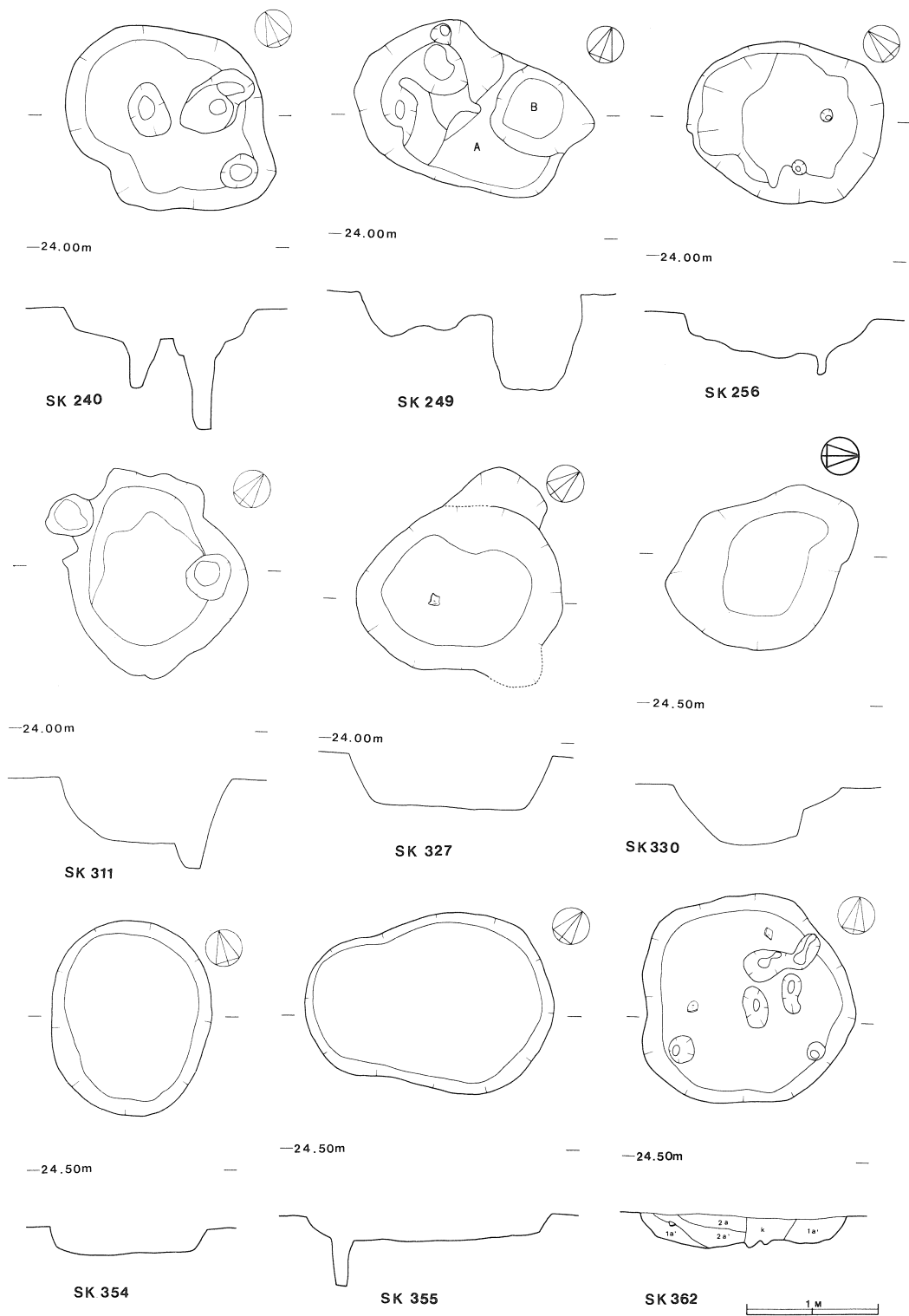
第99図 土壤実測図(44)



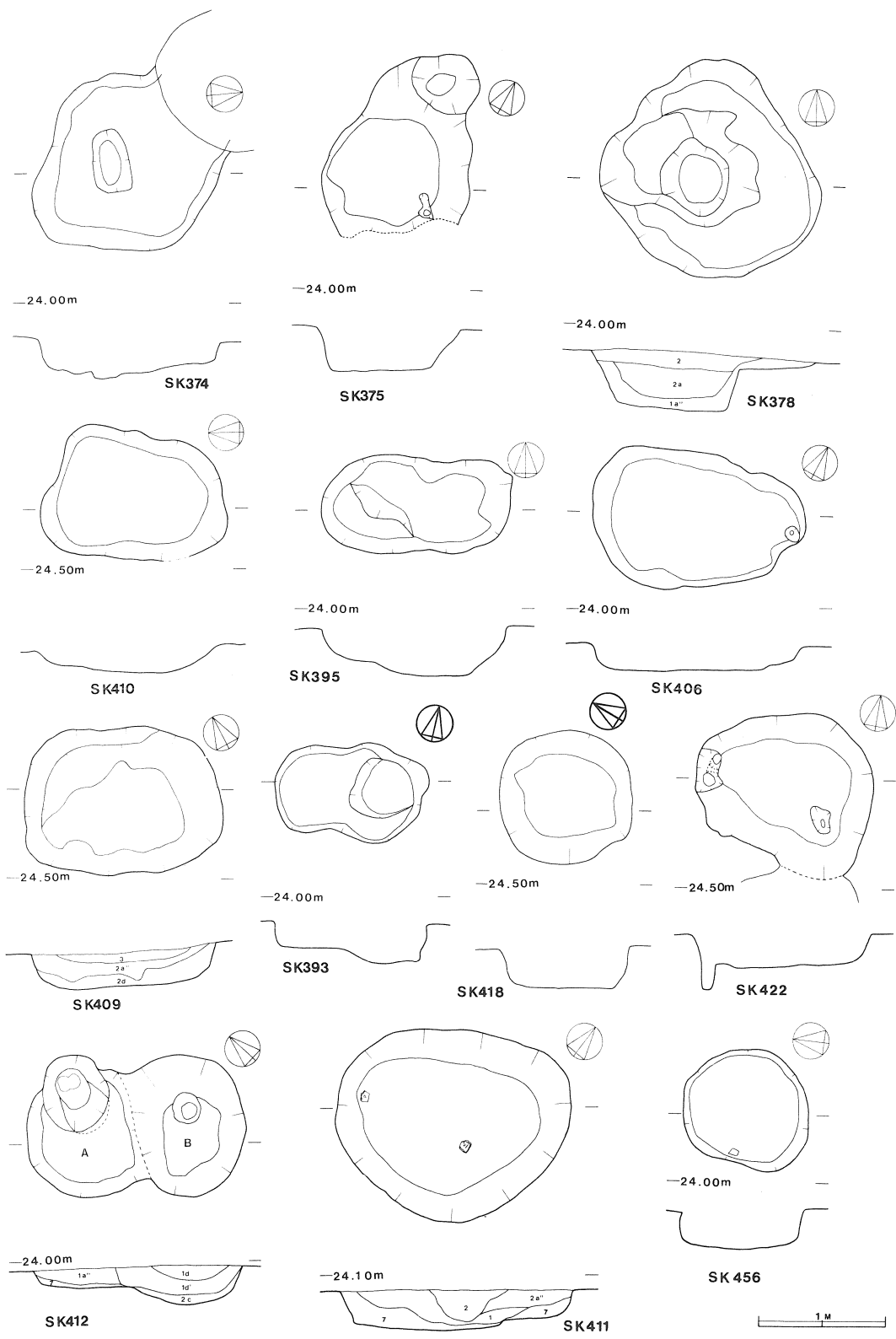
第100図 土 壤 実 測 図 (45)



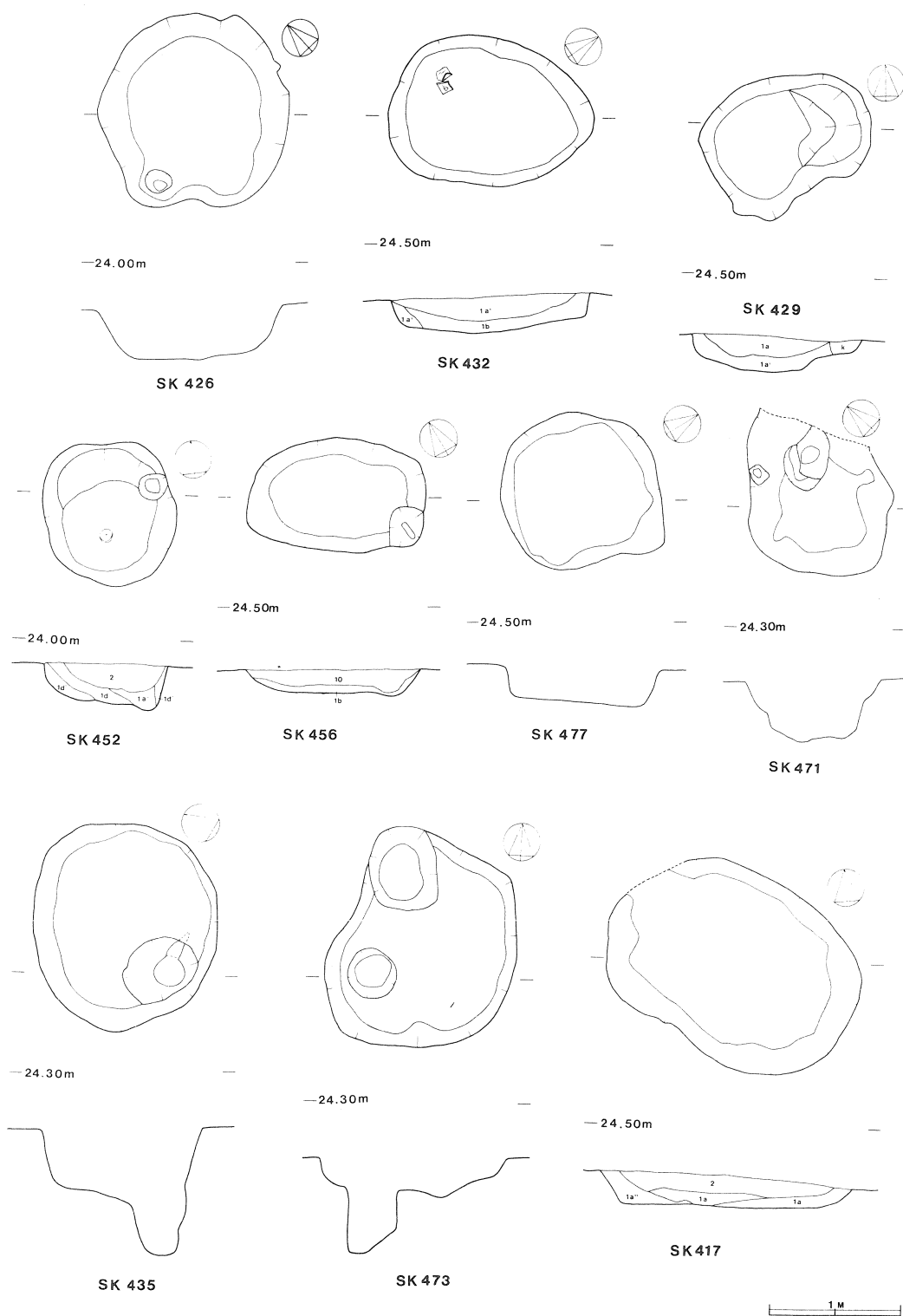
第101図 土壤実測図(46)



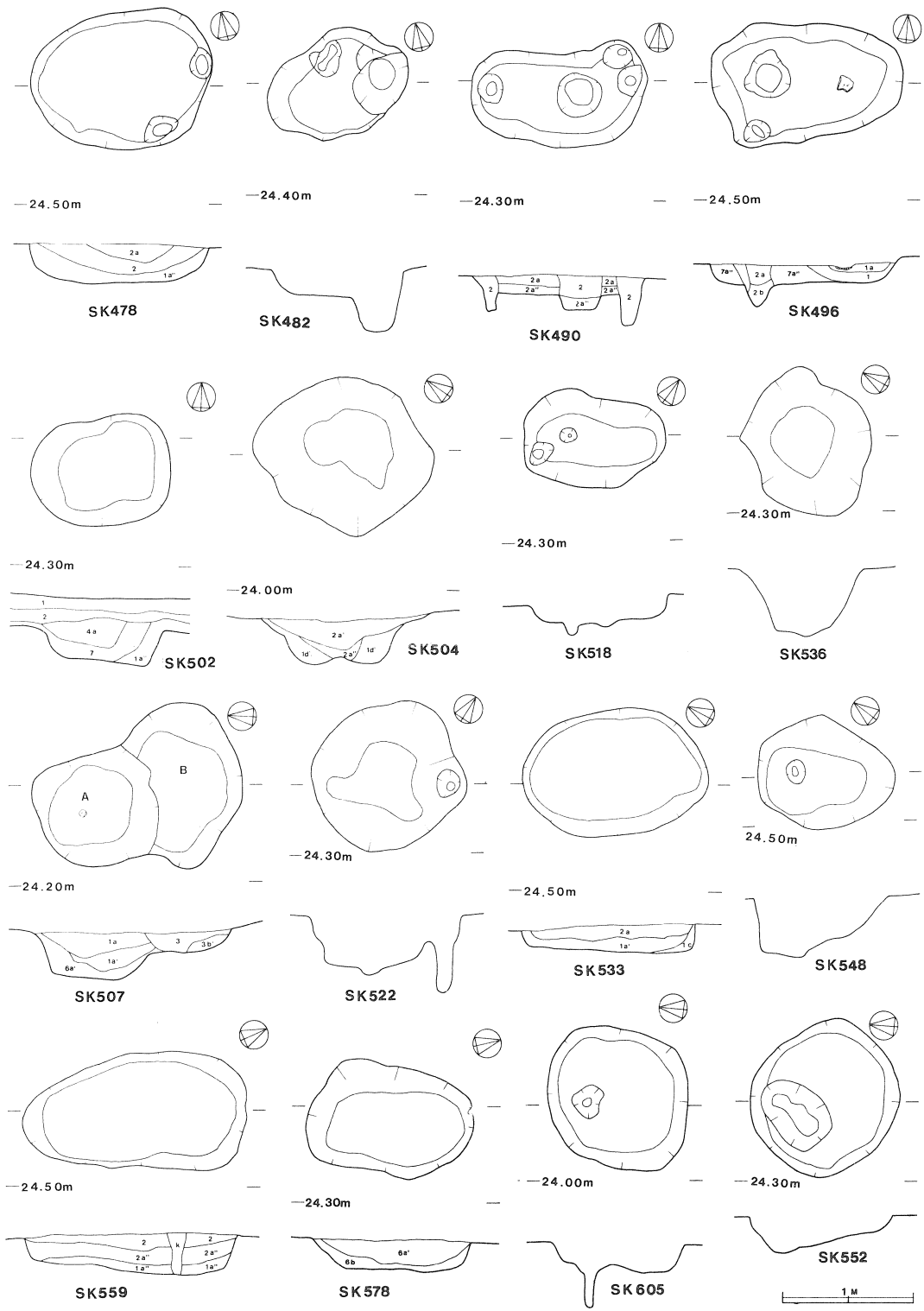
第102図 土 壙 実 測 図 (47)



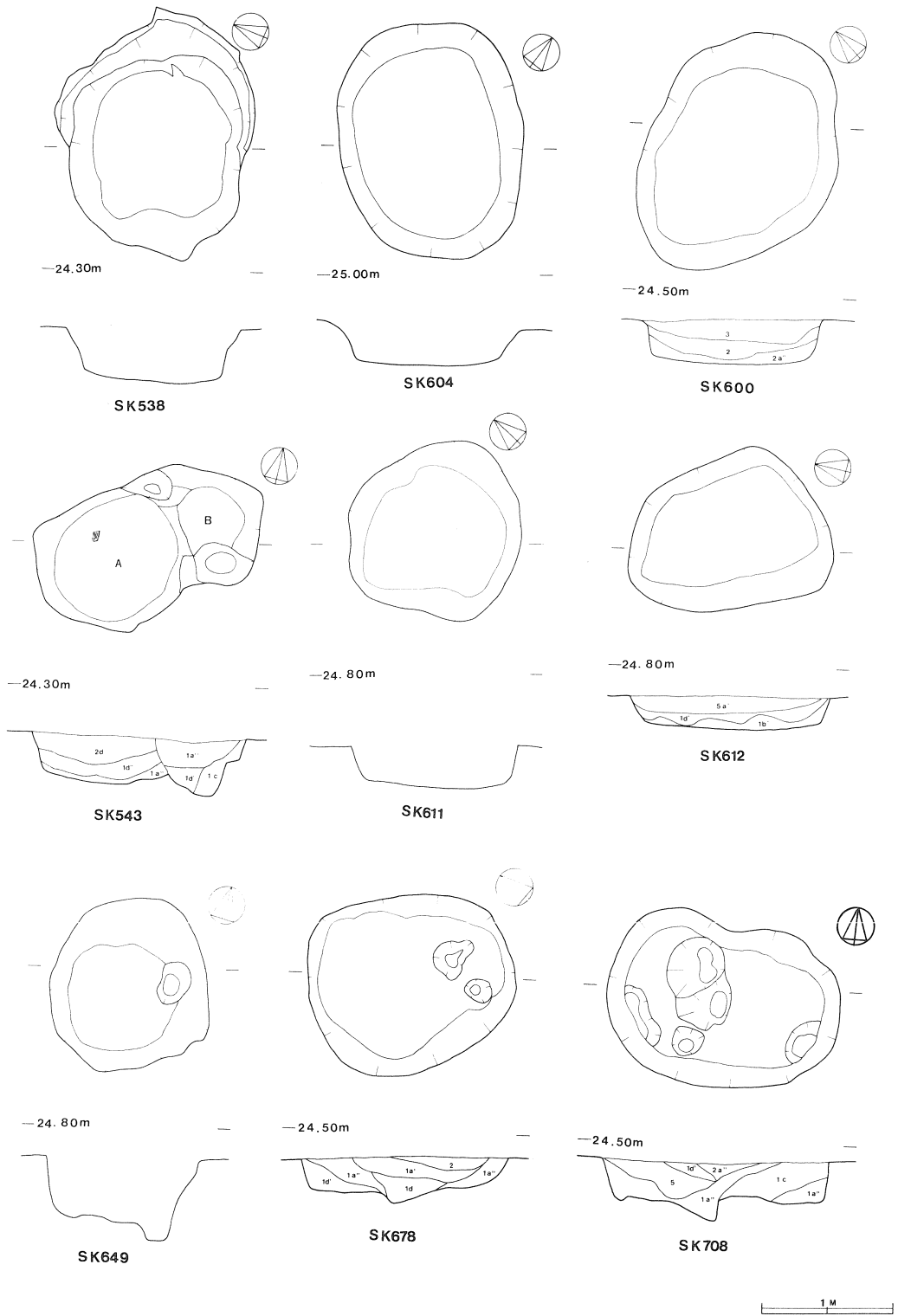
第103図 土壤実測図(48)



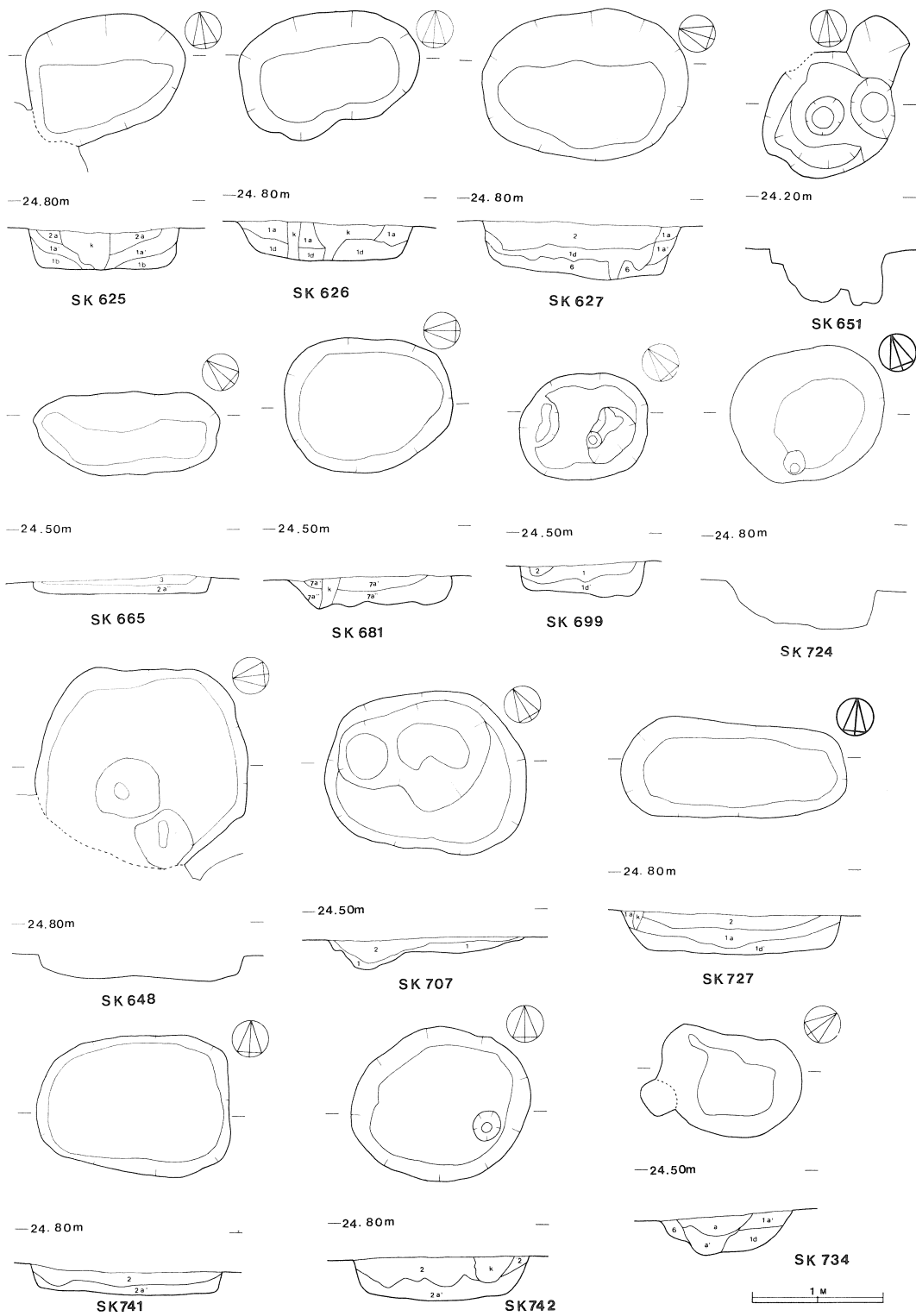
第104図 土 墳 実 測 図 (49)



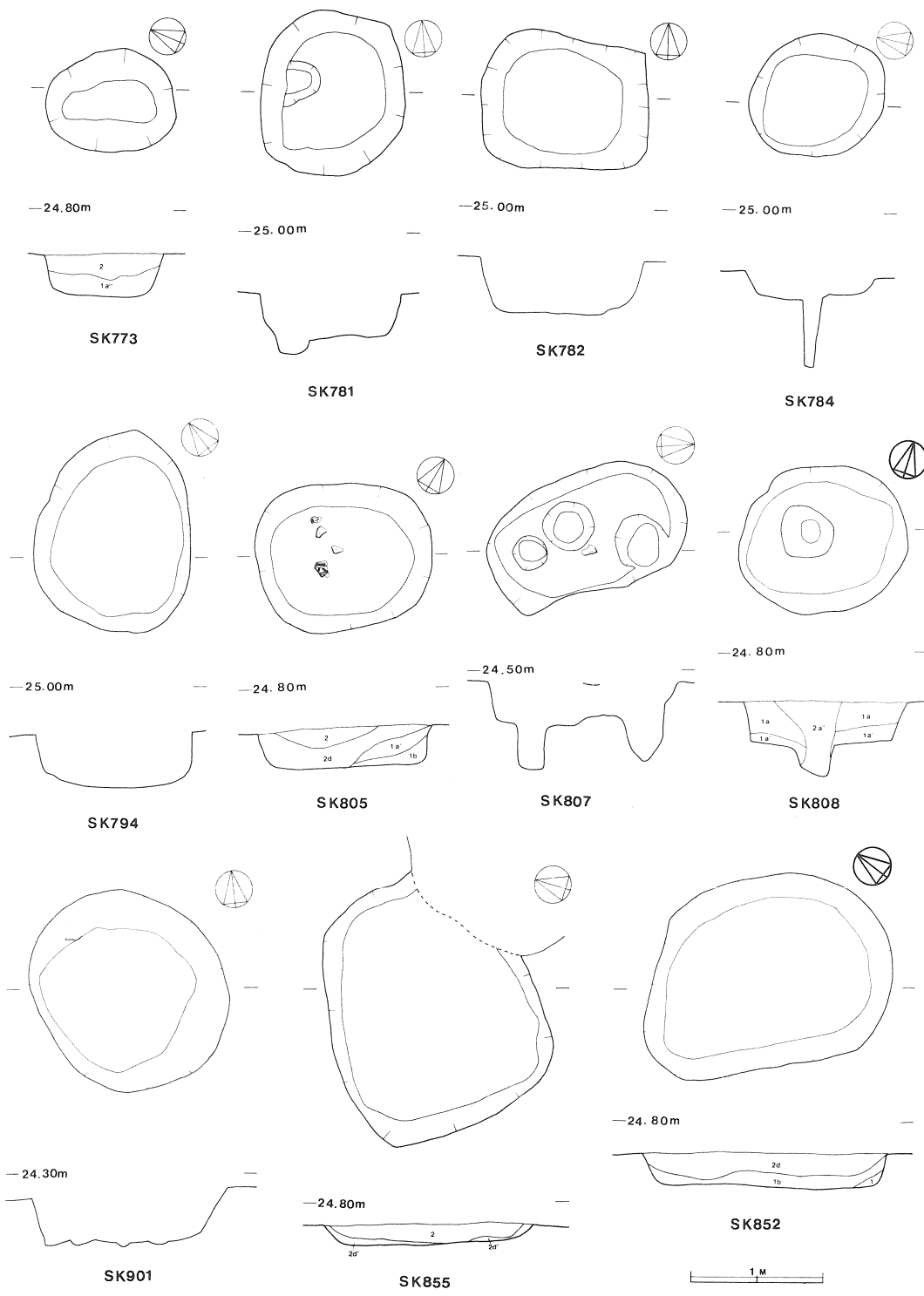
第105図 土壤実測図(50)



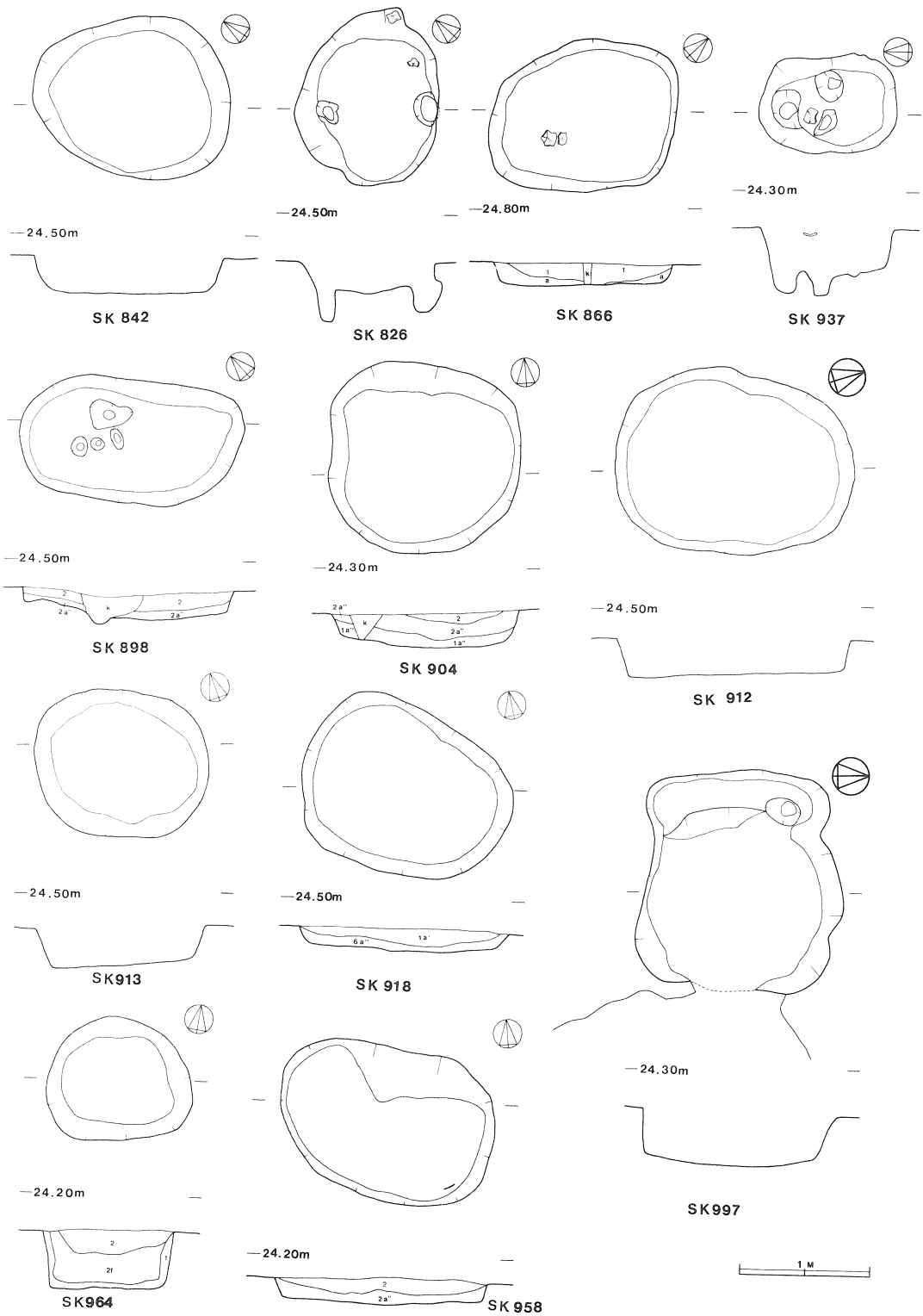
第106図 土 壤 実 測 図 (51)



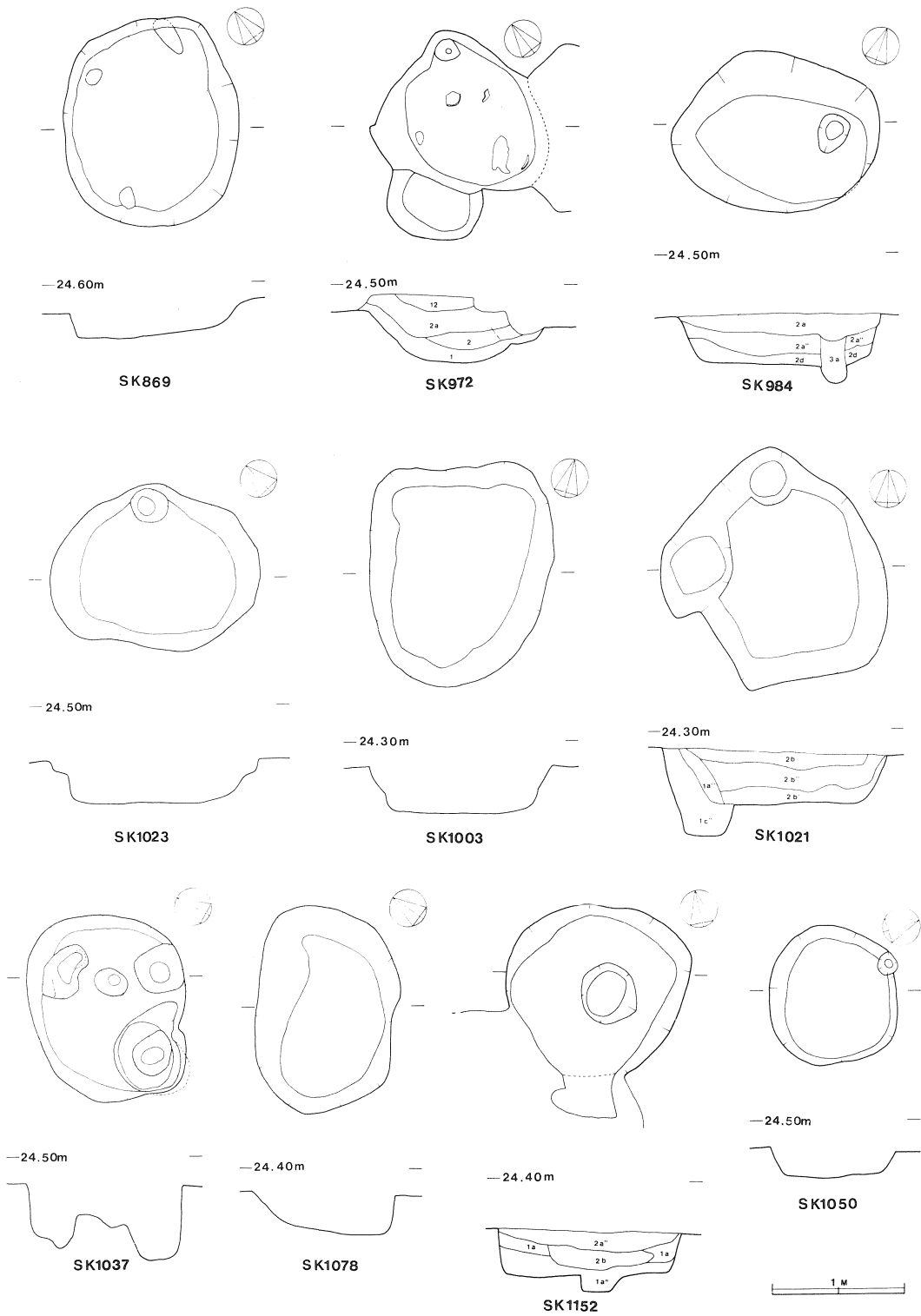
第107図 土壤実測図(52)



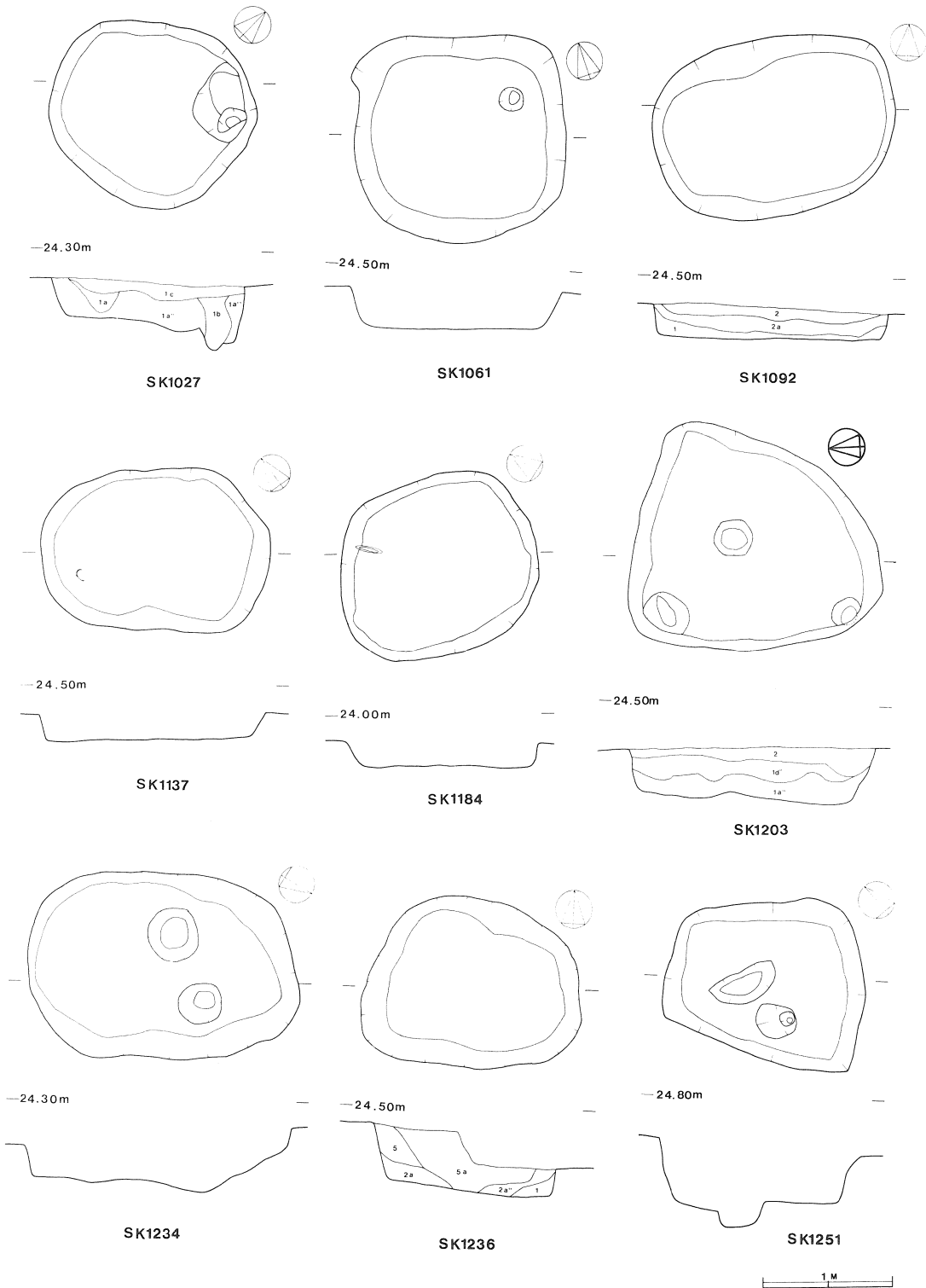
第108图 土壤实测图(53)



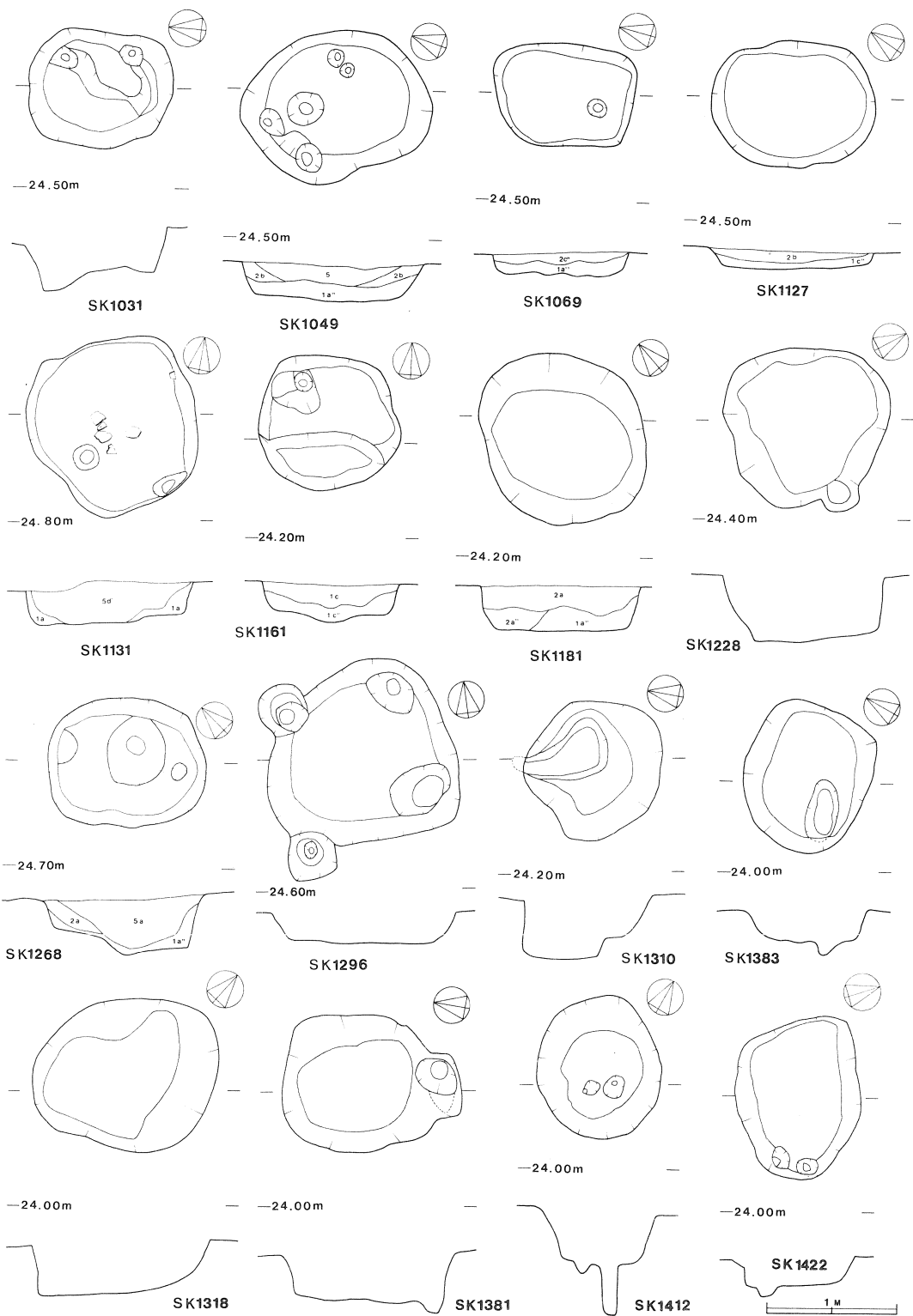
第109図 土壤実測図(54)



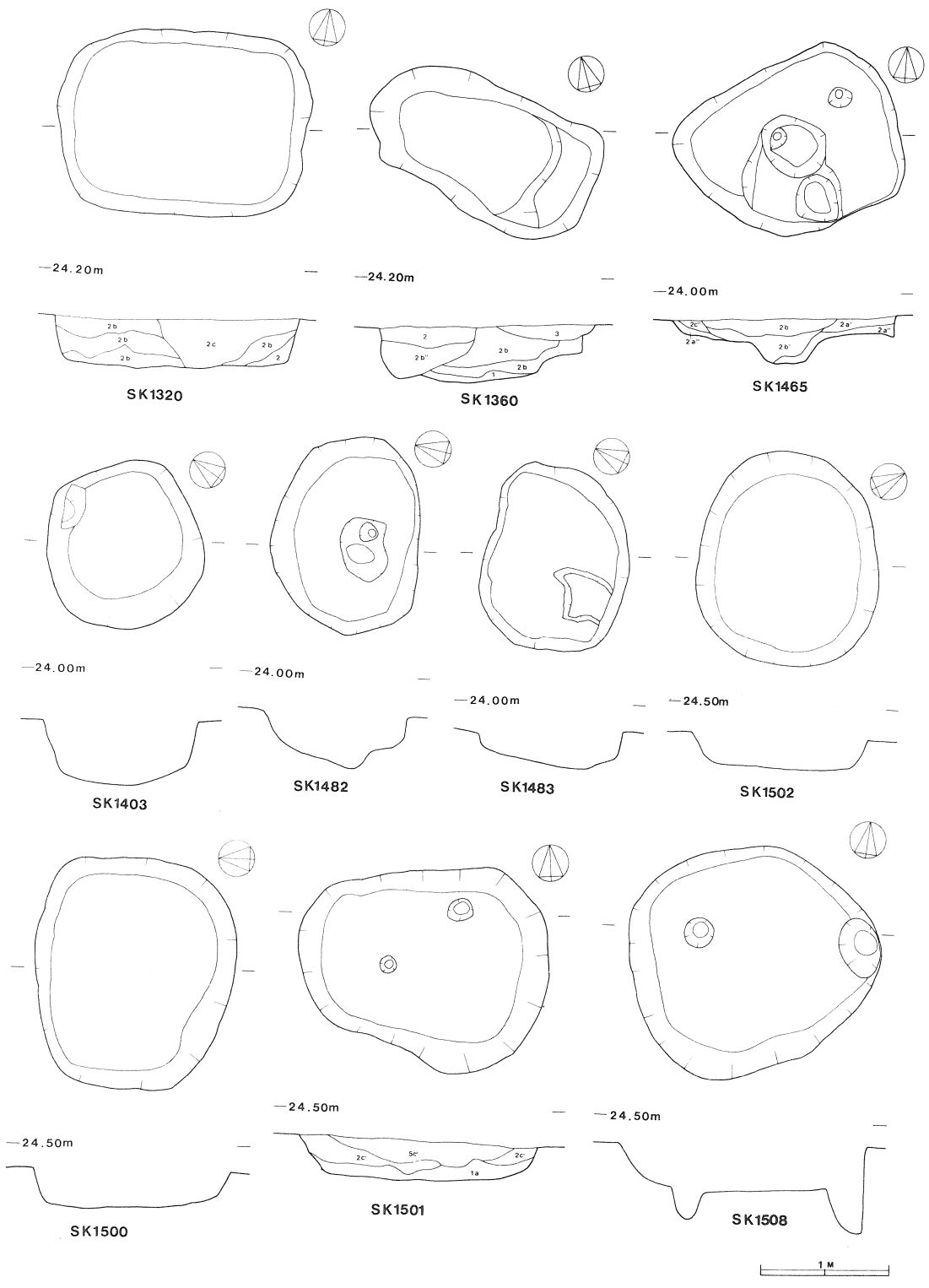
第110図 土 墳 実 測 図 (55)



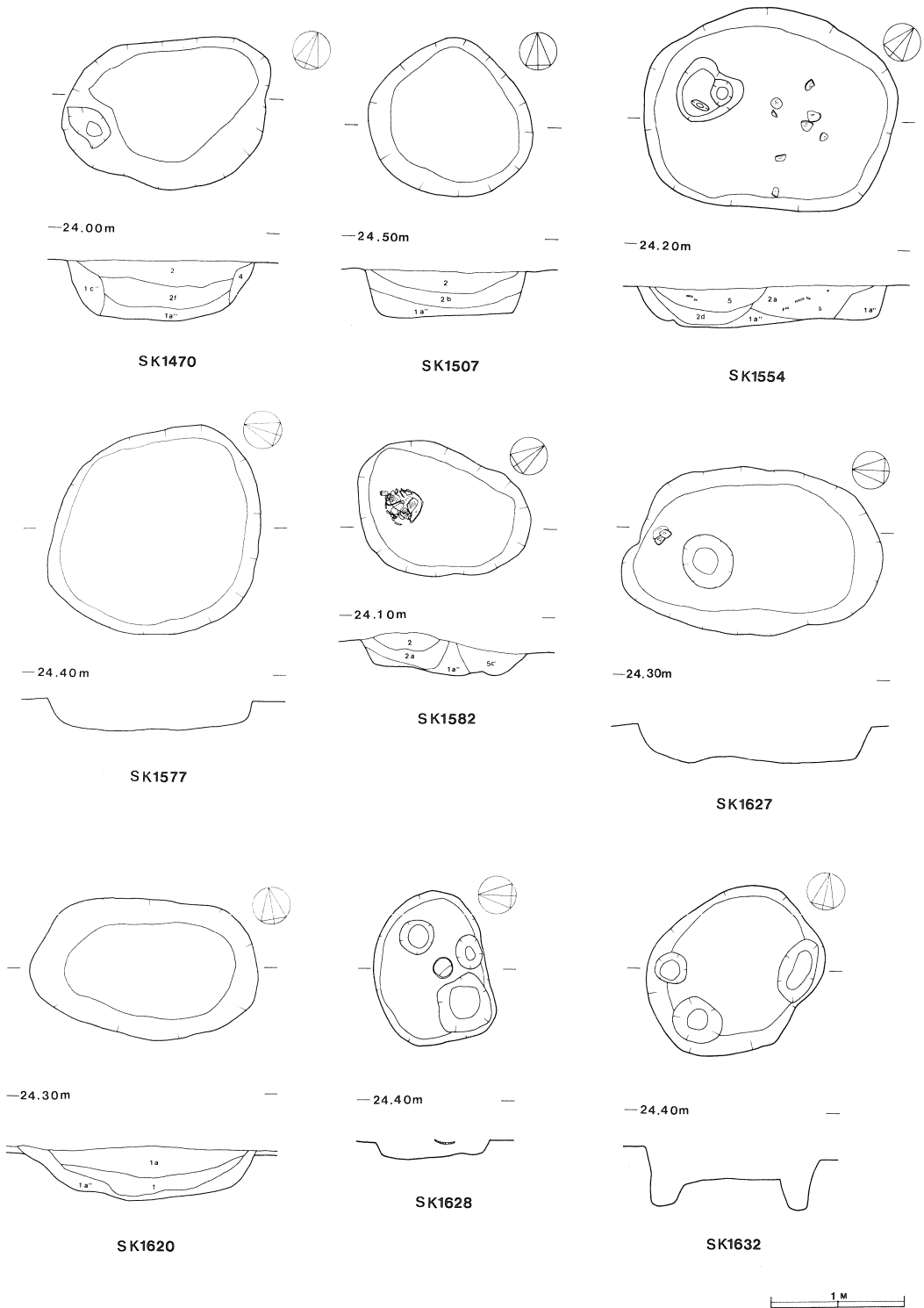
第111図 土 壙 実 測 図 (56)



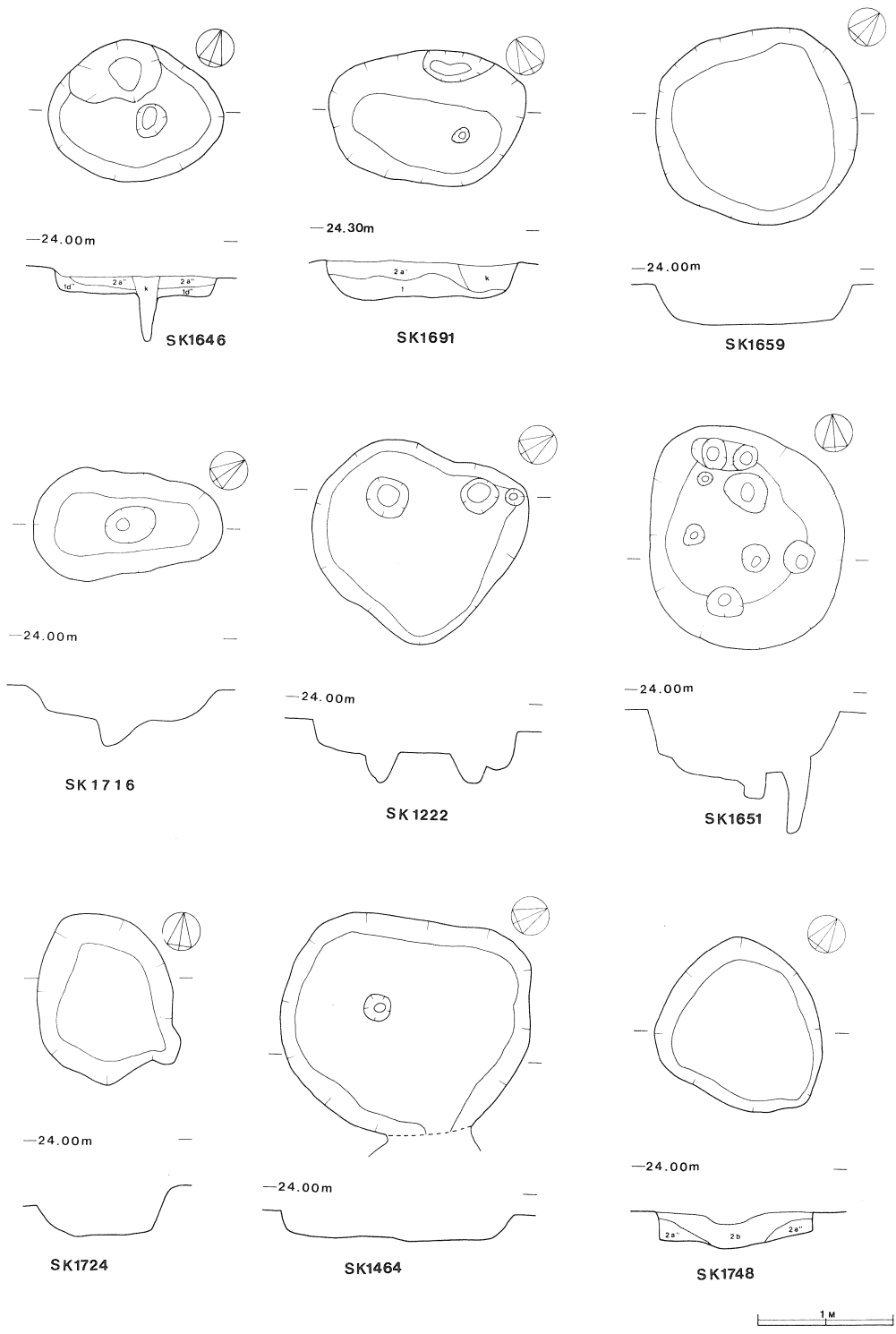
第112図 土 壤 実 測 図 (57)



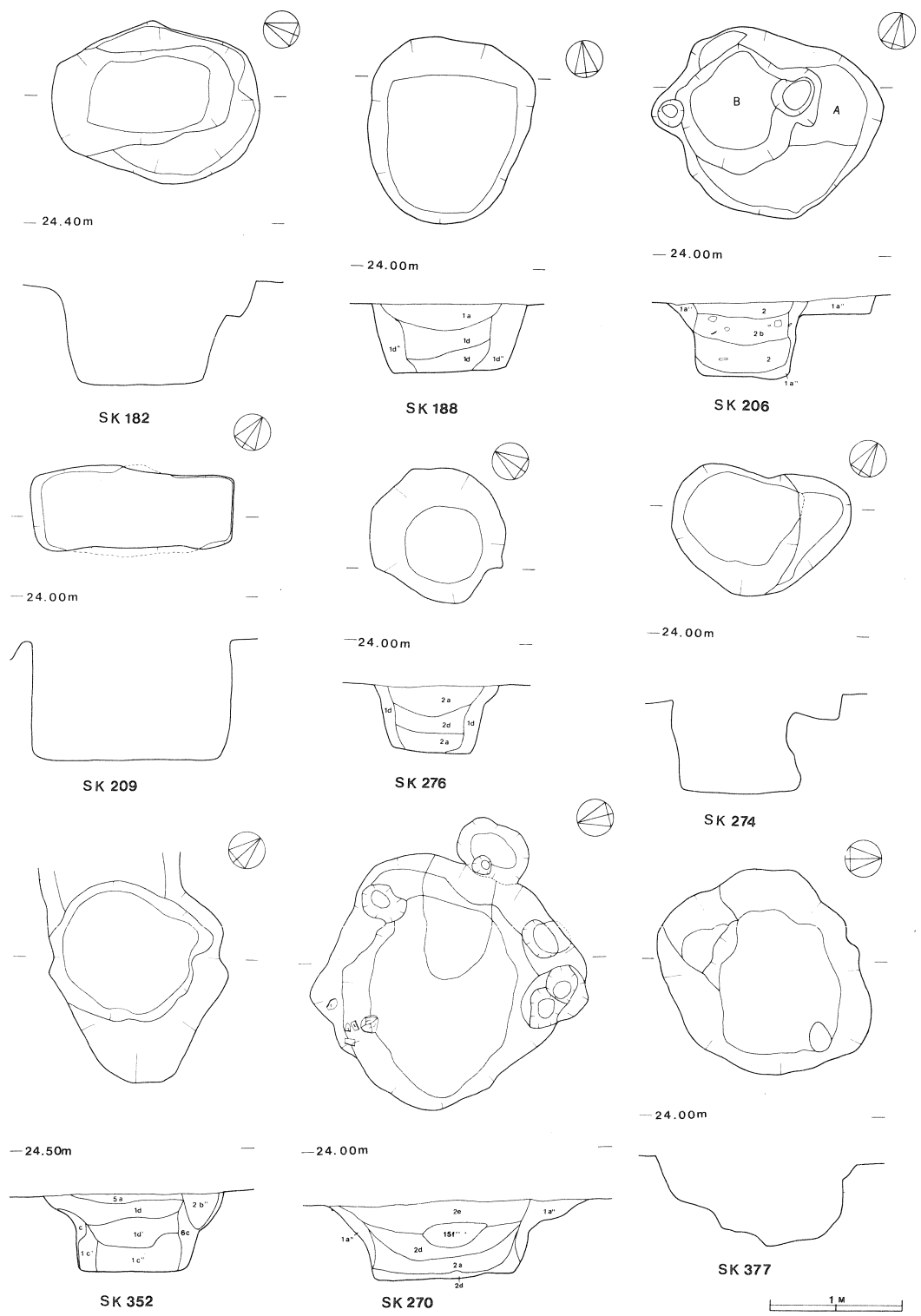
第113図 土壤実測図(58)



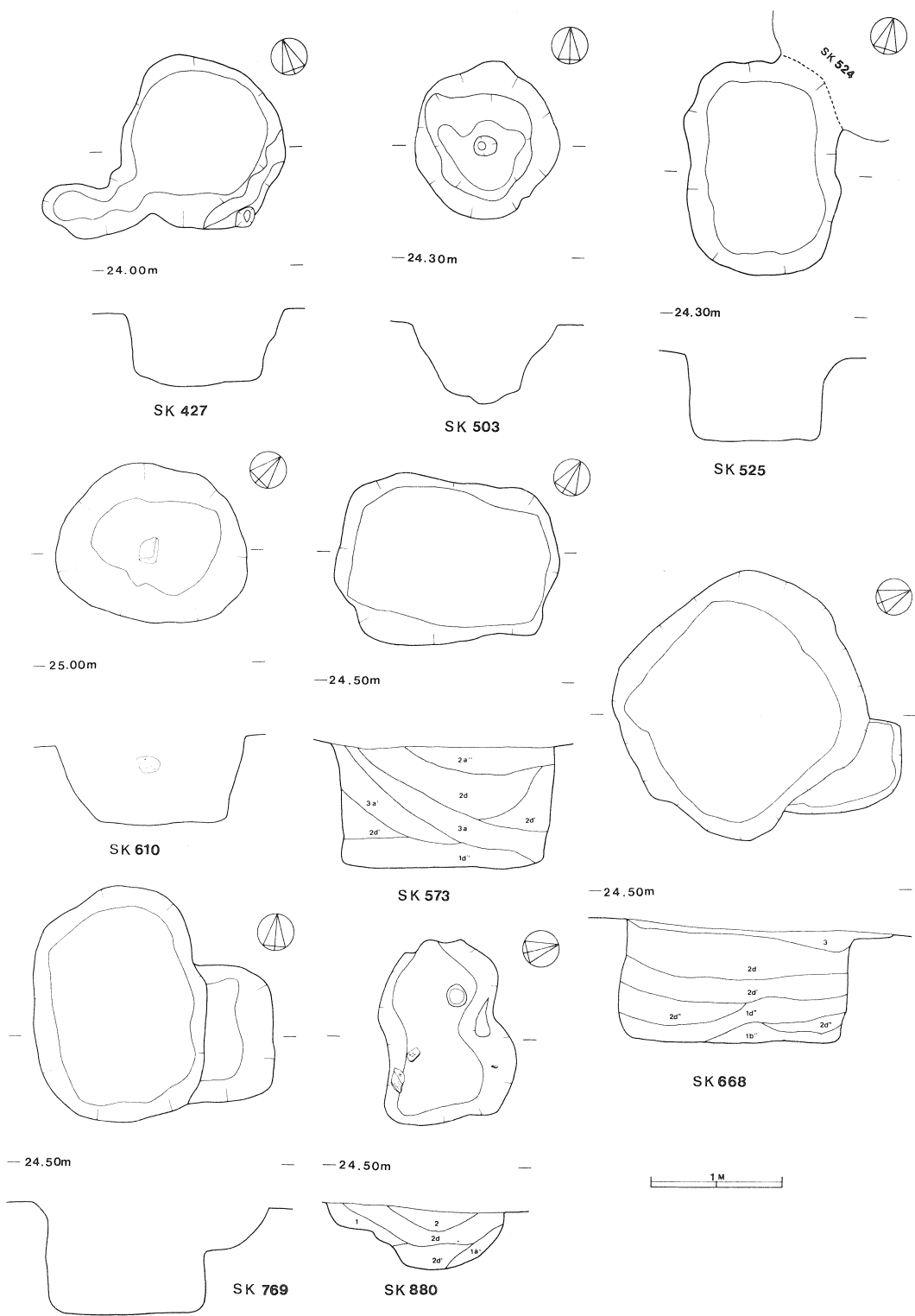
第114图 土壤実測図(60)



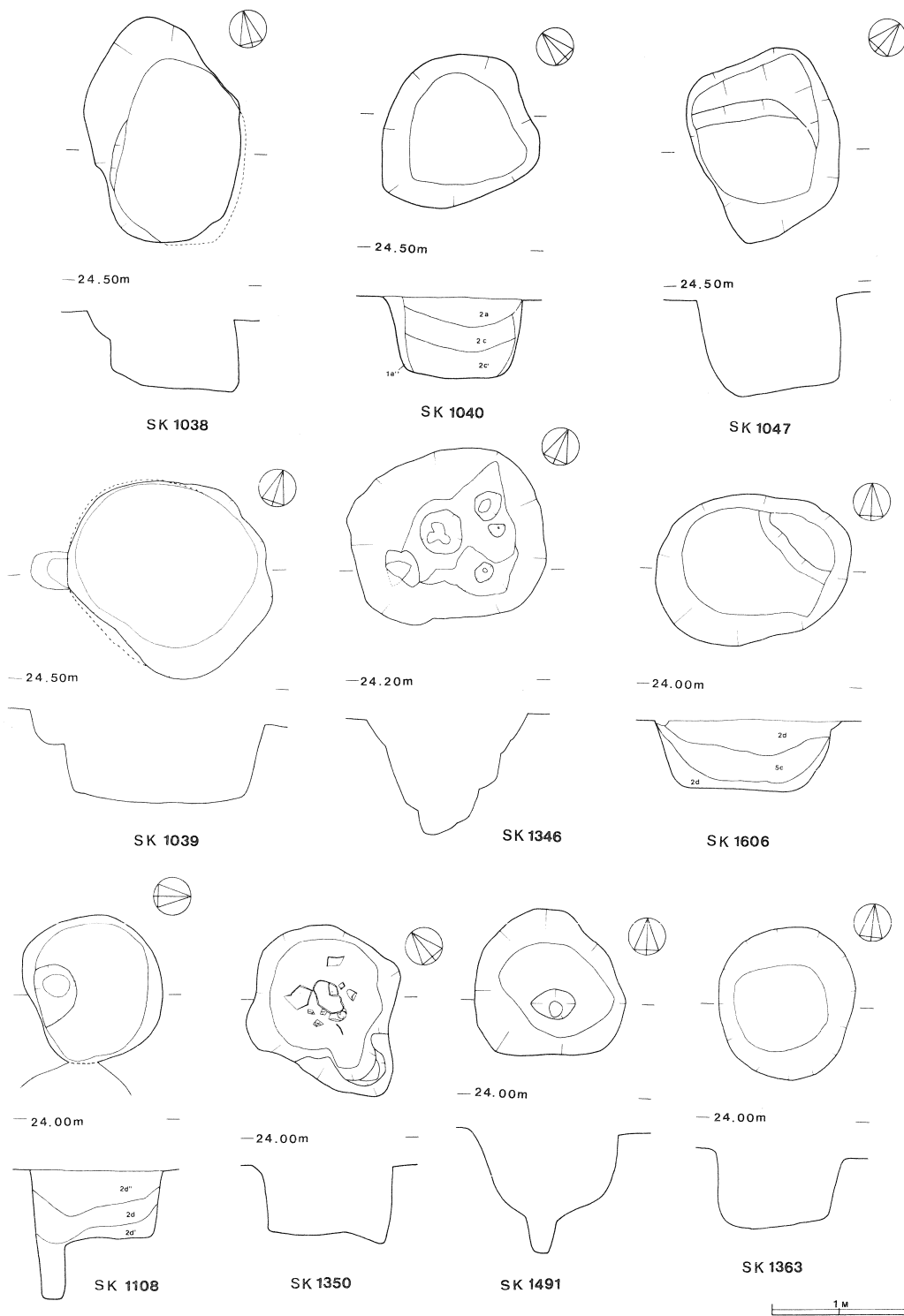
第115図 土 墳 実 測 図 (60)



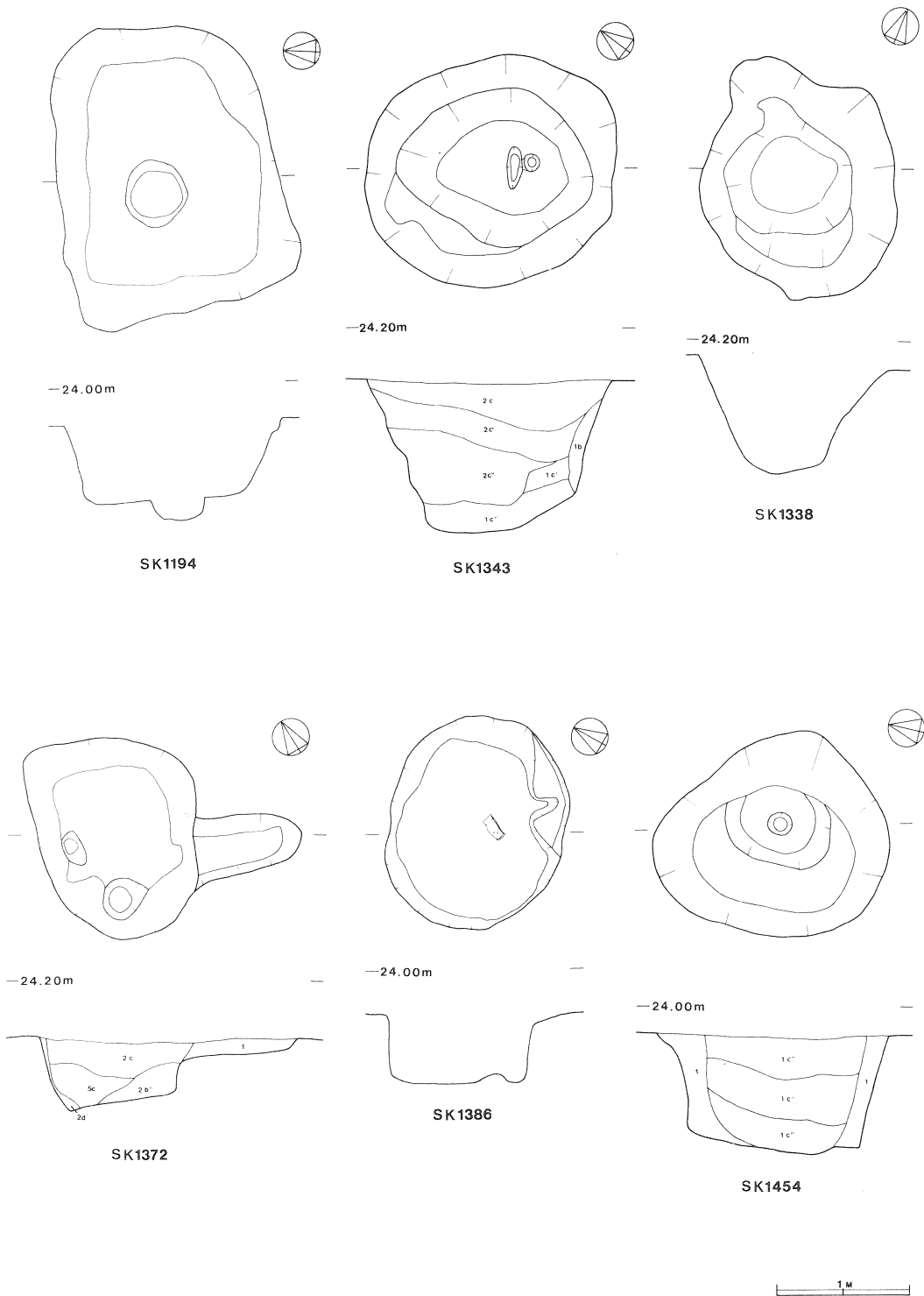
第116図 土 壤 実 測 図 (61)



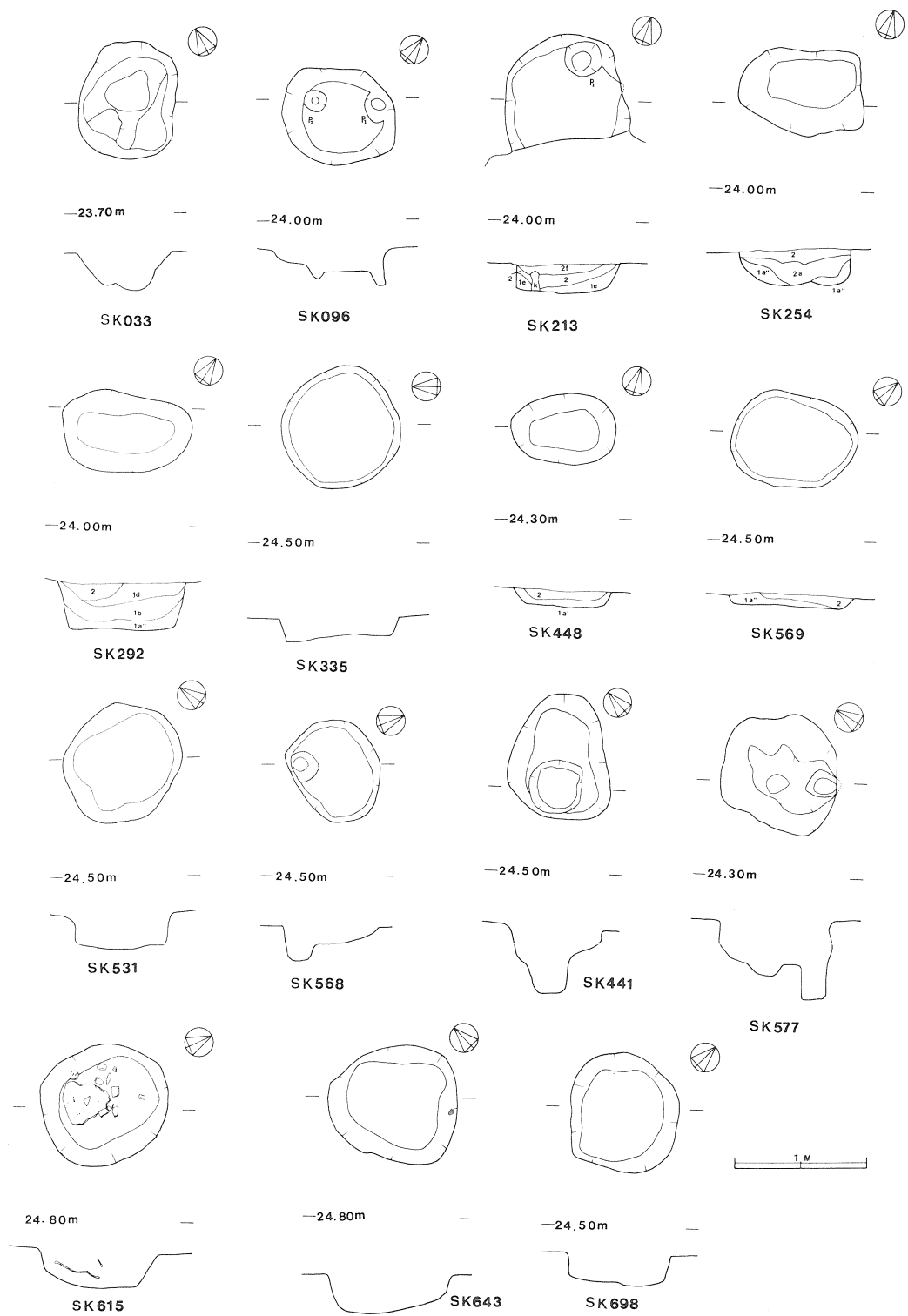
第117图 土壤実測図(62)



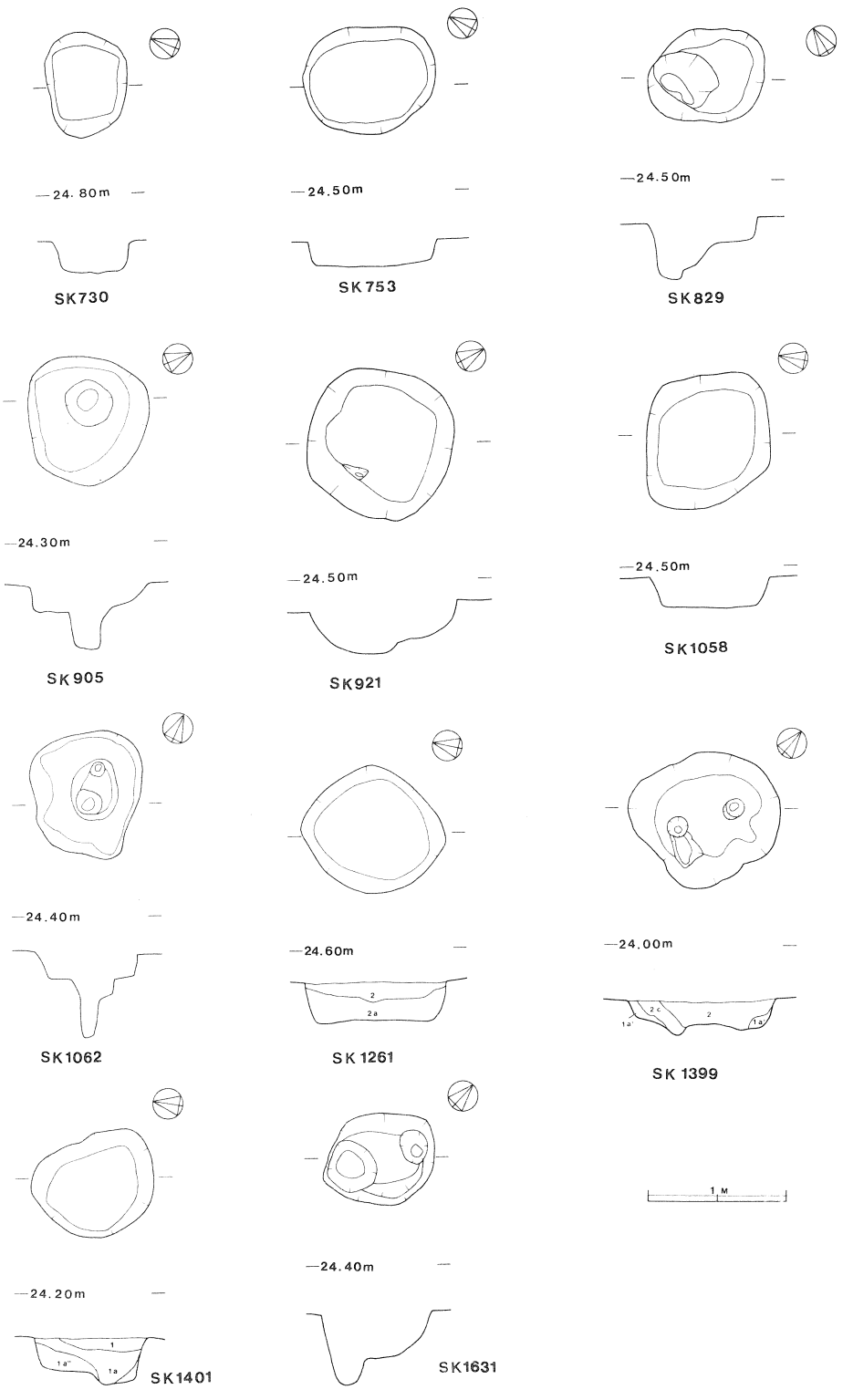
第118图 土 壙 実 測 図 (63)



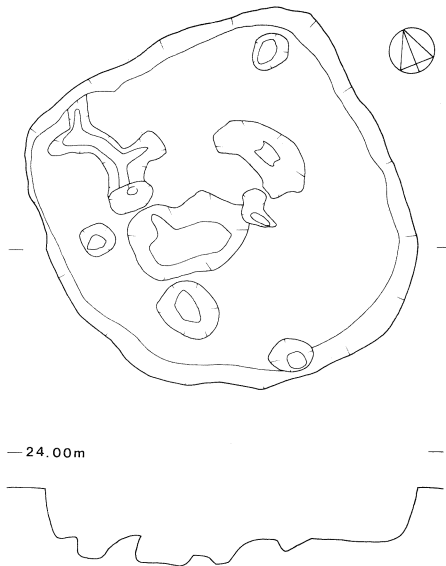
第119図 土 壤 実 測 図 (64)



第120図 土 壤 実 測 図 (65)

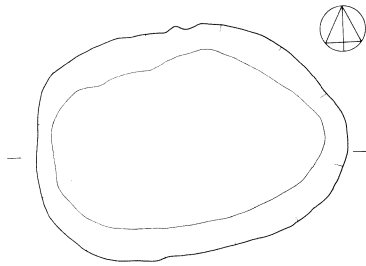


第121図 土 壙 実 測 図 (66)



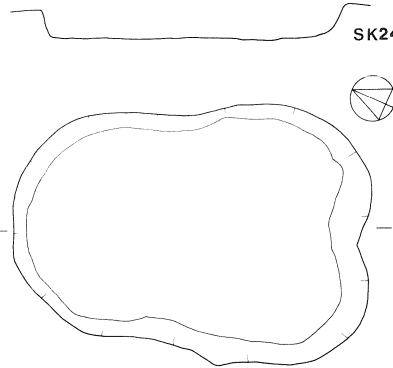
- 24.00m

SK142



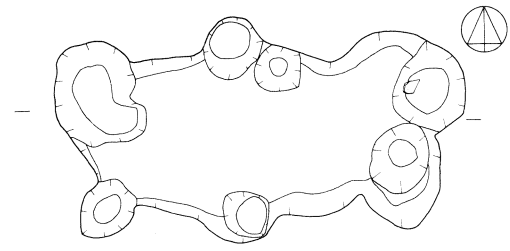
- 24.00m

SK242



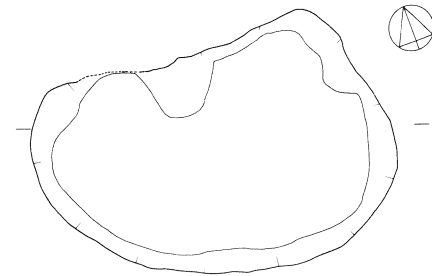
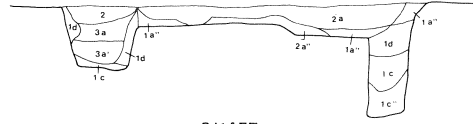
- 24.30m

SK537



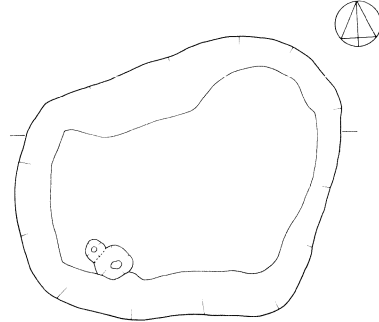
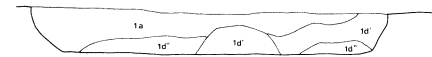
- 24.50m

SK457



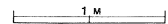
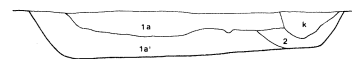
- 24.00m

SK230

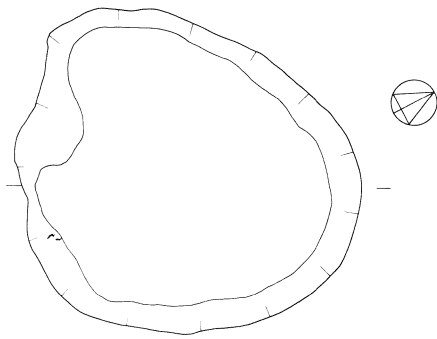


- 25.00m

SK607

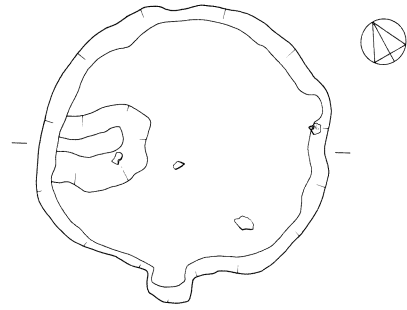


第122図 土 壙 実 測 図 (67)



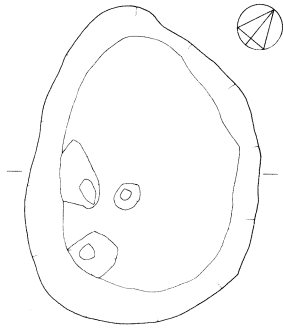
-25.00m

SK608



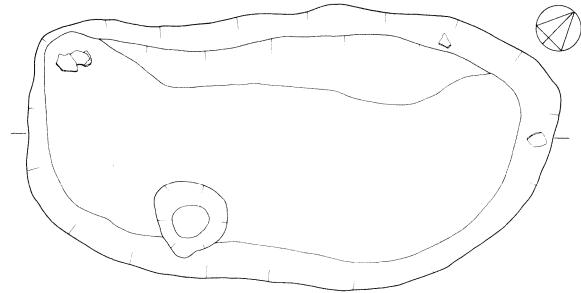
-24.80m

SK770



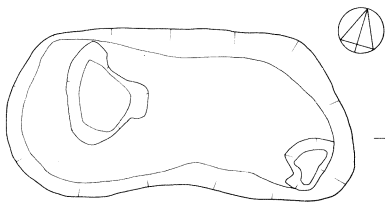
-25.00m

SK783



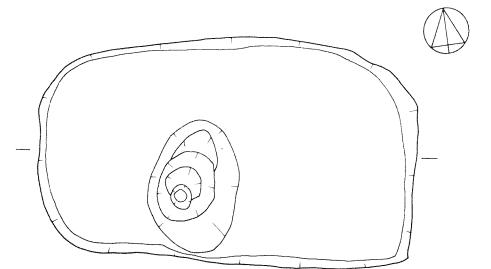
-24.80m

SK797



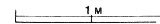
-24.80m

SK806

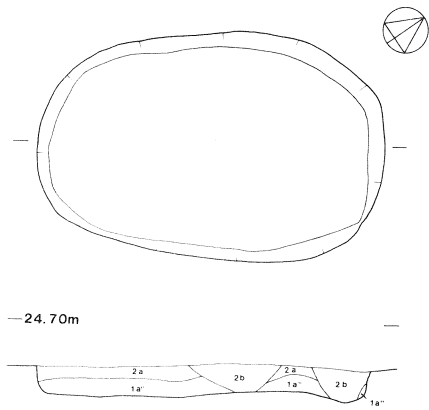


-24.20m

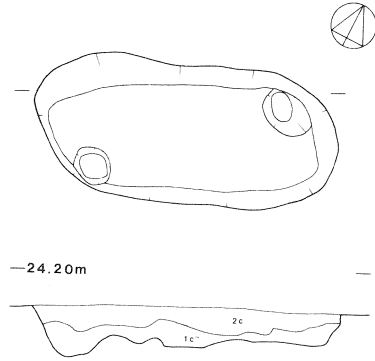
SK957



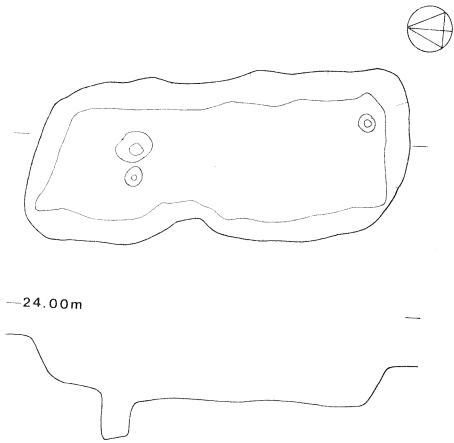
第123図 土壤実測図(68)



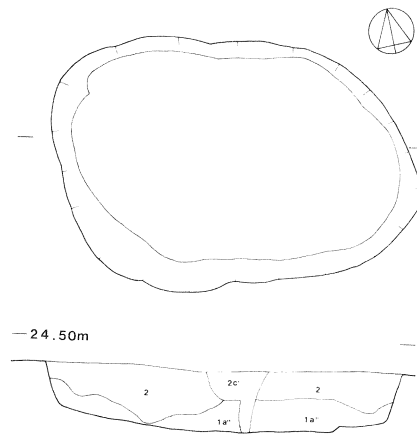
SK 1260



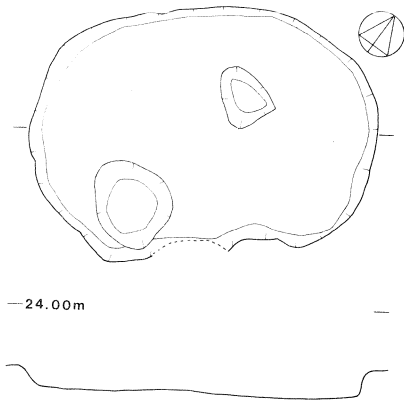
SK 1329



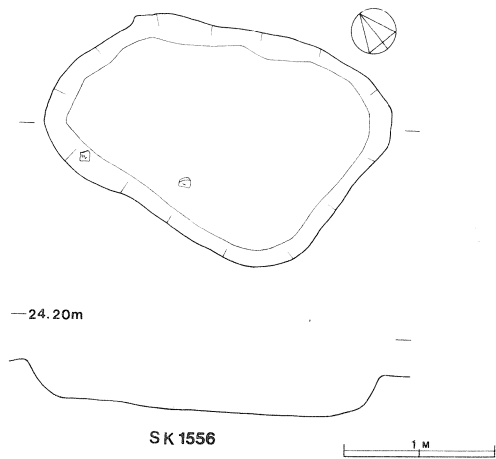
SK 1495



SK 1505

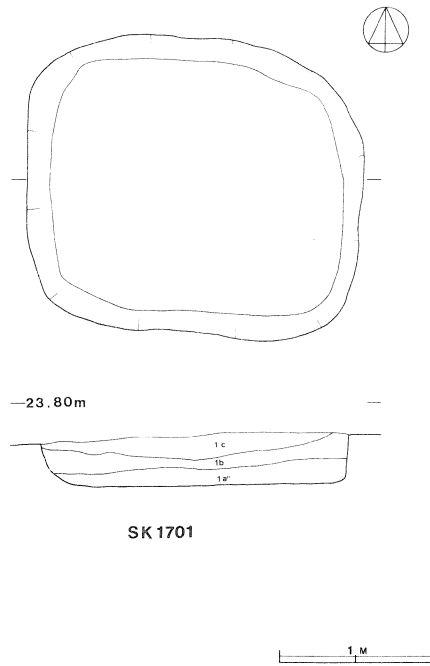
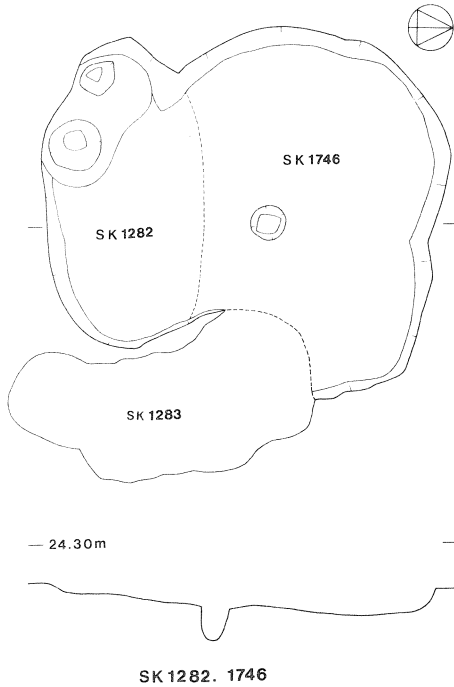
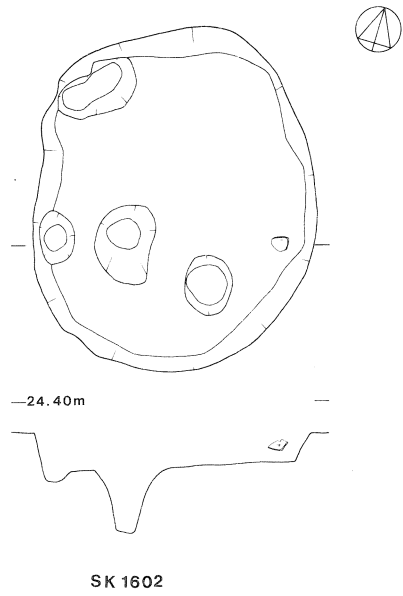
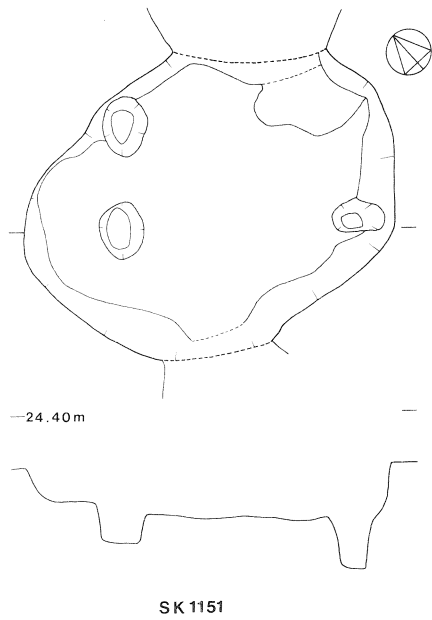


SK 1524

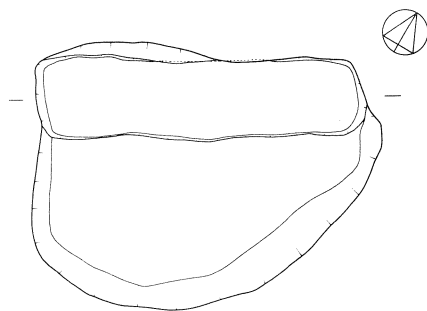


SK 1556

第124図 土 壤 実 測 図 (69)



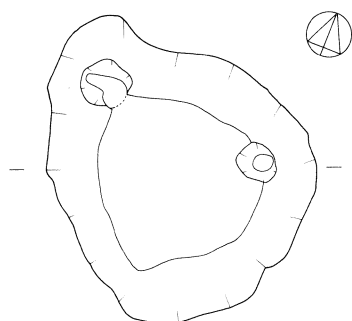
第125図 土壤実測図(70)



-24.00m



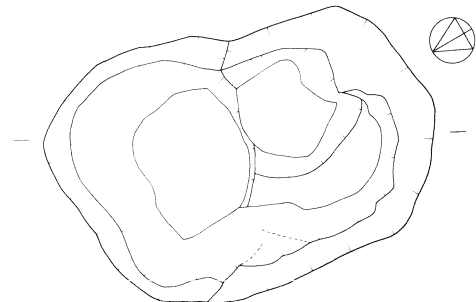
SK 078



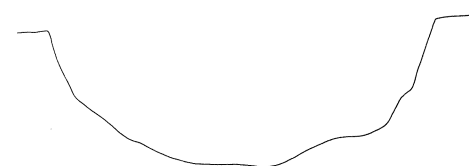
-23.50m



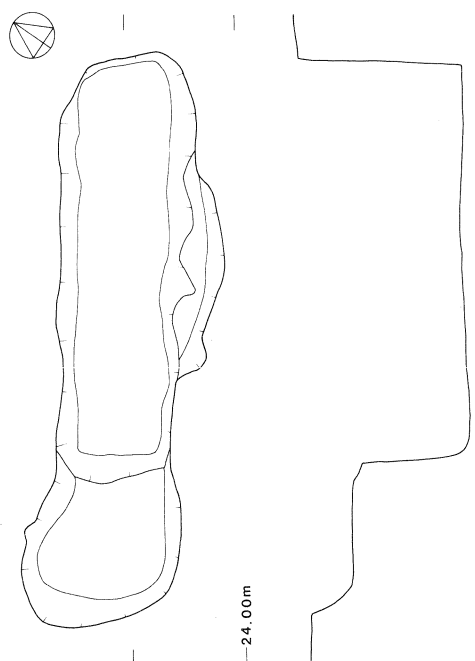
SK 233



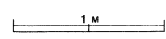
-24.00m



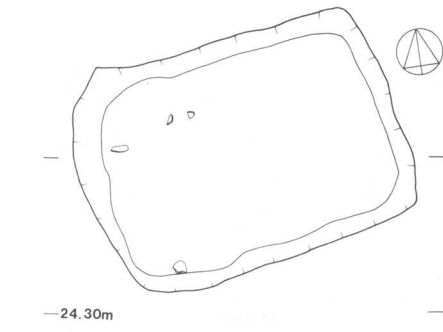
SK 238



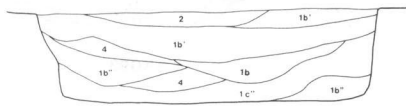
SK 241



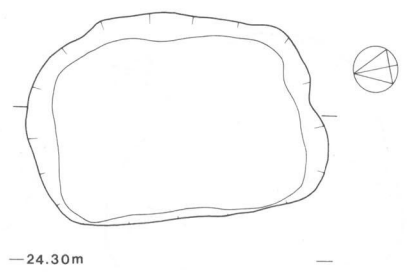
第126図 土 壙 実 測 図 (71)



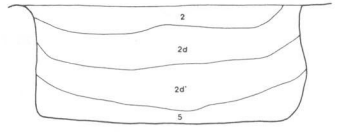
-24.30m



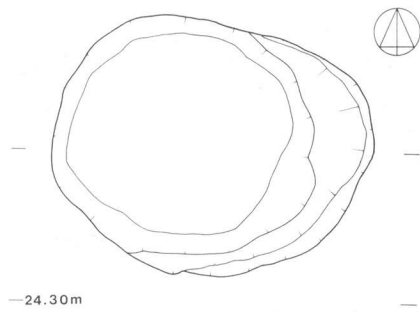
SK 521



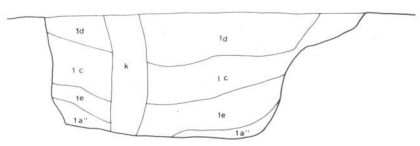
-24.30m



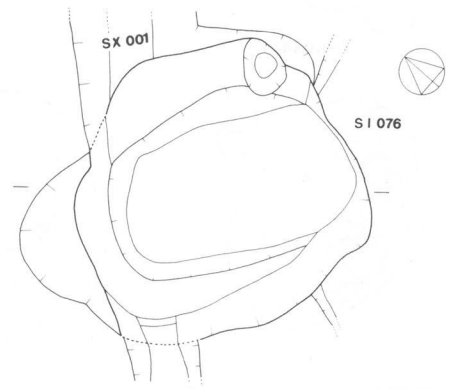
SK 550



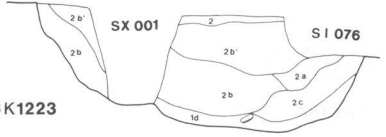
-24.30m



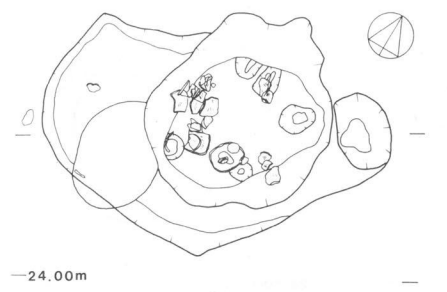
SK 545



-24.50m



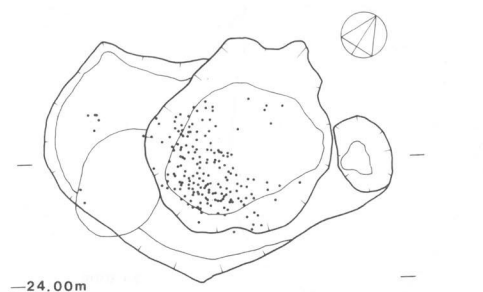
SK 1223



-24.00m



SK 250

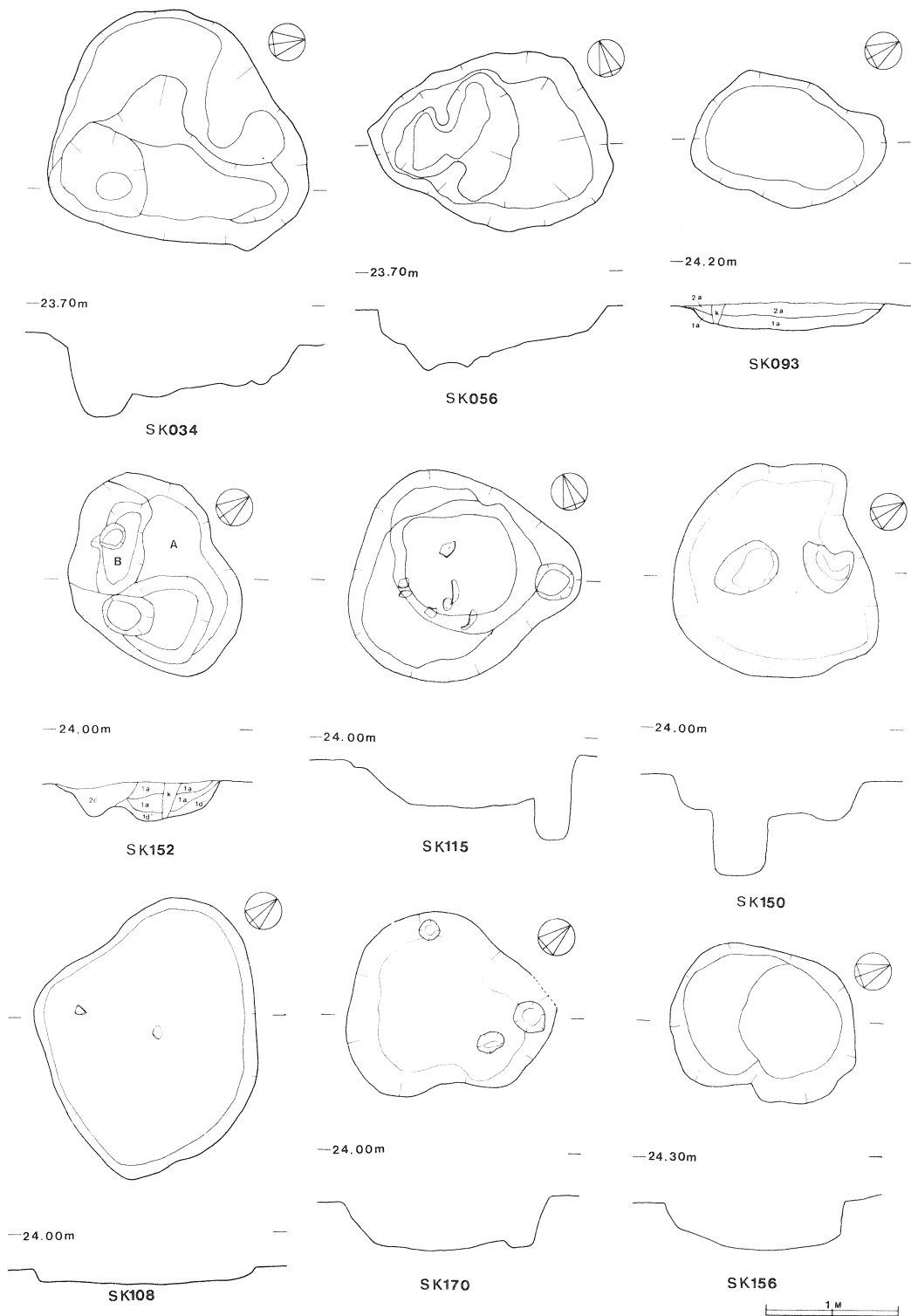


-24.00m

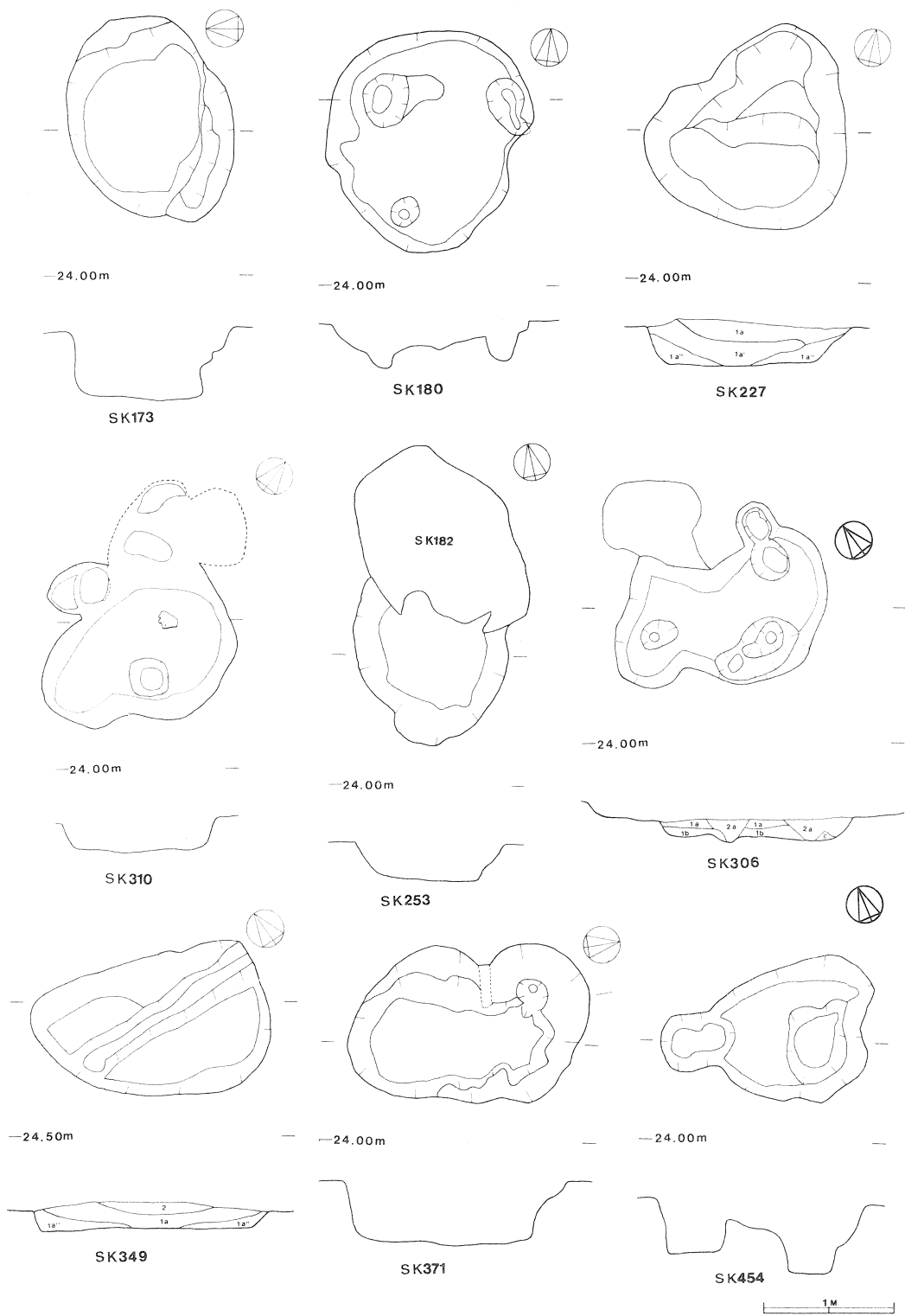


SK 250

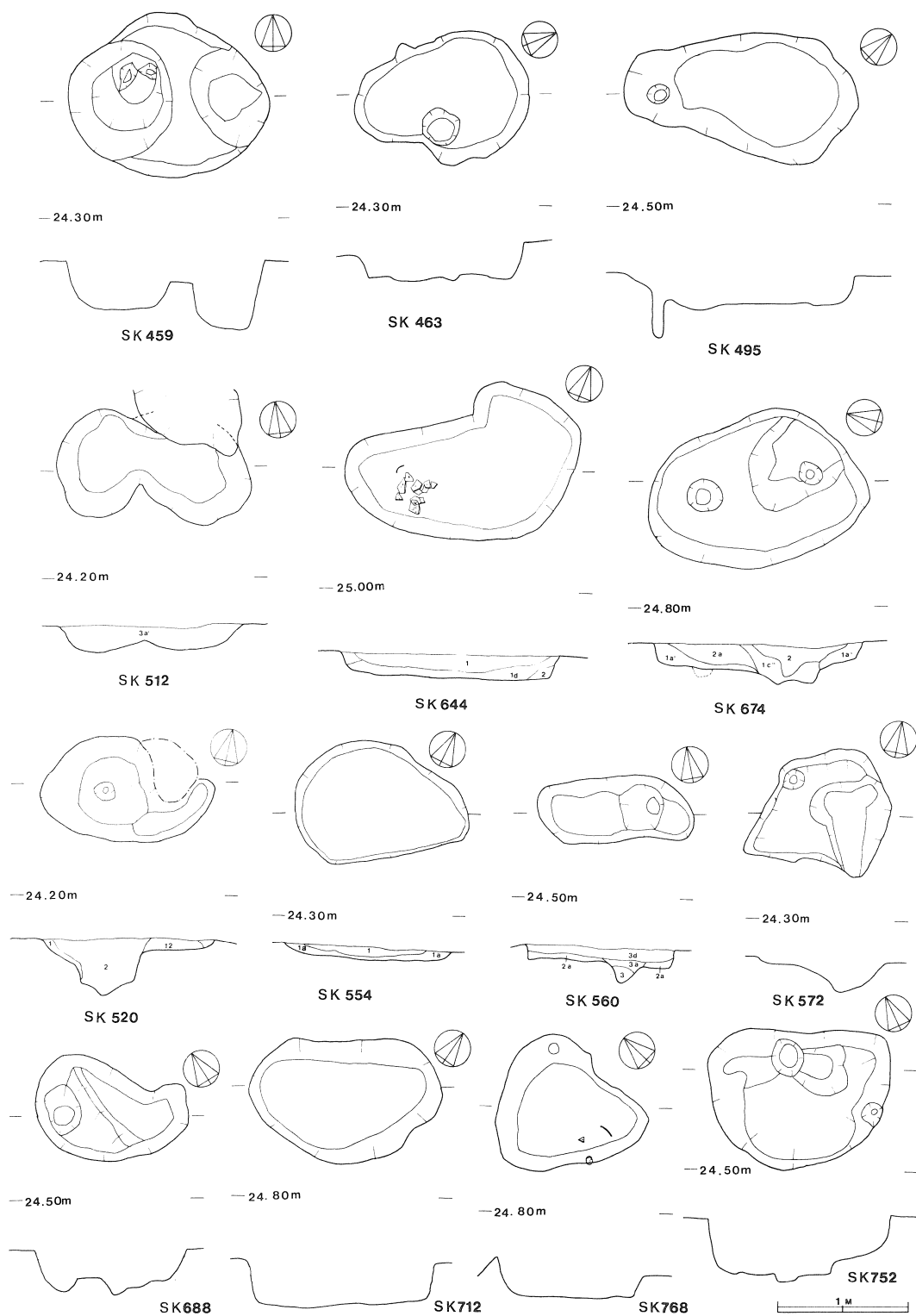
第127图 土壤実測図(72)



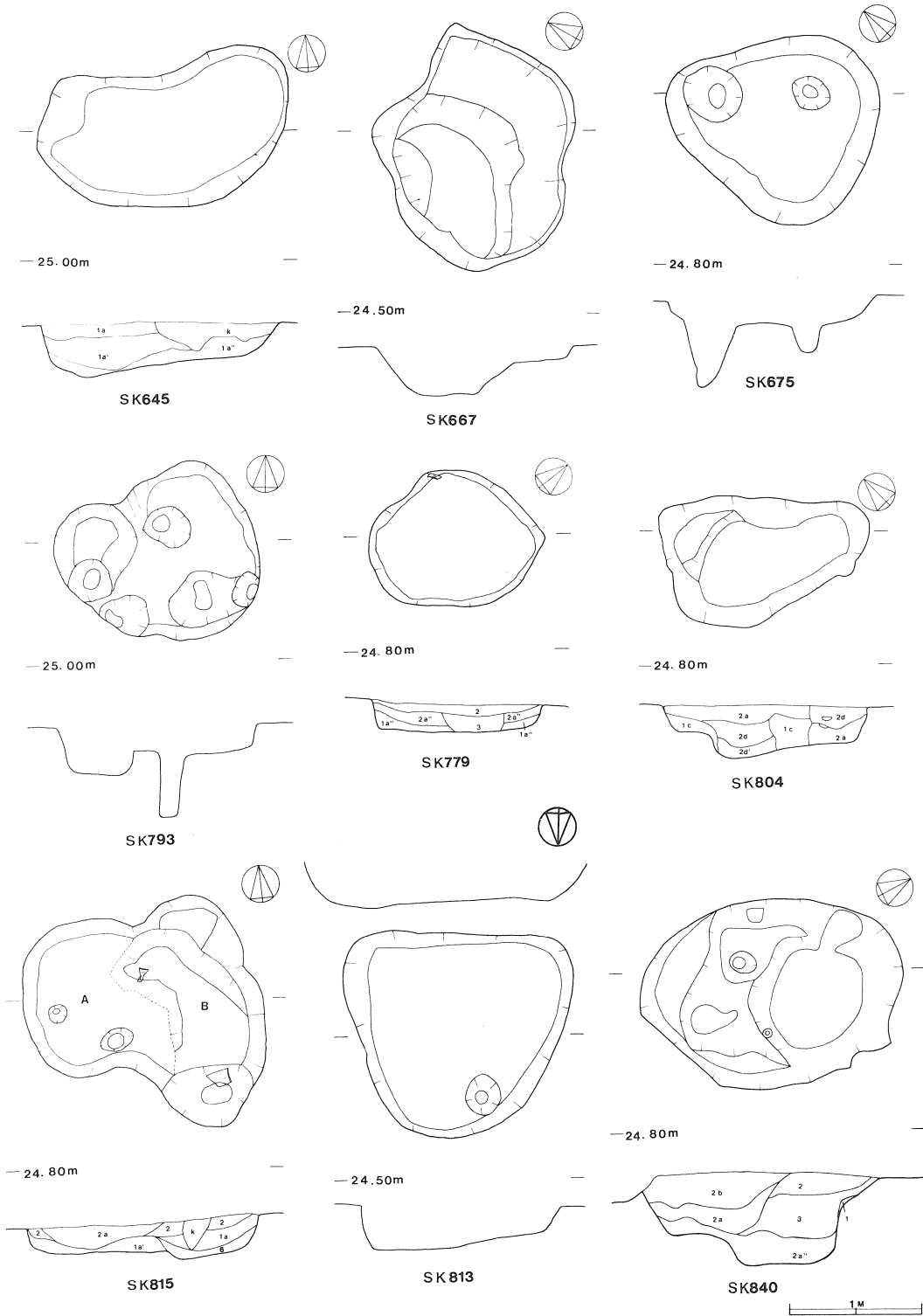
第128図 土 壤 実 測 図 (73)



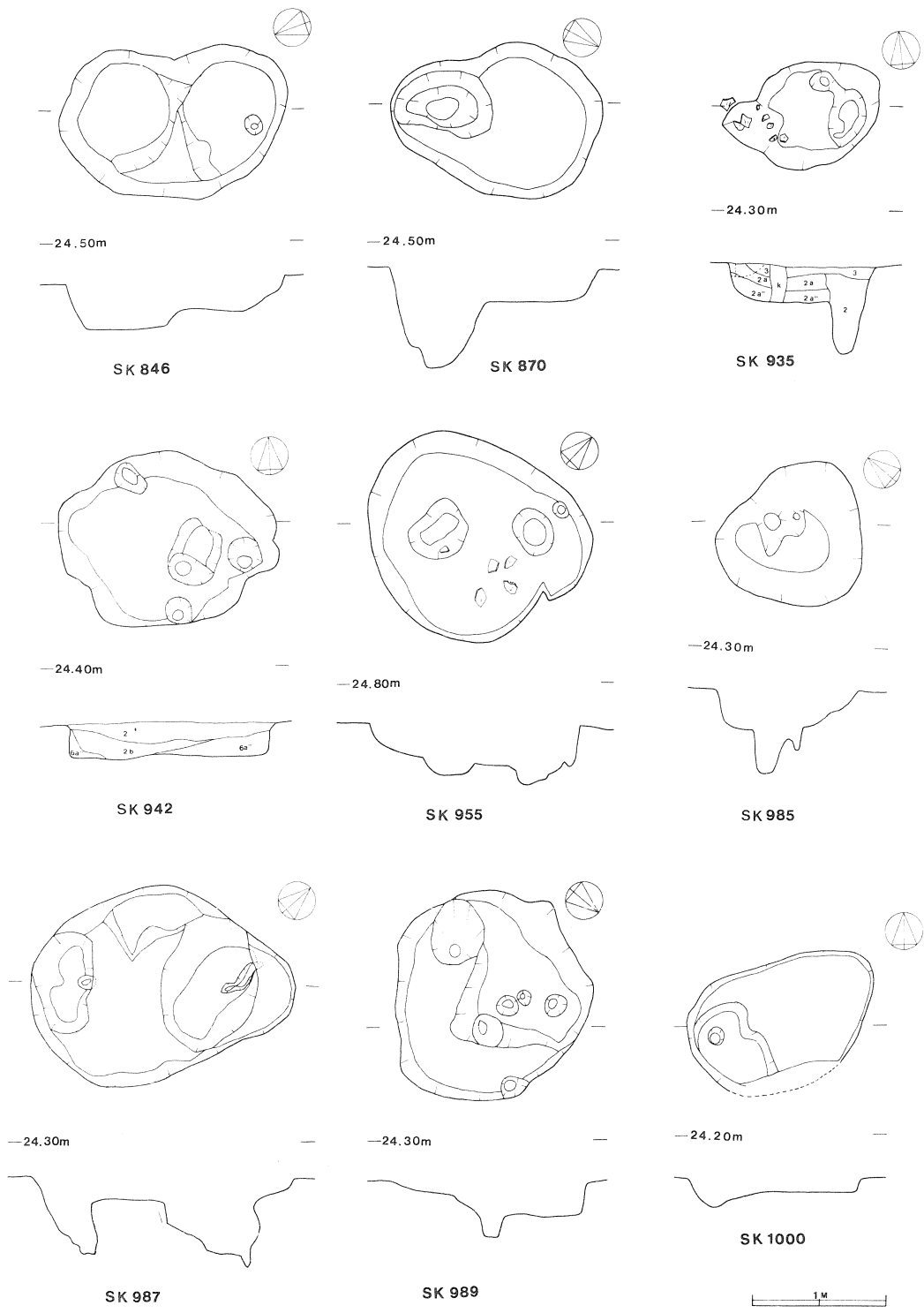
第129图 土壤実測図(74)



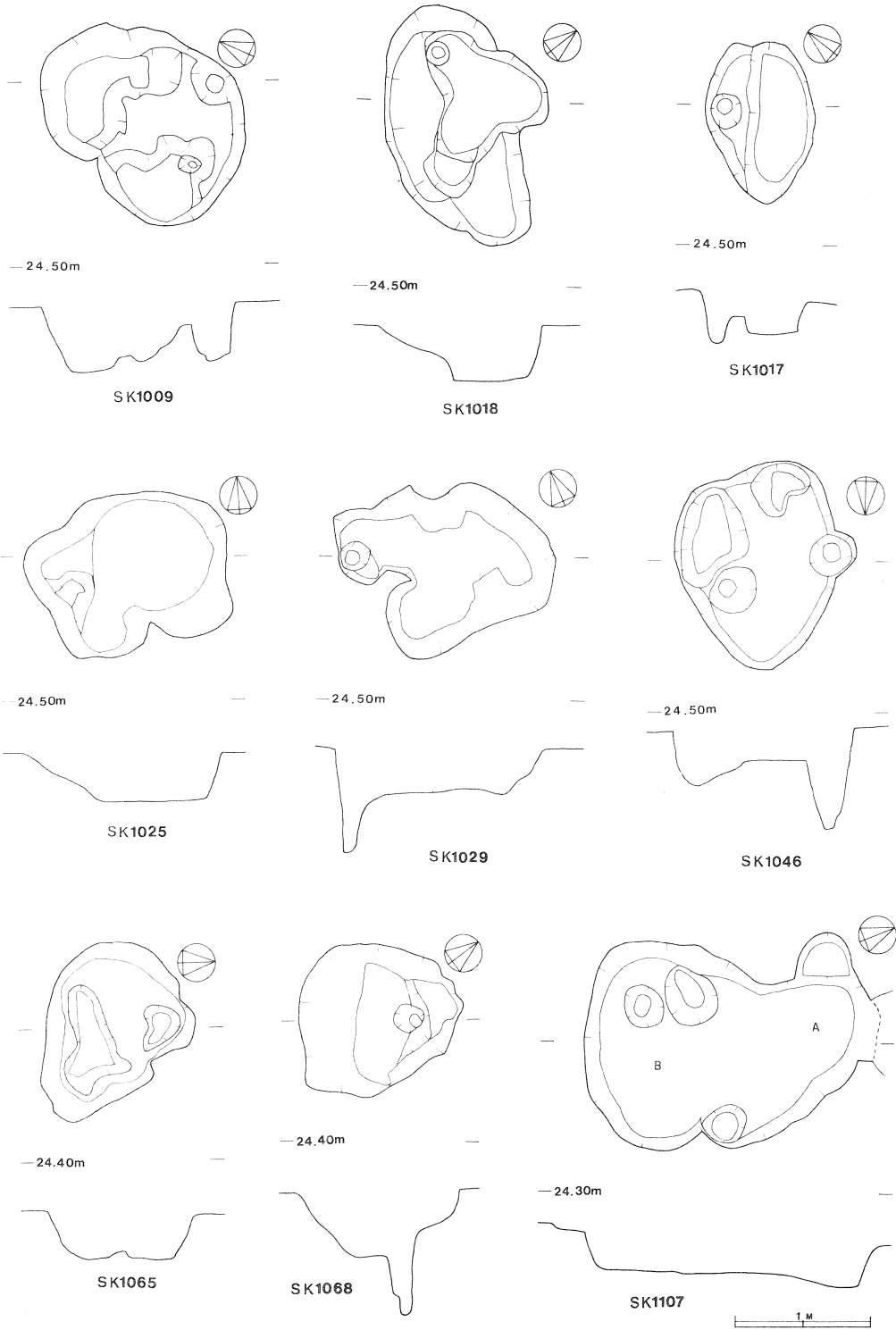
第130图 土壤実測図(75)



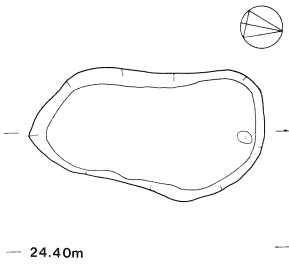
第131图 土壤実測図(76)



第132图 土 壙 実 測 图 (77)



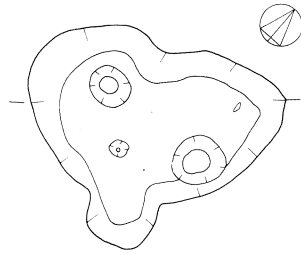
第133図 土 壙 実 測 図 (78)



— 24.40m



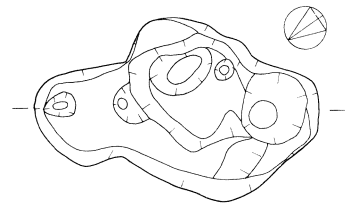
SK 1112



—24.80m



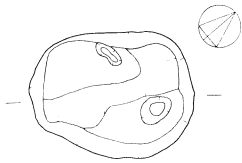
SK 1130



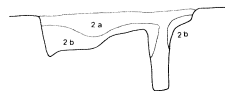
—24.20m



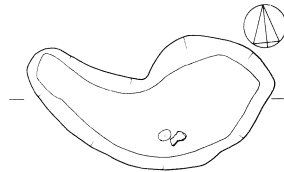
SK 1177



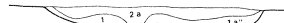
—24.20m



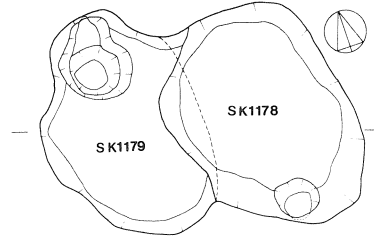
SK 1168



—24.20m



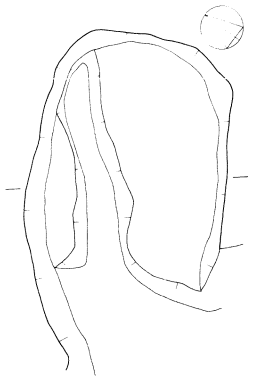
SK 1214



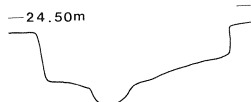
—24.00m



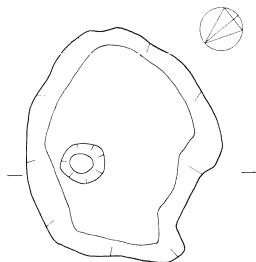
SK 1178. 1179



—24.50m



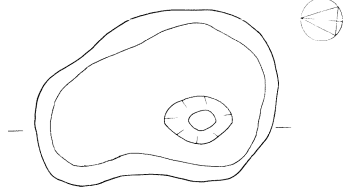
SK 1244



—24.50m



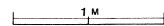
SK 1139



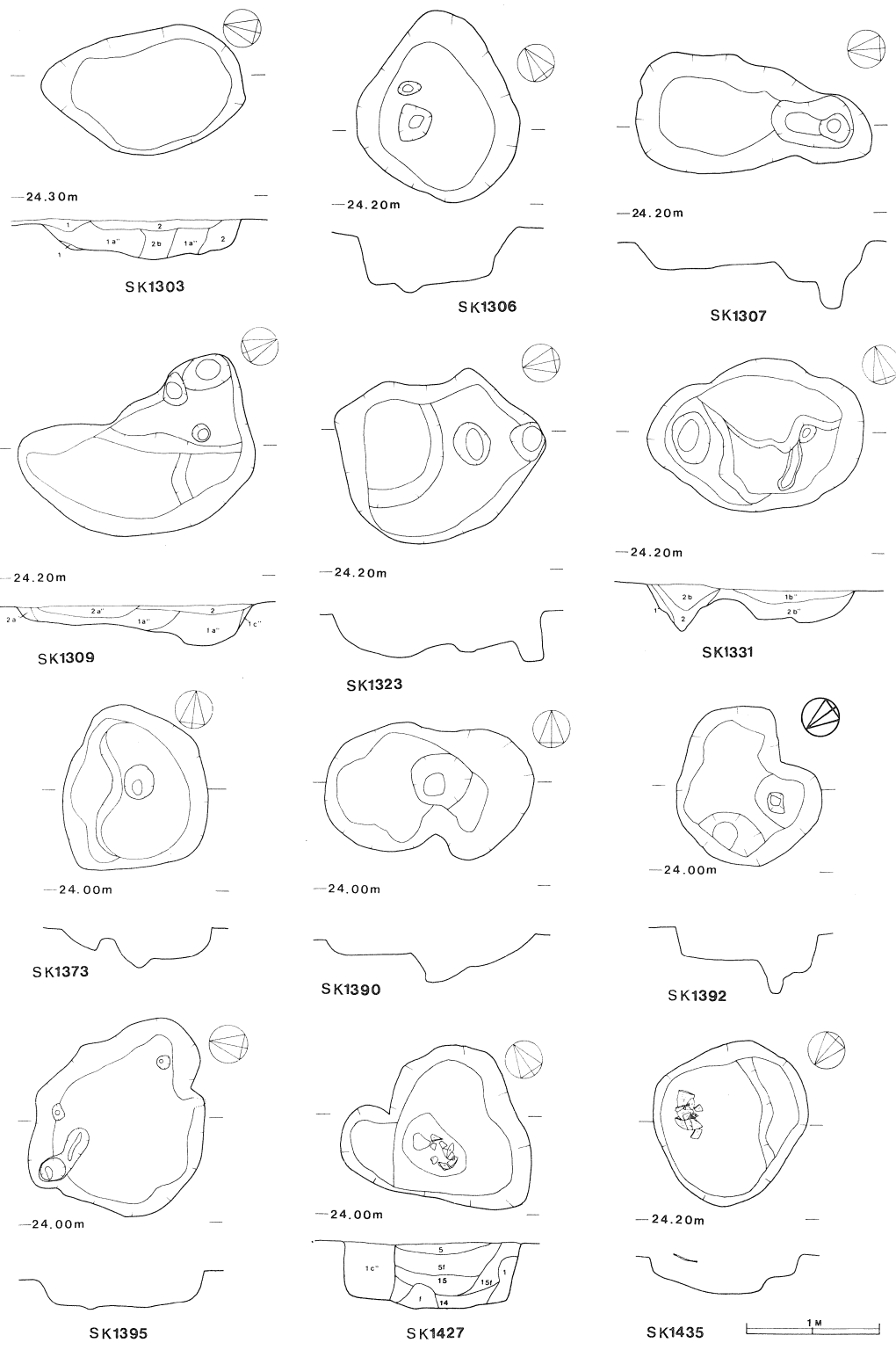
—24.70m



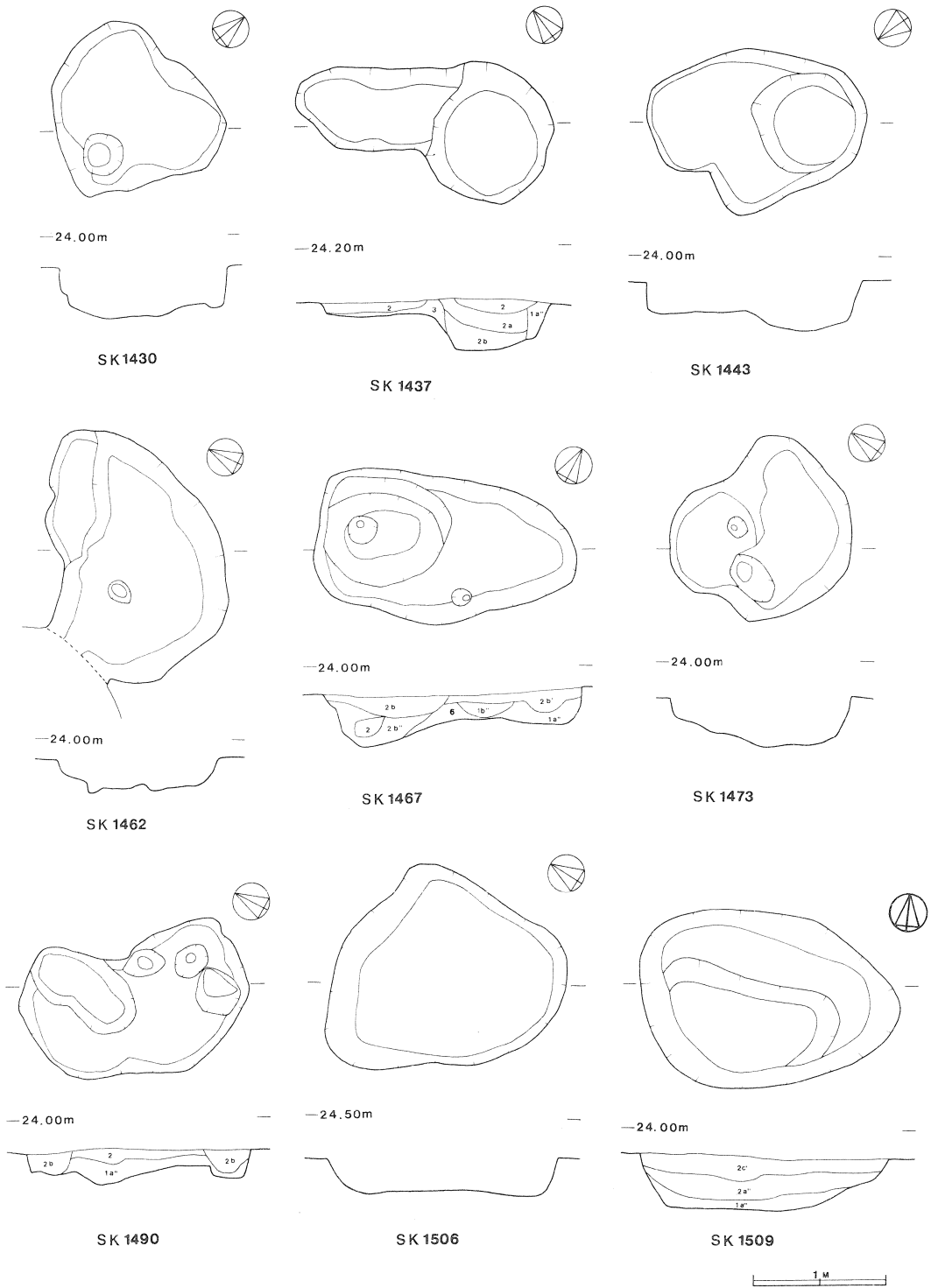
SK 1247



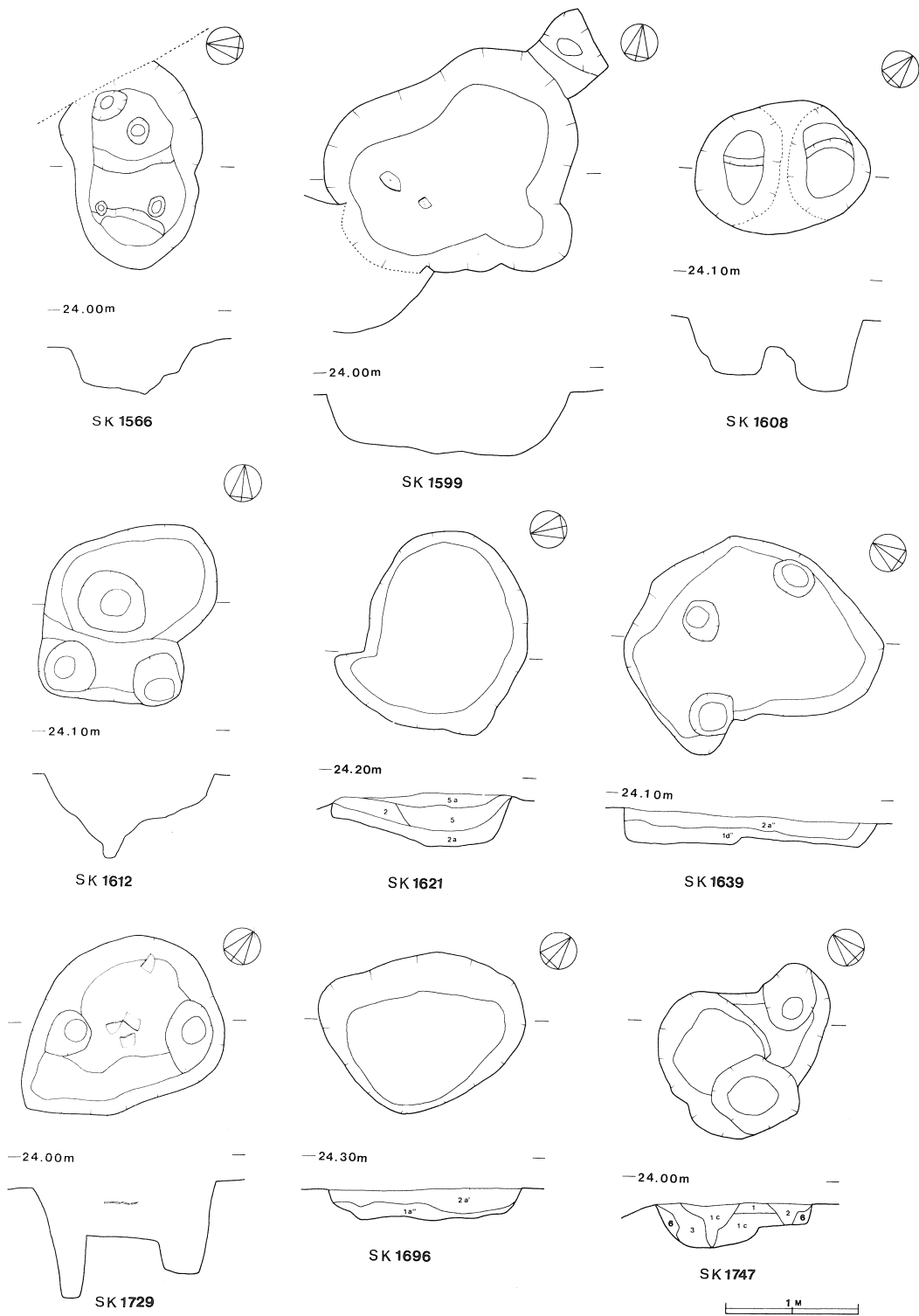
第134图 土壤実測图(79)



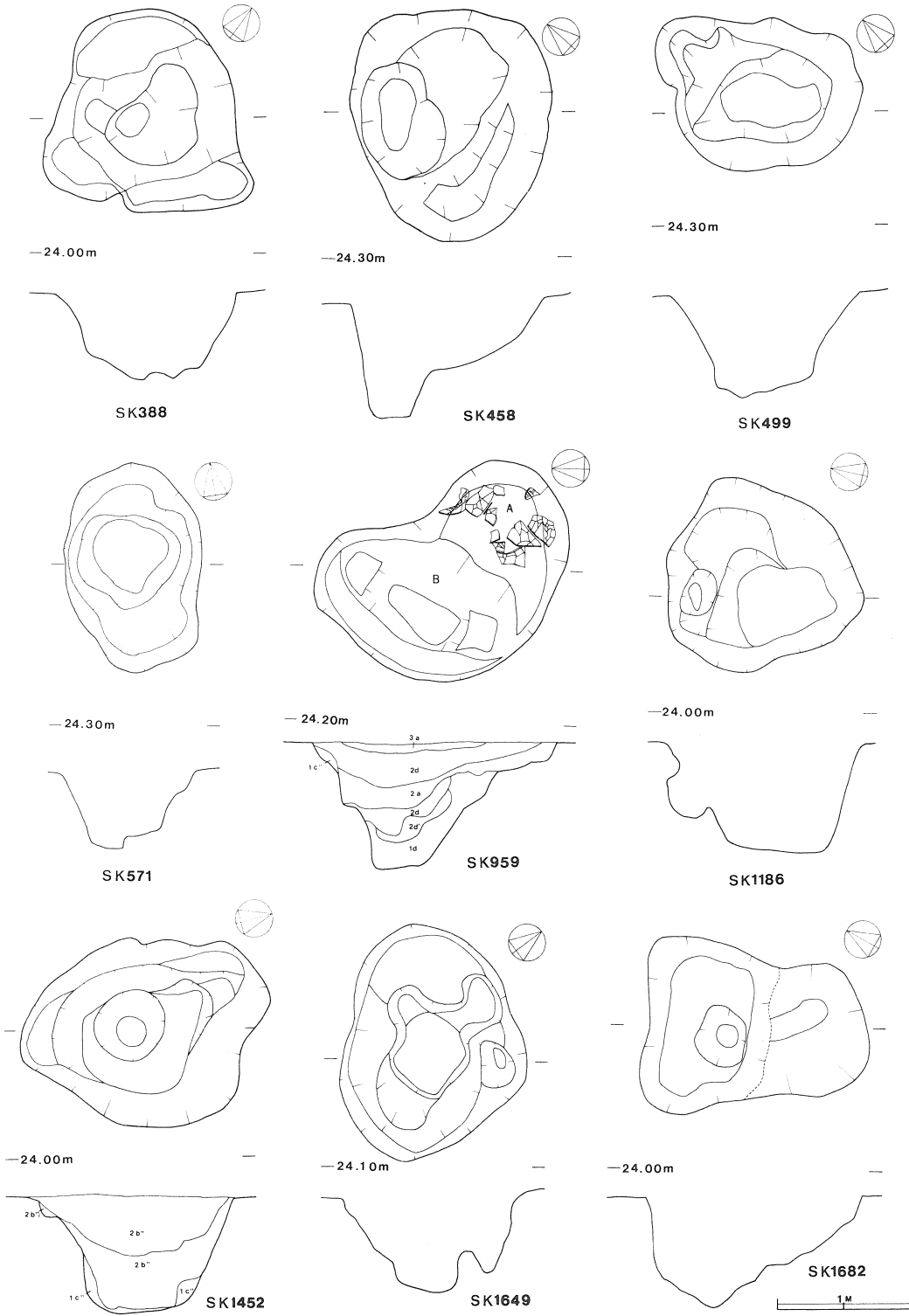
第135図 土壤実測図(80)



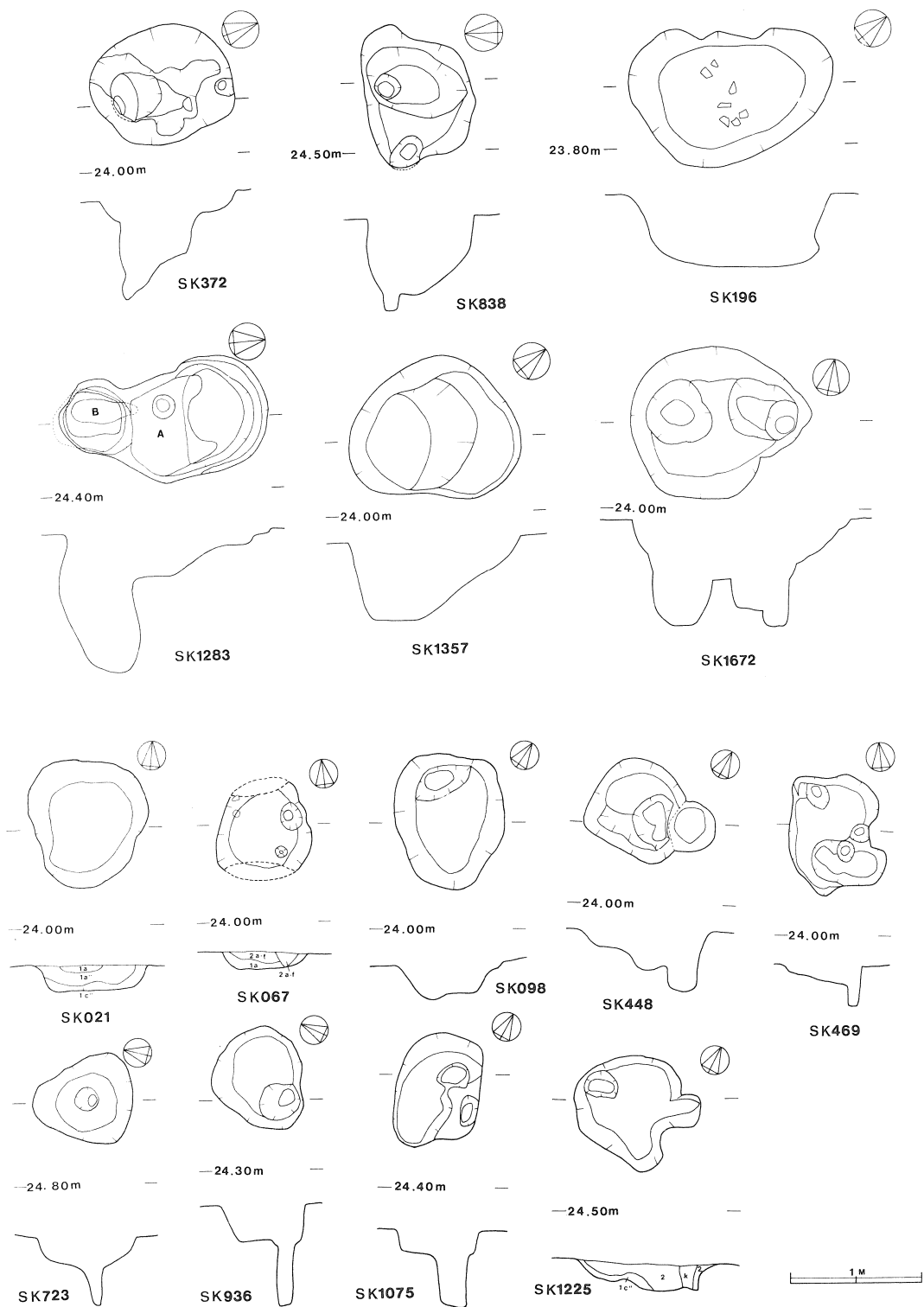
第136図 土 壤 実 測 図 (81)



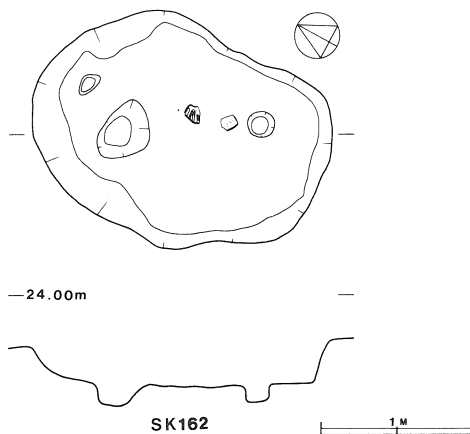
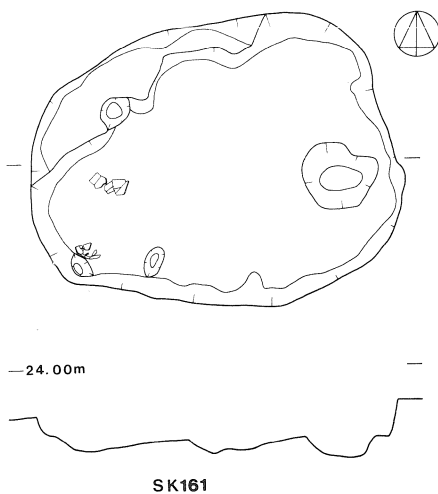
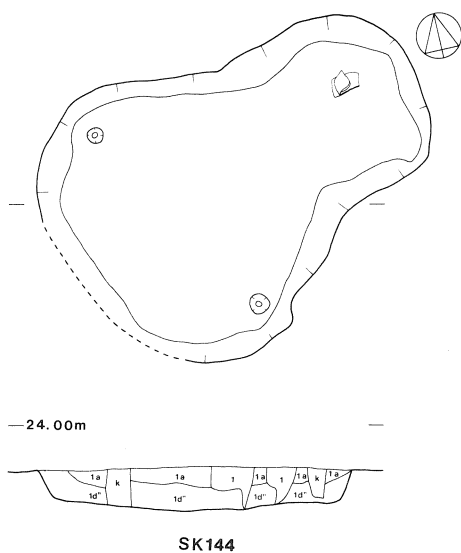
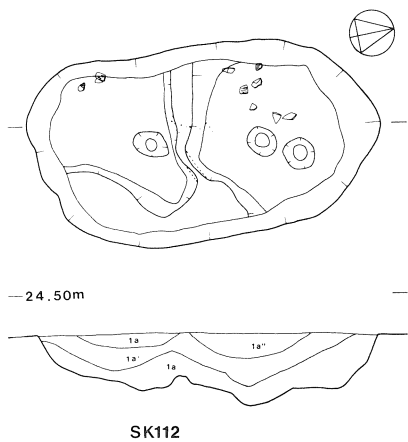
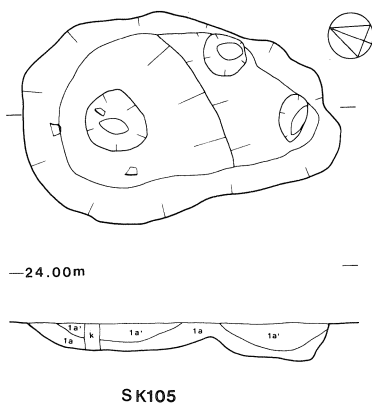
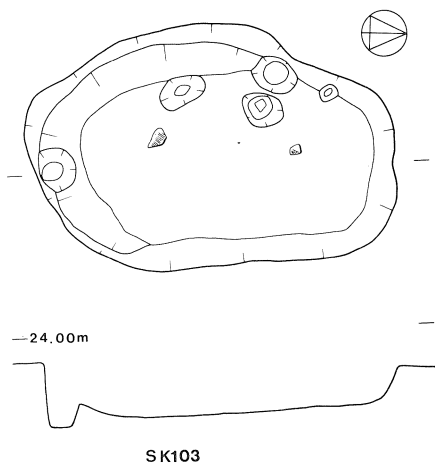
第137图 土壤実測図(82)



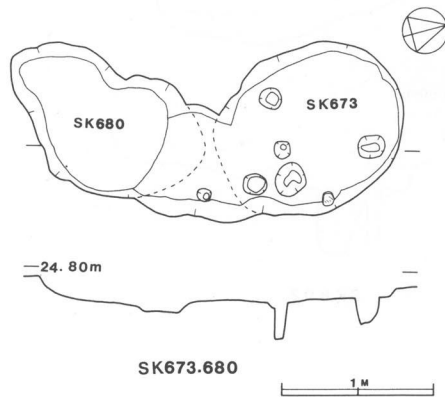
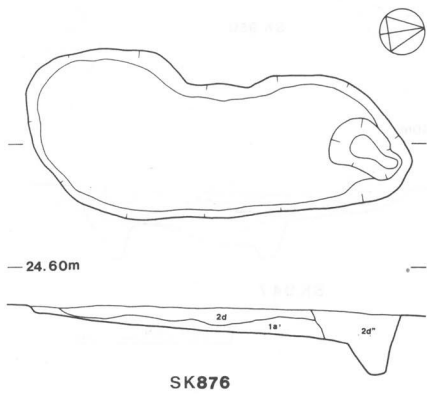
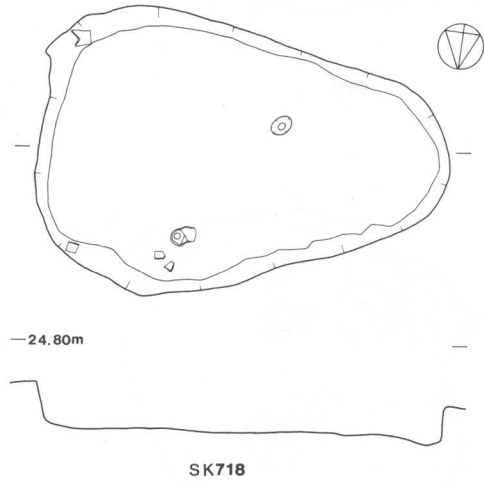
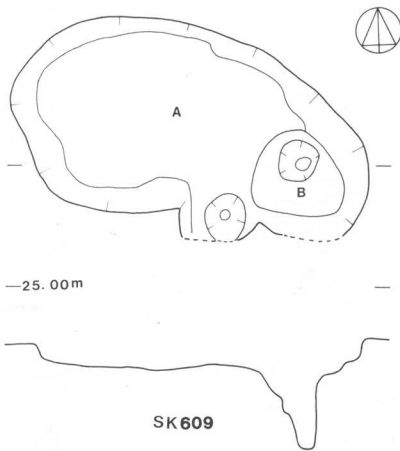
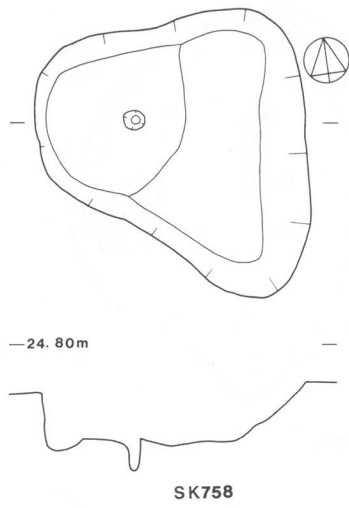
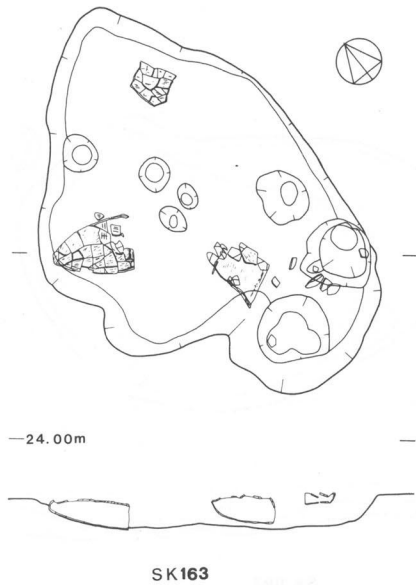
第138图 土壤实测图(83)



第139图 土壤実測図(84)



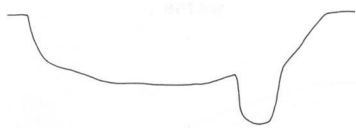
第140图 土壤实测图(85)



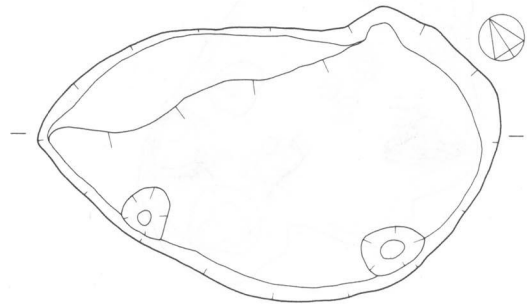
第141図 土 壤 実 測 図 (86)



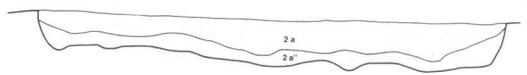
-24.20m



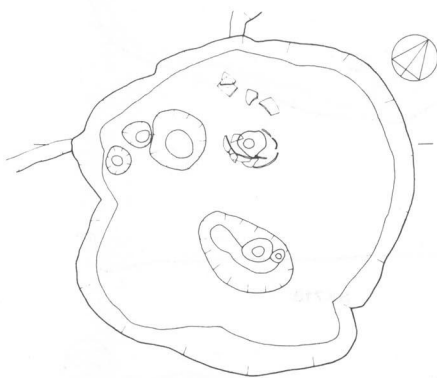
SK 450



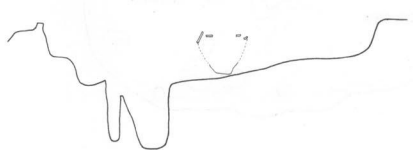
-24.50m



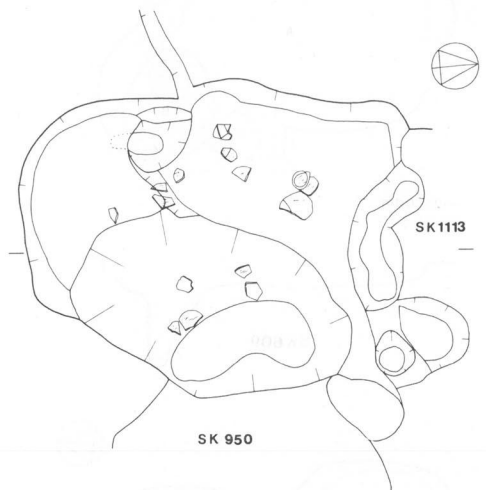
SK 897



-24.60m

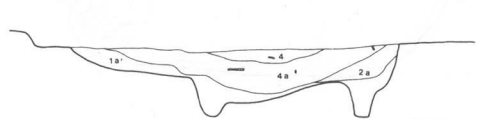


SK 802

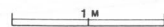


SK 950

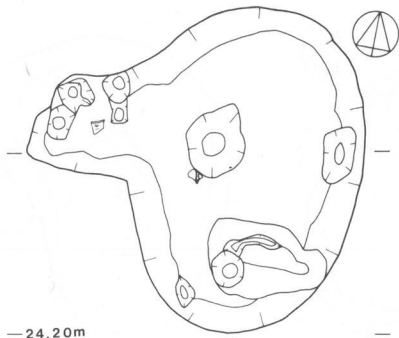
-24.40m



SK 947

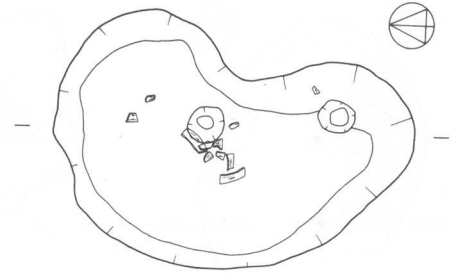


第142图 土 壙 实 测 图 (87)



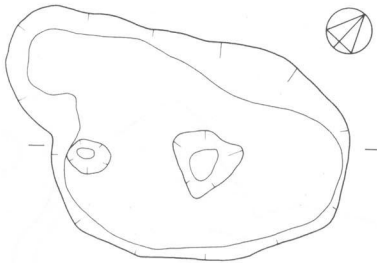
-24.20m

SK 451



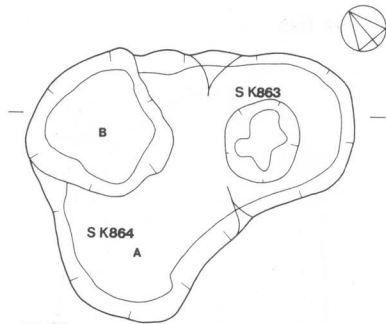
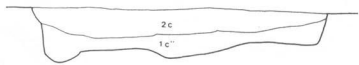
-24.50m

SK 622



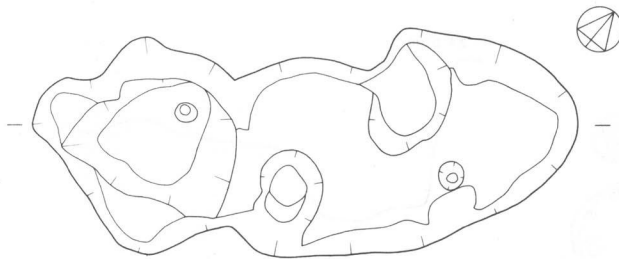
-24.20m

SK 1332



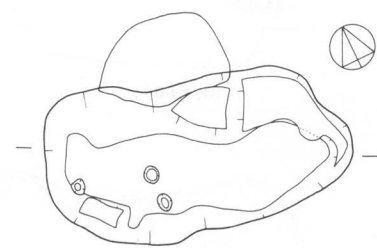
-24.80m

SK 864.863



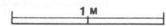
-24.20m

SK 1183

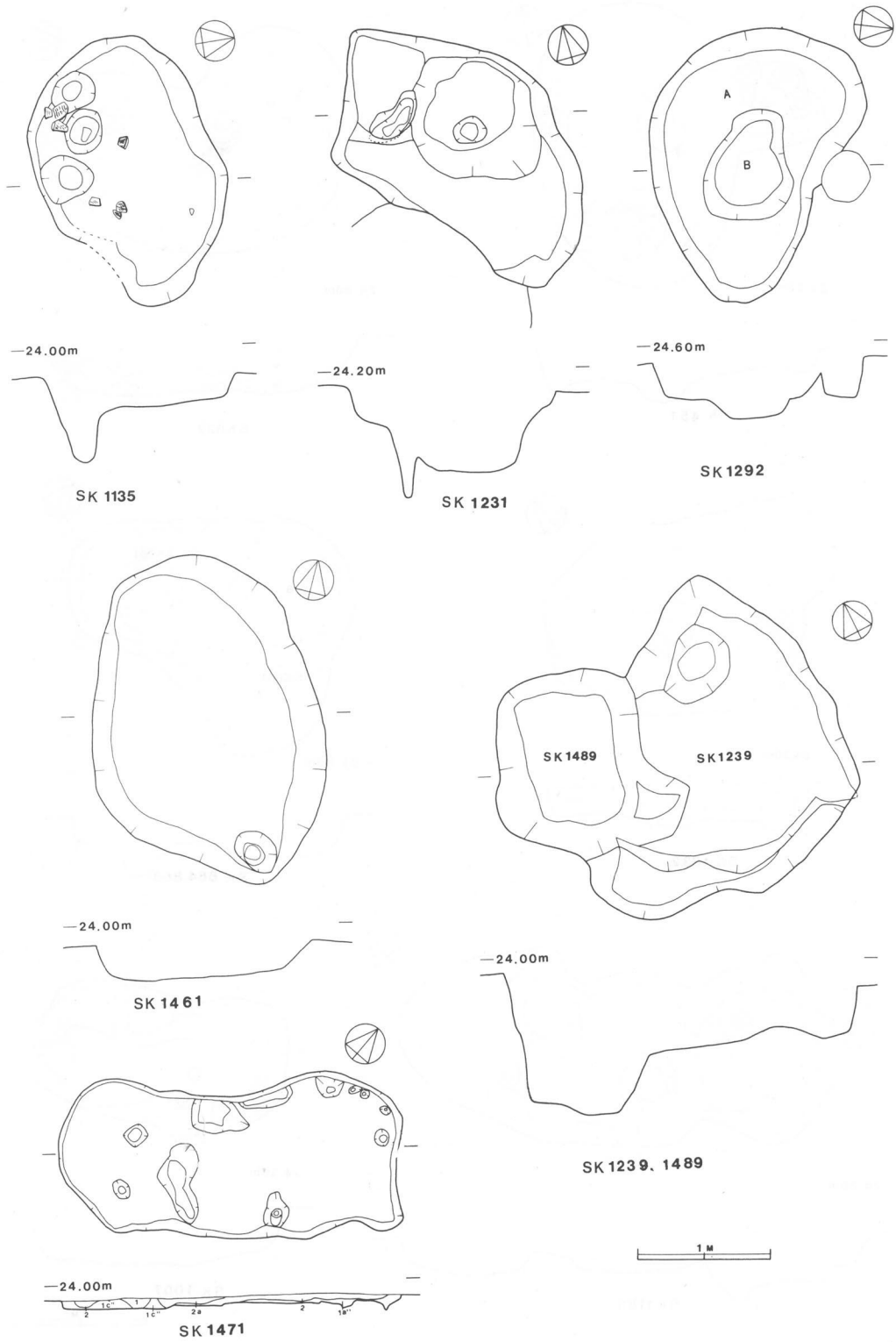


-24.30m

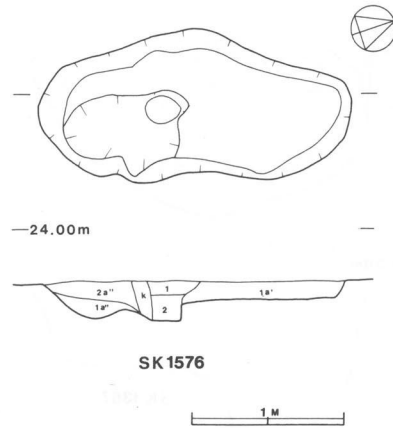
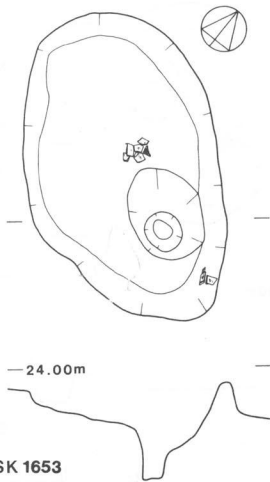
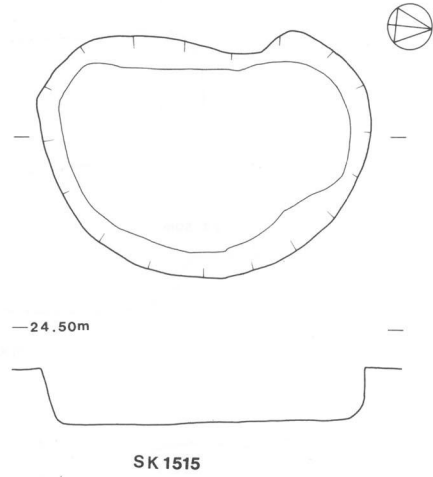
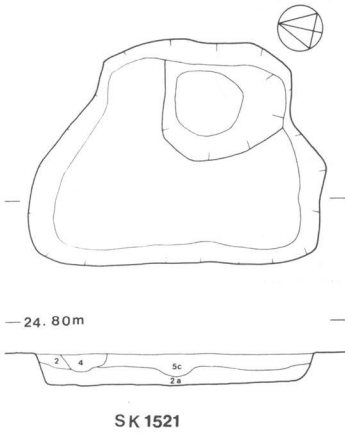
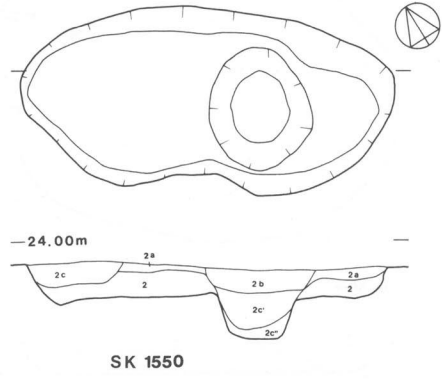
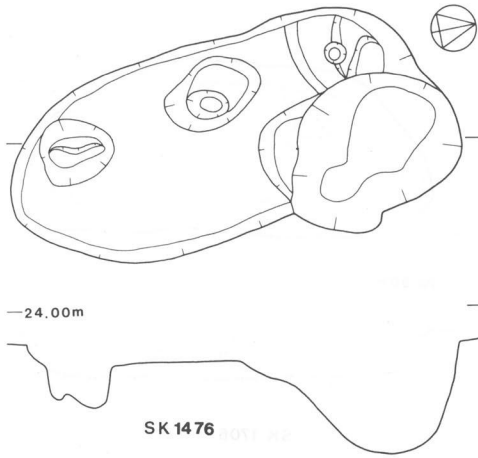
SK 1007



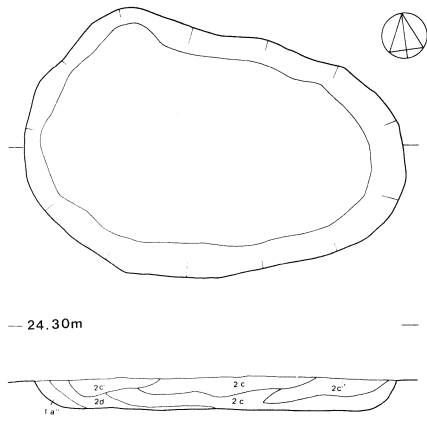
第143図 土 墳 実 測 図 (88)



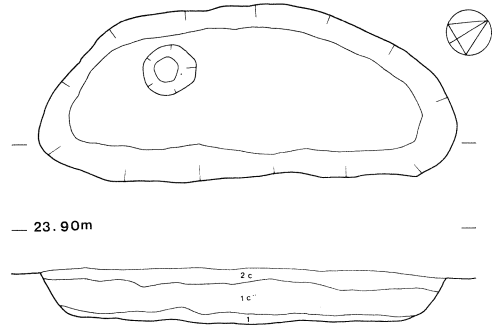
第144図 土 壤 実 測 図 (89)



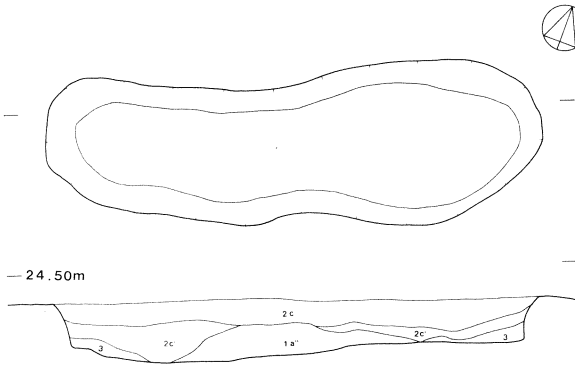
第145图 土壤実測图(90)



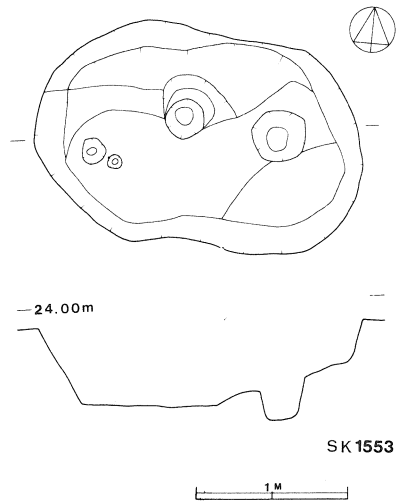
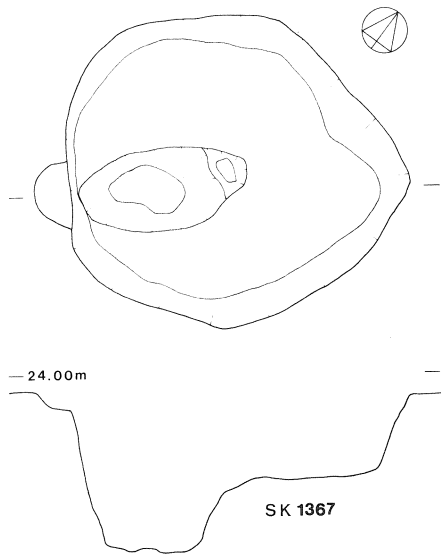
SK 1681



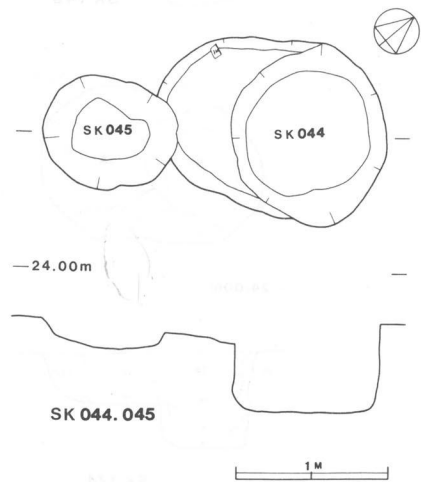
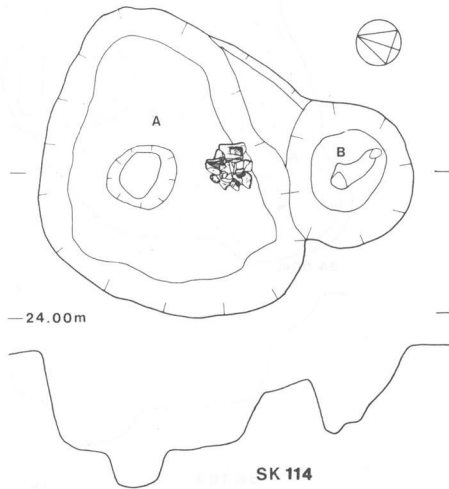
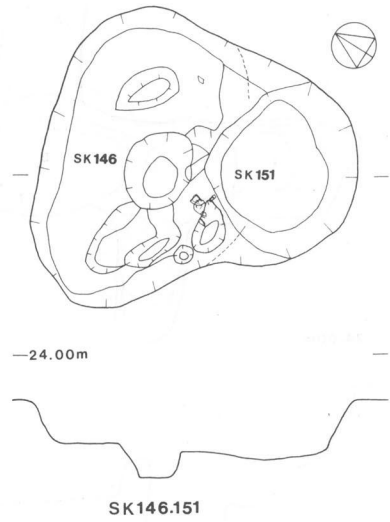
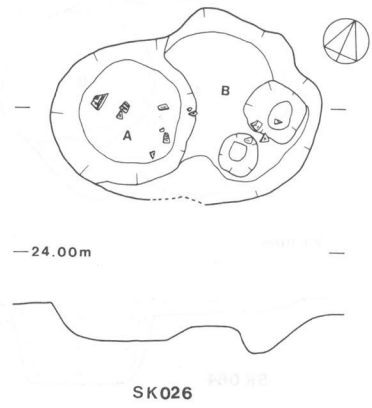
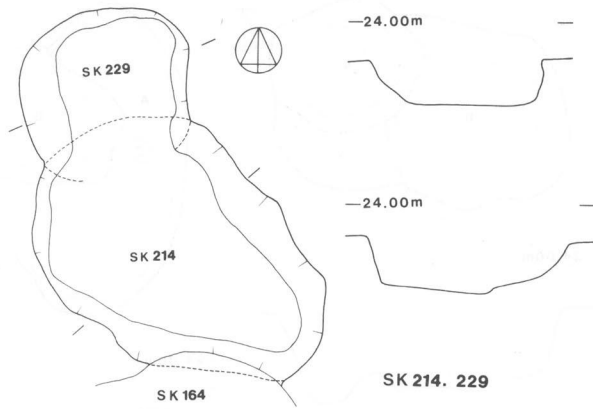
SK 1706



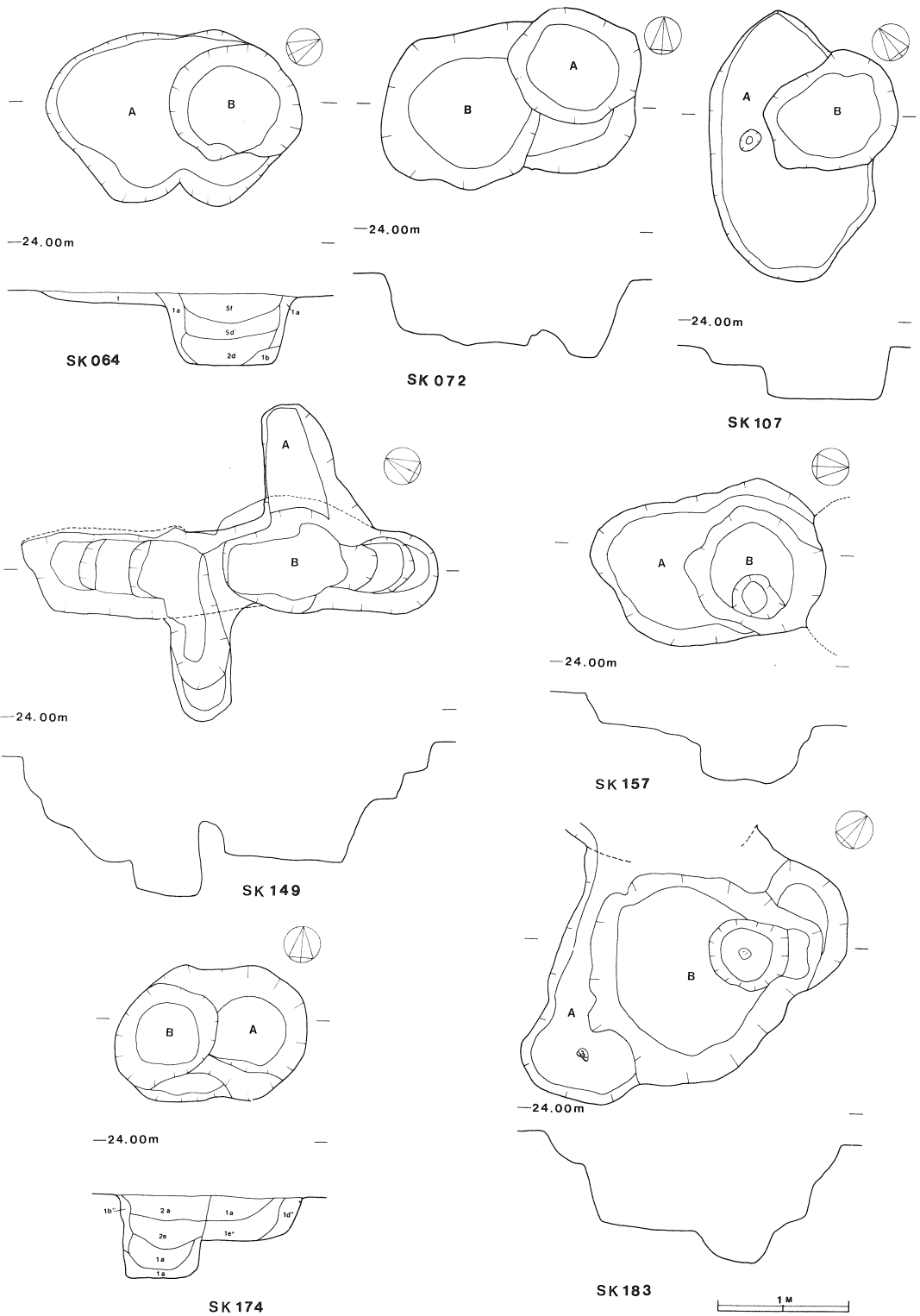
SK 1504



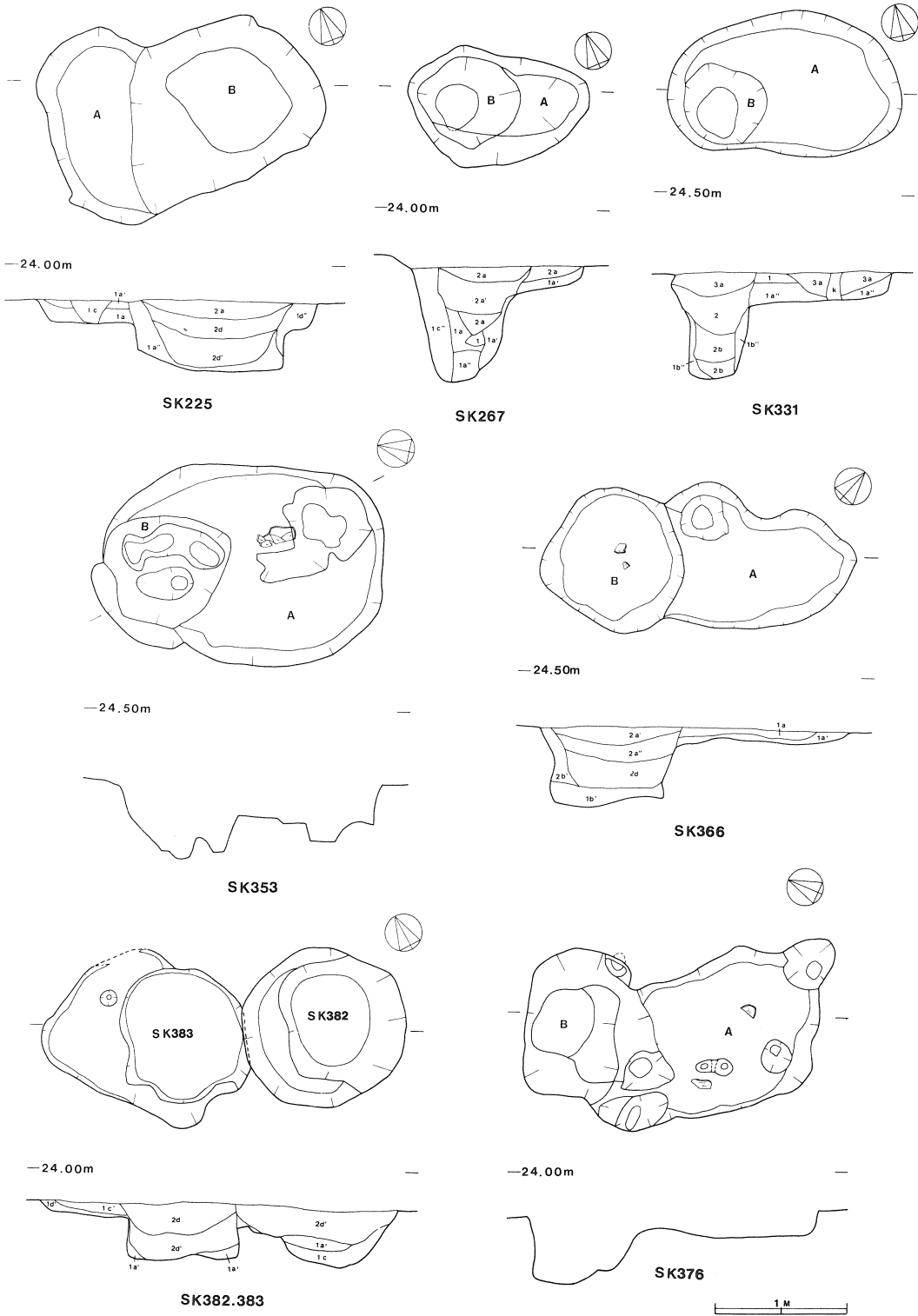
第146図 土 墳 実 測 図 (91)



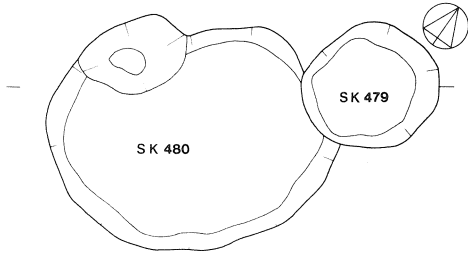
第147図 土壤実測図(92)



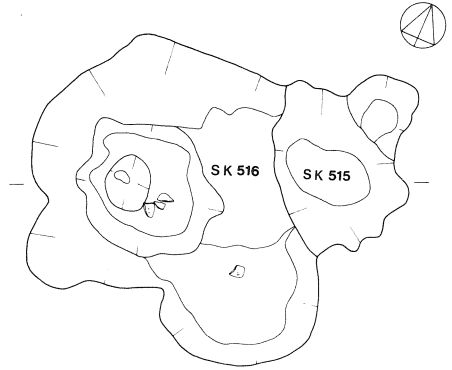
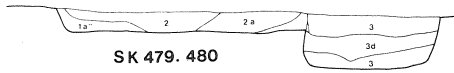
第148图 土壤实测图(93)



第149図 土壤実測図(94)



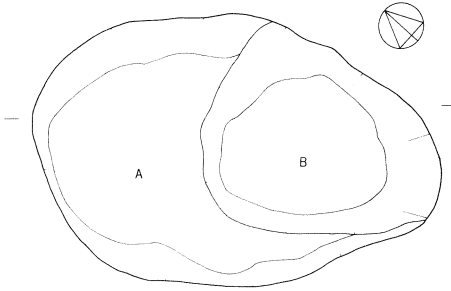
-24.50m



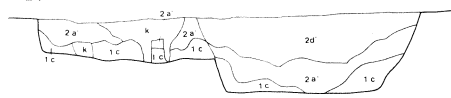
-24.30m



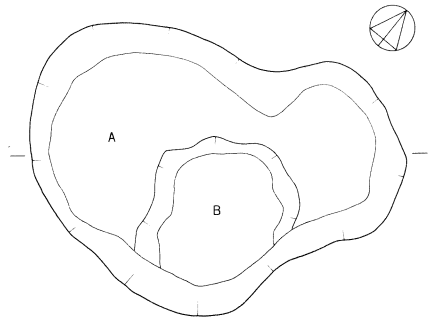
SK 515. 516



-24.80m



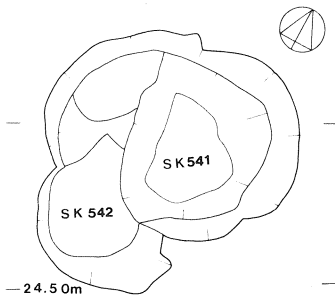
SK 634



-25.00m



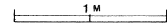
SK 601



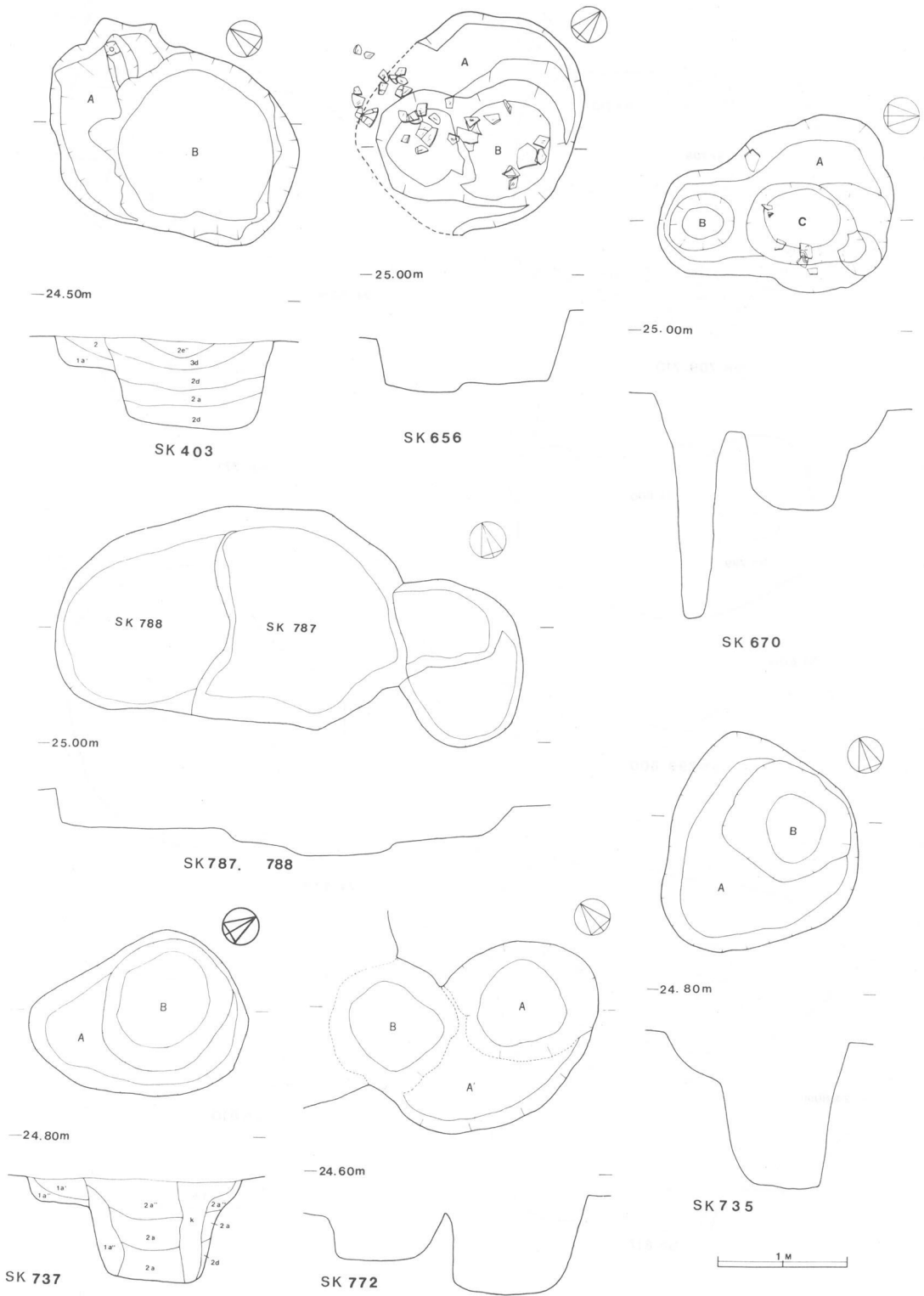
-24.50m



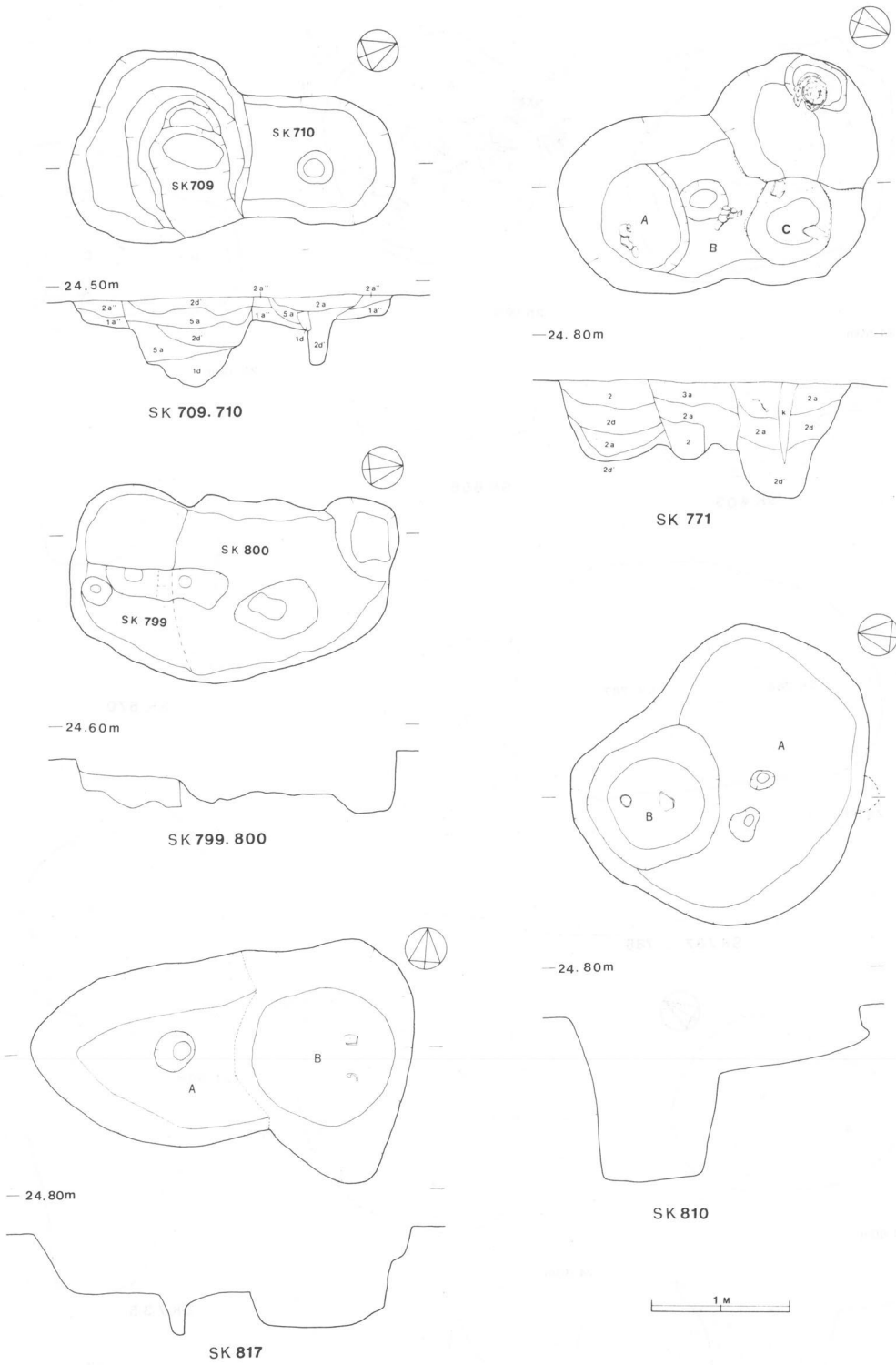
SK 541. 542



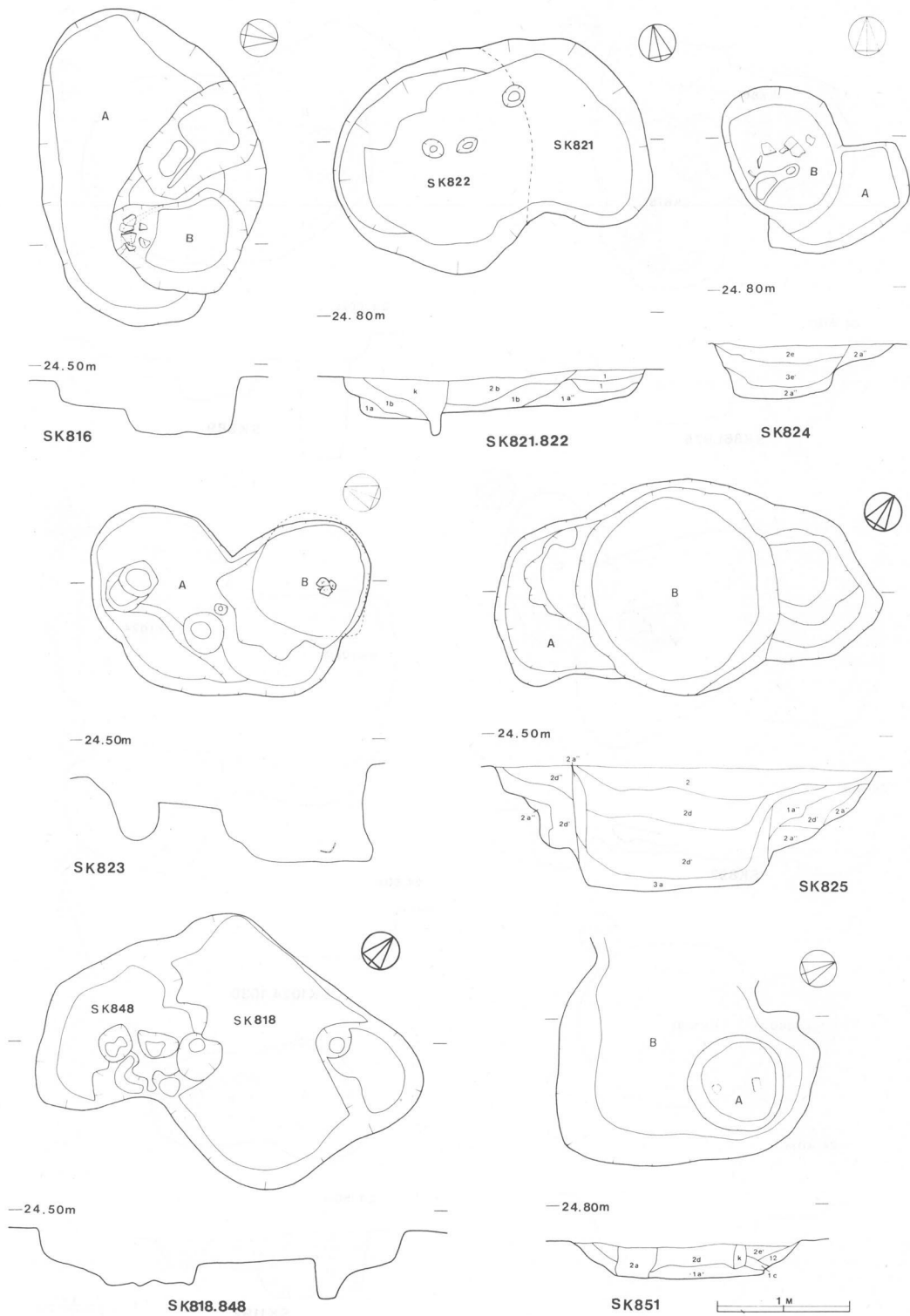
第150图 土壤实测图(95)



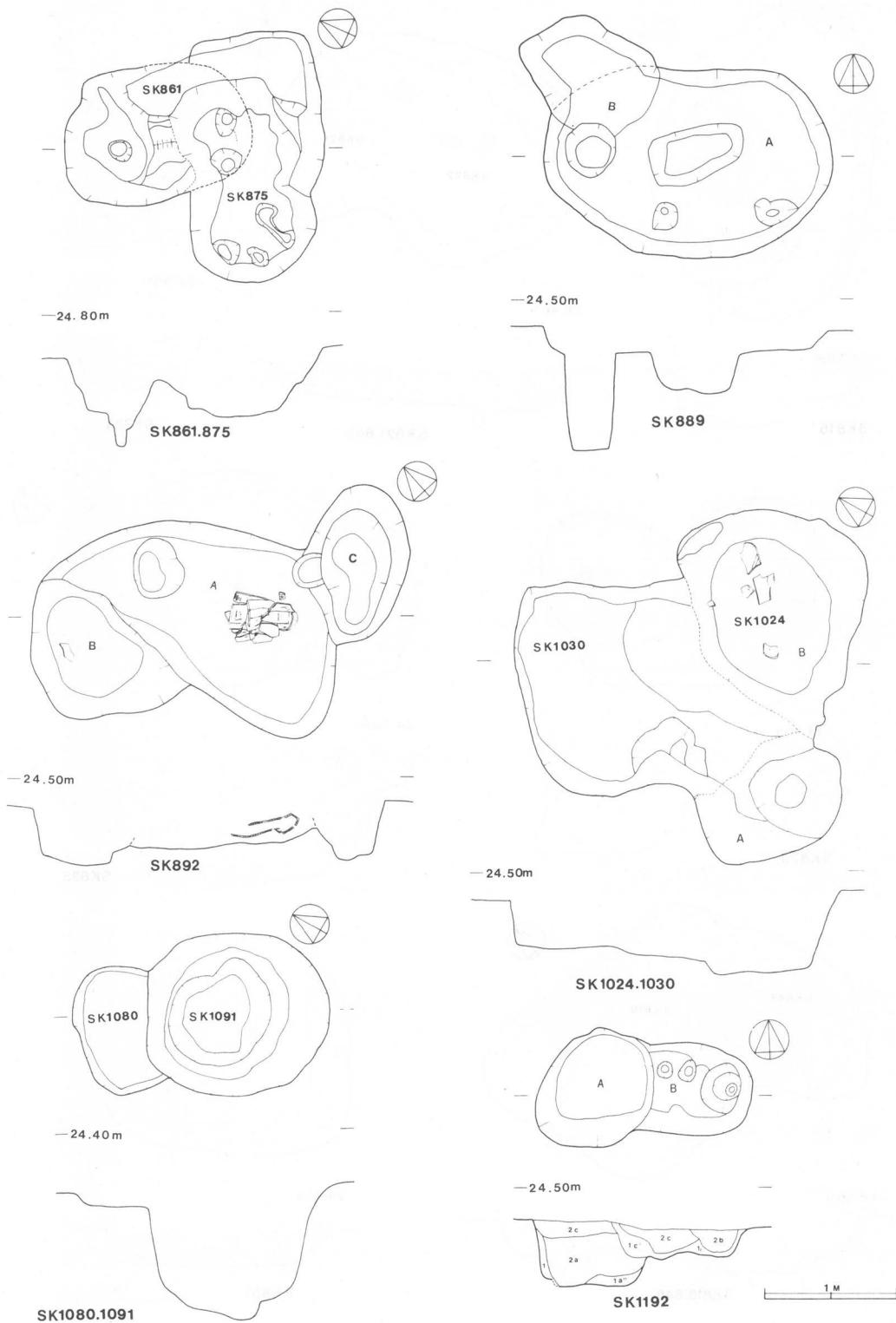
第151図 土壤実測図(96)



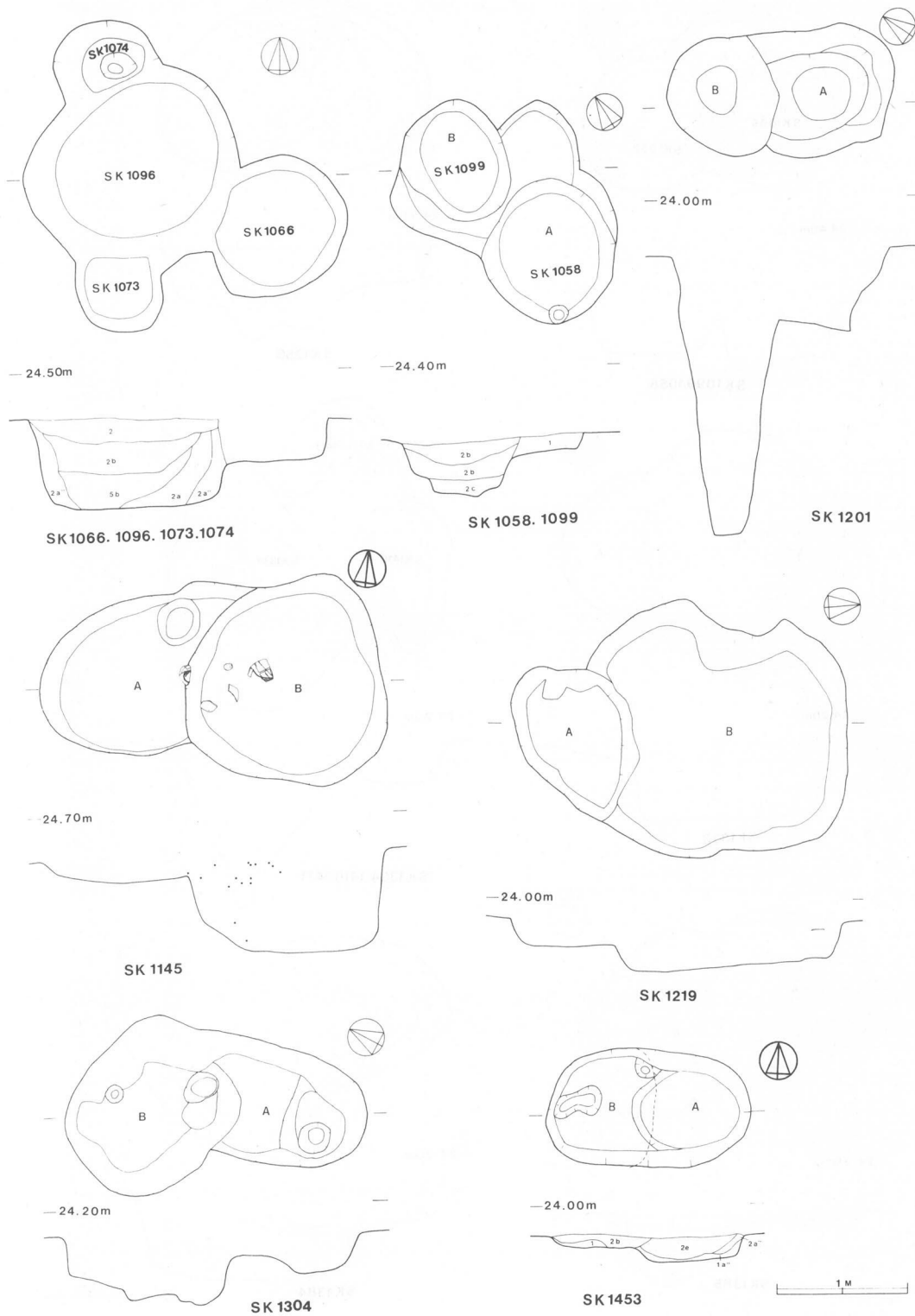
第152図 土壤実測図(97)



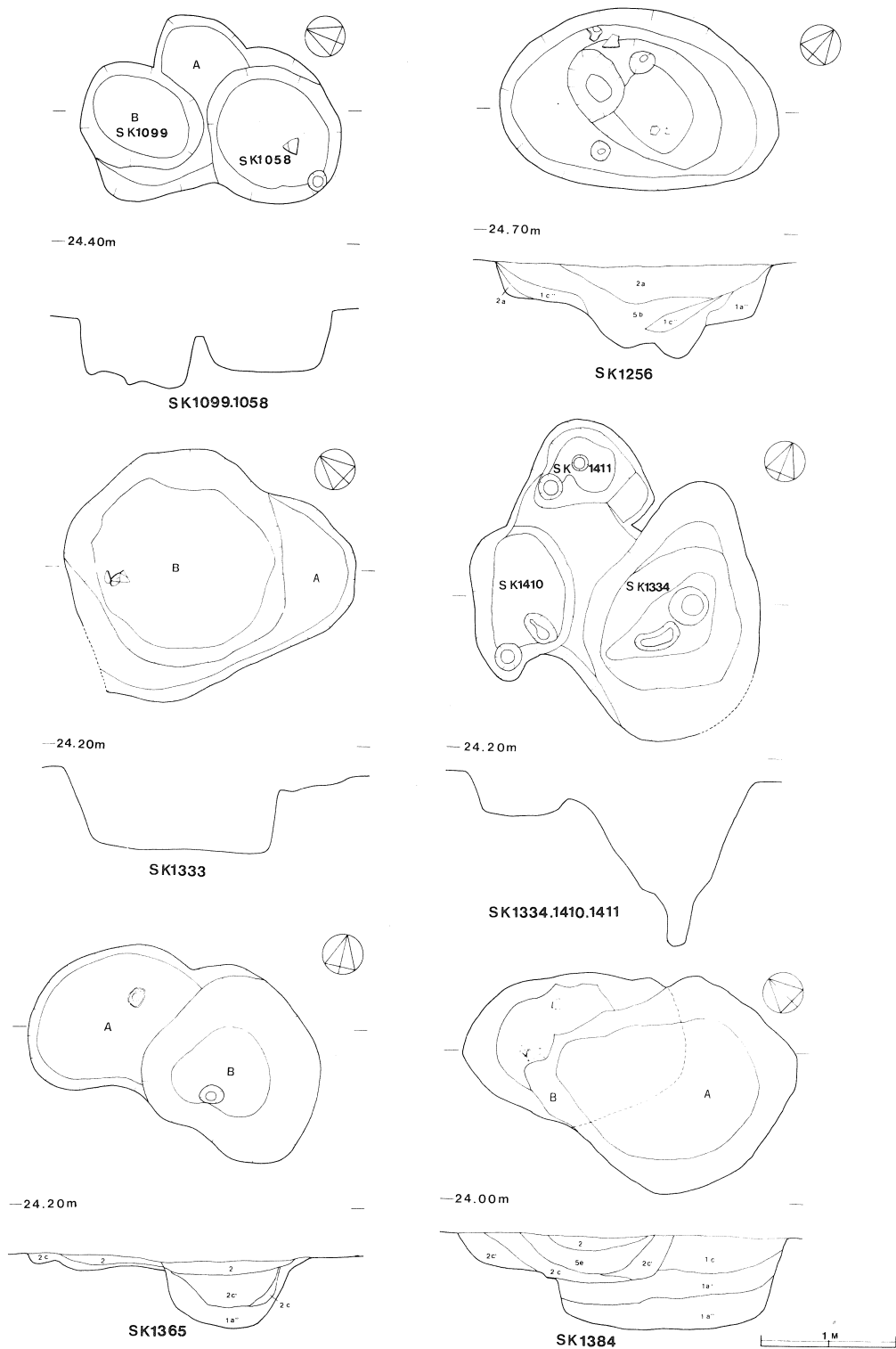
第153図 土壤実測図(98)



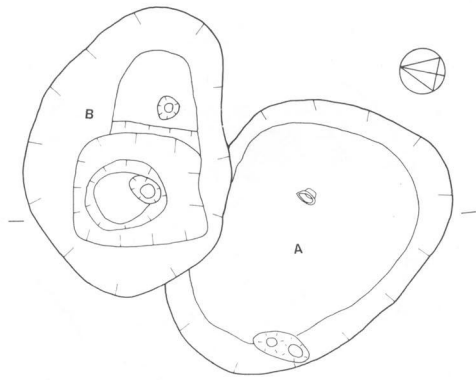
第154図 土 壙 実 測 図 (99)



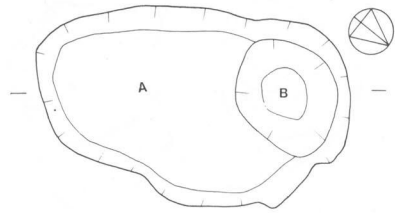
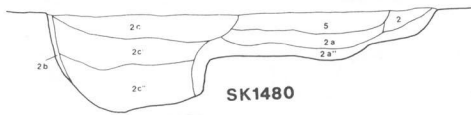
第155図 土壤実測図(100)



第156图 土壤実測図(101)



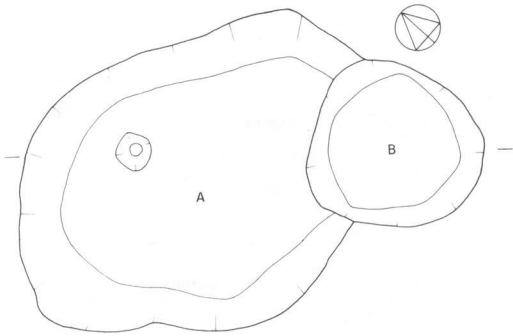
-24.00m



-24.50m



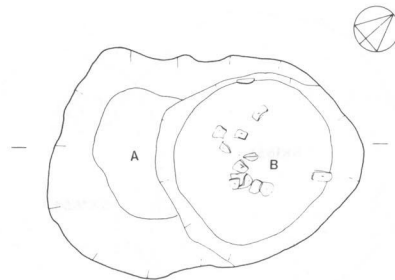
SK1503



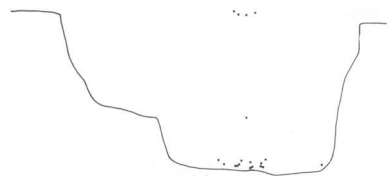
-24.00m



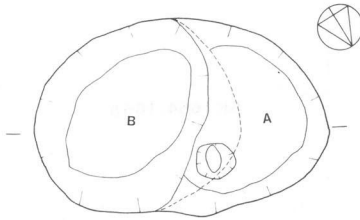
SK1552



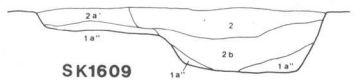
-24.50m



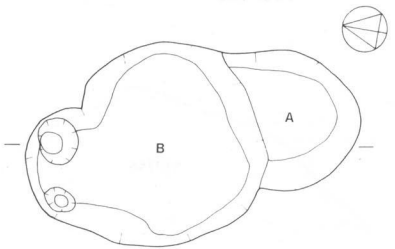
SK1560



-24.00m



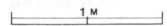
SK1609



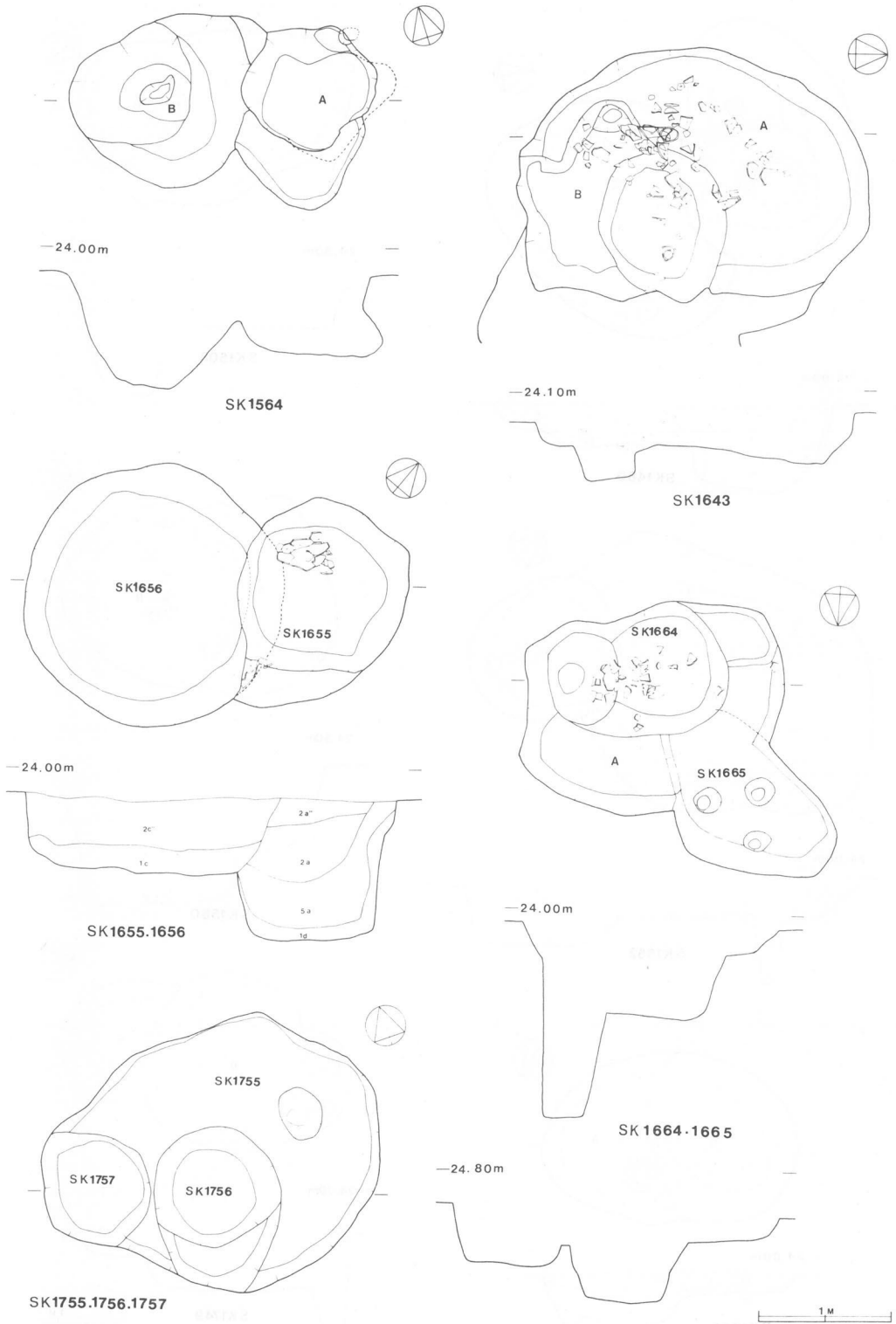
-24.30m



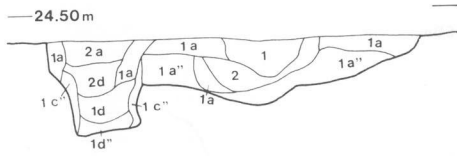
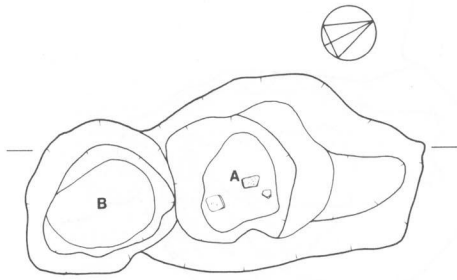
SK1749



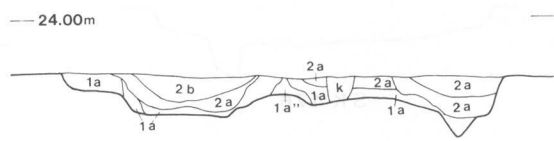
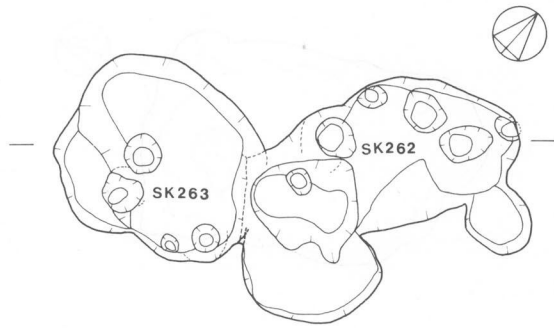
第157图 土壤实测图 (102)



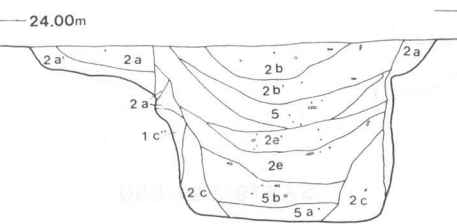
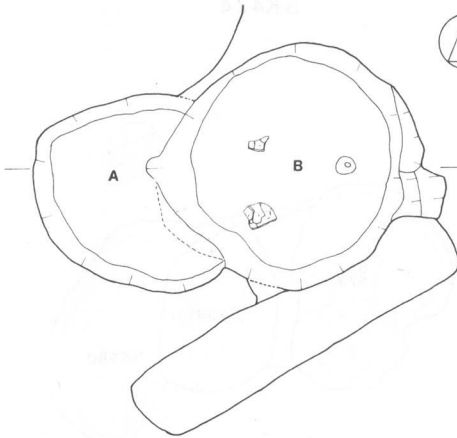
第158図 土 壤 実 測 図 (103)



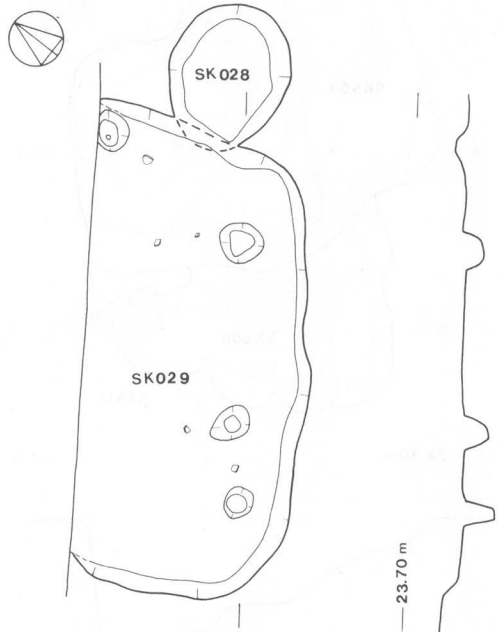
SK164



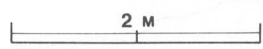
SK262-263



SK217

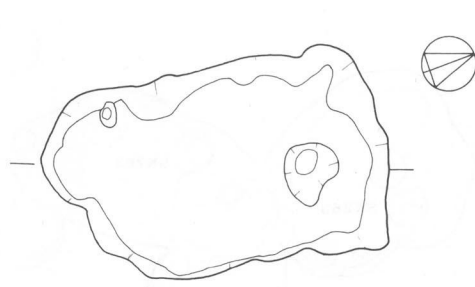


SK028-029



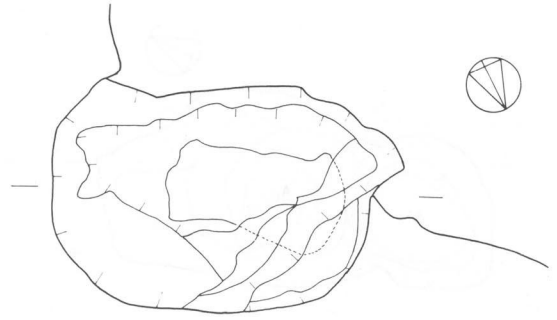
23.70 m

第159図 土壤実測図(104)



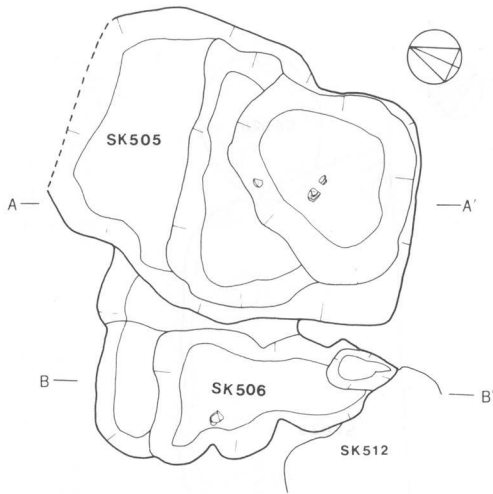
— 24.50m —

SK476



— 24.50m —

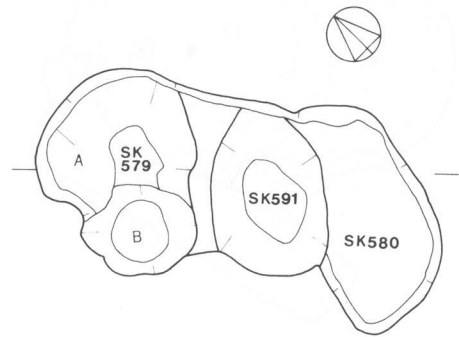
SK424



A — 24.30m — A'

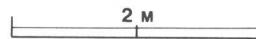
B — 24.30m — B'

SK505·506

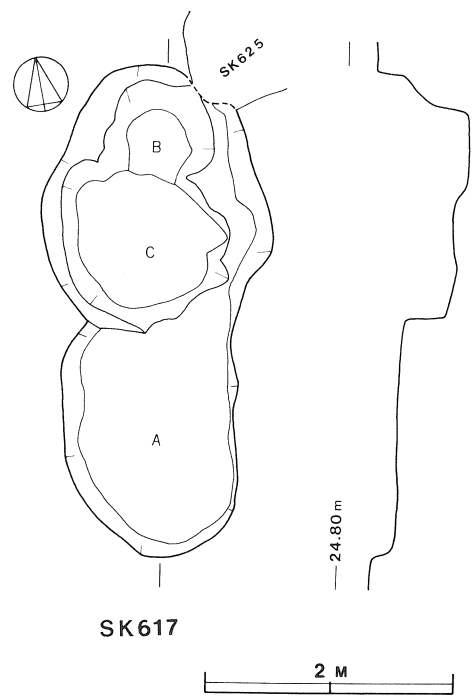
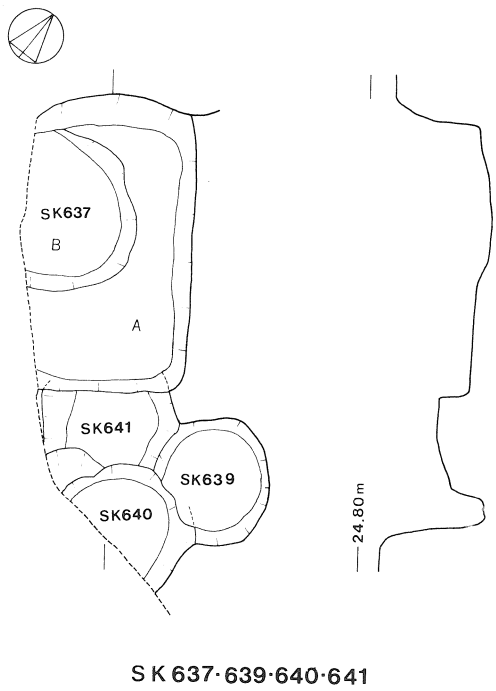
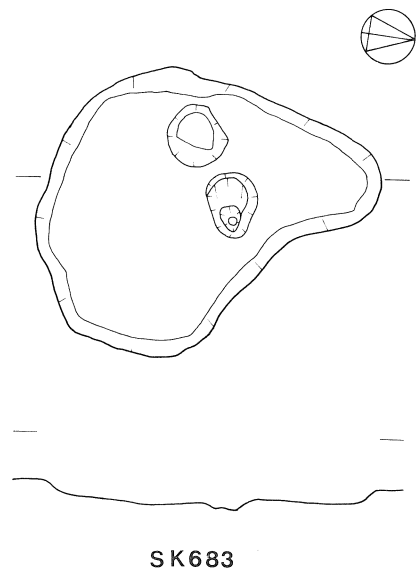
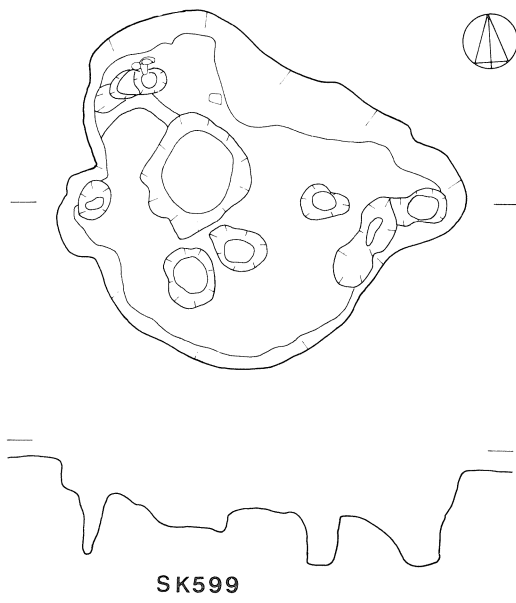


— 24.30m —

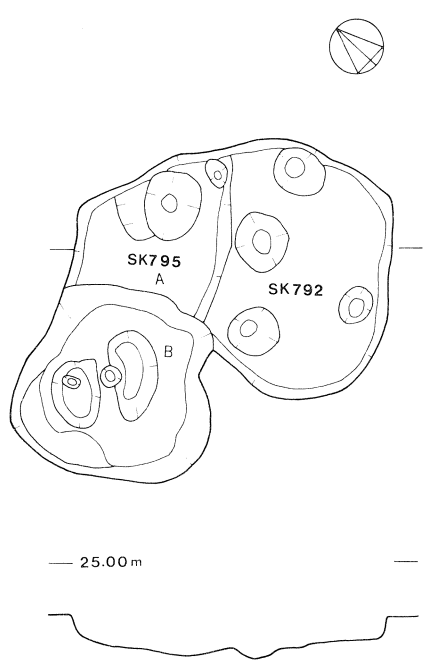
SK579·591·580



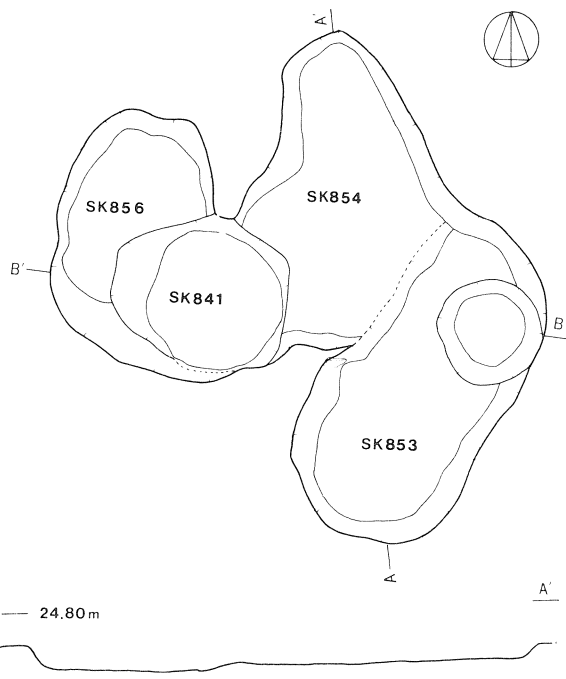
第160图 土壤実測図(105)



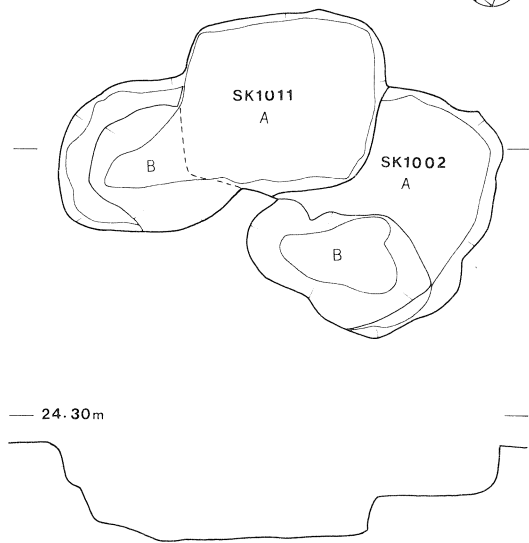
第161図 土 壙 実 測 図 (106)



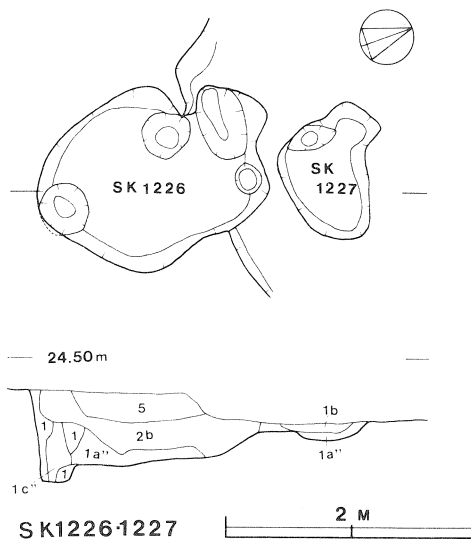
SK792-795



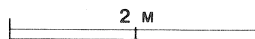
SK841-853-854-856



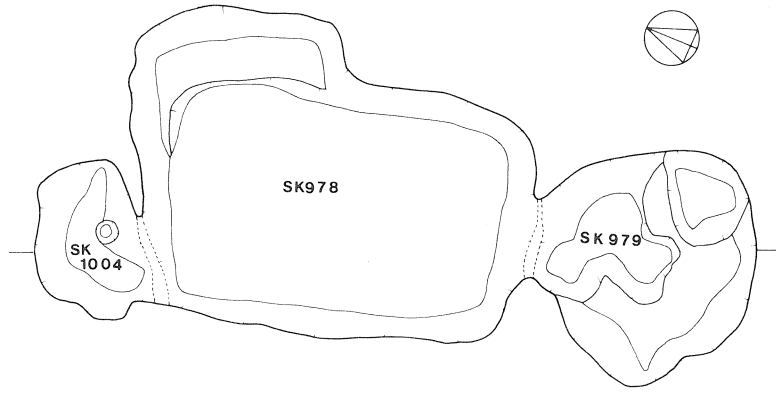
SK1002-1011



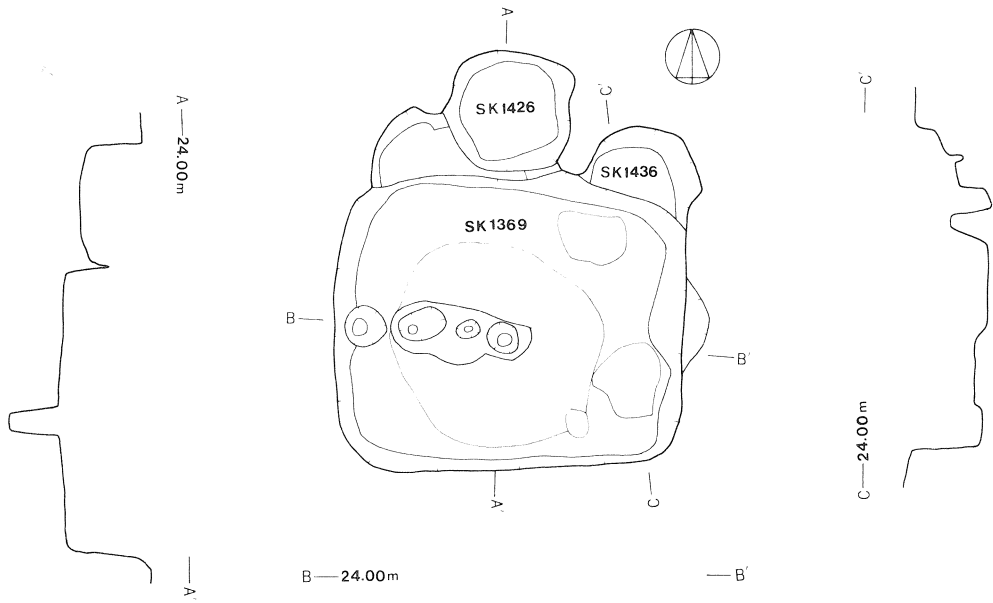
SK1226-1227



第162図 土壤実測図(107)



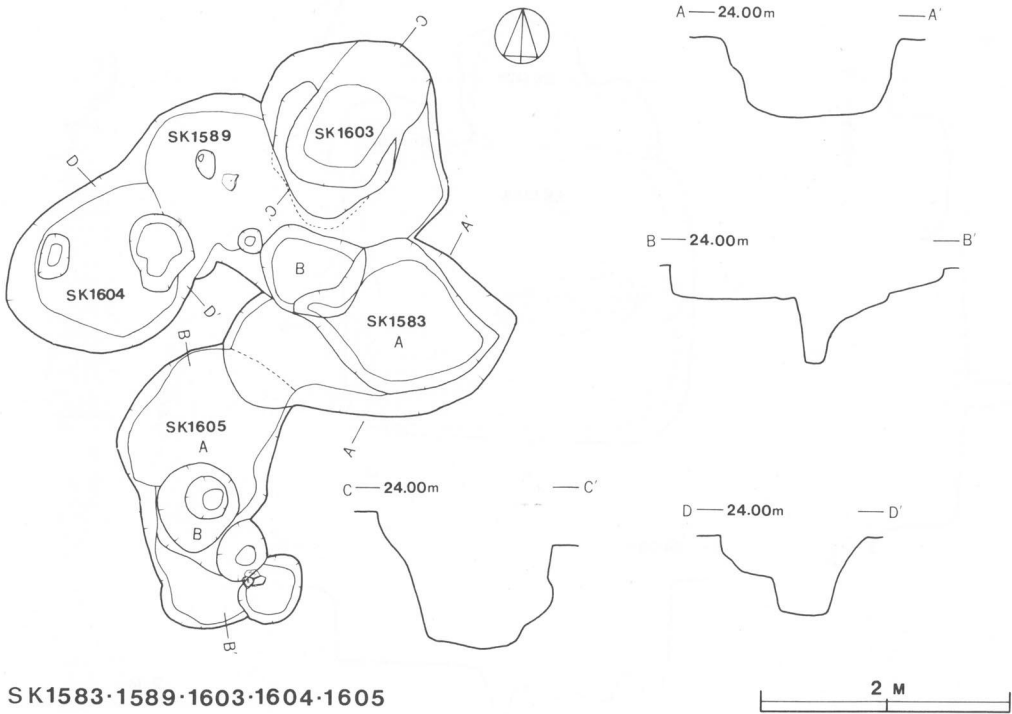
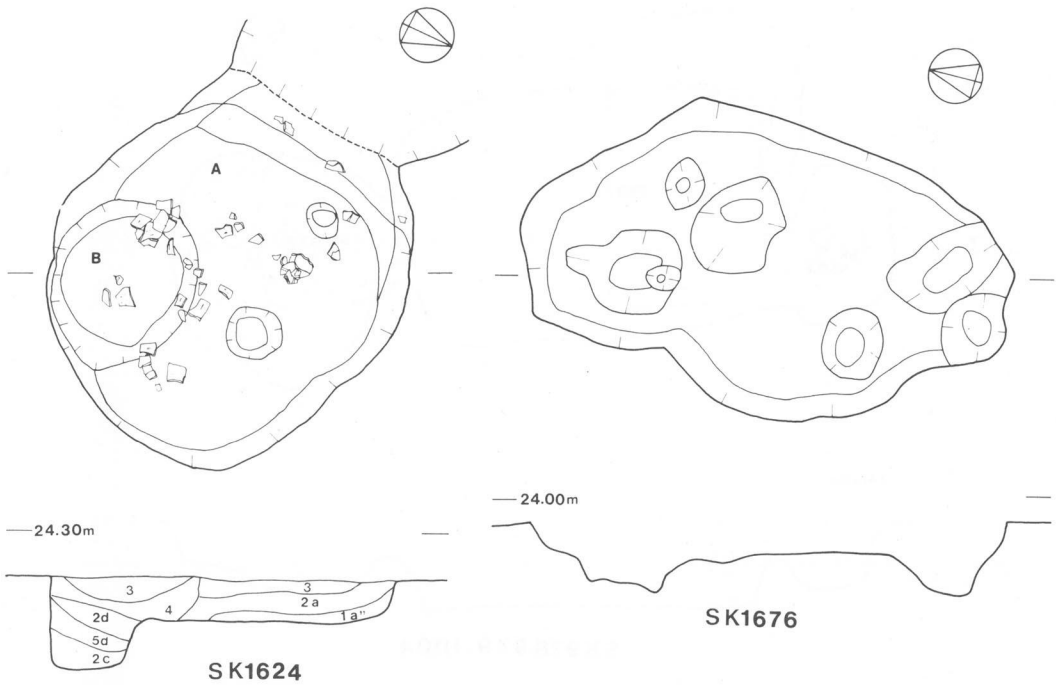
SK978.979.1004



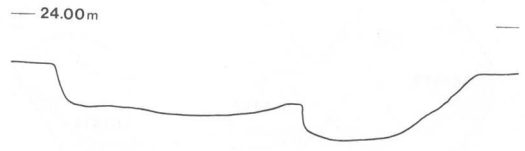
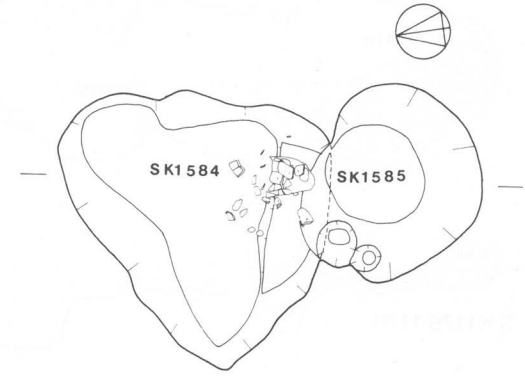
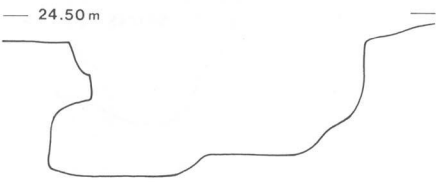
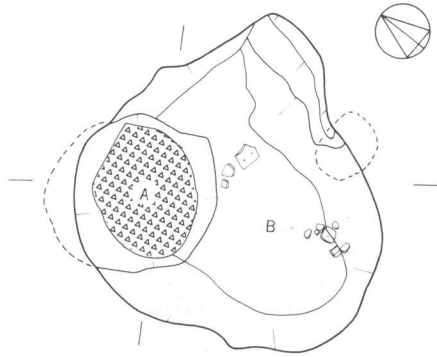
B—24.00m

SK1369.1426.1436

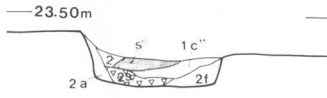
第163図 土壤実測図(108)



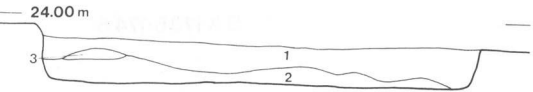
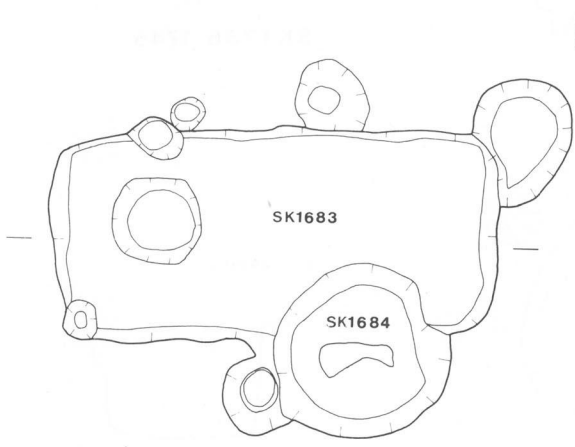
第164図 土壤実測図(109)



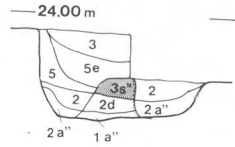
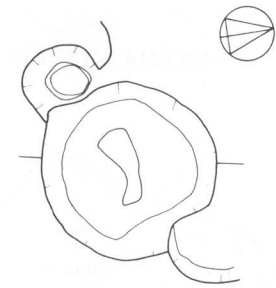
SK1584.1585



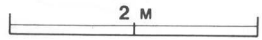
SK 1544



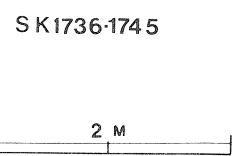
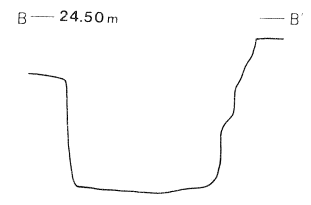
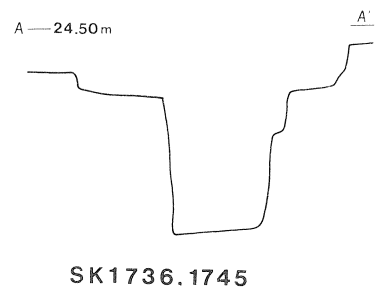
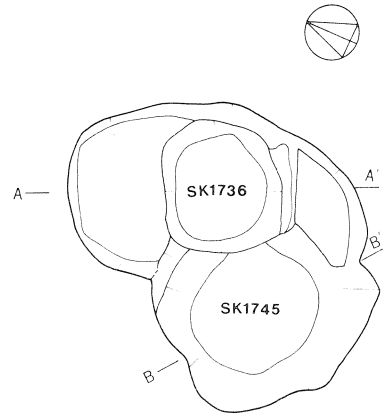
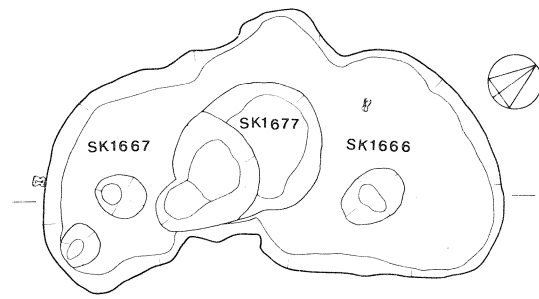
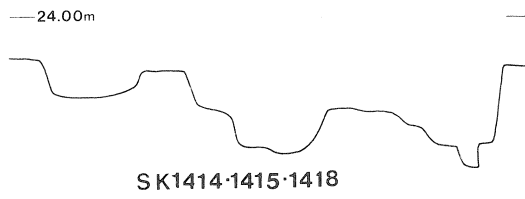
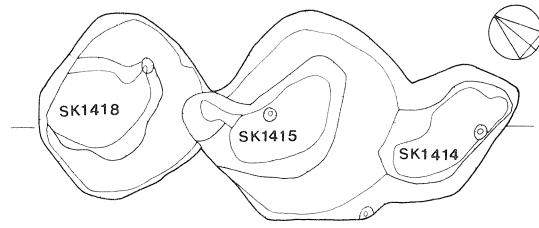
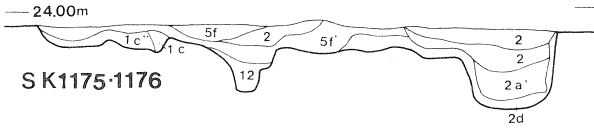
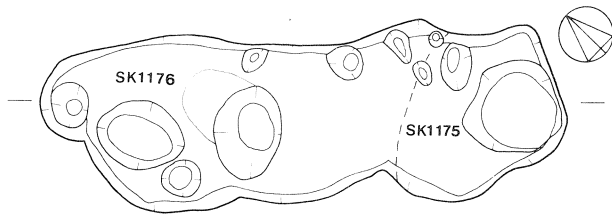
SK 1683. 1684



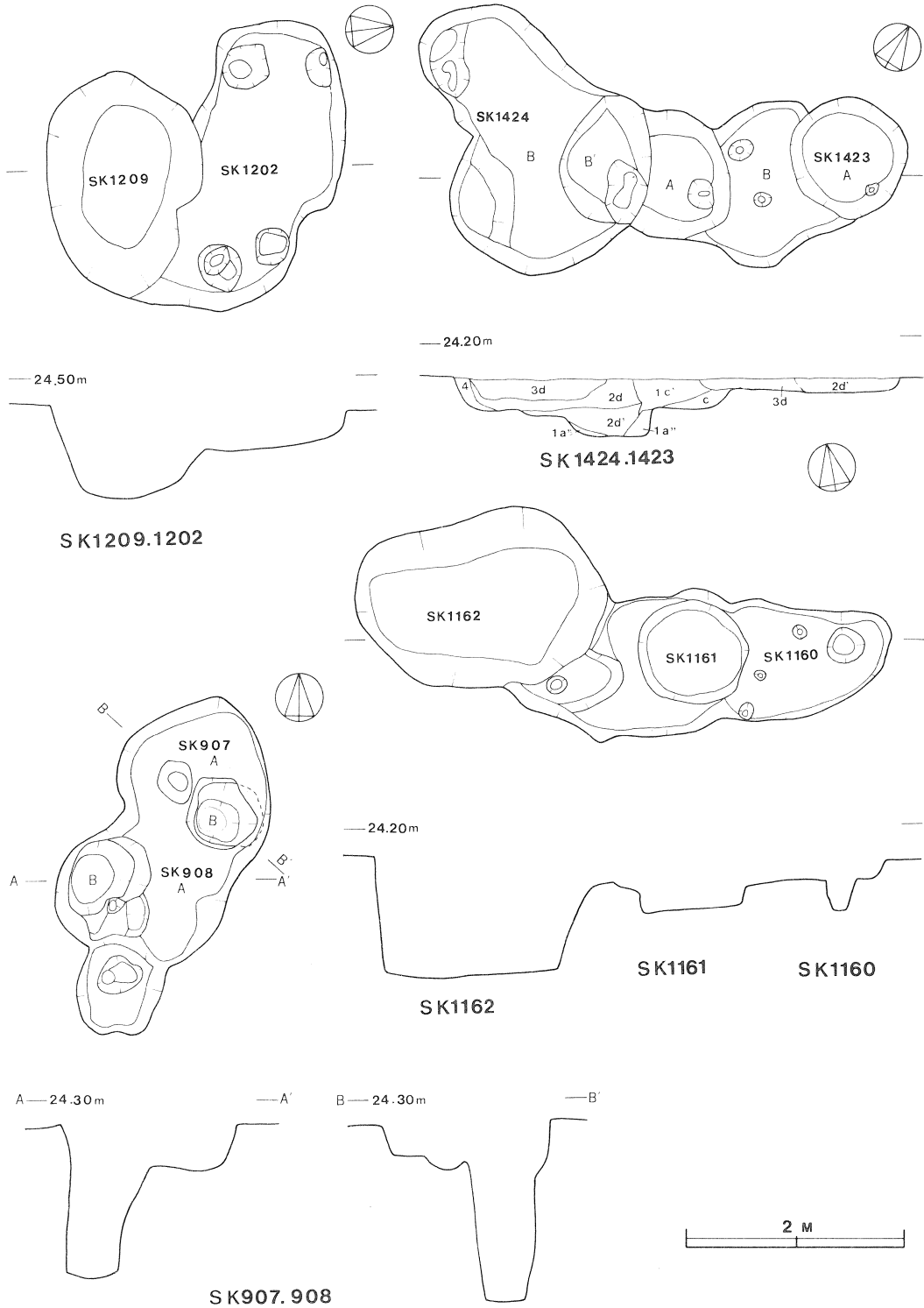
SK 1684



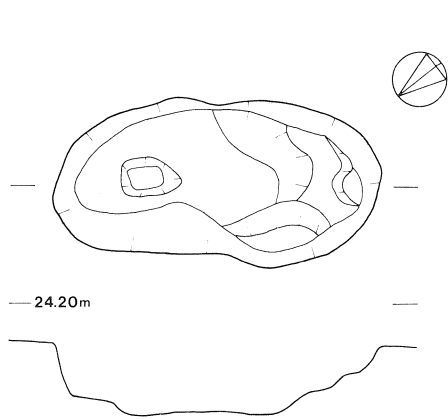
第165図 土 壙 実 測 図 (110)



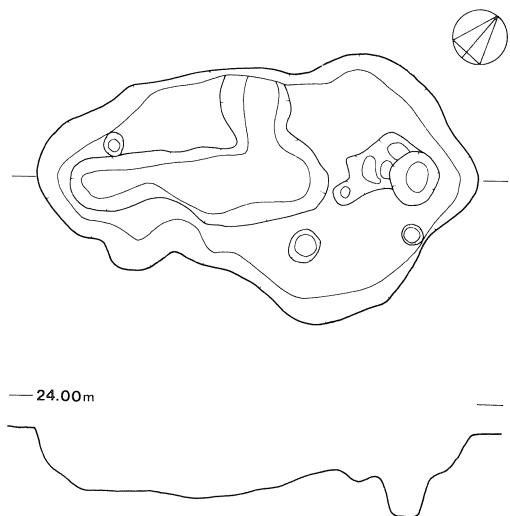
第166図 土 墳 実 測 図 (111)



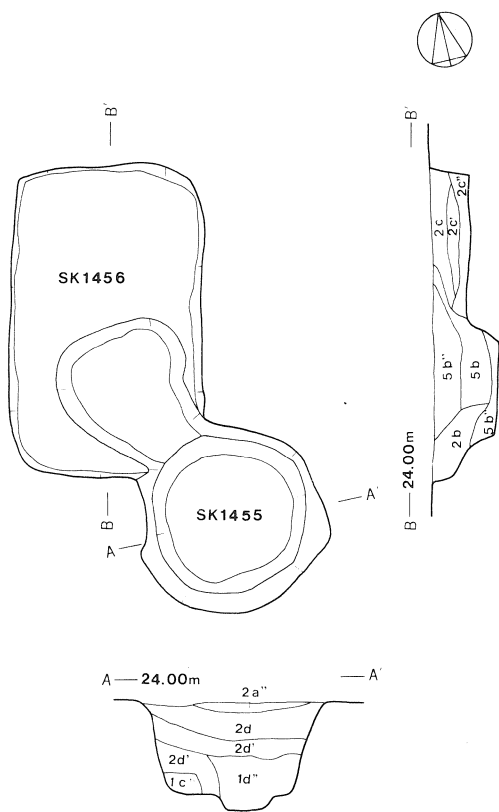
第167図 土壤実測図(112)



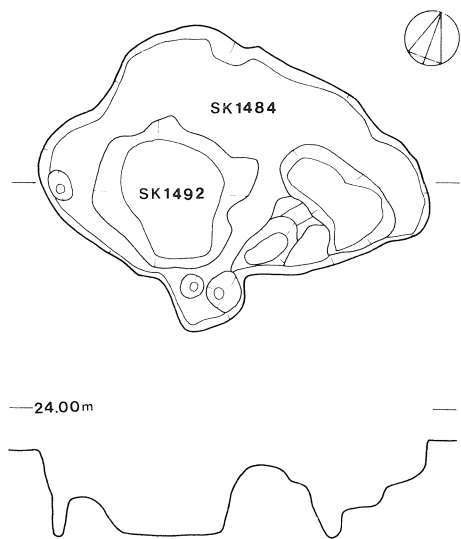
SK1327



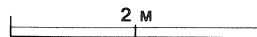
SK1485



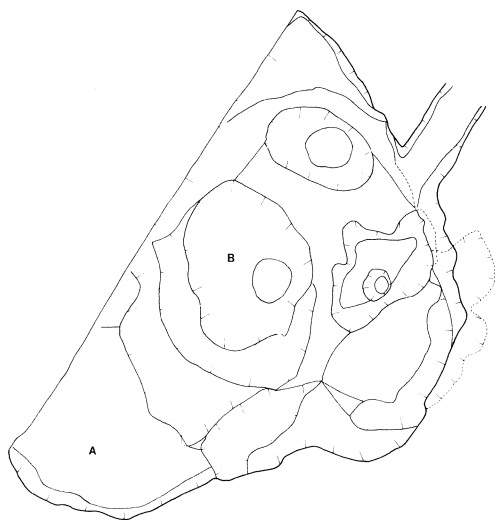
SK1455·1456



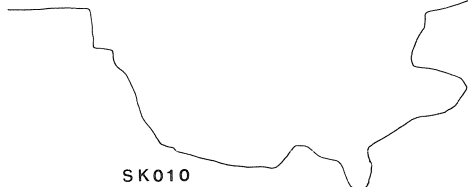
SK1484·1492



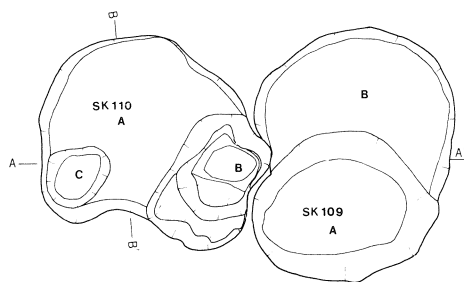
第168図 土壤実測図(113)



— 24.00m



SK010

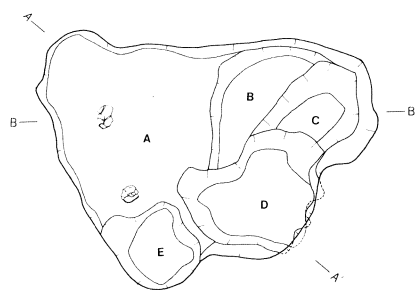


A — 24.00m

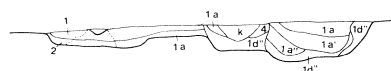


SK109.110

B — 24.00m

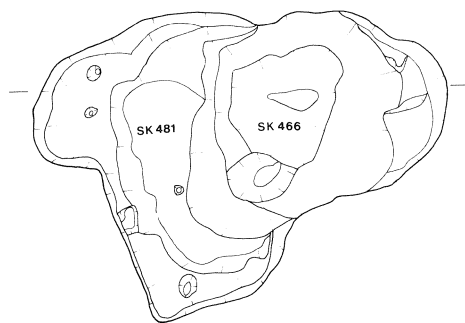


A — 24.00m

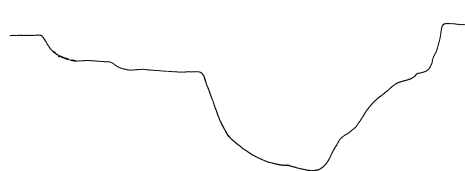


B — 24.00m

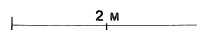
SK185



— 24.30 m



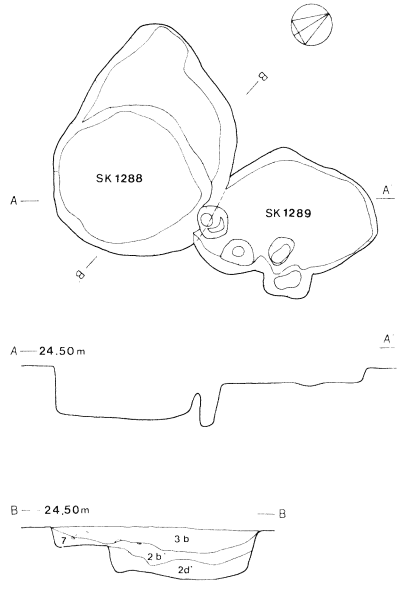
SK466.481



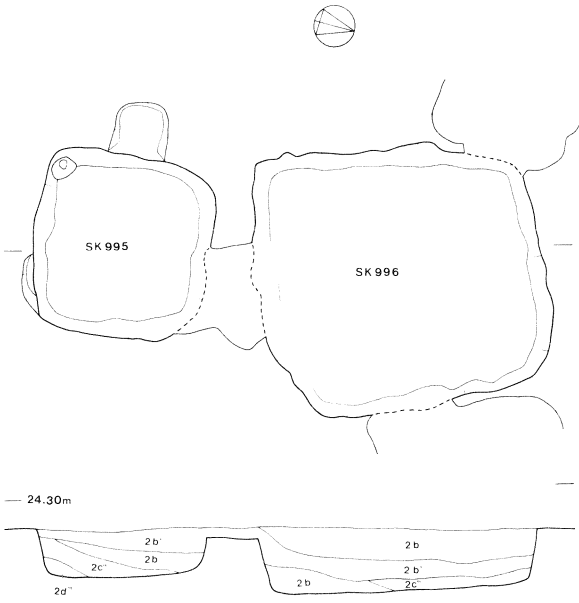
第169图 土壤実測図(114)



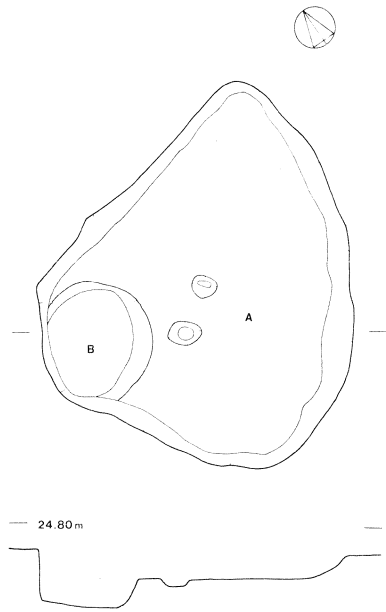
SK 806. 847. 1056



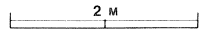
SK 1288. 1289



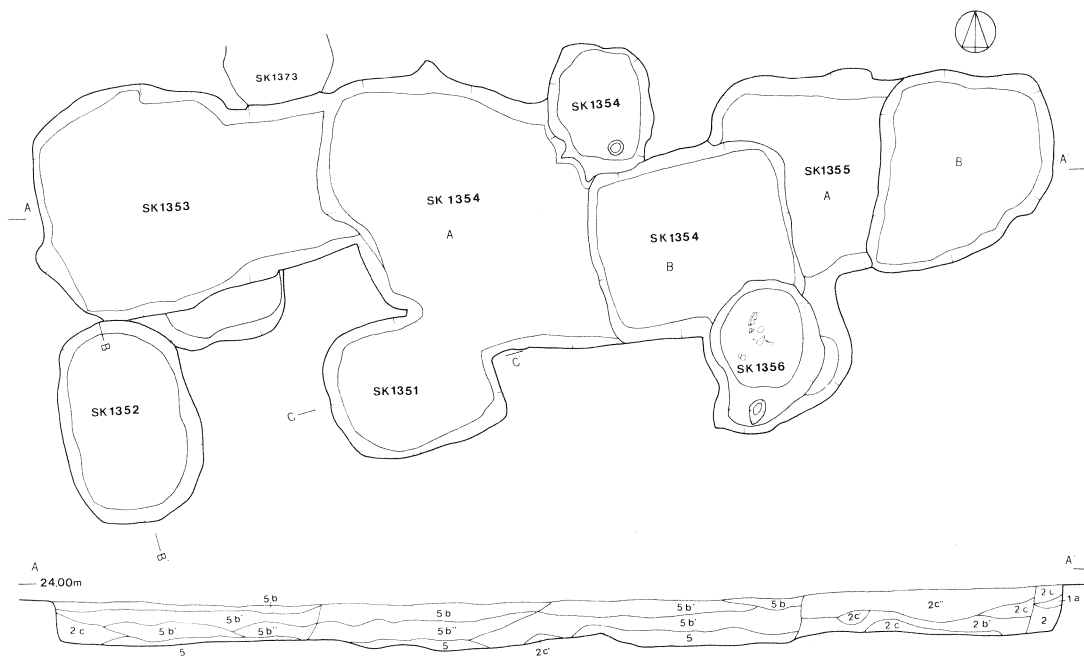
SK 995. 996



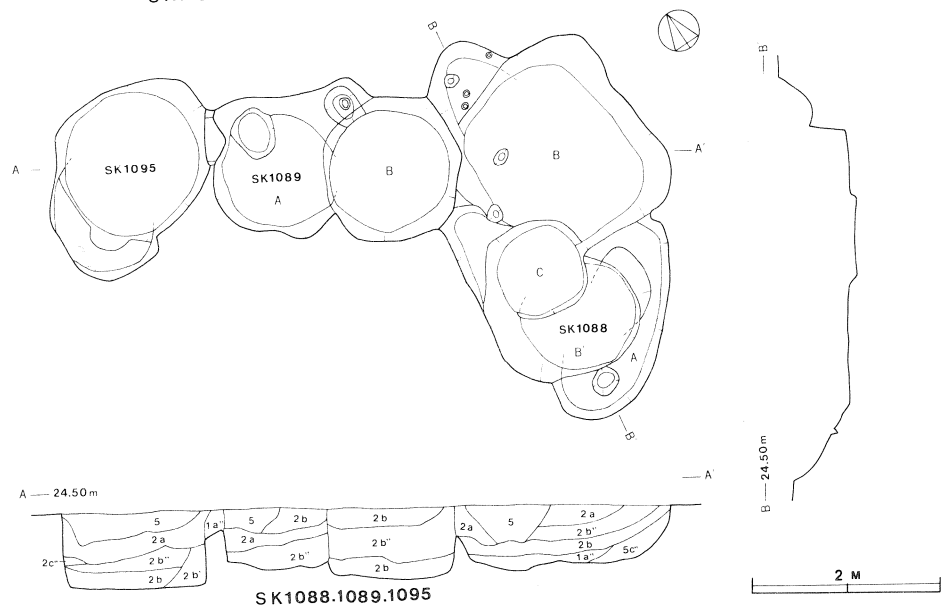
SK 618



第170図 土壤実測図 (115)

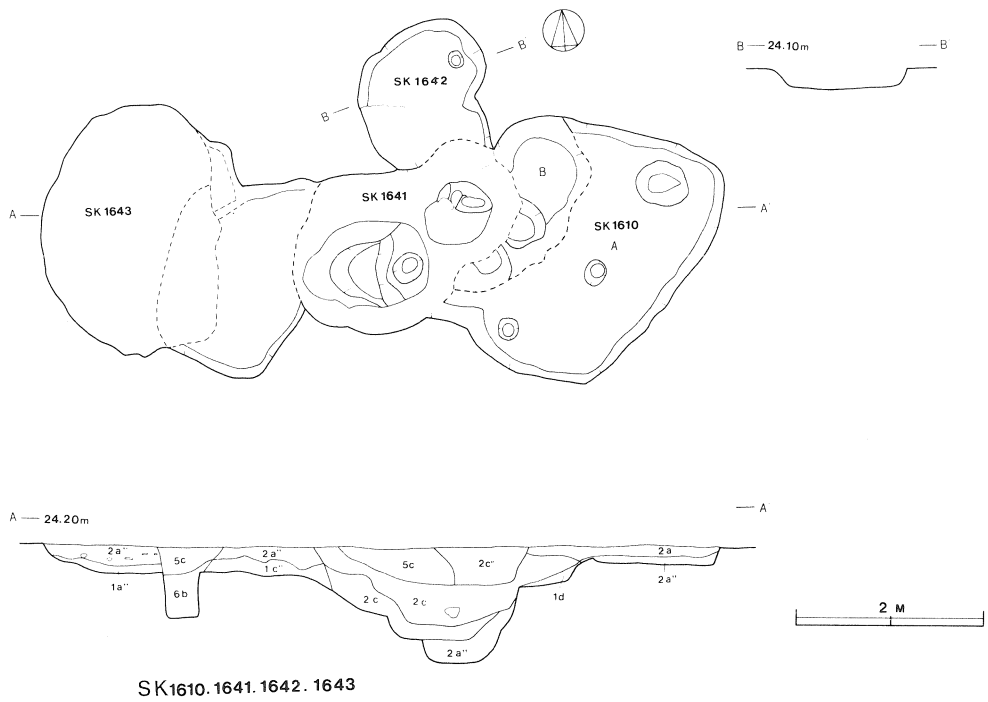
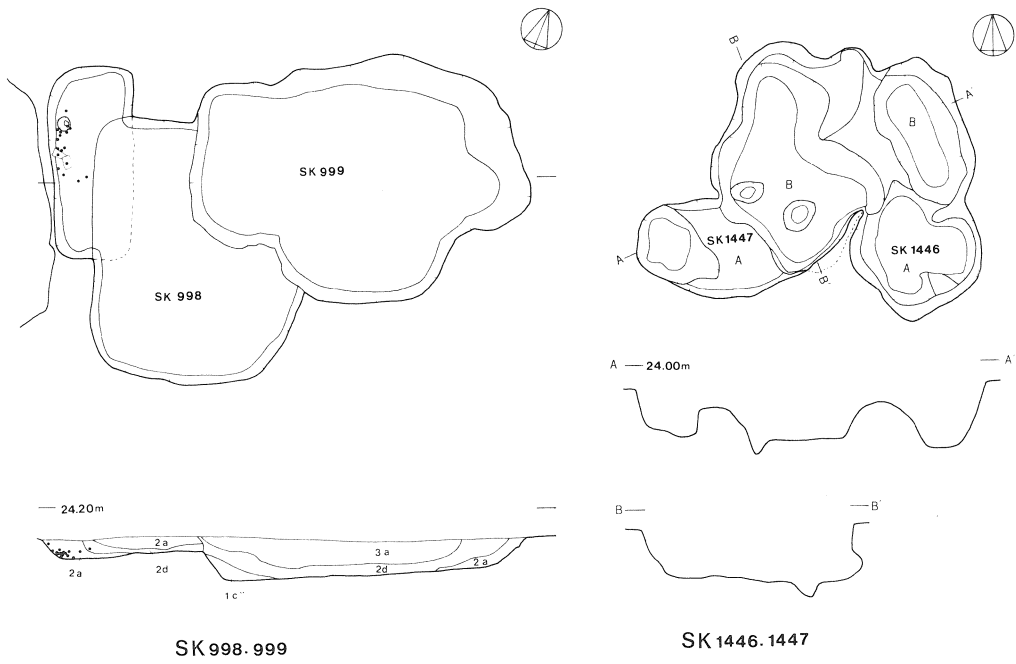


S K1351.1352.1353.1354.1355.1356

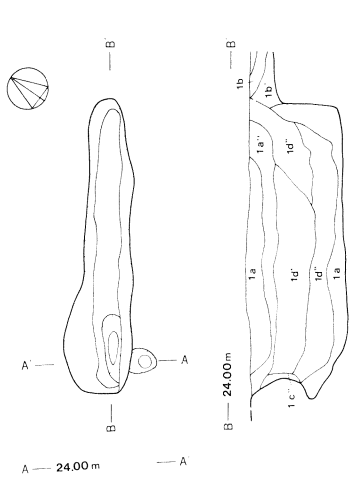


S K1088.1089.1095

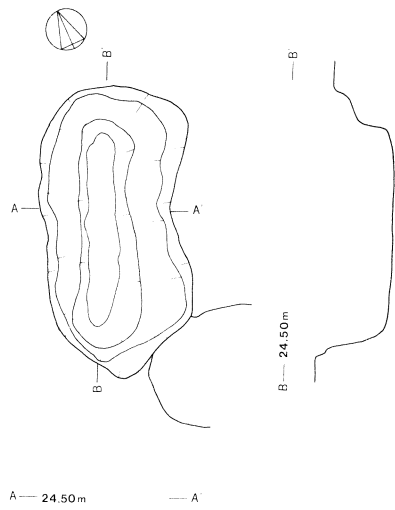
第171図 土壤実測図(116)



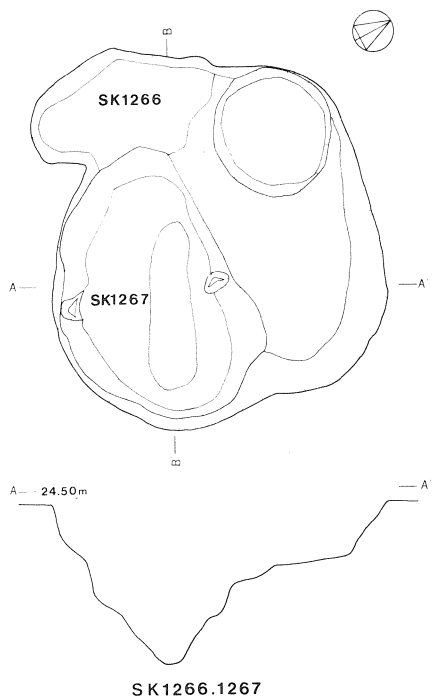
第172図 土 墳 実 測 図 (117)



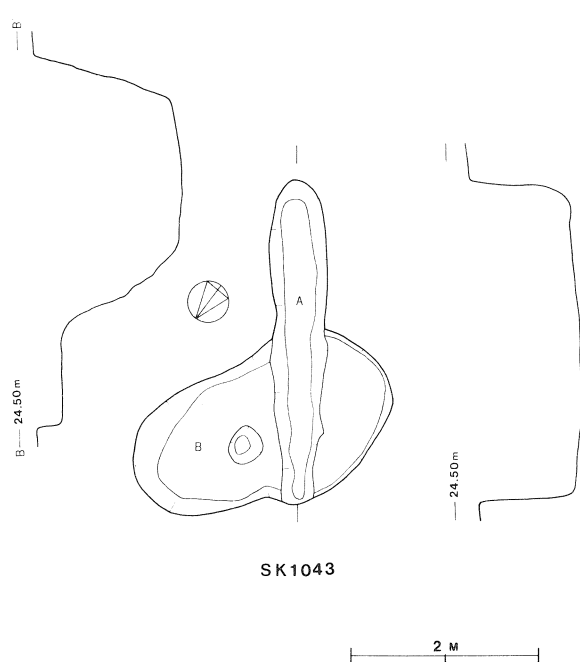
SK118



SK416

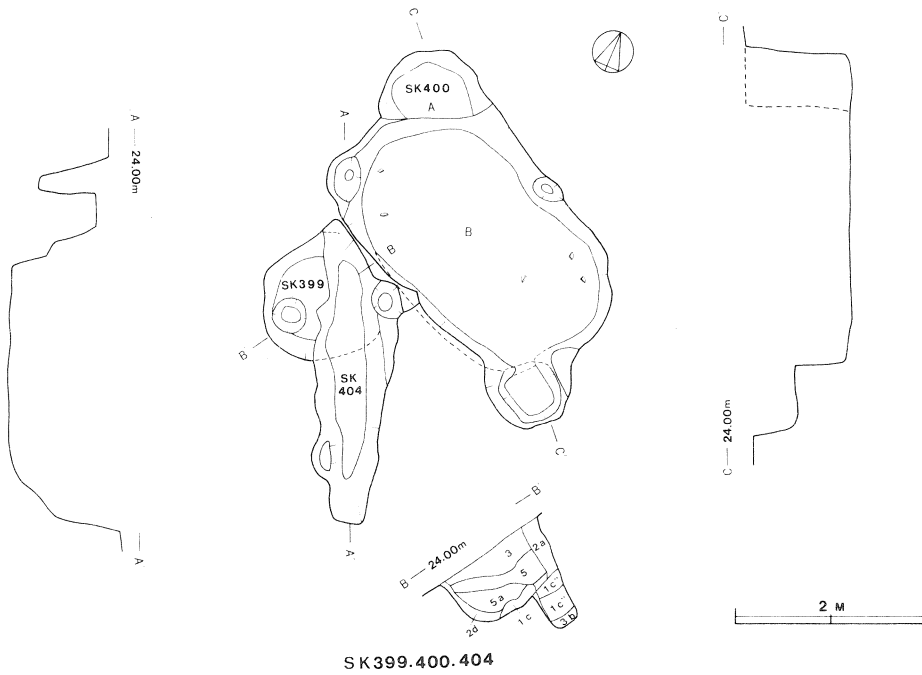
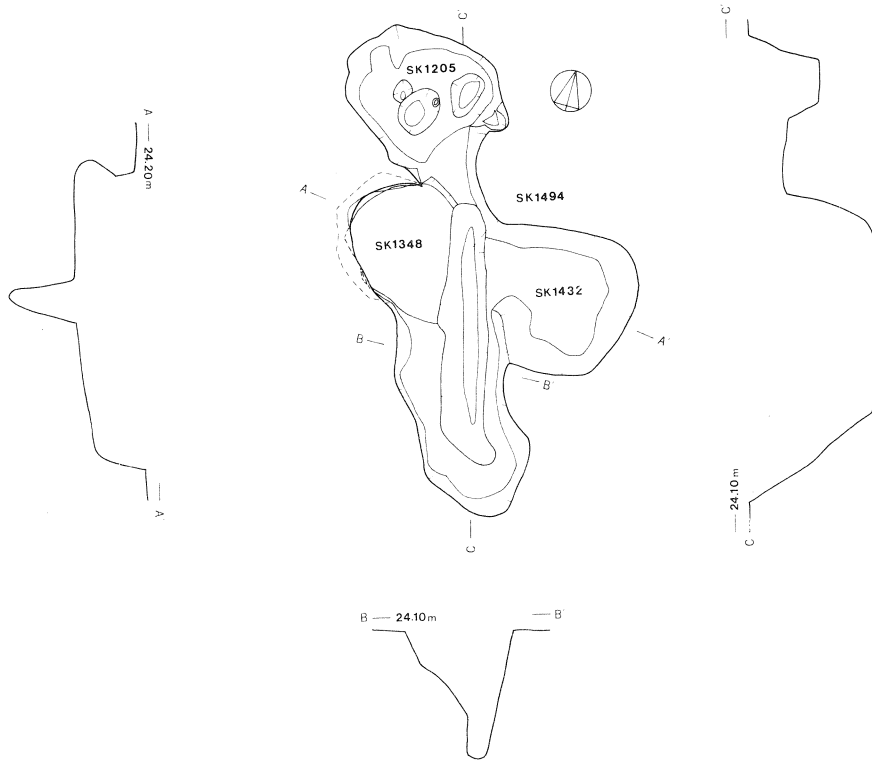


SK1266.1267

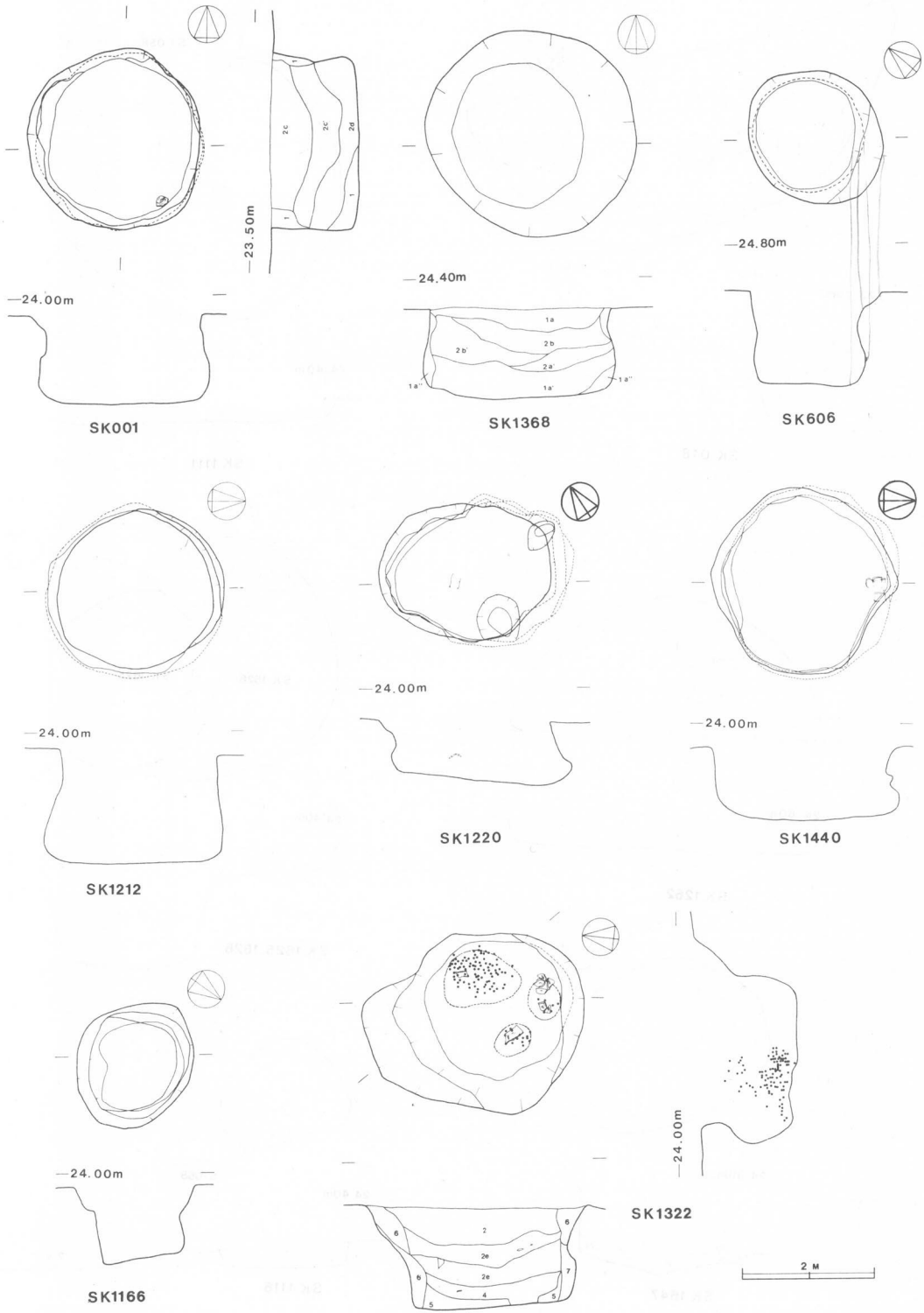


SK1043

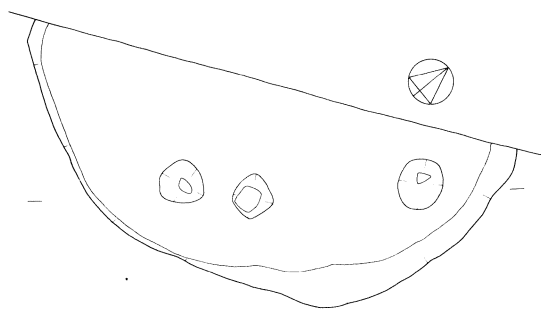
第173図 土壤実測図(118)



第174図 土壤実測図(119)



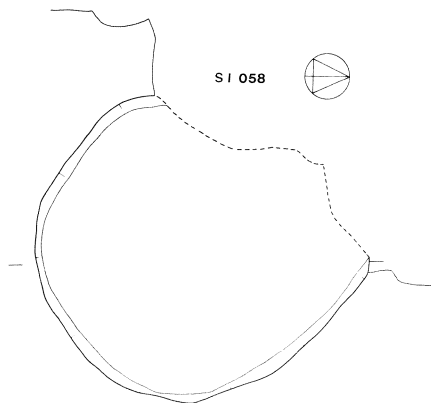
第175圖 土壤實測圖(120)



-23.70m



SK 018

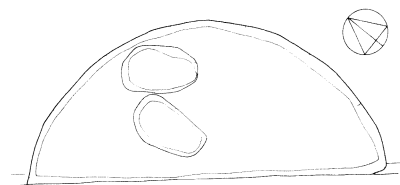


S I 058

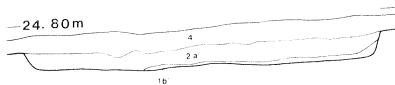
-24.40m



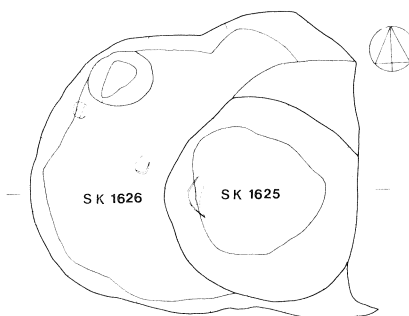
SK 1111



-24.80m



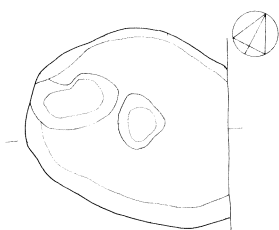
SK 1262



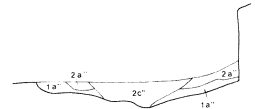
24.40m



SK 1625.1626



-24.30m



SK 1647



-24.40m



SK 1116

S I 058

2 M

第176図 土 壤 実 測 図 (121)

3. 貝 塚 (第177～188図)

本遺跡において検出された貝塚は87か所、やや大規模の貝塚が2か所ほどみられ、他は小規模のいわゆる地点貝塚である。

分布状況 遺跡中央部の平坦地にはほとんどみられず、やや環状微高帯部の集落に沿って検出されている。その多くは東部（B4・C4区）及び西部（B2区）に集中してみられ、北部及び南西部は一部調査対象区域外のため未調査であるが、南部からの貝塚の検出例は比較的少数でその分布状況から想定すれば南西部は少ないと考えられる。

西部のB2f4周辺には多くの貝塚が群をなし、その大部分は開墾などによって二次的に破砕されているものが多いが、中にはSK1525・1533のように円筒状を呈する深い土壌内に多量の貝が投棄され、純貝層を形成するものもみられる。さらに北側には扁平ではあるが本遺跡では最大級の貝塚SM2がみられ、この地区の周辺にはあまり住居跡が確認されていない。この点からこの地域は集落のごみすて場としての性格を有するものかと考えられる。東部地区にも貝塚は多く検出されているが西部地区のものに比してやや散在してみられる。

形態 東部に検出された大規模の貝塚SM1は住居廃絶後に投棄されたもので、大規模の貝塚SM2とはほぼ同様な形態と考えられる。小貝塚は土壌廃絶後あるいは凹状の地に一次的ないし二次的に投棄されたものが多く、そのほとんどはプランが確認されていない。

(平面形) ・不定形の土壌や凹地に投棄された貝塚	39か所	(45.8%)
・長方形の土壌に投棄された貝塚	28か所	(33%)
・円形(円筒状)土壌に投棄された貝塚	11か所	(13%)
・楕円形の土壌に投棄された貝塚	5か所	(5.8%)
・袋状土壌に投棄された貝塚	2か所	(2.4%)

以上のように本遺跡の貝塚は小貝塚がほとんどで、不定形の土壌や凹地に投棄された貝塚が約半数を占めている。長方形の土壌に投棄された貝塚は全体の3分の1を占めているが、貝を少量検出されるものと多量に純貝層がみられるものに分けられ、西部から検出されたSK1536には多量の貝と共に魚骨が多く検出され、北西部のSK1668からは植物の種子が検出されている。南東部のSI058の床面を掘り込んでいるやや大規模のSK586には保存状態が良い純貝層がみられ、貝による年代測定を実施した結果、3880±120年B.P.という年代値が測定されている。その他の長方形の土壌に投棄された貝は少量のものがほとんどである。

次に円形の土壌に投棄された貝塚は13%であるが比較的貝の量が多く、特に円筒形を呈するSK1525・1533では多量の貝が出土し、堆積層には純貝層がみられる。また貝層中より貝輪・貝刃・植物種子・魚類遺体など多くの遺物が検出されている。楕円形の土壌に投棄された貝塚は少な

く、壁・床とも軟弱である。

袋状土壌に検出された貝は極少量で、一塊を投棄したような状況を示している。

第1貝塚（SM1）（第178図）

本貝塚は、調査区の東部（C4a9・a0）に位置し、隣接する2地点からなり、西はSM1-1・東はSM1-2である。

SM1-1は、調査区の東部（C4a9区）に所在しSI051廃絶後に投棄された貝塚である。

規模 南北約3.5m・東西1.5mほどで、長軸方向はN-45°Eを示し、表面積は約4.5㎡である。

調査方法 小調査区（一辺4mのグリッド）内に50cm四方の方形を64か所設定し、北西コーナーより東へ1～8と順次番号を付ける。SM1-1にかかるメッシュは25か所ほどでその半分を千鳥法で調査し、断面図作成後残り半分を取り上げる。その取り上げは24.50mを基準とし各区を5cmを1層とし柱状に掘り下げ、③～⑩層（35cm）を土と共に取り上げ、貝は③～⑧層に多くみられた。

SM1-2は、調査区の東部（C4a0区）に所在し、SI042の住居廃絶後に投棄された貝塚である。西のSM1-1との距離は約1.5mほどである。

規模 南北約4.5m・東西約2.2mほどでやや南北に長く、長軸方向は、N-15°Eを示し、表面積は約7㎡である。

調査を実施した区は39か所で、SM1-1よりやや堆積量が多く、③～⑯層（70cm）取り上げ、⑥～⑩層に比較的多くの貝が確認されている。

第2貝塚（SM2）（第179図）

本貝塚は、調査区の西部（B2d3・d4区）に所在し、その南方には小貝塚群がみられる。

規模 東西約6.6m・南北約3.5～4.7mほどで東西に長い不定形を呈し、表面積は25.25㎡ほどであり、体積は約10㎡ほどの扁平な堆積層がみられる貝塚である。

調査方法 規模が大きいため貝の確認された平面プランで北側の西より東へ①～⑳区と番号を付け、調査中に確認されたものについてはその区の他に東西南北を付加し、調査を実施した区は140である。第一次調査は、区を千鳥で24.70mを基準に5cmごとに取り上げ、断面図作成後その残りすべてを取り上げた。収納した遺物は②～⑩層（45cm）で貝は②～⑧層が多く下層は少量である。

以上のように調査した貝塚は多く、その貝の量は膨大な量となりすべてを詳細にわたって検討を加えることは困難であるためアトランダムに貝塚を選び洗浄・分類・計測を実施した。大規模の貝塚については中心線を通る十文字を任意に選び重量で2分割し洗浄・分類し、計測は遺存度

の良好な地区を選択し、柱状に各層（5 cm単位）ごとに実施した。その結果については第3章遺物の第2節 自然遺物の項にまとめて記載した。

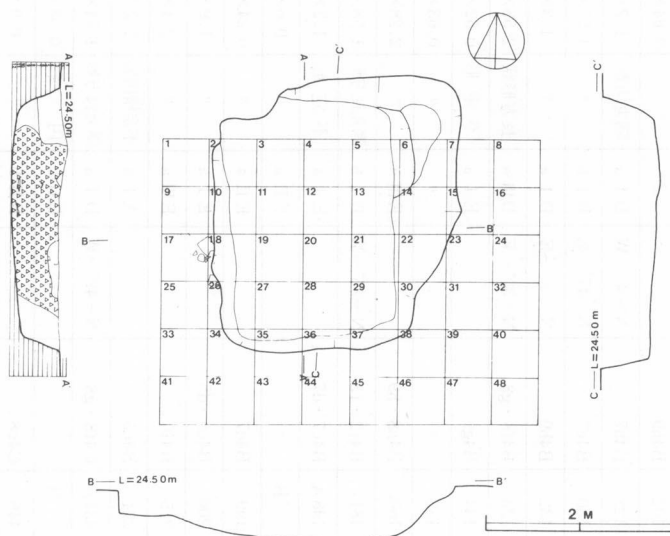
貝塚の時期について

本遺跡からは縄文時代中期末の加曾利EⅣ期から後期の堀之内内にわたる住居跡が確認されているが、第Ⅰ期（加曾利EⅣ式）に伴う貝塚は遺物及び住居跡の配置からも確認されていない。

第Ⅱ期（称名寺式）と考えられる貝塚もほとんど認められていない。東部に所在する一群は、第Ⅱ期の住居跡と重複しているが住居廃絶後に投棄されたものがほとんどであり、SM1-1はSI051に、SK950はSI059にそれぞれ投棄された貝塚である。

第Ⅰ～Ⅱ期の検討結果により本貝塚群は、第Ⅲ期（堀之内式）に位置づけられるものがほとんどであり、第Ⅲ期は後期堀之内Ⅰ式に編年されるものである。本遺跡の第Ⅲ期は堀之内Ⅰ式の古い段階・堀之内Ⅰ式の段階・堀之内Ⅰ式の新しい段階の3段階に細分が可能であり、一部第Ⅲ期の住居跡と重複する貝塚はたぶん新しい段階のものと考えてさしつかえないと思われる。

貝塚の分布は、5～6グループがみられ、北東部の一群はSI002・004・013・025の住居跡に囲まれ、東部に所在する一群はSI008・023・029・032・053・069が弧状に並び、SM1等を囲むものと、その北側に所在するものがみられる。南部は少数でSI049・068の外側にみられる。北西部に所在する一群は本遺跡内で最も密集する地域でSM2などのように大型の貝塚もみられる。これらは集落における共同のごみ捨て場と考えられ、北北西の一群はその南方に最大級の貝塚群がみられるため東部および西部の一群以外は、規模的にも小さいものでキッチン貝塚的なものと考えられる。



第177図 土壌実測図 (SK1536)

貝塚一覽表

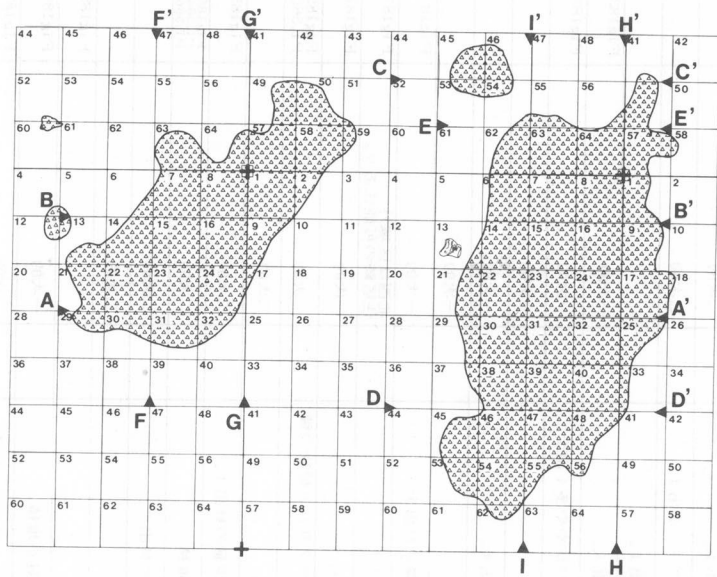
(一次的とは投棄された貝類と遺構が同一の時期で、二次的とは遺構が廃絶された後に貝類が投棄されたもの。)

遺構番号	地	区	長軸方向	形態	平面形	規模		覆土	出土遺物	時期	備考	関連図版
						平面(m)	壁高(cm)					
S K077	B5h1		N-24°-W	A I a	楕円形	1.2×1.16	31	N	覆土上層にハマグリを主とする貝のプロックが少量出土。		二次的 投棄	Fig180
101	B4g8・g9		N-4°-W	D I b	長方形	1.28×1.14	51	A	床中央に土器片と少量のヤマトシジミが少量出土。	II期	二次的	Fig180 Fig190
102	B4h9			Z		0.64×0.48			確認面に極少量(ヤマトシジミ)出土。		S K134の流入か。	
122	B4h7		N-4°-W	D I a	隅丸方形	1.2×1.1	23	I A	ヤマトシジミが上面に少量出土。		二次的	Fig180 PL540
130	B4e7		N-17°-E	D I b	"	1.57×1.55	60	I	床面に極少量のヤマトシジミと獣骨が出土。		二次的	PL542
132	B4h9		N-3°-E	D I a	"	1.3×1.13	28	N	中央北よりの覆土上層に少量のヤマトシジミのプロックと獣骨が出土。		二次的	Fig180 PL543
133	B4f8・g8		N-30°-E	D III a	長方形	2.55×2.02	36~40	A	南西の覆土中にやや多くの貝(ハマグリ主)と土鏝等が出土。	III期	二次的	Fig180 PL541
134	B4g9			E I a	不定形	0.52×0.47	30	I (N)	覆土上層に少量の貝のプロックがみられる。	III期	二次的	Fig188 PL283
135	"			"	"	0.63×0.41	30	I (N)	"		二次的	Fig188 PL283
160	B4h8・h9			(E III a)	"	2.28×1.3	36	N	覆土上層に水平にハマグリ等が堆積し、土器片・獣骨を少量含む。			PL544 PL545
181	B4i2・i3		N-25°-W	D I b	隅丸長方形	1.58×1.23	50~65	N	覆土上層に貝片を微量含み土器が少量出土。	II期か		Fig181
198A	B4c7・d7			E I a	不定形	1.2×0.54	(12~22)	I A	確認面上に少量の貝が出土。		プランは不明 一次的	PL546
B	"			E II a	"	0.6×0.45	(12~22)	I A	"		一次的	PL546
199	B4d7			E II a	"	0.24×0.18		A	"			
200	B4e5・d5			E I a	"	1.9×1.4		A	確認面より上に12~30cmほど貝・土器等が多く出土。	III期か		Fig180 PL547
215	B4i0			E III a	"	2.4×1.08		A	確認面より上に16~20cmほどの貝や土器等が多く出土。		北西より中央にかけて投棄されている。 二次的	PL548
271	B4e5			A I a	不定楕円形	1.2×1.1	33	N	床面に少量のハマグリが出土。	△	焼土が壁きわより床面へ流入している。	PL548 PL549
431A	C4f8・g8		N-49°-W	D I a	隅丸長方形	1.74×1.37	20~25	I	床面に少量のハマグリが出土。			Fig181
B	"			B II b	円形	0.98×0.95	120	I (N)	床面より円錐状に混貝土が堆積。貝は少量。			
446	C4e8			B II b	"	0.9×0.7	78	I 2 (N)	覆土上層に少量の貝がみられ、下層は魚骨類・雑頭銚(骨)・クワゲイ等出土。	III期か	南に埋設土器S K443がみられる。	Fig181
462	B5j1			B II b	"	0.95×0.93	58	I 1 (A)	覆土上層にハマグリを主とする貝が皿状に堆積。		S1029内に位置。(一次的)	PL550
581	C4c7		N-41°-E	E I a	不定楕円形	1.48×0.97	16~35	II 2	ハマグリを主とするが少量。(7~10層)		GL24.50を基準に5cmごと掘り下げ。(6~12層) 二次的	Fig181
582	C4c6・c7		N-21°-E	D I a	隅丸長方形	1.1×0.8	15~23	II 1	覆土上層に貝を極少量出土。	△	円形に覆土を掘り込み貝等を投棄。	Fig181
583	C4e5			E II a	不定形	0.85×0.7	13~17	II 2 (A)	覆土中に少量の貝。			一次的

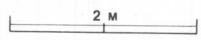
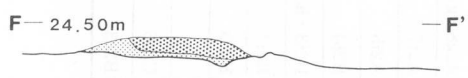
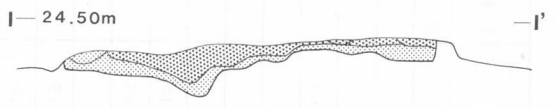
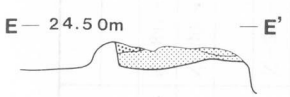
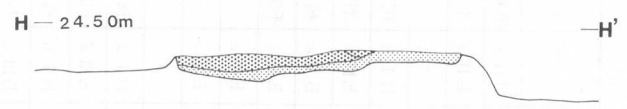
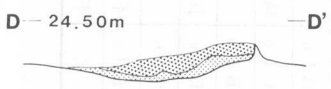
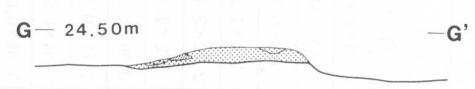
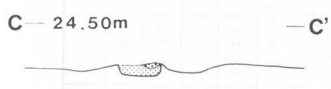
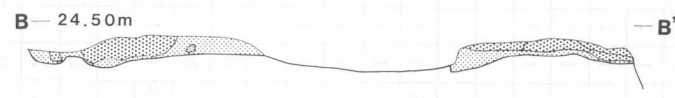
遺構番号	地	区	長軸方向	形態	平面形	規模		各部の状況	出土遺物	時期	備考	関連図版
						平面(m)	壁高(cm)					
SK584	C4d6			D II a	不定方形	0.96×0.65	10	A	確認面に少量の貝がみられる。		一次的	Fig180
585	C4d6・e6			"	"	0.8×0.72	17	A	床に土器・覆土中に少量の貝が出土。	III期	一次的	Fig180
586	C4d5・e5		N-16°-E	D III a	不定長方形	3.12×2.2	40~48	A	覆土上層に多量の貝(ハマグリ主)と土器が出土。	III期	S1058の中床を掘り込んでいる。学習院大学: C(3880-120) 一次的	Fig186 PL551 PL552
587	C4d5			D I a	隅丸方形状	1.5×0.9	33~40	N	覆土上層に少量の貝(ヤマトシジミ)が出土。		二次的	
588	C4e6・d6		N-65°-W	E III a	不定形	3.3×1.87	20	A	覆土上層に多くの貝・土器が出土。	△III期	一次的 S1059に投棄。	Fig187
590	C4e6・e7			Z		(1.4×0.3)			確認面に少量の貝が散布。			
640	D3a5		N-49°-E	D I b	隅丸長方形	1.53×1.26	52	N	覆土中にたんに極少量の貝がみられる。	△	SI046の北東壁を切る。	
750	C4a0		N-52°-E	D I a	隅丸方形	1.09×0.9	33	N	覆土上層に少量の貝(ヤマトシジミ)がア ロック状にみられる。		一次的	
775A	C3h0		N-42°-W	A I a	楕円形	1.71×1.4	16	N	床中央に円形に掘り込まれて投棄。極少量 のヤマトシジミが出土。		一次的 貝は土壌より新しい。 南東壁をオナーバーハンクして 掘り込む。	Fig182 PL552 PL554 PL554
B	"		N-23°-E	A I b	"	1.07×0.92	78	2	勾玉が1点覆土中より出土。		一次的	Fig181
780	C3j0			D II a	方形	0.7×0.68	20~28	I	埴山を15cmほど掘り込み、貝が24cmほど堆 積。		一次的	
900	B4j9			E I a	不定形	2.0×1.72	20~28	III	多量の貝が出土。		S I 051の西側に位置。 GL24, 40 5~10層	
931	C4b8		N-50°-E	D I a	隅丸方形	1.1×0.97	16~28	II	覆土中に少量の貝が出土。		(一次的)	Fig182
933	C4b8			E II a	不定楕円形	0.56×0.4	14	2	覆土上層に少量の貝出土。		S K 932の西側に位置。 一次的	Fig182
940	B4j0		N-84°-W	D I b	長方形	2.73×1.28	60~66	I	ハマグリを主とする貝塚。 5・6区(11~19層)に多く出土。		9区設定 GL24, 40 (9~22層)(一次的)	Fig186
953	C3i8		N-41°-W	D II a	長方形状	0.95×0.83	34	II	覆土中に極少量の貝を混入。			Fig182
1159	B2d7		N-48°-W	D I b	"	1.9×1.75	94	I	床中央に極少量の貝・土器が出土。	II期	二次的 肩部は外反し、ピツ トがみられる。	Fig182
1207	B2e6・e7			"	隅丸方形	1.7×1.68	92~94	I	床中央に極少量の貝が出土。	II期	二次的	Fig184
1271A	B2i4・i5			Z	不明	2.2×1.8	33	II				Fig188
B	"			B I b	円形	1.4×0.9	101	I	覆土上層に極少量の貝がみられる。	△		
1272	B2h4			E II a	不定形			A	確認面に少量の貝がみられる。		S X 004の構築の際に流動し ているか。	Fig181
1273	B2h3			E II a	"			A	"		"	
1274	B2h4			"	"	1.0×0.9		A	"		"	
1275	B2h3			"	"	0.7×0.69		A	"		"	

遺構番号	地	区	長軸方向	形態	平面形	規模		覆土	出土遺物	時期	備考	関連図版
						平面(m)	壁高(cm)					
SK1276	B214・b4			CW	(楕円形)	2.35×1.37	33~128	N	覆土上層に貝少量出土。		自然堆積後凹地に貝を投棄。	Fig186
1277	B214・f5			E I a	不定形	1.7×1.55	22~26	A	覆土上層に小片の貝が多く出土。		一次的	PL555
1278	B214			E III a	"	2.25×1.8	10~20	A	"		一次的	Fig184
1496A	B3e5		N-38°-W	D I b	不定長方形	1.26×1.01	55	N			一次的	Fig182
B	"		N-52°-E	D I a	不定台形	1.31×1.08	40	N			一次的	
1525A	B2g4		N-57°-W	E III a	不定楕円形	2.1×1.8	25	N	覆土中に極少量の貝を出土。		一次的 新旧不明	
B	"		N-52°-E	B I b	円形	1.21×1.22	176	A	ハマグリを主とする純貝層で10層~33層その他の貝・土器・魚骨・貝輪等が出土し36層に種物の種子が出土している。		一次的 北に位置するSK1133と同タイプである。(貝分類・計測)	Fig184 PL554 PL557
1526	B2g3		N-48°-W	E III a	不定形	(2.2)×1.3	44	A	確認面上に小片の貝が少量出土。		一次的 攪乱をうけている。	Fig182
1527	"		N-38°-W	D II a	隅丸方形	0.98×0.93	33	A	確認面上に小片となる貝を少量出土。		一次的	
1528	"		N-49°-W	A II a	楕円形	0.9×0.71	28	A	"		一次的	Fig183
1529	"			Z		0.64×0.48	8		"		一次的	
1530	"		N-27°-E	E I a	不定方形	1.52×1.42	27	A	床面に少量の貝出土。		貝塚は土壙より新しいか。	
1531	B2g4・f4			Z	不明	1.6×1.45	(20)	A	確認面上に20cmほど貝が堆積。		一次的	PL558
1532	"		N-39°-W	E III a	不定楕円形	2.23×1.0	(26~30)	A	2か所の貝のグループ(ハマグリ主)が出土。		一次的	Fig185 PL560
1533A	B2f4・f5		N-35°-W	D III a	隅丸長方形	(2.4)×1.2	20	N			一次的	Fig187 PL559
B	"			B I b	円形	1.3×1.3	168	A	覆土中に多量の貝(ハマグリ主)出土し下層に貝輪・貝刃・鉗(タール付着)		覆土上層に黒褐色土が堆積している。(一次的)	PL559
1534	B2f4・f5			D I a	隅丸長方形	0.8×0.6		A	覆土中に少量の貝出土。		一次的	
1535	B2f4		N-22°-E	A I a	楕円形	1.05×1.0	26	A	覆土中に貝がやや多くみられる。		一次的	Fig183
1536	B2f3・f4		N-0°	D III b	長方形	2.8×2.6	55	A	多量の貝(ハマグリ主)・魚骨が出土。	III期	一次的 (分類・計測) 魚骨 束大。	Fig177 PL562
1537	"			Z	不明	1.7×(0.9)	10	A	確認面上に小片の貝少量出土。		一次的	
1538	B2e3・e4			"	"	1.7×0.8		A	"		一次的	
1539	B2e3・f3		N-79°-E	D I b	不定長方形	1.93×1.09	65~84	N	南側の覆土中に貝少量出土。		一次的	Fig183
1540	B2f3			E II a	不定形	0.85×0.7	44	A	確認面上に極少量の貝出土。		一次的	Fig183

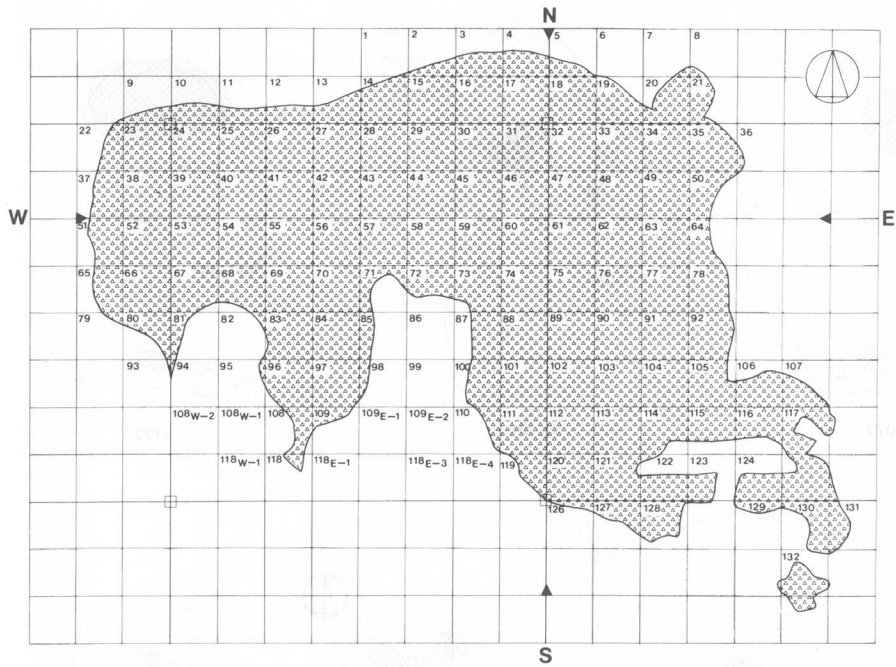
遺構番号	地	区	長軸方向	形態	平面形	規模		各部の状況	出土遺物	時期	備考	関連図版
						平面(m)	壁高(cm)					
S K1541	B2f3		N-56°-W	D II a	隅丸長方形	0.78×0.68	20~40	I 1 (A)	確認面上に少量の貝出土。		二次的	Fig183
1542	"			E II a	不定形	(0.5×0.34)	15	A	"		二次的	
1543	B2e3			"	"	0.8×0.7		I A	確認面上に少量の貝出土。		二次的	Fig183
1544A	B2e3・d3			H I b	円形	1.4×1.26	107	IV 1	床面に少量の貝(ハマグリ)が出土。		二次的	
B	"			E III b	不定台形	2.72×2.43	90	I 1	覆土中に少量の土器が出土。			
1545	B2e4			B I a	楕円形	1.2×1.1	32	I 1	覆土中に少量の貝片が混入。		一次的	Fig183
1546	"			E II a	不定楕円形	0.96×0.86	47	I 1	覆土上層に貝(ハマグリ)がやや多く出土。		一次的	Fig183
1547	B2e4・f4			E I a	"	1.15×0.52	26	I 1	"		一次的	
1548	B2e4・e5			E II a	"	(0.94×0.53)	(15)	A	確認面上に少量の貝が出土。		一次的	
1549	"			"	"	(0.95×0.64)	(15)	A	"		一次的	
1617	B2e4・c5			D I a	長方形状	(1.84×1.3)	24~45	I 1	南側の覆土上に極少量の貝出土。		一次的	Fig183
1661A	A2e8・e9			E III a	不定長方形	4.98×(2.7)	30	I 1			北西は区域外 住居跡の可能性あり。	Fig187
B	"			B I b	楕円形	1.13×1.0	130	I 1 (A)	覆土上層に少量の貝出土。		一次的	Fig187
1668	A2g8・g7		N-4°-E	D III a	長方形	2.12×1.47	30	I 1	覆土中に多くの貝(ハマグリ)と植物の種子が数個出土。		一次的	Fig185 PL564 PL565
1684	A2i7			B I b	楕円形	1.48×1.4	68	I 1	床中央に少量の貝出土。		二次的	
1721	A2i5			D I a	隅丸方形	1.3×1.22	25~30	II 1	確認面上に土器と極少量の貝出土。		二次的	Fig185
1735	B2h4		N-56°-E	H I b	"	1.92×1.71	75	IV 1 (A)	覆土中に貝が水平に堆積。		二次的	Fig185 PL564 PL566
1736	B2i3・h3		N-24°-W	C I b	楕円形	(1.8)×1.4	35~148	I 1	肩部の覆土中に極少量の貝出土。		二次的	
1745	B2i3			B I b	"	1.84×1.5	128	I 1	"		二次的	
1750A	B2c3		N-40°-W	D I a	長方形	1.65×1.15	17	II 1				Fig185
B	"		N-84°-W	D I b	"	1.4×1.3	35~60	II 1	確認面上に35cmほど貝が堆積。		一次的	Fig185
1754	C2a6			E II a	不定形	0.78×0.56	25	II 1	覆土上に少量の貝ブロックがみられる。		二次的	Fig185
1760	B2c3			Z	不明			A	"		一次的	



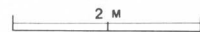
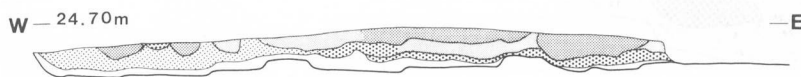
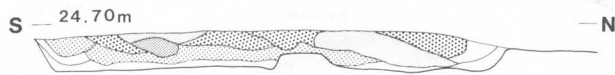
SM 1



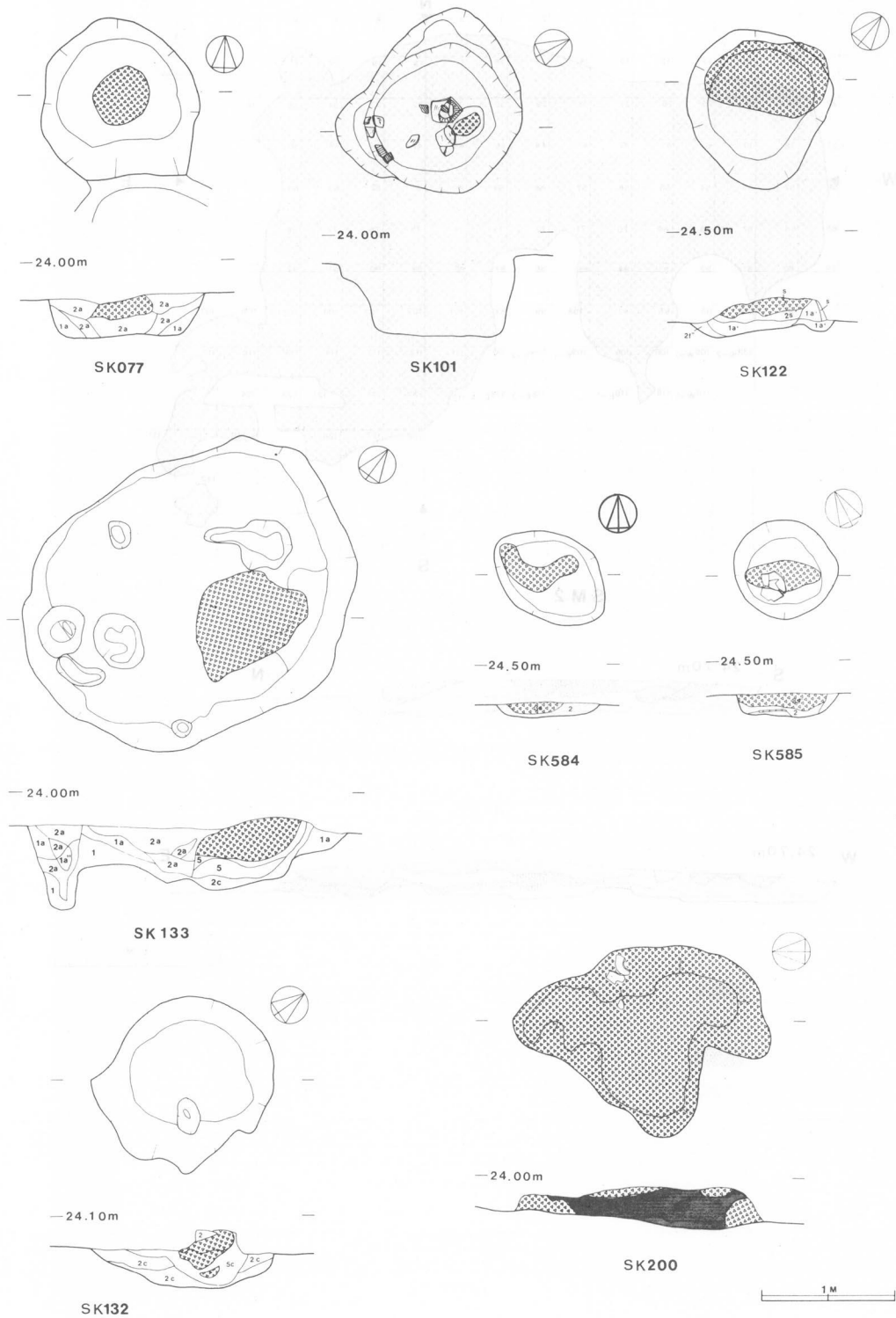
第178图 第1号貝塚実測图 (SM 1)



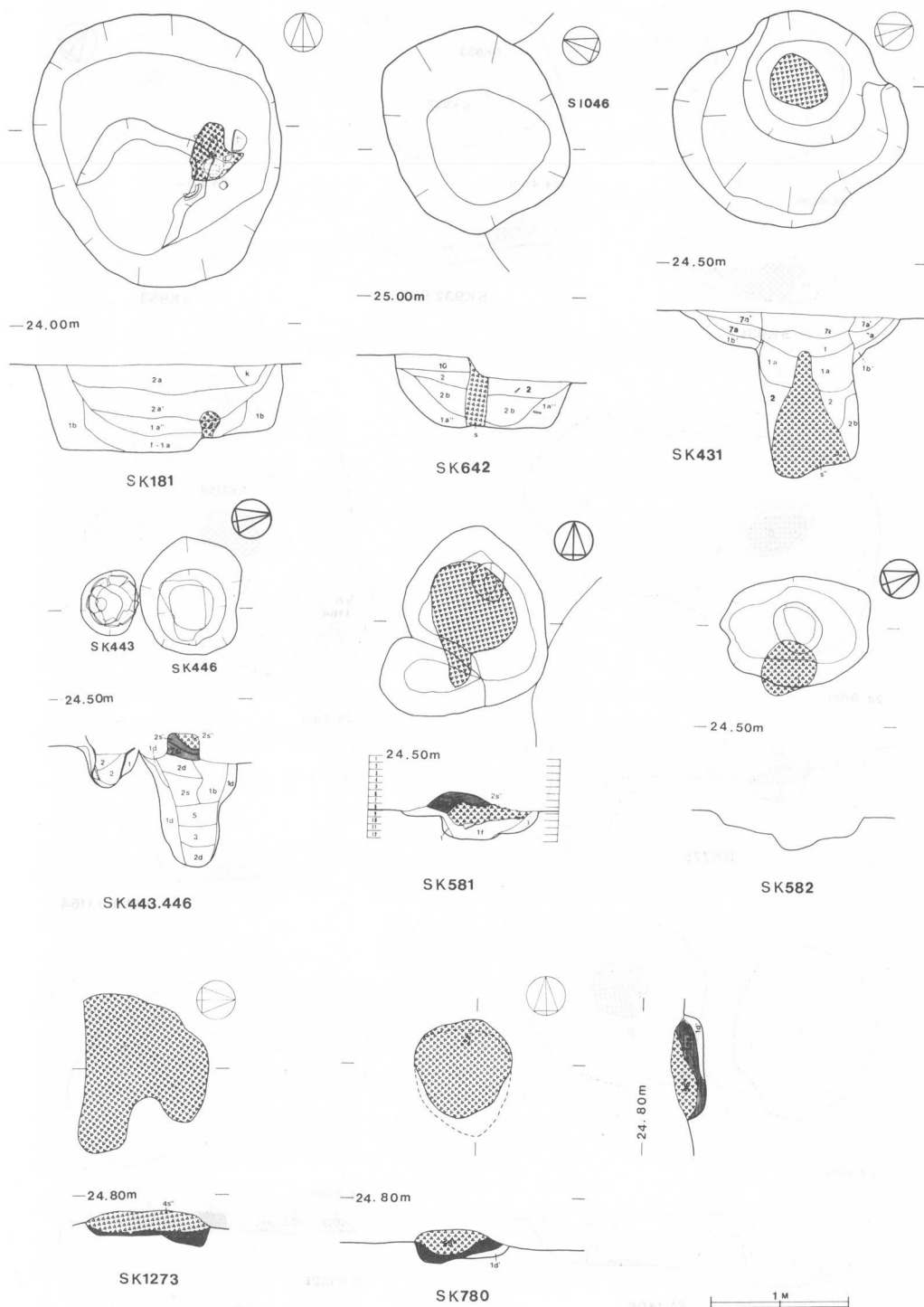
SM 2



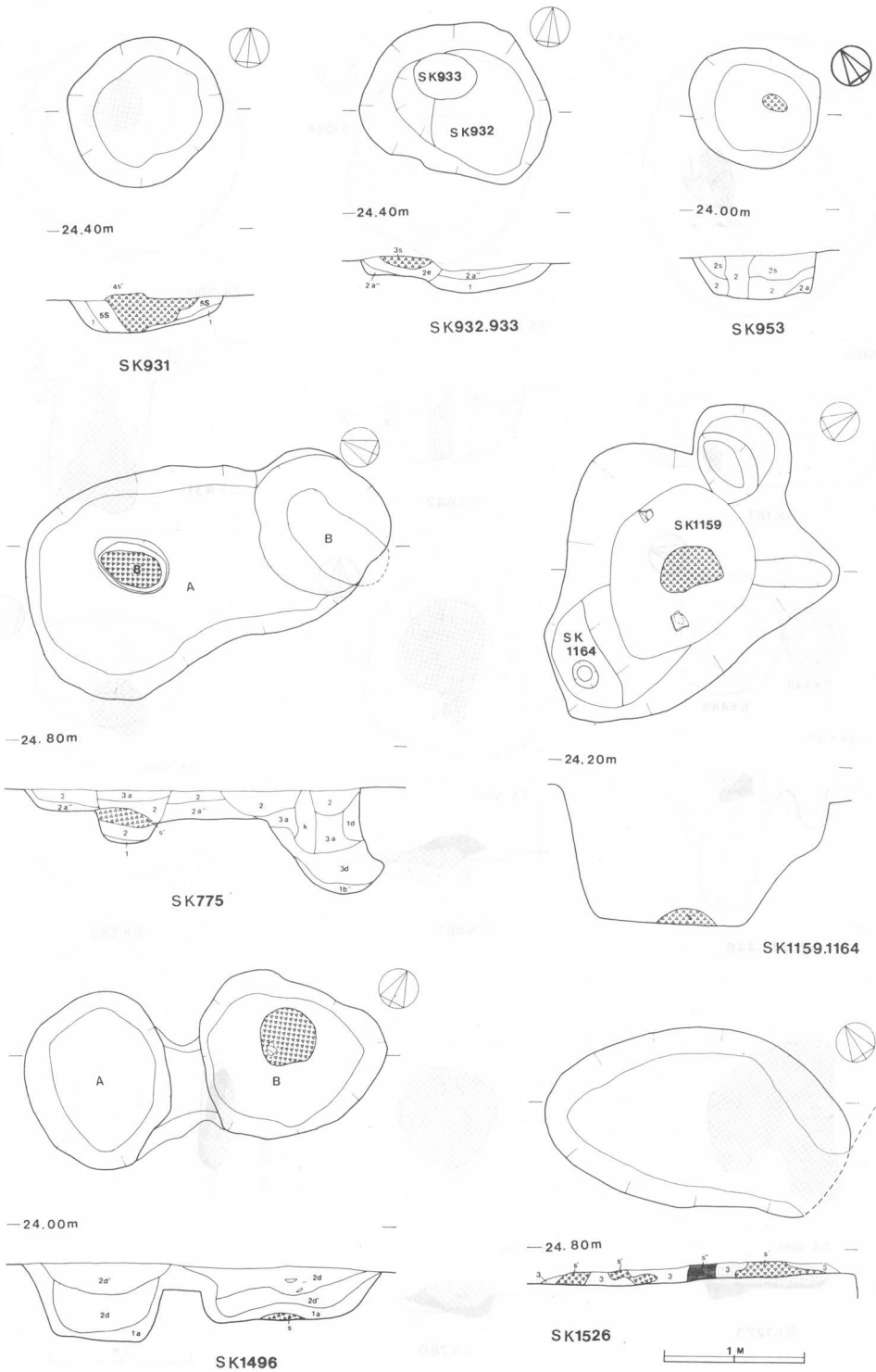
第179図 第2 貝塚実測図 (SM 2)



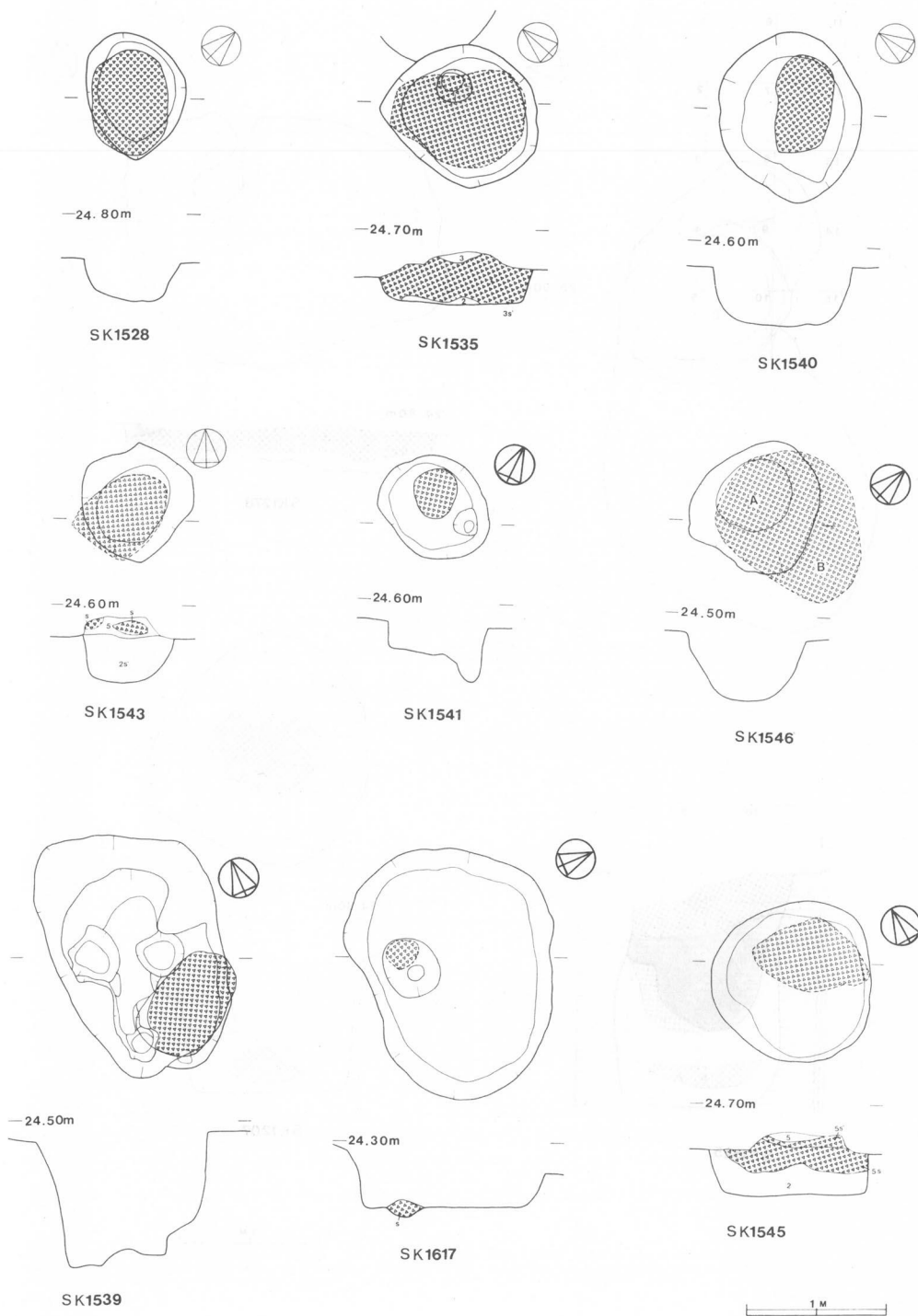
第180図 土壌（貝塚）実測図（1）



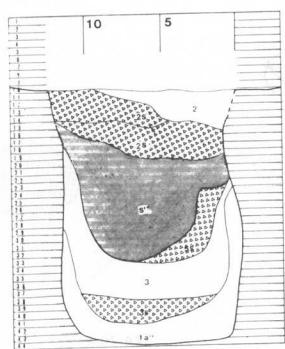
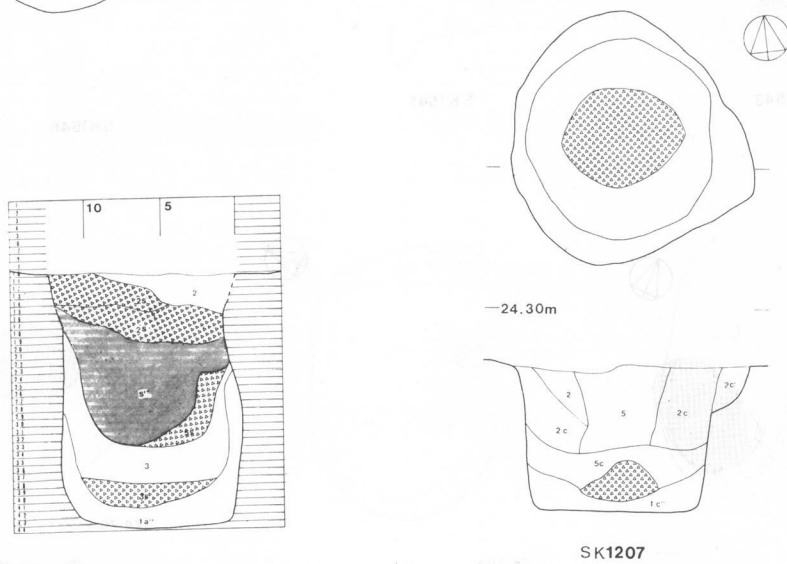
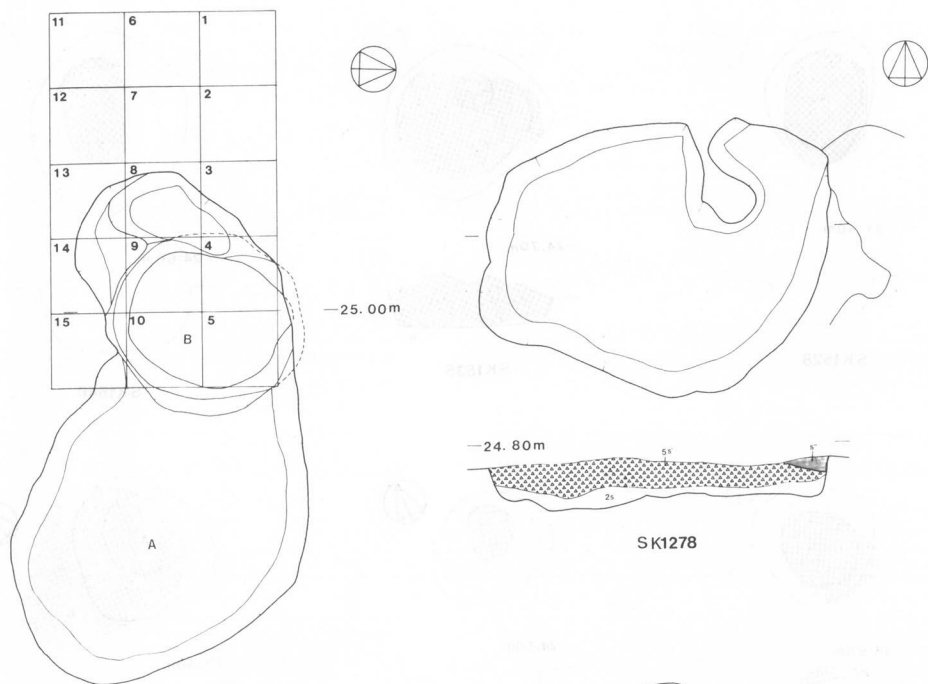
第181図 土壙（貝塚）実測図（2）



第182図 土壙（貝塚）実測図（3）

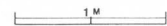
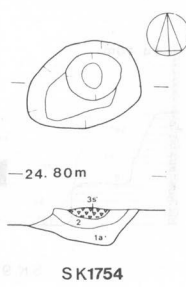
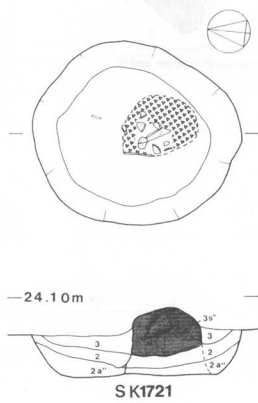
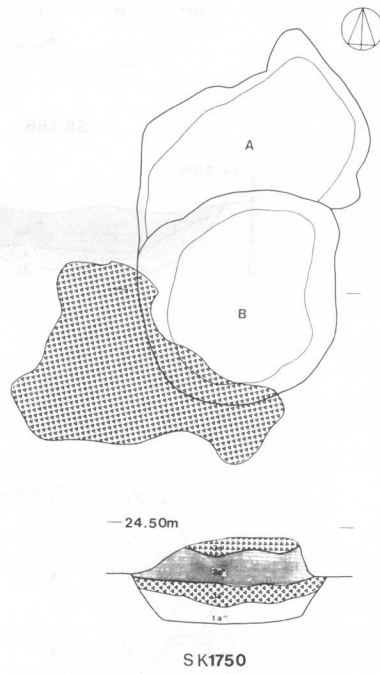
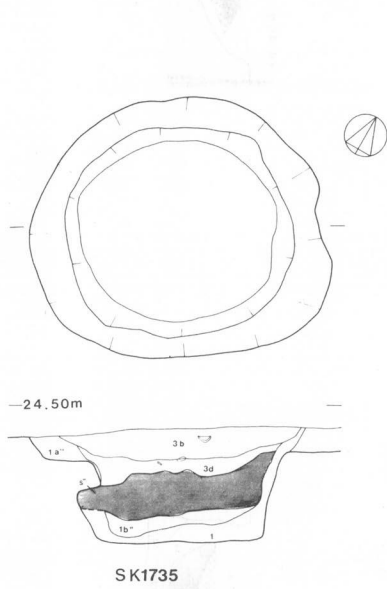
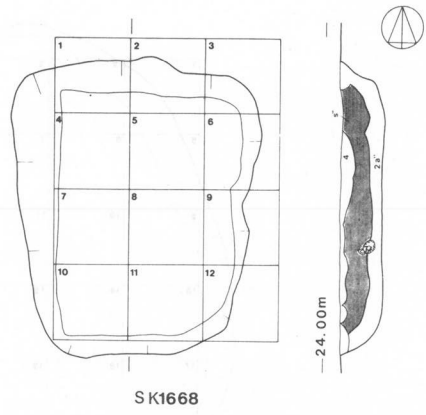
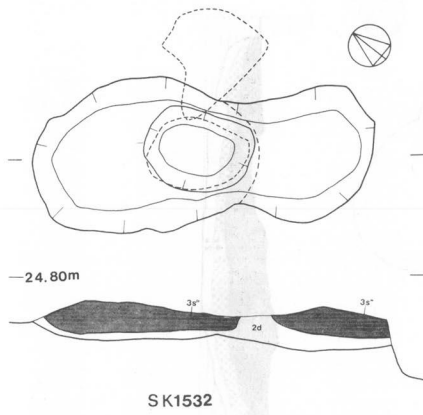


第183図 土坑 (貝塚) 実測図 (4)

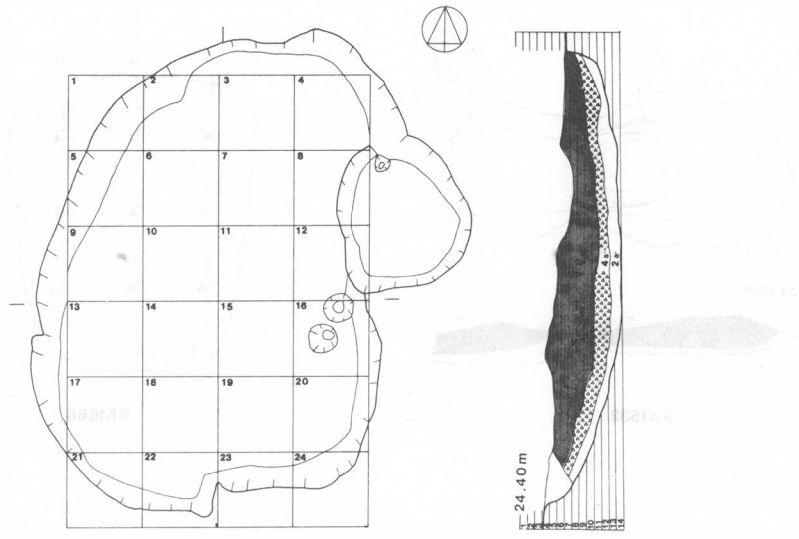


1 M

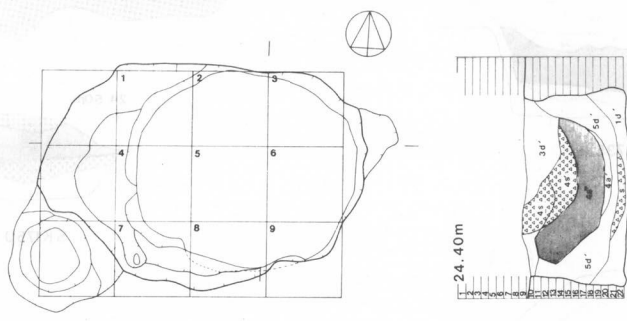
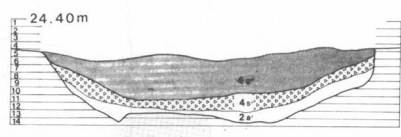
第184図 土壌 (貝塚) 実測図 (5)



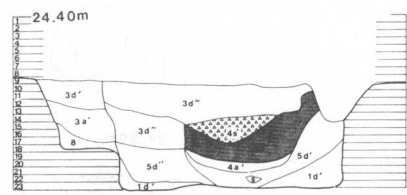
第185図 土壙（貝塚）実測図（6）



SK 586

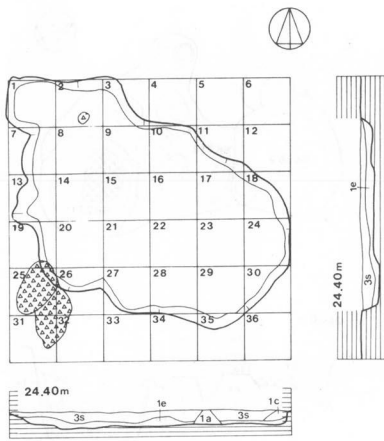


SK 940

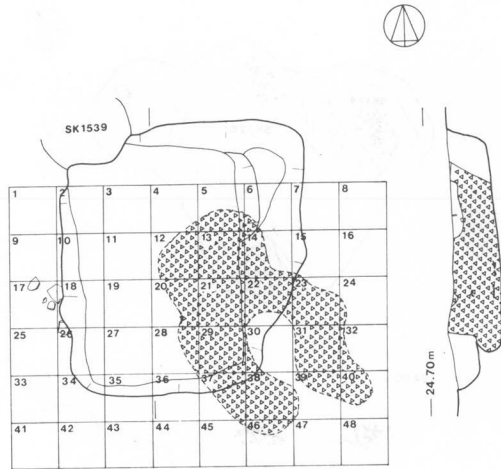


1 M

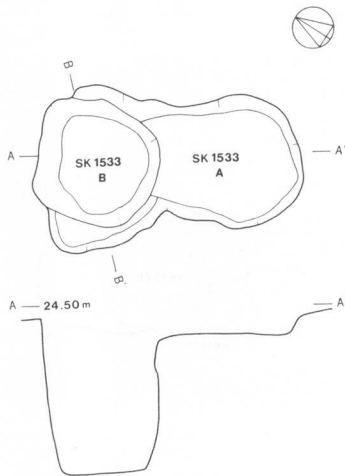
第186図 土壌 (貝塚) 実測図 (7)



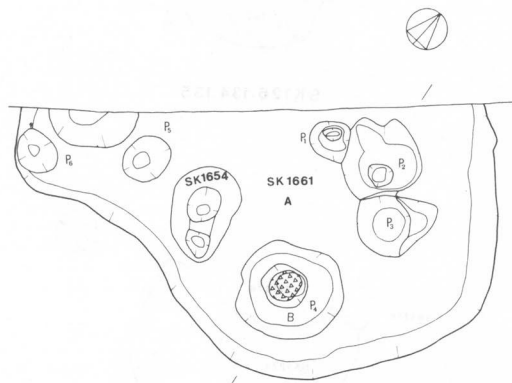
SK 588



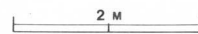
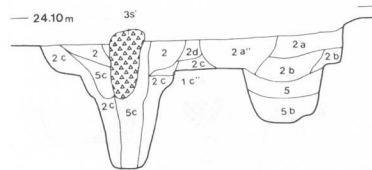
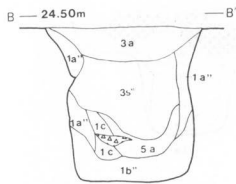
SK 1536



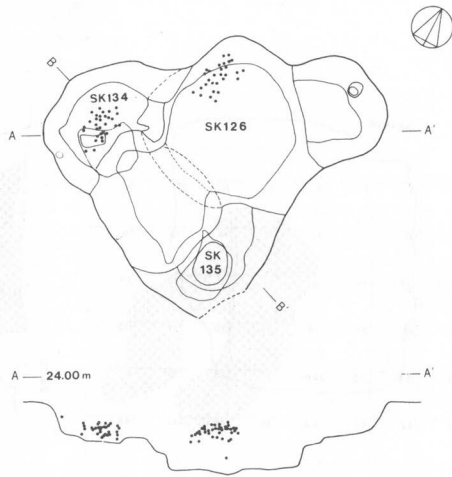
SK 1533



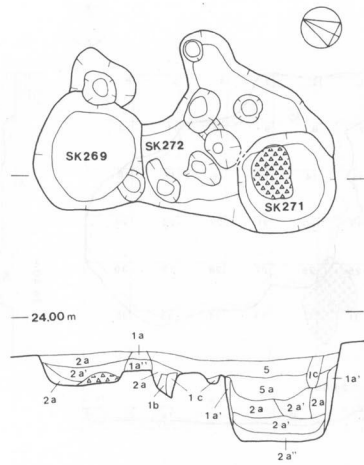
SK 1661.1654



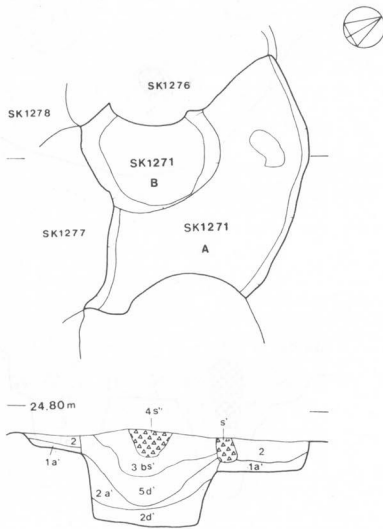
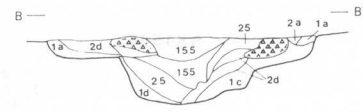
第187図 土壌 (貝塚) 実測図 (8)



SK126.134.135



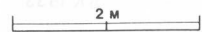
SK 269.271.272



SK1271



SK1276



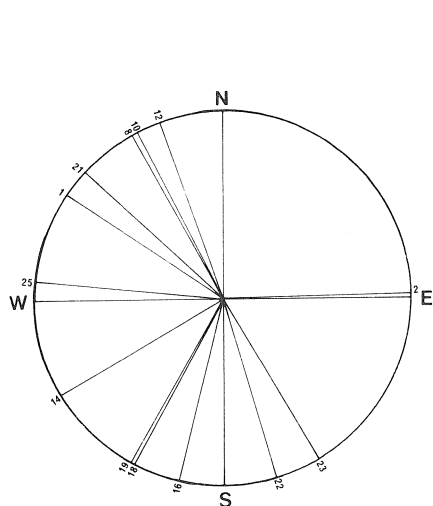
第188図 土壙 (貝塚) 実測図 (9)

4. 埋設土器 (第189～191図)

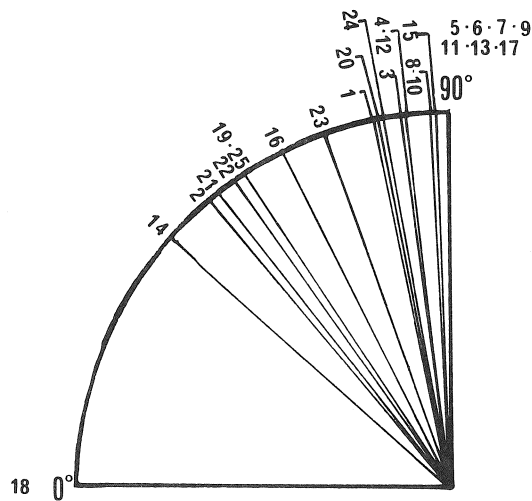
廻り地A遺跡から確認された埋設土器は25基ほどで、その分布は環状微高帯部にみられる。時期的にみると、第I期の加曾利EⅣ式土器が2、第II期の称名寺式土器が12～13、第III期の堀之内I式土器が7である。これらの中には、いわゆる埋設土器としての可能性を欠くものも含まれる。SK671の土器は、口縁部を下にした倒立の状態出土し、SK944出土の土器は横位に検出された。各埋設土器は、SK944出土の土器以外 41° ～ 90° の傾斜で埋置され、直立した状況で埋置されていたものは、SK099・119・125・443・445・594・796があり、SK008・095・097・186・444・671・1122・1587は約 80° ～ 88° ほどの角度をもって埋置されていた。

分布状況を見ると、SK091・095・097・099・119・125・186がB4区の南東部に集中し、SK443・444・445がC4区の中央部北東よりにみられ、SK493・594は南西部にみられる。SK671・1122はC3区東部にあり、SK1581・1587はA2区南東部、SK1581・1586はA3区西南部に位置し、そのほかは単独の状態検出された。この分布からみると、埋設土器は複数で埋置された可能性が多く、集落内のひとつのエリアが想定される。

これらの埋設土器の傾斜角からみた主軸方向は、北から西、西から南に大別できるが、それほど規則性を有したものではない。



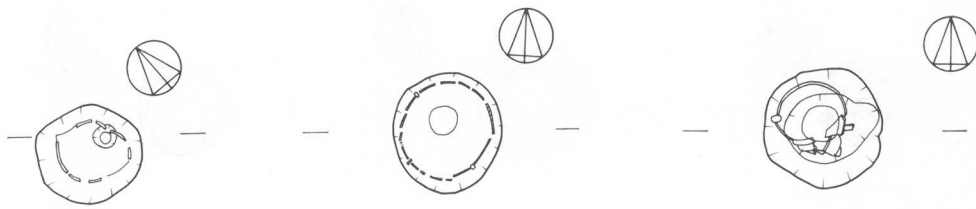
埋設土器 主軸方向



埋設土器 傾斜角度

埋設土器一覽表

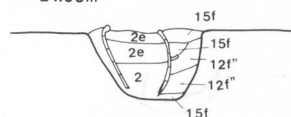
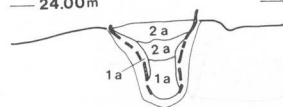
番号	遺構名	地区	主軸方向	傾斜角	掘方 長軸×短軸×壁高 (cm) (cm) (cm)	覆土	時期	備考	関連図版
1	S K008	B5e2	N-56°-W	78°	45×40×32	N	I期	底部欠	Fig189 PL578
2	S K091	B4i9	N-89°-E	50°	54×48×24	(N)	III期	口縁部欠	PL265
3	S K095	B4j9		82°	46×44×29	N	II期		Fig189 PL266
4	S K097	B4i8		83°	49×47×28	N	II期	底部欠	Fig189 PL268
5	S K099	B4i9		90°	44×44×23	N	II期	底部欠 (内部に土器あり)	
6	S K119	B4i7		90°	41×40×27	(N)	II期		Fig191
7	S K125	B4h9		90°	38×38×20	N	III期	口縁部欠	Fig189 PL282
8	S K186	B4h8	N-28°-W	87°	40×35×31	(A)	II期	北東にS K099	Fig191 PL312
9	S K443	C4c8		90°	47×46×25	(A)	II期	S I034の南	PL368
10	S K444	C4d7	N-27°-W	87°	44×36×28	A	II期		Fig189 PL369
11	S K445	C4d7		90°	38×36×26	A	II期	S I059の北東	Fig189 PL370
12	S K493	C4d4	N-20°-W	83°	73×68×23	N	III期	口縁部欠	Fig189 PL386
13	S K594	C4f5		90°	78×72×30	N	II期		Fig189 PL409
14	S K663	D3b6	S-60°-W	42°	44×41×14		III期	口縁部欠	Fig190
15	S K671	C3e0		88°	45×40×18	N	III期	倒位・底部欠	Fig190
16	S K676	C4d7	S-14°-W	64°	94×90×30	N	II期	底部欠	Fig189 PL421
17	S K796	C3i9		90°	37×36×27	N	II期	S I064の東	Fig190
18	S K944	C4c7	S-29°-W	0°	113×100×47	A	III期	横位	Fi 191 PL449
19	S K1115	C4d7	S-30°-W	57°	38×38×18	N			Fig190 PL466
20	S K1122	C3f0		79°	33×32×22			S I068の炉跡北	
21	S K1559	B3b2	N-47°-W	52°	54×31×15		I期	底部	
22	S K1581	A3g3	S-16°-E	55°	48×41×40	(N)	II期		Fig190
23	S K1586	A3h3	S-30°-E	71°	35×34×31		III期	底部欠	Fig190
24	S K1587	A2f9		80°	40×40×22		III期	口縁部・底部欠	Fig190
25	S K1753	C2a5	N-85°-W	57°	48×36×30	(A)		底部欠	Fig190 PL537



—24.00m

—24.00m

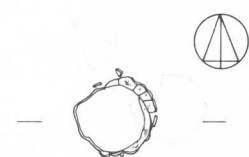
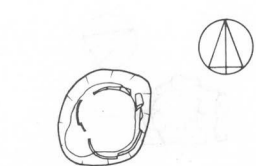
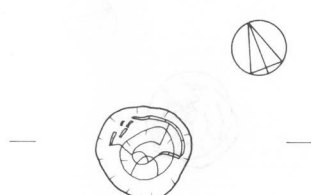
—24.00m



SK008

SK095

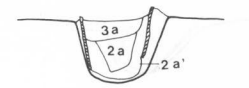
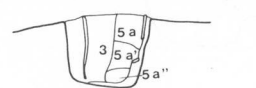
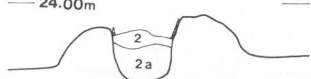
SK097



—24.00m

—24.50m

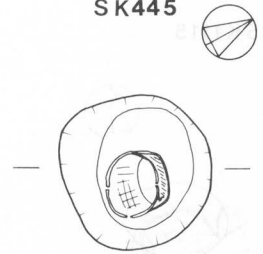
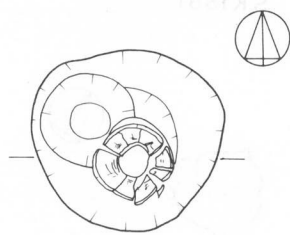
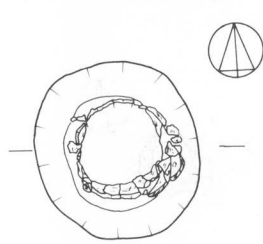
—24.50m



SK125

SK444

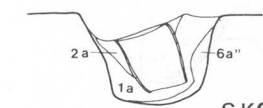
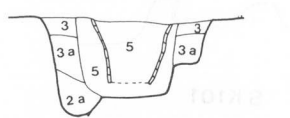
SK445



—24.70m

—24.50m

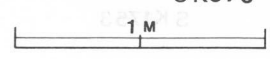
—24.50m



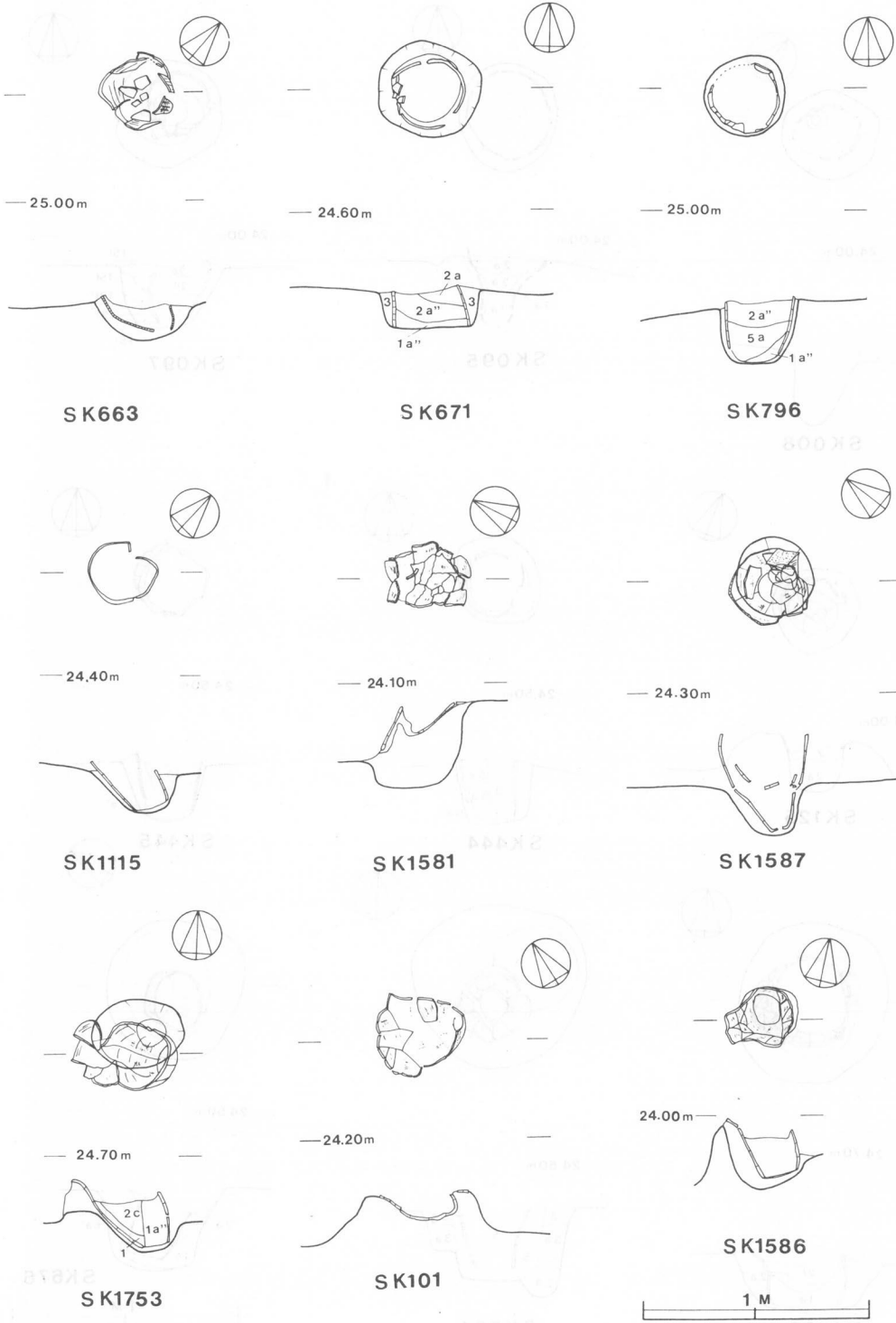
SK493

SK594

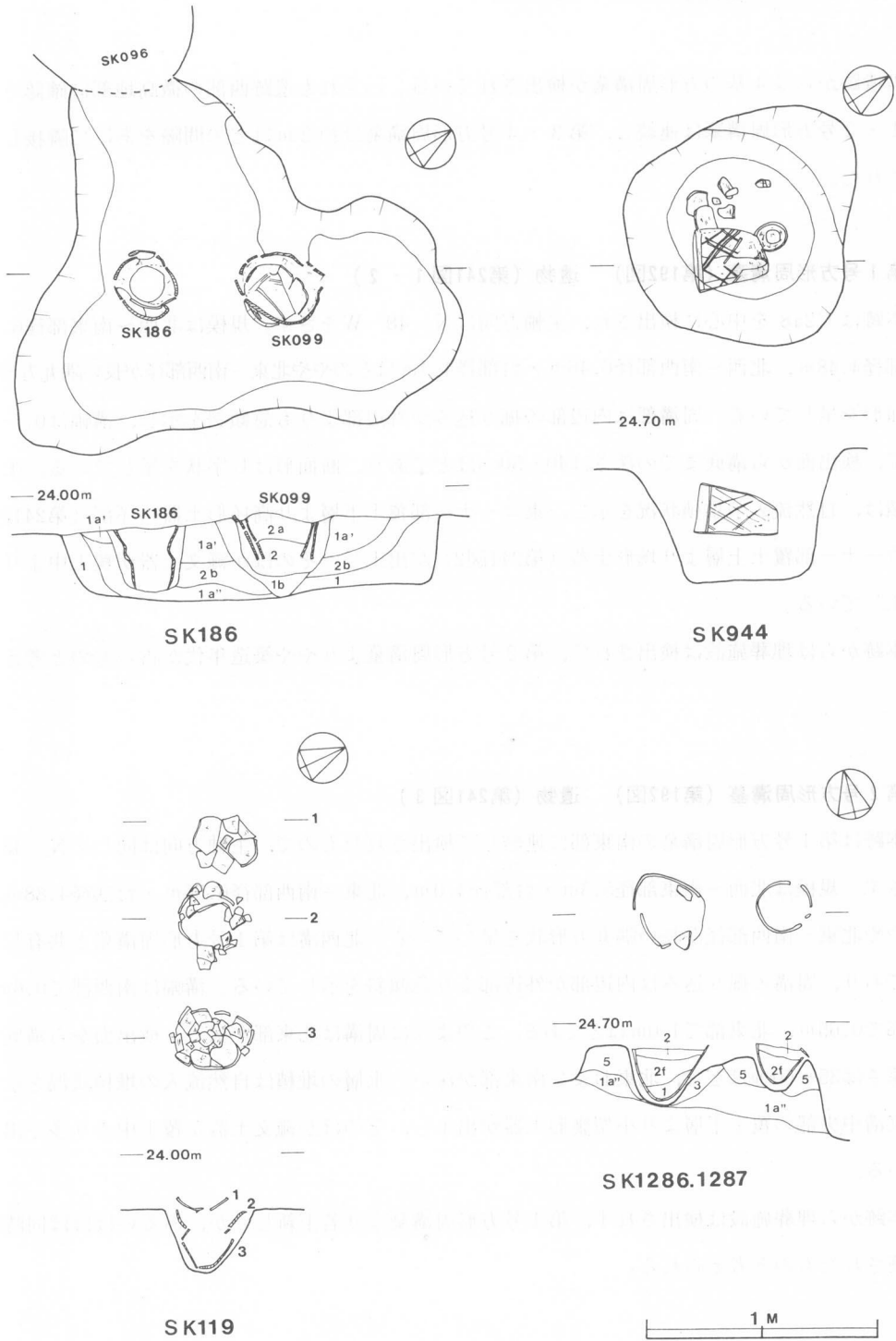
SK676



第189図 埋設土器実測図 (1)



第190図 埋設土器実測図(2)



第191図 埋設土器実測図 (3)

5. 方形周溝墓 (第192~194図)

当遺跡からは4基の方形周溝墓が検出されている。いずれも遺跡西部の微高地部に確認され、第1・2号方形周溝墓は連続し、第3・4号方形周溝墓は約2mほどの間隔をあけて隣接して検出された。

第1号方形周溝墓 (第192図) 遺物 (第241図1・2)

本跡はC2a8を中心に検出され、主軸方向はN-48°-Wをさす。規模は北西~南東部径6.6m・台部径4.48m、北西~南西部径6.46m・台部径4.9mほどのやや北東~南西部径が長い隅丸方形の平面形を呈している。周溝部は内辺部の掘り込みが外辺部よりも急傾斜を示し、溝幅は0.7~0.8mで、検出面から溝底までの深さは40~50cmほどであり、断面形はU字状を呈している。土層の堆積は、自然流入の堆積状況を示し、東コーナー部覆土下層より高環形土器の坏部(第241図1)、西コーナー部覆土上層より碗形土器(第241図2)が出土し、そのほか縄文土器が覆土中より多く出土している。

本跡からは埋葬施設は検出されず、第2号方形周溝墓よりやや築造年代が古いものと考えられる。

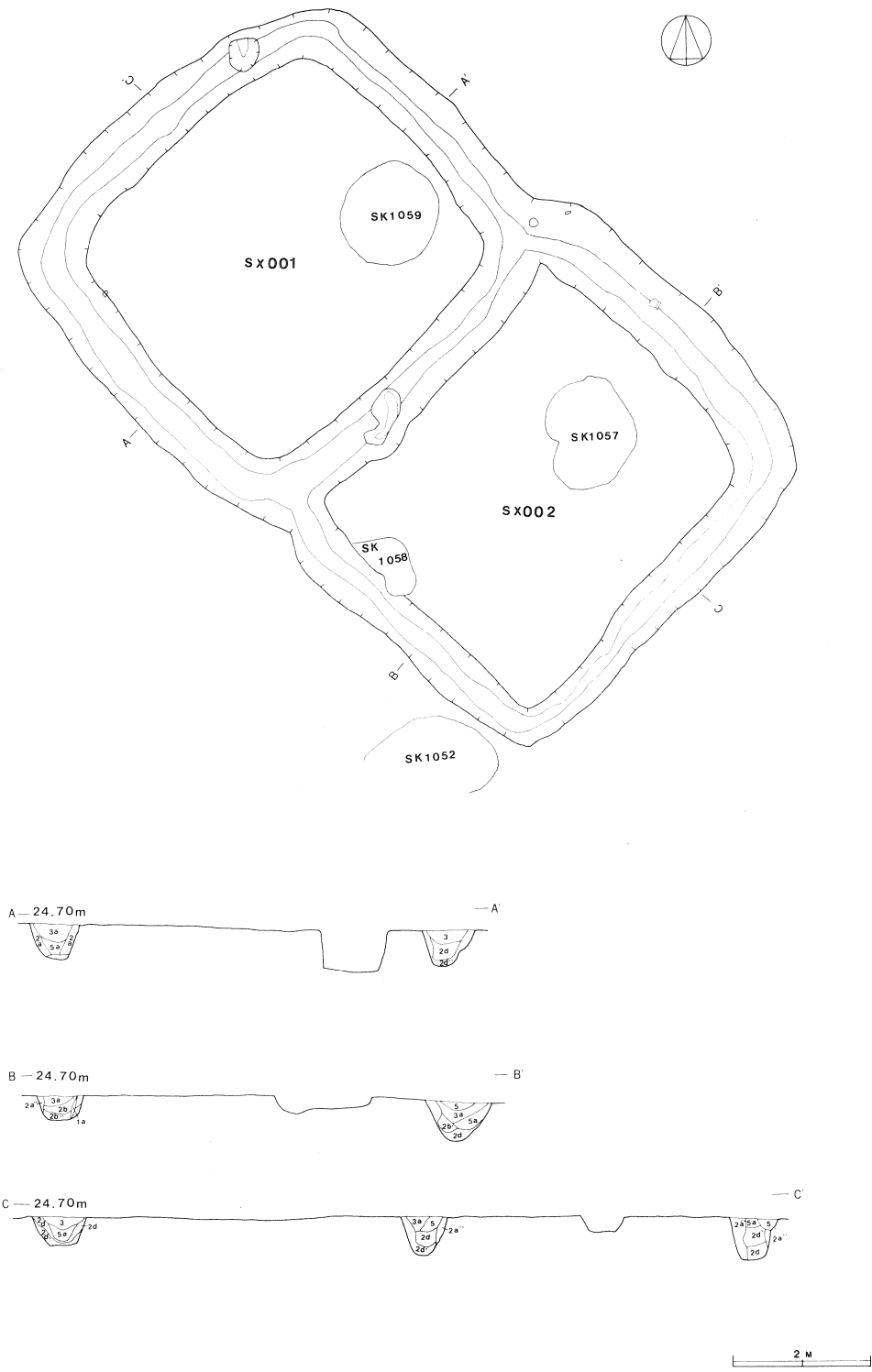
第2号方形周溝墓 (第192図) 遺物 (第241図3)

本跡は第1号方形周溝墓の南東部に連結して検出されたもので、主軸方向は同じくN-48°-Wをさす。規模は北西~南東部径5.3m・台部径4.0m、北東~南西部径6.56m・台部径4.88mほどのやや北東~南西部径が長い隅丸方形を呈している。北西溝は第1号方形周溝墓と共有したものであり、周溝の掘り込みは内辺部が外辺部より急傾斜を示している。溝幅は南西部で0.6m、南東部で0.65m、北東部で1.0mほどである。このように周溝は北東部が広く、検出面から溝底までの深さは35~60cmほどで、北東および南東部が深い。土層の堆積は自然流入の堆積状況を示し、北東溝中央部の覆土下層より小型甕形土器が出土し、そのほか縄文土器が覆土中より多く出土している。

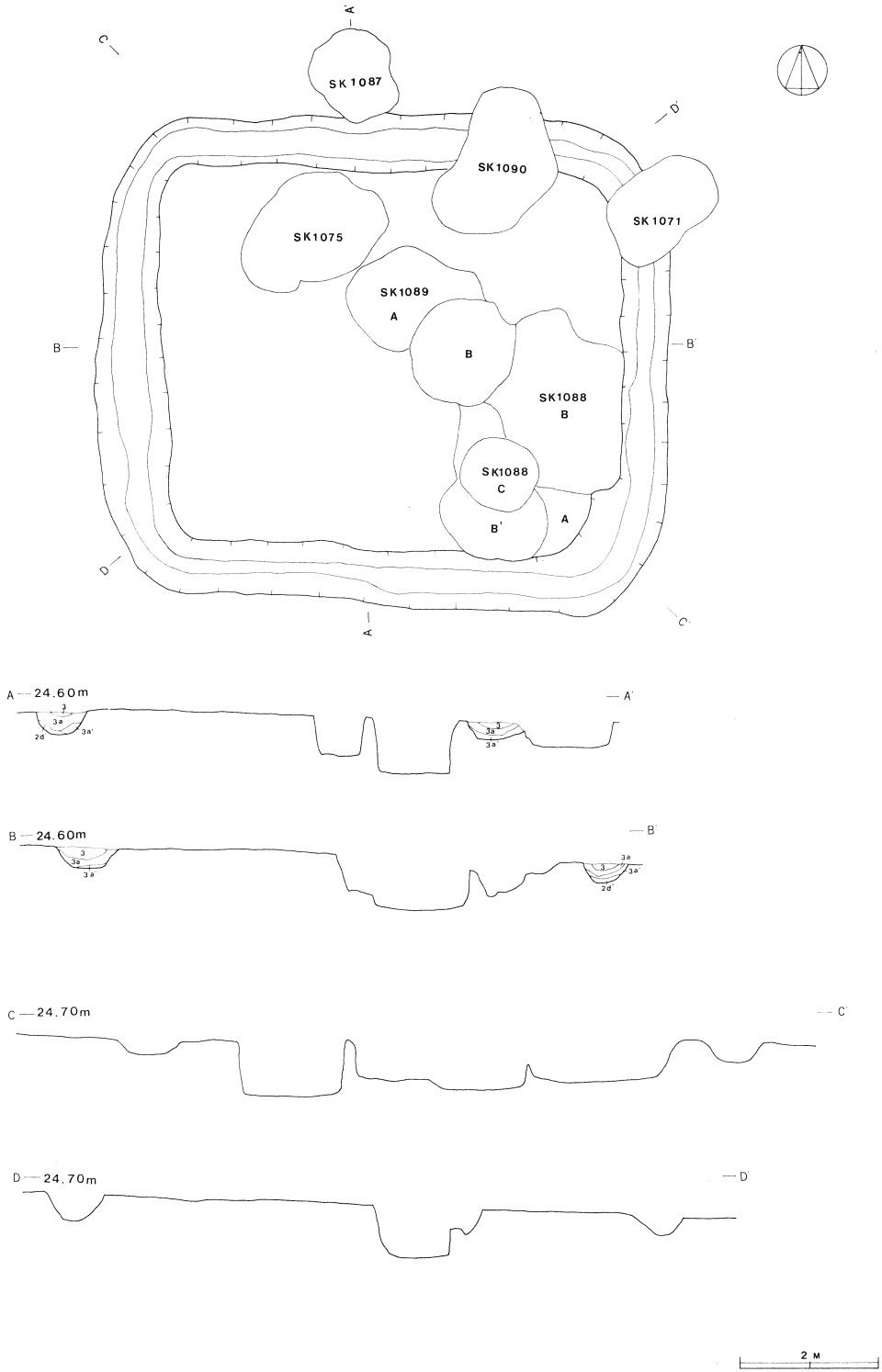
本跡から埋葬施設は検出されず、第1号方形周溝墓より若干新しいか、あるいはほぼ同時期に構築されたものと考えられる。

第3号方形周溝墓 (第193図)

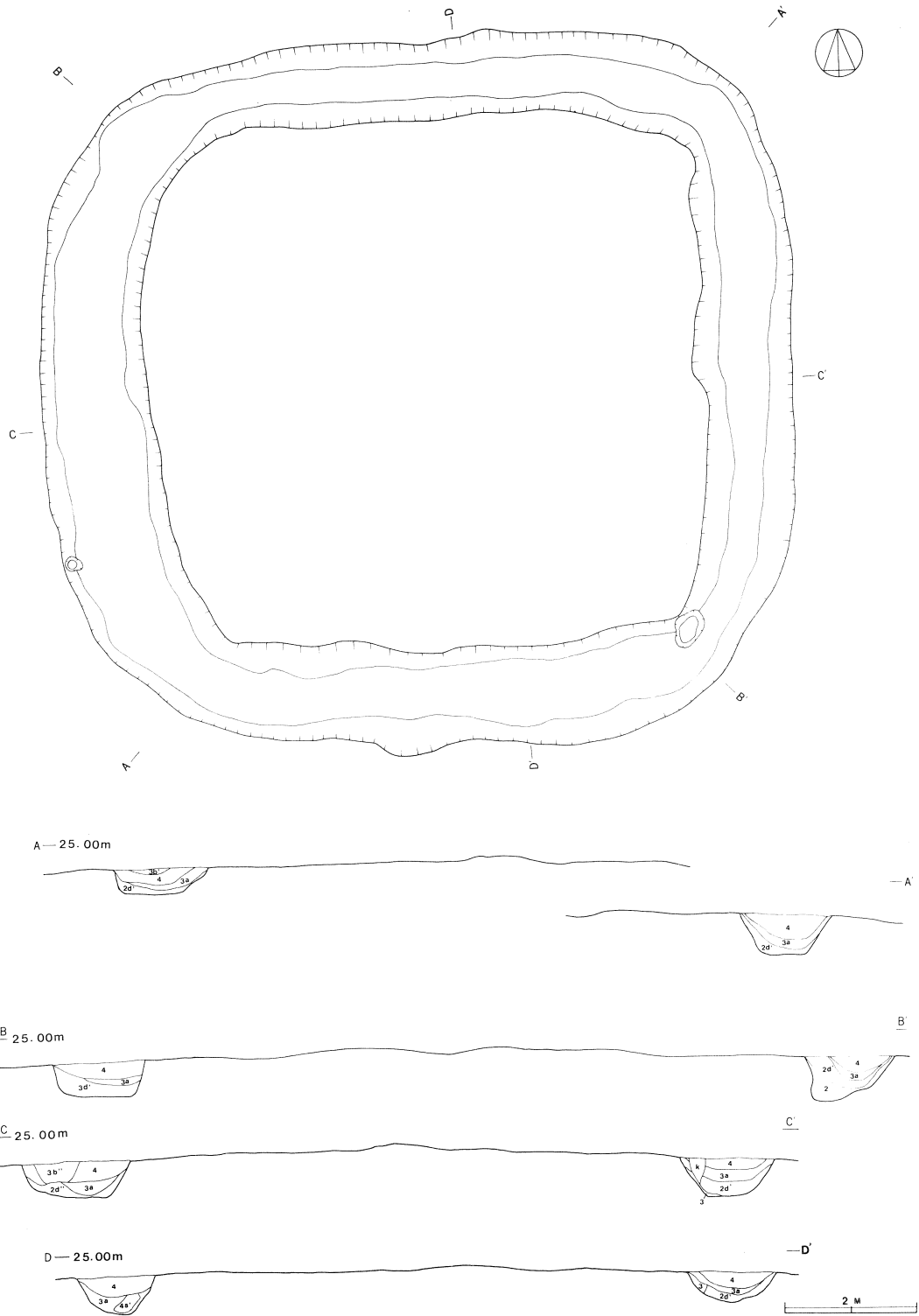
本跡はB2i7を中心に確認され、第1・2号方形周溝墓の北部に隣接し、主軸方向はN-0°-Wをさし、西には第4号方形周溝墓が接している。規模は東西径8.28m・台部径6.64m、南北径7.1m・



第192图 第1・2号方形周沟墓实测图



第193图 第3号方形周沟墓实测图



第194图 第4号方形周沟墓实测图

台部径5.5mほどの隅丸長方形の平面形を呈している。溝幅は0.67~1.0mほどで、やや西周溝部が膨らんでいる。遺構検出面から溝底までの深さは25~32cmと残く、断面形もややゆるやかな立ちあがり呈している。台部には縄文時代の遺構が重複し、溝を切るSK1071・1090は本跡より新しい時期のものである。

本跡からは埋葬施設および時期を決定できうる遺物はみられず、第1・2号方形周溝墓とはほぼ同一時期のものと考えられる。

第4号方形周溝墓（第194図）

本跡はB2h4を中心に検出されたもので、当遺跡から検出された4基の方形周溝墓中最大の規模を有するものである。主軸方向はN-0°-Wをさし、東側には第3号方形周溝墓が接している。規模は東西径11.4m・台部径8.2m、南北径10.7m・台部径8.0mほどのやや東西に長い隅丸長方形の平面形を呈している。溝幅は1.18~1.66mで西周溝部が広く、検出面から溝底までの深さは50~60cmで、西周溝部が深い。土層は自然流入の堆積状況を示し、北周溝は地点貝塚を切りこんでいるため、貝が攪乱された状態でみられる。

埋葬施設は検出されず、時期を決定できうる遺物も出土していないが、前述のものと同様の時期に位置付けられるものであろう。

竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 7
—— 廻り地 A 遺跡 (上) ——

昭和57年 3月27日 印刷

昭和57年 3月30日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

水戸市南町 3-4-57

印刷 川 田 プ リ ン ト